茨城県教育財団文化財調査報告第390集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

上　巻

平 成 26 年　3　月

茨　　城　　県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第390集
島名熊の山遺跡　上　巻
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第390集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

上　巻

平 成 26 年 3 月

茨　　城　　県
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県は，つくば市を世界的な科学技術研究の中核都市と位置づけ，さらには，国際交流の拠点にふさわしい都市としての整備を推進しています。その一環である「つくばエクスプレス」は，平成17年に開通し，沿線開発としての土地区画整理事業が継続して進められています。

しかしながら，この事業地内には，埋蔵文化財包蔵地である島名熊の山遺跡が所在することから，これを記録保存の方法により保護する必要があるため，当財団が茨城県から委託を受け，平成７年４月から平成25年５月までの18年間にわたって開発区域内における埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

その成果については，既に『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』『同第133集』『同第149集』『同第166集』『同第174集』『同第190集』『同第214集」『同第236集』『同第264集』『同第280集』『同第291集』『同第322集』『同第328集』『同第360集』『同第380集』として順次刊行したところです。

本書は，島名熊の山遺跡の平成20年度から平成24年度の調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から本書の刊行に至るまで，委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，深く感謝申し上げます。

平成26年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理 事 長　鈴 木 欣 一

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団（現　公益財団法人茨城県教育財団）が平成20～24年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市島名字本田1140番地－２ほかに所在する島名熊の山遺跡の13～16区（一部）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成20年4月1日～7月31日，9月1日～11月30日（15区）
平成21年4月1日～9月30日（13区･14区･15区），平成22年1月1日～3月31日（13区･14区）
平成23年1月1日～2月28日（13区・16区）
平成23年5月1日～5月31日，9月1日～10月31日，平成24年2月1日～3月31日（13区・16区）
平成24年4月1日～7月31日（14区・15区・16区）

整理　平成25年4月1日～平成26年3月31日

3　発掘調査は，平成20～22年度が調査課長池田晃一，平成23・24年度は調査課長樫村宣行のもと，以下の者が担当した。

平成20年度

首席調査員兼班長	三　谷　正	平成20年4月1日～7月31日	主任調査員	田原康司	平成20年4月1日～7月30日
		9月1日～9月30日	主任調査員	市村俊英	平成20年11月1日～11月30日
		11月1日～11月30日	調　査　員	鹿島直樹	平成20年4月1日～5月31日
首席調査員	大　関　武	平成20年5月1日～7月31日			9月1日～9月30日

平成21年度

首席調査員兼班長	白田正子	平成21年4月1日～9月30日	主任調査員	小川貴行	平成21年4月1日～5月31日
		平成22年1月1日～3月31日			平成22年3月1日～3月31日
首席調査員	酒井雄一	平成21年4月1日～9月30日	調　査　員	鹿島直樹	平成21年7月1日～9月30日
		平成22年1月1日～3月31日	調　査　員	作山智彦	平成22年3月1日～3月31日
主任調査員	飯田浩彦	平成22年1月1日～3月31日	調　査　員	大久保隆史	平成21年4月1日～4月30日
主任調査員	市村俊英	平成21年4月1日～4月30日			

平成22年度

首席調査員兼班長	仲村浩一郎	平成23年1月1日～2月28日	主任調査員	大　関　隆	平成23年1月1日～2月28日
主任調査員	本橋弘巳	平成23年1月1日～2月28日	調　査　員	鹿島直樹	平成23年1月1日～2月28日

平成23年度

首席調査員兼班長	稲田義弘	平成23年5月1日～5月31日	次席調査員	兼子博史	平成23年10月1日～10月31日
		平成23年9月1日～10月31日			平成24年2月1日～3月31日
		平成24年2月1日～3月31日	調査員（主任）	清　水　哲	平成23年5月1日～5月31日
首席調査員	荒蒔克一郎	平成23年9月1日～9月30日			平成23年9月1日～10月31日
					平成24年2月1日～3月31日

平成 24 年度

首席調査員兼班長　稲田義弘　平成 24 年 4 月 1 日～7 月 31 日　　調　査　員　田村雅樹　平成 24 年 4 月 1 日～7 月 31 日

次席調査員　兼子博史　平成 24 年 4 月 1 日～7 月 31 日

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長原信田正夫のもと，以下の者が担当した。

次席調査員　　兼子　博史　平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

次席調査員　　坂本　勝彦　平成 25 年 4 月 1 日～7 月 31 日

調　査　員　　田中万里子　平成 25 年 4 月 1 日～ 11 月 30 日

調　査　員　　櫻井　二郎　平成 25 年 4 月 1 日～9 月 30 日

5　本書の執筆分担は，下記のとおりである。

兼子　博史　　第１章～第３章第２節，第３章第４節５～７，第３章第５節，第３章第７節

坂本　勝彦　　第３章第３節４（６）・（７），第３章第５節（７），第３章第６節，第３章第７節

田中万里子　　第３章第３節１～４（１）～（５），第３章第７節

櫻井　二郎　　第３章第４節１～４，第３章第７節

6　本書の作成にあたり，14 区から出土した鑿の付着木質の樹種同定については，パリノ・サーヴェイ株式会社に，15 区から出土した短刀の把部分の樹種同定及び，刃部分の成分分析調査，木製品の樹種同定については，株式会社吉田生物研究所に委託し，考察は付章として掲載した。

7　保存処理された木器・木製品については，遺物観察表の備考欄に★で表示した。

8　本書を作成するにあたり，当遺跡から出土した土師質土器（小皿）については，取手市立宮和田小学校長川村満宏氏にご指導いただいた。なお人骨については，同定・記録後，桜川市の金剛寺に埋葬した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋7,320ｍ，Y＝＋20,200ｍの交点を基準点（Ａ１a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40ｍ四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４ｍ四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ１，２，３…とし，「Ａ１区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１a1区」のように呼称した。

2　抄録の北緯及び東経の欄には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付けて併記した。

3　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　　Ｐ－ピット　PG－ピット群　SA－柱穴列跡　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡　SE－井戸跡
SF－道路跡　SI－竪穴建物跡　SK－土坑　TP－陥し穴　UP－地下式坑

遺物　　DP－土製品　Ｇ－ガラス製品　Ｍ－金属製品　Ｎ－自然遺物種子　Ｑ－石器・石製品
Ｔ－瓦　TP－拓本記録土器　Ｗ－木器・木製品

土層　　Ｋ－撹乱

※　従来，竪穴住居跡としていた遺構について，平成25年度から竪穴建物跡に名称を変更した。よって，略号SIは竪穴建物跡とする。

4　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の１，各遺構の実測図は原則として60分の１の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として３分の１の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・赤彩・施釉・朱墨　　炉・火床面

竈部材・粘土範囲・黒色処理　　柱痕跡・柱あたり

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　▲木器・木製品　◇自然遺物　◆馬骨

■瓦　－・－・硬化面　－－－－焼土・粘土範囲

5　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

6　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はｍ，㎝，ｇで示した。なお，現存値は（　），推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

7　竪穴建物跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　Ｎ－10°－Ｅ）。

8　今回の報告分で，調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更　13 区

SK7040 → SI3112　Ｐ８　SK6713 →第 98 号方形竪穴遺構　SB548　Ｐ８・Ｐ９→ SK6690・SK6663　SK6546 → SB548　Ｐ８　SK6547 → SB548　Ｐ３

SB551　Ｐ９→ SK6545　SB581　Ｐ１・Ｐ５・Ｐ６→ SA66　SB581　Ｐ２～Ｐ４→ SA67

SK6570→SB551　Ｐ２　PG１→PG67　PG３→PG68　PG４→PG69　PG６→PG70　PG７→PG71

14 区

SI3062 →第 90 号方形竪穴遺構　SI3063 →第 91 号方形竪穴遺構　SI3064 →第 92 方形竪穴遺構

SI3065 →第 93 号方形竪穴遺構　SI3067 →第 94 号方形竪穴遺構　SK6751 →第８号陥し穴

第 84 号方形竪穴遺構→第 95 号方形竪穴遺構　SB519 → SB554　SK6752 → SE222

PG１→ PG63　SB554　Ｐ１・Ｐ８・Ｐ９・Ｐ 10・Ｐ 12 → PG63

SK6695 ～ 6699・6703 ～ 6710 → PG64　SK6771 ～ 6774・SK6776 ～ 6782 → PG65

SK7322・7335・7336・7339 ～ 7346・7348・7352 ～ 7355・7357 ～ 7359・7361 ～ 7369・7371・7372 → PG66　SA１→ SA62　SA２→ SA63

15 区

SK6029 →第96号方形竪穴遺構　SK6021 → 第 97 号方形竪穴遺構　SK6020 →第99号方形竪穴遺構

SK6025 →第 100 号方形竪穴遺構

SK6066・6073・6069・6074・6055 → SB540　Ｐ１～Ｐ５

SK6114・6115・6119・6120・6124 → SB541　Ｐ１～Ｐ５

SK6190・6198・6214・6217・6224・6225・6230 → SB542　Ｐ１～Ｐ７

SK6102・6103・6321・6322・6323・6297 → SB543　Ｐ１～Ｐ６

SK6212・6284・6395・6492・6259・6183・6276・6255 → SB544　Ｐ１～Ｐ８

SK6166・6278・6394・6373・6396・6489・6282・6202・6306 → SB545　Ｐ１～Ｐ 10

SK6406・6412・6256・6415・6076・6034 → SB585　Ｐ１～Ｐ５

SK6407・6413・6076・6034 → SB586　Ｐ１～Ｐ４

SK6414・6409・6076・6038・6036・6405 → SB588　Ｐ１・Ｐ３～Ｐ７

SK6031 → SE224　SK6143 → SE225　SK6161 → SE226　SK6313 → SE227　SK6369 → SE228

SK6484 → SE229　SK6485 → SE230　SK6612 → SE231　SK6625 → SE232　SK6631 → SE233

SK6632 → SE234　SK6624・6633 → SE235　SK6634 → SE236　SK6685 → SE237

SK6671 → SE238　SK6618 → SE239　SK6647 → SE240　SK6648 → SE241　SK6644 → SE242

SK6662 → SE243　SK6633 → SE244　SK6690 → SE245　SK6022 → SE246　SK6023 → UP82

SK6600 → UP83　SK6009 → UP84　SK6068 → UP88　SK6123 → UP85　SK6213 → UP86

SK6401 → UP87　SD447 A →第 104 号堀跡　SD447 B → SD511

（SD586 と SD587 は 16 区の第 92 号堀跡，SD571 にそれぞれ続くことを確認した）

SK6205・6206・6207・6208・6393 → SA59　Ｐ１～Ｐ５

SK6184・6318・6185・6281・6399・6400・6397 → SA60　Ｐ１～Ｐ７

SK6288・6202・6306・6275・6166・6251・6312 → SA65　Ｐ１～Ｐ７

SK6077・6080・6084・6111 ～ 6113・6116 ～ 6118・6263・6266 ～ 6268 → PG73

SK6011 ～ 6014・6035・6037・6039・6040・6075・6081・6403 ～ 6405・6408・6410・6411 → PG74
SK6128 ～ 6130・6141・6145・6157 ～ 6160・6186・6188・6189・6191・6192・6194 ～ 6197・
6199・6200・6215・6216・6218・6219・6222・6223・6226 ～ 6229・6235 ～ 6239・6242・6244 ～
6248・6262 → PG75
SK6050・6051・6054・6056 ～ 6061・6063 ～ 6065・6070・6101・6193・6270・6296・
6298 ～ 6300・6331 ～ 6350・6353 ～ 6360 → PG76
SK6181・6258・6260・6279・6280・6305・6307・6309・6317・6319・6320・6324・6368・6371・
6380・6427・6429・6438・6481・6482・6488・6491・6493 → PG77
SK6168・6171・6173 ～ 6176・6178・6203・6204・6205・6209 ～ 6211・6252・6271・6272・6277・
6283・6289・6290・6301 ～ 6304・6310・6311・6325・6326・6435・6439 → PG78
SK6398・6418・6419・6446・6448 ～ 6459・6469 → PG79
SK6136・6172・6182・6253・6254・6258・6273・6286・6287・6308・6315・6329・6330・6374 ～
6379・6381 ～ 6392・6421・6436・6437・6440・6442・6444・6445・6460 ～ 6464・6468 → PG80
SK6041・6042・6043・6044・6045・6046・6047・6048・6049・6052・6072・6087・6363・6364・
6365・6366・6367 → PG81
16 区
SB595 → SA64　SD153 → SD155　SB586　Ｐ７・Ｐ８ → PG85　Ｐ４・Ｐ５　SD576 → SD154
SD579 → SD150，SE222 → SE247
SK7261・7273・7274・7312・7314 → SB594　Ｐ１・Ｐ８・Ｐ９・Ｐ３・Ｐ10
PG１ → PG73，PG10 → PG83　PG73 → PG85　PG72 → PG84

欠番　13 区
HG１～３　SX１　埋没谷１～３
14 区
SI3070
SK6554・6775・7318・7370・7373
15 区
SK6034・6067・6076・6133・6201・6367・6423・6498・6604　SD501・502　SB587
16 区
SI3157・3158，SK731

総　目　次

－　上　巻　－

序
例　言
凡　例
総　目　次
島名熊の山遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 5
　第１節　位置と地形 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　調査の成果 …… 12
　第１節　調査の概要 …… 12
　第２節　基本層序 …… 12
　第３節　13区の遺構と遺物 …… 15
　　１　古墳時代の遺構と遺物 …… 15
　　(1)　竪穴建物跡 …… 15
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 72
　　２　奈良時代の遺構と遺物 …… 73
　　(1)　竪穴建物跡 …… 73
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 93
　　(3)　方形竪穴遺構 …… 104
　　(4)　溝跡 …… 105
　　３　平安時代の遺構と遺物 …… 109
　　(1)　竪穴建物跡 …… 109
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 117
　　４　その他の遺構と遺物 …… 121
　　(1)　竪穴建物跡 …… 121
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 124
　　(3)　柱穴列跡 …… 127
　　(4)　土坑 …… 129
　　(5)　溝跡 …… 138
　　(6)　ピット群 …… 140

(7) 遺構外出土遺物 …… 149
第4節 14区の遺構と遺物 …… 151
1 縄文時代の遺構と遺物 …… 151
陥し穴 …… 151
2 古墳時代の遺構と遺物 …… 151
(1) 竪穴建物跡 …… 151
(2) 土坑 …… 201
3 奈良時代の遺構と遺物 …… 203
竪穴建物跡 …… 203
4 平安時代の遺構と遺物 …… 211
(1) 竪穴建物跡 …… 211
(2) 土坑 …… 242
(3) 溝跡 …… 245
5 室町時代の遺構と遺物 …… 252
(1) 方形竪穴遺構 …… 252
(2) 掘立柱建物跡 …… 258
(3) 井戸跡 …… 260
6 江戸時代の遺構と遺物 …… 261
(1) 土坑 …… 261
(2) 溝跡 …… 264
7 その他の遺構と遺物 …… 265
(1) 土坑 …… 265
(2) 溝跡 …… 273
(3) 柱穴列跡 …… 274
(4) ピット群 …… 277
(5) 遺構外出土遺物 …… 283

－ 中 巻 －

第5節 15区の遺構と遺物 …… 287
1 古墳時代の遺構と遺物 …… 287
竪穴建物跡 …… 287
2 平安時代の遺構と遺物 …… 291
竪穴建物跡 …… 291
3 室町時代の遺構と遺物 …… 295
(1) 方形竪穴遺構 …… 295
(2) 掘立柱建物跡 …… 299
(3) 井戸跡 …… 311
(4) 火葬施設 …… 333

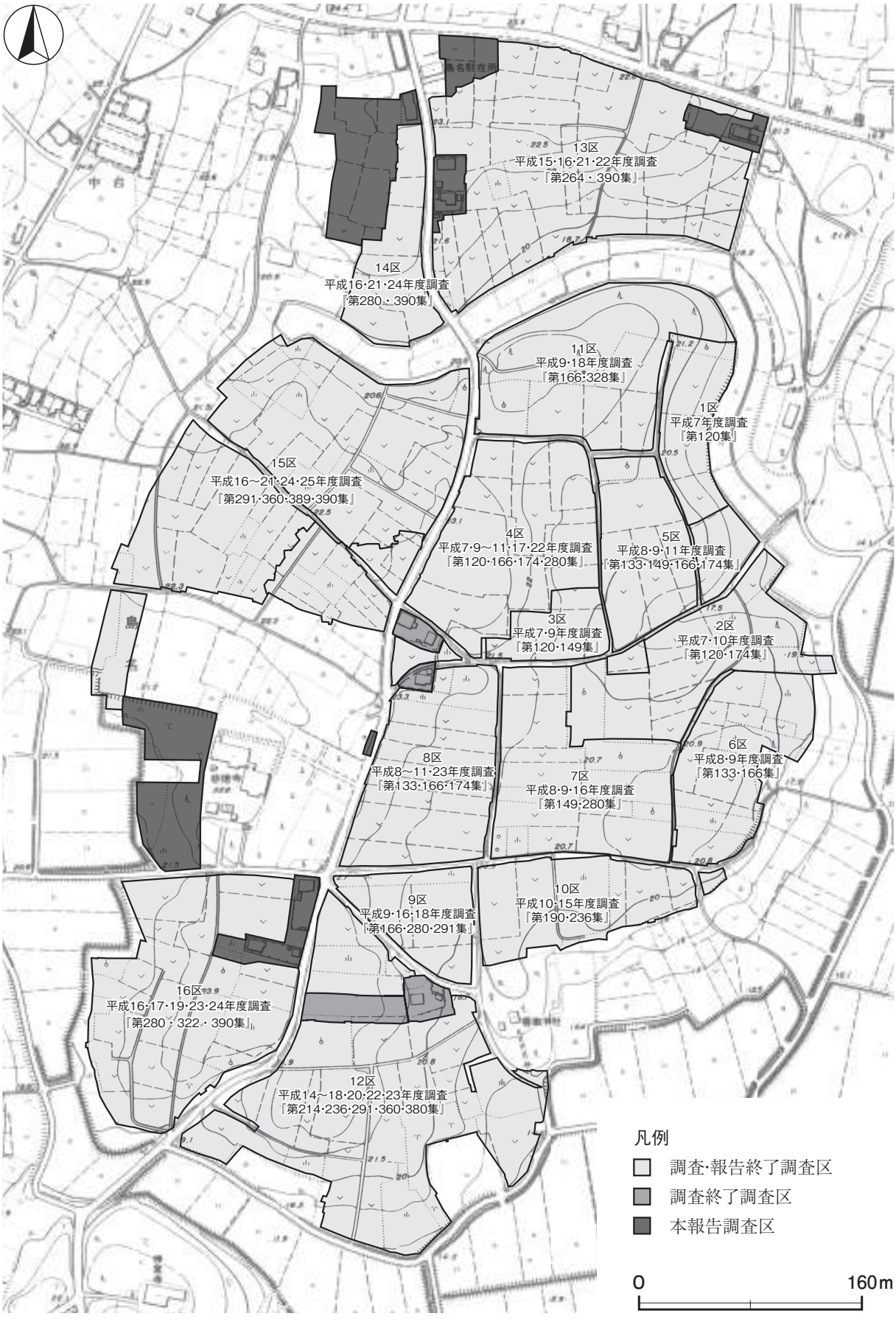
(5) 地下式坑 …… 334
(6) 土坑 …… 342
(7) 道路跡 …… 360
(8) 堀跡 …… 361
(9) 溝跡 …… 390
(10) 柱穴列跡 …… 412
4 江戸時代の遺構と遺物 …… 416
(1) 井戸跡 …… 416
(2) 土坑 …… 417
(3) 溝跡 …… 418
(4) 土塁 …… 423
溝跡
5 その他の遺構と遺物 …… 433
(1) 井戸跡 …… 433
(2) 土坑 …… 437
(3) 道路跡 …… 452
(4) 溝跡 …… 453
(5) ピット群 …… 455
(6) 遺構外出土遺物 …… 471
第6節 16区の遺構と遺物 …… 477
1 古墳時代の遺構と遺物 …… 477
(1) 竪穴建物跡 …… 477
(2) 土坑 …… 480
2 奈良時代の遺構と遺物 …… 481
土坑 …… 481
3 平安時代の遺構と遺物 …… 483
(1) 竪穴建物跡 …… 483
(2) 掘立柱建物跡 …… 485
(3) 井戸跡 …… 486
(4) 土坑 …… 491
4 室町時代の遺構と遺物 …… 493
(1) 掘立柱建物跡 …… 493
(2) 井戸跡 …… 498
(3) 地下式坑 …… 509
(4) 土坑 …… 511
(5) 道路跡 …… 518
(6) 堀跡 …… 519
(7) 溝跡 …… 538

５　江戸時代の遺構と遺物 …… 540
⑴　土坑 …… 540
⑵　溝跡 …… 541
６　明治時代の遺構と遺物 …… 544
校舎基礎跡 …… 545
７　その他の遺構と遺物 …… 546
⑴　掘立柱建物跡 …… 546
⑵　土坑 …… 547
⑶　溝跡 …… 551
⑷　柱穴列跡 …… 553
⑸　ピット群 …… 554
⑹　遺構外出土遺物 …… 557
第７節　まとめ …… 562

付章１　第 3161 号竪穴建物跡出土鉄製品付着木質の樹種同定 …… 589
付章２　第 84 号地下式坑出土短刀の成分分析 …… 591
付章３　第 84 号地下式坑出土短刀柄部分の樹種同定 …… 592
付章４　第 104 号堀跡出土木製品の樹種同定 …… 594
抄　録

－　下　巻　－

写真図版 ……PL 1 ～ PL108
付図１　島名熊の山遺跡 13 区遺構全体図
付図２　島名熊の山遺跡 14 区遺構全体図
付図３　島名熊の山遺跡 15 区遺構全体図（１）
付図４　島名熊の山遺跡 15 区遺構全体図（２）
付図５　島名熊の山遺跡 16 区遺構全体図
付図６　島名熊の山遺跡遺構全体図



第1図　島名熊の山遺跡調査区割図（つくば市研究学園都市計画図 25,000 分の 1 から作成）

島名熊の山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

島名熊の山遺跡は，つくば市の南西部，谷田川右岸の台地上に立地しています。当遺跡の調査は，土地区画整理事業に伴うもので，平成７年度から本年度までの 18 年間にわたり断続的に調査を行っています。今回の報告は，平成 20 ～ 24 年度に調査を行った，遺跡北部の 13・14 区と南部の 15・16 区で，総面積は 13,376㎡です。

調査の内容

今回の 13・14 区の調査では，主に古墳時代後期（約 1,500 年前）から平安時代（約 1,200 年前）にかけての集落跡を確認しました。竪穴建物跡からは煮炊き具の甕や供膳具の坏類などの土器ほか，鎌や鑿，鋤先などの鉄器・鉄製品が出土しました。また，15・16 区では，室町時代（約 500 年前）の方形竪穴遺構や掘立柱建物跡，井戸跡，堀跡，溝跡などのほか，地下式坑，火葬施設，

平成 20 年度　調査 15 区完掘状況（南から）

平成 21 年度　調査 13・14 区全景（上空から，左が北）

14 区から出土した遺物

第 226 号井戸跡に投棄されている五輪塔（15 区）

妙徳寺の東側を巡る第 92 号堀跡（16 区）

土坑など埋葬に関わると考えられる遺構を確認しました。第 226 号井戸跡からは，多数の五輪塔が投棄された状態で出土しました。また，第 104 号堀跡からは，生活に使用された土師質土器や陶器，石製品，木製品などが多数出土しました。以下 15・16 区の成果について述べていきます。

調査の成果

15 区の第 104 号堀跡からは，多量の土師質土器（小皿）が出土していることから，各地で戦乱がおこり不安定な世の中に変わっていく当時代において，人々が酒宴や祭りを行い，先祖を供養したり，戦の勝利などを祈願したりしたことがうかがえます。そして，16 区の第 92 号堀跡は，壁面に柵列状の柱穴を検出したことから，区画だけでなく防御の目的があったとも考えられます。15 区の東，16 区の北には鎌倉時代に開山された妙徳寺があります。周囲の堀や溝などは，寺へ直線的に延びたり，寺域・墓域を区画するように巡っていることから，寺との関連や当時の寺の範囲を想定することができます。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成６年８月 18 日 , 茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに，島名・福田坪一体型土地区画整理事業地内（つくば市島名）における埋蔵文化財の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は ，平成６年９月 19 日～ 27 日に現地踏査を，平成６年９月 22 日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成７年３月８日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県知事あてに，事業地内に島名熊の山遺跡が所在すること，及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

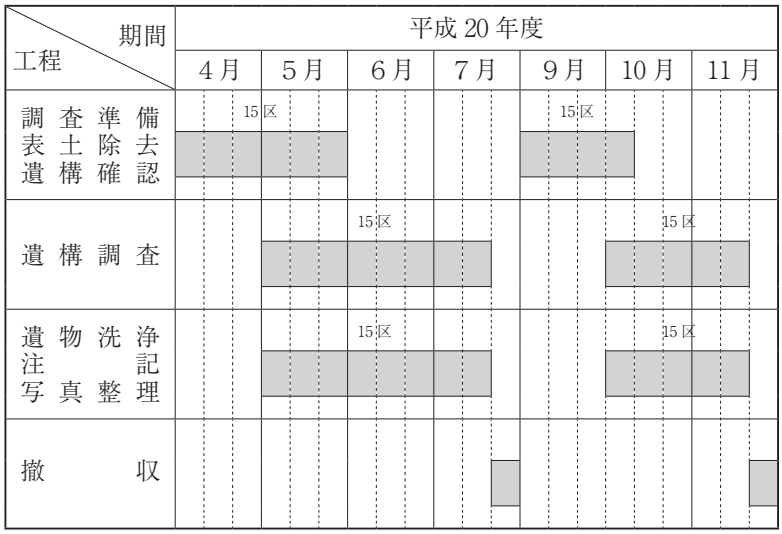
平成７年３月 14 日，茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに，文化財保護法第 57 条の３第１項（現第 97 条）に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成７年３月 16 日茨城県知事あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

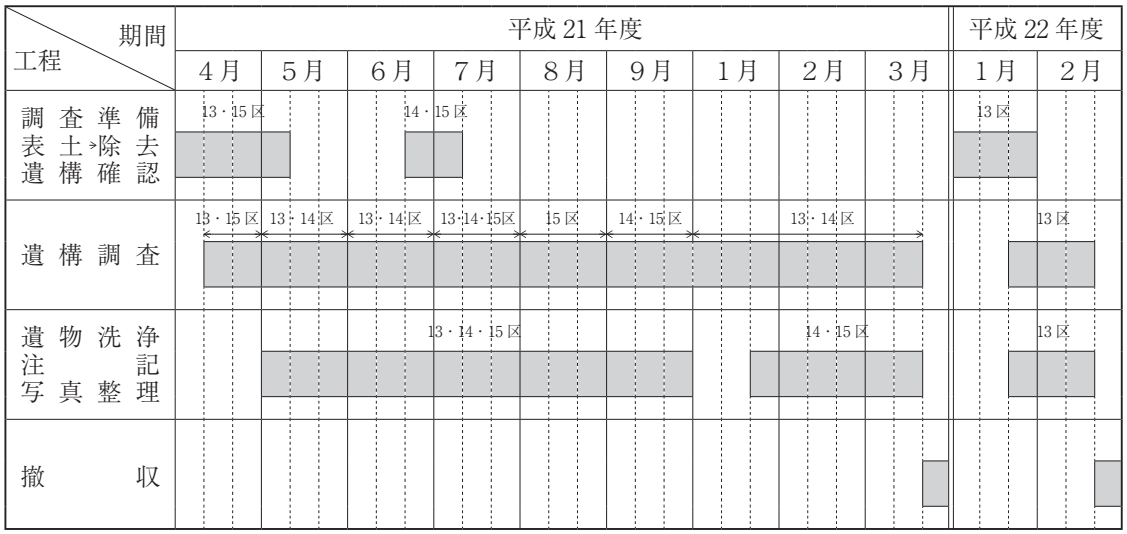
平成 20 年２月 27 日, 平成 21 年２月 23 日，平成 22 年２月 10 日, 平成 23 年２月 25 日, 平成 24 年２月 13 日，茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに，島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成 20 年２月 27 日，平成 21 年２月 25 日，平成 22 年２月 24 日，平成 23 年２月 25 日 ，平成 24 年２月 23 日，茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに，島名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育材団（現 公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

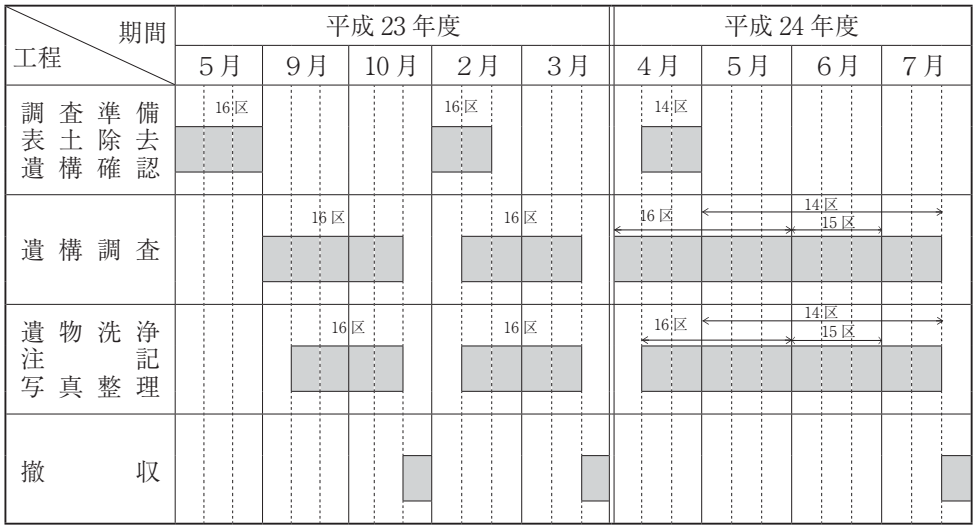
財団法人茨城県教育財団は，茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成 20 年４月１日から平成 20 年７月 31 日まで，平成 20 年９月１日から平成 20 年９月 30 日まで，平成 20 年 11 月１日から平成 20 年 11 月 30 日まで，平成 21 年４月１日から平成 21 年９月 30 日まで，平成 22 年１月１日から平成 22 年６月 30 日まで，平成 22 年８月１日から平成 22 年９月 30 日まで，平成 23 年１月１日から平成 23 年３月 31 日まで，平成 23 年９月１日から平成 24 年７月 31 日まで，発掘調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

島名熊の山遺跡 13 区の調査は，平成 21 年４月１日から７月 31 日までの４か月間，９月１日から９月 30 日までの１か月間，平成 22 年１月１日から３月 31 日までの３か月間，平成 23 年１月１日から２月 28 日までの２か月間，同 14 区は，平成 21 年５月１日から７月 31 日までの３か月間，９月１日から９月 31 日までの１か月間，平成 22 年１月１日から３月 31 日までの３か月間，平成 24 年４月１日から７月 31 日までの４か月間，同 15 区は，平成 20 年４月１日から７月 31 日までの４か月間，９月１日から 11 月 30 日までの３か月間，平成 21 年４月１日から４月 30 日までの１か月間，７月１日から９月 30 日までの３か月間，平成 24 年６月１日から６月 30 日までの１か月間，同 16 区は，平成 23 年５月１日から５月 31 日までの１か月間，平成 23 年９月１日から 10 月 31 日までの２か月間，平成 24 年２月１日から６月 31 日までの５か月間にわたって発掘調査を実施した。以下，その概要を表で記載する。


期間
工程
平成 20 年度
4 月
5 月
6 月
7 月
9 月
10 月
11 月
調査準備
表土除去
遺構確認
遺構調査
遺物洗浄
注記
写真整理
撤収
15 区
15 区
15 区
15 区
15 区
15 区


期間
工程
平成 21 年度
平成 22 年度
4 月
5 月
6 月
7 月
8 月
9 月
1 月
2 月
3 月
1 月
2 月
調査準備
表土除去
遺構確認
遺構調査
遺物洗浄
注記
写真整理
撤収
13・15 区
14・15 区
13 区
13・15 区
13・14 区
13・14 区
13・14・15区
15 区
14・15 区
13・14 区
13 区
13・14・15 区
14・15 区
13 区


期間
工程
平成 23 年度
平成 24 年度
5 月
9 月
10 月
2 月
3 月
4 月
5 月
6 月
7 月
調査準備
表土除去
遺構確認
遺構調査
遺物洗浄
注記
写真整理
撤収
16 区
16 区
14 区
16 区
16 区
16 区
16 区
16 区
16 区
14 区
15 区
14 区
15 区

第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

今回報告する島名熊の山遺跡のうち，平成 20 年度調査の 15 区は茨城県つくば市島名字本田 1140 番地－２ほか，同 21 年度調査の 13 区は茨城県つくば市島名字関ノ臺－１番地ほか，同 14 区は茨城県つくば市島名字中代 1362 番地－１ほか，同 15 区は茨城県つくば市島名字本田 1154 番地ほか，同 22 年度調査の 13 区は茨城県つくば市島名字不動山 1442 －１番地ほか，同 23 年度調査の 16 区は茨城県つくば市島名字寺ノ前 1672 番地３ほか，同 24 年度調査の 14 区は茨城県つくば市島名字中代 1388 －１ほか，同 15 区は茨城県つくば市島名字本田 1156 －１番地ほか，同 16 区は茨城県つくば市島名字寺ノ前 1669 番地 3 ほかにそれぞれ所在している。

つくば市は筑波山を北端にして，その南東側へ延びる標高約 20 ～ 25 mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，東を霞ヶ浦に流入する桜川，西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には，東から花室川，蓮沼川，小野川，谷田川，西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており，これらの河川によって台地は浅く開析され，谷津や低地が細長く入り込んでいる。

この筑波・稲敷台地は，貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として，その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層，さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層，さらに褐色の関東ローム層が連続して堆積し，最上部は腐食土層となっている[1)]。

つくば市南西部の旧谷田部町島名地区は，谷田川と西谷田川によって開析された，挟長な台地上の中央部に位置している。両河川流域の地形は，当地区から上流域では平坦な台地面が残っている一方，下流域では支谷が樹枝状に発達し，谷密度が高い状況が見て取れる。したがって，当地区周辺は陸路と水路との結節点にあたり，交通の要衝であったことが想定できる[2)]。

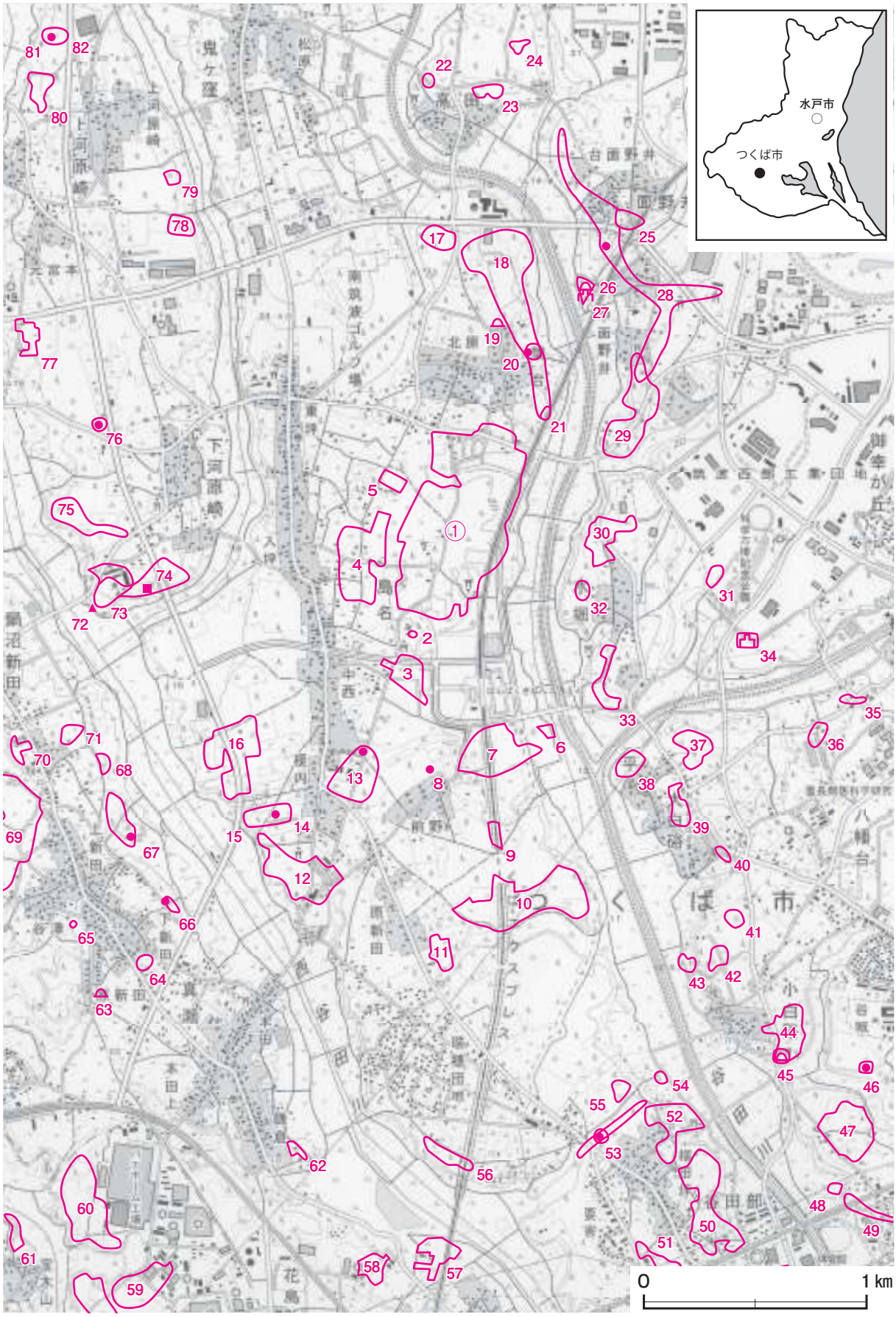
当遺跡は谷田川に面した台地の縁辺部に立地しており，標高は 13 ～ 24m で，遺跡の範囲は南北 880m，東西 560m である。第２図から，当遺跡の地形は，周囲を囲むように谷津が入り込み，その名のように楕円形の島状を呈していることが分かる。これまでの調査から，台地上に複数の埋没谷が入り込んでいる様子が明らかになっており，遺跡の中心的な時期である古墳時代から平安時代にかけては，起伏に富んだ地形であったことがうかがえる。

今回報告する 13・14 区は，遺跡北部のＳ字状に入り込んだ深い谷津に囲まれた標高 19 ～ 23 mの緩斜面部に位置している。また，15・16 区は，遺跡南西部に位置する妙徳寺の西側と南東側に位置し，標高 21 ～ 23m の台地上にあり，南側と東西南側 の三方を谷津に取り囲まれている。調査前の現況は，いずれも畑地である。

第2節　歴　史　的　環　境

島名熊の山遺跡周辺の小貝川や谷田川，西谷田川，蓮沼川流域の台地上には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは主に谷田川と西谷田川流域に分布する島名熊の山遺跡と同時期の遺跡について述べる。特に，当遺跡が所在する島名地区は調査事例が多く，各時代の様相をつかみやすい地域でもある。

旧石器時代では，ナイフ形石器や剥片，縄文時代では，陥し穴数基や表土中から複数の土器片や石器類が，当遺跡から確認されている。台地は谷津に面し，水の確保に適し，生活がしやすい場であったと考えられる。



第２図　島名熊の山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「谷田部」）

表１　島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○
2	島名薬師遺跡				○			
3	島名八幡前遺跡				○	○	○	
4	島名本田遺跡				○	○	○	○
5	島名中代遺跡				○			
6	島名前野遺跡		○		○	○	○	○
7	島名前野東遺跡		○		○	○	○	○
8	島名前野古墳				○			
9	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○
10	島名境松遺跡		○		○			
11	島名タカドロ遺跡		○		○			
12	島名榎内南遺跡	○			○	○		
13	島名榎内古墳群				○			
14	島名榎内西古墳群				○			
15	島名榎内遺跡				○			
16	島名ツバタ遺跡		○		○		○	○
17	島名関の台遺跡				○			
18	島名関ノ台古墳群				○			
19	島名関ノ台塚						○	○
20	島名関ノ台南A遺跡				○	○		
21	島名関ノ台南B遺跡	○	○			○		○
22	高田和田台遺跡				○			
23	高田遺跡					○		○
24	高田原山遺跡				○	○		
25	面野井北ノ前遺跡				○	○	○	○
26	面野井西ノ台塚						○	○
27	面野井城跡						○	
28	面野井古墳群				○			
29	面野井南遺跡				○	○	○	○
30	水堀下道遺跡				○	○		
31	水堀遺跡				○			
32	水堀屋敷添遺跡		○		○			
33	水堀道後前遺跡					○		
34	大和田氏屋敷跡						○	○
35	柳橋仲畑遺跡				○		○	○
36	柳橋遺跡				○			○
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○
38	平後遺跡				○		○	○
39	大白硲西ノ裏遺跡				○			
40	大白硲桜下遺跡				○			
41	大白硲民部山遺跡				○			

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
42	小白硲民部山遺跡				○			
43	小白硲水表遺跡				○			
44	小白硲海道端遺跡		○				○	○
45	小白硲海道端塚群						○	○
46	谷田部カロウド塚古墳				○			
47	谷田部台成井遺跡		○					
48	谷田部下成井遺跡		○					○
49	谷田部台町古墳群				○			
50	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
51	谷田部漆出口遺跡		○		○		○	○
52	谷田部福田遺跡		○		○			
53	谷田部大堀遺跡						○	○
54	谷田部山合遺跡		○				○	○
55	谷田部陣馬遺跡		○		○			
56	谷田部漆遺跡		○		○	○		
57	上萱丸古屋敷遺跡				○		○	○
58	真瀬三度山遺跡		○		○			○
59	二本松遺跡		○					
60	西山遺跡		○				○	○
61	苗代山遺跡		○					
62	真瀬戸崎遺跡				○		○	○
63	真瀬西原遺跡						○	○
64	真瀬中畑遺跡		○		○			○
65	真瀬新田谷津遺跡		○					
66	真瀬新田古墳群				○			
67	真瀬堀附南遺跡		○		○			
68	真瀬堀附北遺跡				○			
69	真瀬山田遺跡		○		○	○		
70	真瀬山田北遺跡		○		○			
71	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
72	下河原崎高山窯跡				○			
73	下河原崎高山遺跡			○				
74	下河原崎高山古墳群				○			
75	下河原崎谷中台遺跡	○	○		○	○		
76	下河原崎古墳群			○				
77	元宮本前山遺跡	○	○		○			
78	元中北東藤四郎遺跡				○			
79	元中北鹿島明神古墳				○			
80	上河原崎本田遺跡				○	○		○
81	上河原崎小山台古墳				○			
82	上河原崎八幡脇遺跡				○			

また弥生時代の当遺跡から出土した土器片には，イネ籾痕が認められ，当地域と稲作を考える上で貴重な資料である。

古墳時代になると，前期では，当遺跡のほか島名前野遺跡[3]〈６〉，島名前野東遺跡[4]〈７〉などで小規模な集落跡が確認され，谷田川沿いに小規模集落が点在するようになる。島名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓３基が調査されている。

中期になると，前述した遺跡に加えて谷田部漆遺跡[5]〈56〉や島名ツバタ遺跡[6]〈16〉，真瀬三度山遺跡[7]〈58〉，上萱丸古屋敷[8]〈57〉などにおいても集落跡が確認され，西谷田川沿いにまで広がりを見せる。特に元宮本前山遺跡[9]〈77〉では，滑石製模造品の製作跡が確認されており，下河原崎谷中台遺跡[10]〈75〉では，県内初の琴柱形石製品が出土して注目されている。

前期から中期までのこのような集落は，いずれも台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており，その立地や経営には，台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く示唆される。

後期になると，台地の内陸部にまで集落が形成されるようになる。当遺跡では４～５世紀に台地縁辺部に集落が出現した後，６世紀後半になって台地全体に集落が拡大し，急速に発展していく様子が 明らかにされている。また，谷田部地区には古墳群 11 か所，古墳約 300 基が確認されるなど，急速に古墳が築造されたことが分かる。中でも，島名関ノ台古墳群〈18〉には，円墳 27 基のほかに全長約 40m の前方後円墳が存在したといわれ，被葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い。

奈良時代になると，島名地区は急速に集落の再編が進むようになる。その背景には，律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことは明らかで，当遺跡の所在する島名地区は『和名類聚抄』[11]にある「嶋名郷」に比定されており，この地域の拠点的な集落であった可能性が高い。当遺跡や島名八幡前遺跡[12]〈３〉は，大型住居跡とそれに付随する掘立柱建物後が集落の中心で，規模や形状の等質化したその他の住居跡は，いずれも主軸を真北にして並存するようになる。さらに，当遺跡にはＬ字状に配置された掘立柱建物群も整備され，郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。一方，島名前野遺跡や島名前野東遺跡では７世紀に一旦集落が途絶え，８世紀中頃に再び集落が形成される。それは，約半世紀の間空閑地となっていた当地が，律令体制の進展と共に再開発の適地となったためと思われる。しかし，その一方で，これらの遺跡以外に島名地区における該期の集落は認められず，当遺跡周辺だけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。

平安時代になると，集落として明確にとらえられるのは当遺跡と島名八幡前遺跡だけとなり，遺跡数はさらに減少する。両遺跡は，鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており，９世紀への集落の継続性を考えたとき，極めて示唆的である。８世紀以来の集落が，大規模な集落を残し壊滅していく状況は，律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。この９世紀の集落編成も 10 世紀を迎えると新たな展開を示し，島名八幡前遺跡も集落としての終焉を迎えることになる。当遺跡は，11 世紀まで継続的に集落が営まれているが，その後の集落の様相は不明瞭になっていく。そのような状況は，竪穴建物から平地住居への転換する時期と重なるためと思われるが，当遺跡の墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏も出土している。本県の場合，和鏡や短刀が副葬された墓坑は，古代末から地方武士が台頭した地域と重なる傾向が認められ，筑波山周辺が常陸平氏系武士団の居住領域であることから，有力武士層の存在をうかがうことができる。

12 世紀後半の谷田部地区は，常陸平氏本宗多気権守平直幹の支配下にあり，常陸西南部をおおう広大な開発地の常安保，南野牧とともに村田荘の一部であった。12 世紀末には田中荘，下妻荘を分出し，谷田部地区の大部分は田中荘域に入る。田中荘の下司職は多気義幹に与えられた。

以下，谷田部地区（主に田中荘）の支配者の変化について記すこととする。

鎌倉幕府の成立直後の建久４（1193）年，八田知家（二代目知重から小田氏）の策略により，多気義幹は所領没収・失脚の憂目にあい，田中荘は小田氏の支配下に入る。その後，弘安８（1285）年の霜月騒動により，一時北条得宗家の支配下になり，北条泰家に伝領された。鎌倉幕府滅亡後に田中荘は軍功として足利尊氏に与えられた。

南北朝時代に入ると，その混沌とした国政の状況は常陸国にも及び，当地域も戦乱の渦に巻き込まれていく。嶋名地区の様相は『新編常陸国誌』[13]によると，多賀谷政経が谷田部城（当遺跡から南南東に約 3.7km）を攻め落とし，政経弟の経伯が谷田部を支配したとある。天正２（1574）年，常陸北部で威をふるっていた佐竹義重は，常陸南部を攻略し，小田氏配下の諸城は相次いで佐竹氏の手に帰し，小田氏の配下にあった各地の城（砦）などはことごとく佐竹氏に属することになった。面野井城跡〈27〉も同様で，城主平井手伊賀は，佐竹氏との争いに破れた後，多賀谷氏に属したとされる[14]。

このように当地域の支配層が変わっていく中で，島名八幡前遺跡では，13 世紀末～ 14 世紀頃の方形竪穴遺構，地下式坑や墓坑が数多く確認されている。島名前野東遺跡からは，ほぼ同じ時期の１町四方に巡る堀に囲まれた方形居館が出現しており，居館内に居住する在地の有力者が当遺跡の所在する島名地区一帯を治めていったものと考えられる。更にその堀跡から，大量の土師質土器の小皿が出土し，その中には内面には新田氏，外面には足利氏の家紋を模倣したと思われる墨書土器が含まれており，当時の社会情勢を考える上での貴重な資料といえる[15]。同じく 13 世紀末頃，当遺跡の中央部西寄りに妙徳寺が一遍上人の法弟・一阿了向によって開山され，寺域周辺は墓域として利用されていく。また，当遺跡中央部の妙徳寺から東へ 100m では，鋳造土坑が確認され，燈籠の蓮華座や梵鐘の乳，鰐口などの鋳型片が出土しており，生産に従事する人々の存在がうかがえる。当時鋳造された製品の搬入先は妙徳寺，または当遺跡東を流れる谷田川を利用し，谷田川流域の神社や寺に運ばれた可能性が考えられている。当遺跡南西部では 15 世紀後半から 17 世紀前半にかけての大規模な堀跡や墓域，妙徳寺正面から前へ延びる 16 世紀前半の参道が確認されている。妙徳寺を囲むように掘られてい大規模な堀や溝跡は，戦乱時の防御的機能も備えていたと考えられる。

※本章は，既刊の「島名熊の山遺跡」を参照し，加筆した。文中の〈　〉内の番号は，第２図及び表１の当該番号と同じである。

註

1）日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質３　関東地方」共立出版　1986 年 10 月

2）茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査　５万分の１　国土調査　土浦』 1983 年 12 月

3）稲田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ　島名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 175 集　2001 年３月

4）a　寺門千勝・田原康司・梅澤貴史「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 191 集　2002 年３月

b　飯泉達司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 IX」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 215 集　2004 年３月

c　小松崎和治『島名境松遺跡・島名前野東遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 281 集　2007 年３月

5）註４ａに同じ

6）a　佐野正「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　ツバタ遺跡　高山古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 22 集　1983 年３月

b　皆川修「島名ツバタ遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 203 集　2003 年３月

c　高野裕璽「下河原崎谷中台遺跡・島名ツバタ遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 282 集　2008 年３月

7）白田正子「（仮称）萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告Ⅱ　三度山遺跡・古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財報告』第 132 集　1988 年３月

8）註７に同じ

9）高野裕璽「元宮本前山遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 265 集　2006 年３月

10）a　註６ｃに同じ

b　斎藤真弥「下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書４」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 299 集　2008 年３月

11）池邊彌『和名類聚抄群郷里驛名考證』吉川弘文館　1981 年２月

12）a　青木仁昌「島名八幡前遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 201 集　2003 年３月

b　菊池直哉「島名八幡前遺跡　都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 283 集　2007 年３月

13）中山信名著　栗田寛補訂『新編常陸国誌』崙書房（復刻版）1978 年 12 月

14）谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会　1975 年９月

15）註４ａに同じ

参考文献

・茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001 年３月

・茨城県教育庁文化課『重要遺跡調査報告書Ⅱ（城館跡）』茨城県教育委員会　1985 年３月

・筑波町史編纂専門委員会『筑波町史　上巻』つくば市　1988 年９月

・茨城県史編集委員会『茨城県史　中世編』茨城県　1986 年３月

・石川豊『中世常総名家譜　上・下巻』暁印書館　1992 年２月

・野村亨『常陸小田氏の盛衰』筑波書林　2004 年２月

第３図　島名熊の山遺跡グリッド設定図（つくば市研究学園都市計画図 25,000 分の 1 から作成）

第3章　調　査　の　成　果

第1節　調　査　の　概　要

当遺跡は，つくば市西部を南流する谷田川右岸の標高 13 ～ 24 ｍの舌状台地上に立地している。調査区は，便宜上１～ 16 区（第１図）に分けており，今回の報告分は，平成 20 年度に調査した 15 区 2,567㎡，平成 21 年度に調査した 13 区 2,074㎡，14 区 2,862㎡，15 区 479㎡，平成 22 年度に調査した 13 区 822㎡，平成 23 年度に調査した 16 区 826㎡，平成 24 年度に調査した 14 区 3,167㎡，15 区 102㎡，16 区 477㎡の計 13,376㎡についてである。

調査では，各年度を総合すると，竪穴建物跡 73 棟（古墳時代 38・奈良時代 13・平安時代 19・時期不明３），方形竪穴遺構 13 基（奈良時代１・室町時代 12），掘立柱建物跡 30 棟（古墳時代１，奈良時代６，平安時代３・室町時代 16・時期不明４），井戸跡 32 基（平安時代１・室町時代 18・江戸時代１・時期不明 12），火葬施設１基（室町時代），地下式坑８基（室町時代），土坑 438 基（古墳時代４・奈良時代３・平安時代８・室町時代 83・江戸時代５，時期不明 335），道路跡２条（室町時代），堀跡４条（室町時代）溝跡 43 条（奈良時代２・平安時代２・室町時代 14・江戸時代６・時期不明 19），柱穴列跡８列（室町時代４・時期不明４），土塁跡１条（江戸時代），ピット群 23 か所（時期不明），校舎基礎跡１か所（明治時代）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に 277 箱出土している。主な遺物は，土師器（坏･椀･高台付坏･皿・坩・高坏・鉢・壺・台付甕・甕・小形甕・大甕・甑・ミニチュア土器・手捏土器），須恵器（坏・高台付坏・蓋・皿・盤・壺・瓶・短頸壺・長頸壺・甕・大甕・甑），灰釉陶器（皿），緑釉陶器（碗・皿），土師質土器（小皿・内耳鍋・焙烙・擂鉢・片口鉢・火鉢・香炉・甕），瓦質土器（擂鉢・火鉢・鉢），陶器（碗・天目茶碗・皿・擂鉢・香炉・土瓶・甕・秉燭），磁器（八角小坏・碗・皿・猪口・水滴・瓶），土製品（勾玉・小玉・土玉・管玉・棗玉・管状土錘・支脚・紡錘車），石器（尖頭器・剥片・石鏃・磨石・敲石・石鉢・石臼・茶臼・砥石・紡錘車・硯），石製品（勾玉・臼玉・小玉・五輪塔・宝篋印塔・板碑），金属製品（刀子・鏃・鎌・呑口式腰刀・鋤先・鑿・釘・煙管・鏑・銭貨），木器・木製品（椀・曲物底板・曲物側板・下駄・樋），ガラス製品（小玉），瓦（平瓦・丸瓦・鬼瓦），自然遺物（アカニシ・コダイモモ），製鉄・鍛冶関連遺物（鉄滓・羽口）などである。

第２節　基　本　層　序

当遺跡は，13 ～ 24 ｍほどの低地部から台地上にかけて立地しており，平成 20 年度調査区の 15 区南部（O ４b8 区）と，平成 24 年度調査区の 14 区中央部（C ７b7 区）に設定したテストピットで基本土層（第４図）の観察を行った。以下，観察結果から層序を説明する。

15 区南部

土層は７層に分層でき，第７・９・12 層が関東ローム層である。

第１層は，黒褐色を呈する表土層である。ロームブロックとローム粒子，炭化粒子をわずかに含み，粘性・締まりとも弱く，層厚は 13 ～ 24㎝である。

第２層は，にぶい黄褐色を呈する旧表土層である。ロームブロックを中量，炭化物を少量含み，粘性・締ま

りとも普通で，層厚は６～ 20㎝である。

第７層は，暗褐色を呈するハードローム層である。ローム粒子を中量含み，粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 14 ～ 28㎝である。第２黒色帯（ＢＢⅡ）に相当し，ソフトローム層は削平されている。

第９層は，褐色を呈するハードローム層である。ロームブロックを多量，ローム粒子を中量含み，粘性・締まりとも強く，層厚は 18 ～ 30㎝である。

第 12 層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層で，常総粘土層への漸移層である。白色粘土ブロックを中量含み，粘性は強く，締まりは普通で，層厚は８～ 20㎝である。

第 14 層は，灰白色を呈する常総粘土層である。白色粘土と鉄分を多量に含み，粘性・締まりとも強く，層厚は 12 ～ 30㎝である。

第 15 層も，灰白色を呈する常総粘土層である。第６層に比べると鉄分が少なく，紺色のまだらが入る。粘性・締まりとも強く，厚層は 10 ～ 24㎝である。

なお，遺構は，第２層上面で確認した。

14 区中央部

土層は 14 層に分層でき，第４～ 11 層が関東ローム層である。

第１層は暗褐色を呈する表土である。ローム粒子と焼土ブロックをわずかに含み，粘性・締まりとも普通で，層厚は９～ 12㎝である。

第２層は黒褐色を呈する旧表土層である。ローム粒子をわずか，炭化粒子・焼土粒子も少量含み，粘性・締まりとも普通で，層厚は 10 ～ 21㎝である。

第３層は黄褐色を呈する土層で，ソフトロームと第４層への漸移層である。黒色土をわずかに含み，粘性・締まりとも普通で，層厚は１～ 16㎝である。

第４層は明黄色を呈するハードローム層である。シルト状のきめ細かい土質で，粘性は普通で締まりは極めて強く，層厚は２～ 14㎝である。

第５はにぶい黄橙色を呈するハードローム層である。シルト状のきめ細かい土質で，粘性は普通で締まりは強く，層厚は 10 ～ 20㎝である。

第６層は灰黄褐色を呈するハードローム層である。シルト状のきめ細かい土質で，粘性は普通で締まりは第５層より強く，層厚は 10 ～ 22㎝である。

第７層は褐灰色を呈する第２黒色帯（BB Ⅱ）層である。シルト状のきめ細かい土質で，粘性は普通で締まりは強く，層厚は 16 ～ 22㎝である。

第８層は明黄褐色を呈する第２黒色帯（BB Ⅱ）層である。シルト状のきめ細かい土質で，粘性は普通で締まりは強く，層厚は 20 ～ 24㎝である。

第９層は褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く，層厚は 20 ～ 26㎝である。

第 10 層は灰黄褐色を呈するハードローム層である。土質が粘土化し，きめ細かく，粘性・締まりとも強く，層厚は 14 ～ 24㎝である。

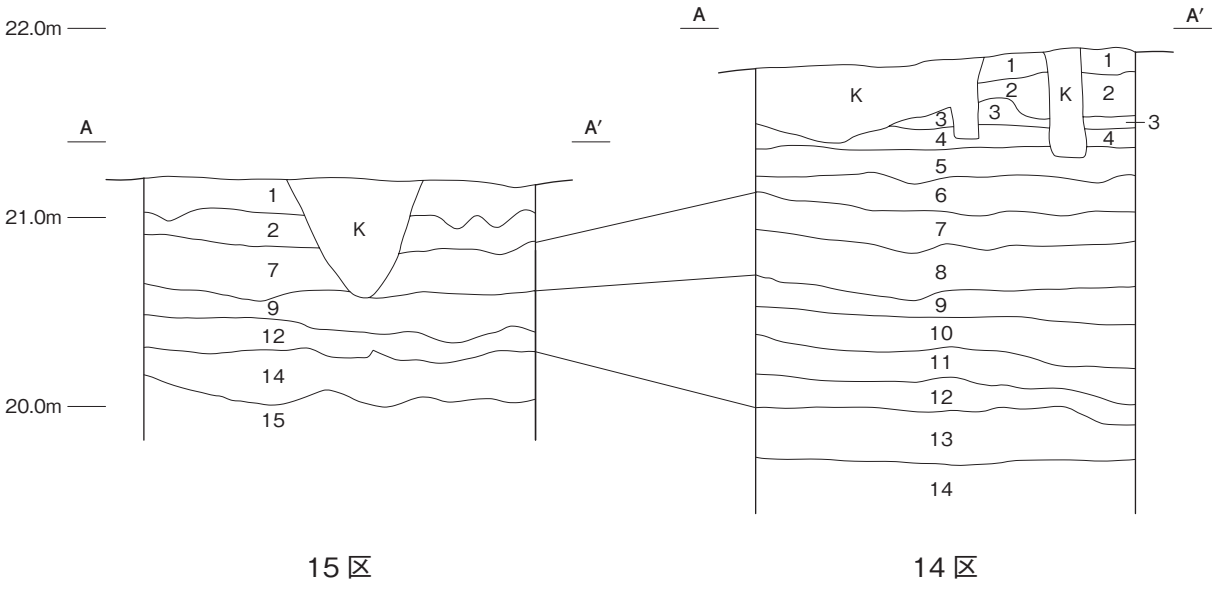
第 11 層は暗褐色を呈するハードローム層である。第 10 層と同様で，水辺に堆積しグライ化したと考えられる。粘性は強く，締まりは極めて強く，層厚は８～ 20㎝である。

第 12 層は褐色を呈するローム層と常総粘土層への漸移層である。灰白色粘土ブロックをわずかに含み，粘性は強く，締まりは極めて強く，層厚は 10 ～ 20㎝である。

第 13 層は褐色を呈するローム層と常総粘土層への漸移層である。灰白色粘土ブロックをわずかに含み，粘性は強く，締まりは極めて強く，層厚は，28 ～ 30㎝である。

第 14 層は灰白色を呈する常総粘土層である。酸化鉄･砂粒が薄く堆積する。粘性は強く，締まりは極めて強い。

なお遺構は，　第３層上面で確認した。



第４図　基本土層図

第３節　13 区の遺構と遺物

1　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 19 棟，掘立柱建物跡１棟を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 2009 号竪穴建物跡　（第５図）

調査年度　竈１を含む東半部は平成 15 年度に調査し，『茨城県教育財団文化財調査報告』第 264 集（以下『第 264 集』）にて報告している。西半部は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分を新しい番号に更新した。

位置　13 区西部のＣ９e9 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 549 号掘立柱建物，第 113 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.85 ｍ，短軸 5.70 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 10 °－Ｗである。壁高は４～９cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。

竈　２か所。竈１は北壁の東寄りに付設されている。竈１の左袖部は今回の調査では確認できなかった。竈２は北壁中央部に付設されている。煙道部の掘り込みが確認できただけである。壁外への掘り込みは 40cmである。遺存状況から竈２から竈１へ作り替えられたと考えられる。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 58 ～ 70cmで規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 70cmで，土層からＰ５からＰ４への立て替えが考えられる。Ｐ６は深さ 58cmで，床下から確認した。配置からＰ５とＰ６は竈２に伴う主柱穴と考えられる。Ｐ４～Ｐ７の底面からは，柱のあたりを確認した。Ｐ７は深さ 46cmで南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが全体に含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量　　2　褐　　色　ロームブロック多量

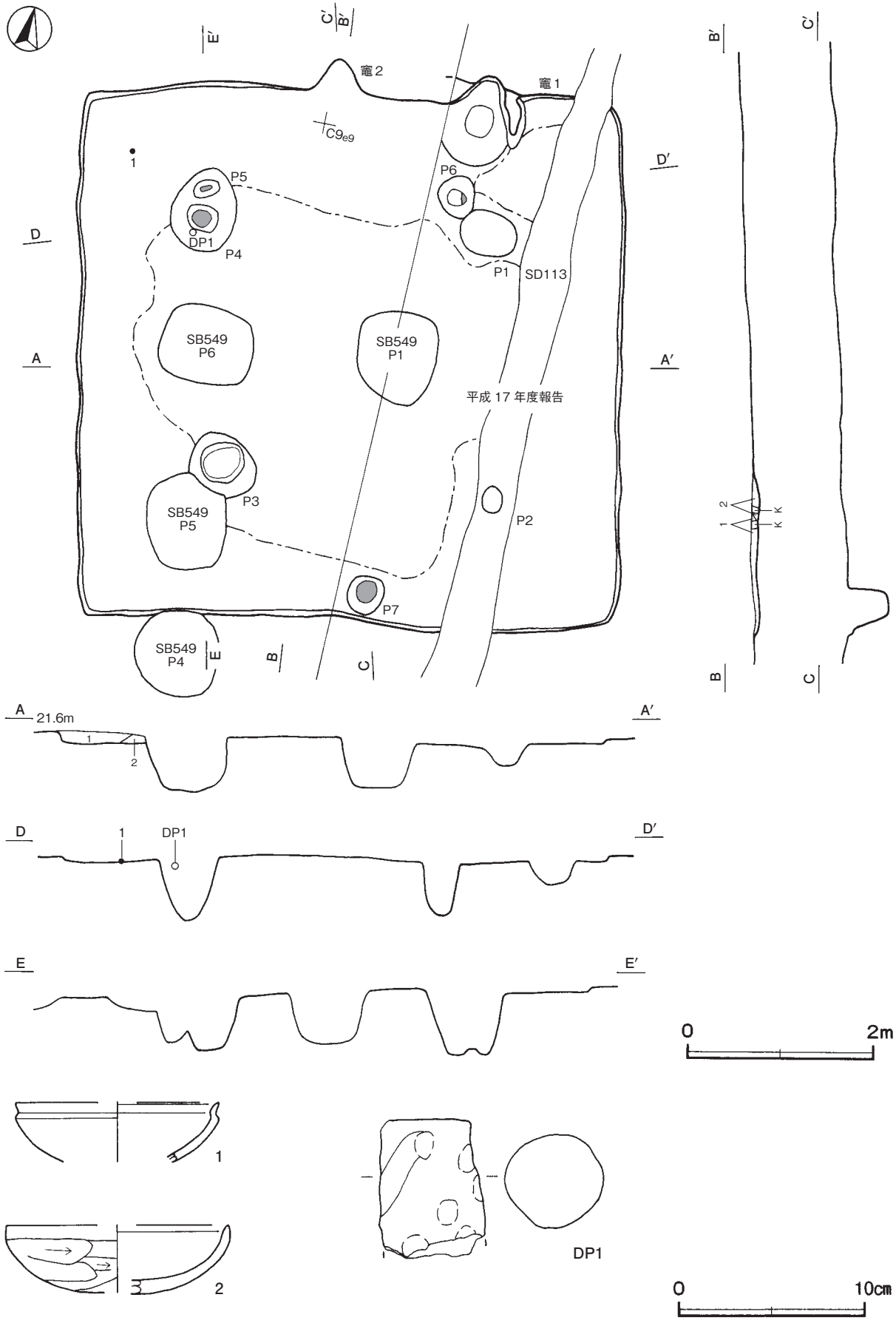
遺物出土状況　土師器片 138 点（坏 44，甕 94），土製品４点（支脚）が出土している。１は北西部の床面から，DP １はＰ４の覆土上層から，２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から７世紀前葉に比定できる。なお，東半部の状況については『第 264 集』を参照されたい。

第 2009 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[11.0]	(3.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	磨滅のため調整不鮮明	床面	20%
2	土師器	坏	[12.0]	3.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	20%

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 1	支脚	4.8	(5.7)	(7.5)	(208.9)	長石・石英・赤色粒子	基部欠損　外面一部ヘラ削り　ナデ　指頭押圧	P4 覆土上層	



第５図　第 2009 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

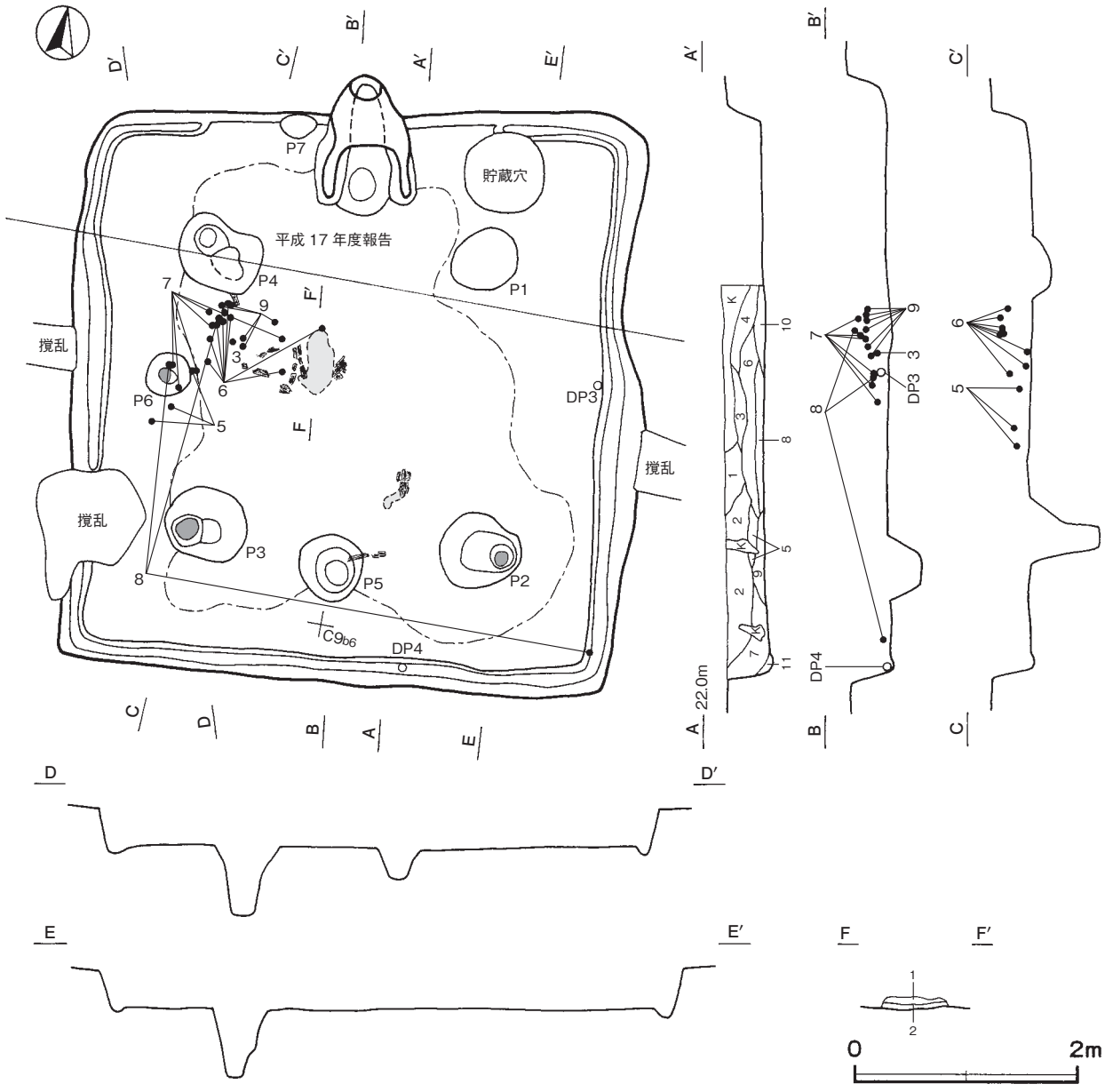
第 2022 号竪穴建物跡（第６・７図）

調査年度　竈を含む北部は平成 15 年度に調査し,『第 264 集』にて報告している。南部は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分を新しい番号に更新した。

位置　13 区西部のＣ 9a5 区，標高 21 ｍほどの台地上に位置している。

規模と形状　長軸 5.24 ｍ，短軸 5.16 ｍの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は 33 ～ 36㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 22 ～ 38㎝，深さ４～ 10㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。中央部と西部で焼土塊や炭化材を確認した。



第６図　第 2022 号竪穴建物跡実測図

ピット　7か所。P 1～P 4は深さは56～62㎝で，規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ29㎝で，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ29㎝で，底部に柱のあたりとみられる円形の硬化範囲が認められ，P 3とP 4との中間に配置していることから支柱穴と考えられる。P 7は深さ27㎝で，位置から壁柱穴と考えられる。P 2・P 3に柱のあたりを確認した。

竈　北壁中央部に付設されている。『第264集』を参照されたい。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。『第264集』を参照されたい。

覆土　11層に分層できる。全体に焼土や炭化材が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量

焼土土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物多量，ロームブロック少量　　2　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片104点（坏23，高坏2，鉢3，甕74，小形甕2），須恵器片5点（甕），土製品4点（勾玉1，土玉2，不明1），鉄器・鉄製品3点（刀子2，釘1），鉄滓1点（49.5ｇ）が西部と南西部の覆土中層から下層にかけて出土している。3･DP 3･DP 4は覆土下層から，6～8は覆土中層から下層にかけて，5・9は覆土中層から，4・DP 2は覆土中からそれぞれ出土している。

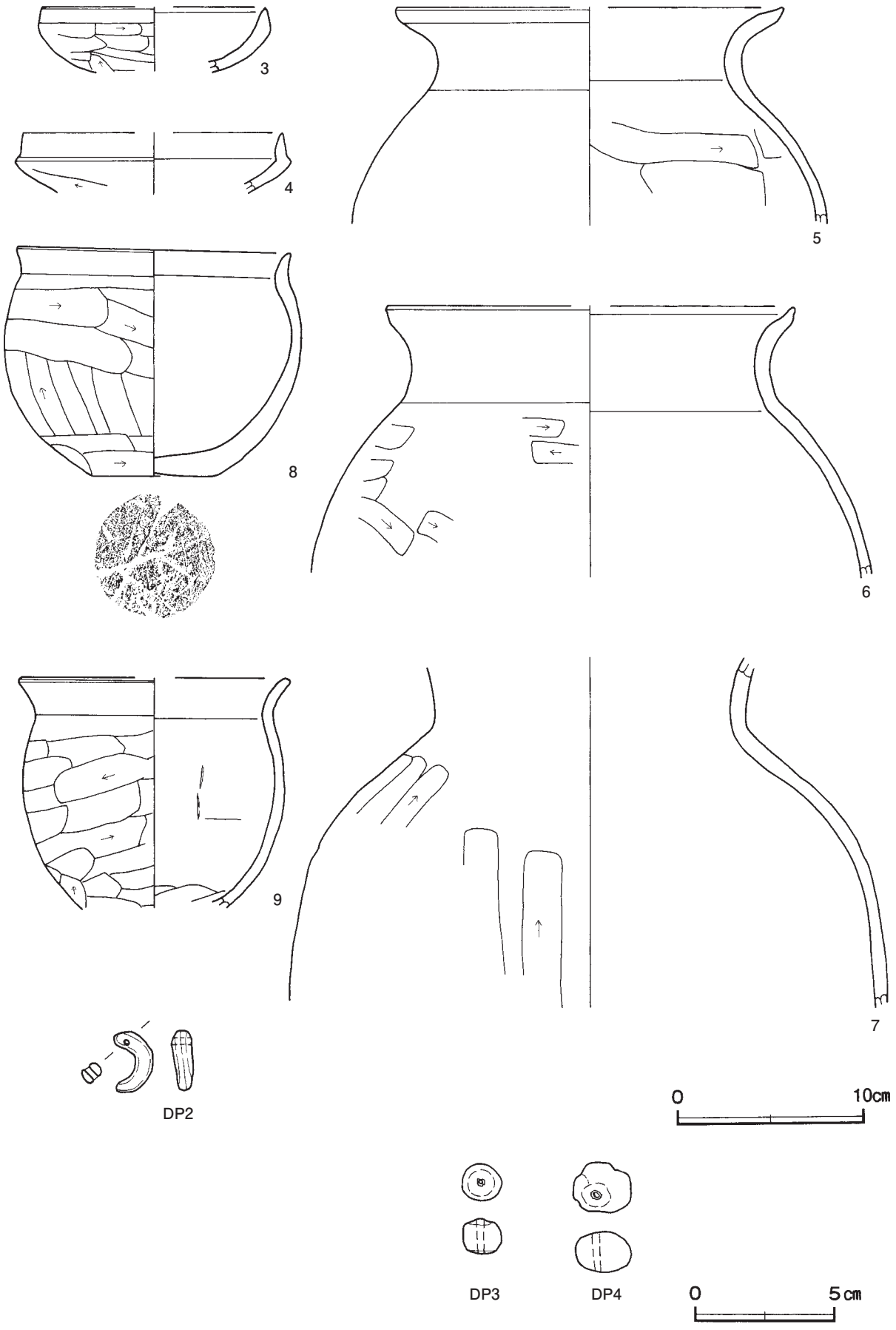
所見　北西部に焼土ブロックが広がっているが，床面は赤変硬化はしていない。焼失住居ではないと考えられる。時期は，出土土器や既調査状況から6世紀後葉に比定できる。

第2022号竪穴建物跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
3	土師器	坏	［12.0］	（3.5）	－	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%
4	土師器	坏	［14.0］	（3.3）	－	長石	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面磨滅のため調整不鮮明　内面ナデ	覆土中	10%
5	土師器	甕	［20.8］	（11.6）	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	30%
6	土師器	甕	［22.0］	（14.4）	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　内面ナデ	覆土下～中層	20%
7	土師器	甕	－	（18.8）	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下～中層	40%
8	土師器	小形甕	14.8	12.3	6.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下～中層	95% PL17
9	土師器	小形甕	［14.0］	（12.4）	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面上端ナデ　下端ヘラ削り　工具痕	覆土中層	40%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 2	勾玉	3.2	2.1	1.2	5.25	長石・石英	孔径0.3㎜　ナデ　二方向からの穿孔	覆土中	PL29

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 3	土玉	1.4	1.3	0.3	2.47	長石	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL29
DP 4	土玉	2.1	1.5	0.3	5.81	長石	ナデ　二方向からの穿孔	覆土下層	PL29



第７図　第 2022 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2028A 号竪穴建物跡（第８・９図）

調査年度　南東部の大半は平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。竈を含む北西部は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分を新しい番号に更新した。

位置　13 区西部のＤ９a9 区，標高 21 ｍほどの台地上に位置している。

重複関係　第 2061 号竪穴建物跡を掘り込み，第 303・550・552 号掘立柱建物に掘り込まれている。また，下面に第 2028B 号竪穴建物跡が構築されている。

規模と形状　長軸 5.15 ｍ，短軸 5.05 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 28 °－Ｗである。壁高は 50 ～ 55㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で中央部が踏み固められている。壁下には，幅 18 ～ 22㎝，深さ 14 ～ 18㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。壁外への掘り込みの一部は第 552 号掘立柱建物のＰ２に，右袖部と火床部の一部は第 550 号掘立柱建物のＰ４に掘り込まれているため，焚口部から煙道部までは 95㎝で，燃焼部幅は 22㎝しか確認できなかった。袖部は床面とほぼ同じ高さに粘土粒子とロームブロックを含む灰褐色土の第８～ 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を若干掘り込み，火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に 38㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第 12・13 層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1	黒　褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	7	暗赤褐色	炭化粒子多量，ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
2	灰　褐　色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐　灰　色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3	灰　褐　色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	9	灰　褐　色	焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量・ローム粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量	10	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化物・粘土粒子中量，ローム粒子微量
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化物微量	11	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子微量
6	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	12	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量
			13	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ４は深さは 55㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４の底面からは柱のあたりを確認した。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５の詳細は『第 264 集』を参照されたい。

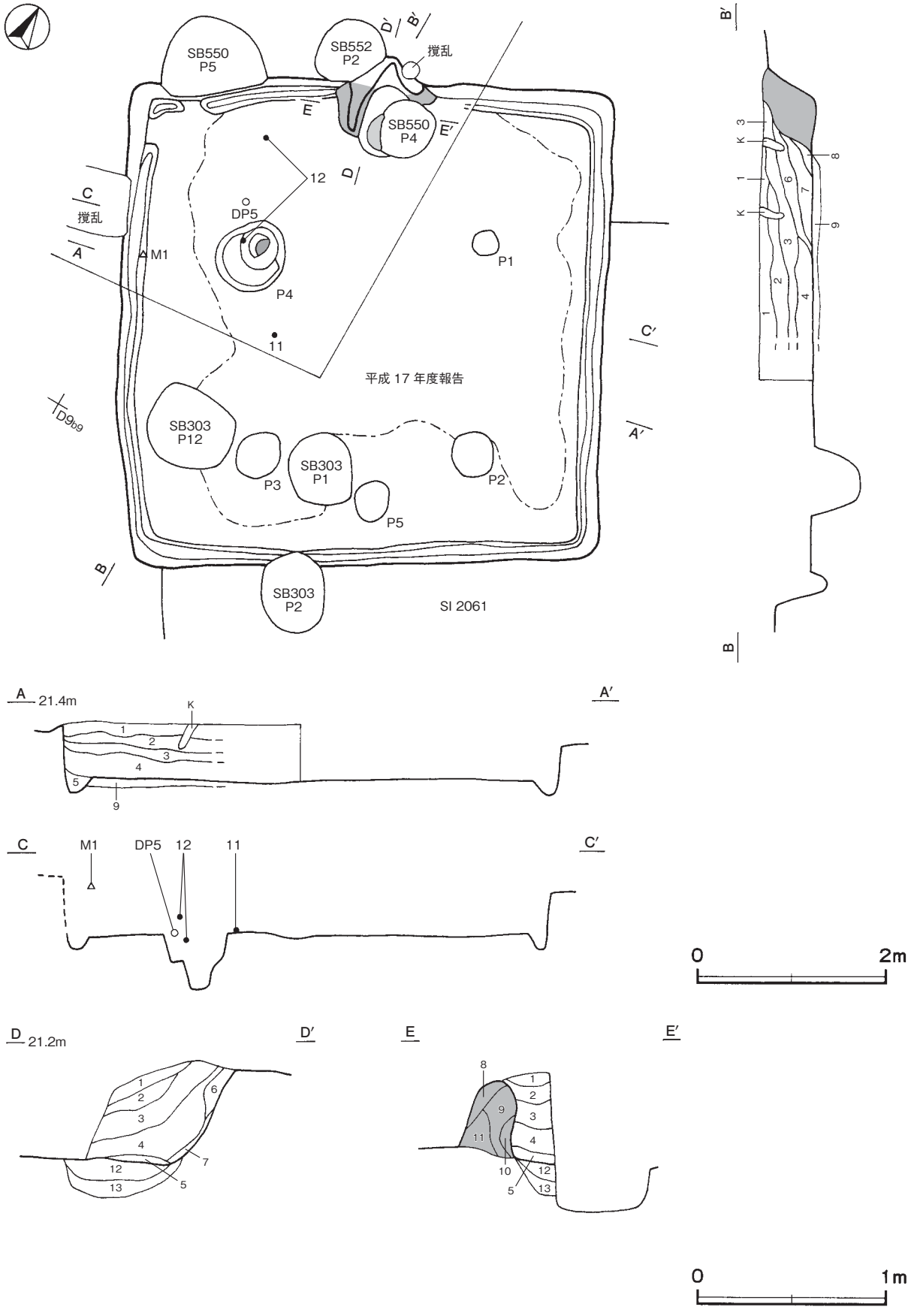
覆土　８層に分層できる。ロームブロックや焼土，炭化物を多く含むことから，埋め戻されている。９層は貼床の構築土である。

土層解説

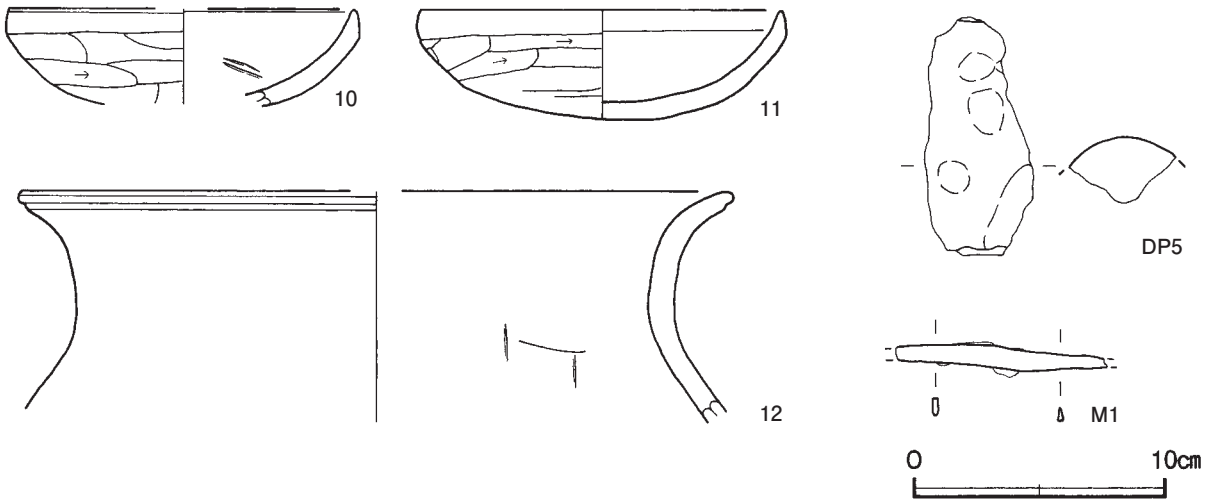
1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量			物少量
2	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量	7	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
3	褐　　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量，粘土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	褐　　色	ロームブロック多量，焼土ブロック少量	9	暗　褐　色	粘土粒子微量
5	褐　　色	ローム粒子多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量			
6	灰　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，炭化			

遺物出土状況　土師器片 679 点（坏 102，甕 577），須恵器片 16 点（坏３，甕 13），土製品３点（支脚），鉄製品１点（刀子）が出土している。11 は中央部の覆土下層から，出土している。12 は北西部の覆土中層とＰ４の覆土上層から出土した破片が接合したものである。10 は覆土中から DP ５は，北西部の覆土下層から出土している。Ｍ１は西部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器と既調査状況から６世紀後葉に比定できる。本跡の床下から，やや規模の小さい第 2028B 号竪穴建物跡を確認したことから，本跡は，第 2028B 号竪穴建物跡を拡張した建物と考えられる。



第８図　第 2028A 号竪穴建物跡実測図



第９図　第 2028A 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2028A 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
10	土師器	坏	［13.8］	(3.8)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　工具痕	覆土中	20%
11	土師器	坏	14.4	4.3	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	80% PL17
12	土師器	甕	［28.2］	(9.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中層・P4 覆土上層	５%

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 5	支脚	－	(4.4)	(9.5)	(68.8)	長石・石英・赤色粒子	基部欠損　ナデ　指頭圧痕	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 1	刀子	(8.5)	1.1	0.4	(7.62)	鉄	切先・茎欠損	覆土上層	

第 2028B 号竪穴建物跡（第 10 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部の D ９a9 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 550･552 号掘立柱建物に掘り込まれている。また，上面に第 2028A 号竪穴建物が構築されている。

確認状況　第 2028A 号竪穴建物の床面下から検出された。第 2028A 号竪穴建物の南東部は平成 15 年度調査をおこなっているが，第 2028B 号竪穴建物跡は未確認である。

規模と形状　南北軸 1.58 ｍ，東西軸 2.25 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測でき，主軸方向はＮ－ 28 ゜－Ｗである。

床　ほぼ平坦で竈前が踏み固められている。

竈　第 2028A 号竪穴建物が上面に構築しているため，北部に左袖部，火床面，焚口部の痕跡のみを確認した。また，右袖部は未確認であるため，焚口部から煙道部まで 108㎝，燃焼部幅は 68㎝しか確認できなかった。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火を受けて赤変硬化している。２層は竈の掘り方である。

竈土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量

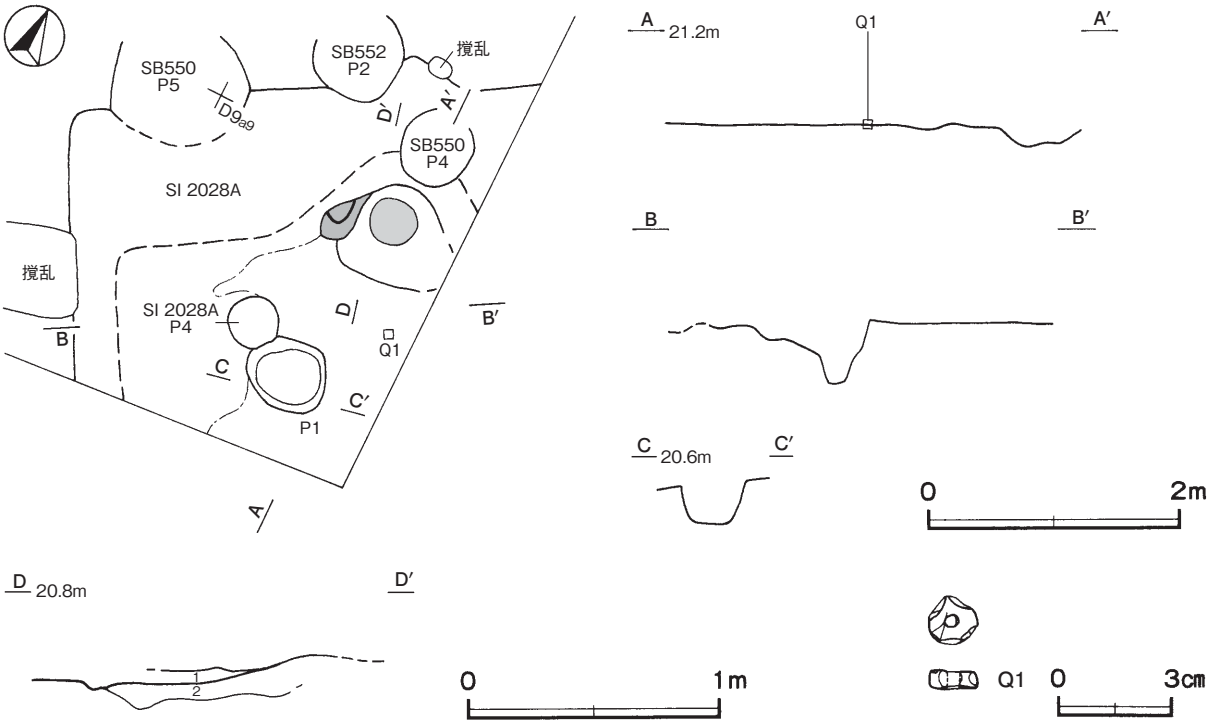
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量

ピット　深さ 32㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　拡張の際に，第 2028A 号竪穴建物の貼床として構築されている。

遺物出土状況　石製品１点（臼玉）が出土している。Ｑ１は中央部の床面から出土している。

所見　南東部は，平成 15 年度の調査では検出されていない。時期を特定できる遺物は出土していないが，第 2028A 号竪穴建物より古いことから６世紀中～後葉に比定できる。



第 10 図　第 2028B 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 2028B 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 10 図）

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｑ１	臼玉	1.3	0.5	0.3	(1.17)	滑石。	両面平滑　研磨調整　二方向からの穿孔　一部欠損	床面	PL30

第 2145 号竪穴建物跡（第 11 図）

調査年度　北半部・南西部は平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。南東部は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分を更新した。

位置　13 区北東部の B13b9 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　北部を第 120 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 6.0 ｍほどの方形と推定でき，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は 20 ～ 40㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 24 ～ 41㎝，深さ８～ 12㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。『第 264 集』を参照されたい。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 42 ～ 70㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 30㎝で南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は底部に２か所のあたりが確認できたことから，柱を立て替えた可能性が考えられる。Ｐ６は深さ 24㎝でＰ１とＰ２の中間に，Ｐ７は深さ

30㎝でＰ３とＰ４の中間に位置していることから補助柱穴と考えられる。

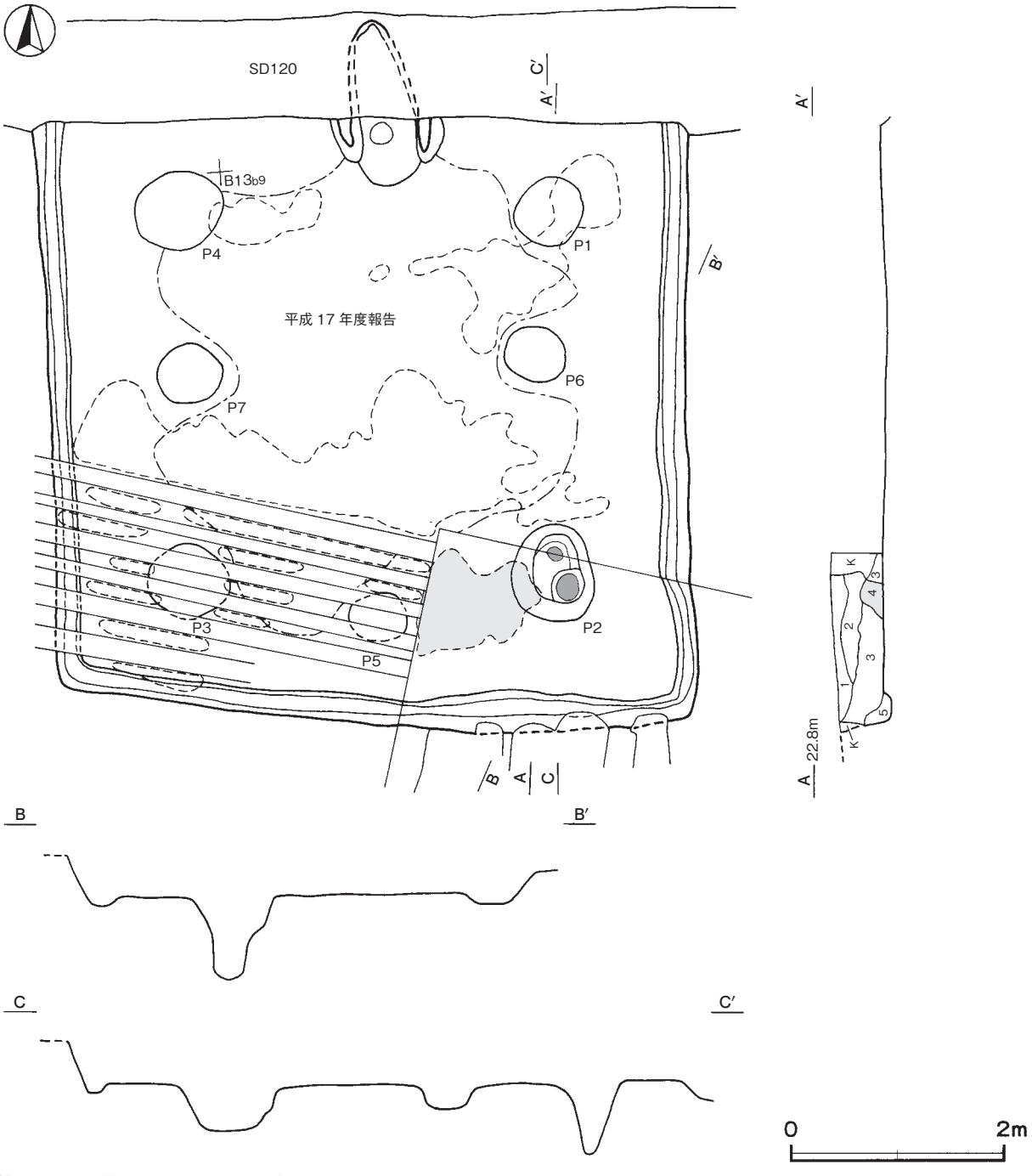
覆土　５層に分層できる。不規則な堆積状況から，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 35 点（坏２，甕 33），須恵器片３点（甕），石器２点（砥石）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器や既調査から７世紀前葉と考えられる。床面に焼土塊が広がっていることから，廃絶に伴って焼却している。



第 11 図　第 2145 号竪穴建物跡実測図

第 2245 号竪穴建物跡（第 12・13 図）

調査年度　東部は平成 15 年度に調査し,『第 264 集』にて報告している。西部の大半は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分も新しい番号に再録した。

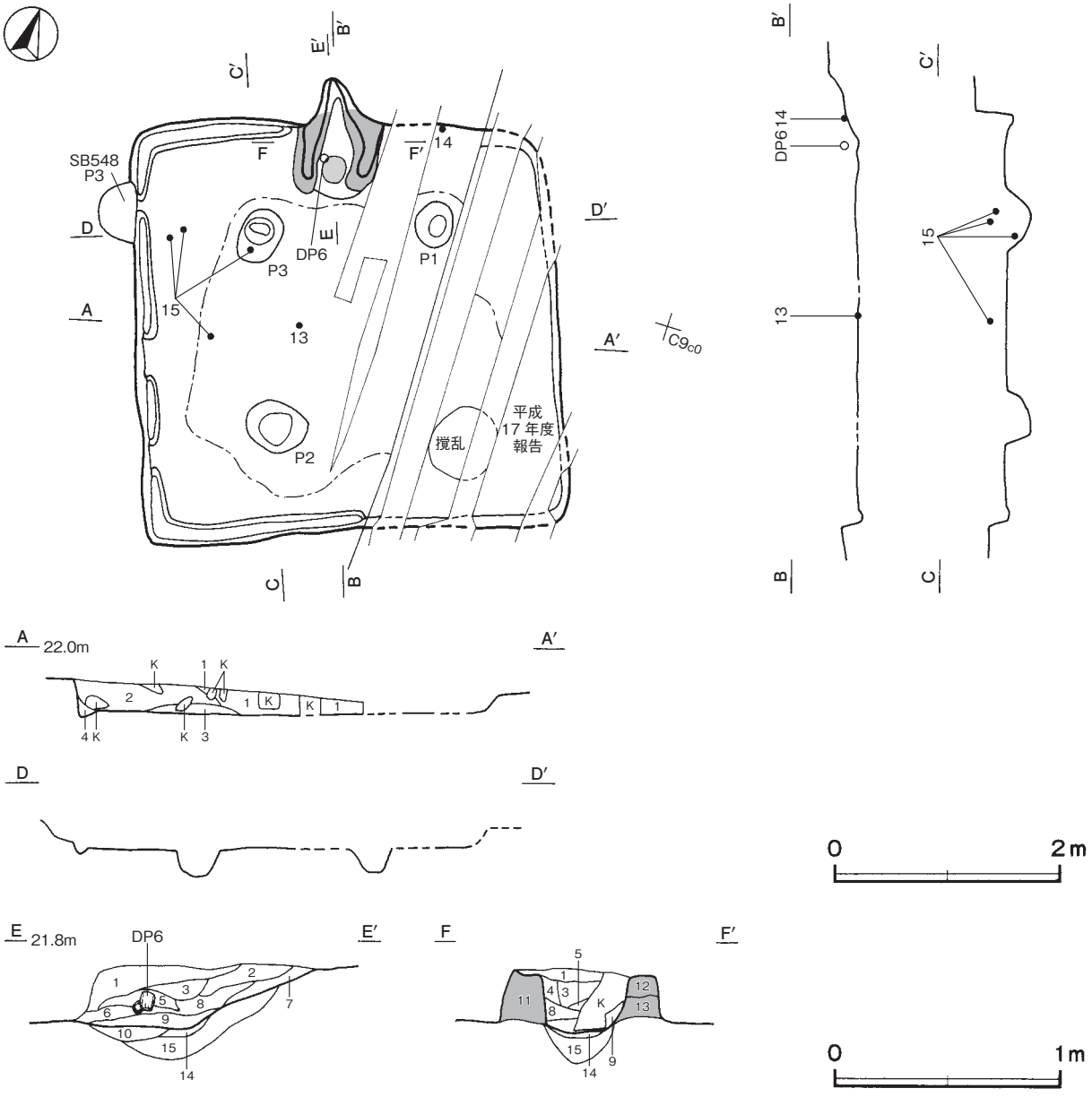
位置　13 区西部の C 9c9 区，標高 21 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 548 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 3.80 mほどの方形で，主軸方向はN − 19 ° −Wである。壁高は 16 ～ 28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。壁下には，幅 16 ～ 22cm，深さ 4 ～ 6 cmで，U 字形の壁溝が，北東部を除いて巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 107cmで，燃焼部幅は 30cmである。袖部は床面と同じ高さで，砂質粘土を主体とした第 11 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 12cm



第 12 図　第 2245 号竪穴建物跡実測図

ほど掘り込み，第 10 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 42cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第 14・15 層は埋土である。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子少量
2　灰 黄 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
4　褐　灰　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，粘土粒子少量
6　褐　　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量，粘土粒子微量
7　灰 黄 褐 色　粘土粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
9　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子微量
11　黄 灰 褐 色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量
12　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
13　褐　　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
14　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量，粘土粒子少量，炭化物微量
15　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子・炭化物少量

ピット　3 か所。P 1 ～ P 3 は深さ 20 ～ 23cmで，配置から主柱穴である。

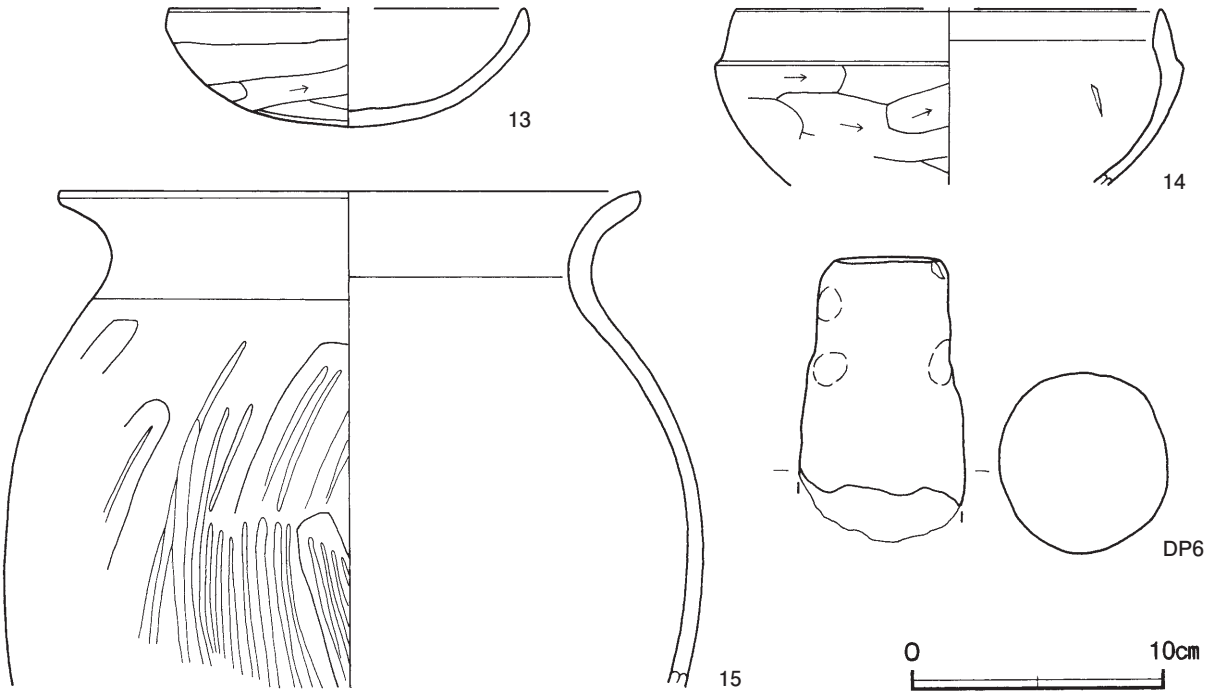
覆土　4 層に分層できる。ロームブロックが全体に含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 72 点（坏 12，甕 60），須恵器片 1 点（坏），土製品 1 点（支脚）が出土している。13 は中央部の床面から出土している。14 は北壁部の覆土中層から出土したものである。15 は西部の覆土中層と P 3 の覆土上層から出土した破片が接合したものである。DP 6 は竈の覆土中層から出土したものである。

所見　時期は，出土土器と『第 264 集』から 7 世紀前葉に比定できる。東部の詳細については，『第 264 集』を参照されたい。



第 13 図　第 2245 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2245 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 13 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備　考
13	土師器	坏	[14.2]	4.7	－	石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	床面	70%　PL17
14	土師器	坏	[17.0]	(7.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　工具痕	覆土中層	20%
15	土師器	甕	23.2	(19.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ　内面ナデ	覆土中層・P3 覆土上層	20%

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 6	支脚	4.2	(6.7)	(11.3)	(445.2)	長石・石英・赤色粒子	基部欠損　ナデ　指頭圧痕	竈内覆土中層	

第 2247 号竪穴建物跡（第 14・15 図）

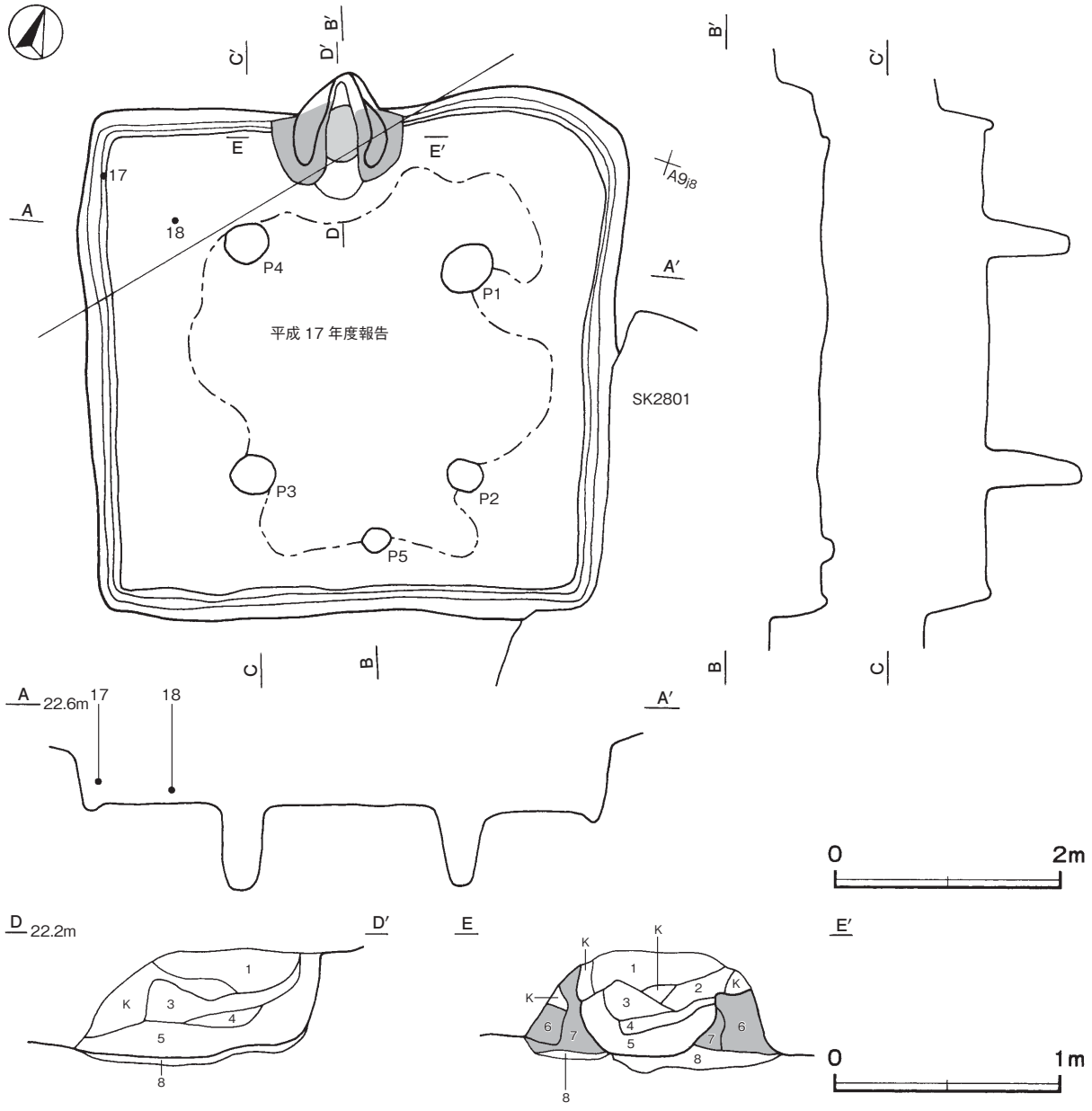
調査年度　竈より南東部の大半を平成 15 年度に調査し『第 264 集』にて報告している。竈を含む北西部は平成 21 年度に調査した。

位置　13 区北西部の A 9j7 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2801 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 4.70 mほどの方形で，主軸方向はN－23°－Wである。壁高は 48 ～ 53cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 18 ～ 28cm，深さ５～７cmで，U 字形の壁溝が巡っている。



第 14 図　第 2247 号竪穴建物跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 113cmで，燃焼部幅は 27cmである。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土を主体とした第６・７層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 34cm掘り込まれ，奥壁で直立している。第４層は天井部の崩落土で，第８層は燃焼部掘方への埋土である。

竈土層解説

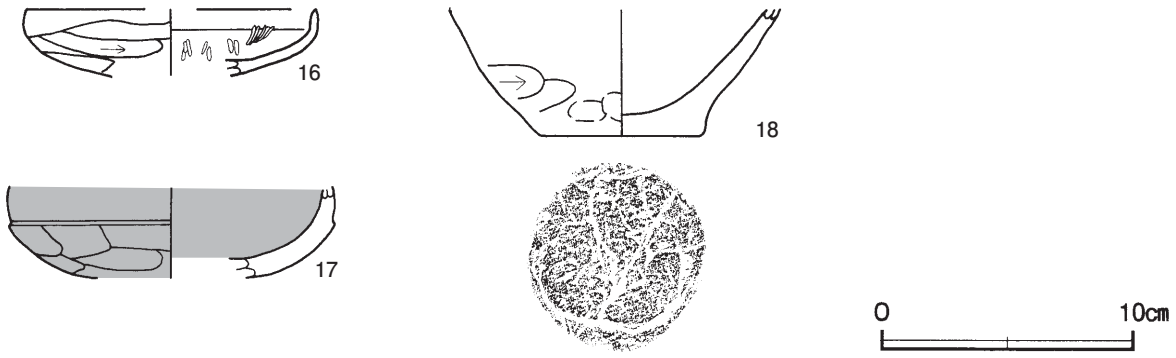
1　暗　褐　色　粘土粒子少量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　粘土ブロック中量
4　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物・粘土粒子少量
6　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
8　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量

ピット　５か所。『第 264 集』を参照されたい。

覆土　『第 264 集』を参照されたい。

遺物出土状況　土師器片 101 点(坏 49, 甕 52), 須恵器片 1 点(甕)が, 北半部や中央部, 南西部から出土している。18 は北西部の覆土下層から，17 は北西部壁際の覆土中層から出土している。16 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第 15 図　第 2247 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2247 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 15 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
16	土師器	坏	[11.6]	(2.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ後，ミガキ	覆土中	40%
17	土師器	坏	－	(3.6)	－	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土中層	40%
18	土師器	甕	－	(5.0)	6.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部横位のヘラ削り　指頭痕　内面ナデ	覆土下層	5%

第 3035 号竪穴建物跡（第 16・17 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ９b6 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺 5.10 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 13 ゜－Ｗである。壁高は 23 ～ 35cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 14 ～ 16cm，深さ６～ 10cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

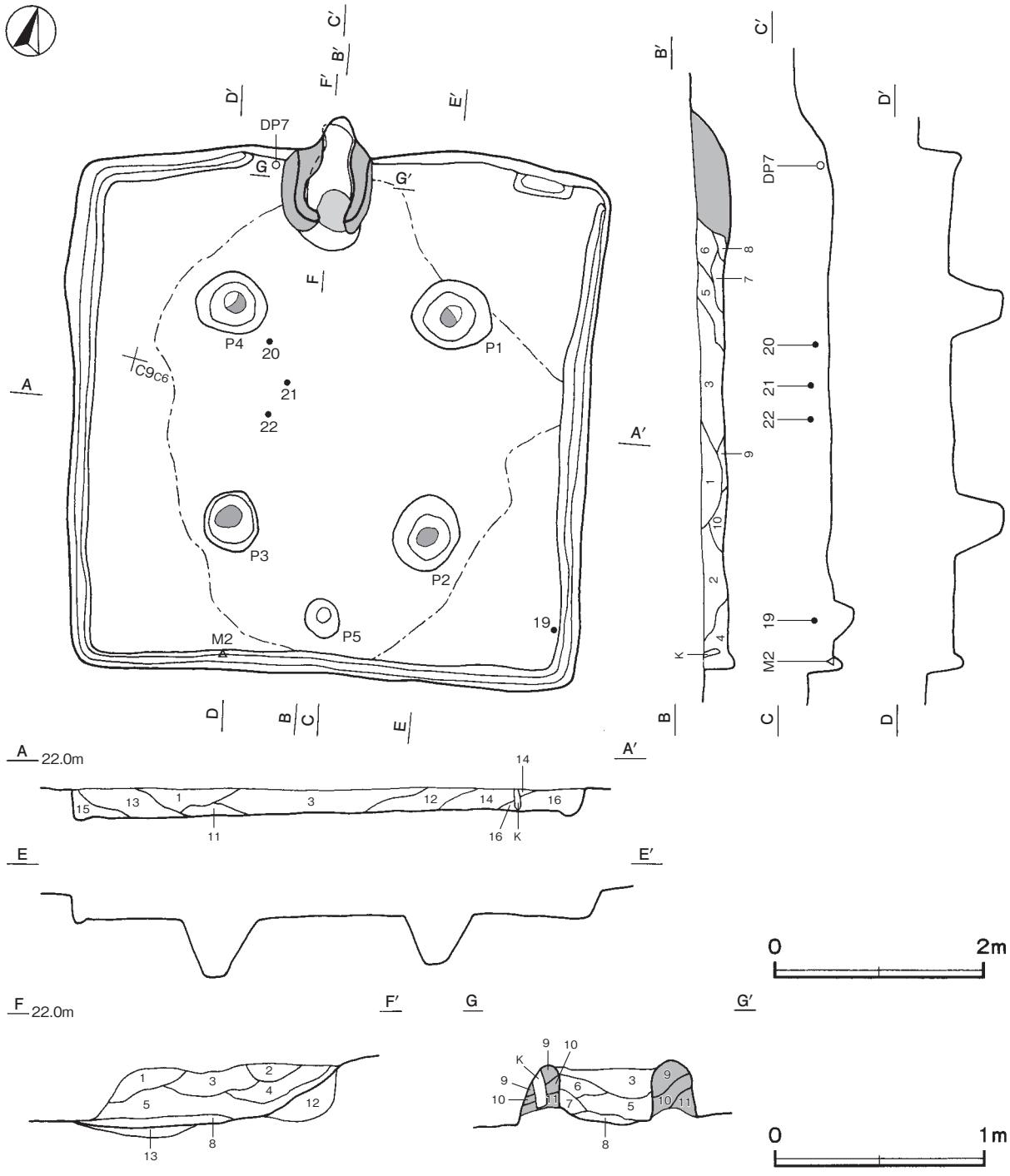
竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 129cmで，燃焼部幅は 29cmである。袖部は地山を削り出して基部とし，砂質粘土を主体とした第９～ 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 36cm掘り込まれ，

火床部から外傾して立ち上がっている。第 12・13 層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1　灰 黄 褐 色　粘土粒子多量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　粘土粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，粘土粒子微量
5　褐　　色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量
6　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量
7　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量
8　赤　褐　色　焼土ブロック多量
9　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量
10　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土粒子中量
11　黄　灰　色　粘土粒子中量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック中量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 50 ～ 57㎝で，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 23㎝で，南壁際中央部に位置し，硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１～Ｐ４の底面からは柱のあたり



第 16 図　第 3035 号竪穴建物跡実測図

を確認した。

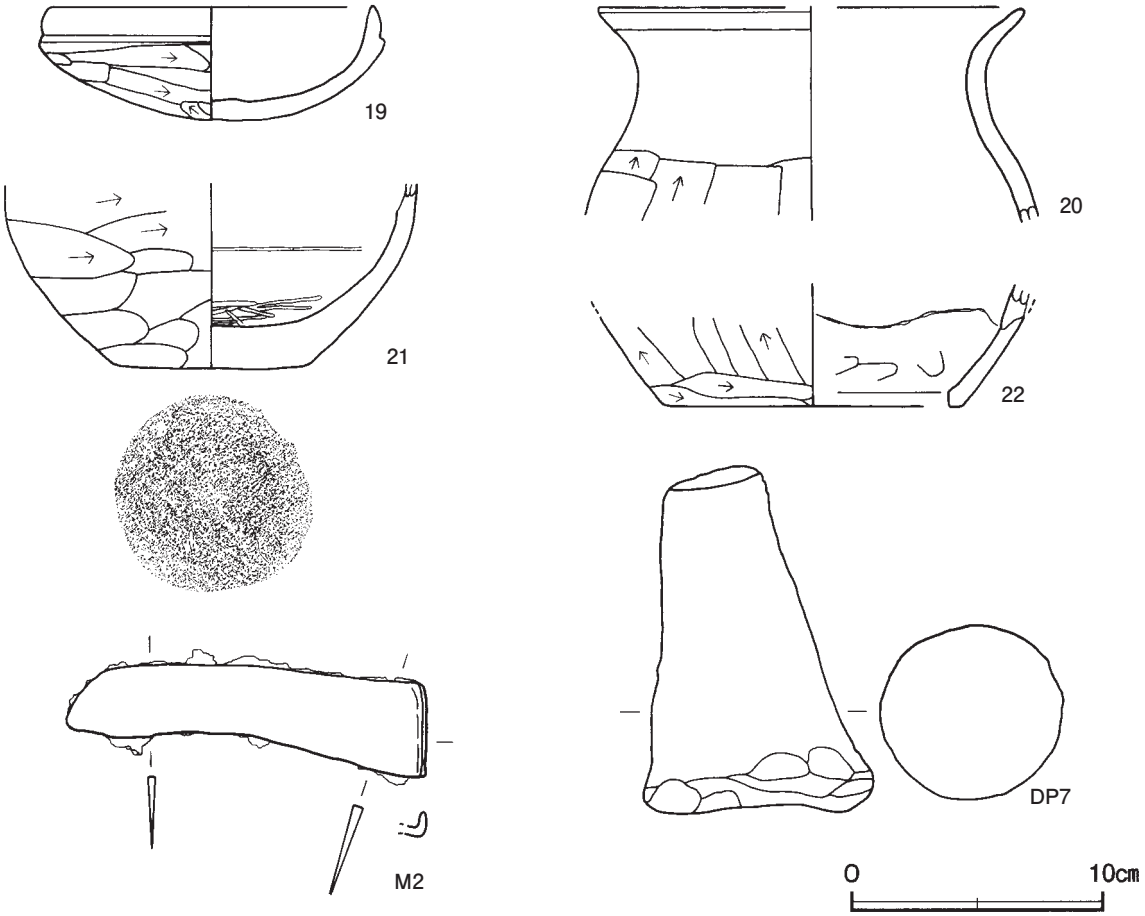
覆土　16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量（粘性強し）
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量
13　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
14　黒　褐　色　ロームブロック少量
15　褐　　色　ロームブロック多量
16　褐　　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片241点（坏37，甕203，甑1），須恵器片1点（坏），土製品1点（支脚），鉄器1点（鎌）が出土している。20は中央部の覆土下層から，19は南東壁際の覆土中層から，21･22は中央部の覆土中層から，DP 7は竈の左袖付近の覆土下層から横位で，M 2は南壁付近の壁溝上層から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第17図　第3035号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3035号竪穴建物跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
19	土師器	坏	12.8	4.5	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中層	95%　PL17
20	土師器	甕	[16.8]	(8.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	土師器	甕	－	(7.3)	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端外面横位のヘラ削り　内面ナデ後磨き	覆土中層	30%
22	土師器	甑	－	(4.9)	[12.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端ヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	覆土中層	30%

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 7	支脚	4.1	9.2	13.7	612.6	長石・石英	ナデ	覆土下層	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	鎌	14.5	4.3	0.3	62.3	鉄	刃部断面三角形　基部折り返し	壁溝上層	PL30

第 3040 号竪穴建物跡（第 18 ～ 23 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ 9c5 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　一辺 4.90 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 10 °－Ｗである。壁高は 32 ～ 53cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 13 ～ 32cm，深さ４～６cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 154cmで，燃焼部幅 39cmである。袖部は地山と同じ高さに砂質粘土とロームブロックを含む暗褐色土の第 11 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を６cmほど掘り込み，第 10 層を埋土して構築されている。火床面の赤変は淡く，硬化は弱い。煙道部は壁外に 66cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第 14 層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　粘土粒子少量
7　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　焼土粒子微量
10　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量
11　暗　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
12　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子微量
13　暗　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 50 ～ 57cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 27cm・26cmで，南壁際中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の底面からは柱のあたりを確認した。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径 64cm，短径 62cmの円形で，深さは 30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

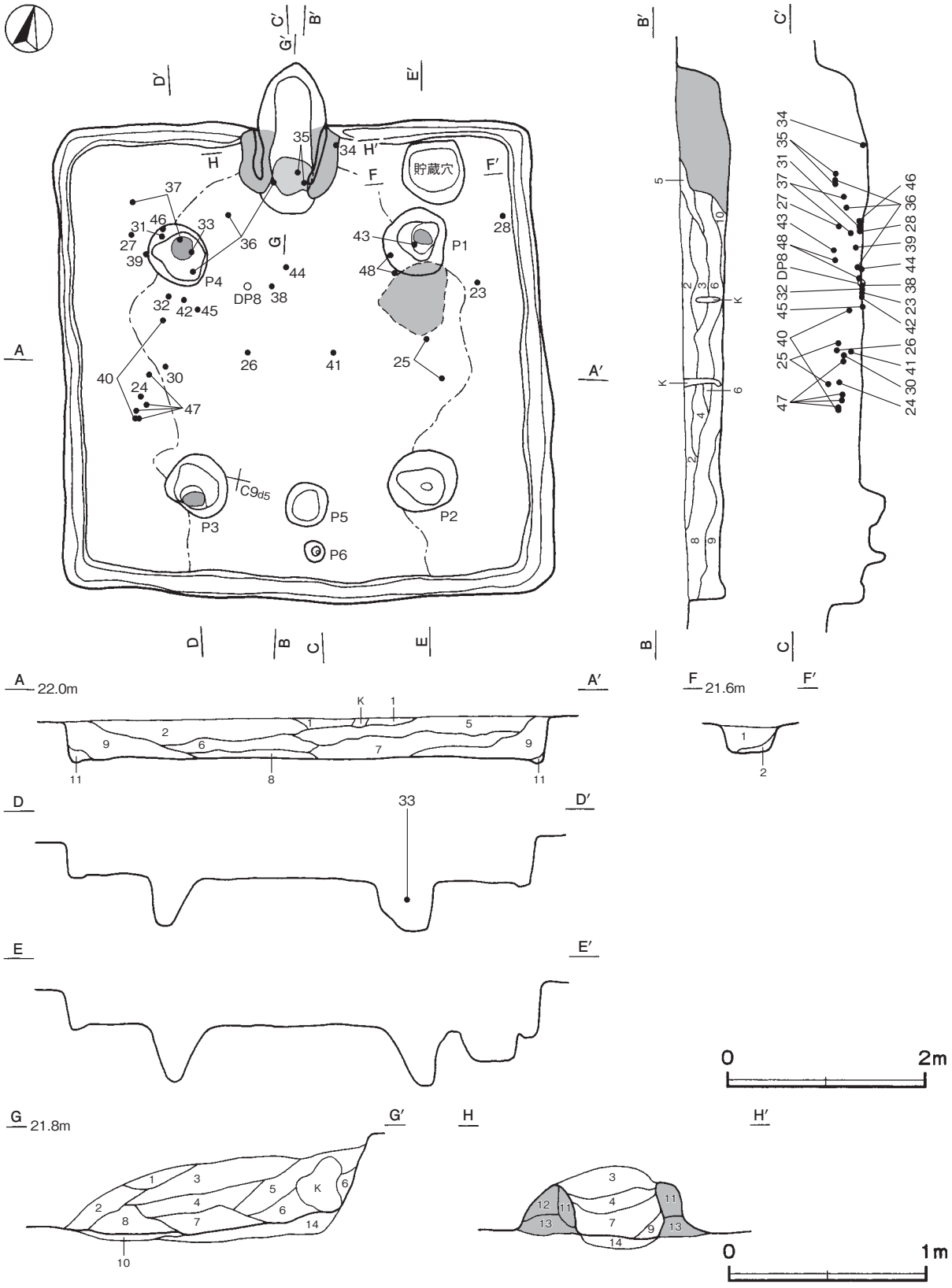
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ローム粒子多量

覆土　11 層に分層できる。ロームブロックが全体に含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック多量
9　暗　褐　色　ローム粒子多量
10　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック多量

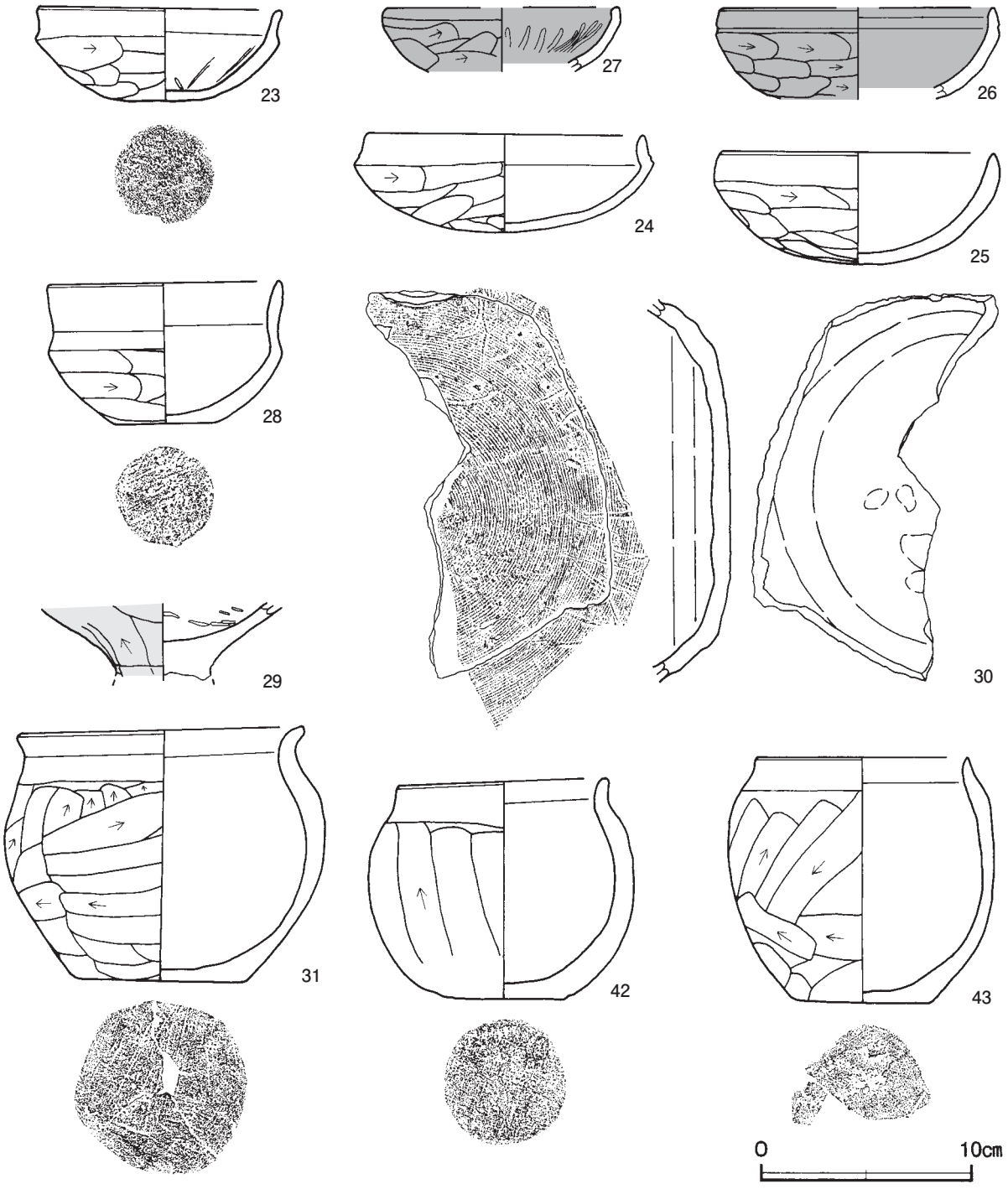
遺物出土状況　土師器片 722 点（坏 61，椀形坏１，高坏１，甕 652，小形甕２，甑６），須恵器片５点（坏１，提瓶１，甕３），土製品２点（支脚，紡錘車）が，北部や西部の覆土中層から床面にかけて出土している。 23 は北東部の床面から正位の状態で出土している。32・42 は北西部の床面から横位で，38・44 は中央部の床面



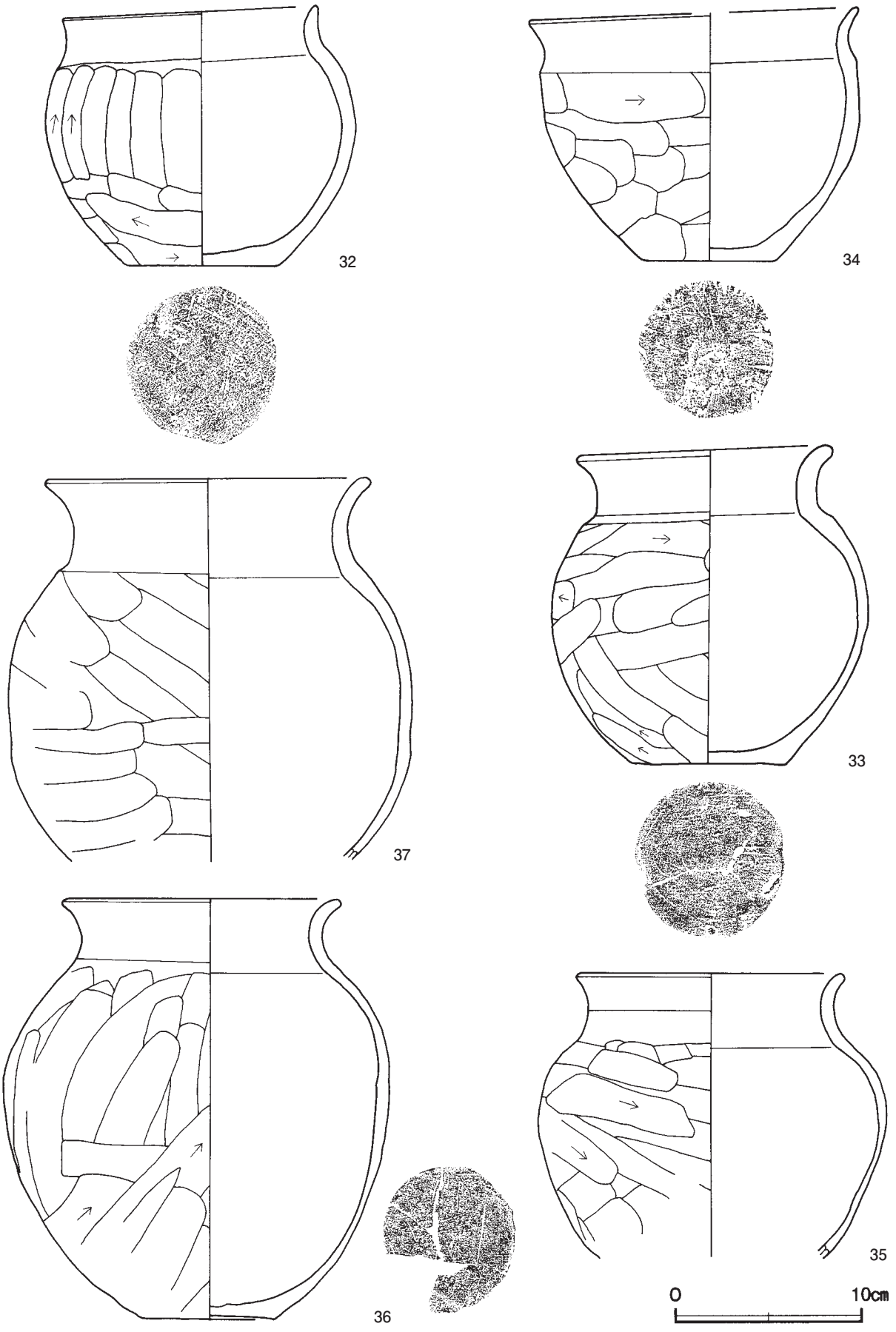
第 18 図　第 3040 号竪穴建物跡実測図

から逆位で，45 は北西部，DP 8 は中央部の床面から，35 は竈内から倒位で，それぞれ出土している。33 は P 4 の覆土上層から，34 は竈右袖付近，28 は北東部，41 は中央部，31・39・46 は北西部の覆土下層から出土している。また横位で出土した 46 の中からは 31 が入り子の状態で出土している。40 は西部，48 は北東部，36･37 は北西部の覆土中層から下層にかけて出土している。25 は東部，43 は北東部，26 は中央部，27 は北西部，24・30 は横位で南西部の覆土中層から出土している。47 は南西部の覆土中層から，29・49 は覆土中から出土している。

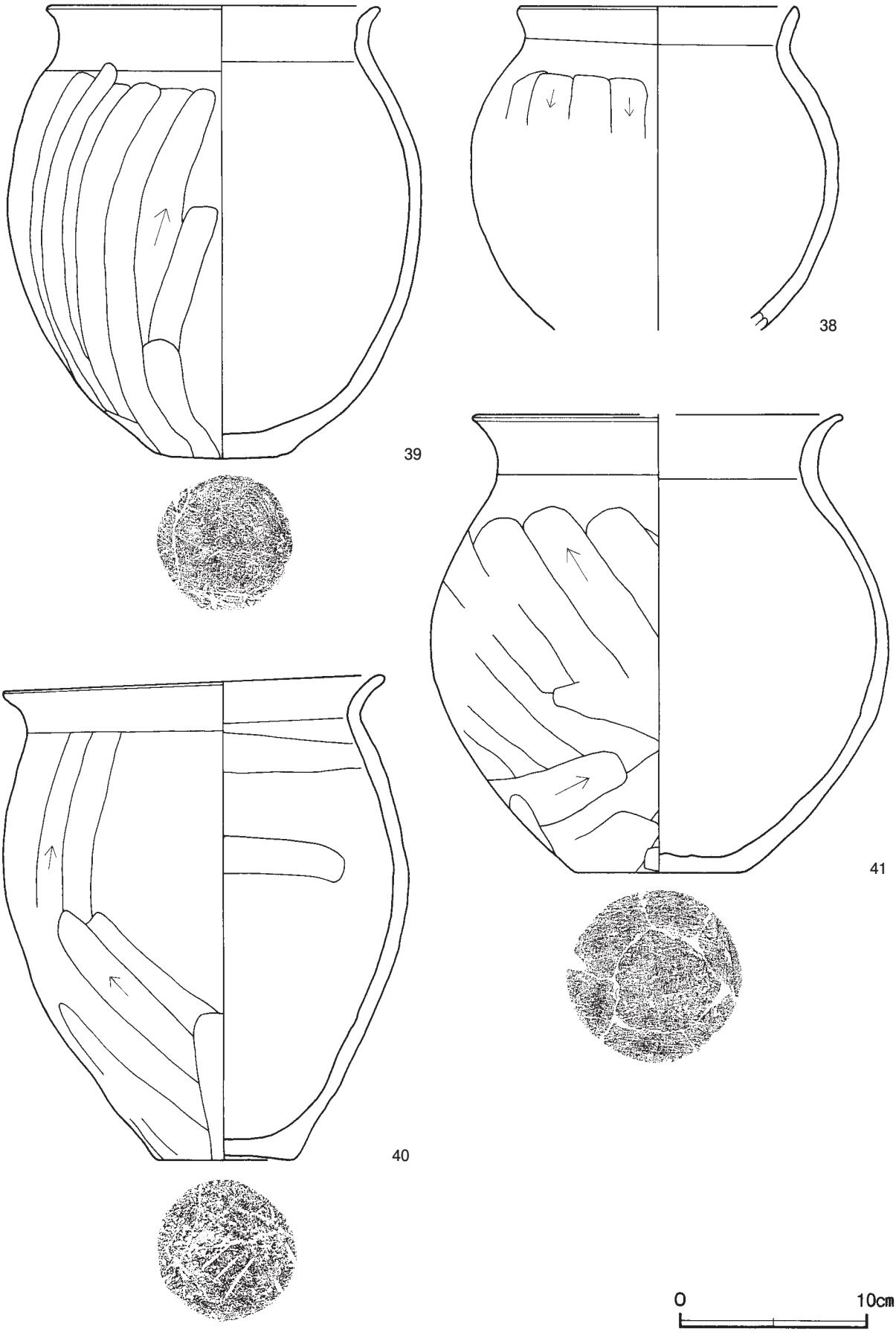
所見　床面や覆土下層から，完形や残存度の高い土器が多く出土していることから，本跡の廃絶に遺棄された時，あまり時間を置かずに廃棄されたものとみられる。時期は出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



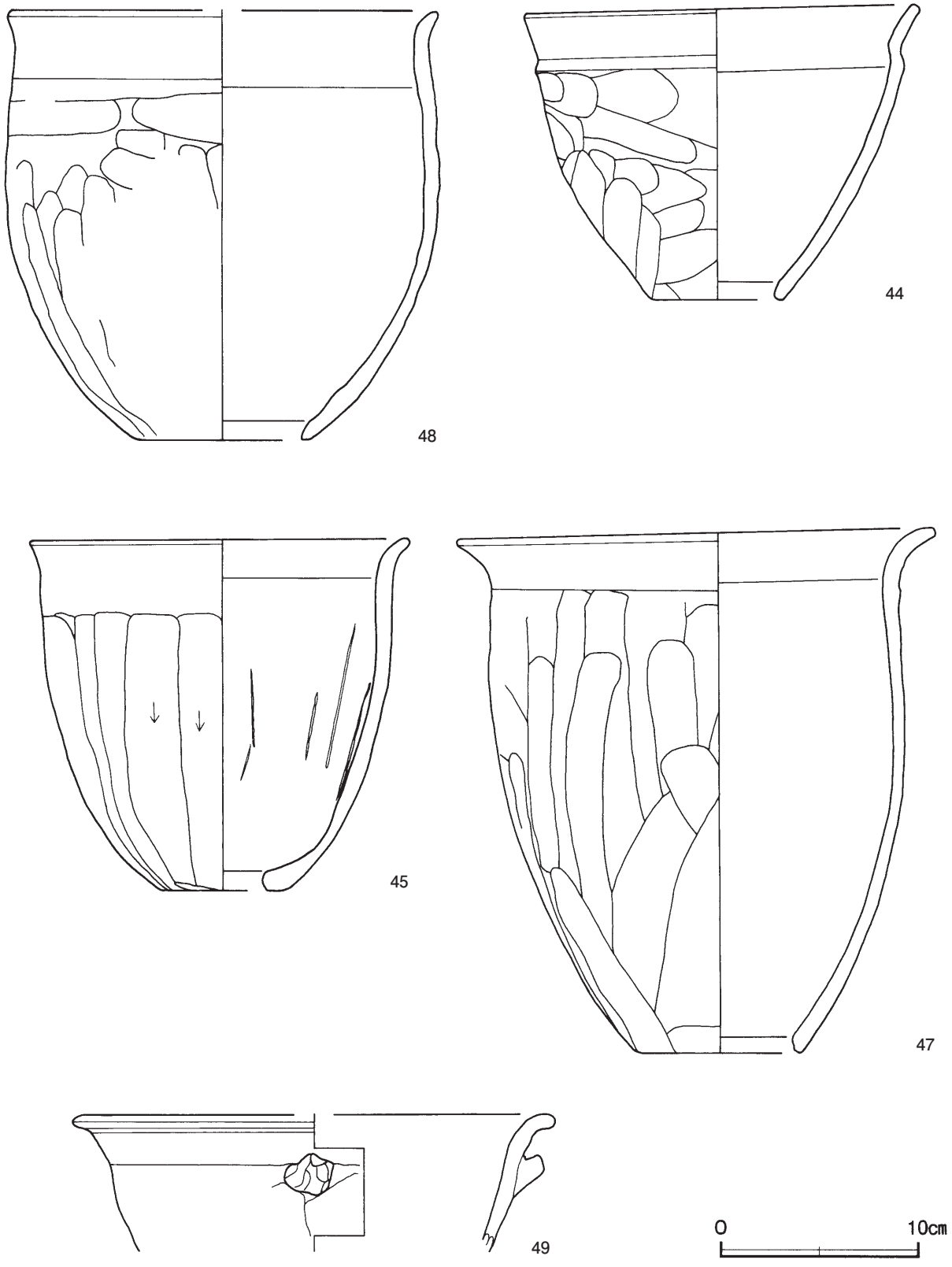
第 19 図　第 3040 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



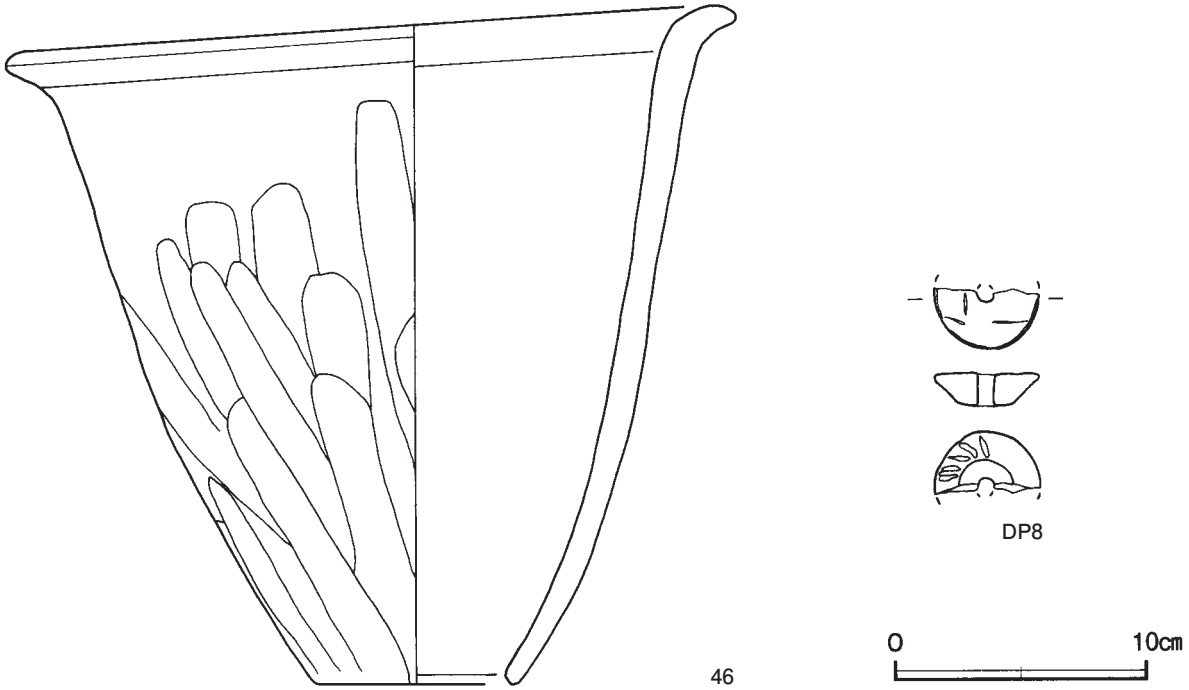
第 20 図　第 3040 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）



第 21 図　第 3040 号竪穴建物跡出土遺物実測図（3）



第 22 図　第 3040 号竪穴建物跡出土遺物実測図（4）



第 23 図　第 3040 号竪穴建物跡出土遺物実測図（５）

第 3040 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 19 ～ 23 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　　考
23	土師器	坏	11.5	4.5	4.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラケズリ後ナデ　内面ナデ　工具痕	床面	100%　PL17
24	土師器	坏	13.2	4.6	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	100%　PL17
25	土師器	坏	12.8	5.3	－	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	95%　PL17
26	土師器	坏	［12.9］	（4.3）	－	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	30%
27	土師器	坏	［11.0］	（3.0）	－	長石	にぶい橙	普通	口縁部外・内横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ後ヘラガキ	覆土中層	20%
28	土師器	椀形坏	10.9	6.6	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土下層	95%　PL17
29	土師器	高坏	－	（3.7）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下端縦位のヘラ削り後，横位のヘラ削り内面ヘラナデ後ミガキ	覆土中	10%
30	須恵器	提瓶	－	（18.3）	－	長石	黄灰	普通	体部外面櫛目の回転カキ目　内面ナデ　指頭痕	覆土中層	10%
31	土師器	甕	13.2	12.2	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	100%　PL17
32	土師器	甕	13.5	13.9	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後，横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	100%　PL18
33	土師器	甕	13.1	17.1	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	Ｐ４覆土上層	100%　PL18
34	土師器	甕	［17.4］	13.6	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦横位の交互のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	60%　PL18
35	土師器	甕	14.2	（15.2）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ削り後ナデ　内面ナデ	竈内	50%
36	土師器	甕	14.4	22.5	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土下～中層	80%　PL18
37	土師器	甕	17.0	（20.3）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り後横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下～中層	50%
38	土師器	甕	14.8	（17.2）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後ナデ　内面ナデ	床面	40%
39	土師器	甕	17.4	24.1	7.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ内面ナデ	覆土下層	90%　PL18
40	土師器	甕	20.2	25.9	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ内面ナデ	覆土中層	90%　PL18
41	土師器	甕	［19.4］	24.5	9.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後，横位のナデ　内面ナデ	覆土下層	70%
42	土師器	小形甕	9.8	10.5	5.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	床面	100%　PL17
43	土師器	小形甕	10.1	11.6	6.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	80%
44	土師器	甑	19.8	14.9	6.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後，縦位のヘラ削り　内面ナデ	床面	100%　PL18
45	土師器	甑	19.0	17.7	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面のヘラ削り内面ナデ　工具痕	床面	100%　PL19
46	土師器	甑	27.7	27.0	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL19

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
47	土師器	甑	24.0	26.4	8.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	60%　PL19
48	土師器	甑	[21.4]	21.6	[8.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土下～中層	20%
49	土師器	甑	[23.4]	(6.9)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	5％

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 8	紡錘車	4.2	1.3	0.7	(12.7)	長石	上面ヘラ工具痕　下・側面ヘラミガキ	床面	PL29

第 3042 号竪穴建物跡（第 24 ～ 27 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ 9g4 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3051 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　西半部が調査区域外に延びているため，南北軸 7.04 ｍで，東西軸は 5.28 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 17゜－Ｗである。壁高は 48 ～ 52cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際まで踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 40 ～ 52cm掘り込み，ロームブロック主体の第 10 層を埋土し，厚さ２～５cmに踏み固めて構築されている。壁下には，幅 14 ～ 32cm，深さ４～８cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　柱穴との位置関係から北壁中央部と考えられる。西半部が調査区域外に延びているため，焚口部から煙道部まで 134cmで，燃焼部幅 37cmしか確認できなかった。袖部は地山をわずかに掘り残して，砂質粘土を主体とした第７～９層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第 10・11 層は掘方への埋土である。

竈土層解説

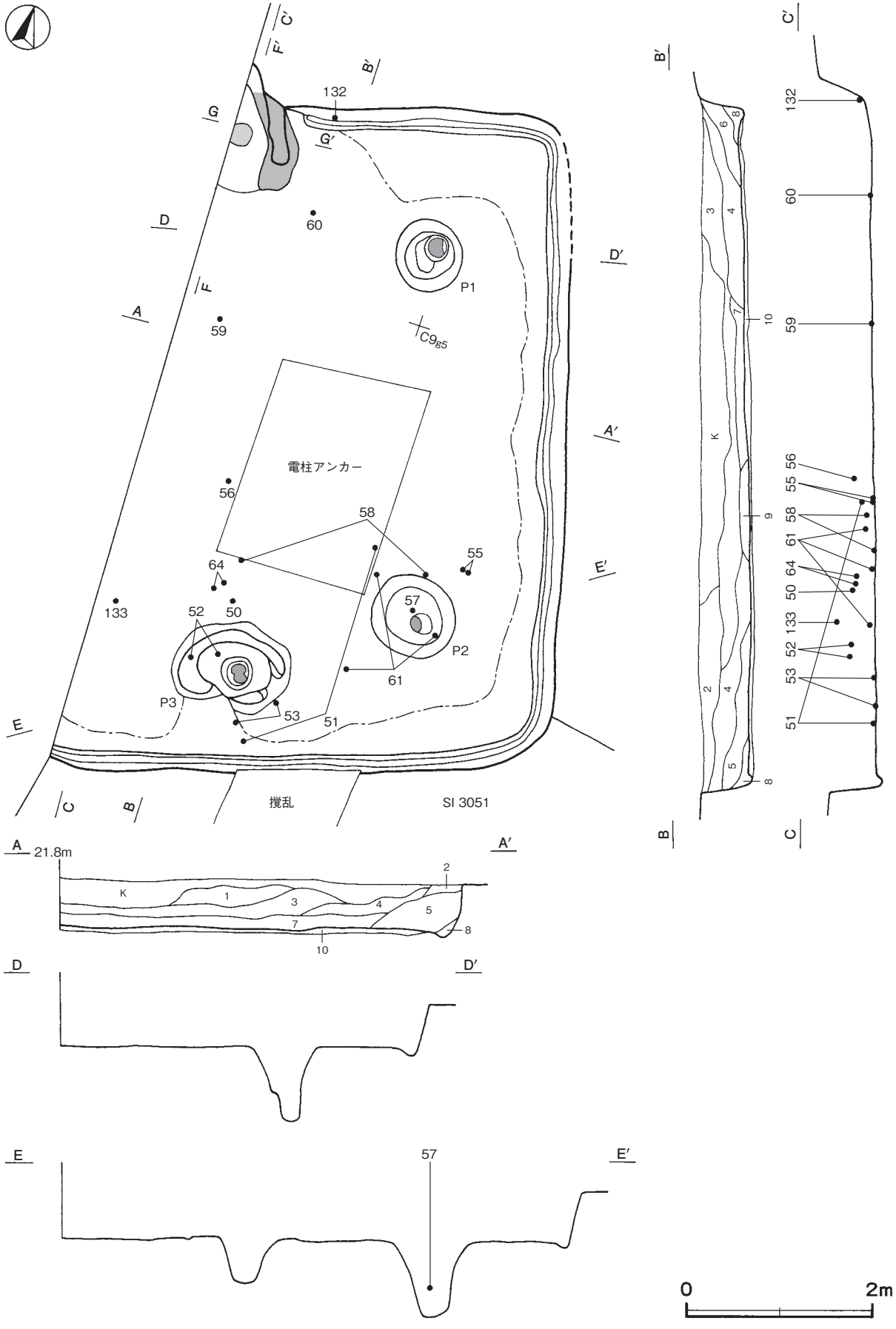
1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　灰　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　灰　褐　色　粘土粒子多量，粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化物中量
7　灰　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
9　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子少量
10　灰　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物中量，ロームブロック微量
11　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量

ピット　５か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 77cm・78cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ 48cmで，南壁際中央部に位置し，硬化面の広がりから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，南壁中央部ではＰ３を囲むように幅 20 ～ 30cm，高さ２～５cmで円形の土手状高まりを確認した。貼床の直下でＰ４・Ｐ５を確認した。Ｐ４は深さ 18cmで，南壁中央部に位置することから，Ｐ３以前の出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５は深さ 30cmで，Ｐ４と対峙しているが性格不明である。Ｐ１～Ｐ３の底面に柱のあたりを確認した。

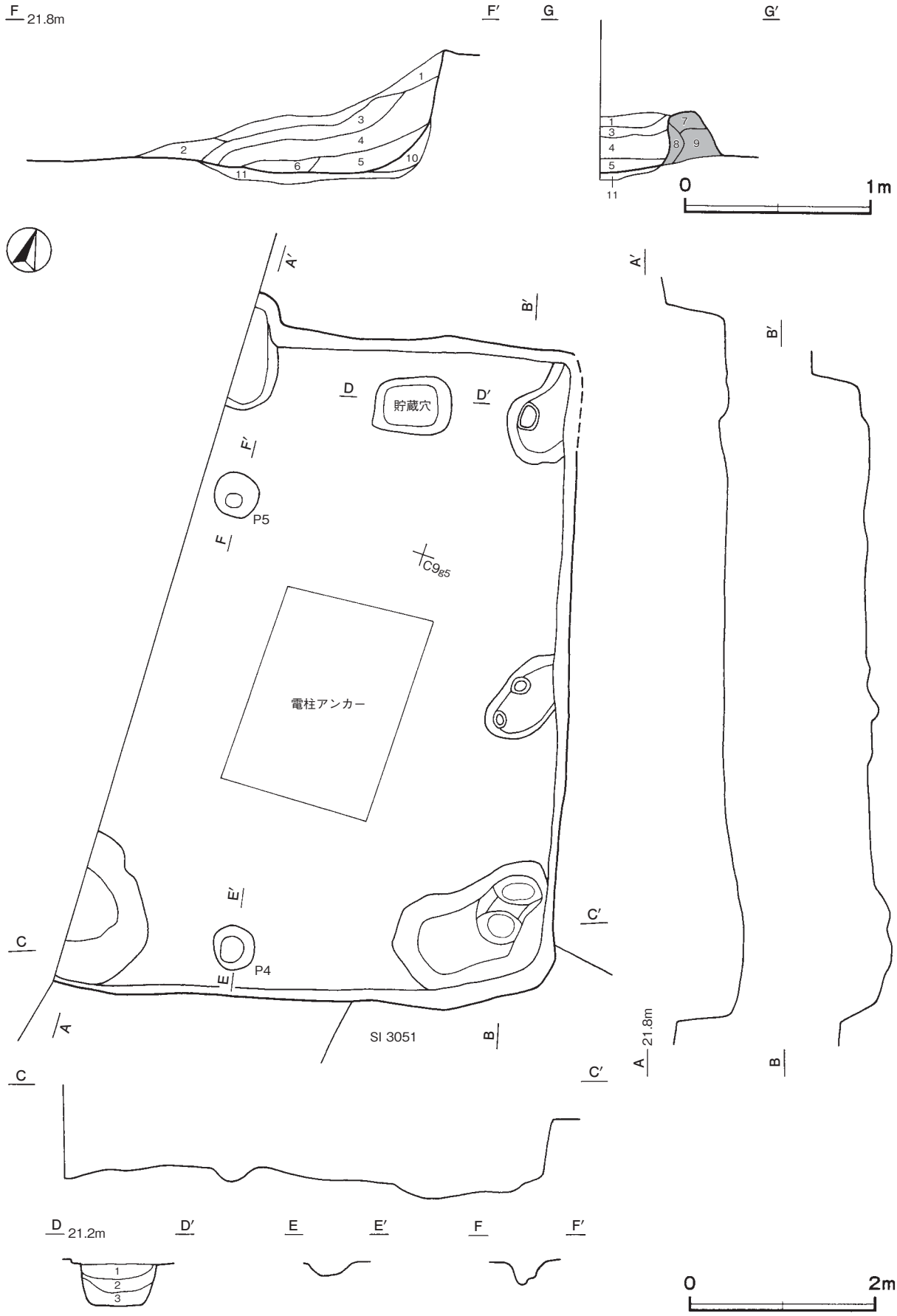
貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。貼床の直下で確認された。長軸 84cm，短軸 58cmの隅丸長方形で，深さは 46cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

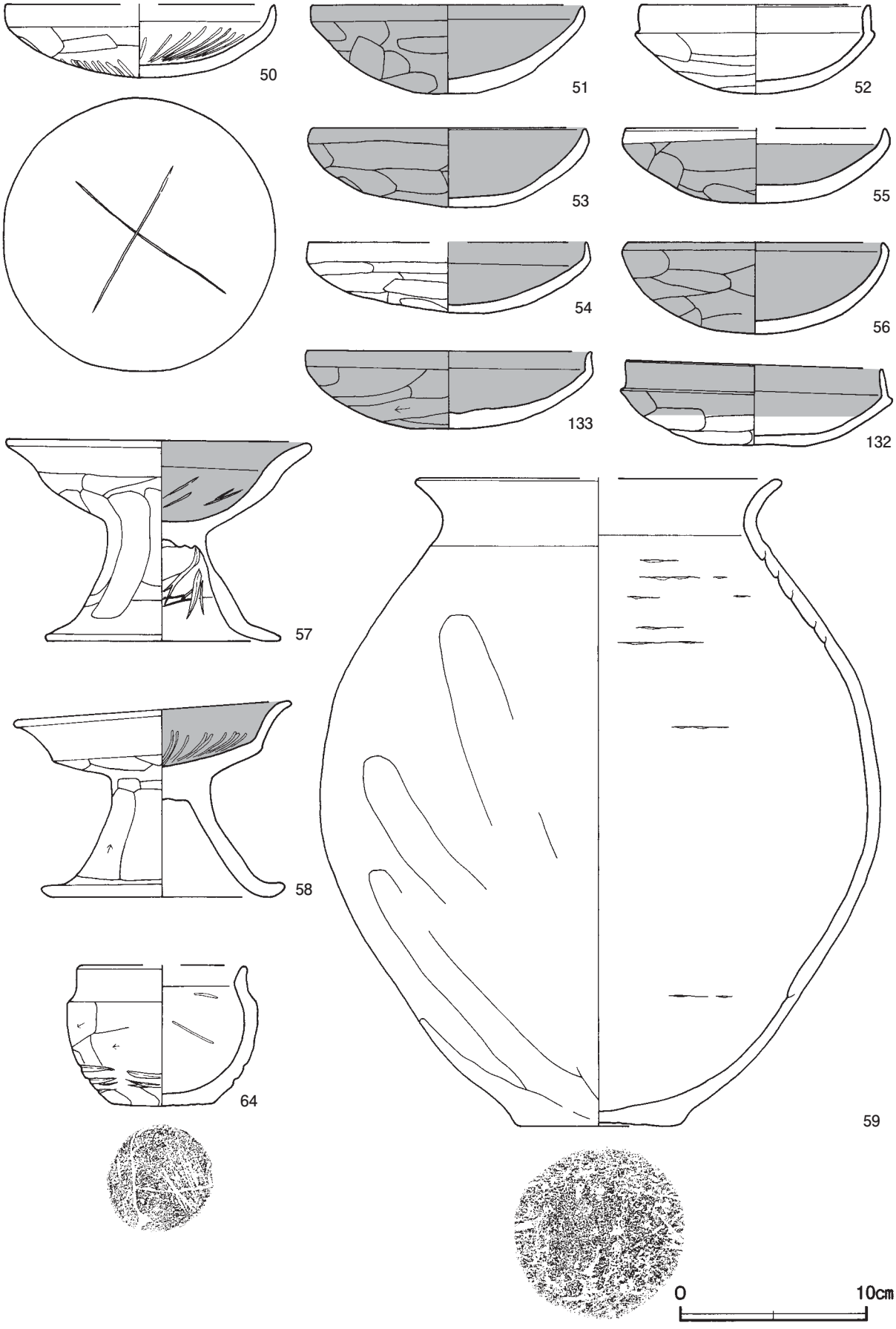
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量



第 24 図　第 3042 号竪穴建物跡実測図（1）



第 25 図　第 3042 号竪穴建物跡実測図（2）



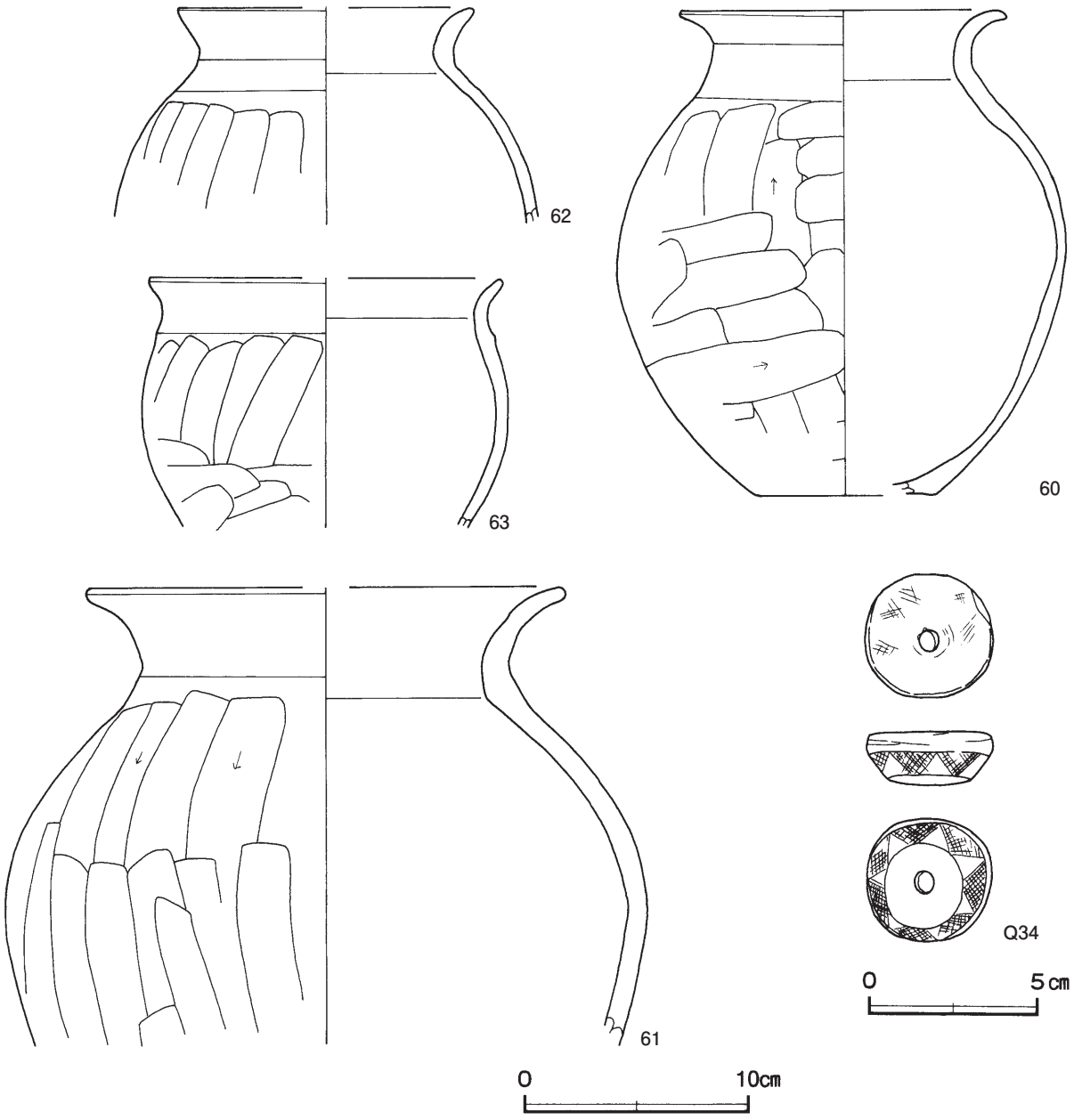
第 26 図　第 3042 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）

覆土　9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第10層は貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物多量，ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック多量，炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
8　極暗褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
9　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量，粘土粒子少量
10　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片945点（坏136，高坏10，甕797，甑2），須恵器片1点（坏），土製品3点（支脚2，不明1），石器1点（紡錘車），鉄製品1点（鏃）が，竈周辺と南部の覆土中層から床面にかけて出土している。53は南部の床面から出土した破片が接合したものである。59は中央部，60は横位の状態で北部の床面から出土している。132は北部の覆土下層から出土している。58は南部の覆土下層から床面にかけて破片と逆位の状



第27図　第3042号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

態で出土している。50･51 は南部の覆土中層から正位で出土している。52･64 は南部，56 は中央部の覆土中層，55・61 は南部の覆土下層から出土している。57 はＰ２の覆土中層から横位の状態で出土している。133 は南部の覆土上層から出土している。54・62・63 は覆土中からそれぞれ出土している。Q34 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。また，床面直下から確認された貯蔵穴やＰ４から，貼床の貼り替えや出入り口施設に伴うピットの取り替えが行われたと考えられる。

第 3042 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 26・27 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	土師器	坏	13.6	4.5	5.5	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り，内面ナデ	覆土下層	95%
133	土師器	坏	15.4	4.1	－	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り，内面ナデ	覆土上層	100%
50	土師器	坏	[14.4]	3.9	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ミガキ　底部線刻（焼成前）	覆土中層	95%　PL20
51	土師器	坏	14.3	4.7	－	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土中層	90%　PL20
52	土師器	坏	12.2	4.7	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土中層	80%　PL20
53	土師器	坏	14.6	4.3	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	床面	70%
54	土師器	坏	[14.8]	3.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土中	50%
55	土師器	坏	[14.0]	4.0	－	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	50%
56	土師器	坏	13.7	5.0	－	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	50%
57	土師器	高坏	16.0	10.8	12.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏・脚部外面ヘラ削り内面ナデ　内面斜位のヘラ削り	P2 覆土中層	100%　PL20
58	土師器	高坏	14.6	10.5	12.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏・脚部外面ヘラ削り内面ナデ後，ミガキ　内面斜位のナデ	床面～覆土下層	90%　PL20
59	土師器	甕	[19.2]	34.8	9.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	床面	80%　PL20
60	土師器	甕	14.3	21.6	[7.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	床面	70%　PL20
61	土師器	甕	[21.0]	(20.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	30%
62	土師器	甕	[13.2]	(9.6)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中	20%
63	土師器	甕	[15.6]	(11.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後，横位のナデ　内面ナデ	覆土中	20%
64	土師器	小形甕	[8.8]	7.5	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ナデ後，ミガキ	覆土中層	60%　転用砥 PL20

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	紡錘車	3.8	1.6	0.6	34.2	滑石	側面は鋸歯文で区画し，格子文を施す　上面に格子文の痕跡あり	覆土中	PL30

第 3044 号竪穴建物跡（第 28 ～ 31 図）

調査年度　平成 21 年度

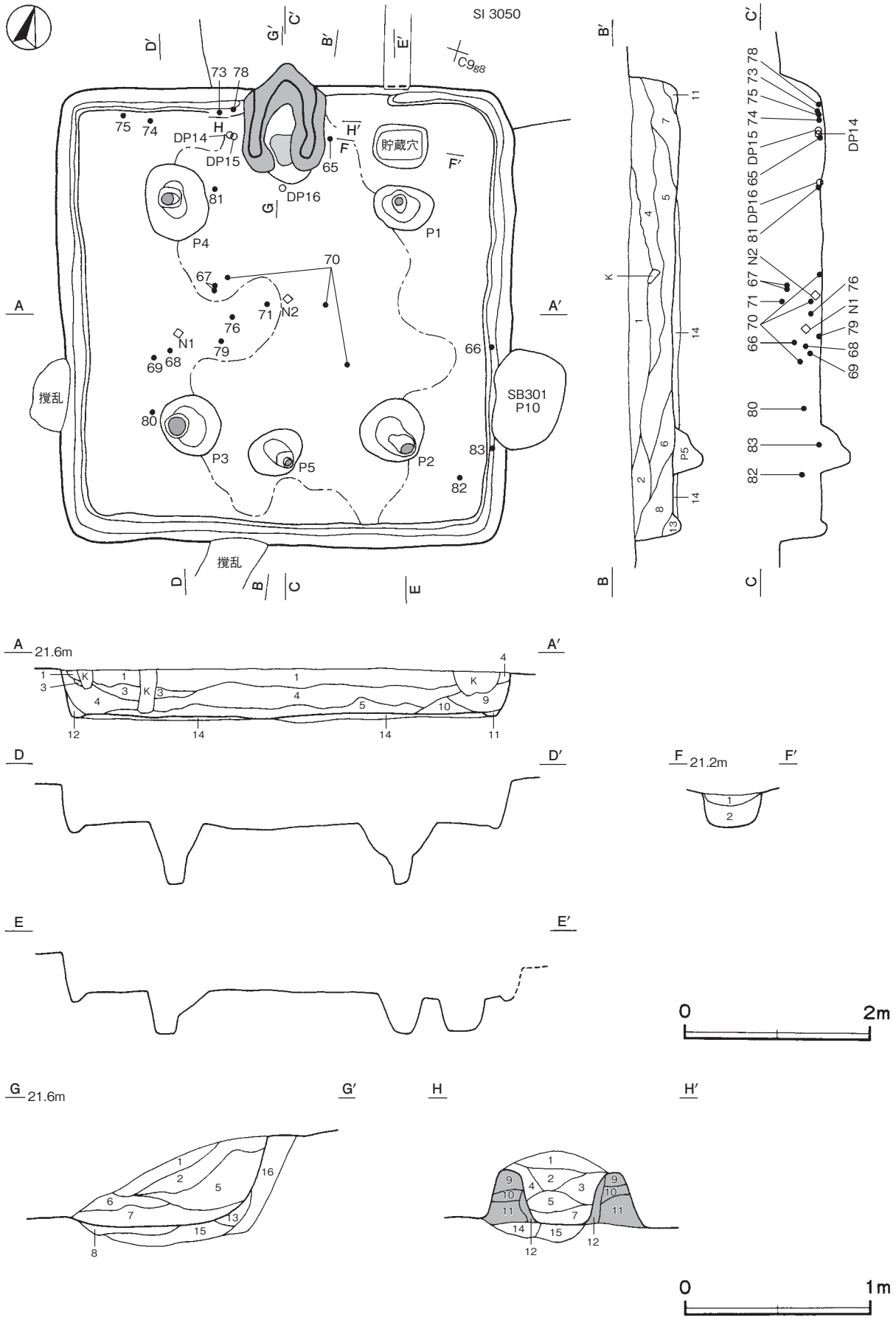
位置　13 区西部のＣ９g7 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 3050 号竪穴建物跡を掘り込み，第 301 号掘立柱建物に掘り込まれている。

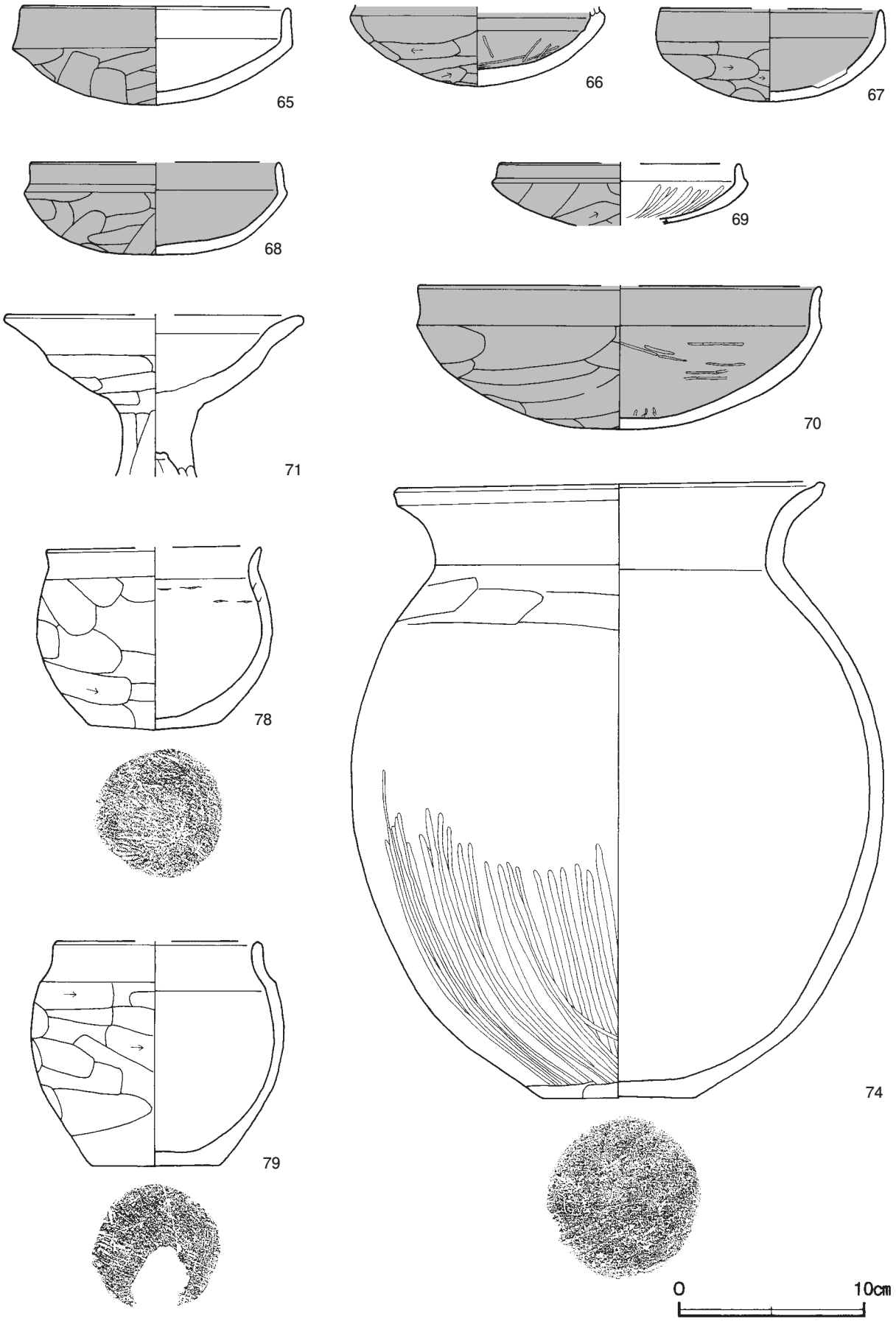
規模と形状　一辺 4.90 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 18 °－Ｗである。壁高は 32 ～ 48㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 16 ～ 32㎝，深さ６～ 12㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。貼床は，ロームブロックを主体とした第 14 層を５～ 10㎝ほど埋土して構築されている。

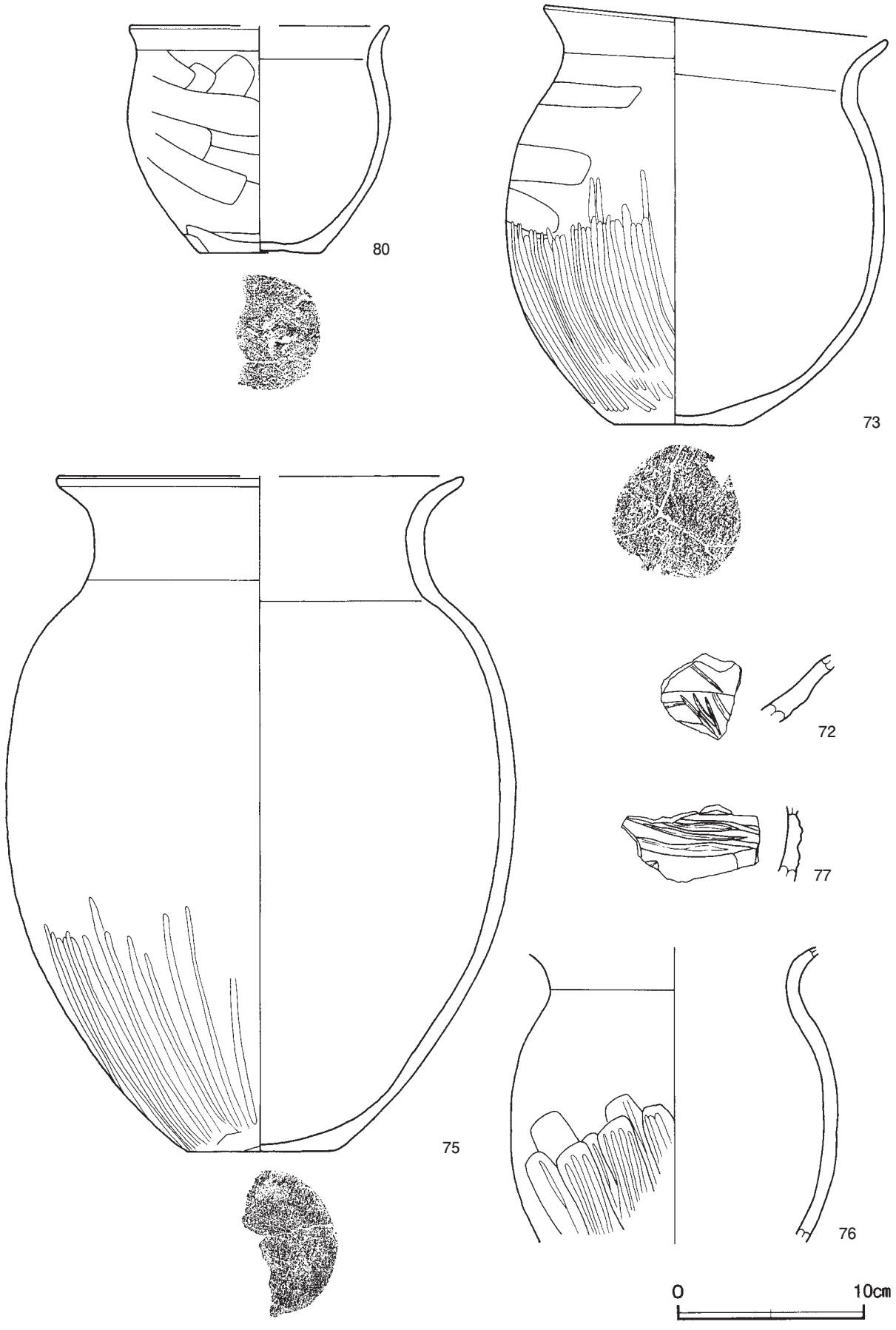
竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 130㎝で，燃焼部幅は 28㎝である。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体とした第９～ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10㎝ほど掘り込み，第８層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 25㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第５・６層は天井部の崩落土で，第 13 ～ 16 層は掘方への埋土である。



第 28 図　第 3044 号竪穴建物跡実測図



第 29 図　第 3044 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 30 図　第 3044 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
3　明　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
4　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
6　明　褐　色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量
7　褐　　色　焼土ブロック・粘土粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　砂質粘土ブロック中量
10　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量
11　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　砂質粘土ブロック多量
12　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
13　暗　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・粘土粒子少量
14　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
15　褐　　色　ロームブロック多量
16　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 46 ～ 65cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 32cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。全てのピットの底面から柱のあたりを確認した。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸 60cm，短軸 47cmの隅丸長方形で，深さは 42cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

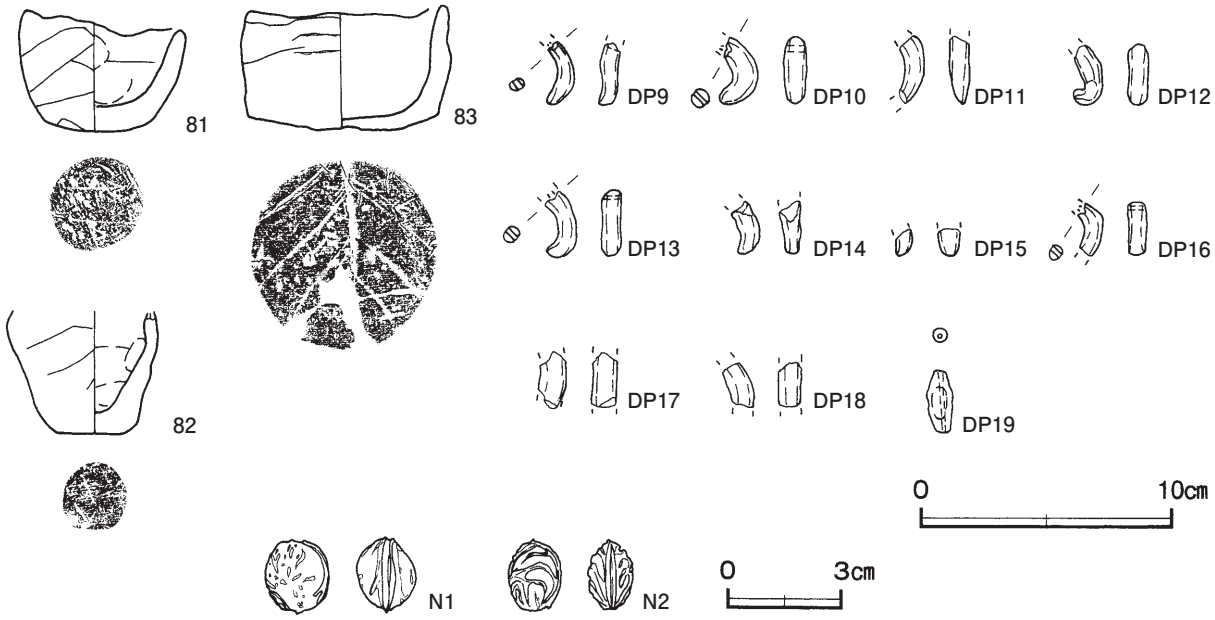
1　褐　　色　ローム粒子多量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

覆土　13 層に分層できる。ロームブロックが全体に含まれていることから，埋め戻されている。第 14 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・白色粘土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
10　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子中量
11　褐　　色　ロームブロック多量
12　暗　褐　色　ロームブロック多量
13　暗　褐　色　ロームブロック中量
14　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 897 点（坏 162，椀１，高坏 18，甕 704，小形甕３，ミニチュア土器９），須恵器片５点（坏３，甕２），土製品 11 点（勾玉 10，管状土錘１），鉄滓５点（49.7g），自然遺物２点（桃の種子）が竈周辺から南部にかけて出土している。82 は南東部の覆土中層から正位で出土している。DP16 は竈前の床面から出土



第 31 図　第 3044 号竪穴建物跡出土遺物実測図（３）

している。65 は北部の覆土下層から正位で，74 は北西部の北壁際の覆土下層から横位で出土している。73･78 は竈左袖側の覆土下層からそれぞれ横位で隣接して出土している。81 は北西部の床面から出土している。DP14・DP15 は北部，N 2 は中央部の覆土下層から出土している。75 は北壁際の覆土下層から斜位で出土している。70 は中央部の覆土中層と床面から出土した破片が接合したものである。66 は東壁際の覆土中層から逆位で出土している。68・69・76・80・N 1 は中央部から南西部にかけて，覆土中層から出土している。79 は，中央部の床面から出土している。83 は東壁際の覆土下層から正位で出土している。67・71 は中央部の覆土上層から出土している。DP 9 ～ DP13・DP17 ～ DP19 は竈の覆土中，72・77 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。土製勾玉が竈の周辺や竈内覆土中から多く出土し，中央部付近から炭化した桃の種子が出土していることから，廃絶時に祭祀を行ったと考えられる。

第 3044 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 29 ～ 31 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
65	土師器	坏	14.3	5.3	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	100% PL21
66	土師器	坏	－	(4.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ後ミガキ	覆土中層	95%　PL21
67	土師器	坏	[11.9]	5.0	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土上層	70%
68	土師器	坏	[13.4]	5.0	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	40%
69	土師器	坏	[12.8]	(3.3)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ後，ミガキ	覆土中層	40%
70	土師器	坏	[21.7]	7.8	－	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ後，ミガキ	床面～覆土中層	30%　PL21
71	土師器	高坏	[15.8]	(8.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面ヘラ削り　内面ナデ　脚部内面斜位ヘラ削り	覆土上層	20%
72	土師器	高坏	－	(3.2)	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中	５％転用砥使用痕６か所
73	土師器	甕	18.5	22.4	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ナデ	覆土下層	95%　PL21
74	土師器	甕	23.0	33.2	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ナデ	覆土下層	95%　PL21
75	土師器	甕	[21.6]	36.3	[8.1]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　外・内面体部ヘラナデ後，ミガキ　内面ナデ	覆土下層	40%
76	土師器	甕	－	(15.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ナデ	覆土中層	20%
77	土師器	甕	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	５％転用砥使用痕３か所
78	土師器	小形甕	[11.5]	9.9	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL21
79	土師器	小形甕	[10.9]	12.1	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	40%
80	土師器	小形甕	[14.0]	12.2	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土中層	40%
81	土師器	ミニチュア土器	6.2	4.8	3.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外・内面ヘラ削り後，ナデ　指頭痕	床面	100% PL21
82	土師器	ミニチュア土器	－	(4.9)	2.6	長石・石英	明黄褐	普通	外・内面斜位のヘラナデ　　指頭痕	覆土中層	95%　PL21
83	土師器	ミニチュア土器	7.8	4.9	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	90%　PL21

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 9	勾玉	(2.5)	(1.1)	0.8	(1.38)	長石	孔径 0.2㎜　ナデ　一部欠損	竈内覆土中	PL29
DP10	勾玉	(2.7)	(1.6)	0.9	(2.86)	長石	孔径 0.2㎜　ナデ　一部欠損	竈内覆土中	PL29
DP11	勾玉	(2.7)	(1.0)	0.8	(1.68)	長石	ナデ　欠損	竈内覆土中	PL29
DP12	勾玉	(2.4)	(1.2)	0.9	(1.90)	長石	ナデ　欠損	竈内覆土中	PL29
DP13	勾玉	(2.7)	(1.3)	0.9	(2.20)	長石	孔径 0.2㎜　ナデ　一方向からの穿孔　一部欠損	竈内覆土中	PL29
DP14	勾玉	(2.1)	(1.1)	0.9	(1.22)	長石	ナデ　欠損	覆土下層	PL29
DP15	勾玉	(1.1)	(0.7)	0.9	(0.69)	長石	ナデ　欠損	覆土下層	
DP16	勾玉	(2.1)	(1.0)	0.7	(1.40)	長石	孔径 0.2㎜　ナデ　欠損	床面	PL29
DP17	勾玉	(2.2)	(1.1)	1.0	(2.53)	長石	ナデ　欠損	竈内覆土中	
DP18	勾玉	(1.8)	(1.2)	0.9	(1.58)	長石	ナデ　欠損	竈内覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP19	管状土錘	2.5	0.5	0.6	1.61	長石	孔径 0.18㎜～ 0.25㎜　ナデ　一方向からの穿孔	竈内覆土中	PL29

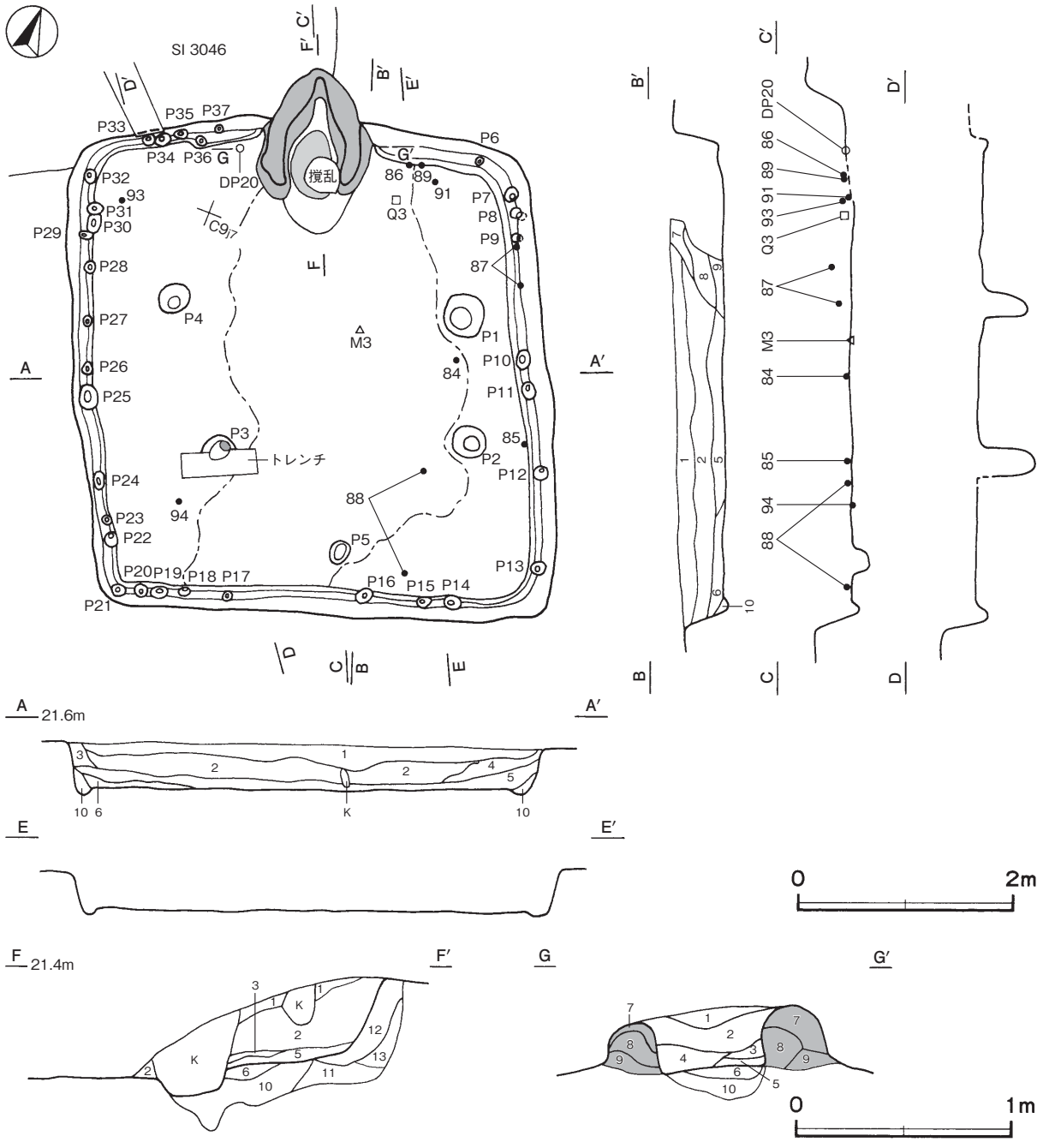
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
N 1	種子	2.0	1.7	1.6	1.98	桃	炭化している	覆土中層	コダイモモ PL29
N 2	種子	1.8	1.4	1.2	0.96	桃	炭化している	覆土下層	コダイモモ PL29

第 3045A 号竪穴建物跡（第 32 ～ 34 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部の C 9j7 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3046 号竪穴建物跡を掘り込み，第 3045B 号竪穴建物跡の上部に構築されいる。



第 32 図　第 3045A 号竪穴建物跡実測図

重複関係　第 3046 号竪穴建物跡を掘り込み，第 3045B 号竪穴建物跡の上部に構築されている。

規模と形状　長軸 4.59 m，短軸 4.40 mの方形で，主軸方向はＮ－ 23゜－Ｗである。壁高は 13 ～ 32cmで，外傾して立ち上がっている。

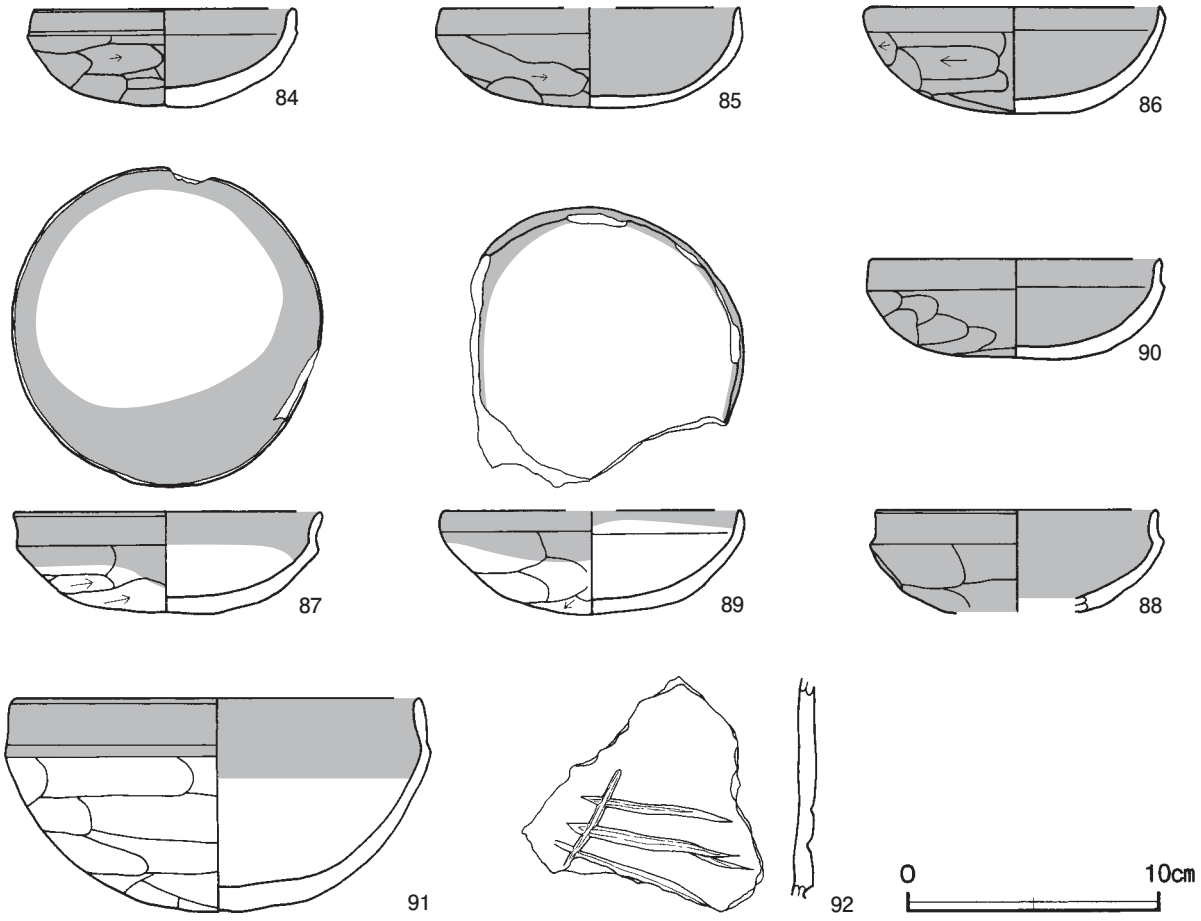
床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 14 ～ 32cm，深さ６～ 10cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 152cmで，燃焼部幅は 45cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体とした第７～９層を積み上げて構築されている。火床部は７cmほど掘り込み，第６層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 43cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第１・２層は天井部の崩落土で，第 10・11 層は燃焼部掘方で，第 12・13 層は煙道部掘方への埋土である。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子多量	
2	灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量	
3	褐　　色	焼土ブロック・粘土粒子中量	
4	黒　褐　色	焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子中量	
5	灰　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック少量	
6	赤　褐　色	焼土ブロック多量，炭化粒子微量	
7	灰　褐　色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量	
8	灰　褐　色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量	
9	灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量	
10	灰　赤　色	焼土ブロック・炭化物中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量	
11	灰　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量	
12	灰　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量	
13	灰黄褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	

ピット　37 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 17 ～ 51cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 15cmで，南壁



第 33 図　第 3045A 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）

際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～ P37 は深さ６～ 29㎝で，位置から壁柱穴である。Ｐ３の底面から柱のあたりを確認した。

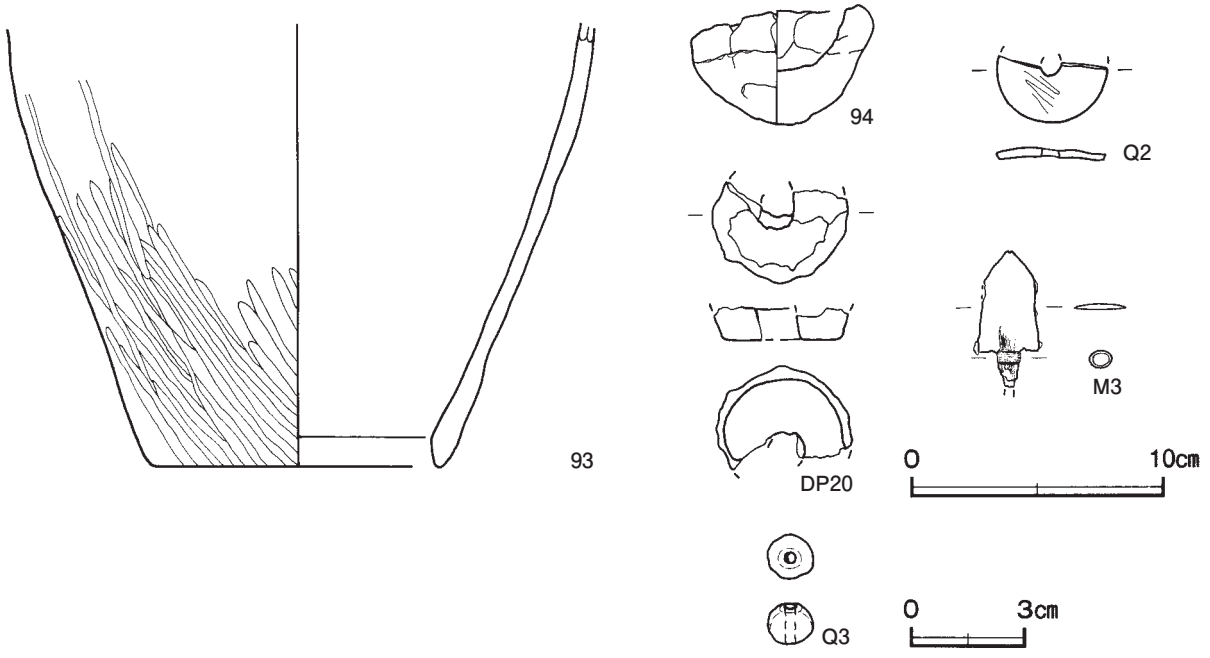
覆土　10 層に分層できる。ロームや焼土のブロックが全体に含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック中量，炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
8　灰　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック･炭化物中量，粘土粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
10　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物少量

遺物出土状況　土師器片 1110 点（坏 180，椀１，高坏２，甕 922，甑４，手捏土器１），須恵器片７点（蓋１，長頸瓶２，甕４），土製品３点（支脚，紡錘車，不明），石器２点（磨石），石製品２点（紡錘車，小玉），鉄製品２点（刀子，鏃），が，西部を除く覆土中層から床面にかけて出土している。94 は南西部の床面から横位で出土している。86 は北東部の覆土下層から横位で，89・91・Ｑ３は北東壁寄り，88 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。93 は北西部の覆土下層から，DP20 は北部壁際の床面から，84・85 は東壁寄りの覆土下層から横位で出土している。87 は東壁寄りの覆土中層から出土している。90・92・Ｑ２は覆土中から出土している。Ｍ３は中央部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。なお，床面下から本跡より規模の小さい第 3045B 号竪穴建物跡を確認した。本跡は，第 3045B 号竪穴建物跡を建て替えて拡張したと考えられる。



第 34 図　第 3045A 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

第 3045A 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 33・34 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
84	土師器	坏	10.4	3.9	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	100% PL22
85	土師器	坏	[11.8]	3.9	－	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
86	土師器	坏	11.6	4.3	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95% PL22
87	土師器	坏	12.3	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	95% PL22
88	土師器	坏	11.2	(4.0)	－	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	70%
89	土師器	坏	[11.9]	4.1	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	60%
90	土師器	坏	11.5	4.0	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中	60%　PL22
91	土師器	椀形坏	16.2	8.4	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL22
92	土師器	甕	－	(9.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ナデ	覆土中	転用砥の使用痕4か所 PL28
93	土師器	甑	－	(17.5)	11.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ後，斜位のミガキ　内面ナデ	覆土下層	50%
94	土師器	手捏土器	6.7	4.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ　輪積痕	床面	95%　PL22

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP20	紡錘車	(5.4)	(1.3)	(1.5)	(31.4)	長石	上面欠損　下面ナデ	床面	PL29

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q２	紡錘車	4.4	0.5	0.7	(7.83)	滑石	両面若干の研磨	覆土中	未成品 PL30
Q３	小玉	1.2	1.0	0.3	2.28	滑石ヵ	全面研磨　二方向からの穿孔	覆土下層	PL30

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M３	鏃	(5.5)	2.4	0.2	(7.70)	鉄	短頸長舌長三角形式　木質と沓巻が残存	床面	PL30

第 3045B 号竪穴建物跡（第 35 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ９j7 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3046 号竪穴建物跡を掘り込み，上部に第 3045A 号竪穴建物が構築されている。

確認状況　第 3045A 号竪穴建物の床下で確認したため，竈および壁の立ち上がりや覆土は確認できなかった。

規模と形状　長軸 4.00 m，短軸 3.85 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 23゜－Ｗである。

床　平坦で，北側一部と西側から東壁下にかけて，幅 20 ～ 50cm，深さ８～ 14cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。北東壁下には，壁溝の痕跡は明瞭ではない。各コーナー部に深さ 26 ～ 39cmの土坑状の掘り込みを確認した。

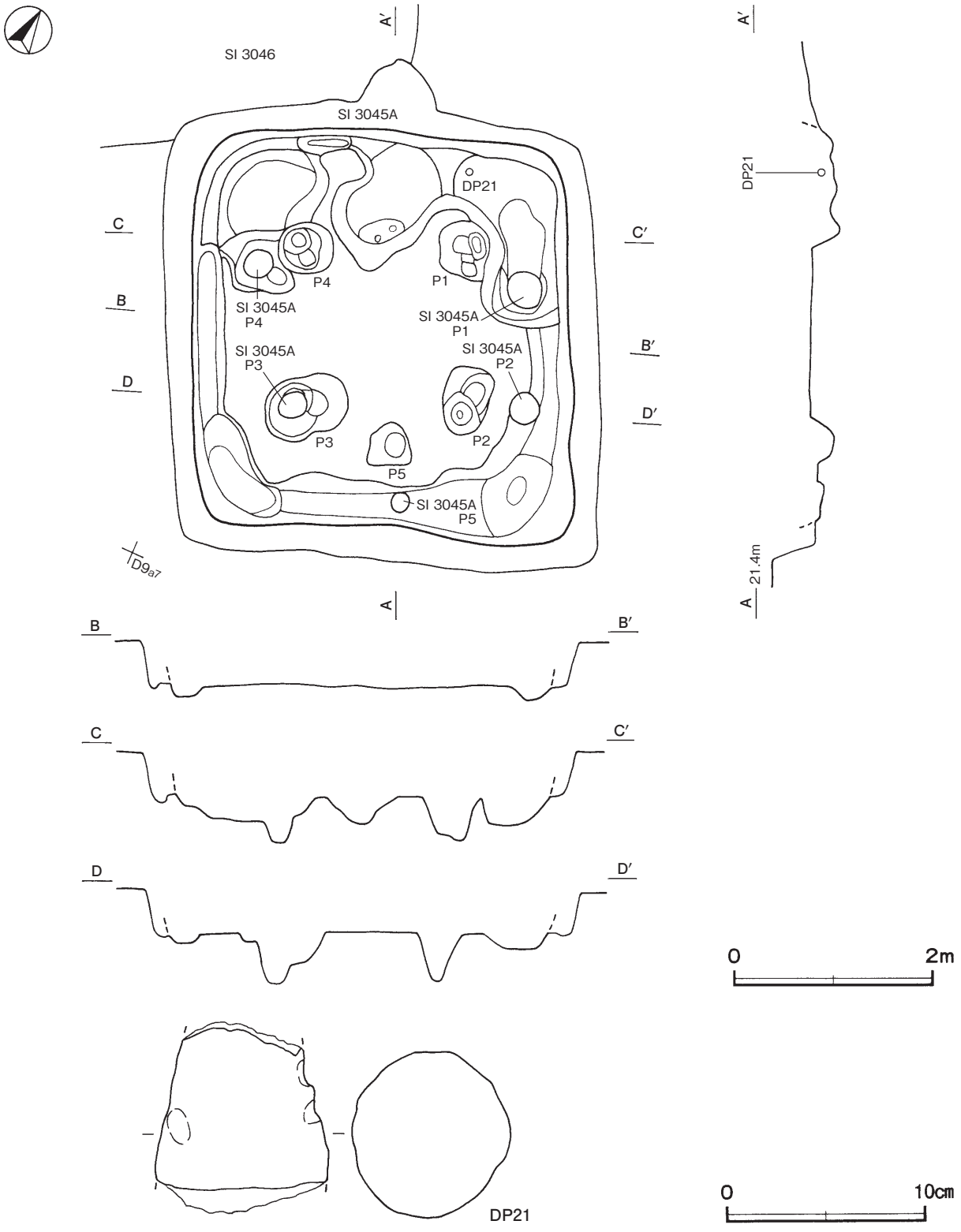
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 42 ～ 57cmで，規模と配置から主柱穴である。各柱穴ともに，２・３か所の掘り込みが確認できたことから，柱の立て替えが想定できる。Ｐ５は深さ 20cmで南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットとみられる。

遺物出土状況　土製品１点（支脚）が，北東部の覆土中から横位で出土している。

所見　本跡を廃棄して，上部に第 3045A 号竪穴建物が構築されている。そのため，本跡の竈は確認できなかった。時期は，伴う遺物が出土していないが，第 3045A 号竪穴建物以前の時期より古い６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。

第 3045B 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 35 図）

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP21	支脚	(6.0)	(8.2)	(9.6)	(520.2)	長石・石英	欠損　ナデ　指頭痕	覆土中	



第 35 図　第 3045B 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3046 号竪穴建物跡（第 36 ～ 38 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部の C 9i6 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第3051号竪穴建物跡を掘り込み，第3045A号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.10ｍ，短軸5.68ｍの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は30～42cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅22～32cm，深さ４～８cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。また，南コーナー部で，平面形がＬ字状で，幅30～37cm，長さ140cm，深さ11cmで，断面形がＵ字形の溝１条を確認した。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cmで，燃焼部幅は53cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体とした第11～15層を積み上げて構築されている。火床部は４cmほど掘り込み，第９･10層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第５～７層は天井部の崩落土，第16・17層は燃焼部の，第18・19層は煙道部の掘方への埋土である。

竈土層解説

1	極暗褐色	焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量	
2	暗褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	
3	暗褐色	粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
4	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量	
5	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量	
6	暗褐色	焼土ブロック少量，粘土粒子微量	
7	灰褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量	
8	暗赤褐色	焼土粒子少量，粘土粒子微量	
9	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	
10	灰褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	
11	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子中量	
12	暗褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子微量	
13	暗褐色	ローム粒子少量	
14	暗褐色	砂質粘土ブロック・粘土粒子多量	
15	黒褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量	
16	暗褐色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	
17	灰褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量	
18	赤褐色	焼土粒子多量	
19	褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	

ピット　36か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ70～80cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ41cm・25cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，Ｐ７～P36は深さ11～28cmで，位置から壁柱穴である。Ｐ１～Ｐ５の底面から柱のあたりを確認した。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸85cm，短軸57cmの隅丸長方形で，深さは43cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

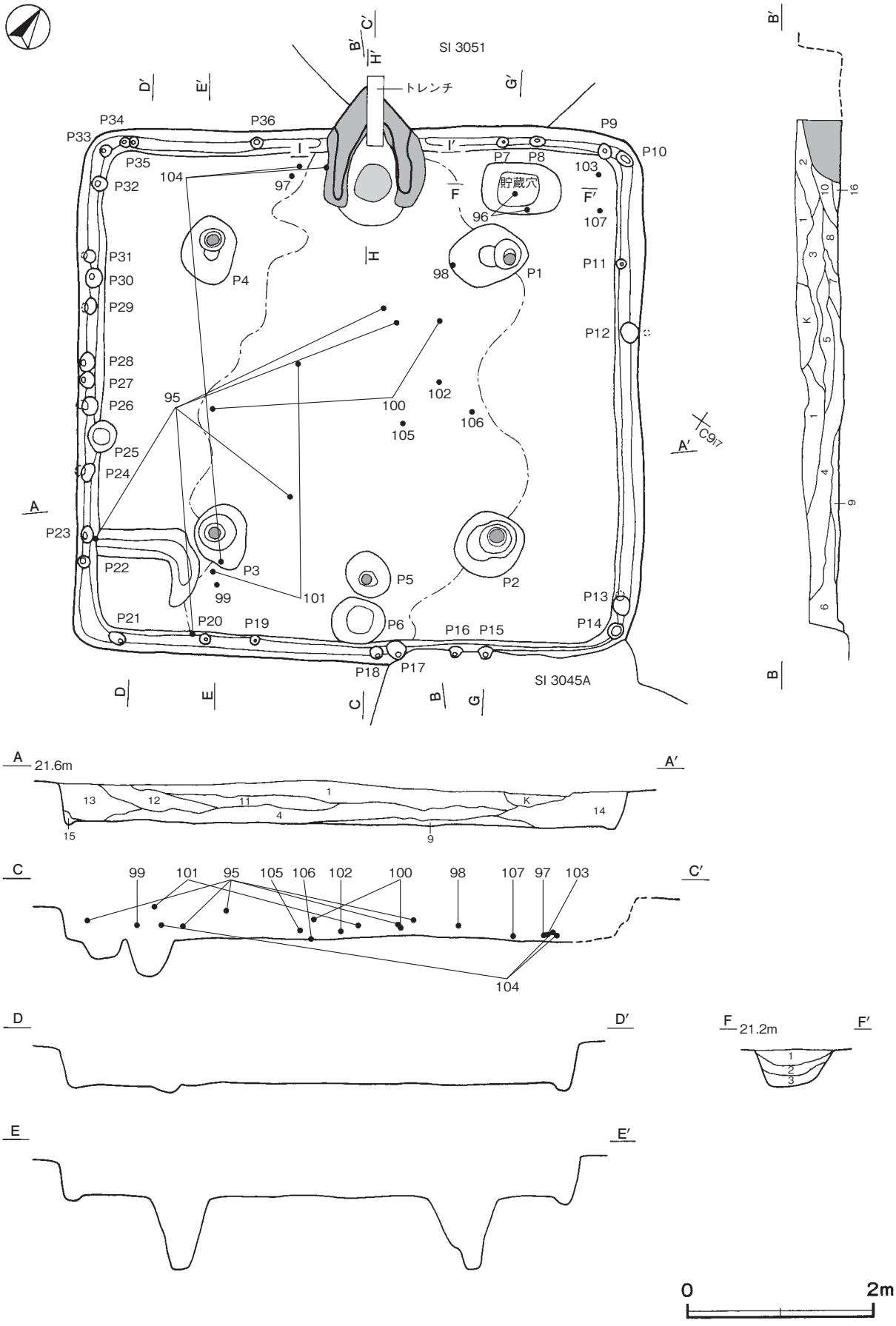
1	褐色	ローム粒子多量	
2	暗褐色	ロームブロック多量	
3	褐色	ローム粒子少量	

覆土　16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

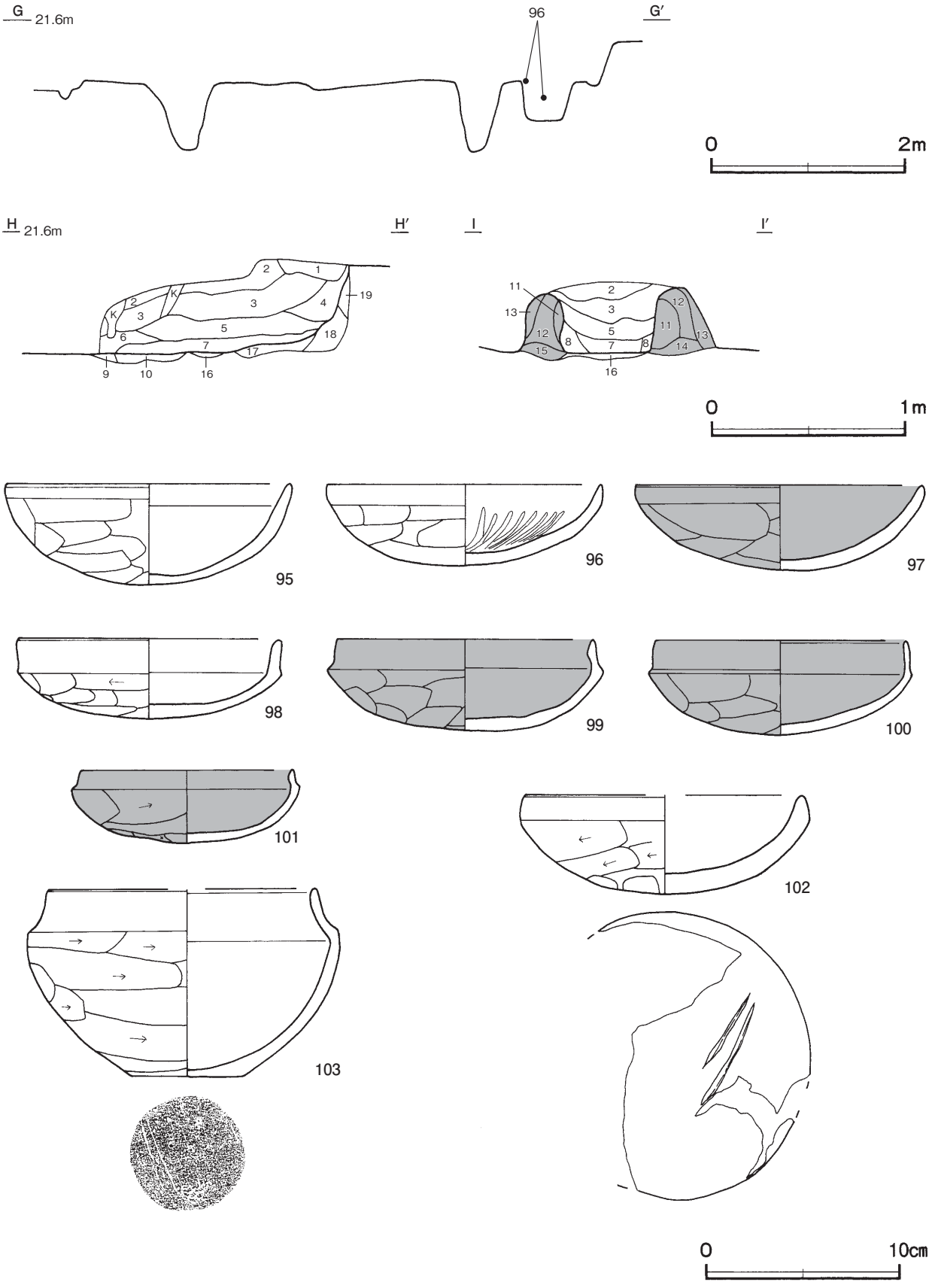
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	
2	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量	
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	
5	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	
6	暗褐色	ローム粒子少量	
7	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量	
8	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	
9	暗褐色	ロームブロック多量	
10	暗褐色	粘土粒子中量	
11	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	
12	黒褐色	ロームブロック中量	
13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	
14	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	
15	褐色	ロームブロック多量	
16	褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片1407点（坏224，高坏10，甕1147，甑26），須恵器片４点（坏１，甕３），土製品６点（支脚１，不明５）のほか，混入した石器３点（敲石）が，北半部・中央部・南西部の覆土中層から床面にかけて出土している。106は中央部の床面から正位で，96は貯蔵穴の覆土上層と中層から出土した破片が接合

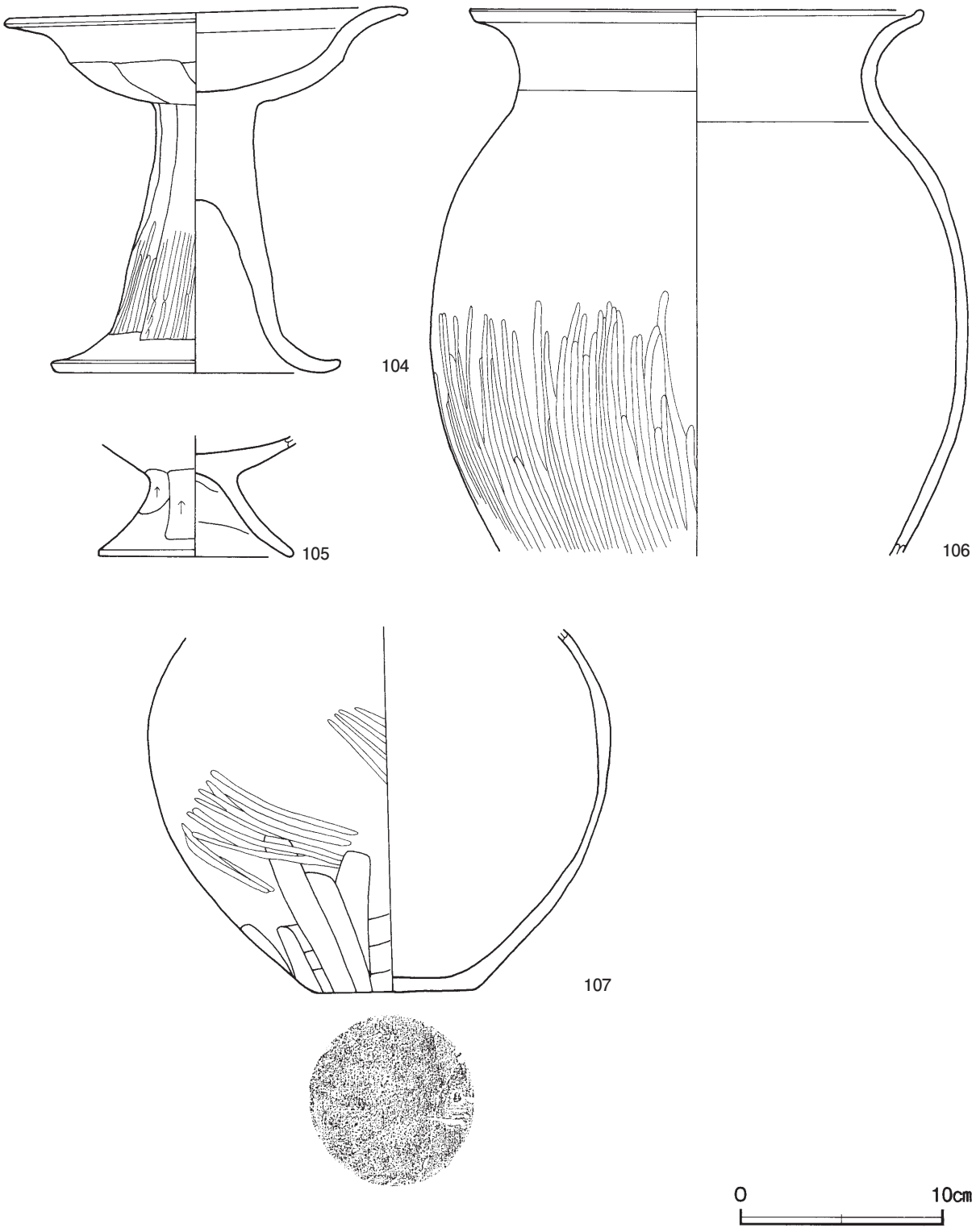


第 36 図　第 3046 号竪穴建物跡実測図



第 37 図　第 3046 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

したものである。98 は北東部の覆土下層から斜位で出土している。99 は南西部の覆土下層から正位で出土している。103・107 は北東部，102・105 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。97 は竈左袖付近の覆土下層から逆位で，104 は竈左袖付近・南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。100 は中央部と南西部の覆土中層から下層にかけて出土している。101 は中央部と南西部の覆土上層から中層にかけて，95 は中央部と南西部の覆土上層から中層にかけてそれぞれ出土している。



第 38 図　第 3046 号竪穴建物跡出土遺物実測図

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。かなり離れた位置から出土する破片が接合した土器が目立つことから，割れた土器を住居廃絶時に廃棄したと考えられる。

第 3046 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 37・38 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
95	土師器	坏	14.6	5.2	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土中～上層	95%　PL23
96	土師器	坏	14.2	4.2	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ後，密なミガキ	貯蔵穴覆土中～上層	90%　PL23
97	土師器	坏	14.8	4.4	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL23
98	土師器	坏	13.4	4.1	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL23
99	土師器	坏	13.2	4.7	－	長石・石英赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL23
100	土師器	坏	13.0	4.9	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層～中層	80%　PL23
101	土師器	坏	11.0	3.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中～上層	50%
102	土師器	坏	［14.4］	5.1	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	50%転用砥２か所 PL23
103	土師器	椀形坏	［13.8］	9.7	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土下層	50%　PL23
104	土師器	高坏	20.0	18.1	14.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面ヘラ削り　内面ミガキ　脚部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ナデ	覆土下層	90%　PL23
105	土師器	高坏	－	(5.9)	9.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面ヘラ削り後，ナデ　内面ミガキ　脚部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	70%
106	土師器	甕	22.4	(26.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ後，ミガキ	床面	50%　PL23
107	土師器	甕	－	(17.7)	8.0	長石	橙	普通	体部下端横位のヘラ削り後，縦位のヘラ削り，斜位のミガキ　内面ナデ	覆土下層	40%

第 3047 号竪穴建物跡（第 39・40 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ９e6 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3049 号竪穴建物跡，第 6584・6587 号土坑を掘り込み，第 6566・6585・6586・6588 号土坑に掘り込まれている。

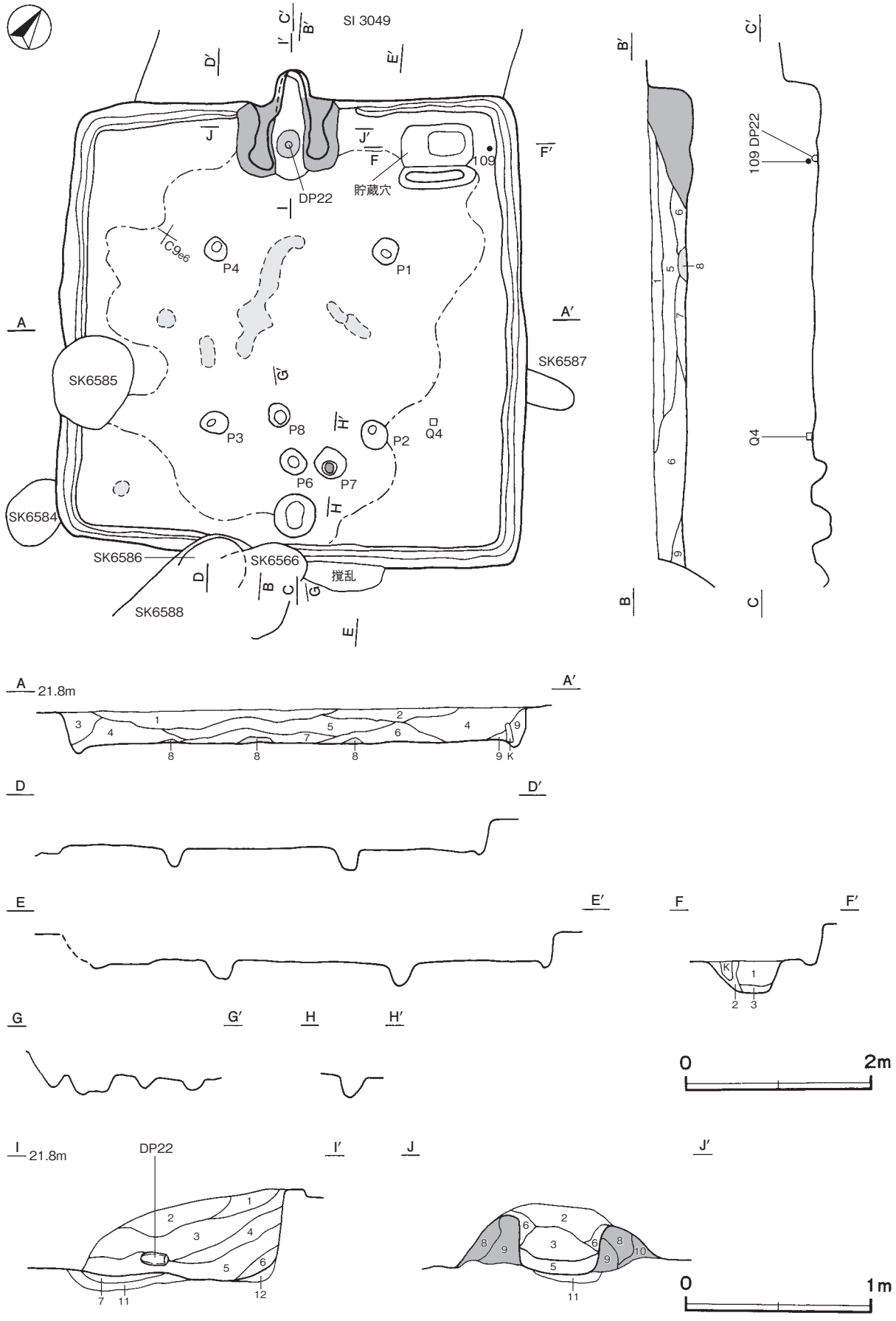
規模と形状　一辺 5.10 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 30 °－Ｗである。壁高は 31 ～ 36㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 15 ～ 30㎝，深さ４～８㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。中央部と南西コーナー部の第８層で焼土塊を確認した。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 118㎝で，燃焼部幅は 35㎝である。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を主体とした第８～ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10㎝ほど掘り込み，第７層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 35㎝掘り込まれ，奥壁で直立して立ち上がっている。第 11・12 層は燃焼部掘方への埋土である。

竈土層解説

1　灰　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
4　灰　褐　色　砂質粘土ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量
6　灰　褐　色　砂質粘土ブロック･焼土粒子･炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　極暗褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量
9　灰　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
10　灰　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子･炭化粒子少量，ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物中量，ローム粒子・粘土粒子少量



第 39 図　第 3047 号竪穴建物跡実測図

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ20～27cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５～Ｐ７は深さ11～22cmで，南壁際中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ８は深さ10cmで，性格不明である。Ｐ７の底面から柱のあたりを確認した。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸78cm，短軸52cmの隅丸長方形で，深さは35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。なお，南側には，幅８～10cm，長さ62cm，高さ５cmほどの土手状の高まりがある。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック中量

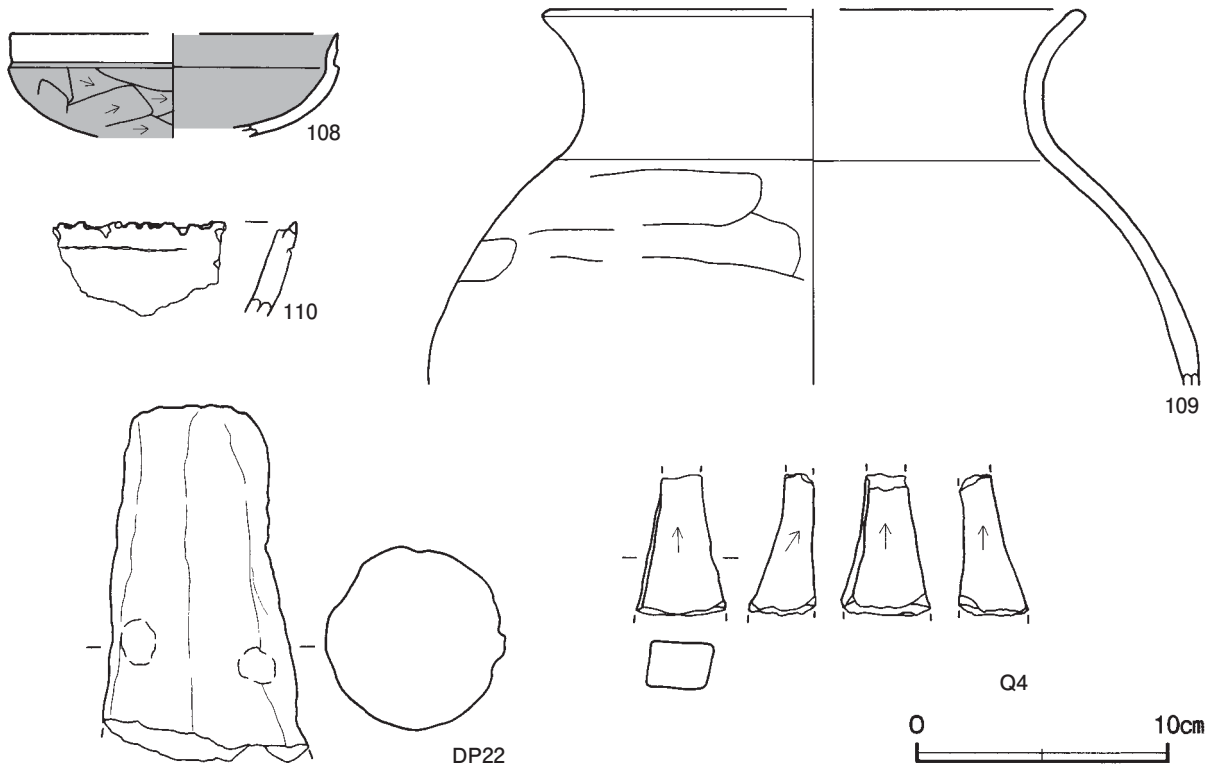
覆土　９層に分層できる。多くの層にロームや焼土，砂質粘土のブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
5　灰　褐　色　ローム粒子多量，砂質粘土ブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量
7　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量
8　赤　褐　色　焼土ブロック多量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片550点（坏99，椀１，甕448，甑２），須恵器片８点（坏１，甕７），土製品１点（支脚），石器１点（砥石）が北東部と南東部の覆土下層から出土している。109は北東部の覆土下層から横位で，DP22は竈内覆土下層から横位で，Ｑ４は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。108・110は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。第８層が焼土塊であったことから，廃絶後に廃棄物等の焼却処理を行った可能性がある。



第40図　第3047号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3047 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 40 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
108	土師器	坏	[13.2]	(4.1)	−	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中	20%
109	土師器	甕	[21.2]	(14.9)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	20%
110	土師器	甕	−	(3.7)	−	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中	5％転用砥 8か所

番号	器 種	最小径	最大径	高さ	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP22	支脚	4.7	(8.2)	(14.1)	(548.6)	長石・石英	ナデ　指頭痕　基部欠損	竈内覆土下層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 4	砥石	(5.6)	(3.6)	(2.7)	(52.8)	凝灰岩	4 面に使用痕	覆土下層	PL30

第 3049 号竪穴建物跡（第 41・42 図）

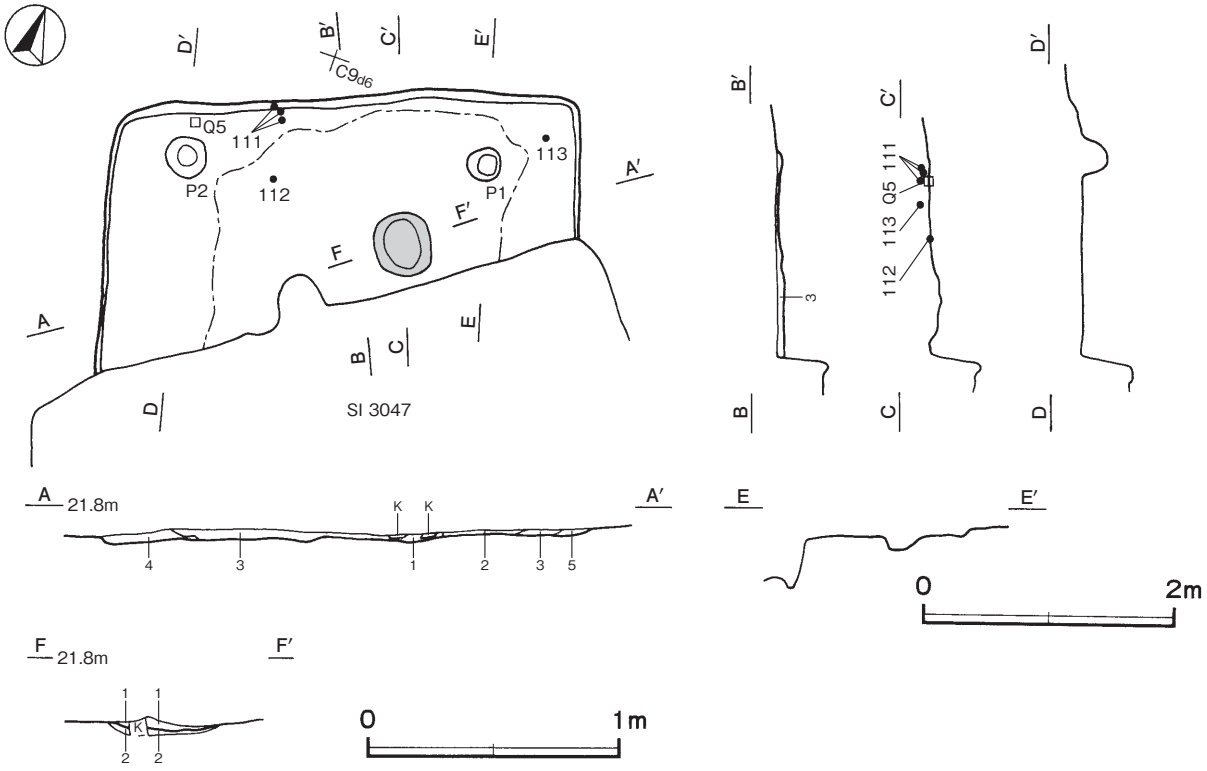
調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部の C 9d6 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3047 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南半部を第 3047 号竪穴建物に掘り込まれているため，東西軸は 3.70 mで，南北軸は 1.90 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はN − 22 ° − Wである。壁高は 2 ～ 5 ㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。



第 41 図　第 3049 号竪穴建物跡実測図

炉　東部寄りに付設されている。長径54cm，短径45cmの楕円形で，深さ５cmの地床炉である。炉床は床面を皿状に掘りくぼめ，第２層を埋土して構築しており，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物中量，ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化物粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ12cm・21cmで，配置から主柱穴である。

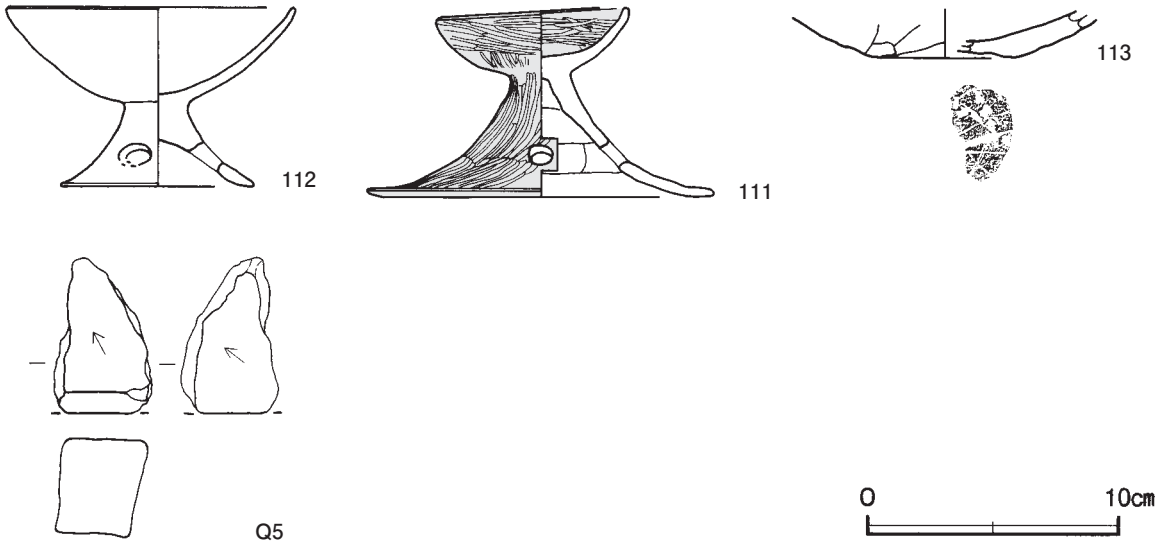
覆土　５層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　極暗褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック中量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片35点（高坏６，甕29），石器１点（砥石）が出土している。112は北西部の床面から正位で出土した。Ｑ５は北西部の床面から出土した。111は北西部の覆土下層から斜位で出土した。113は北東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から４世紀後葉に比定できる。



第42図　第3049号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3049号竪穴建物跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
111	土師器	高坏	7.5	7.5	13.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　外・内面ミガキ　脚部内面斜位のヘラ削り　脚部外面透かし４孔	覆土下層	90% PL22
112	土師器	高坏	11.4	7.1	7.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部・脚部外面ヘラナデ　内面ナデ　透かし３孔	床面	80% PL22
113	土師器	甕	－	(1.9)	[5.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	5%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q5	砥石	(6.2)	(3.9)	(3.9)	(112.8)	凝灰岩	砥面３か所	床面	PL30

第 3050 号竪穴建物跡（第 43 ～ 45 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ 9f7 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 6579 号土坑を掘り込み，第 3044 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 5.50 mほどの方形で，主軸方向はＮ－ 30 °－Ｗである。壁高は 30 ～ 46cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 20 ～ 33cm，深さ５～８cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。北西部，南東部，南西部で焼土塊を確認した。

竈　北壁中央部に付設されている。右袖は確認できなかった。規模は，焚口部から煙道部まで 148cmで，燃焼部幅は 54cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土とロームブロックを含む第 11 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を８cmほど掘り込み，第 10 層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 38cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第 14・15 層は燃焼部掘方への埋土である。

竈土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化粒微量	
2	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	
4	暗　褐　色	焼土粒子・粘土粒子微量	
5	暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子少量	
6	暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量	
7	暗　褐　色	ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量	
8	暗　褐　色	ロームブロック中量	
9	褐　　色	ロームブロック多量	
10	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量	
11	極赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量	
12	暗　褐　色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量	
13	暗　褐　色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量	
14	暗赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物中量	
15	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	

ピット　27 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 60 ～ 74cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 40cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～ P27 は深さ９～ 27cmで，位置から壁柱穴である。Ｐ１～Ｐ５の底面から柱のあたりを確認した。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸 102cm，短軸 72cmの隅丸長方形で，深さは 55cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。肩部には，幅５～７cm，高さ２cmほどの土手状の高まりが巡っている。

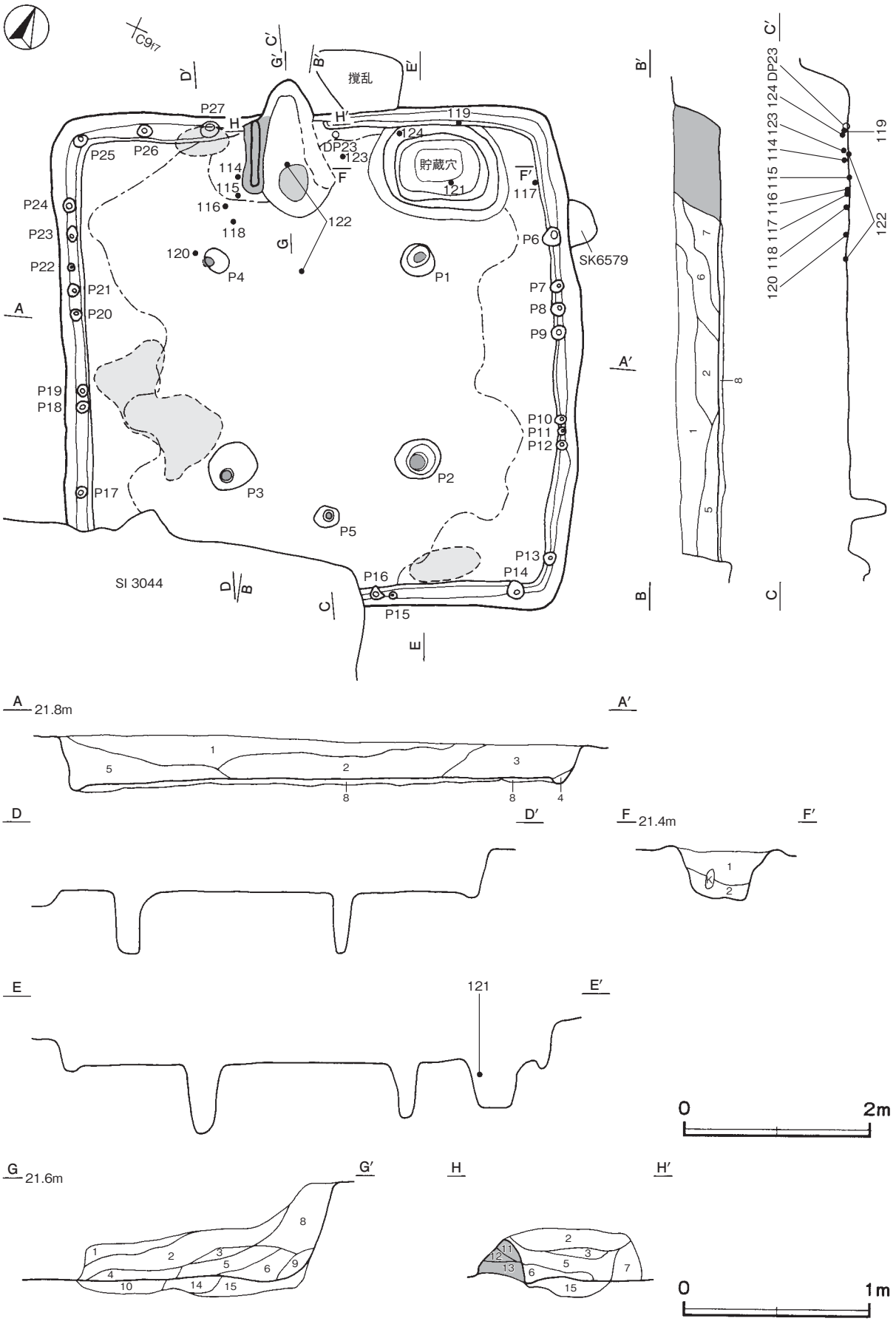
貯蔵穴土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗　褐　色	ロームブロック少量	

覆土　７層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。第８層は貼床の構築土である。

土層解説

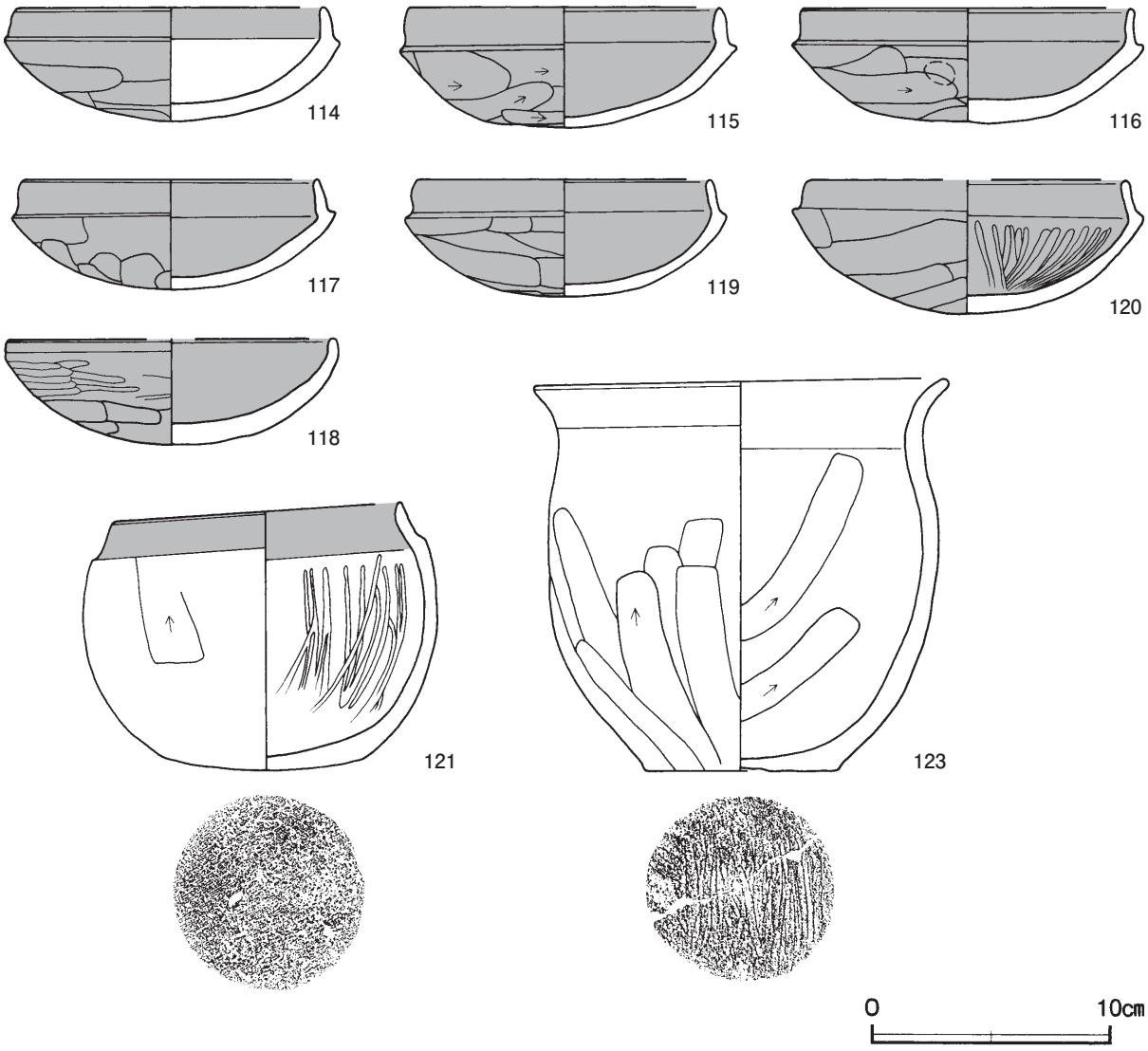
1	褐　　色	ロームブロック少量	
2	暗　褐　色	ロームブロック多量，焼土粒子少量	
3	暗　褐　色	ローム粒子多量	
4	褐　　色	ロームブロック多量	
5	暗　褐　色	炭化物多量，ロームブロック・焼土ブロック少量	
6	褐　　色	ローム粒子多量	
7	灰　褐　色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量	
8	暗　褐　色	ロームブロック多量，炭化粒子少量	



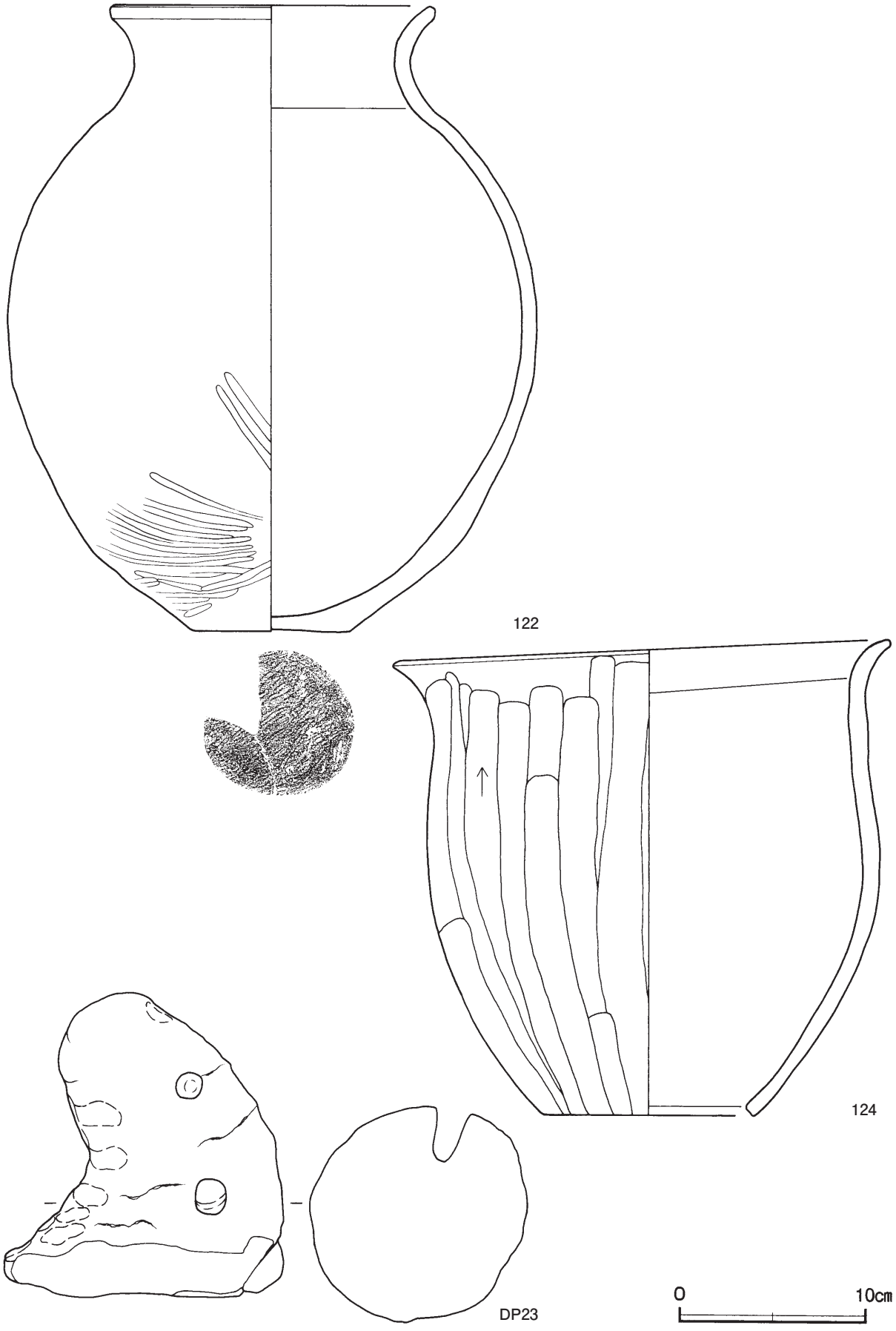
第 43 図　第 3050 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 111 点（坏 33，椀 1，甕 74，小形甕 1，甑 2），土製品 1 点（支脚）が，竈前方部の覆土下層から出土している。114 ～ 116 は竈左袖部手前の床面から正位で出土している。122 は竈の前方部の床面と火床面から出土した破片が接合したものである。118･120 は北西部の覆土下層から正位で出土している。117・119 は正位で，123・DP23 は横位で，北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。124 は北東部の覆土下層からそれぞれ斜位で出土している。121 は貯蔵穴の覆土下層から斜位で出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 44 図　第 3050 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 45 図　第 3050 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

第 3050 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 44・45 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
114	土師器	坏	12.9	4.7	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	100% PL24
115	土師器	坏	13.1	5.0	−	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	98% PL24
116	土師器	坏	13.7	4.8	−	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	98% PL24
117	土師器	坏	12.2	4.6	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95% PL24
118	土師器	坏	[13.7]	4.4	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ナデ	覆土下層	90% PL24
119	土師器	坏	12.3	4.9	−	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90% PL24
120	土師器	坏	[13.4]	5.6	−	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ後，ミガキ	覆土下層	80%
121	土師器	椀	12.1	11.3	8.0	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後ナデ　内面ナデ後，ミガキ　器面磨滅	貯蔵穴覆土下層	90% PL24
122	土師器	甕	17.2	33.6	8.4	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ後，斜位のミガキ　内面ナデ	火床面・床面	50%
123	土師器	小形甕	17.2	16.5	8.0	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面斜位のナデ	覆土下層	50% PL24
124	土師器	甑	27.0	25.5	11.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90% PL24

番号	器 種	最小径	最大径	高さ	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP23	支脚	4.6	15.0	16.3	(1,877.5)	長石・石英・赤色粒子	ナデ　指頭痕　基部一部欠損　２か所に未貫通の穿孔	覆土下層	烏帽子型 PL29

第 3051 号竪穴建物跡（第 46・47 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ９h5 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3042・3046 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.28 ｍ，短軸 3.67 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 78 °－Ｗである。壁高は 25 ～ 28cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。中央部から南部にかけての広い範囲で炭化材を確認した。

炉　中央部に付設されている。長径 65cm，短径 58cmの楕円形で，深さ 10cmの地床炉である。炉床は 10cmほど掘りくぼめ，第２・３層を埋土して構築されており，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物中量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 17 ～ 29cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４･Ｐ５は深さ 26cm･25cmで，東壁際中央部に位置し，硬化面の広がりから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・Ｐ７は深さ 21cm・54cmで，性格不明である。

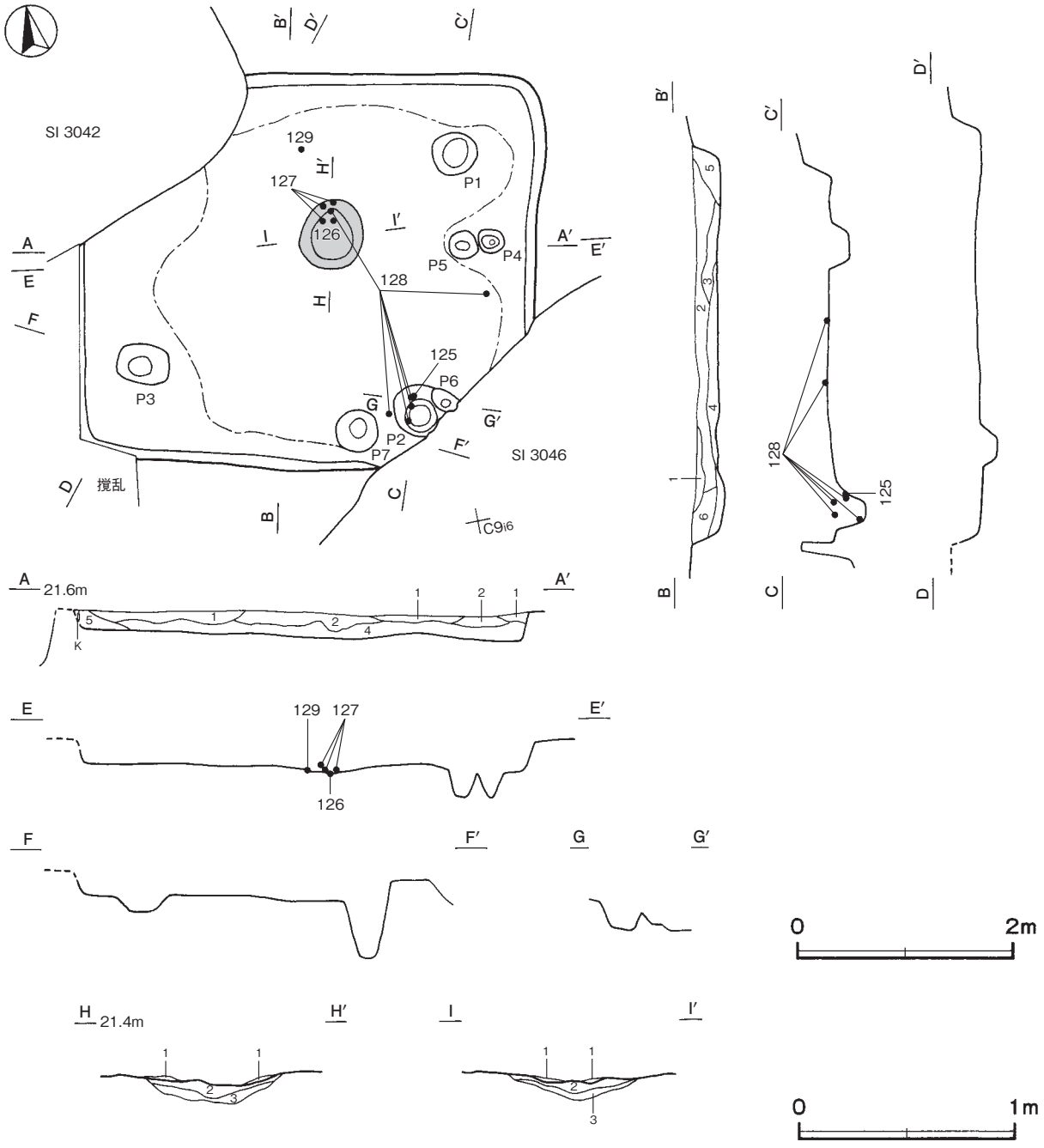
覆土　６層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

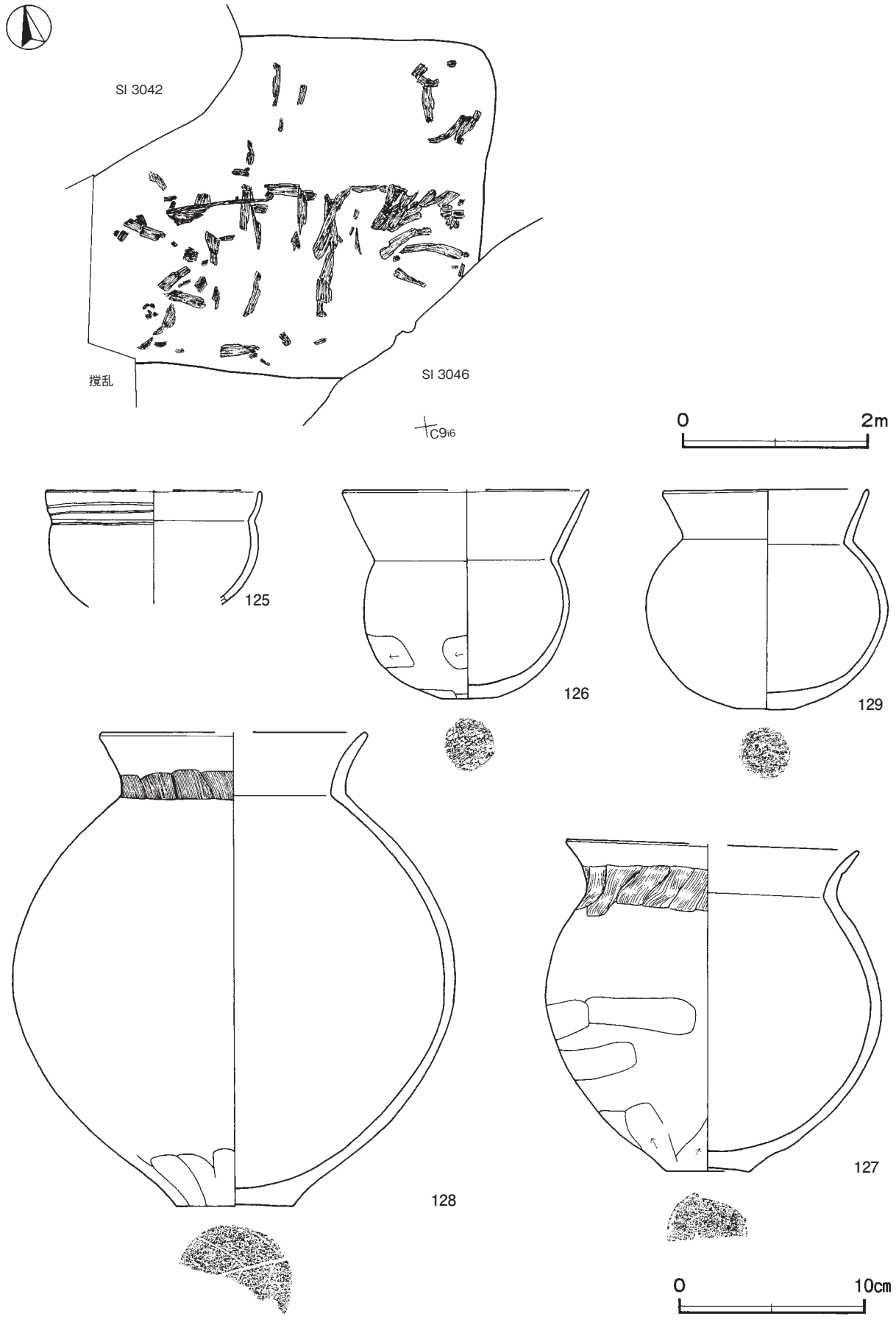
1　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化物中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物中量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物多量，ローム粒子中量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 82 点（坏４，椀１，坩１，甕 75，小形甕１），鉄器２点（刀子，鏃）が出土している。126・127 は炉の火床面から横位で出土している。129 は北部床面から横位で出土している。125 はＰ２の覆土上層から出土している。128 はＰ２の覆土上層から下層，炉の火床面，南東部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から４世紀後葉に比定できる。炭化材が床面全域に点在していることから，廃絶に伴って焼却していると考えられる。



第 46 図　第 3051 号竪穴建物跡実測図



第 47 図　第 3051 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3051 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
125	土師器	椀	［11.6］	(6.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ後，３条の線刻　体部外・面ヘラナデ	P2 覆土上層	10%
126	土師器	坩	［13.3］	11.3	2.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ磨滅のため調整不明瞭	火床面	40% PL22
127	土師器	甕	［15.7］	17.9	［4.5］	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　頸部外面ハケ目　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	火床面	40%
128	土師器	甕	［14.3］	25.6	6.4	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　頸部外面ハケ目　体部外面ハケナデ後，下端縦位のヘラ削り　内面ナデ	火床面・床面・P2 覆土下～上層	30%
129	土師器	小形甕	11.1	11.9	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	床面	95% PL22

第 3058 号竪穴建物跡（第 48 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＤ 9c4 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3076 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

確認状況　上面が削平され，床面が露出した状態で確認した。

規模と形状　本跡は北部を除いて調査区外に延びているため，全体は不明であり，南北軸 3.20 ｍ，東西軸 5.20 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 20 °－ Ｗである。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から深さ５～８㎝掘り込み，ロームブロック主体の第１・２層を埋土し，厚さ５～８㎝に踏み固めて構築されている。壁下には，幅 17 ～ 24㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁に付設されている痕跡のみを検出した。規模は，焚口部から煙道部まで 140㎝で，燃焼部幅は 50㎝である。袖部の構築は確認できなかった。火床部は床面を５㎝ほど掘り込み，第１層を埋土して構築し，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 95㎝掘り込まれている。第２・３層は燃焼部掘方への埋土である。

竈土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 83㎝・85㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ 27㎝で，位置から壁柱穴と考えられる。

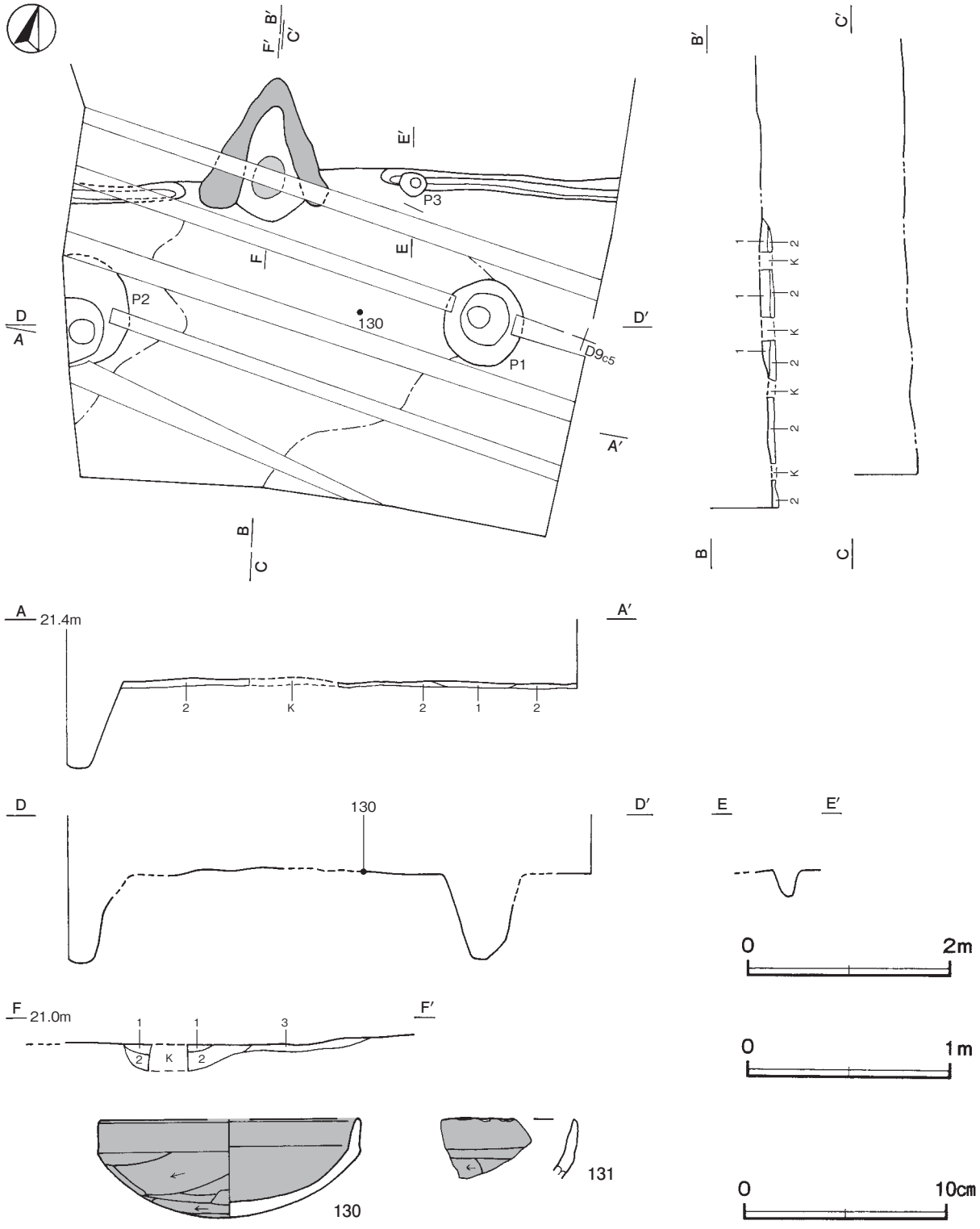
覆土　覆土は，確認できなかった。第１・２層は貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 59 点（坏 10，甕 49）が北部から出土している。130 は中央部の床面から，131 はＰ１の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。



第 48 図　第 3058 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3058 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 48 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
130	土師器	坏	[12.8]	4.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	60％
131	土師器	坏	－	(3.0)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	P1 覆土中	5％

表２　古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
2009	C9e9	N－10°－W	方形	5.85 × 5.70	4～9	平坦	－	4	1	2	竈２	－	人為	土師器片，土製品	７C 前葉	本跡→ SB549, SD113
2022	C9a5	N－8°－W	方形	5.24 × 5.16	33～36	平坦	ほぼ全周	4	1	2	竈１	1	人為	土師器片，須恵器，土製品，鉄製品，鉄滓	６C 後葉	
2028A	D9a9	N－28°－W	方形	5.15 × 5.05	50～55	平坦	全周	4	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	６C 後葉	SI2028B・2061→本跡→ SB303・550・552
2028B	D9a9	N－28°－W	［方形・長方形］	(2.25 × 1.58)	－	平坦	－	1	－	－	竈１	－	人為	石製品	６C 中～後葉	本跡→ SI2028A,SB550・552
2145	B13a9	N－5°－E	［方形］	(6.00) × 6.00	20～40	平坦	ほぼ全周	4	1	2	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，石器	７C 前葉	本跡→ SD120
2245	C9c9	N－19°－W	方形	3.80 × 3.80	16～28	平坦	ほぼ全周	3	－	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品	７C 前葉	本跡→ SB548
2247	A9j7	N－23°－W	方形	4.70 × 4.70	48～53	平坦	全周	4	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片	７C 前葉	本跡→ SK2801
3035	C9b6	N－13°－W	方形	5.10 × 5.10	23～35	平坦	全周	4	1	－	竈１	－	人為	土師器片，土製品，鉄製品	７C 前葉	
3040	C9c5	N－10°－W	方形	4.90 × 4.90	32～53	平坦	全周	4	2	－	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品	６C 後葉	
3042	C9f4	N－17°－W	［方形・長方形］	7.04 × (5.28)	48～52	平坦	ほぼ全周	2	2	1	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	６C 後葉	SI3051→本跡
3044	C9g7	N－18°－W	方形	4.90 × 4.90	32～48	平坦	全周	4	1	－	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄滓，自然遺物	６C 後葉	SI3050→本跡→ SB301
3045A	C9j7	N－23°－W	方形	4.59 × 4.40	13～32	平坦	全周	4	1	32	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器，石製品，鉄製品	７C 前葉	SI3045B・3046→本跡
3045B	C9j7	N－23°－W	方形	4.00 × 3.85	－	平坦	一部	4	1	－	－	－	人為	土製品	７C 前葉	SI3046→本跡→ SI3045A
3046	C9i6	N－33°－W	方形	6.10 × 5.68	30～42	平坦	全周	4	2	30	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器	７C 前葉	SI3051→本跡→ SI3045A・B
3047	C9e6	N－30°－W	方形	5.10 × 5.10	31～36	平坦	全周	4	3	1	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器	６C 後葉	SI3049, SK6584・6587→本跡→SK6566・6585・6586・6588
3049	C9d6	N－22°－W	［方形・長方形］	3.70 × (1.90)	2～5	平坦	－	2	－	－	炉１	－	人為	土師器片，石器	４C 後葉	本跡→ SI3047
3050	C9f7	N－30°－W	方形	5.50 × 5.50	30～46	平坦	ほぼ全周	4	1	22	竈１	1	人為	土師器片，土製品	６C 後葉	SK6579→本跡→ SI3044
3051	C9h5	N－78°－W	長方形	4.28 × 3.67	25～28	平坦	－	3	2	2	炉１	－	人為	土師器片，鉄製品	４C 後葉	本跡→ SI3042・3046
3058	D9c4	N－20°－W	［方形・長方形］	(5.20 × 3.20)	－	平坦	一部	2	－	1	竈１	－	－	土師器片	６C 後葉	SI3076→本跡

（2）　掘立柱建物跡

第 548 号掘立柱建物跡（第 49 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ９b7 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2245 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

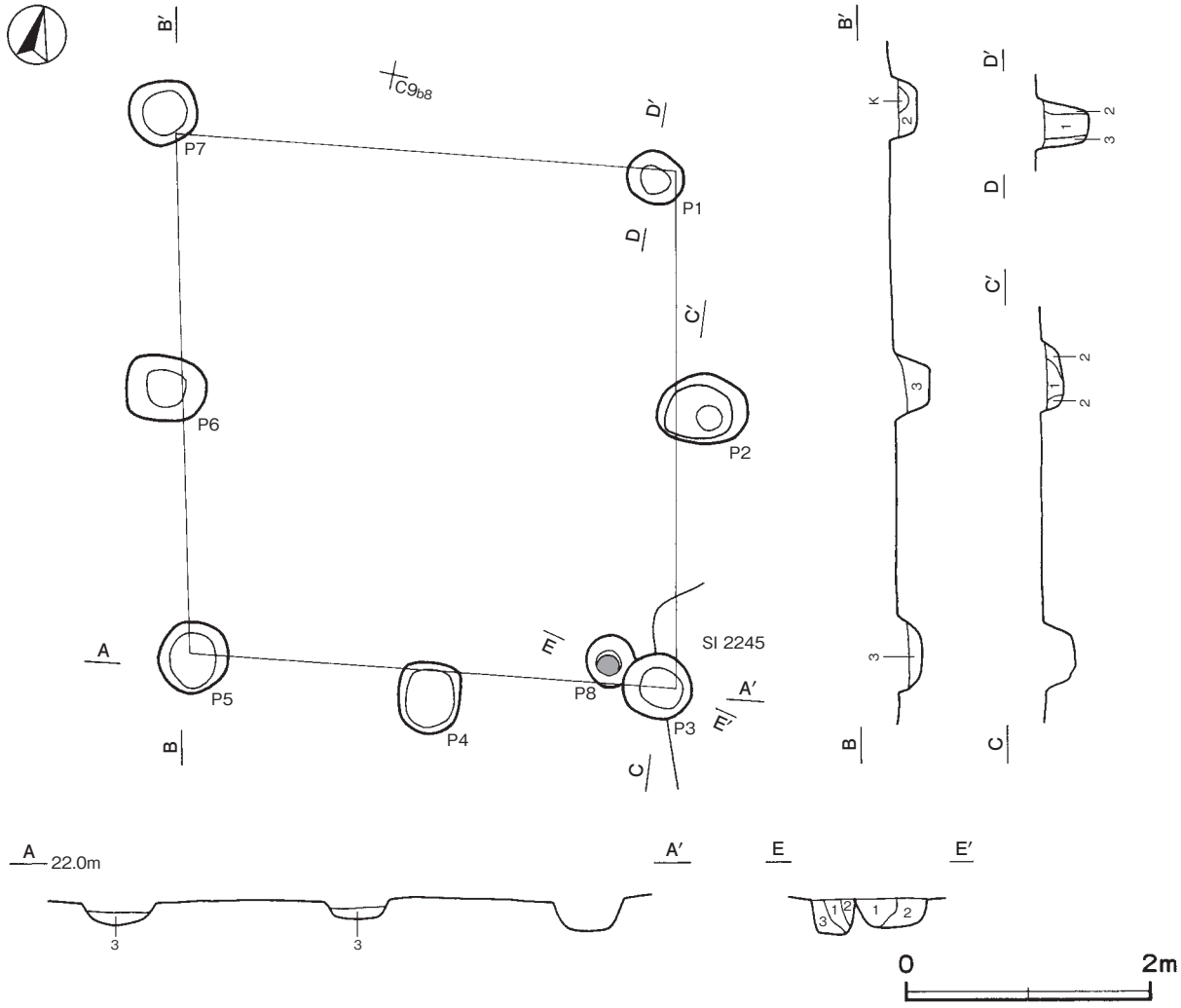
規模と構造　桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－13°－Ｗの南北棟である。規模は，桁行 4.2 ｍ，梁行 4.0 ｍで，面積は 16.8㎡である。柱間寸法は，桁行が 2.1m（７尺），梁行は 2.0m（6.7 尺）である。柱筋はほぼ揃っているが，ややいびつである。

柱穴　８か所。平面形は円形または楕円形で，長径 44～76㎝，短径 38～57㎝である。深さは 15～45㎝である。第１層は柱抜き取り後の堆積層，第２・３層は埋土である。Ｐ８は，柱抜き取り痕や柱のあたりが明確であるが，本跡に伴うものかは不明である。

土層解説（各柱穴共通）
１　暗　褐　色　ローム粒子少量
２　褐　　色　ロームブロック中量
３　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片６点（甕）がＰ３の埋土から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器及び本跡の西側に位置する第 2022・3035 号竪穴建物跡の軸方向から，６世紀後葉と考えられる。性格は倉庫と考えられる。



第 49 図　第 548 号掘立柱建物跡実測図

2　奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 10 棟，掘立柱建物跡 6 棟，方形竪穴遺構 1 基，溝 2 条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 2136 号竪穴建物跡　（第 50 図）

調査年度　竈を含む北部は平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。南部は平成 22 年度に調査した。

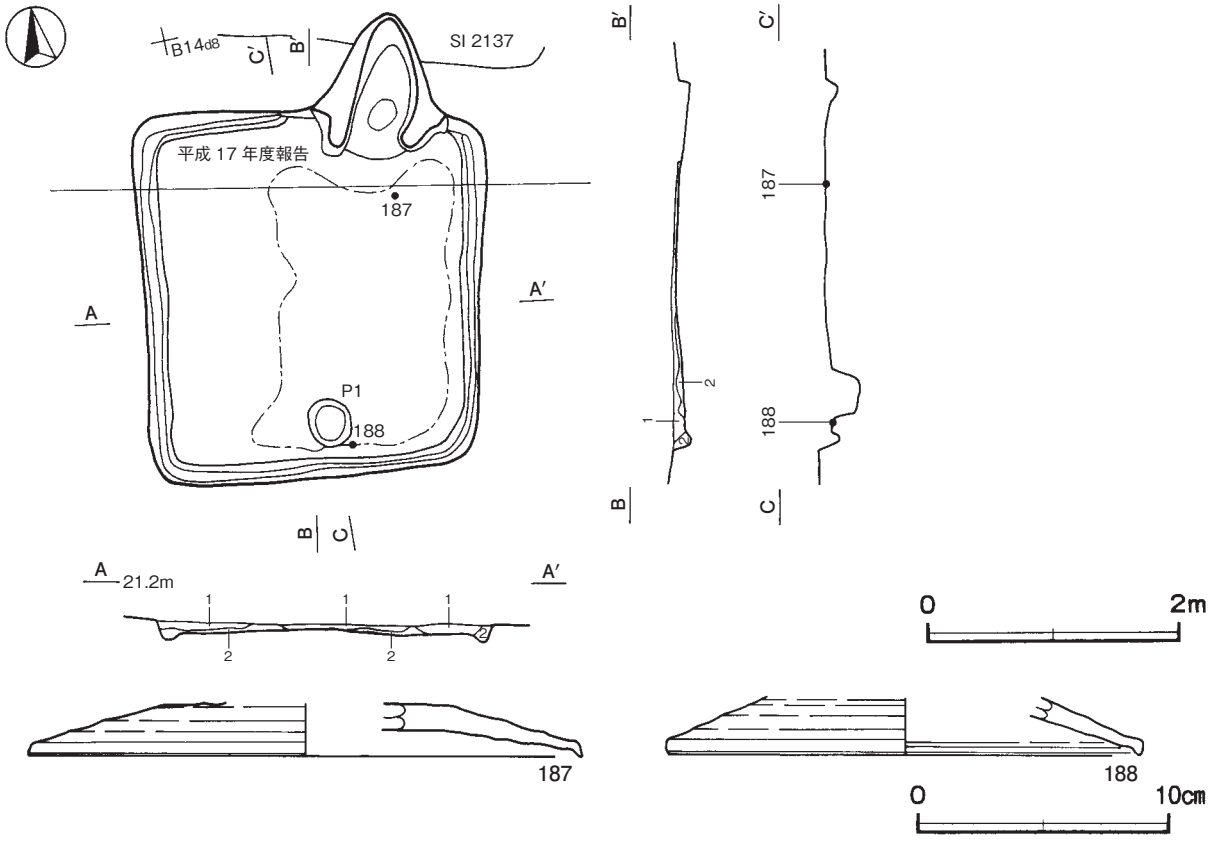
位置　13 区北東部の B14d8 区，標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2137 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 2.95 m，短軸 2.69m ほどの方形で，主軸方向はＮ－ 10 °－ Ｅである。壁高は 10 ～ 13㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，東半部が踏み固められている。壁下には，幅 12 ～ 18㎝，深さ 4 ～ 6 ㎝で，U 字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁東部に付設されている。『第 264 集』を参照されたい。



第 50 図　第 2136 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット　深さ 23㎝で，南壁際の中央部に位置し，硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　２層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 20 点（坏１，甕 19），須恵器片 10 点（坏４，蓋２，甕４），鉄製品２点（釘）が出土している。187 は北東部，188 は中央部南寄りの床面から出土している。

所見　時期は，『第 264 集』では出土土器と重複関係から９世紀前葉と報告されているが，平成 22 年度の調査で出土土器から，８世紀後葉に比定できる。

第 2136 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 50 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
187	須恵器	蓋	［22.0］	(2.1)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	20%
188	須恵器	蓋	［18.6］	(2.3)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	外・内面ロクロナデ	床面	５%

第 2138A 号竪穴建物跡（第 51・52 図）

調査年度　北部の大半は平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。南壁際部は平成 22 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分も新しい番号に更新した。

位置　13 区北東部の B14c4 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2138B 号竪穴建物跡の上面に構築されている。

規模と形状　長軸 3.58 m，短軸 3.00 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 18゜－ Ｅである。壁高は 24 ～ 28㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は平成 22 年度調査では確認できなかった。壁下には，幅 12 ～ 25㎝，深さ４～ 11㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。『第 264 集』を参照されたい。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さは６～ 19㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ８㎝で南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。『第 264 集』を参照されたい。

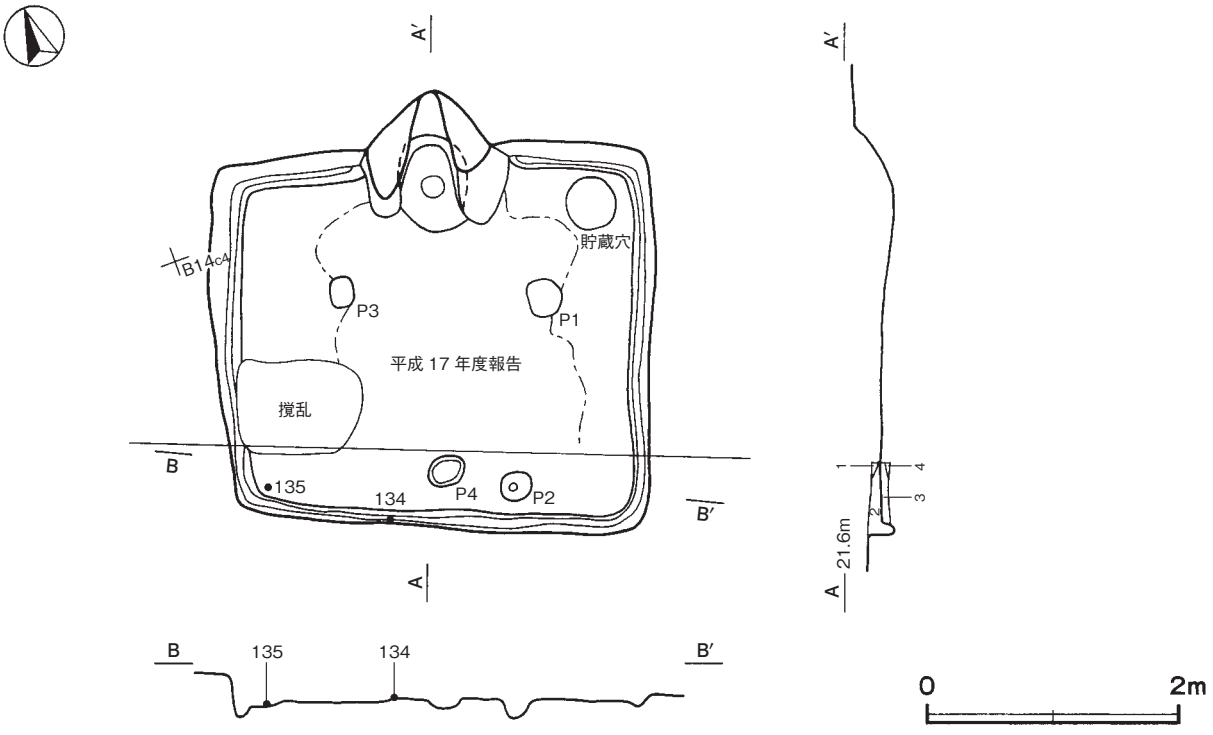
覆土　２層に分層できる。第１・２層が不規則な堆積状況や『第 264 集』から，埋め戻されている。第３・４層は貼床の構築土である。

土層解説

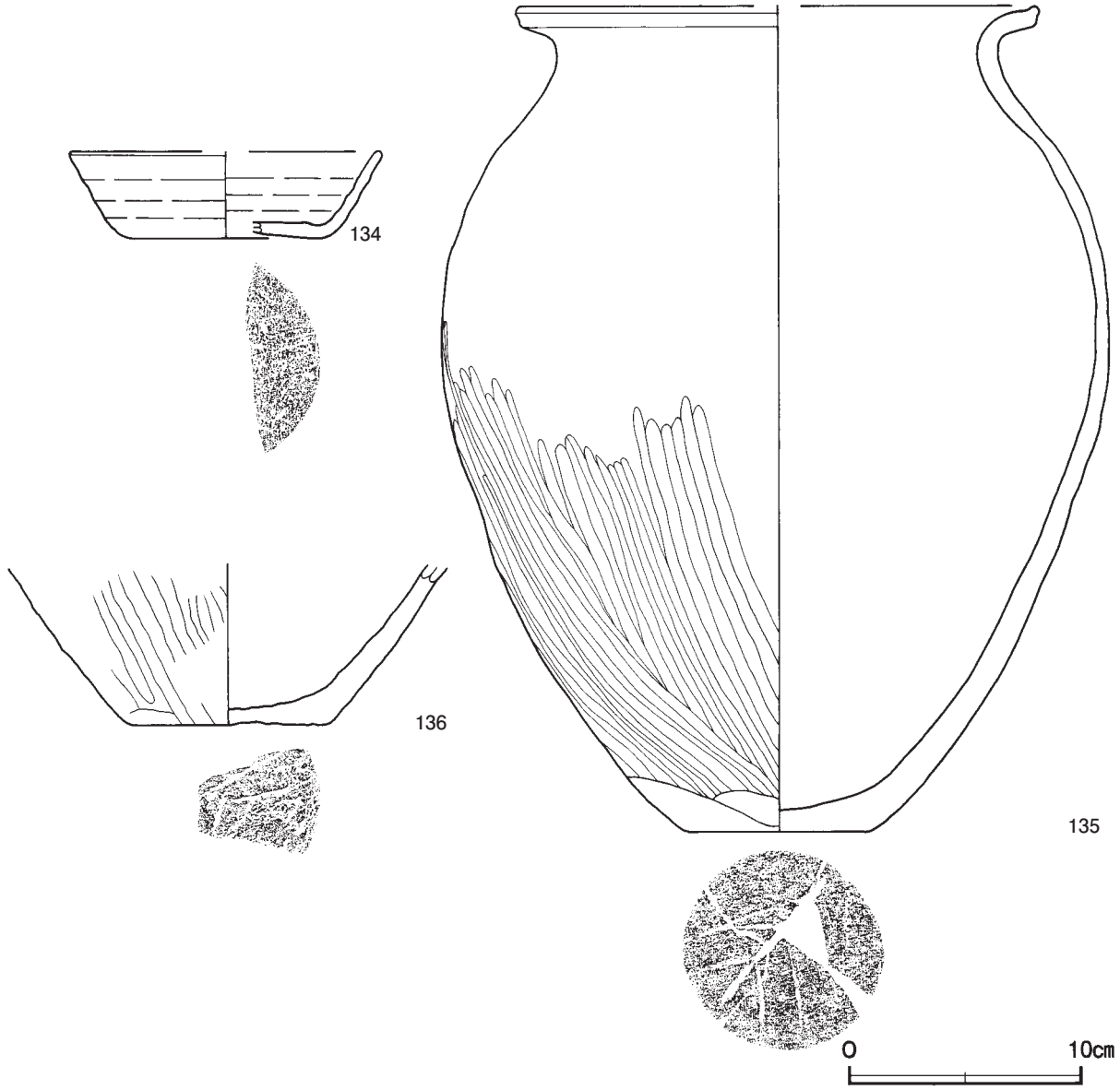
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子中量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 33 点（坏 1，甕 32），須恵器片３点（坏２，甕１），鉄製品１点（釘）が，南部からそれぞれ出土している。134 は南部壁際の覆土下層から，135 は南西コーナーの床面から口縁部を下に斜位で出土している。136 は覆土中から出土している。

所見　時期は，『第 264 集』及び出土土器から８世紀中葉に比定できる。床下から，やや規模の小さい第 2138B 号竪穴建物跡を確認したことから，本跡は，第 2138B 号竪穴建物跡を拡張している。北部の大半の状況については『第 264 集』を参照されたい。



第 51 図　第 2138A 号竪穴建物跡実測図



第 52 図　第 2138A 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2138A 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 52 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
134	須恵器	坏	［13.4］	3.7	［8.8］	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	30%
135	土師器	甕	［22.4］	35.4	8.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ後，ミガキ　下端ヘラ削り　内面ナデ	床面	60%
136	土師器	甕	－	(6.7)	(8.4)	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，ミガキ　内面ナデ，底部木葉痕	覆土中	10%

第 2138B 号竪穴建物跡（第 53 図）

調査年度　平成 22 年度

位置　13 区北東部の B14c4 区，標高 21 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　上面に第 2138A 号竪穴建物が構築されている。

確認状況　第 2138A 号竪穴建物の床下から検出された。第 2138A 号竪穴建物の北部は平成 15 年度調査しているが，第 2138B 号竪穴建物跡は未確認である。

規模と形状　長軸 2.99 m，短軸 2.76 mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 18゜－ Ｅである。

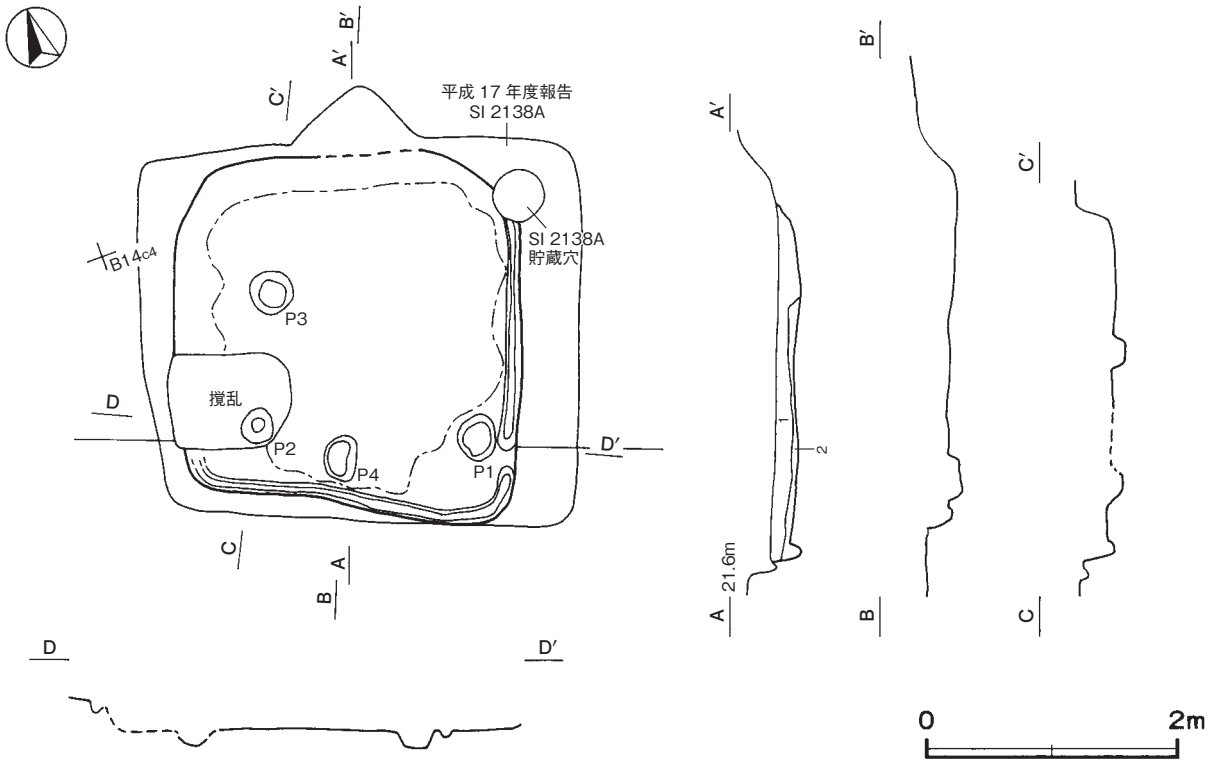
床　平坦で，壁際まで踏み固められている。東壁から南壁にかけての壁下には，幅８～ 13cm，深さ３～５cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 13 ～ 14cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ 14cmで，南壁際の中央部に位置し，硬化面の広がりから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　２層に分層できる。第 2138A 号竪穴建物を構築する際に埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量　　2　明　褐　色　ローム粒子中量

所見　時期を特定できる遺物は出土していないが，第 2138A 号竪穴建物より古い８世紀中葉以前と考えられる。



第 53 図　第 2138B 号竪穴建物跡実測図

第 2140 号竪穴建物跡（第 54・55 図）

調査年度　竈を含む北部は平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。南部の大半は平成 21 年度に調査している。

位置　13 区北東部の B14b1 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3034 号竪穴建物跡を掘り込み，第 2139 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 3.40 mほどの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 7゜－ Ｅである。壁高は 32 ～ 40cmで，ほぼ直立

している。

床　平坦な貼床で中央部が踏み固められている。貼床は確認面から深さ 28 ～ 40cm掘り込み，ロームブロック主体の第 11 層を埋土し，厚さ５～７cmに踏み固めて構築されている。壁下には，幅 13 ～ 28cm，深さ５～８cmで，U 字形の壁溝が巡っている。

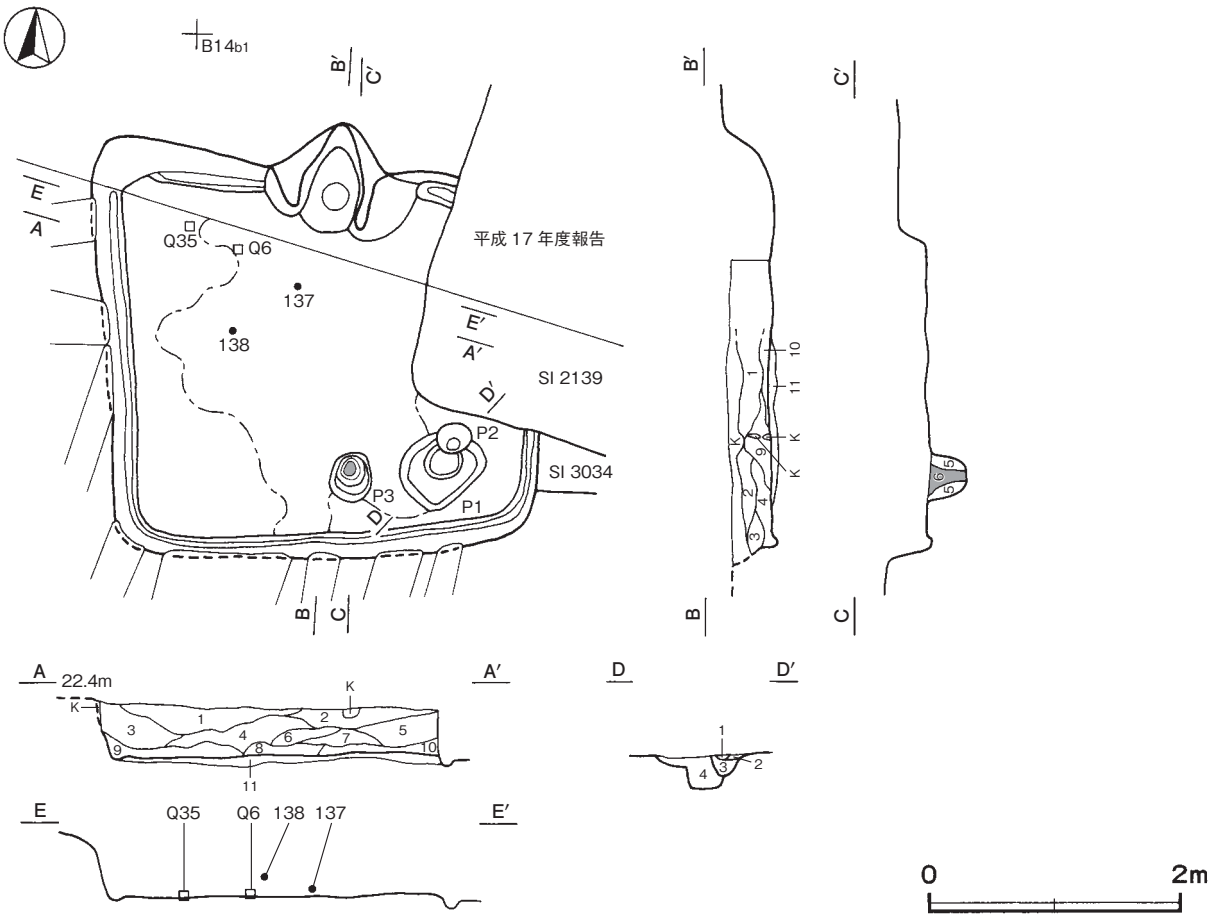
ピット　３か所。P ２は深さ 27cmで，P １を掘り込んでいるが，性格不明である。P １は深さ 28cmで，位置から主柱穴と想定される。P ３は深さ 31cmで，南壁際の中央部に位置していること，硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P ３からは柱のあたりを確認した。第６層は柱痕で，その他は埋土である。

P1・P2・P3 土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量	4　褐　　色　ローム粒子多量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量	5　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量	6　暗　褐　色　ロームブロック多量

竈　北壁中央部に付設されている。『第 264 集』を参照されたい。

覆土　10 層に分層できる。ブロック状で不規則な堆積状況から埋め戻されている。第 11 層は貼床の構築土である。



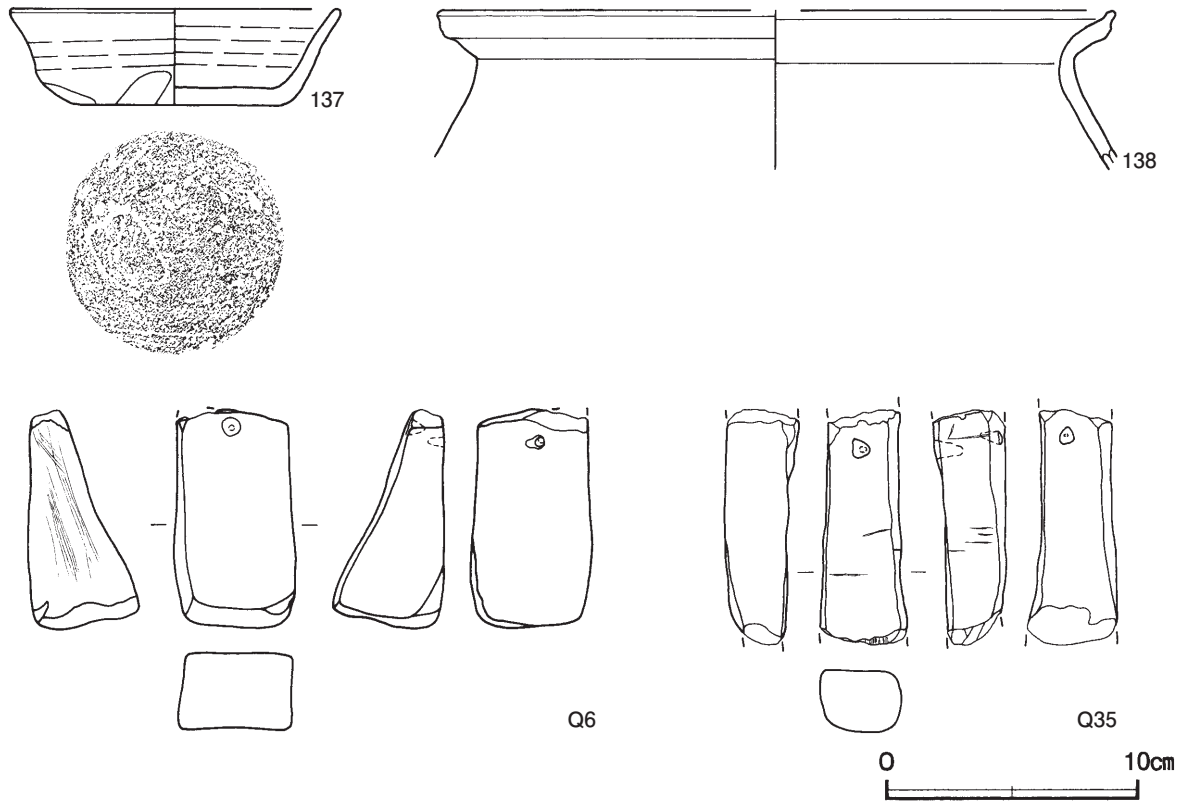
第 54 図　第 2140 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子多量
10　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
11　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 105 点（坏 12，甕 93），須恵器片３点（坏），石器２点（砥石）が出土している。137 は中央部の覆土下層から斜位で，138 は中央部の覆土中層から，Ｑ６・Q35 は北西部の床面から出土している。

所見　時期は，『第 264 集』では出土土器と重複関係から７世紀代と報告されているが，平成 21 年度の調査で出土土器から，８世紀前葉に比定できる。竈を含む北部の状況については，『第 264 集』を参照されたい。



第 55 図　第 2140 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2140 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
137	須恵器	坏	13.1	3.8	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	70%　PL25
138	土師器	甕	[26.8]	(6.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	覆土中層	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q６	砥石	(8.7)	4.8	4.5	(16.7)	凝灰岩	全面研磨　２穿孔　未貫通	床面	PL30
Q 35	砥石	(9.3)	3.5	2.9	(130.2)	凝灰岩	全面研磨　２穿孔　未貫通	床面	

第 3036 号竪穴建物跡　（第 56・57 図）

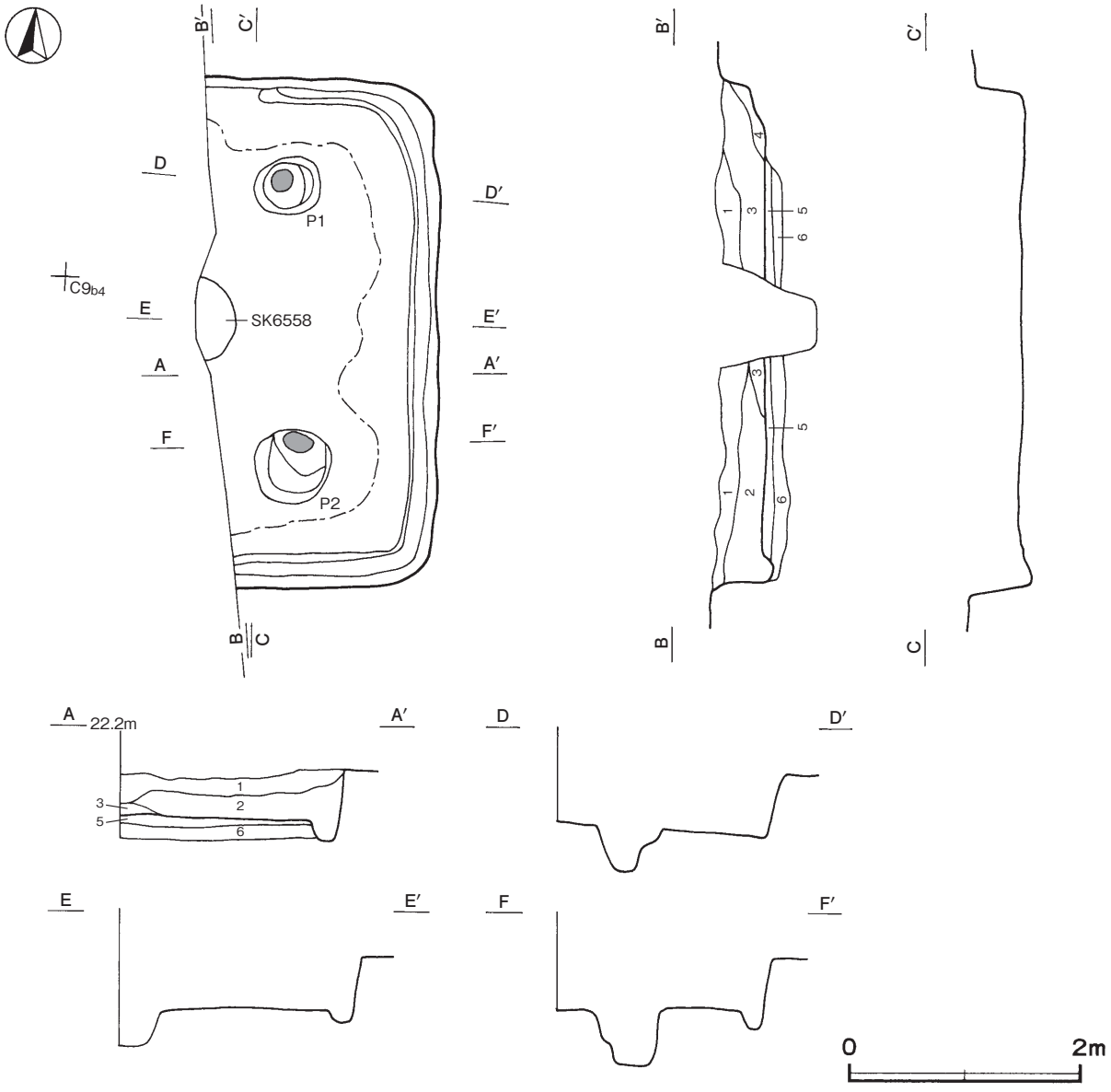
調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ 9a4 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 6558 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西半部は調査区域外に延びているため，南北軸は 4.40 ｍで，東西軸は 2.06 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測でき，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は 40 ～ 45cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 55 ～ 60cm掘り込み，ロームブロック主体の第５・６層を埋土し，深さ８～ 10cm踏み固めて構築されている。壁下には，幅 22 ～ 30cm，深さ 12 ～ 16cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。



第 56 図　第 3036 号竪穴建物跡実測図

覆土　４層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第５・６層は貼床の構築土である。

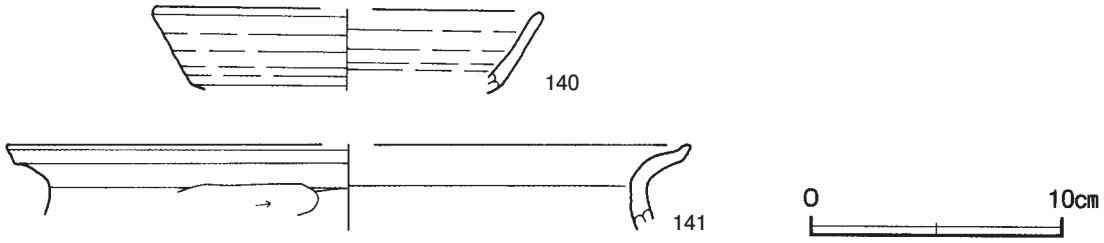
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 39cm・50cmで，規模と配置から主柱穴である。底面から柱のあたりを確認した。

遺物出土状況　土師器片 131 点（坏 20, 甕 111), 須恵器片 14 点（坏５, 甕９), 鉄器１点（鎌）が出土している。140・141 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第 57 図　第 3036 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3036 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
140	須恵器	坏	[15.3]	(3.2)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	20%
141	土師器	甕	[27.8]	(3.4)	－	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	10%

第 3041 号竪穴建物跡（第 58・59 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区東部のＣ９d4 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 553 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　西半部が調査区域外に延びているため，南北軸は 3.81 ｍで，東西軸は 2.93 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測され，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁高は 45 ～ 50cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 26 ～ 32cm，深さ８～ 10cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 137cmで，燃焼部幅は 36cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を主体とした第 10 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は 18cmほど掘り込み，第８・９層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受け，赤変硬化している。煙道部は壁外に 70cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量, 炭化物少量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

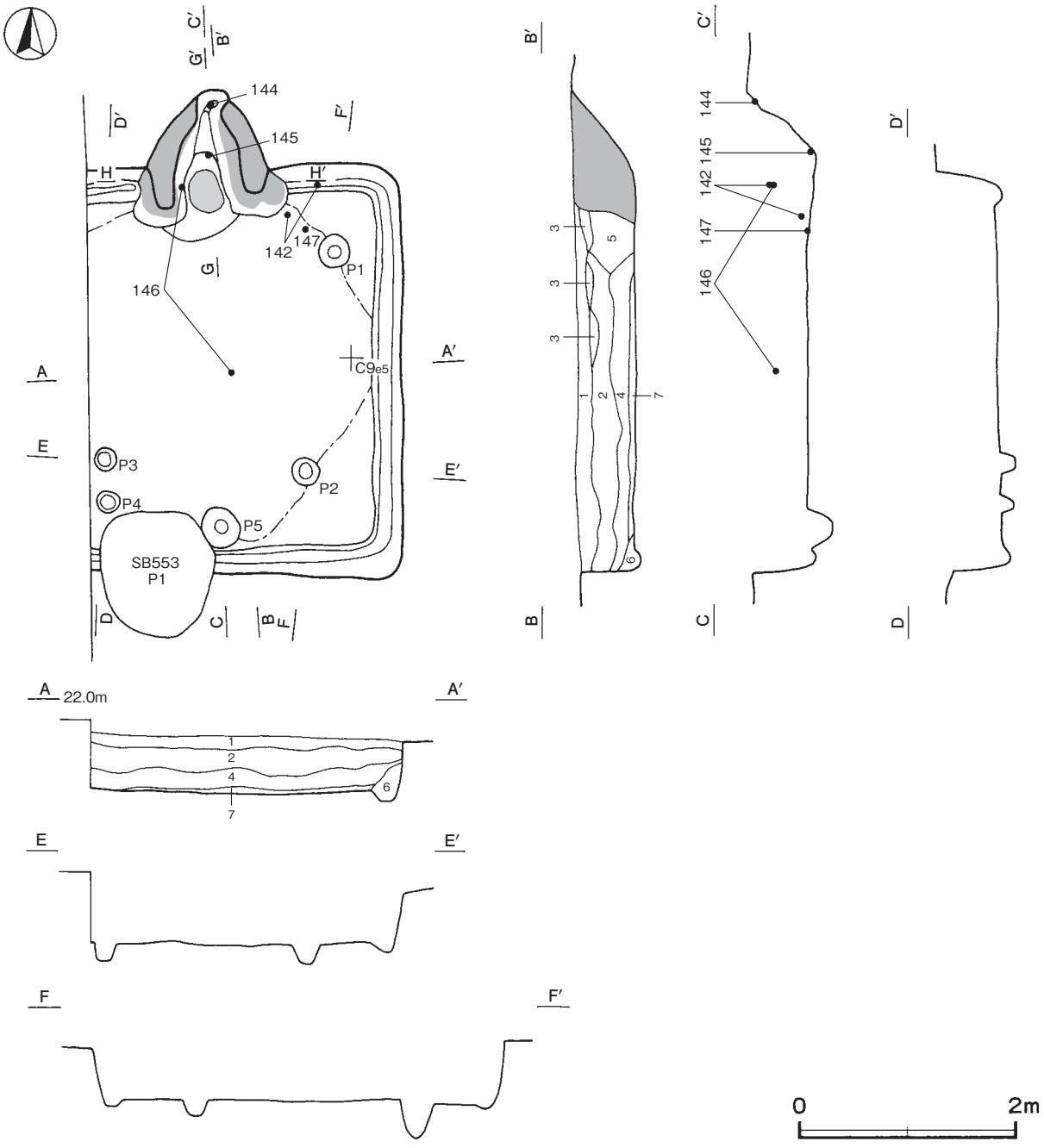
9　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック微量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化物微量
11　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
12　暗　褐　色　砂質粘土ブロック多量
13　暗　褐　色　砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ17～30cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ26cmで，南壁際の中央部に位置し，硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４は深さ18cmで，性格不明である。

覆土　７層に分層できる。全ての層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

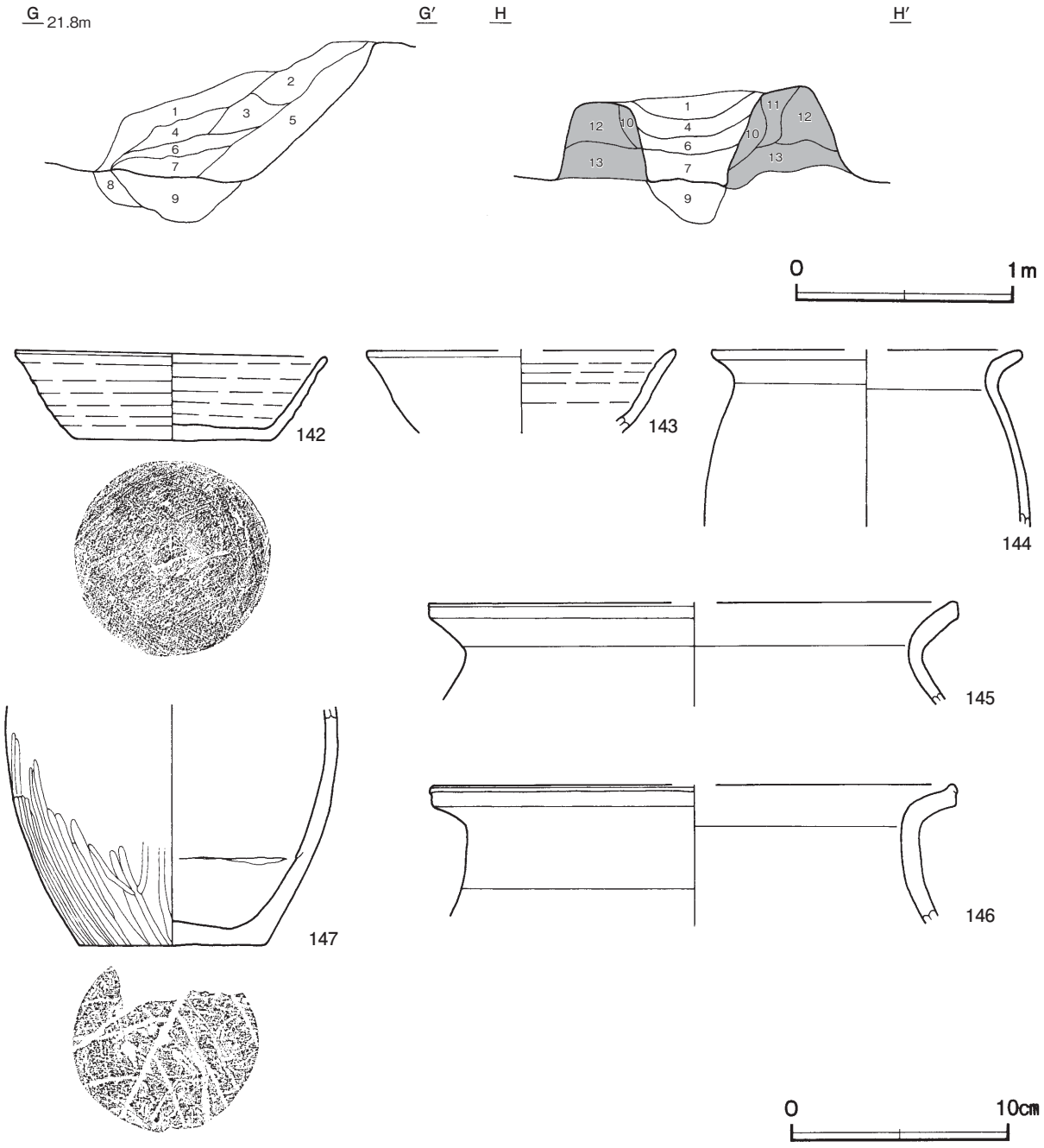
1　にぶい褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
3　褐　　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
5　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量



第 58 図　第 3041 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 467 点（坏 63，甕 404），須恵器片 18 点（坏 13，甕 5），土製品 1 点（支脚），鉄製品 4 点（釘）が，北部を中心に覆土中層から床面にかけて出土している。147 は竈の右袖付近の床面から出土している。144 は煙道部の底面から，145 は竈内の覆土下層から出土している。142 は北東部の覆土中層と下層から出土した破片が接合したものである。146 は竈内と中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。143 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第 59 図　第 3041 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3041 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 59 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
142	須恵器	坏	14.5	4.2	9.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	覆土下～中層	95%　PL25
143	須恵器	坏	［14.2］	（3.8）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	20%
144	土師器	甕	［14.4］	（8.2）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	煙道部底面	20%
145	土師器	甕	［24.5］	（4.8）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈内覆土下層	20%
146	土師器	甕	［24.0］	（6.4）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈内覆土中層	20%
147	土師器	甕	－	（11.0）	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のミガキ　内面ナデ　輪積痕	床面	40%

第 3043 号竪穴建物跡（第 60・61 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＤ 9a4 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3059 号竪穴建物跡を掘り込み，第 6711 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.82 ｍ，短軸 4.40 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は８～ 32㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が広く踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 12 ～ 20㎝掘り込み，ロームブロック主体の第４層を埋土し，厚さ３～５㎝に踏み固めて構築されている。壁下には，幅 16 ～ 32㎝，深さ６～ 16㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 110㎝で，燃焼部幅 57㎝である。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土とロームブロックを含む褐色土の第５・６層を積み上げて構築されている。火床部は床面を６㎝ほど掘り込み，第４層を埋土して構築している。火床面の赤変硬化は弱い。煙道部は壁外に 66㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第７・８層は火床の掘方への埋土である。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ロームブロック・粘土粒子中量，炭化物少量
3　極暗赤褐色　砂質粘土ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
5　灰　褐　色　砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物微量
8　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 21 ～ 54㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 21㎝で南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 19㎝で，Ｐ３とＰ４の間に位置しており，規模と位置から補助柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックが全体に含まれていることから，埋め戻されている。第４層は貼床の構築土である。

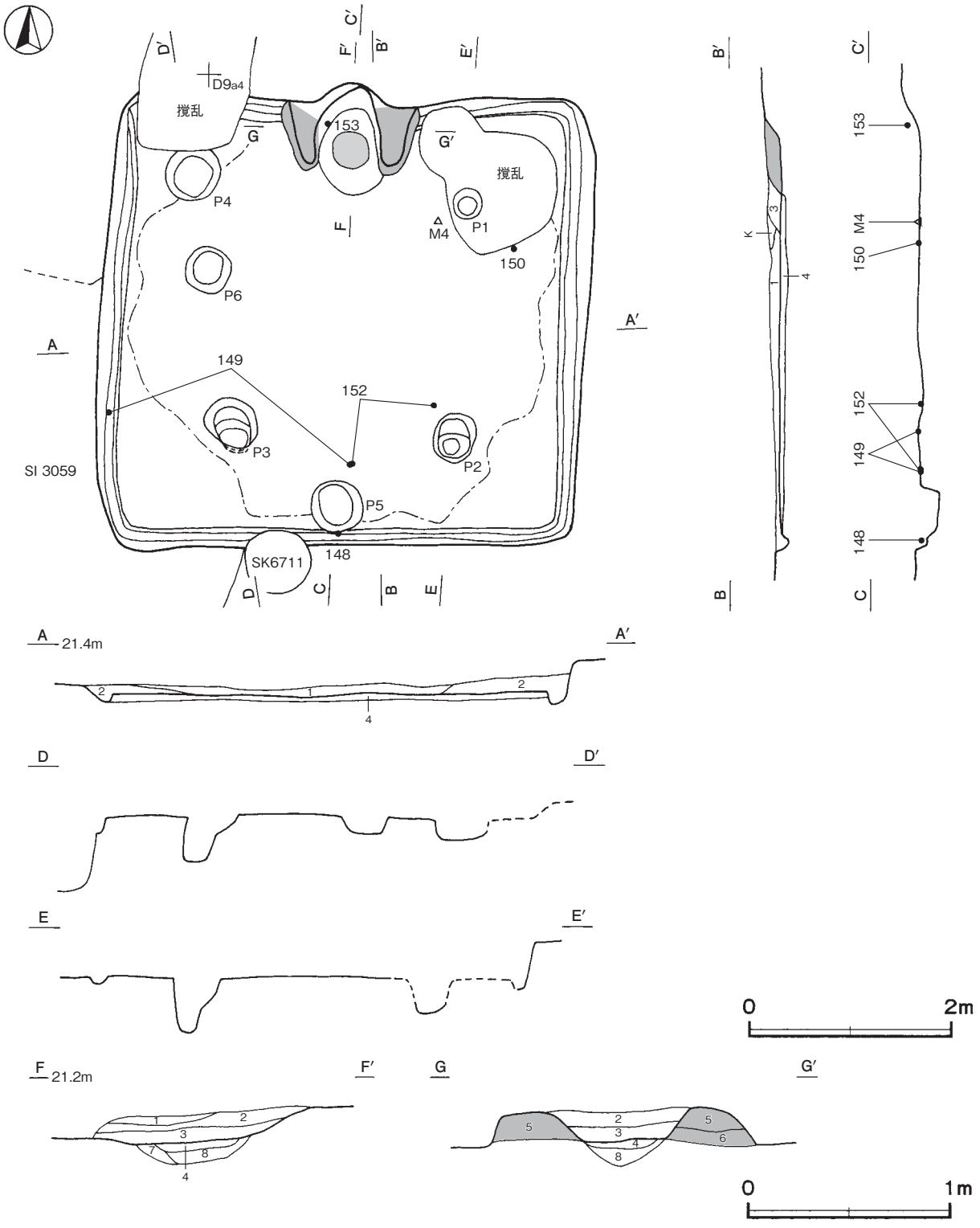
土層解説

1　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

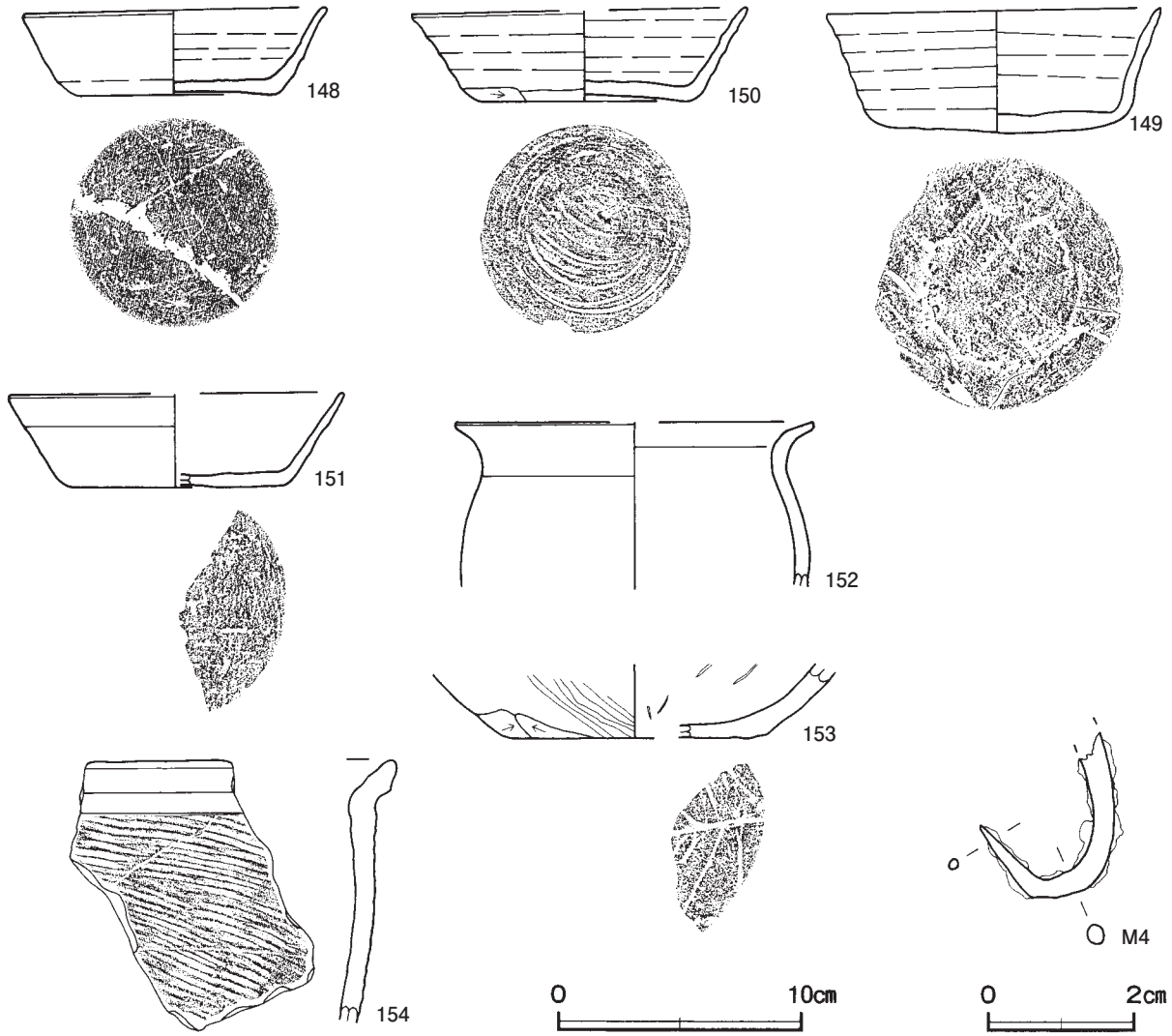
遺物出土状況　土師器片 268 点（坏 26，甕 242），須恵器片 12 点（坏９，甕３），鉄器･鉄製品４点（刀子，鎌，釘，釣針ヵ）が，北東部から南西部の覆土中層から床面にかけて出土している。 149 は南部と南西部の床面から出土した破片が接合したものである。152 は南部の床面から逆位で出土している。150 は北東部の床面から逆位で出土している。Ｍ４は北東部の床面から出土している。153 は竈内の覆土中層から，148 は南部の壁溝

覆土下層から正位で出土している。151・154 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 60 図　第 3043 号竪穴建物跡実測図



第 61 図　第 3043 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3043 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
148	須恵器	坏	12.4	3.6	8.5	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	壁溝覆土下層	90% PL25
149	須恵器	坏	13.7	5.1	10.0	長石・石英	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ切り後，中央部一方向，外周部多方向削り	床面	90%新治 PL25
150	須恵器	坏	［13.8］	3.8	8.8	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転糸切り後，中央部糸切り痕残し，外周部回転ヘラ削り　体部下端手持ちヘラ削り	床面	60% 新治
151	須恵器	坏	［13.7］	3.9	［9.2］	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後，三方向の手持ちヘラ削り	覆土中	40%
152	土師器	甕	［14.8］	(6.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	床面	20%
153	土師器	甕	－	(3.3)	［10.8］	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端ヘラ削り　内面ナデ　木葉痕	竈内覆土中層	10%
154	須恵器	甕	－	(10.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面斜位の平行叩き　内面ナデ	覆土中	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 4	釣針ヵ	(2.2)	(1.9)	0.35	(0.78)	鉄	上端部欠損品	床面	

第 3048 号竪穴建物跡（第 62･63 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区東南部のＣ 9d8 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 6564 号土坑に掘り込まれている。

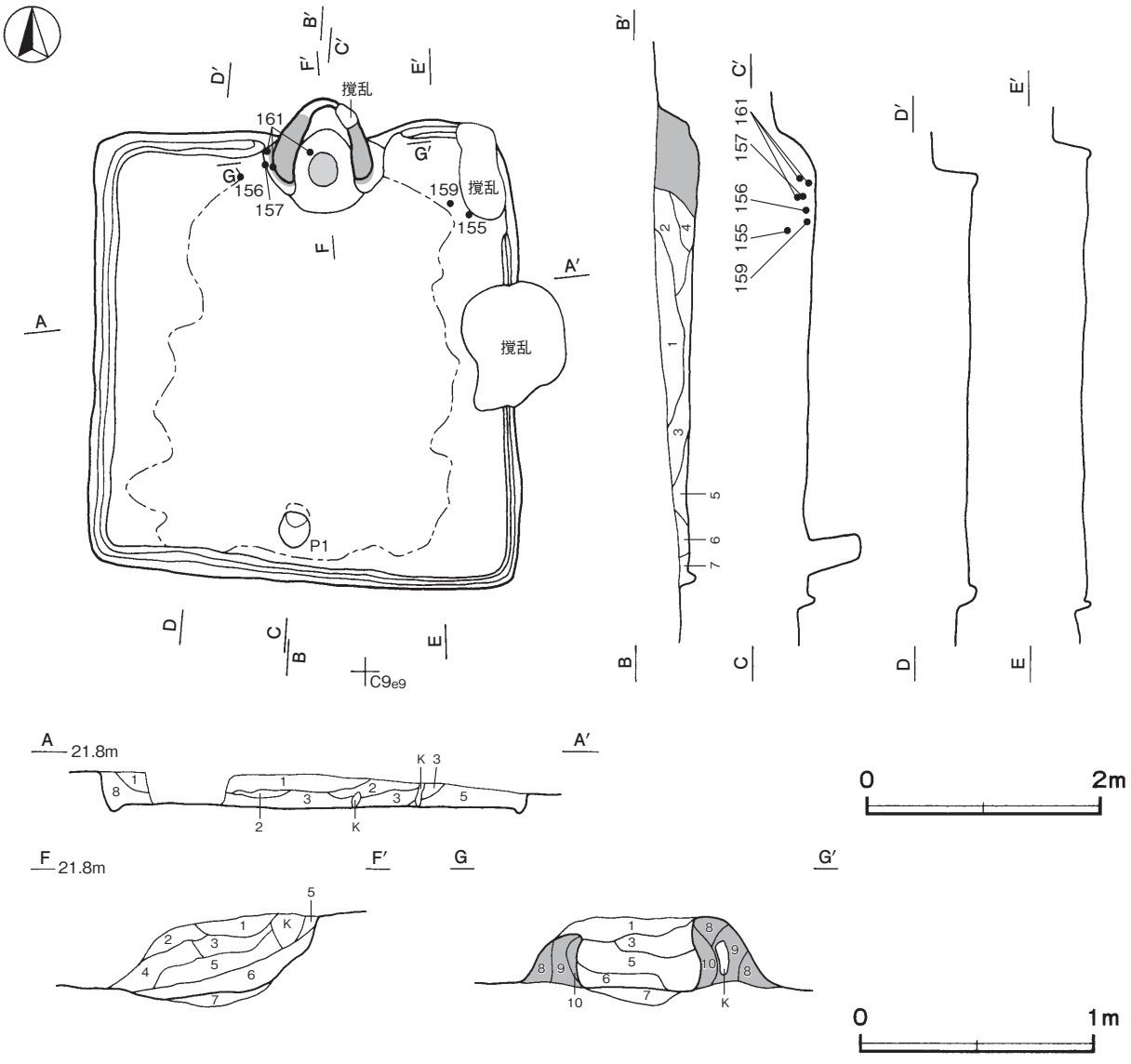
規模と形状　長軸 4.00m，短軸 3.62m ほどの方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は５～ 30㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅９～ 22㎝，深さ４～７㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 98㎝で，燃焼部幅 52㎝である。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土とロームブロックを主体とした第８～ 10 層を積み上げている。第９層を核にして両側と外側に張り付けている。火床部は床面を８㎝ほど掘りくぼめ，第７層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 34㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第６層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子微量	5	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子多量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗　褐　色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子微量	6	褐　　色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3	暗　褐　色	ローム粒子中量，砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
4	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，ローム粒子中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量			



第 62 図　第 3048 号竪穴建物跡実測図

8　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量

ピット　深さ 50㎝で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

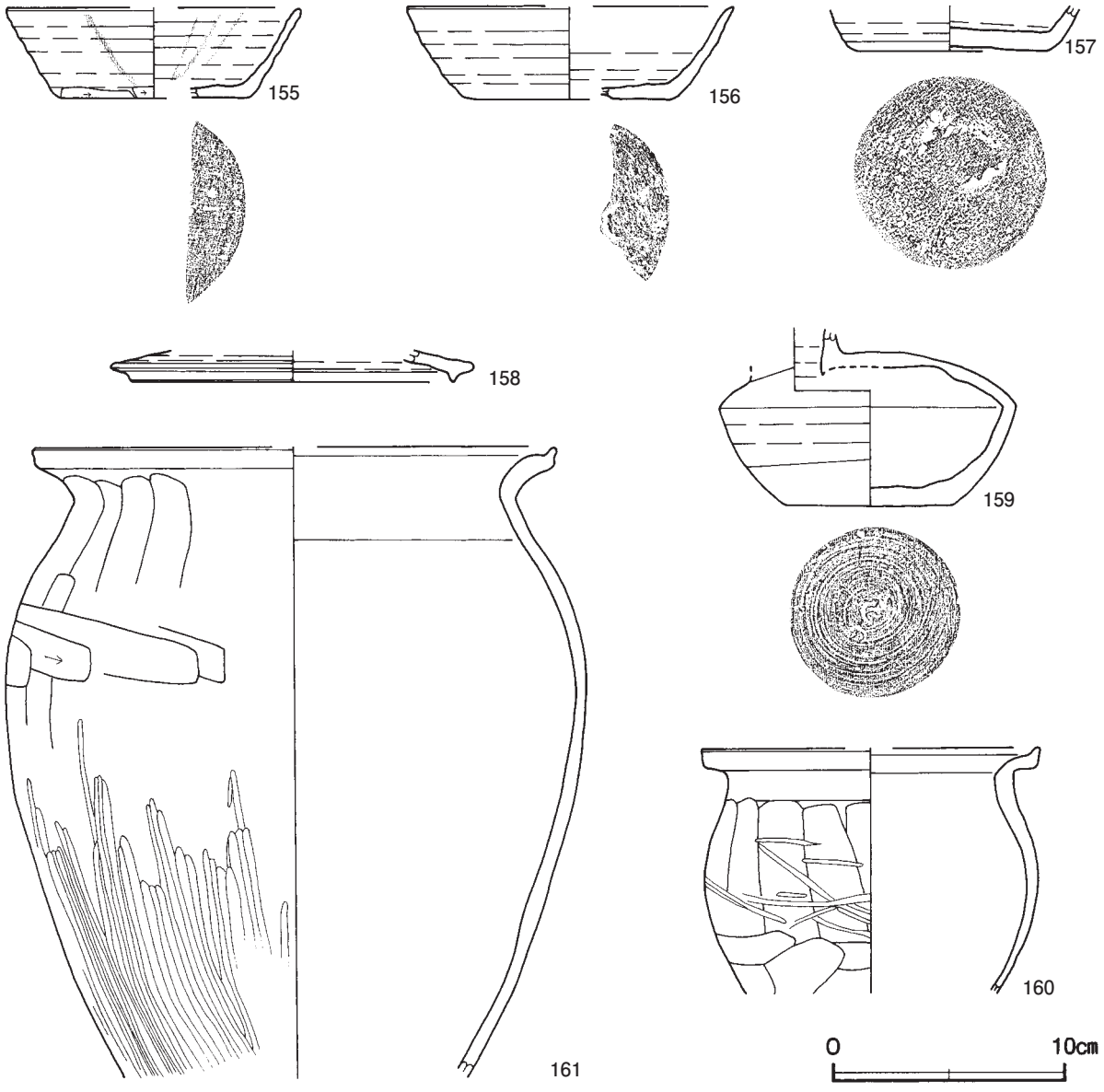
覆土　８層に分層できる。ブロック状で不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，砂質粘土ブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 181 点（坏９，甕 172），須恵器片 20 点（坏 16，蓋１，平瓶１，甕２）が，北部を中心に覆土下層から出土している。156・157 は北部の覆土下層から出土している。159 は北東部の覆土下層から正位で出土している。161 は竈内と竈左袖西側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。155 は北東部の覆土中層から出土している。158・160 は覆土中から出土している。

所見　出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 63 図　第 3048 号竪穴建物跡出土遺物実測図

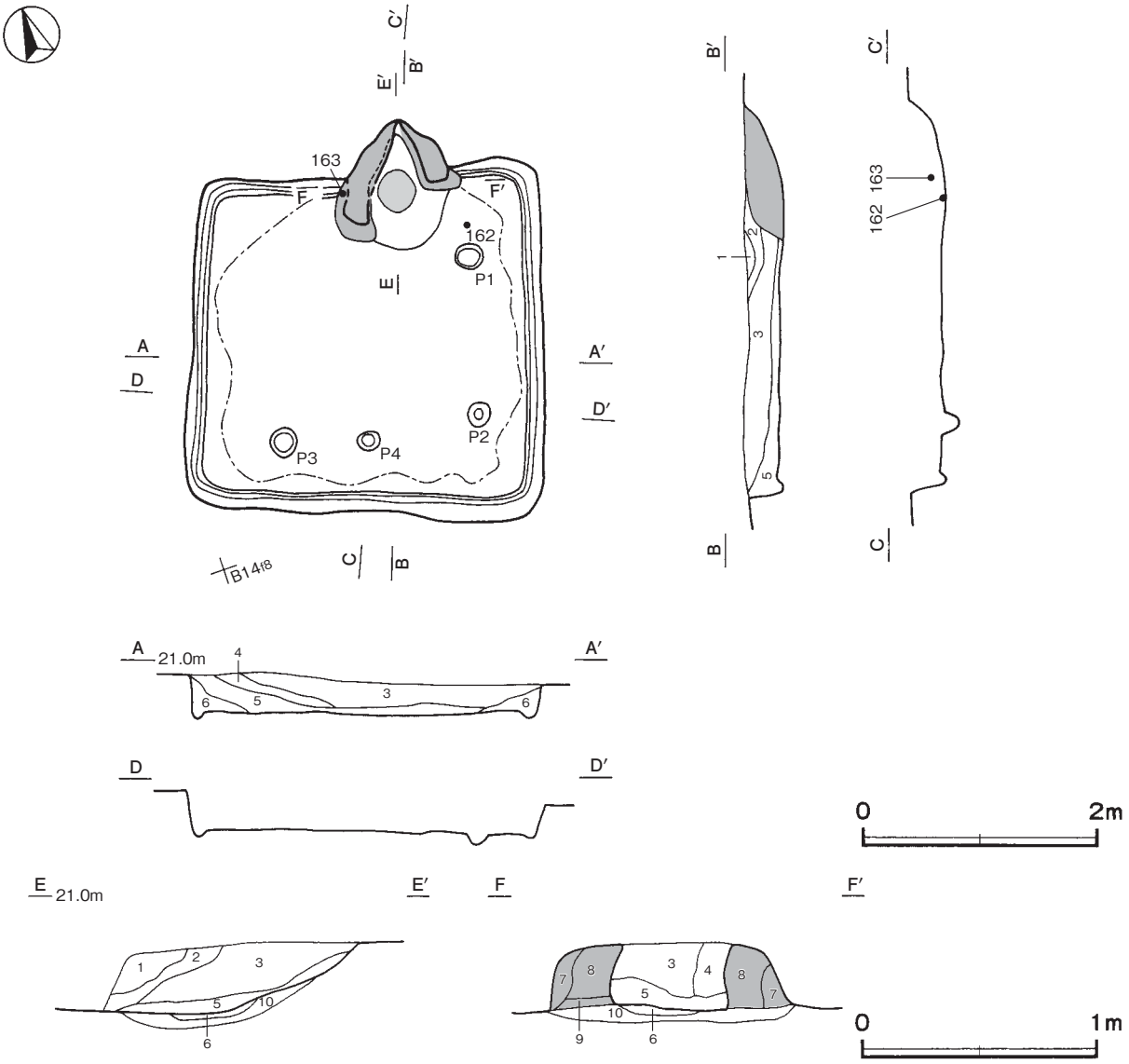
第 3048 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
155	須恵器	坏	[12.6]	3.9	[8.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り　外・内面火襷	覆土中層	20% PL25
156	須恵器	坏	[14.0]	4.0	[9.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り　不調整	覆土下層	20%
157	須恵器	坏	−	(1.9)	8.6	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	30%
158	須恵器	蓋	[15.8]	(1.4)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	5 %
159	須恵器	平瓶	−	(7.6)	7.3	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外面上位回転ロクロナデ　下位回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り痕残す　自然釉	覆土下層	90% PL25
160	土師器	甕	[14.6]	(10.6)	−	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，横位のミガキ　内面ナデ	覆土中	30%
161	土師器	甕	[22.4]	(27.2)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦横位ヘラナデ後，ミガキ　内面ナデ	竈内覆土下層	40%

第 3113 号竪穴建物跡（第 64・65 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北東部の B14e8 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。



第 64 図　第 3113 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　長軸 3.10m，短軸 2.97m ほどの方形で，主軸方向はＮ－ 22゜－ Ｅである。壁高は 22 ～ 35㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には，幅 10 ～ 23㎝，深さ３～７㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 111㎝で，燃焼部幅は 42㎝である。袖部は床面から深さ６㎝ほど皿状に掘りくぼめた部分に第 10 層を埋土して，砂質粘土とロームを主体とした第７～９層を積み上げている。第８層を核に第７層を貼り付けて構築されている。火床部は床面を３㎝ほど掘りくぼめ，第６層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 46㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　灰　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　明 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　灰　褐　色　砂質粘土ブロック中量
9　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ９～ 54㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ 17㎝で南壁の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

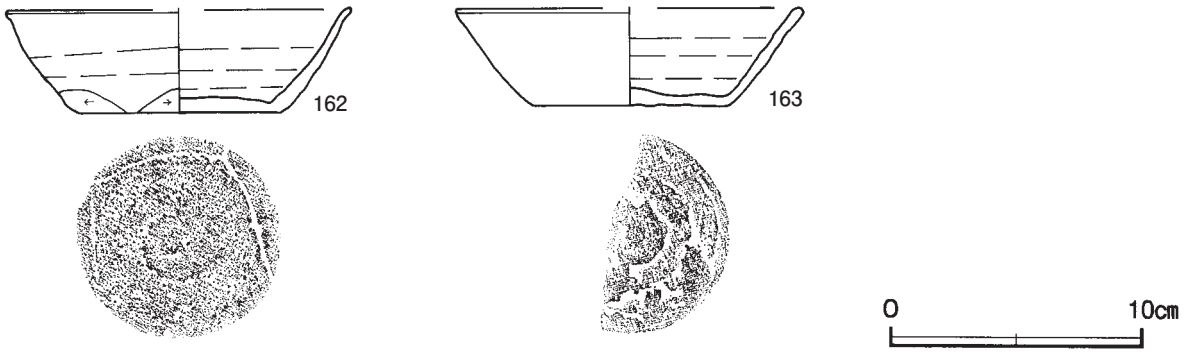
覆土　６層に分層できる。水平堆積し，ロームブロックを含む層があることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　極 暗 褐 色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 53 点（坏 11，甕 42），須恵器片 16 点（坏８，甕８）が出土している。162 は北東部の床面から斜位で出土している。163 は竈左袖西側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 65 図　第 3113 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3113 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 65 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備　考
162	須恵器	坏	［13.6］	4.1	8.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り痕を残す　二次焼成	床面	70％新治 PL25
163	須恵器	坏	［13.6］	3.9	8.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部ヘラ切り痕を残す　多方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	50％新治 PL25

第 3114 号竪穴建物跡（第 66・67 図）

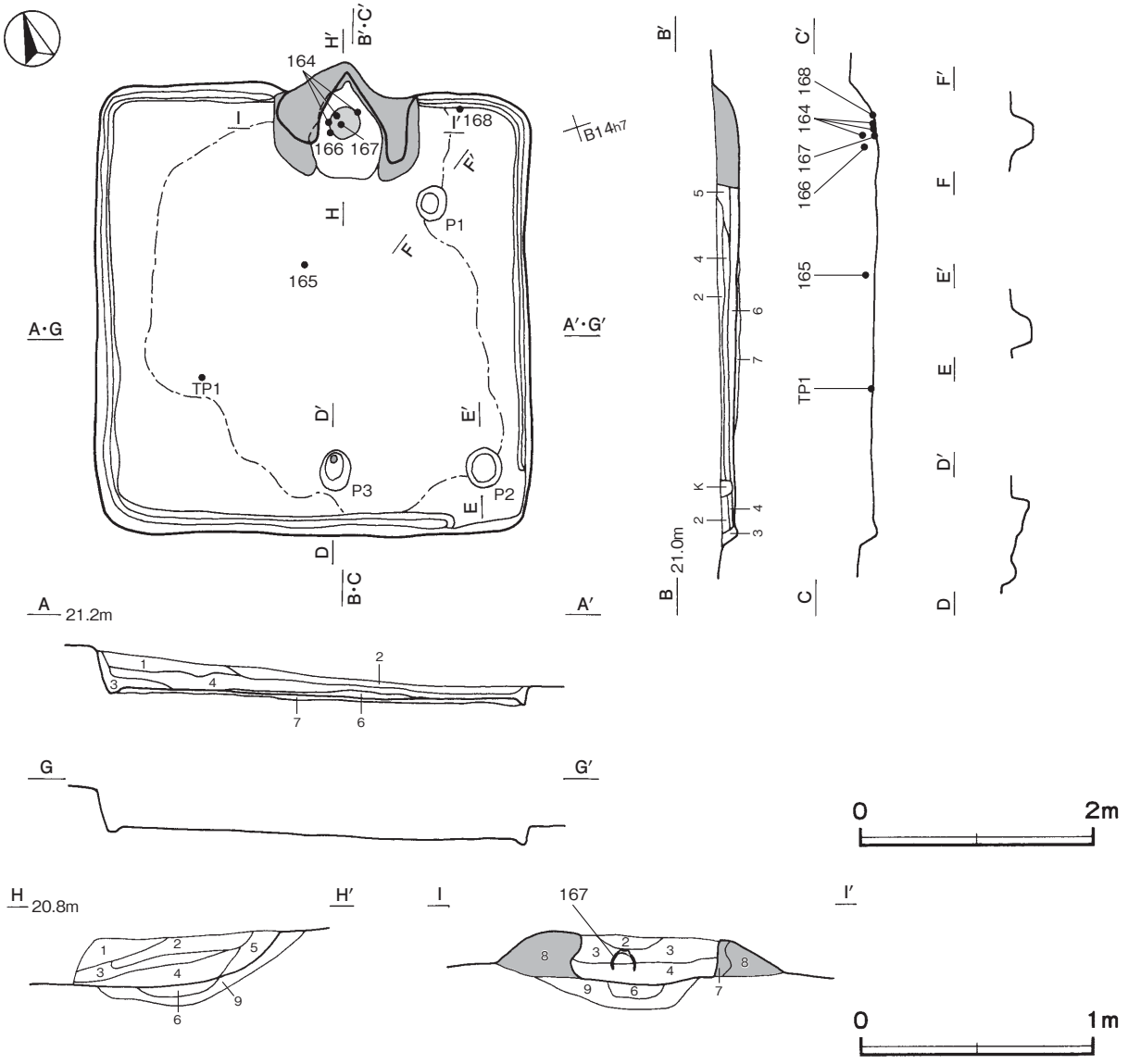
調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北東部の B14h6 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.85m，短軸 3.72m の方形で，主軸方向はＮ－ 17 °－ Ｅである。壁高は７～ 30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 33 ～ 35cm掘り込み，ローム主体の第７層を埋土し，厚さ３～５cmに踏み固めて構築されている。南東コーナー部を除く，壁下には，幅８～ 20cm，深さ５～７cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 98cmで，燃焼部幅は 60cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体とした第７・８層を積み上げて構築されている。火床部は床面を５cmほど掘りくぼめ，第６層を埋土して使用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 28cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第９層は埋土である。



第 66 図　第 3114 号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　明赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　赤　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子微量
7　明赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物微量
8　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２はともに深さ18㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ13㎝で南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３の底面に柱のあたりを確認した。

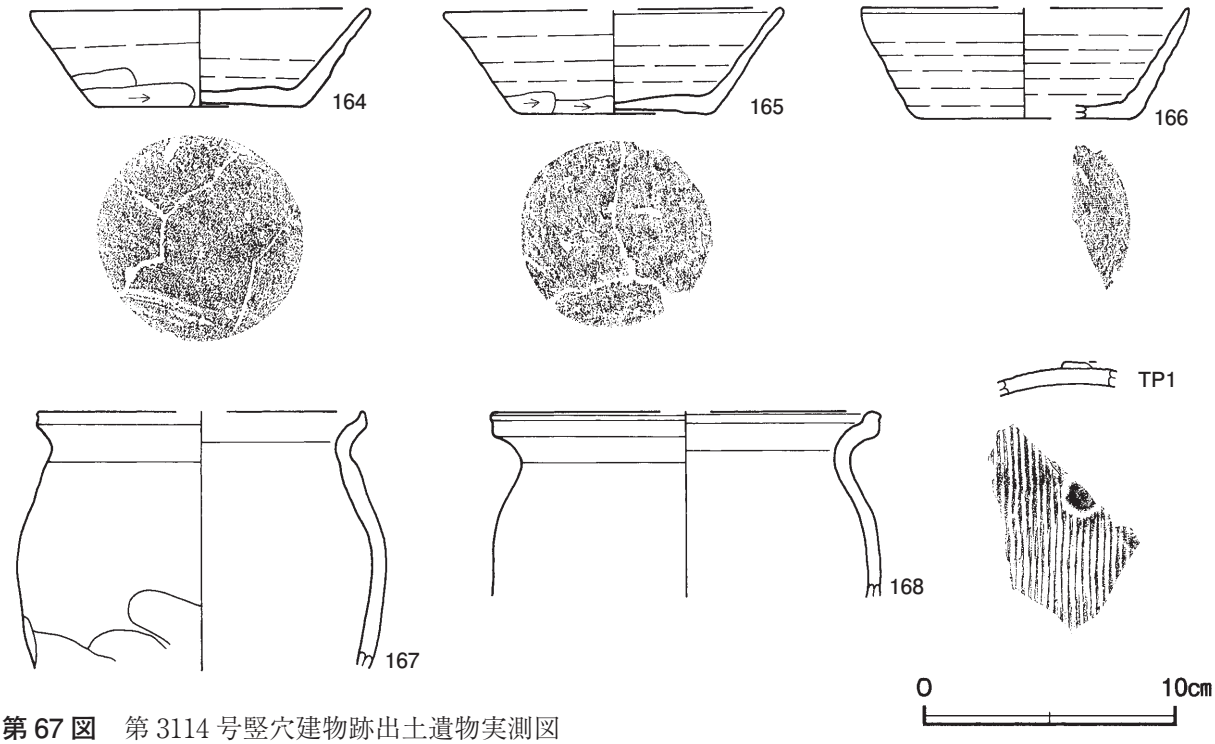
覆土　６層に分層できる。水平堆積し，ロームブロックを含む層があることから，埋め戻されている。第７層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　明　褐　色　ロームブロック少量
4　極暗褐色　ローム粒子微量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい褐色　ロームブロック中量
7　にぶい褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片150点（坏５，甕143，小形甕２），須恵器片20点（坏10，蓋１，甕９）が出土している。167は火床面から正位で出土している。164・166は竈内の覆土下層から出土している。168は北東部の床面から横位で出土している。165は中央部，TP１は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第67図　第3114号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3114号竪穴建物跡出土遺物観察表（第67図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備　考
164	須恵器	坏	13.4	3.9	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後，一方向の手持ちヘラ削り　二次焼成	竈内覆土下層	70%新治 PL25
165	須恵器	坏	［13.4］	4.2	7.6	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	体部下端ヘラ削り　底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	60%新治
166	須恵器	坏	［13.0］	4.4	［8.6］	長石・石英	灰黄褐	普通	底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	竈内覆土下層	20%新治
167	土師器	小形甕	［13.0］	（10.1）	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半ヘラ削り　内面ナデ	火床面	30%
168	土師器	小形甕	［15.0］	（7.4）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	床面	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	須恵器	平瓶	長石	黄灰	外面斜位の平行叩き　内面丁寧な同心円文あて具痕　ボタン状の貼付	覆土下層	5％東海

表３　奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸（m）	（cm）			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2136	B14d8	N－10°－E	方形	2.95 × 2.69	10 ～ 13	平坦	全周	－	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	８C 後葉	SI2137 →本跡
2138A	B14c4	N－18°－E	長方形	3.58 × 3.00	24 ～ 28	平坦	全周	3	1	－	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	８C 中葉	SI2138B →本跡
2138B	B14c4	N－18°－E	隅丸方形	2.99 × 2.76	－	平坦	一部	3	1	－	－	－	人為	－	８C 中葉以前	本跡→ SI2138A
2140	B14b1	N－7°－E	隅丸方形	3.40 × 3.40	32 ～ 40	平坦	ほぼ全周	1	1	1	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，石器	８C 前葉	SI3034 →本跡 → SI2139
3036	C9a4	N－4°－W	［方形・長方形］	4.40 × ［2.06］	40 ～ 45	平坦	ほぼ全周	2	－	－	－	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	８C 前葉	本跡→ SK6558
3041	C9d4	N－2°－W	［方形・長方形］	3.81 × ［2.93］	45 ～ 50	平坦	ほぼ全周	3	1	1	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	８C 中葉	本跡→ SB553
3043	D9a4	N－2°－E	方形	4.82 × 4.40	8 ～ 32	平坦	全周	4	1	1	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	８C 中葉	SI3059 →本跡 → SK6711
3048	C9d8	N－4°－E	方形	4.00 × 3.62	5 ～ 30	平坦	ほぼ全周	－	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片	８C 前葉	本跡→ SK6564
3113	B14e8	N－22°－E	方形	3.10 × 2.97	22 ～ 35	平坦	全周	3	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片	８C 後葉	
3114	B14h6	N－17°－E	方形	3.85 × 3.72	7 ～ 30	平坦	全周	2	1	－	竈１	－	人為	土師器片，須恵器片	８C 中葉	

(2)　掘立柱建物跡

第 301 号掘立柱建物跡（第 68・69 図）

調査年度　東平部分は平成 15 年度に調査し，それ以外は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分も新しい番号に更新した。

位置　13 区西部のＣ９g8 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3044 号竪穴建物跡，第 373・550・551 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 6571 号土坑に掘り込まれている。第 6567 ～ 6569・6575・6576・6581 号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行３間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－３°－Ｗの南北棟である。規模は，桁行 7.2 ｍ，梁行 4.9 ｍで，面積は 35.28㎡である。柱間寸法は桁行が 2.4m（８尺），北梁行が東平から 2.1m（７尺），1.4m（4.7 尺），1.4m（4.7 尺），南梁行が 1.7m（5.7 尺），1.5m（５尺），1.7m（5.7 尺）である。間尺にばらつきがあるが，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　12 か所。平面形は楕円形や隅丸方形で，長径（長軸）90 ～ 110㎝，短径（短軸）78 ～ 100㎝である。深さは 34 ～ 65㎝である。第１層が柱抜き取り後の堆積層，第２～８層が埋土である。全てのピットの底面から柱のあたりを確認した。

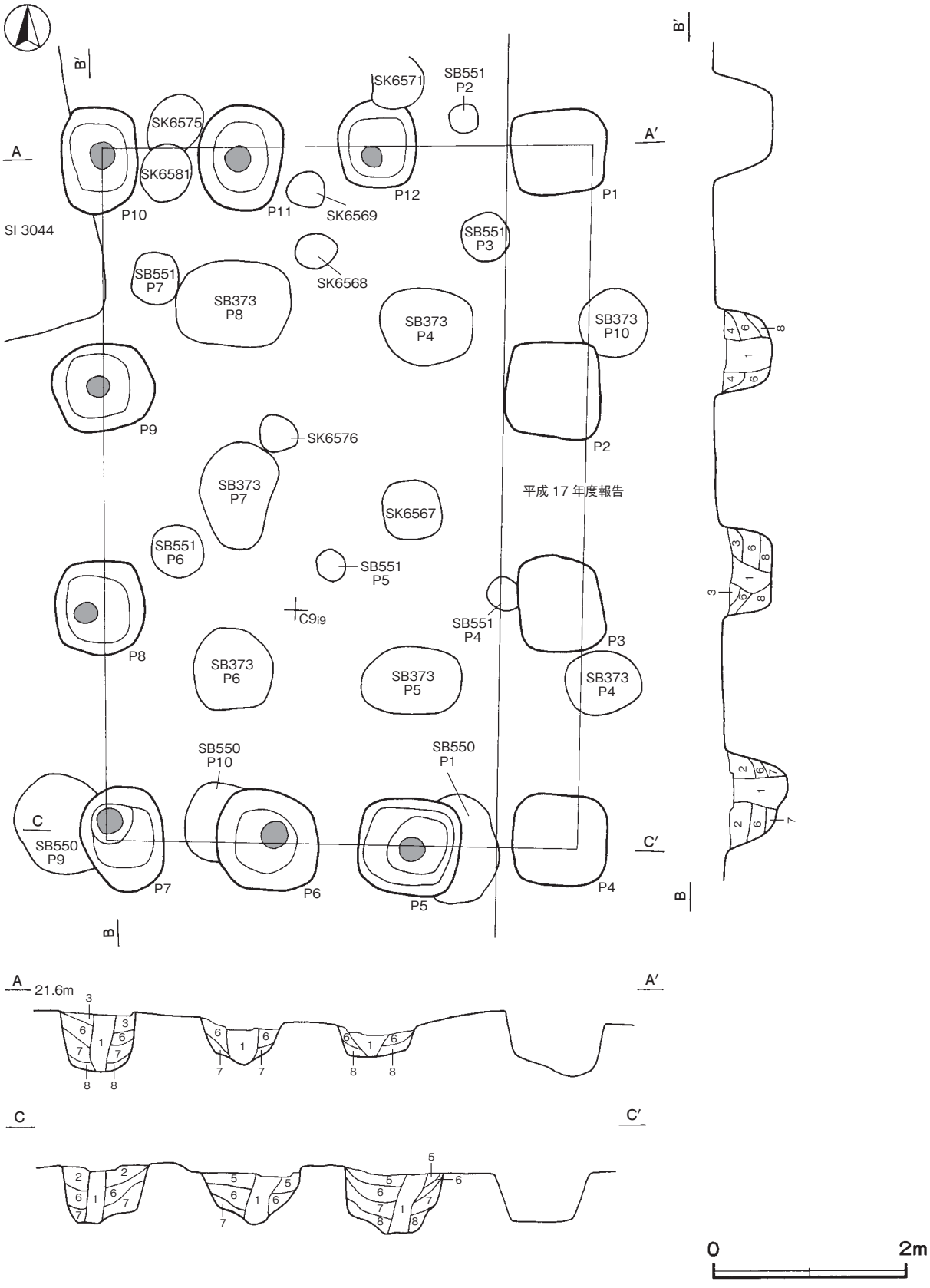
土層解説（各柱穴共通）

1　極暗褐色　炭化物多量，ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　褐　　色　炭化材・ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
7　褐　　色　ロームブロック多量
8　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物少量

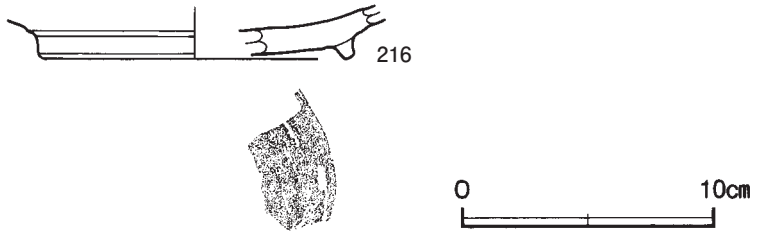
遺物出土状況　Ｐ１～Ｐ４の出土遺物については『第 264 集』を参照されたい。Ｐ５～Ｐ12 からは土師器片 73 点（坏８，甕 65），須恵器片３点（坏１，高台付坏２）がＰ５～Ｐ12 の埋土から出土している。216 はＰ６の柱抜き取り後の堆積層から出土している。

所見　時期は，『第 264 集』で報告されているものを含めた出土土器から，８世紀中葉と考えられる。規模と

形状から倉庫と想定される。第 553 号掘立柱建物跡，第 3043・3048 号竪穴建物跡及び『第 264 集』で報告されている第 2008 号竪穴建物跡と時期と主軸方向が同じことから，一連の施設と考えられる。東平部分の詳細は『第 264 集』を参照されたい。



第 68 図　第 301 号掘立柱建物跡実測図



第 69 図　第 301 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 301 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 69 図）

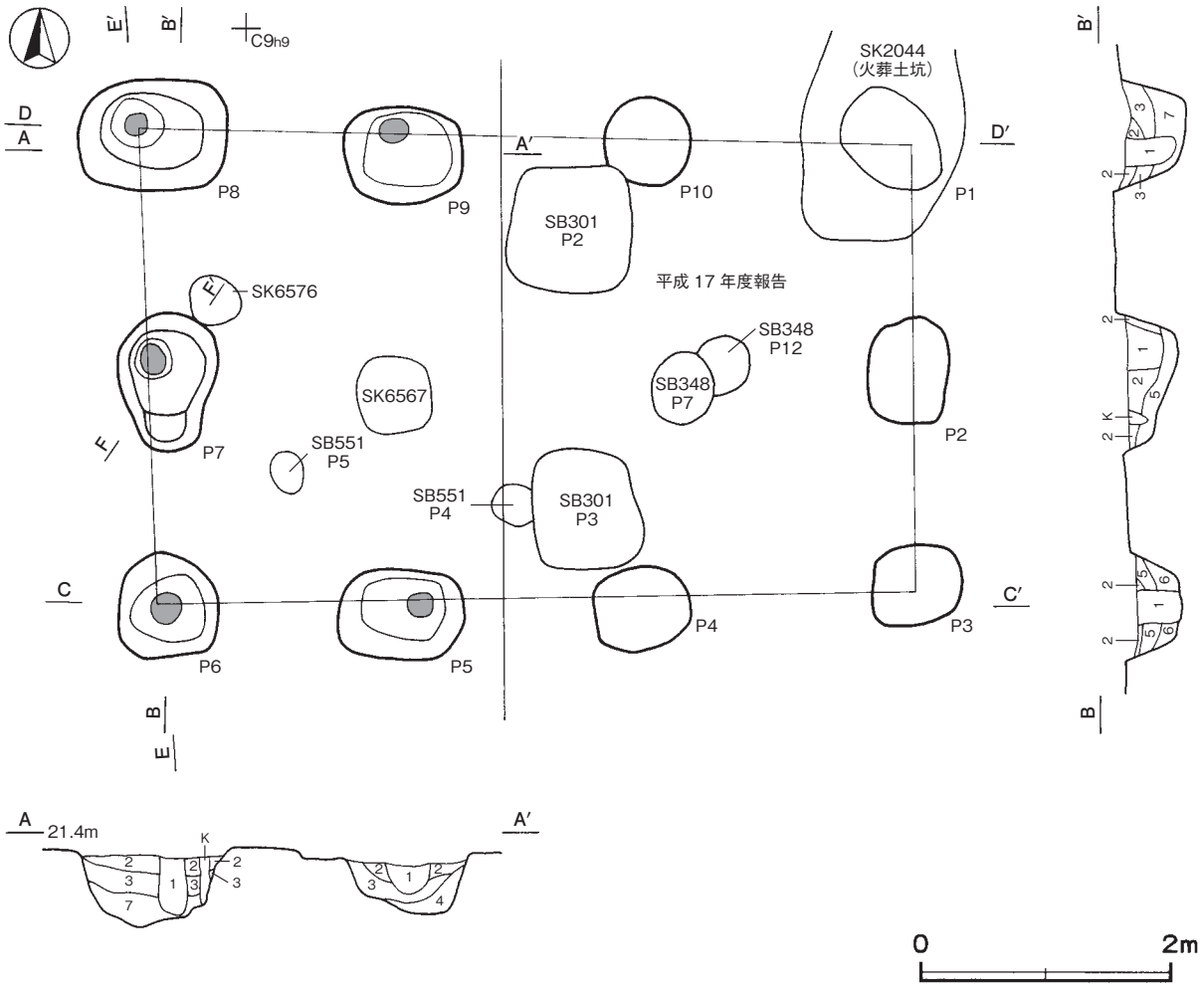
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
216	須恵器	高台付坏	－	(2.1)	[12.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	P6 抜き取り痕	10%

第 373 号掘立柱建物跡（第 70・71 図）

調査年度　東平部分は平成 15 年度に，それ以外は平成 21 年度に調査している。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分も新しい番号に更新した。

位置　13 区西部の C 9h8 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 301・348 号掘立柱建物，第 2044 号土坑（火葬土坑）に掘り込まれている。第 551 号掘立柱建物



第 70 図　第 373 号掘立柱建物跡実測図（1）

跡，第 6567・6576 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－ 90゜－ Ｗの東西棟である。規模は，桁行 6.0 m，梁行 3.6 mで，面積は 21.6㎡である。柱間寸法は桁行が東妻から 2.1m（７尺），1.8m（６尺），2.1m（７尺），東梁行が 1.8m（６尺），西梁行が北平から 1.8m（６尺），2.1m（７尺）で東妻がやや狭まっている。間尺は異なっているが，柱筋はほぼ揃っている。

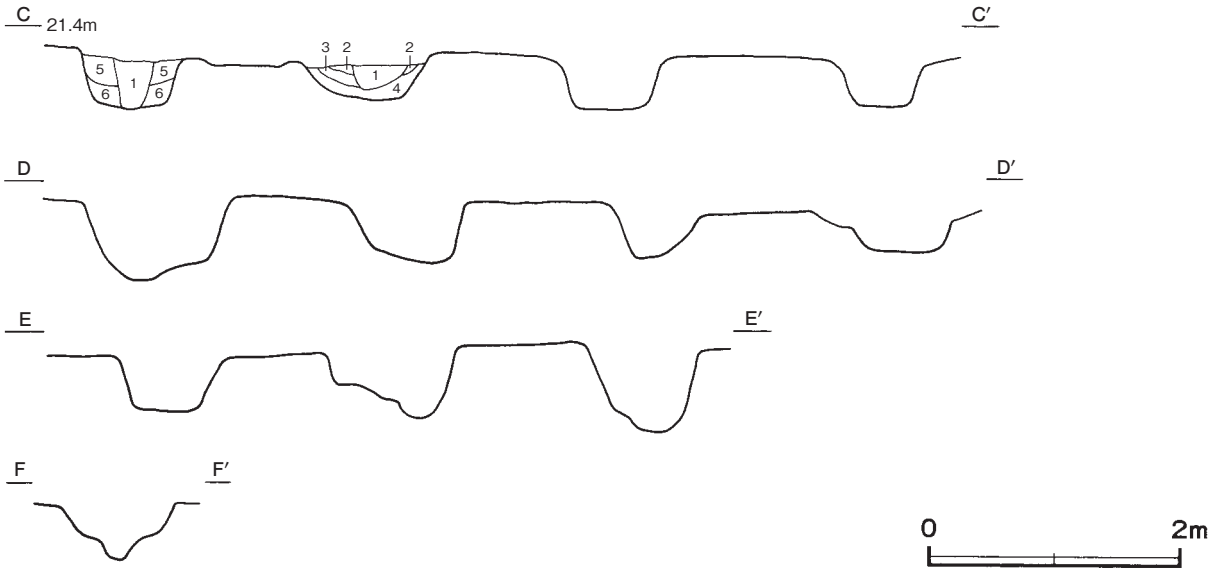
柱穴　10 か所。平面形は楕円形または隅丸方形で，長径（長軸）73 ～ 120㎝，短径（短軸）63 ～ 88㎝である。深さは 30 ～ 64㎝で，第１層は柱抜き取り後の堆積層，第２～７層は埋土である。全てのピットの底面から柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　炭化物多量・ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物少量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 37 点（坏７，甕 30），須恵器片３点（坏）が埋土から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，重複関係及び『第 264 集』から，８世紀前葉と考えられる。規模と形状から倉庫と考えられる。周辺では『第 264 集』で報告されている第 2179 号竪穴建物跡が時期と軸方向が同じことから，一連の施設と考えられる。東平部分の詳細は『第 264 集』を参照されたい。



第 71 図　第 373 号掘立柱建物跡実測図（２）

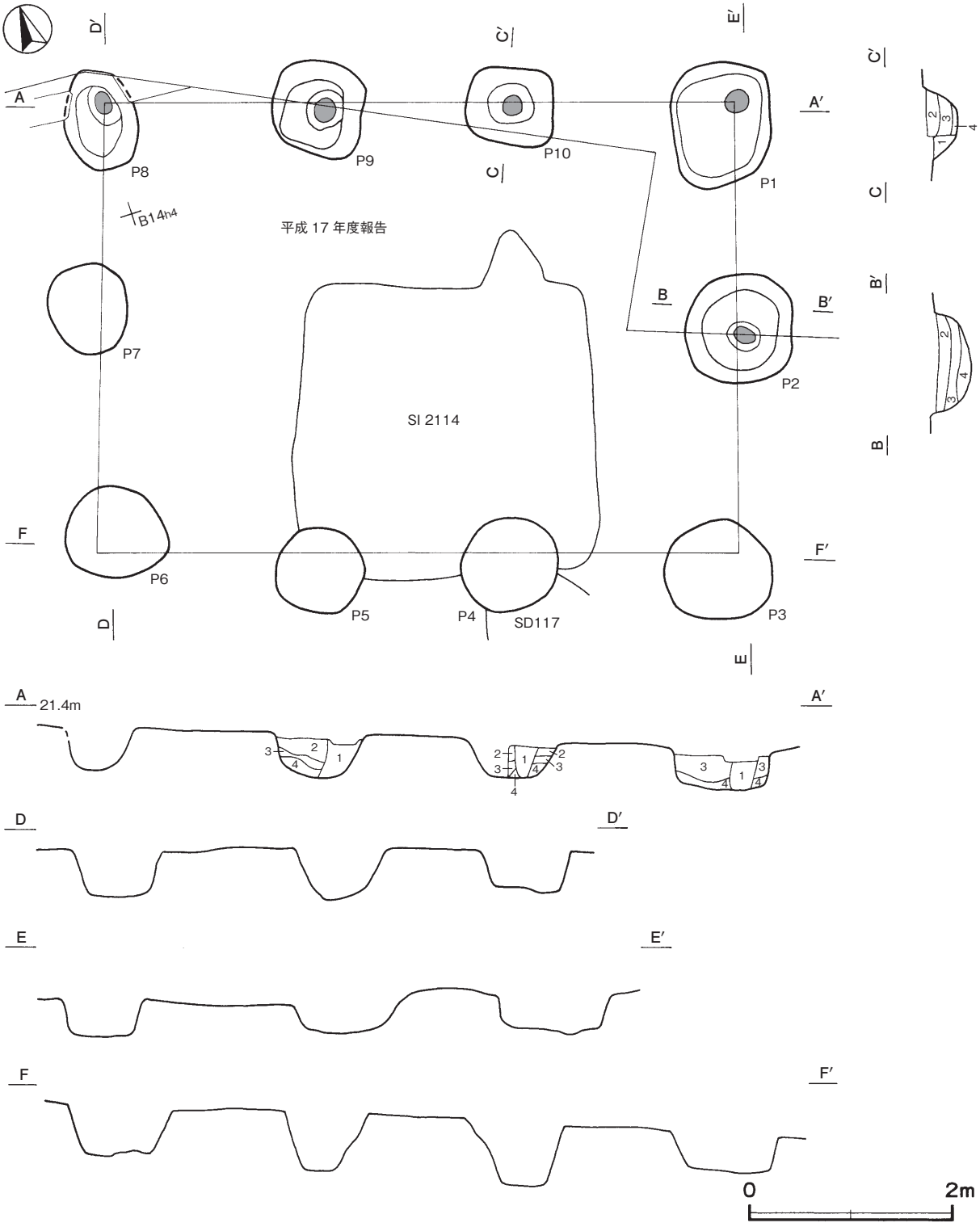
第 415 号掘立柱建物跡（第 72 図）

調査年度　南平部分は平成 15 年度に，北平部分は平成 22 年度に調査している。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分も新しい番号に更新した。

位置　13 区西部のＢ 14g3 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2114 号竪穴建物跡，第 117 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－ 70゜－Ｗの東西棟である。規模は，桁行 6.3 m，梁行 4.4 mで，面積は 27.72㎡である。柱間寸法は北桁行が東妻から 2.2m（7.4 尺），1.9m（6.3 尺），2.2m（7.4 尺）



第 72 図　第 415 号掘立柱建物跡実測図

南桁行が東妻から 2.0m（6.7 尺），2.1m（７尺），2.1m（７尺），東梁行が 2.2m（7.4 尺），西梁行が北平から 2.1m（７尺），2.3m（7.7 尺）で，間尺は異なっているが，柱筋は揃っている。

柱穴　10 か所。平面形は楕円形または隅丸方形で，長径（長軸）85 ～ 116㎝，短径（短軸）70 ～ 105㎝である。深さは 23 ～ 44㎝である。第１層が柱抜き取り後の堆積層，第２～４層は埋土である。Ｐ３・Ｐ６を除く柱穴の底面の柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい褐色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　極暗褐色　ローム粒子微量

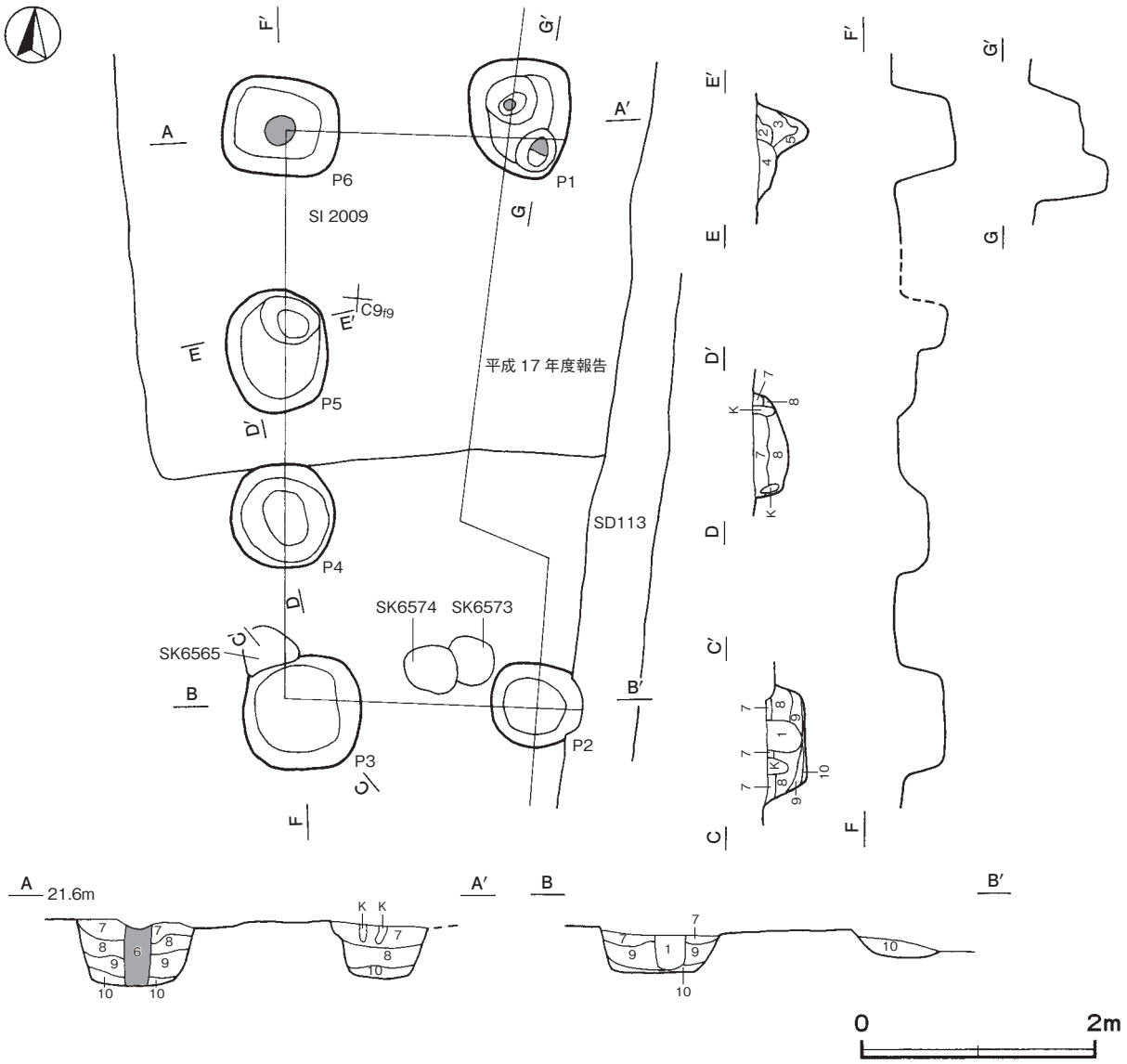
遺物出土状況　Ｐ３～Ｐ７の出土遺物については『第 264 集』を参照されたい。土師器片 18 点（坏４，甕 14），須恵器片７点（坏３，高台付坏１，甕３）がＰ１・Ｐ２・Ｐ８～ P10 の埋土から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器，重複関係及び『第 264 集』から，８世紀後葉に比定できる。規模や形状から，倉庫と考えられる。第 2136・3113 号竪穴建物跡と時期と軸方向が同じことから，一連の施設と考えられる。南平部分の詳細は『第 264 集』を参照されたい。

第 549 号掘立柱建物跡（第 73・74 図）

調査年度　東平部分は平成 15 年度に調査し，それ以外は平成 21 年度に調査した。

位置　13 区西部のＣ９e8 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。



第 73 図　第 549 号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第2009号竪穴建物跡を掘り込み，第6565号土坑，第113号溝に掘り込まれている。第6573・6574号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　平成15年度調査では，Ｐ１・Ｐ２のみを確認している。桁行が３間で，梁行は１間以上の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－４°－Ｗの南北棟と推定できる。規模は，南北（桁行）が4.9m，東西（梁行）2.1mしか確認できなかった。柱間寸法は桁行1.6m（5.5尺），梁行2.1m（７尺）で均等に配置されており，柱筋はほぼ揃っている。

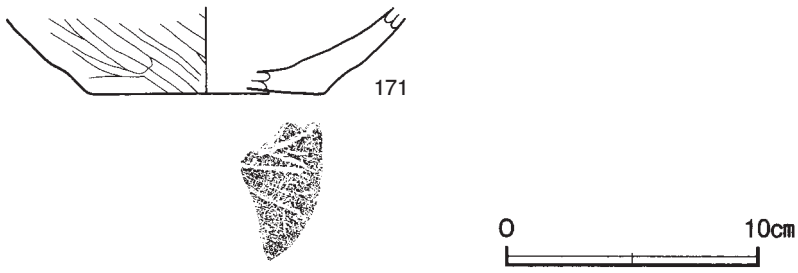
柱穴　６か所。平面形は楕円形または隅丸方形で，長径（長軸）78～107㎝，短径（短軸）71～96㎝である。深さは22～65㎝である。第１～５層は柱抜き取り後の堆積層，第６層は柱痕跡，第７～10層は埋土である。Ｐ１・Ｐ６の底面からは柱のあたりを確認した。Ｐ１に柱のあたりが２か所あるが，Ｐ１のみであることから，詳細は不明である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土ブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片41点（坏７，甕34），須恵器片１点（坏），鉄製品１点（不明）がＰ１～Ｐ６の埋土から出土している。171はＰ５の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器及び重複関係から８世紀中葉に比定できる。性格は不明である。



第74図　第549号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第549号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第74図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
171	土師器	甕	－	(3.4)	[9.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端横位のヘラ削り後，斜位のミガキ 内面ナデ　底部木葉痕	Ｐ５埋土	10%

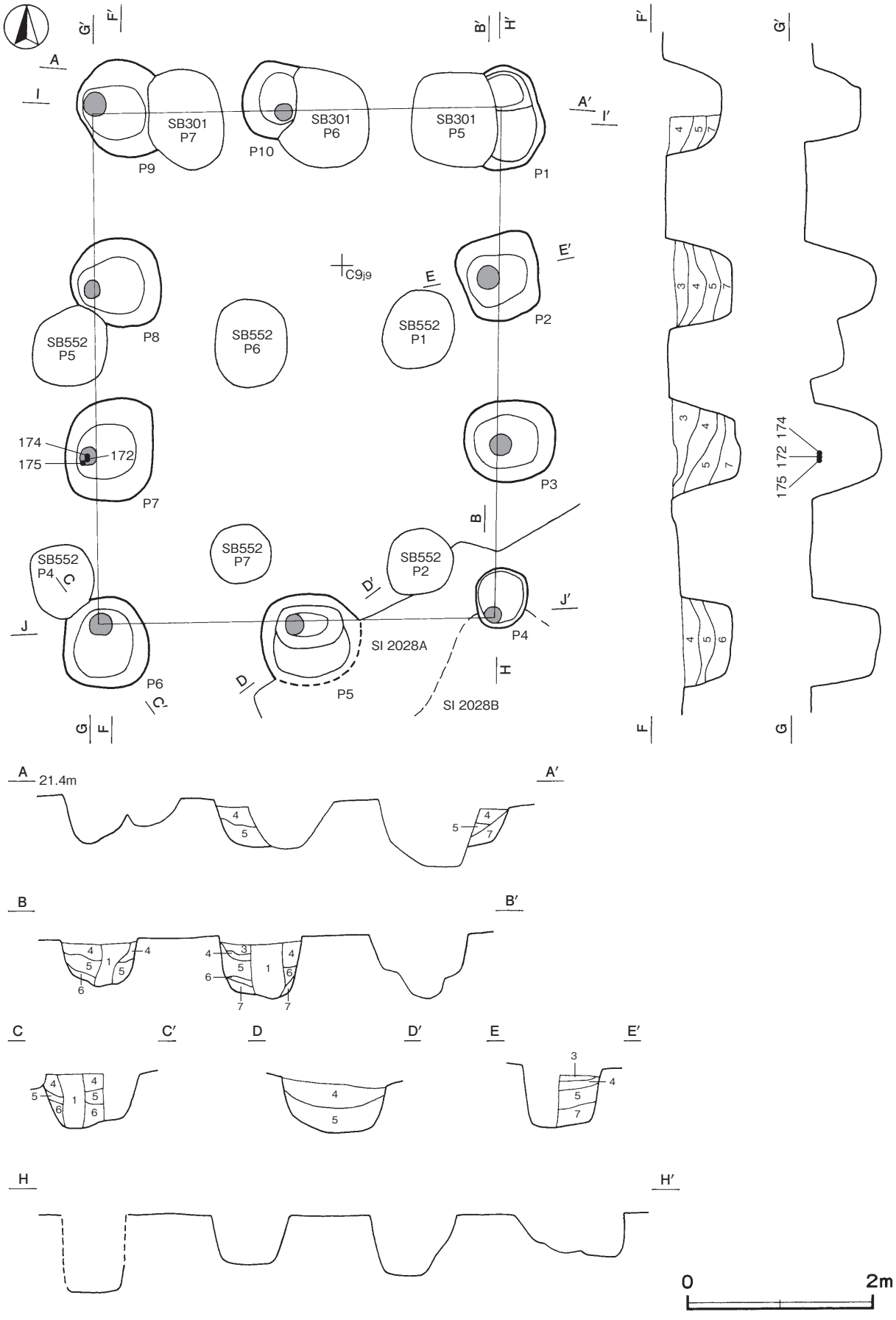
第550号掘立柱建物跡（第75・76図）

調査年度　平成21年度

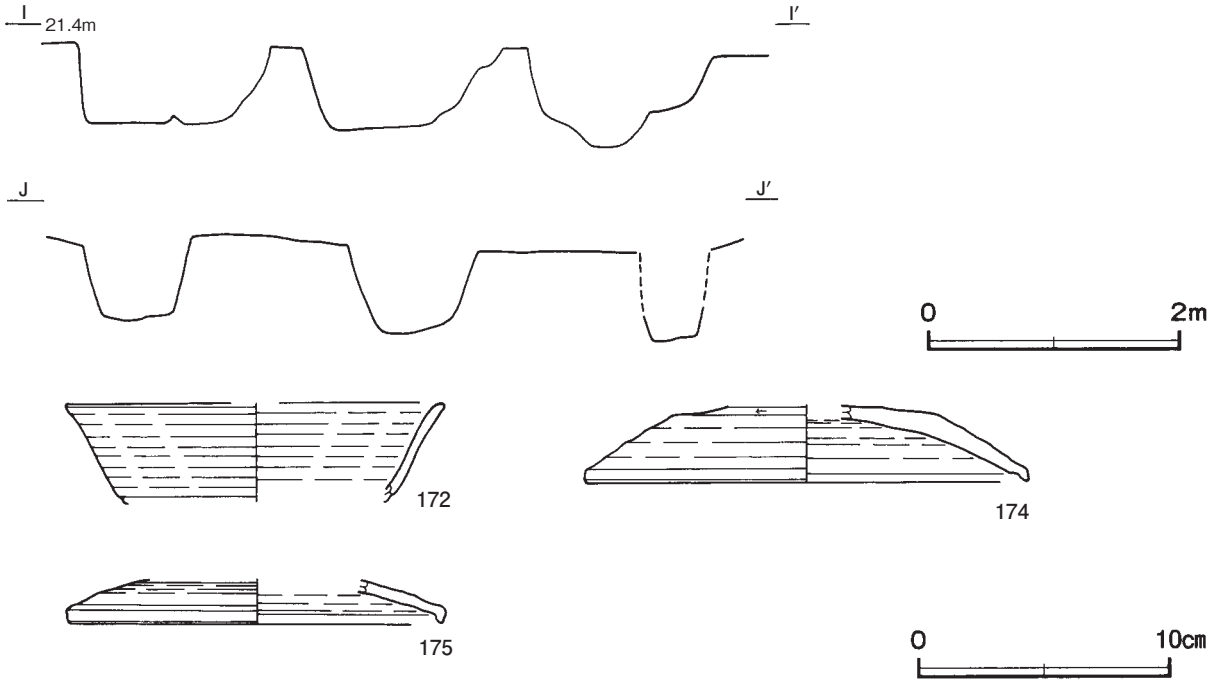
位置　13区西部のＣ９i8区，標高21ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第2028A・B号竪穴建物跡を掘り込み，第301・552号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－０°の南北棟である。規模は，桁行5.4ｍ，梁行4.2ｍで，面積は22.68㎡である。柱間寸法は桁行が1.8m（６尺），梁行が2.1m（７尺）で，柱筋はほぼ揃っている。



第 75 図　第 550 号掘立柱建物跡実測図



第 76 図　第 550 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴　10 か所。平面形は楕円形または隅丸方形で，長径（長軸）65 ～ 112cm，短径（短軸）57 ～ 99cmである。深さは 48 ～ 83cmである。第 1 層は柱抜き取り後の堆積層，第 2 ～ 7 層は埋土である。P 1 を除いた柱穴の底面からは，柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 78 点（坏 9，甕 69），須恵器片 14 点（坏 6，蓋 6，甕 2）が，P 1 ～ P10 の埋土から出土している。172・174・175 は P 7 の柱抜き取り後の堆積層の上層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び重複関係から，8 世紀中葉に比定できる。規模と形状から倉庫と考えられる。同じく 8 世紀中葉の第 301 号掘立柱建物跡よりも古いと考えられる。

第 550 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 76 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
172	須恵器	坏	［15.0］	(3.9)	－	長石	にぶい黄褐	普通	外・内面ロクロナデ	P7 抜き取り痕上層	10%
174	須恵器	蓋	［17.5］	(3.0)	_	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	P7 抜き取り痕上層	20%
175	須恵器	蓋	［14.6］	(1.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄	普通	外・内面ロクロナデ	P7 抜き取り痕上層	10%

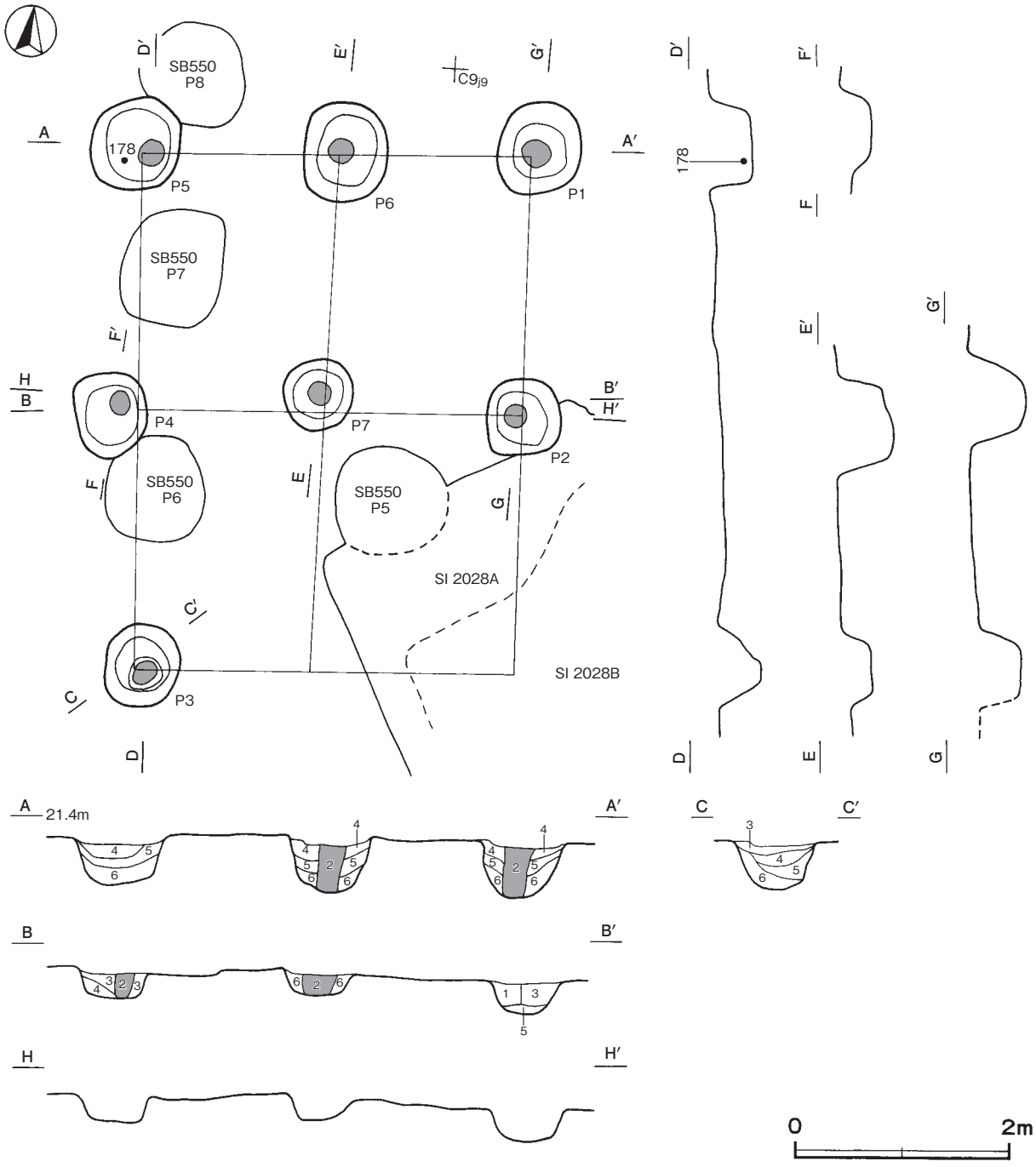
第 552 号掘立柱建物跡（第 77・78 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部の C 9j8 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2028A・B 号竪穴建物跡，第 550 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行２間, 梁行２間の総柱建物跡と想定される。桁行方向N－３°－Wの南北棟である。規模は，桁行 4.8 m，梁行 3.6 mで，面積は 17.28㎡である。柱間寸法は , 桁行 2.4m（８尺），梁行 1.8m（６尺）で均等に配置されている。



第 77 図　第 552 号掘立柱建物跡実測図

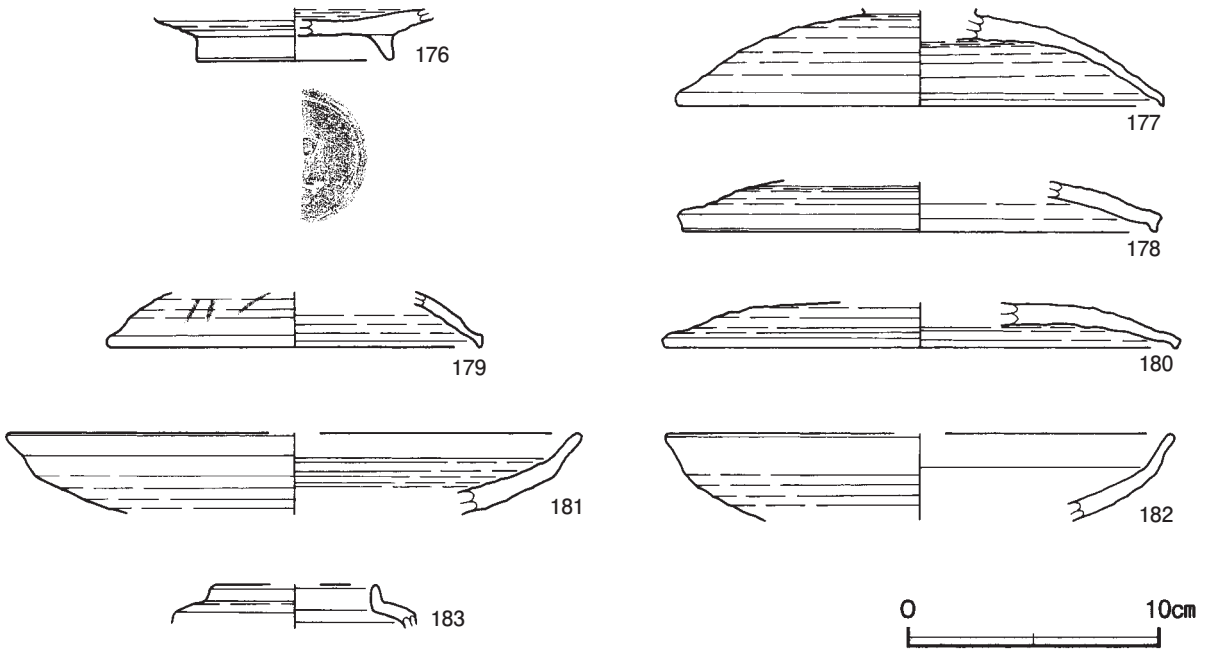
柱穴　７か所。平面形は楕円形または楕円形で，長径66～92cm，短径66～82cmである。深さは28～54cmである。第１層が柱抜き取り後の堆積層，第２層が柱痕跡，第３～６層が埋土である。南妻の中柱穴は確認できなかった。全てのピットの底面で，柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　炭化物多量，ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　炭化物多量，ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 28 点（坏１，甕 27），須恵器片 17 点（坏５，高台付坏１，蓋６，盤２，短頸壺１，甕２）がＰ１～Ｐ７から出土している。176 はＰ２，177・181・182 はＰ５，179 はＰ７の抜き取り痕から出土している。178 はＰ５の埋土の下層から，180・183 はＰ５の埋土から出土している。

所見　時期は，出土土器及び重複関係から８世紀後葉に比定できる。規模と形状から倉庫と考えられる。『第 264 集』で報告された第 2181 号竪穴建物と時期と軸方向が同じことから，一連の施設と考えられる。



第 78 図　第 552 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 552 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 78 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
176	須恵器	高台付坏	－	(2.1)	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	P2 抜き取り痕	10%
177	須恵器	蓋	[19.4]	(3.8)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	P5 抜き取り痕	20%
178	須恵器	蓋	[18.8]	(2.0)	－	長石・石英	灰黄	普通	外・内面ロクロナデ	P5 埋土下層	10%
179	須恵器	蓋	[14.8]	(2.2)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	外・内面ロクロナデ　火襷	P7 抜き取り痕	10%
180	須恵器	蓋	[20.4]	(1.8)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	P5 埋土	10%
181	須恵器	盤	[22.8]	(3.2)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	外・内面ロクロナデ	P5 抜き取り痕	20%
182	須恵器	盤	[20.2]	(3.4)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ	P5 抜き取り痕	20%
183	須恵器	短頸壺	[6.4]	(1.7)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ	P5 埋土	10%

表４　奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁 × 梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
301	C9g8	N－3°－W	3 × 3	7.2 × 4.9	35.28	2.4	1.4 ～ 2.1	側柱	12	楕円形・隅丸方形	34 ～ 65	土師器片，須恵器片	８C 中葉	SI3044，SB373・550・551 →本跡→ SK6571　SK6567 ～ 6569・6575・6576・6581 新旧不明
373	C9h8	N－90°－W	3 × 2	6.0 × 3.6	21.60	1.8 ～ 2.1	1.8 ～ 2.1	側柱	10	円形・楕円形	30 ～ 64	土師器片，須恵器片	８C 前葉	本跡→ SB301・348，SK2044 SB551，SK6567・6576 新旧不明
415	B14g4	N－70°－W	3 × 2	6.3 × 4.4	27.72	1.9 ～ 2.2	2.1 ～ 2.3	側柱	10	楕円形・隅丸方形	23 ～ 44	土師器片，須恵器片	８C 後葉	SI2114，SD117 →本跡
549	C9e8	N－4°－W	3 ×(1)	4.9 ×(2.1)	－	1.6	2.1	側柱	6	楕円形・隅丸方形	22 ～ 65	土師器片，須恵器片，鉄製品	８C 中葉	SI2009 →本跡→ SK6565，SD113 SK6573・6574 新旧不明
550	C9i8	N－0°	3 × 2	5.4 × 4.2	22.68	1.8	2.1	側柱	10	楕円形・隅丸方形	48 ～ 83	土師器片，須恵器片	８C 中葉	SI2028A・B →本跡→ SB301・552
552	C9j8	N－3°－W	2 × 2	4.8 × 3.6	17.28	2.4	1.8	総柱	7	円形・楕円形	28 ～ 54	土師器片，須恵器片	８C 後葉	SI2028A・B，SB550 →本跡

(3)　方形竪穴遺構

第 98 号方形竪穴遺構（第 79・80 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北西部の A10b1 区，標高 21 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 2.73 m，短軸 2.34 mの隅丸長方形で，長軸方向はN－54°－W である。深さ 37㎝で，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

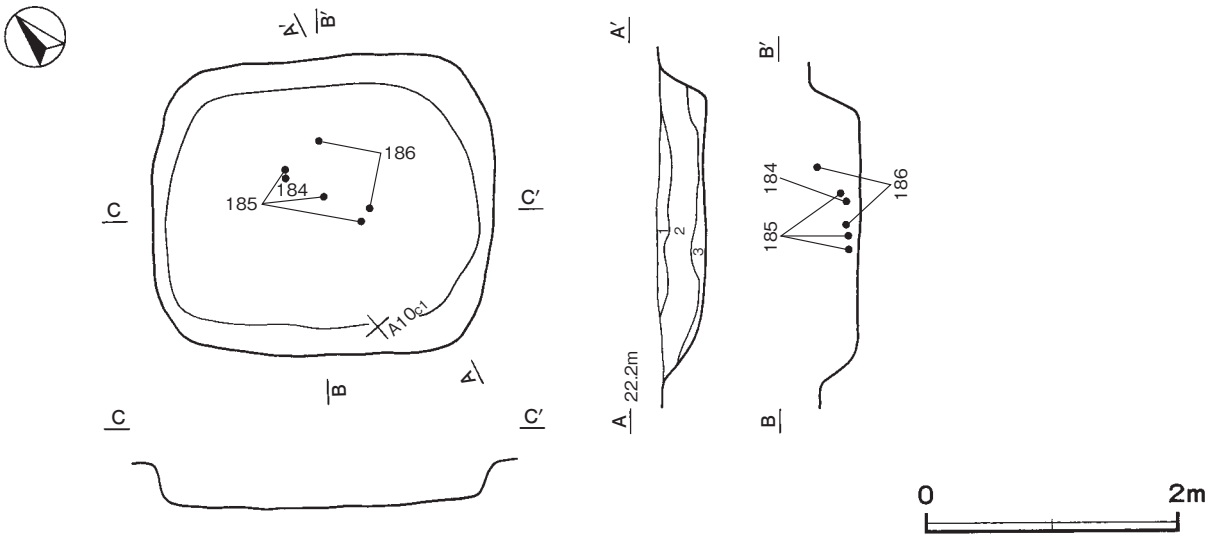
覆土　３層に分層できる。ロームブロックが含まれており，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

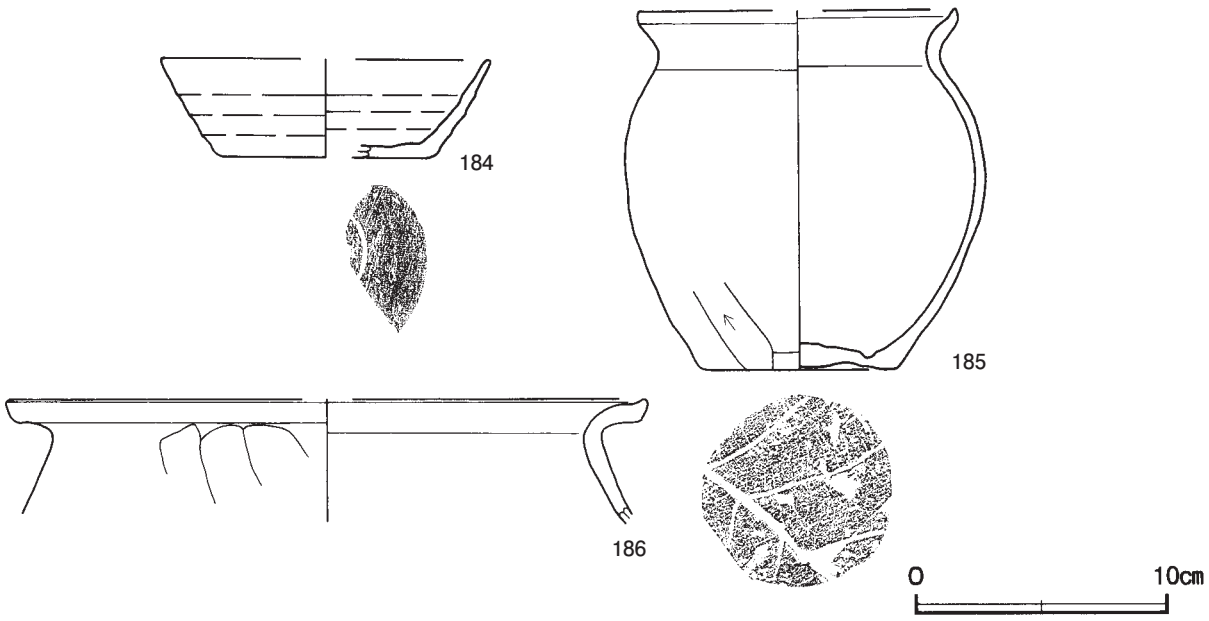
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片４点（甕），須恵器片１点（坏）が出土している。184・185 は中央部の覆土下層から出土している。186 は中央部の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。性格は不明である。



第 79 図　第 98 号方形竪穴遺構実測図



第 80 図　第 98 号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第 98 号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 80 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
184	須恵器	坏	[13.0]	3.9	[8.2]	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	10%
185	土師器	甕	[12.6]	14.2	7.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　器面磨滅　内面ナデ　底部木葉痕	覆土下層	70%
186	土師器	甕	[25.5]	(4.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下～上層	10%

(4)　溝跡

第 114 号溝跡（第 81・82 図，付図 1 ）

調査年度　本跡は平成 21 年度に調査した。A 9i9 区より南部は，平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。

位置　13 区北西部の A 9a5 ～ A 9h9 区，標高 21 mの台地平坦部に位置している。

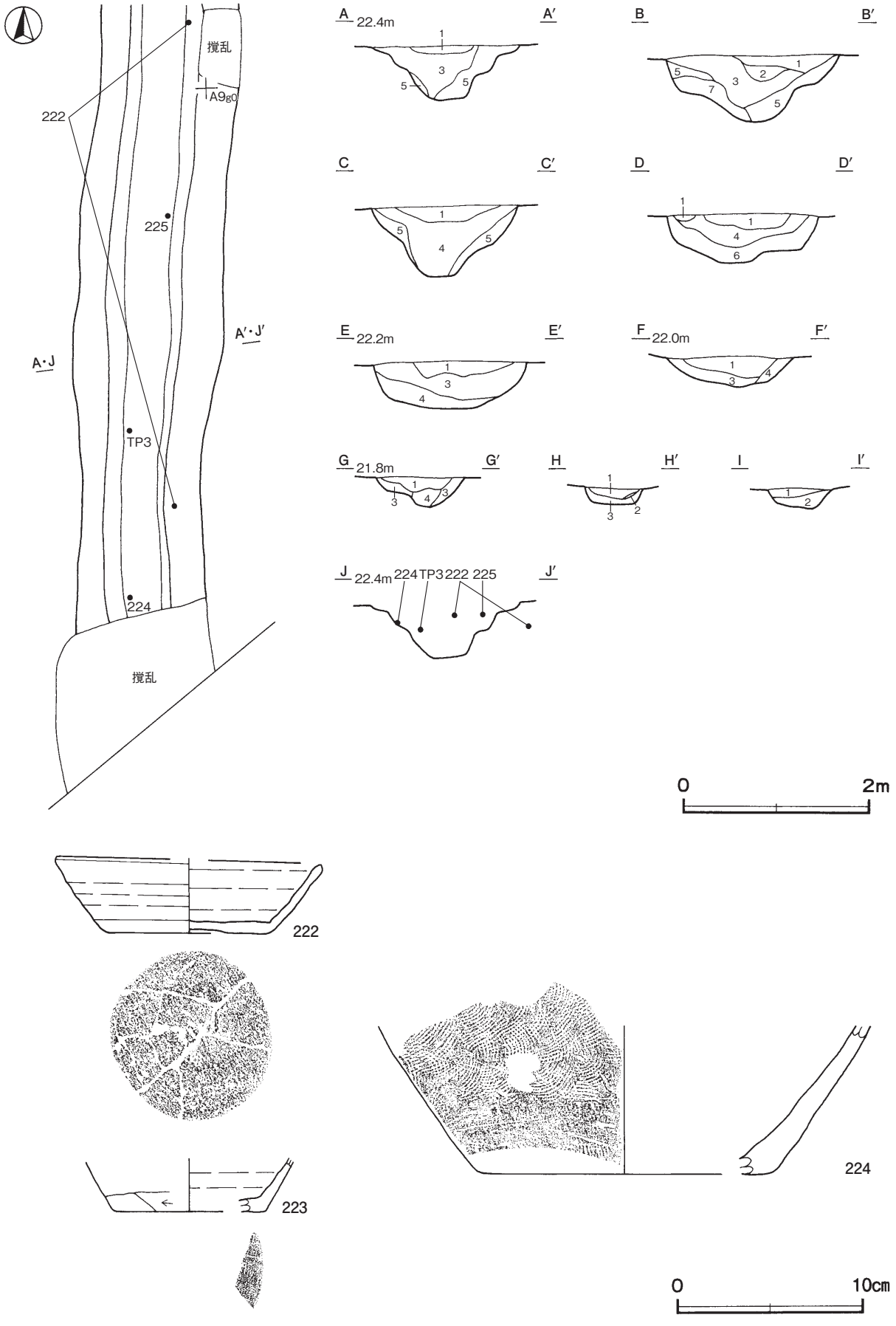
重複関係　第 6740 号土坑，第 120 号溝跡，第 68・69 号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状　西端部が調査区域外に延びているため，長さは 50.3m しか確認できなかった。A 9h9 区から北方向（N－5°－E）に直線的に延び，第 120 号溝と重複する A 9a10 区で，西方向（N－78°－W）にL字状に屈折し，調査区域外へ至っている。規模は上幅 0.61 ～ 1.84m，下幅 0.27 ～ 0.50 m，深さ 0.2 ～ 0.75m である。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は西部が高く，南部に向かって約 40cm下っている。

覆土　7 層に分層できる。不規則な堆積状況から，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　粘土粒子少量



第 81 図　第 114 号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 314 点（坏 34，甕 278，小形甕 1，甑 1），須恵器片 57 点（坏 39，皿 1，甕 16，甑 1），鉄製品 1 点（不明），鉄滓 5 点（32.1g）が出土している。222 は南部の覆土上層と中層から出土した破片が接合したものである。224 と TP 3 は南部の覆土中層，225 は覆土上層から出土している。223・TP 4 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　『第 264 集』の報告と併せた長さは 101.32m である。第 120 号溝を掘り込んでいるが，規模や形状が近似していることから，同時期に区画的な機能を有していたと想定される。時期は，『第 264 集』では出土土器から 8 世紀後葉から 9 世紀前葉と報告されているが、平成 22 年度の調査で、出土土器から、8 世紀前葉から中葉に比定できる。A 9i9 区より南部については『第 264 集』を参照されたい。

第 82 図　第 114 号溝跡出土遺物実測図

第 114 号溝跡出土遺物観察表（第 81・82 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
222	須恵器	坏	[14.2]	4.1	8.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土中～上層	40%
223	須恵器	坏	－	(2.9)	[8.2]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中	10%
224	須恵器	甕	－	(8.0)	[16.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	外面同心円状の叩き　内面ナデ	覆土中層	5％ PL28
225	土師器	甑	－	(5.4)	[14.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土上層	10%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP3	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰	体部外面回転カキ目　三条の櫛描状の沈線文と波状文　縦位のナデが一部沈線文を消す	覆土中層	
TP4	須恵器	甑	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位の平行叩き	覆土中	

第 120 号溝跡（第 83 図，付図 1）

調査年度　平成 21 年度に調査した。A10c4 区より東部は，平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。

位置　13 区北西部の A 9a0 ～ A10c4 区，標高 21 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2145 号竪穴建物跡を掘り込み，第 68 号ピット群，第 114 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　A10dc4 から，西方向（N － 69° － W）に直線的に延び，第 114 号溝に掘り込まれているため，長さは 16.5 mしか確認できなかった。規模は上幅 1.10 ～ 1.95m，下幅 0.28 ～ 0.55m，深さ 0.37 ～ 0.51m である。断面は U 字状で，壁は緩斜して立ち上がっている。底面は東部が高く，西部に向かって約 20㎝下っている。ほぼ平坦である。

覆土　4 層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

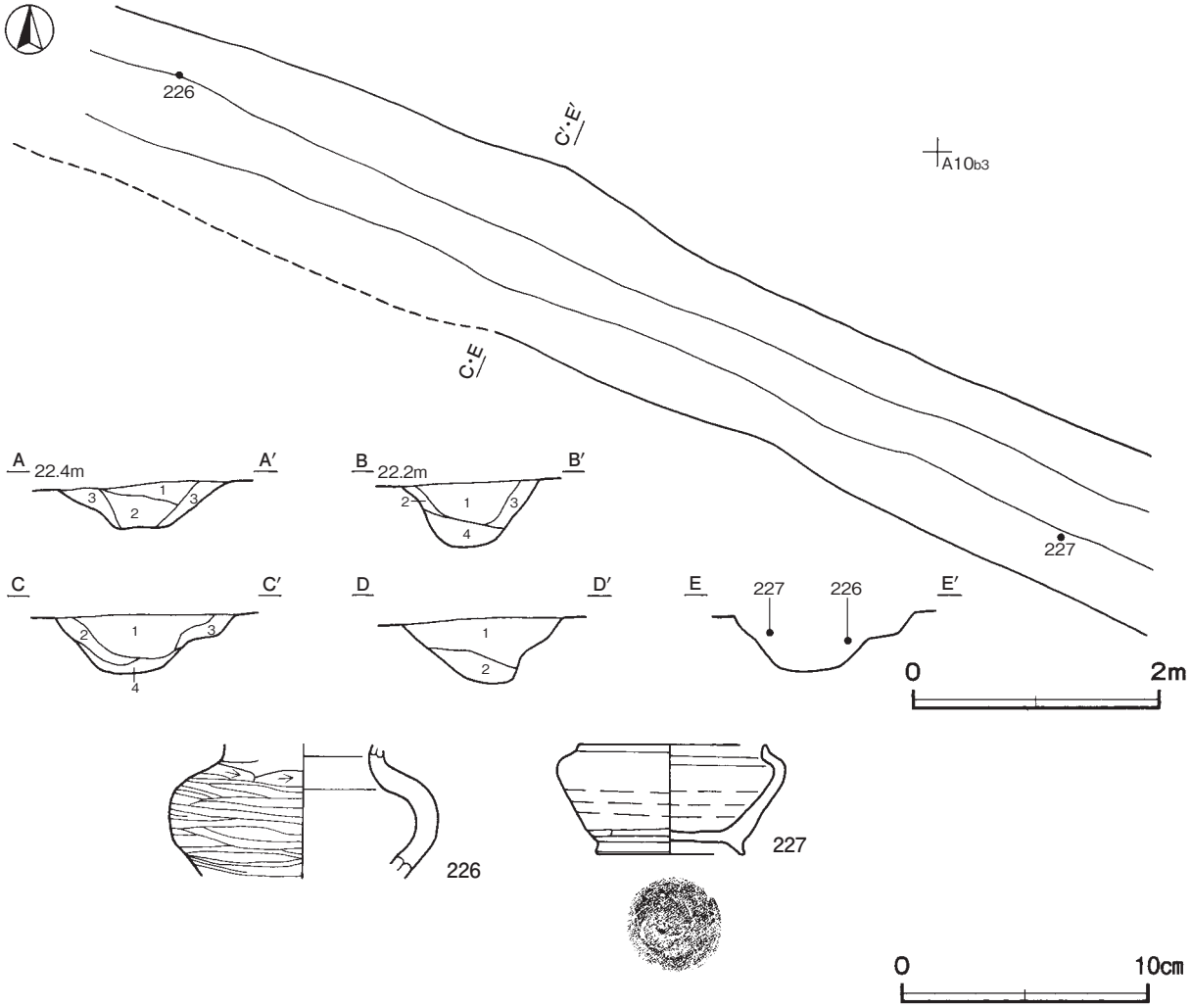
土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片 116 点（坏 17，短頸壺 1，甕 98），須恵器片 9 点（坏 2，蓋 1，短頸壺 1，甕 5）

が出土している。226 は西部，227 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　『第 264 集』にて報告されている分と併せた長さは 167.29m である。第 114 号溝に掘り込まれているが，規模が近似していることから，同時期に区画的な機能を有していたと想定される。時期は，『第 264 集』では出土土器から 8 世紀後葉から 9 世紀前葉と報告されているが、平成 22 年度の調査で、出土土器から、8 世中葉に比定できる。A10d3 区より東部については『第 264 集』を参照されたい。



第 83 図　第 120 号溝跡・出土遺物実測図

第 120 号溝跡出土遺物観察表（第 83 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
226	土師器	短頸壺	－	(5.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り後，密なミガキ　内面ナデ	覆土中層	20% PL26
227	須恵器	短頸壺	7.6	4.5	6.0	長石・石英・雲母	灰	普通	周縁部回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り 高台貼り付け	覆土中層	100% PL26

表 5　奈良時代溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	形状	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
114	A9a5 ～ A9h9	N－78°－W N－5°－W	L 字状	[50.3]	0.61 ～ 1.84	0.27 ～ 0.50	2 ～ 75	逆台形	外傾	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品，鉄滓	SK6740，SD120，PG68・69 →本跡
120	A9a0 ～ A10c4	N－69°－W	直線状	[16.5]	1.10 ～ 1.60	0.28 ～ 0.55	37 ～ 51	U字状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI2145 →本跡 → SD114，PG68

3　平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡３棟，掘立柱建物跡２棟を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 2139 号竪穴建物跡（第 84・85 図）

調査年度　北部の大半は平成 15 年度に調査し，『第 264 集』にて報告している。南壁部は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分を新しい番号に更新した。

位置　13 区北東部の B14b1 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2140・3034 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

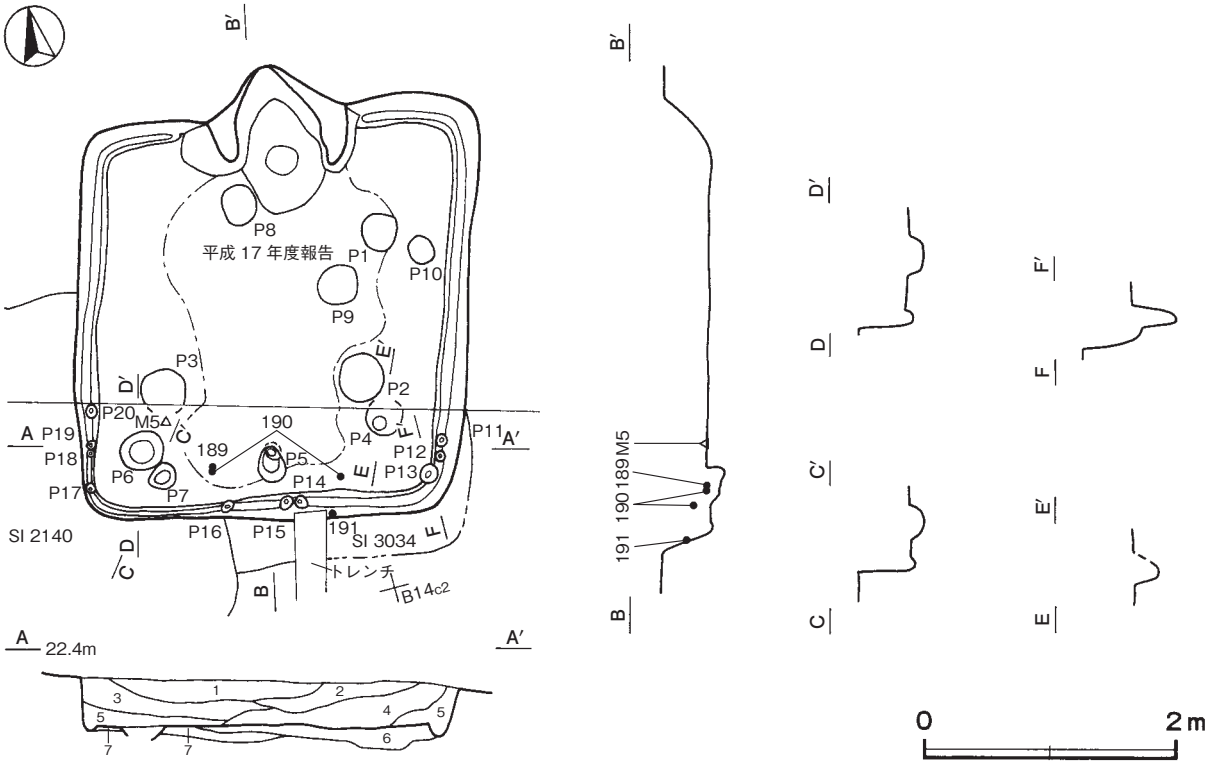
規模と形状　長軸 3.34 m，短軸 3.08 mの方形で，主軸方向はＮ－ 18°－ Ｅである。壁高は 28 ～ 30cmで，直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は確認面から 43 ～ 56cm掘り込み，ロームブロック主体の第６・７層を埋土し，厚さ４～ 14cmに踏み固めて構築されている。壁下には，幅 10 ～ 22cm，深さ５～ 10cm で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。『第 264 集』を参照されたい。

ピット　20 か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ９～ 14cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～Ｐ 10 は深さ 10 ～ 35cmで性格不明である。Ｐ２はＰ４の，Ｐ３はＰ６の柱の立て替え前の柱穴と考えられる。P11 ～Ｐ 20 は深さ９～ 19cmで，位置から壁柱穴と考えられる。

覆土　５層に分層できる。各層にロームブロックが含むまれていることから，埋め戻されている。第６・７層は貼床の構築土である。



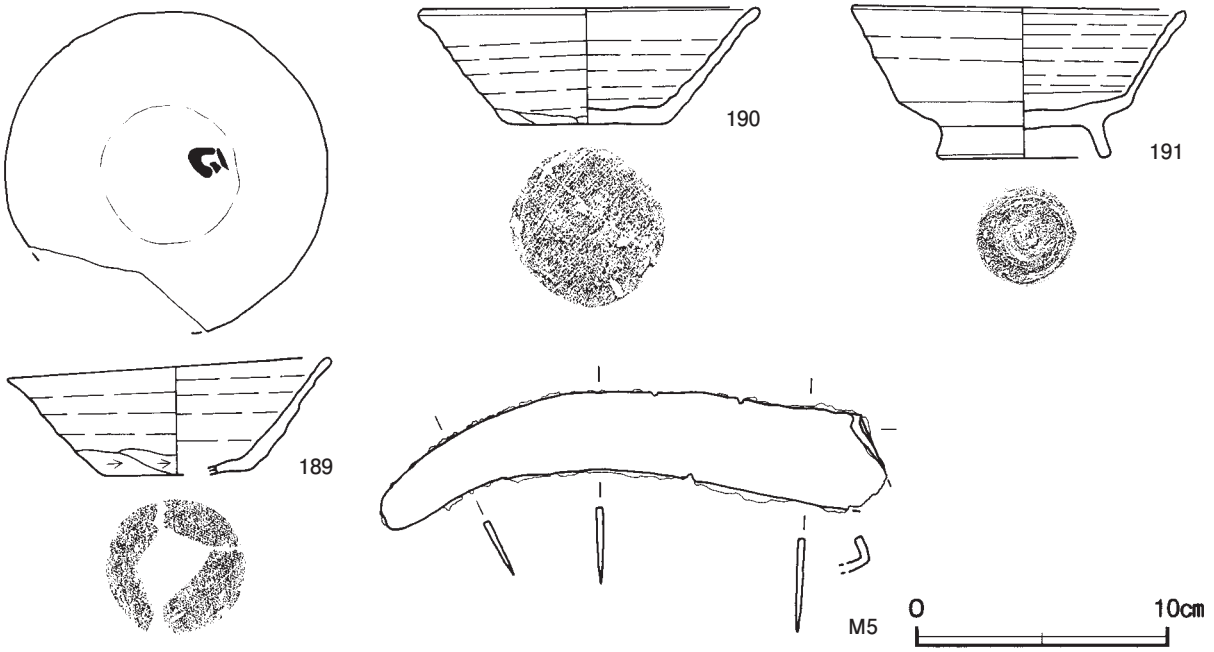
第 84 図　第 2139 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片 78 点（坏 8，甕 70），須恵器片 19 点（坏 15，高台付坏 1，甕 3），鉄製品 3 点（刀子 2，鎌 1）が出土している。189 は南西部の覆土下層から逆位で出土している。190 は南東部の覆土中層と南西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。191 は南壁際の覆土中層から出土している。M 5 は南西部の床面から出土している。

所見　時期は，『第 264 集』では出土土器と重複関係から古墳時代後期と報告されているが，平成 21 年度の調査で，出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 85 図　第 2139 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2139 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 85 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
189	須恵器	坏	12.8	4.6	5.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後，一方向へのヘラ削り　墨書「□」	覆土下層	80% PL26
190	須恵器	坏	13.3	4.6	6.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後，一方向へのヘラ削り	覆土下～中層	80% PL26
191	須恵器	高台付坏	13.2	6.1	6.9	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	60% PL26

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 5	鎌	(22.0)	4.8	0.3	(93.4)	鉄	刃部断面三角形　基部折り返し	床面	PL30

第 3060 号竪穴建物跡（第 86・87 図）

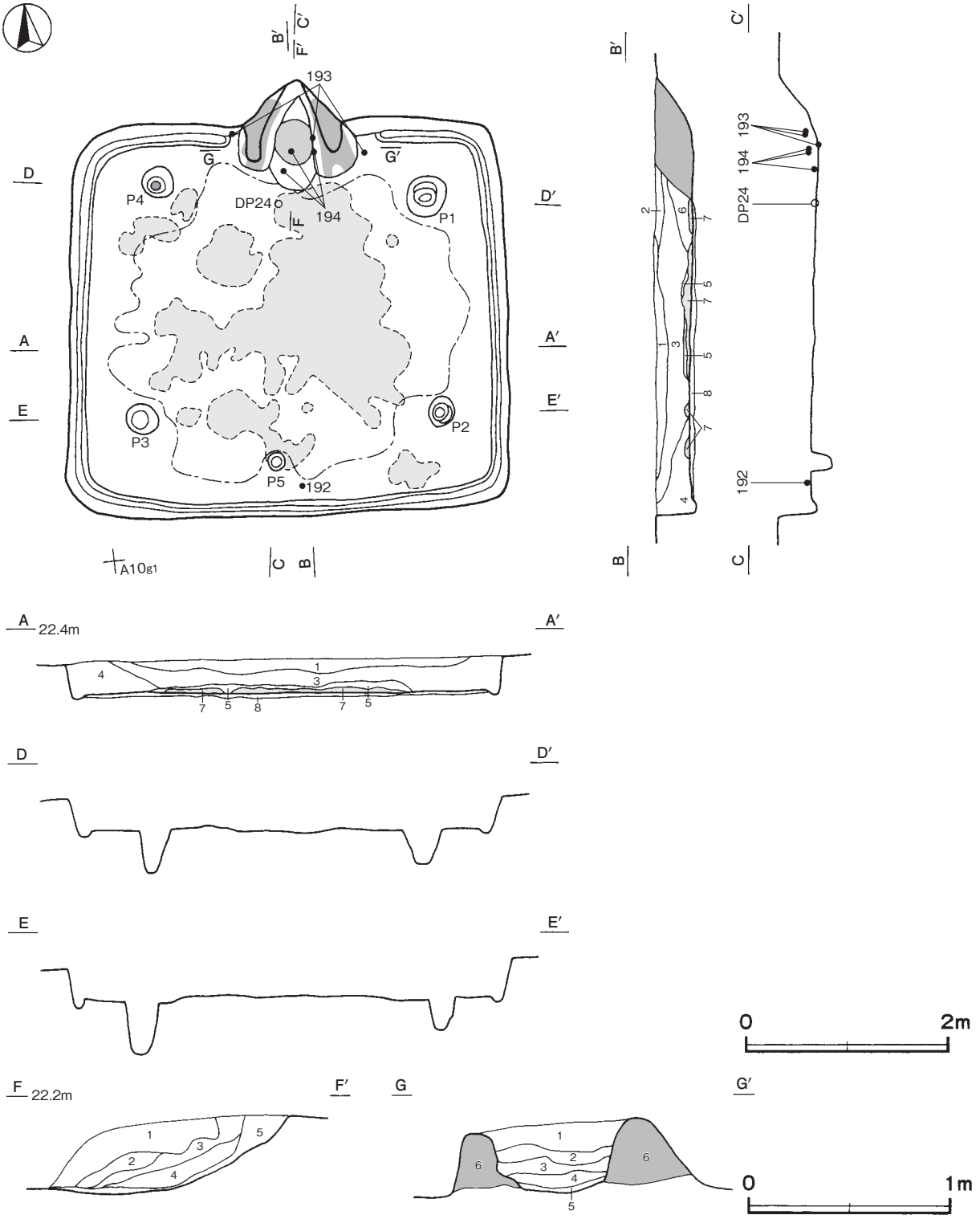
調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北西部の A10f1 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 6712 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.36 m，短軸 3.88 mの長方形で，主軸方向はN － 10 ° － E である。壁高は 28 ～ 38㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 37 ～ 42㎝掘り込み，ロームブロック主体の第８層を埋土し，厚さ４～５㎝に踏み固めて構築されている。壁下には，幅 14 ～ 20㎝，深さ５～８㎝で，U 字形の壁溝が巡っている。床面の広範囲で焼土を確認した。



第 86 図　第 3060 号竪穴建物跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 110cmで，燃焼部幅 38cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を主体とした第６層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 45cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量
2　灰 黄 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 34 ～ 53cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 21cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４の底面に柱のあたりを確認した。

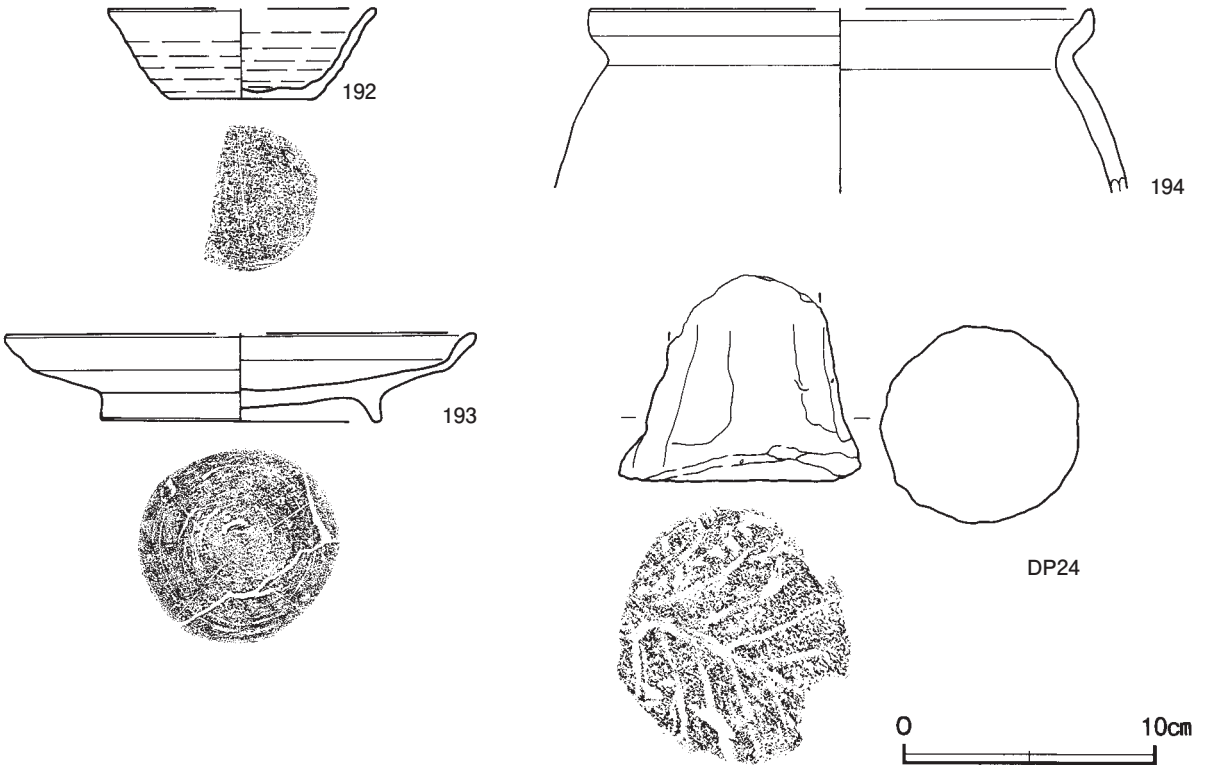
覆土　６層に分層できる。多くの層にロームブロック，焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第７層は焼土層で，第８層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子中量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 266 点（坏 37，高坏２，甕 227），須恵器片 25 点（坏 17，高台付坏１，盤１，甕６），土製品３点（支脚），鉄製品１点（不明）が，北半部を中心に覆土下層から床面にかけて出土している。193 は竈周辺の覆土下層と床面から出土した破片が接合したものである。194 は竈内の覆土下層から出土している。192 は南壁際中央部の覆土下層から出土している。DP24 は北部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。焼土層が広範囲に広がっていることと床面が焼けていることから，廃絶の際に，廃材等を焼却処理したと考えられる。



第 87 図　第 3060 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3060 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 87 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
192	須恵器	坏	[10.6]	3.6	5.8	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	30%
193	須恵器	盤	[18.6]	3.5	11.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	底部回転ヘラ切り　×のヘラ記号	床面～覆土下層	50% PL26
194	土師器	甕	[20.0]	(7.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈内覆土下層	20%

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP24	支脚	(5.6)	9.6	(8.1)	(448.6)	長石・赤色粒子	にぶい橙	上部欠損　ヘラ削り後，ナデ　木葉痕	床面	

第 3112 号竪穴建物跡（第 88 ～ 90 図）

調査年度　平成 22 年度

位置　13 区北東部の B14e6 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 66・67 号柱穴列に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.68 m，短軸 5.36 mの方形で，主軸方向はＮ－ 15 °－ Ｅである。壁高は 18 ～ 28cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 22 ～ 30cm掘り込み，ローム主体の第６層を埋土し，厚さ２～ 10cmに踏み固めて構築されている。壁下には，幅 18 ～ 28cm，深さ５～９cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 145cmで，燃焼部幅 68cmである。袖部は床面と同じ高さに，砂質粘土を主体とした第５～ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を３cmほど掘りくぼめ，第４層を埋土して構築している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 43 cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。捏ね鉢が支脚に転用されている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗赤暗色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極 赤 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
5　明 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
6　赤　褐　色　焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
8　黒　褐　色　炭化粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
9　橙　　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　灰　色　砂質粘土ブロック中量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 36 ～ 52cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ 43cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・Ｐ７は深さ 28cm・36cmで，位置から壁柱穴と考えられる。Ｐ８は深さ 37cmで，床面や壁溝を掘り込んでおり，底面も平坦ではないが，貯蔵施設と考えられる。Ｐ１～Ｐ５の底面に柱のあたりを確認した。

Ｐ８土層解説

1　にぶい褐色　ロームブロック中量
2　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量

覆土　５層に分層できる。水平堆積で各層に厚みがあることから，埋め戻されている。第６層は貼床の構築土である。

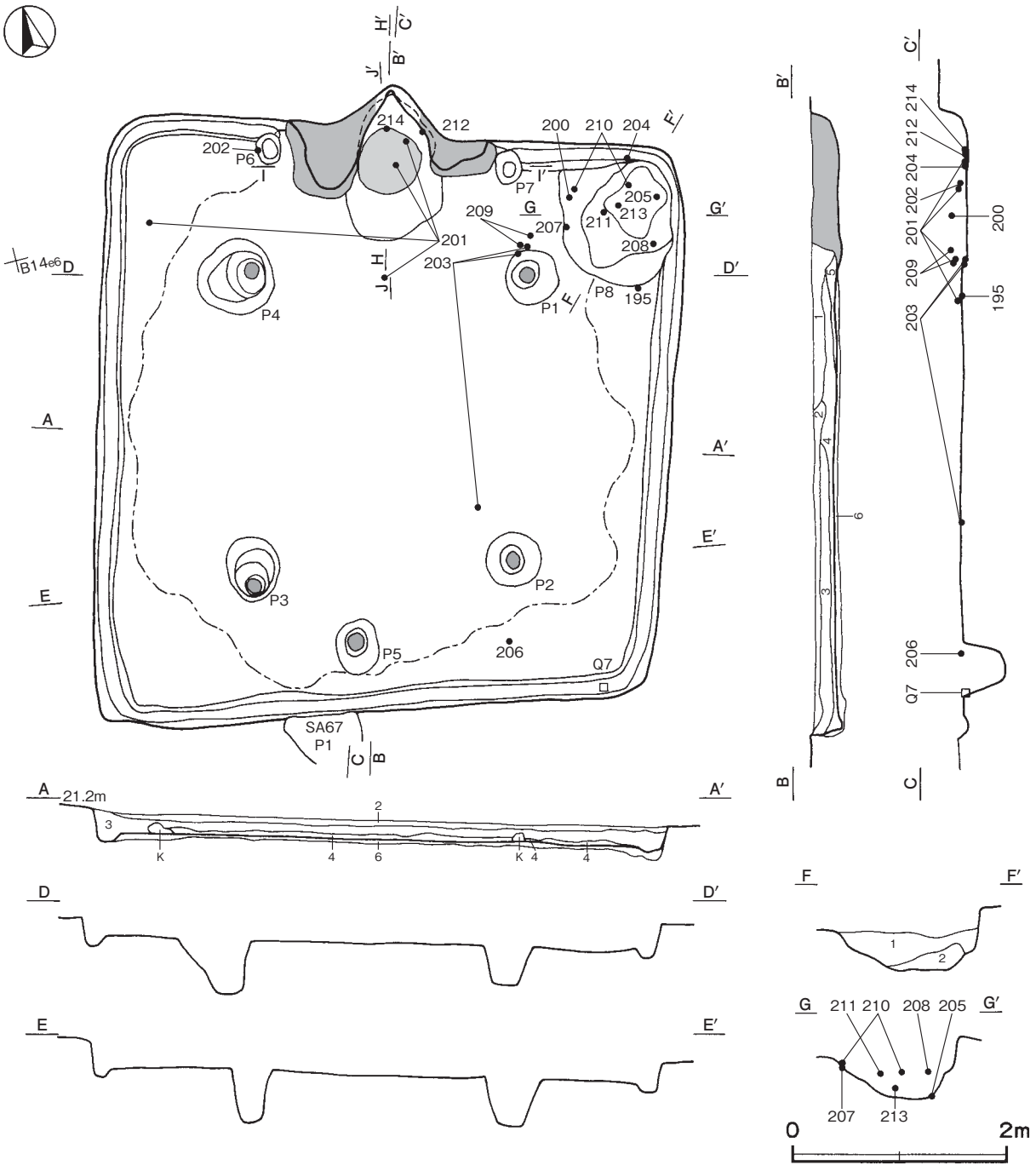
土層解説

1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック中量
4　にぶい褐色　ロームブロック中量
5　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
6　にぶい褐色　ローム粒子中量

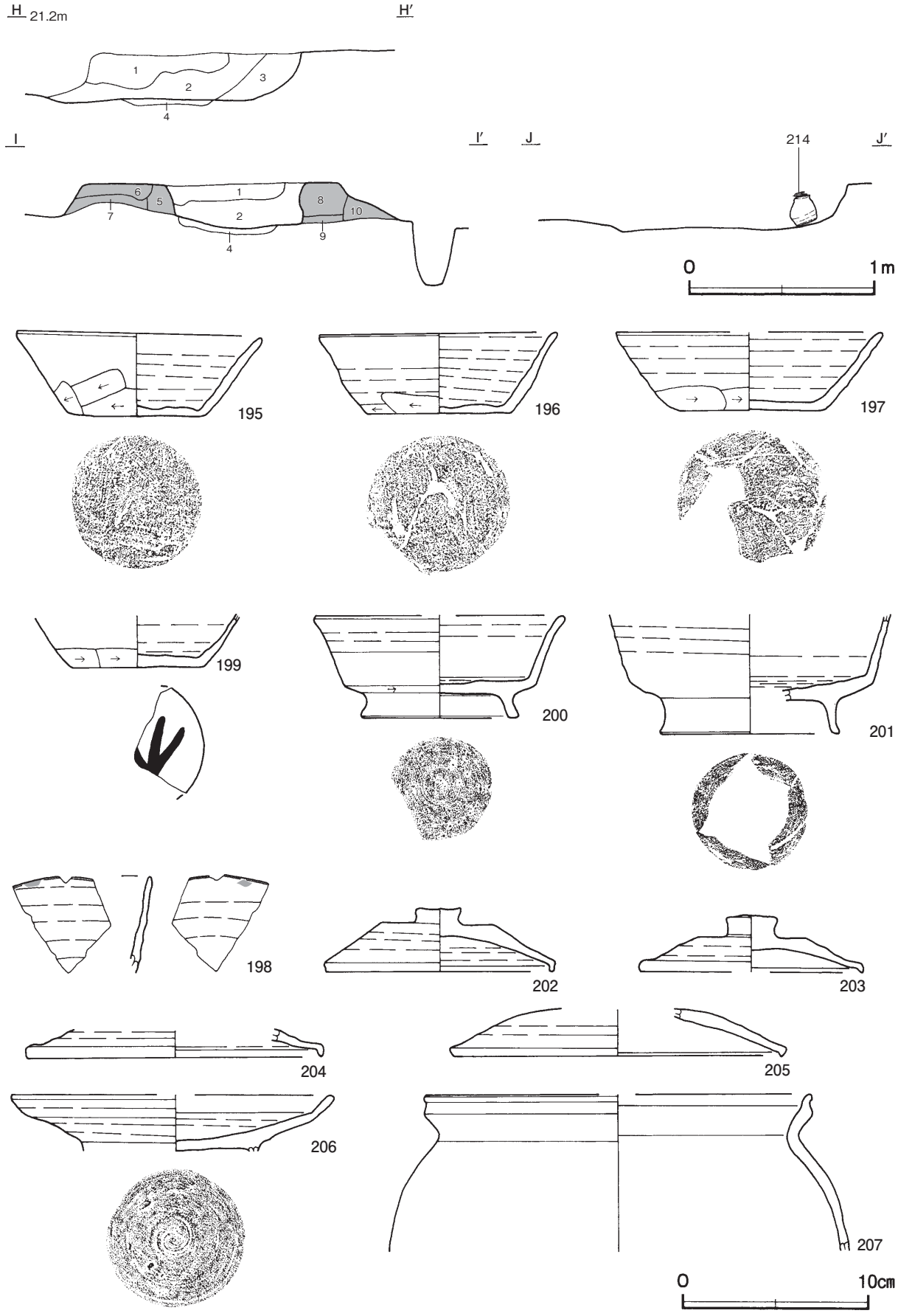
遺物出土状況　土師器片 661 点（坏７，甕 653，小形甕１），須恵器片 309 点（坏 149，高台付坏 10，蓋 15，皿４，高台付皿２，長頸壺１，甕 121，甑６，捏ね鉢１），石器１点（火打石），鉄器２点（鏃），鉄滓１点（68.5g）

が，北部から東部の覆土上層から床面にかけて出土している。195 は北東部の床面から正位で，203 は東部の床面から逆位で，それぞれ出土している。214 は火床面から逆位で出土しており，支脚に転用されている。205 はＰ８の底面から出土している。212 は竈内の覆土下層から出土している。201 は竈内と中央部，北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。204 は北壁溝の覆土下層から出土している。206 は南東部の覆土下層から出土している。202 は北西部の覆土下層から正位で出土している。213 はＰ８の覆土下層から出土している。209 は北東部の覆土中層から出土している。207・208・210・211 はＰ８の覆土中層から，200 は北東部の覆土中層から出土している。Ｑ７は南東部コーナーの覆土下層から出土している。196 ～ 199 は覆土中から出土している。

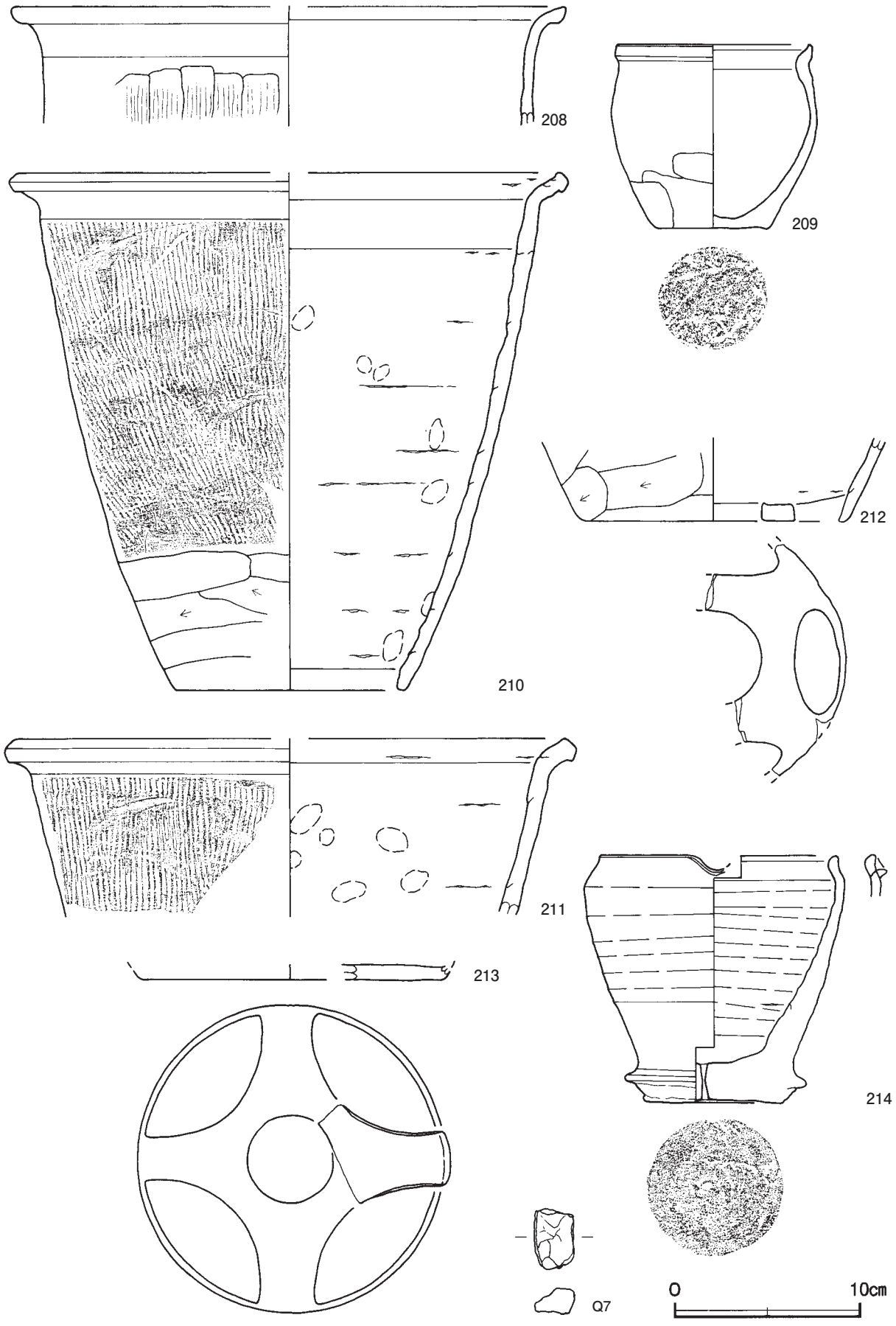
所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第 88 図　第 3112 号竪穴建物跡実測図



第 89 図　第 3112 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 90 図　第 3112 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3112 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 89・90 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
195	須恵器	坏	13.2	4.6	7.3	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	床面	100% PL27
196	須恵器	坏	12.8	4.4	7.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部静止ヘラナデ	覆土中	60%
197	須恵器	坏	[14.4]	4.2	8.2	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部多方向の手持ちヘラ削り	覆土中	50% PL27
198	須恵器	坏	−	(5.2)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ　口唇部に人為的な切込み　煤付着	覆土中	10%灯明皿に転用
199	須恵器	坏	−	(2.8)	[7.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，底部一方向のヘラ削り　墨書「□」	覆土中	20%
200	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.5	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	60%
201	須恵器	高台付坏	−	(6.4)	9.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	竈内・覆土下層	50% PL27
202	須恵器	蓋	12.2	3.4	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	95% PL27
203	須恵器	蓋	[12.0]	3.1	−	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	50% PL27
204	須恵器	蓋	[15.8]	(1.5)	−	長石・石英・雲母	灰	普通	外・内面ロクロナデ	覆土下層	20%
205	須恵器	蓋	[17.8]	(2.5)	−	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り　外・内面自然釉	P8 底面	20%
206	須恵器	高台付皿	[17.1]	(3.0)	−	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り痕を残す	覆土下層	80% PL27
207	土師器	甕	[20.8]	(8.4)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	P 8 覆土中層	30%
208	土師器	甕	[30.0]	(6.4)	−	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ナデ	P 8 覆土中層	10%
209	土師器	小形甕	10.3	9.9	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部下端横位のヘラ削り	覆土中層	70% PL26
210	須恵器	甑	[29.3]	27.9	[12.5]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位の平行叩き後下端ヘラ削り　内面ナデ　指頭痕	P 8 覆土中層	30%
211	須恵器	甑	[29.7]	(9.6)	−	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ナデ　指頭痕	P 8 覆土中層	10%
212	須恵器	甑	−	(4.5)	[14.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	竈内覆土下層	10% PL26
213	須恵器	甑	−	(0.9)	[16.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部外・内面ナデ	P 8 覆土下層	5 %
214	須恵器	捏ね鉢	12.7	13.3	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	底部外周部ヘラ削り　片口で焼成前に底部に穿孔	火床面	90% PL27

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 7	火打石	3.3	2.2	1.4	14.0	石英	打痕	覆土下層	

表 6　平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模	壁 高	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長軸×短軸（m）	（cm）			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2139	B14b1	N − 18° − E	方形	3.34 × 3.08	28 ～ 30	平坦	全周	3	1	16	竈 1	−	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	9 C 中葉	SI2140・3034 → 本跡
3060	A10f1	N − 10° − E	長方形	4.36 × 3.88	28 ～ 38	平坦	全周	4	1	−	竈 1	−	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	9 C 前葉	本跡→ SK6712
3112	B14e6	N − 15° − E	方形	5.68 × 5.36	18 ～ 26	平坦	全周	4	1	3	竈 1	−	人為	土師器片，須恵器片，石器，鉄製品，鉄滓	9 C 中葉	本跡→ SA66・67

（2）掘立柱建物跡

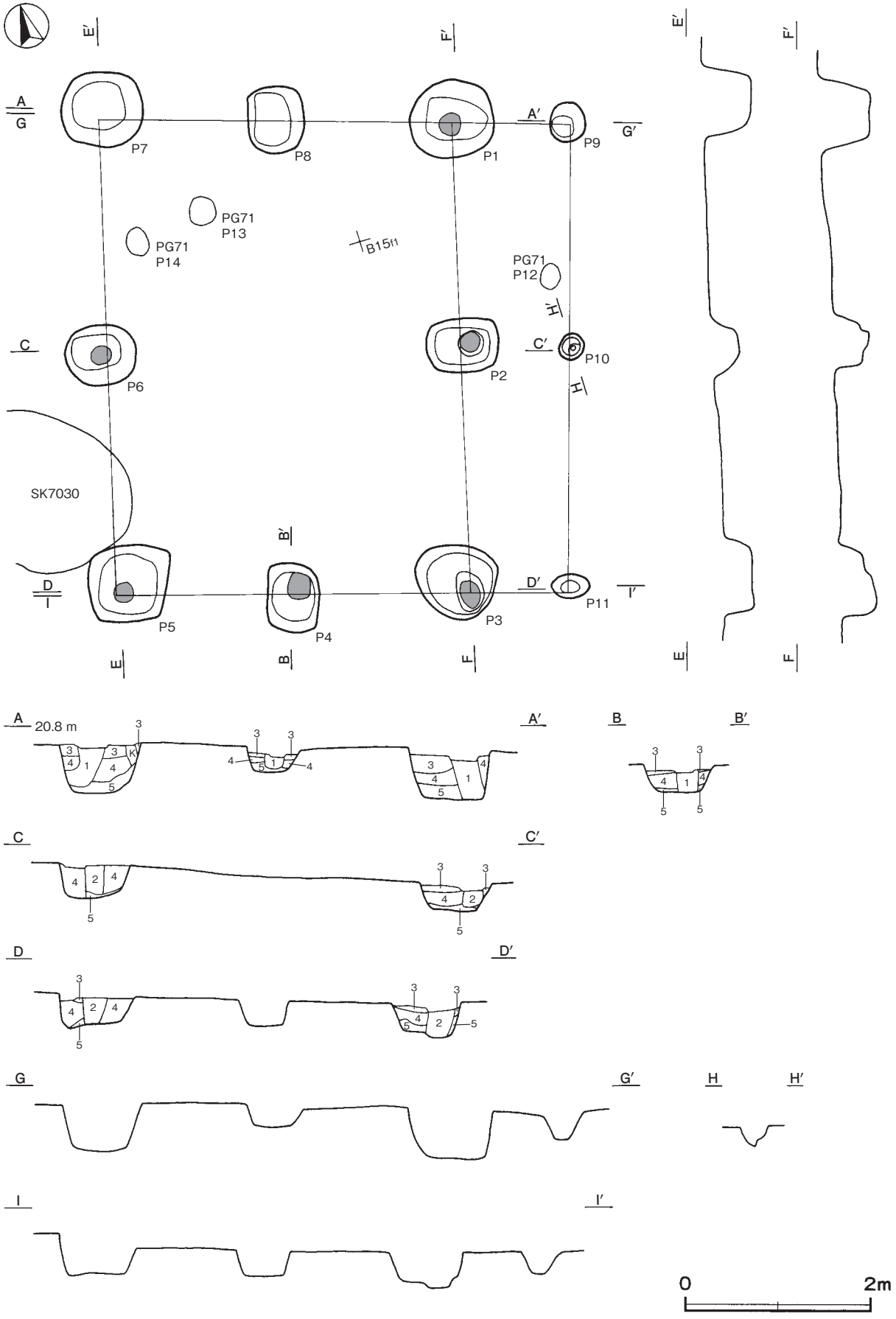
第 579 号掘立柱建物跡（第 91 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区東部の B14e0 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 7030 号土坑，第 71 号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行２間，梁行２間，東平に庇を有する側柱建物跡で，桁行方向がN − 15 ° − E の南北棟である。規模は，身舎が桁行 5.1 m，梁行 3.8 mで，面積は 19.38㎡である。庇の出は 1.2m で庇も含めると梁行は 5.0m で，面積は 25.5㎡である。身舎の柱間寸法は桁行が北妻から 2.4m（８尺），2.7m（９尺），梁行は 1.8m（６尺）で均等に配置され，柱筋はほぼ揃っている。



第 91 図　第 579 号掘立柱建物跡実測図

柱穴　11 か所。身舎柱穴の平面形は円形, 楕円形及び隅丸方形で, 規模は長径（長軸）71 ～ 92㎝, 短径（短軸）55 ～ 83㎝である。深さは 22 ～ 53㎝である。庇柱穴の平面形は円形や楕円形で，長径 27 ～ 40㎝，短径 25 ～ 38㎝である。深さは 21 ～ 32㎝である。第１・２層が柱抜き取り後の堆積層，第３～５層が埋土である。Ｐ１～Ｐ６の底面から柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　明　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　極暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片７点（坏２，甕５），須恵器片２点（坏）がＰ１・Ｐ３・Ｐ７・Ｐ８の埋土から出土している。いずれも細片で図示できない。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と比定できる。第 582 号掘立柱建物跡と時期と主軸方向が同じことから，一連の施設と考えられる。13 区で庇を持つ掘立柱建物跡は，『第 264 集』で報告されている第 403・420 号掘立柱建物跡がある。庇が付く建物であることから住居と想定される。

第 582 号掘立柱建物跡（第 92・93 図）

調査年度　平成 22 年度

位置　13 区北東部の B14g7 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造　桁行３間, 梁行２間の側柱建物跡で, 桁行方向がＮ－ 77°－Ｗの東西棟である。規模は, 桁行 7.5 ｍ, 梁行 5.2 ｍで, 面積は 39.0㎡である。柱間寸法は, 桁行が東妻から 2.6m（8.6 尺）, 2.3m（7.6 尺）, 2.6m（8.6 尺）, 梁行が 2.6m（8.6 尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。平面形は隅丸方形または楕円形で, 長軸（長径）94 ～ 127㎝, 短軸（短径）90 ～ 118㎝である。深さは 27 ～ 45㎝である。第１・２層が柱抜き取り後の堆積層，第３～７層が埋土である。Ｐ２を除いた柱穴の底面からは柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

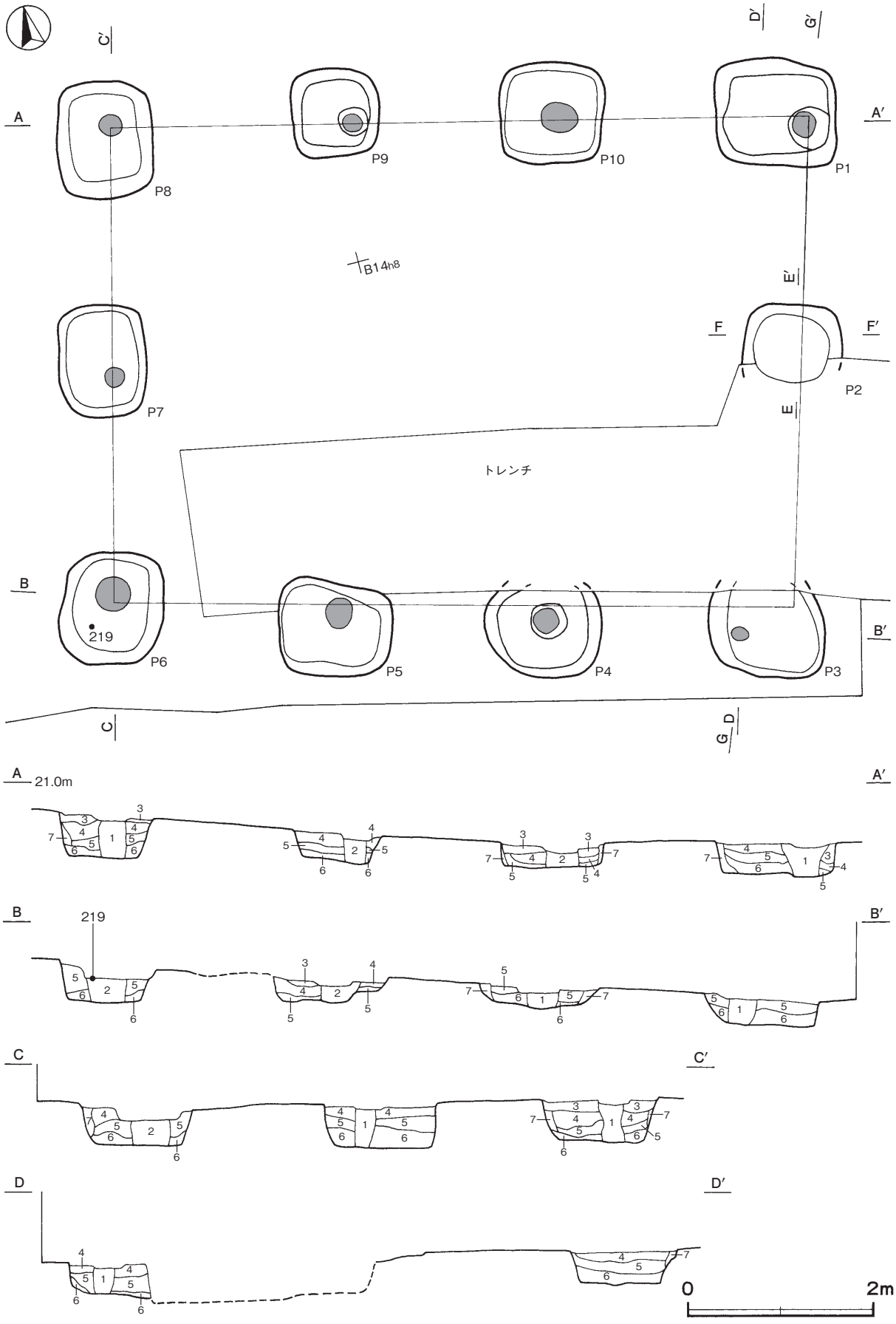
1　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　明　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 65 点（坏２，高坏１，甕 62），須恵器片 26 点（坏 14，蓋２，長頸壺１，甕９）が，Ｐ１～ P10 の埋土から出土している。219 はＰ６の埋土上層, 220 はＰ９, 221 はＰ５の埋土から出土している。

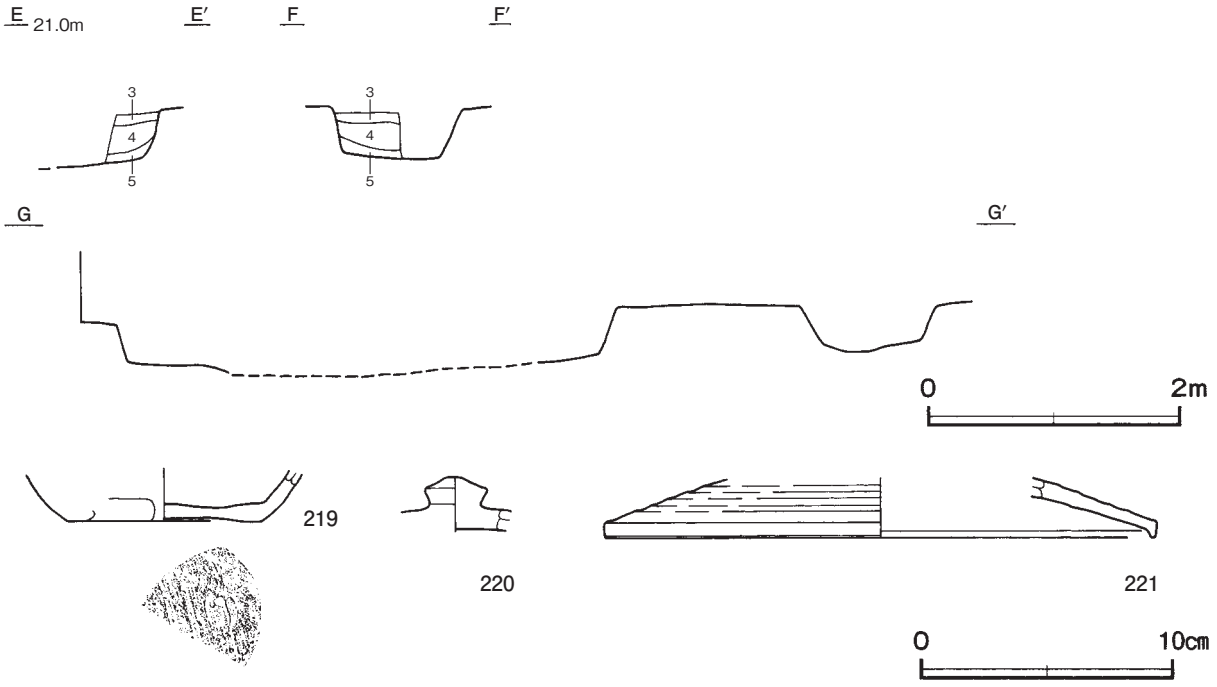
所見　規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。

第 582 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 93 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
219	須恵器	坏	－	(2.1)	[7.8]	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	Ｐ６埋土上層	10%
220	須恵器	蓋	－	(2.2)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	Ｐ９埋土	５%
221	須恵器	蓋	[21.8]	(2.4)	－	長石・石英	暗灰	普通	外・内面ロクロナデ　自然釉	Ｐ５埋土	10%



第 92 図　第 582 号掘立柱建物跡実測図



第 93 図　第 582 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

表 7　平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
			桁×梁(間)	桁 × 梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
579	B14e0	N − 15° − E	2 × 2	5.1 × 5.0	25.50	2.4 ～ 2.7	1.8	側柱	11	円形・楕円形・隅丸方形	21 ～ 53	土師器片，須恵器片	9C 後葉	SK7030，PG71 新旧不明
582	B14g7	N − 77° − W	3 × 2	7.5 × 5.2	39.0	2.3 ～ 2.6	2.6	側柱	10	楕円形・隅丸方形	27 ～ 45	土師器片，須恵器片	9C 前葉	

4　その他の遺構と遺物

時期や性格が明確でない竪穴建物跡 3 棟，掘立柱建物跡 3 棟，柱穴列 2 列，土坑 86 基，溝跡 2 条，ピット群 5 か所を確認した。以下，遺構について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 3034 号竪穴建物跡（第 94 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部の B14b1 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2139・2140 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南北軸 1.05 m，東西軸 1.95 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測され，南北方向はN − 16 ° − E である。壁高は 13 ～ 15cmで，外傾して立ち上がっている。

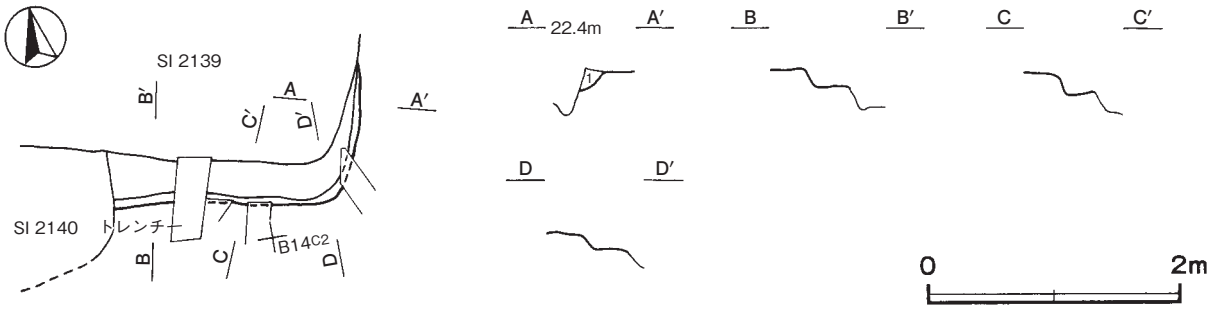
床　平坦である。

覆土　単一層である。

土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量

所見　遺物が出土していないが，第 2139･2140 号竪穴建物に掘り込まれていることから８世紀以前とみられる。



第 94 図　第 3034 号竪穴建物跡実測図

第 3059 号竪穴建物跡（第 95 図）

調査年度　平成 21 年度

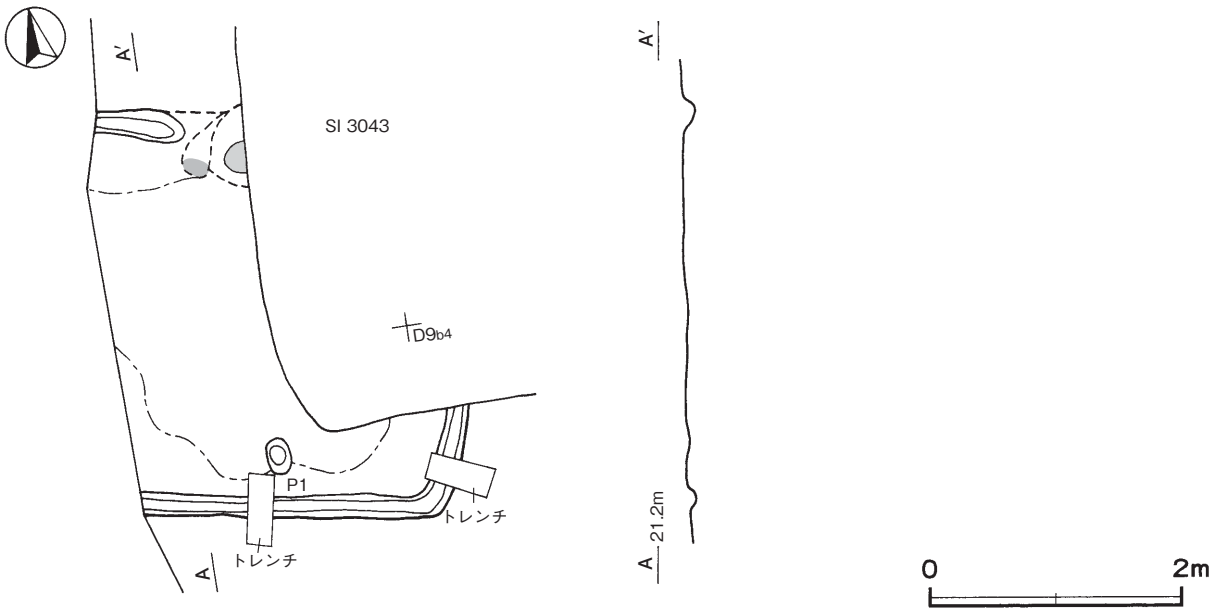
位置　13 区西部のＤ９a3 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3043 号竪穴建物に掘り込まれている。

確認状況　削平され，床面が露出した状態で確認した。

規模と形状　東半部が第 3043 号竪穴建物に掘り込まれ，西部は調査区域外のため，南北軸は 3.20 ｍで，東西軸は 2.70 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測され，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁は確認できなかった。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。幅 14 ～ 26㎝，深さ８～ 12㎝のＵ字形の壁溝を南東部と北部で確認した。



第 95 図　第 3059 号竪穴建物跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，東半部を第3043号竪穴建物に掘り込まれ，焚口部から煙道部までは65cm，燃焼部幅は30cmしか確認できなかった。袖部は痕跡のみを確認した。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に６cm掘り込んでいるのを確認した。

ピット　深さ５cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

所見　遺物が出土していないので時期を特定することができないが，第3043号竪穴建物に掘り込まれていることから，８世紀後葉以前とみられる。

第3076号竪穴建物跡（第96図）

調査年度　平成21年度

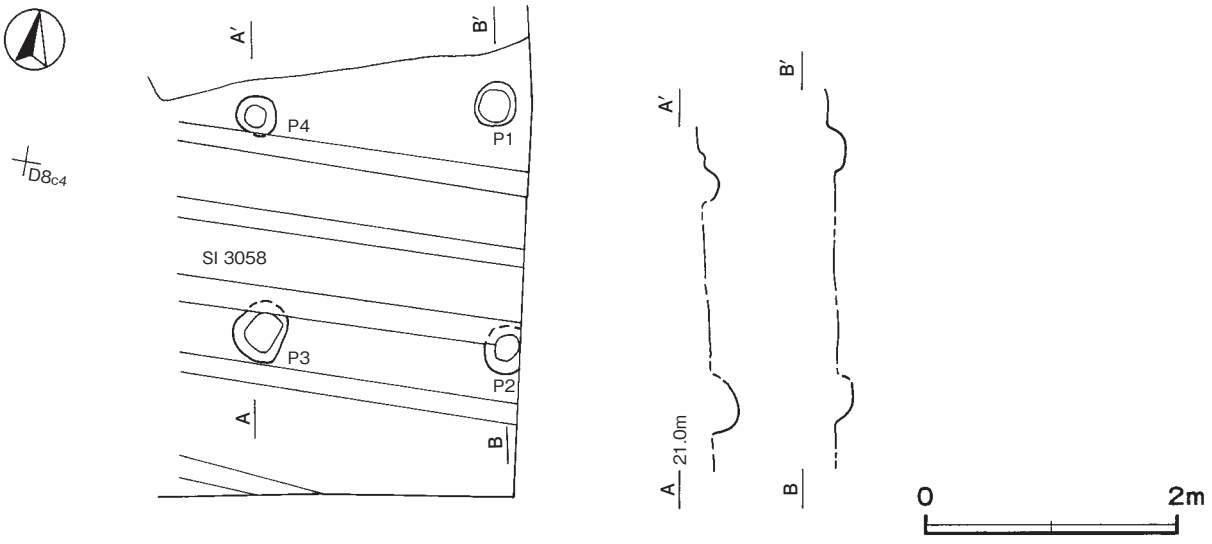
位置　13区西部のＤ８b4区，標高21ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第3058号竪穴建物に掘り込まれている。

確認状況　主柱穴のみを確認した。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ13～25cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。

所見　時期は，遺物がないため不明であるが，６世紀後葉の第3058号竪穴建物に掘り込まれていることから，それ以前とみられる。



第96図　第3076号竪穴建物跡実測図

表８　その他の竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
3034	B14b1	N－16°－E	［方形・長方形］	1.95×1.05	13～15	外傾	—	—	—	—	—	—	人為		８C以前	本跡→SI2139・2140
3059	D9a3	N－4°－E	［方形・長方形］	3.20×2.70	—	—	一部	—	1	—	竈1	—	—		８C後葉以前	本跡→SI3043
3076	D8b4	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—		６C後葉以前	本跡→SI3058

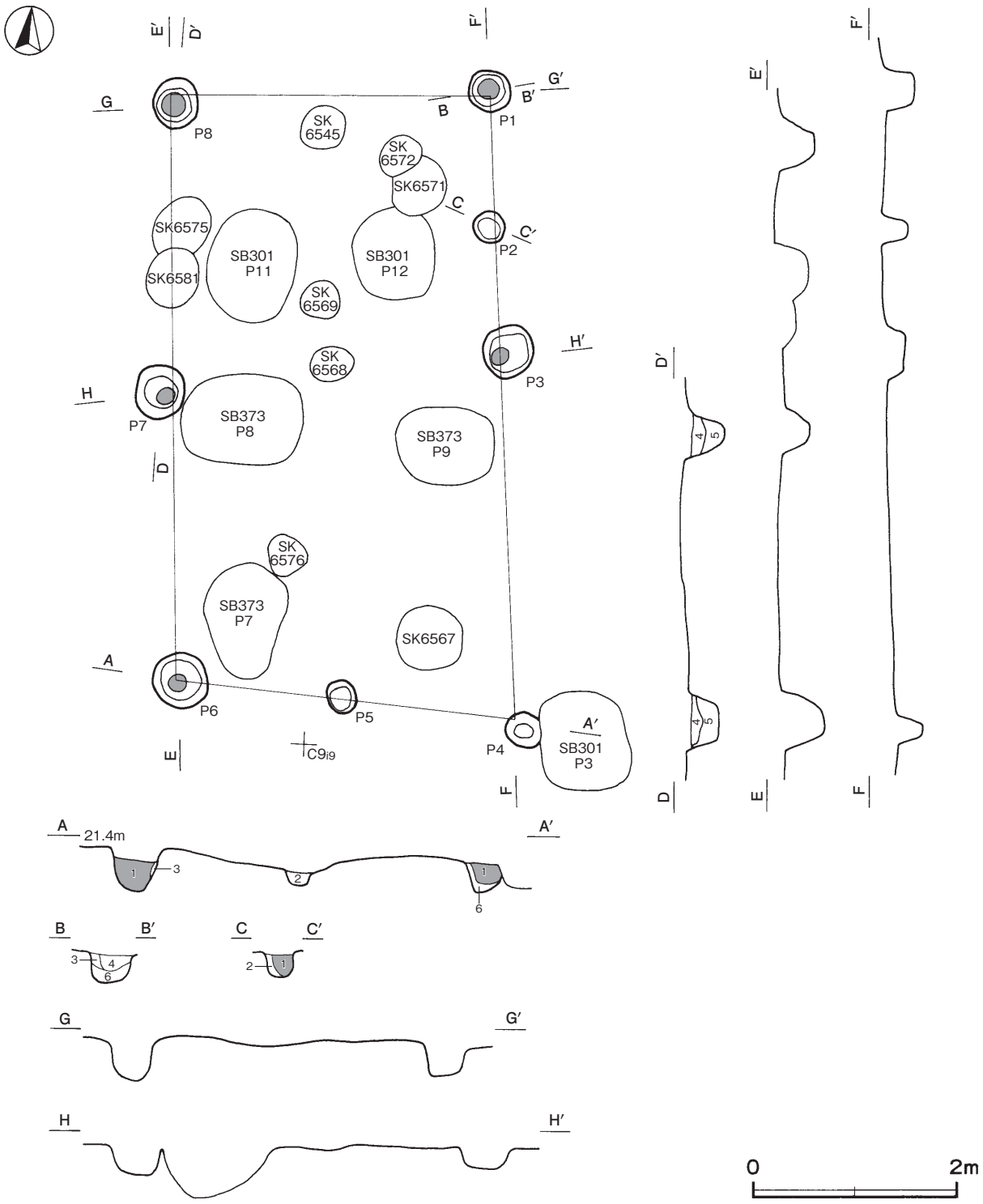
(2) 掘立柱建物跡

第 551 号掘立柱建物跡（第 97 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部の C 9g8 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 301 号掘立柱建物に掘り込まれている。第 373 号掘立柱建物跡，第 6545・6567 ～ 6569・6571・6572・6575・6576・6581 号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。



第 97 図　第 551 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　東桁行３間，西桁行２間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向がＮ－３°－Ｗの南北棟である。規模は，桁行 6.3 m，梁行 3.3 mで，面積は 20.79㎡である。柱間寸法は東桁行が北妻から 1.2m（４尺），1.2m（４尺），3.6m（12 尺），西桁行が 2.9m（9.6 尺），北梁行が東平から 3.0m（10 尺），南梁行が東平から 1.8m（６尺），1.6m（5.3 尺）で間尺はばらつき，北妻と南妻は平行ではないが，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　８か所。平面形は円形または楕円形で，長径 33 ～ 53㎝，短径 27 ～ 52㎝である。深さは 19 ～ 40㎝である。第１層が柱痕跡，第２層が柱抜き取り後の堆積層，第３～６層が埋土である。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ６～Ｐ８の底面からは，柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1	黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗　褐　色　ロームブロック少量	5	暗　褐　色　ローム粒子中量
3	褐　　色　ローム粒子多量	6	暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 12 点（坏２，甕 10）が，Ｐ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７の埋土から出土している。いずれも細片のため図示できない。

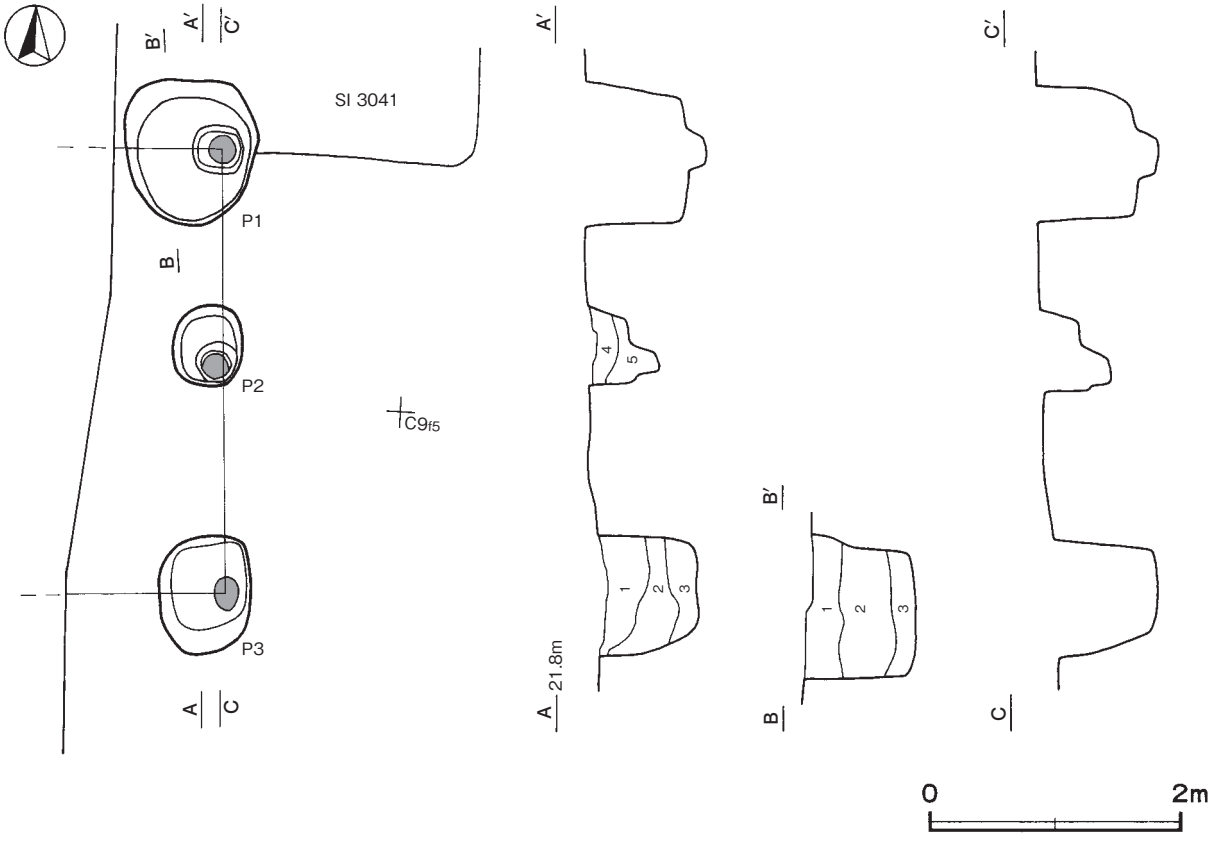
所見　出土土器は，７世紀代のものであるが，周辺の７世紀代の竪穴建物跡とは軸方向が異なっていることから，時期は不明である。

第 553 号掘立柱建物跡（第 98 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ９e4 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 3041 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



第 98 図　第 553 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　西側が調査区域外に延びているため，規模については不明である。南北（桁行）２間，東西（梁行）１間以上の建物で，桁行（南北）方向Ｎ－４°－Ｗと推定できる。規模は，南北（桁行）3.5 ｍである。柱間寸法は南北（桁行）1.8 ｍ（６尺）で均等に配置されており，柱筋は揃っている。

柱穴　３か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径 63 ～ 114㎝，短径 55 ～ 105㎝である。深さは 53 ～ 97㎝である。第１～５層が埋土で，全てのピットの底面で柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 57 点（坏２，甕 55），須恵器片７点（坏２，甕５）が，Ｐ１・Ｐ３の埋土から出土している。いずれも細片で図示できない。

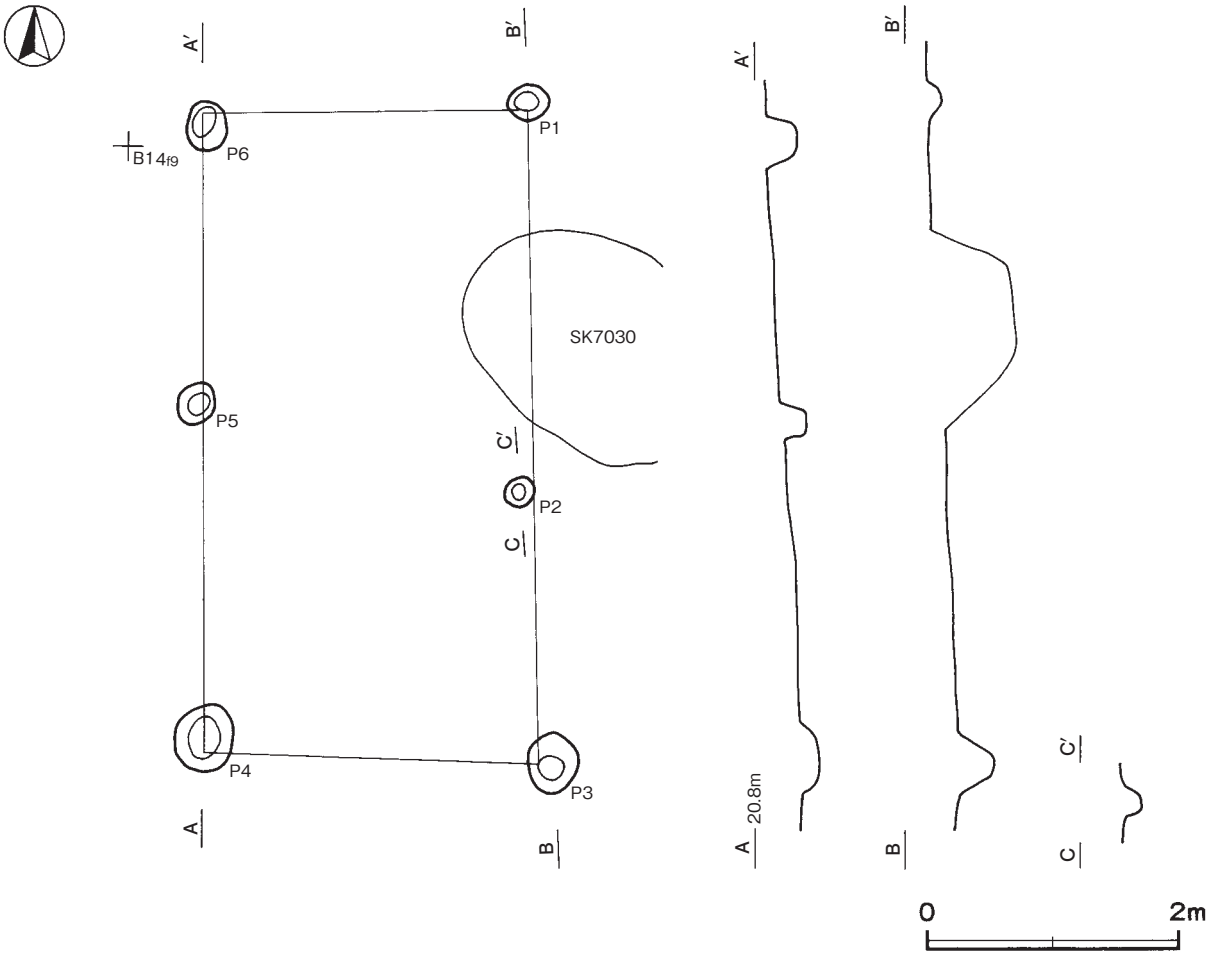
所見　Ｐ１・Ｐ３は掘り込みが深いことから，隅の柱穴であると想定される。時期及び性格は不明である。

第 580 号掘立柱建物跡（第 99 図）

調査年度　平成 22 年度

位置　13 区西部の B14e9 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 7030 号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。



第 99 図　第 580 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行２間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－２°－Ｗの南北棟である。規模は，桁行 5.2 m，梁行 2.7 mで，面積は 14.04㎡である。柱間寸法は東桁行が北妻から 3.0m（10 尺），2.1m（７尺），西桁行が北妻から 2.3m（7.5 尺），2.7m（９尺），梁行は 2.7m（９尺）と間尺はばらつきがあるが，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　６か所。平面形は円形または楕円形で，長径 23 ～ 55㎝，短径 22 ～ 47㎝である。深さは 10 ～ 28㎝である。

所見　時期を特定できる土器は出土していない。周辺に軸方向が同じ建物跡が存在しないことから，時期は不明である。

表９　その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
			桁×梁(間)	桁 × 梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
551	C9g8	Ｎ－３°－Ｗ	３×２	6.3 × 3.3	20.79	1.2 ～ 3.6	1.6 ～ 3.0	側柱	8	円形・楕円形	19 ～ 40	土師器片	不明	本跡→ SB301 SB373，SK6545・6567 ～ 6569・6571・6572・6575・6576・6581 新旧不明
553	C9e4	Ｎ－４°－Ｗ	２×[1]	－	－	1.8	－	－	3	円形・楕円形	53 ～ 97	土師器片，須恵器片	不明	SI3041 →本跡
580	B14e9	Ｎ－２°－Ｗ	２×１	5.2 × 2.7	14.04	2.1 ～ 3.0	2.7	側柱	6	円形・楕円形	10 ～ 47	土師器片	不明	SK7030 と新旧不明

⑶　柱穴列跡

第 66 号柱穴列跡（第 100 図）

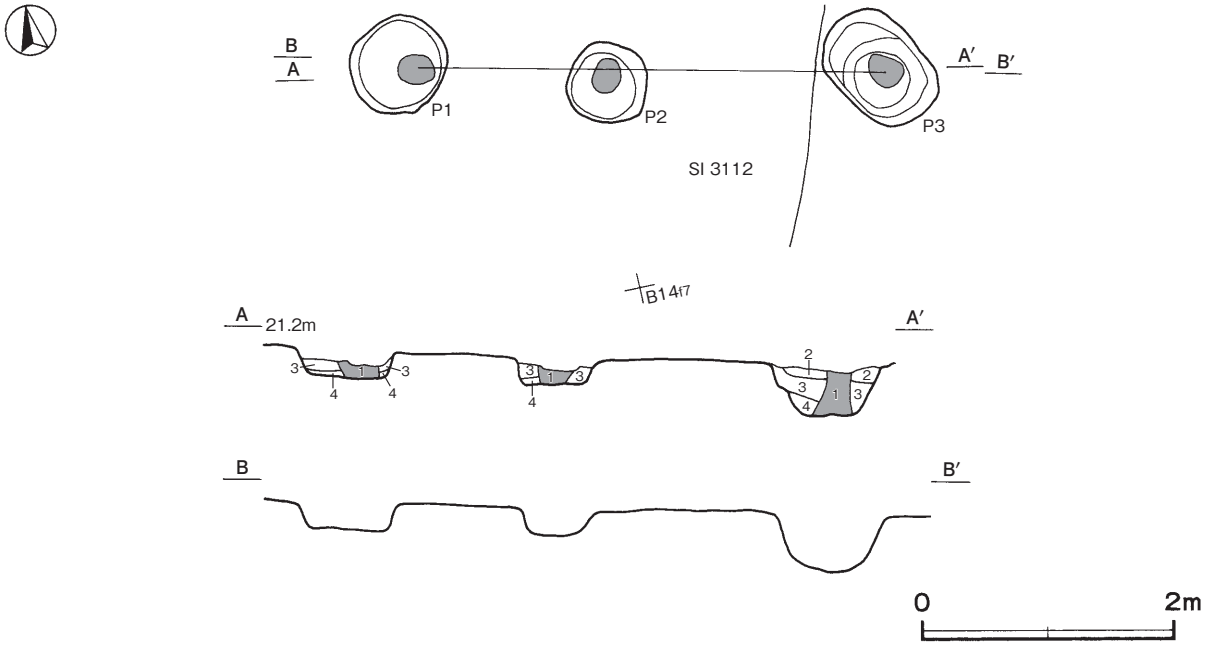
調査年度　平成 22 年度

位置　13 区北東部の B14e6 区，標高 21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第 3112 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東西方向 3.8 mの間に配置された柱穴３か所を確認した。列方向は，Ｎ－ 79°－ Ｗである。柱間寸法は，東から 2.1m（７尺），1.5m（５尺）で，間尺は異なっているが，柱筋は揃っている。

柱穴　３か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径 63 ～ 100㎝，短径 63 ～ 72㎝である。深さは 20 ～



第 100 図　第 66 号柱穴列跡実測図

43㎝である。土層は第１層は柱痕跡，第２～４層は埋土である。全てのピットから柱のあたりが確認できた。

土層解説（各柱穴共通）

１　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量	３　にぶい褐色　ロームブロック中量
２　褐　　色　ローム粒子中量	４　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片９点（坏２，甕７），須恵器７点（坏４，甕３）が各柱穴の覆土中から出土している。いずれも細片で混入したものと考えられる。

所見　９世紀中葉に比定される第 3112 号竪穴建物跡を掘り込んでいることからそれ以降に機能していたと考えられるが，出土土器が混入のため，時期及び性格は不明である。

第 67 号柱穴列跡（第 101 図）

調査年度　平成 22 年度

位置　13 区北東部の B14f6 区，標高 21 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第 3112 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東西方向 3.5m の間に配置された柱穴３か所を確認した。列方向は，Ｎ－ 65 °－ Ｗである。柱間寸法は，東から 1.6m（4.8 尺），1.8m（６尺）で，間尺は異なっているが，柱筋は揃っている。

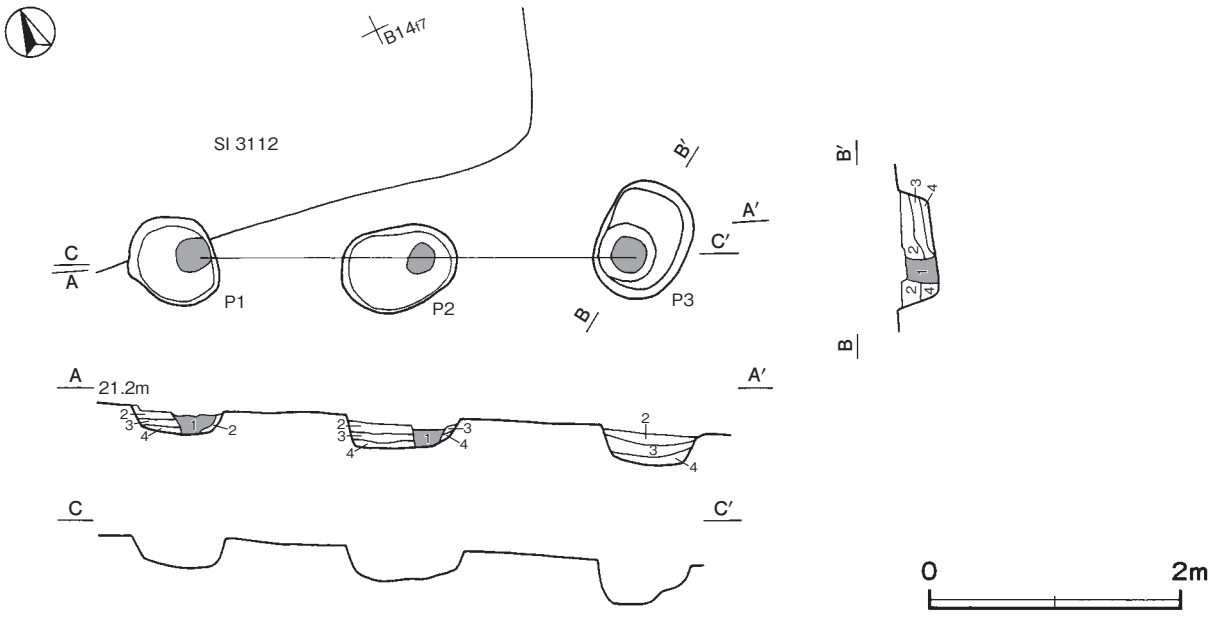
柱穴　３か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径 75 ～ 95㎝，短径 64 ～ 72㎝である。深さは 23 ～ 33㎝である。土層は第１層は柱痕跡，第２～４層は埋土である。全てのピットから柱のあたりが確認できた。

土層解説（各柱穴共通）

１　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量	３　にぶい褐色　ロームブロック中量
２　褐　　色　ローム粒子中量	４　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片２点（甕），須恵器片６点（坏２，甕４）が各柱穴の覆土中から出土している。いずれも細片で混入したものと考えられる。

所見　９世紀中葉に比定される第 3112 号竪穴建物跡を掘り込んでいることからそれ以降に機能していたと考えられるが，出土土器が混入のため，時期及び性格は不明である。



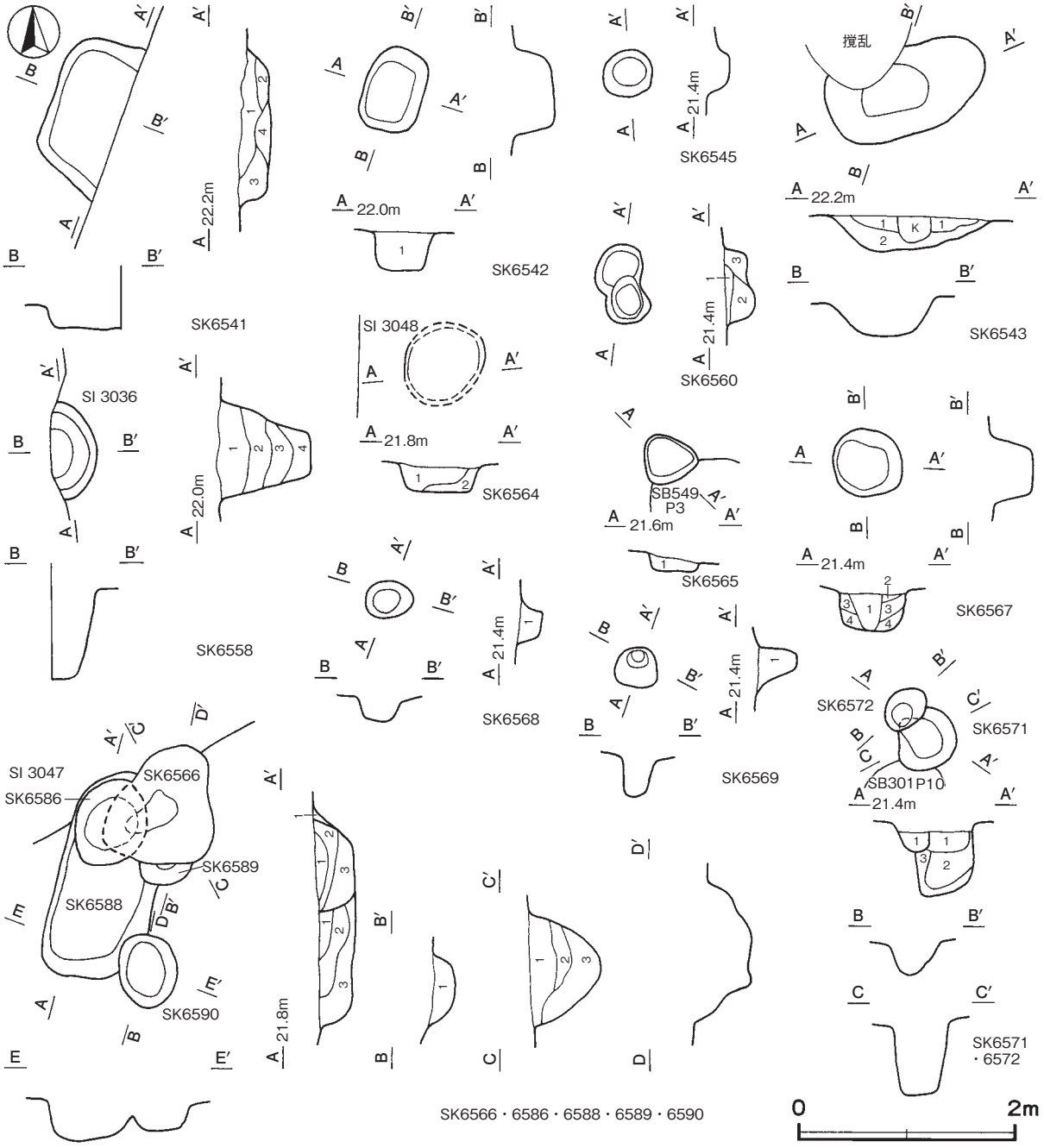
第 101 図　第 67 号柱穴列跡実測図

表 10　その他の柱穴列跡一覧表

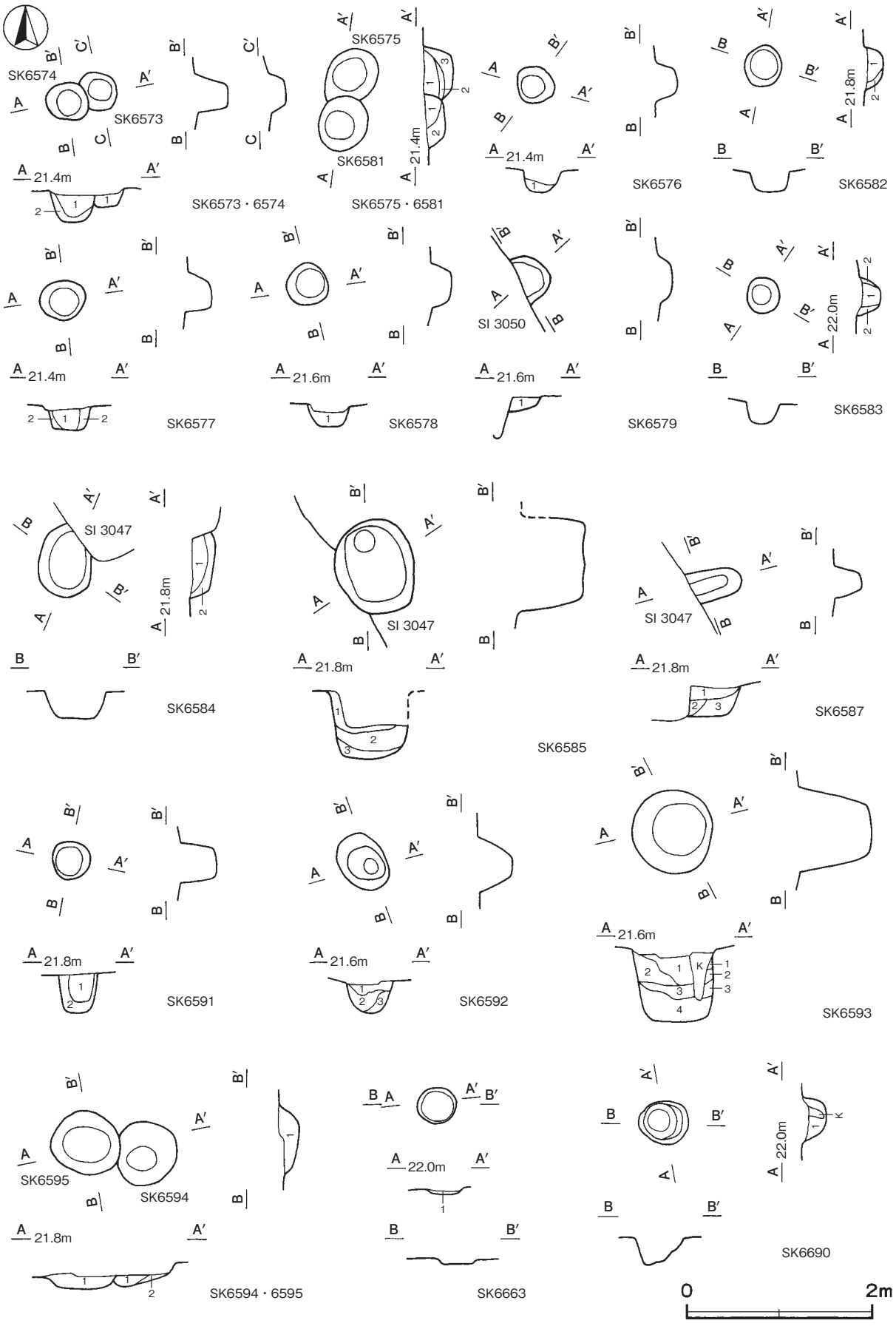
番号	位　置	方　向	長さ（m）	柱間（m）	柱穴					主な出土遺物	備　考
					柱穴本数	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）		
66	B14e6	N－79°－W	3.8	1.5・2.1	3	円形・楕円形	63～100	63～72	20～43	土師器片，須恵器片	SI3112→本跡
67	B14f6	N－65°－W	3.5	1.6・1.8	3	円形・楕円形	75～95	64～72	23～33	土師器片，須恵器片	SI3112→本跡

(4)　土坑（第 102～107 図）

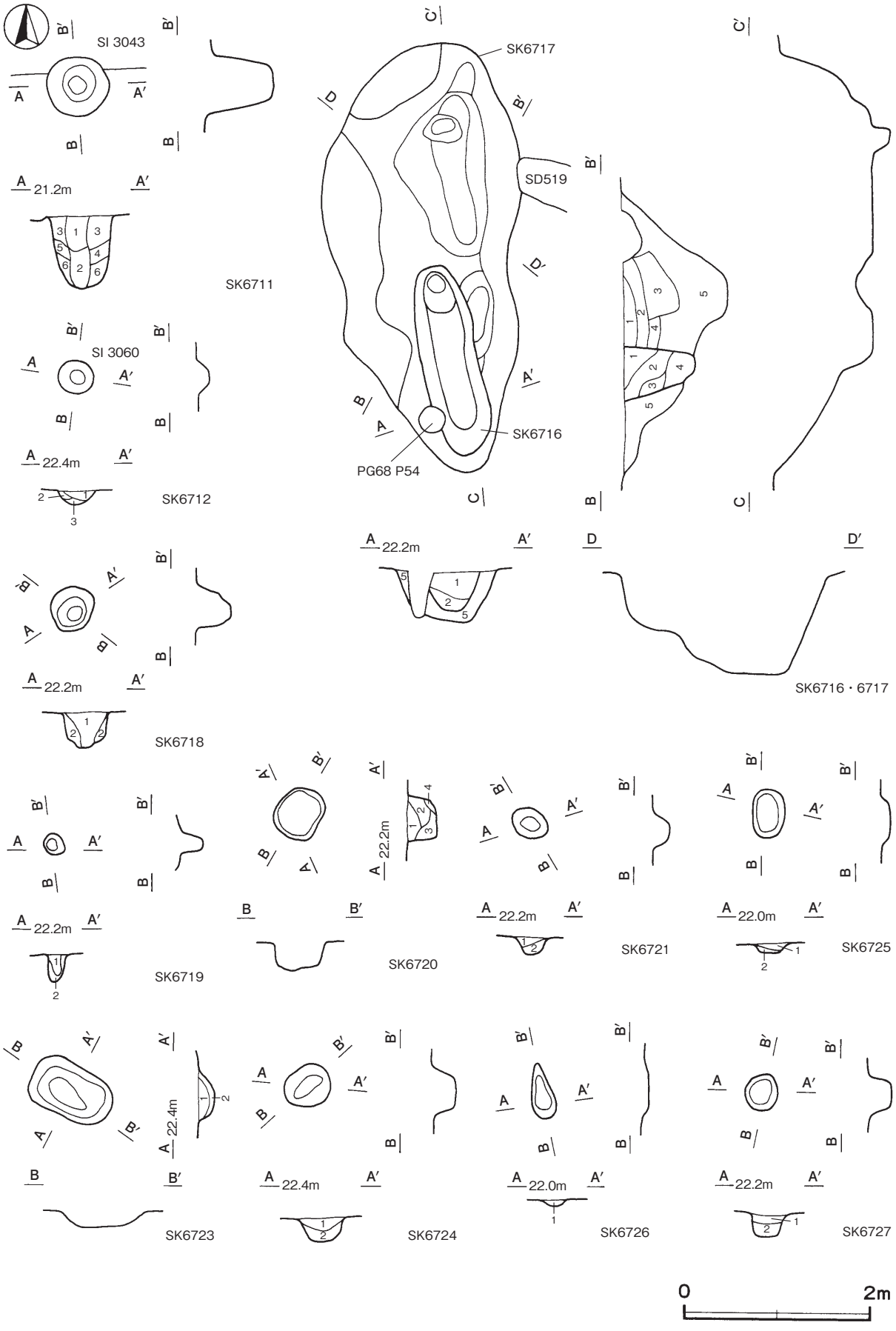
今回の調査で，時期が明らかでない土坑 86 基を確認した。実測図と一覧表を掲載する。



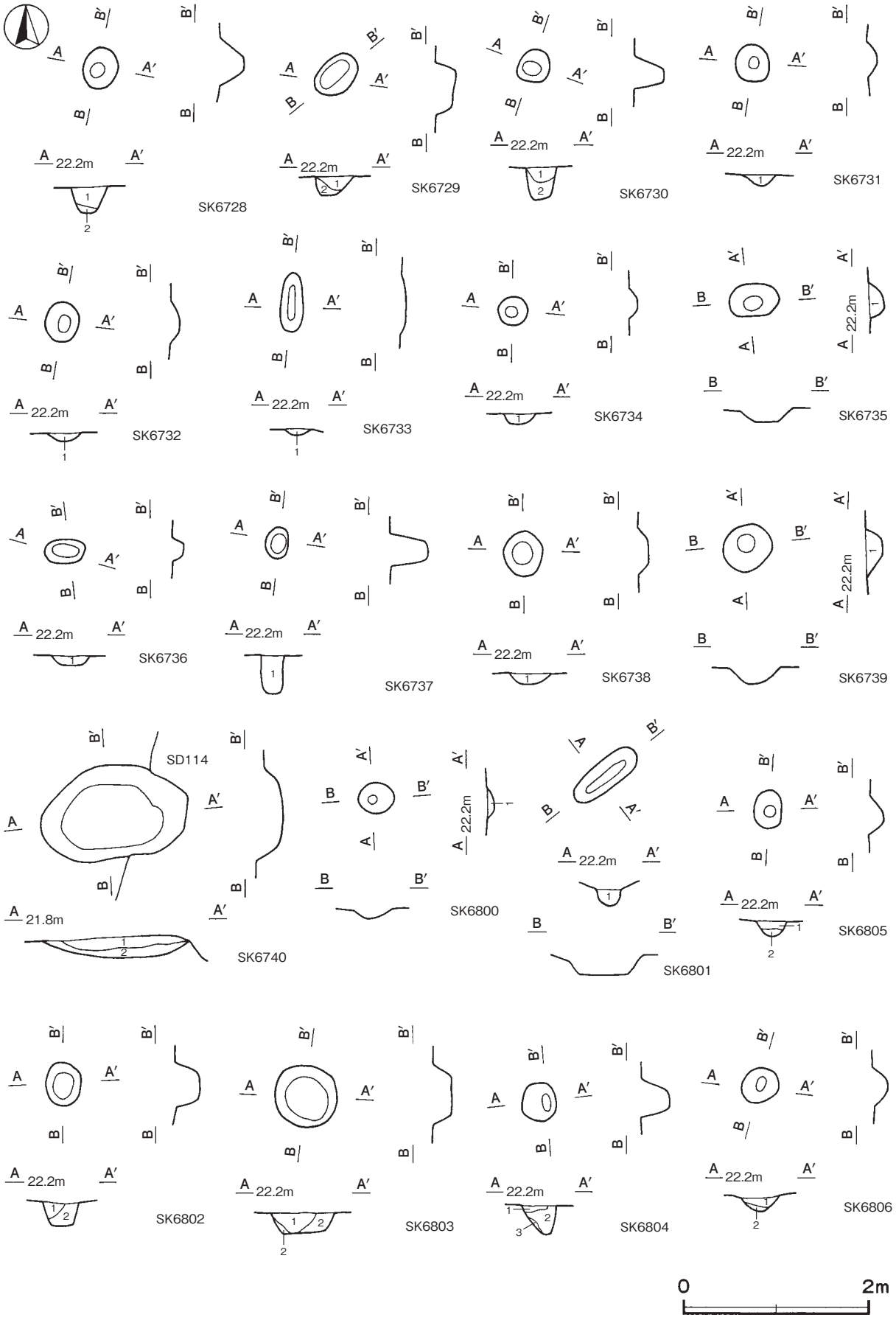
第 102 図　その他の土坑実測図（1）



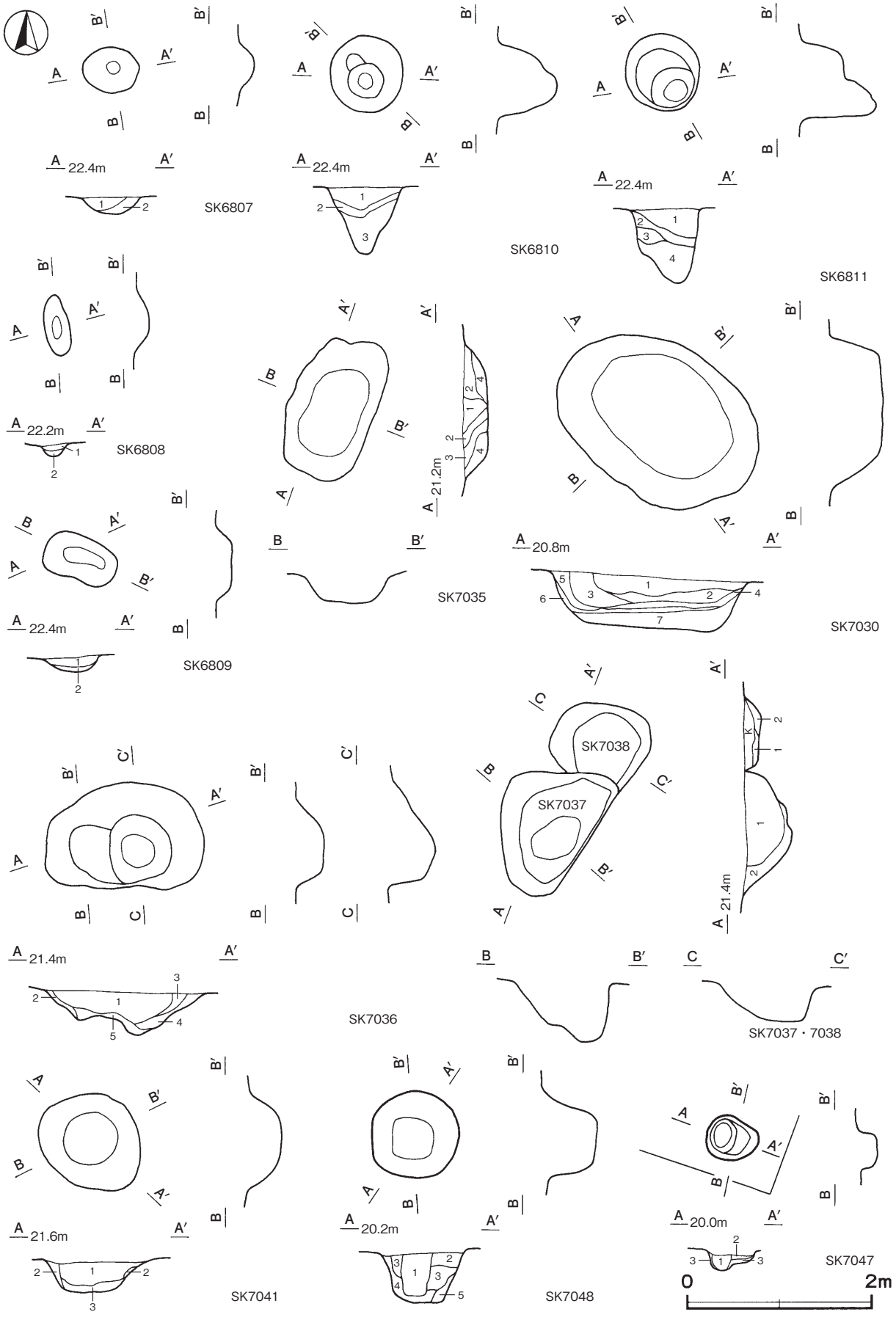
第 103 図　その他の土坑実測図（2）



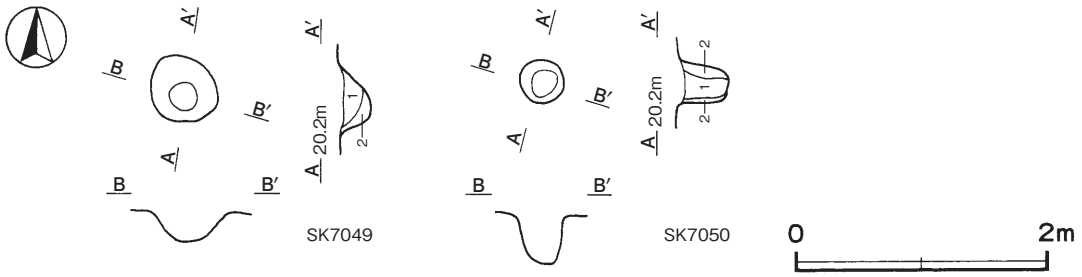
第 104 図　その他の土坑実測図（3）



第 105 図　その他の土坑実測図（4）



第 106 図　その他の土坑実測図（5）



第 107 図　その他の土坑実測図（6）

第 6541 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 6542 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 6543 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 6558 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 6560 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 6564 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 6565 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6566 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 6567 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

第 6568 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 6569 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

第 6571 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6572 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 6573 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 6574 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 6575 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 6576 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

第 6577 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 6578 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 6579 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6581 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 6582 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 6583 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 6584 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 6585 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 6586 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 6587 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 6588 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 6590 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6591 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6592 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 6593 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 6594 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6595 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 6663 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 6690 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 6711 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量

第 6712 号土坑土層解説
1　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 6716 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 6717 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 6718 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 6719 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 6720 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6721 号土坑土層解説
1　黒　　色　焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 6723 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 6724 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 6725 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 6726 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 6727 号土坑土層解説
1　黒　　色　炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量

第 6728 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　炭化粒子少量

第 6729 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子微量

第 6730 号土坑土層解説
1　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 6731 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 6732 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第 6733 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 6734 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6735 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 6736 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 6737 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 6738 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6739 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 6740 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 6800 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 6801 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6802 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 6803 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 6804 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第 6805 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 6806 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 6807 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 6808 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第 6809 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 6810 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第 6811 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

第 7030 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　明　褐　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 7035 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量

第 7036 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック多量

第 7037 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

第 7038 号土坑土層解説
1　明　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 7041 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 7047 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子中量
3　極暗褐色　ロームブロック微量

第 7048 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子微量
3　にぶい褐色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量

第 7049 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 7050 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

表 11　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考（重複関係　古→新）
6541	B14d2	N－20°－E	［隅丸方形］	1.42　×（0.66）	22	平坦	外傾緩斜	人為	土師器片	
6542	B14d2	N－20°－E	隅丸方形	0.80　×　0.52	35	平坦	外傾	人為	土師器片	
6543	B14d1	N－70°－E	［楕円形］	1.53　×　0.79	35	皿状	緩斜	自然		
6545	C9g8	N－62°－E	楕円形	0.50　×　0.42	16	平坦	外傾	人為		SB551 新旧不明

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6558	C9b4	N－0°	[円形・楕円形]	0.90 × (0.42)	86	平坦	外傾	人為		SI3036 →本跡
6560	C9f9	N－17°－W	不定形	0.73 × 0.45	27	段状	外傾	人為		
6564	C9d8	－	[円形]	0.78 × [0.73]	25	平坦	外傾	人為	土師器片	SI3048 →本跡
6565	C9g8	N－25°－W	不定形	0.48 × 0.42	14	平坦	外傾	人為	土師器片	SB549 →本跡
6566	C9e6	N－16°－E	[不定形]	1.13 × [0.97]	66	平坦	緩斜	不明	土師器片	SI3047, SK6588・6589→本跡 SK6586 新旧不明
6567	C9h9	N－50°－E	楕円形	0.68 × 0.64	37	平坦	外傾	人為	土師器片	SB373・551 新旧不明
6568	C9h9	N－70°－E	楕円形	0.44 × 0.34	23	平坦	外傾	自然		SB301・551 新旧不明
6569	C9g8	N－56°－E	隅丸方形	0.40 × 0.37	38	平坦	外傾	人為		SB301・551 新旧不明
6571	C9g9	N－15°－W	[楕円形]	0.58 × 0.52	68	平坦	外傾	人為	土師器片	SB301 →本跡 → SK6572
6572	C9g9	N－46°－E	楕円形	0.47 × 0.33	30	平坦	外傾	自然	土師器片	SK6571 →本跡 SB551 新旧不明
6573	C9f9	－	[円形]	0.44 × [0.42]	18	平坦	外傾	人為		本跡→ SK6574 SB549 新旧不明
6574	C9f9	N－72°－W	楕円形	0.48 × 0.41	35	平坦	外傾	人為		SK6573 →本跡 SB549 新旧不明
6575	C9g8	N－25°－E	[楕円形]	0.60 × 0.53	31	平坦	外傾	人為		本跡→ SK6581 SB551 新旧不明
6576	C9h8	－	円形	0.43 × 0.40	24	平坦	外傾	人為	土師器片	SB301・373・551 新旧不明
6577	C9g9	N－66°－E	楕円形	0.51 × 0.43	30	平坦	外傾	人為	土師器片	
6578	C9g8	－	円形	0.46 × 0.45	24	平坦	外傾	人為		
6579	C9e7	N－26°－W	[円形・楕円形]	(0.51 × 0.32)	15	皿状	外傾	人為	土師器片	本跡→ SI3050
6581	C9g8	N－15°－E	楕円形	0.60 × 0.52	22	平坦	緩斜	人為		SK6575 →本跡 SB301・551 新旧不明
6582	C9c8	－	円形	0.46 × 0.42	23	平坦	外傾	人為	土師器片	
6583	C9b8	－	円形	0.39 × 0.37	27	平坦	外傾	自然		
6584	C9e6	N－0°	[楕円形]	0.80 × 0.56	29	平坦	外傾	人為	土師器片	本跡→ SI3047
6585	C9e6	－	[楕円形]	[1.01 × 0.87]	72	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SI3047 →本跡
6586	C9e6	N－12°－E	[楕円形]	0.81 × [0.68]	33	平坦	外傾	人為	土師器片	SI3047・SK6588 →本跡 SK6566 新旧不明
6587	C9d7	N－75°－E	[楕円形]	(0.54) × 0.34	29	平坦	外傾	人為	土師器片	本跡→ SI3047
6588	C9e6	N－13°－E	[隅丸長方形]	1.93 × 0.94	37	平坦	外傾	人為	土師器片	SI3047→本跡→ SK6566・6586・6589・6590
6589	C9e6	－	[円形・楕円形]	0.48 × (0.20)	24	不明	不明	不明		SK6588 →本跡 → SK6566
6590	C9f6	N－0°	楕円形	0.67 × 0.55	24	平坦	外傾	人為		SK6588 →本跡
6591	C9d5	－	円形	0.41 × 0.40	42	平坦	外傾	人為	土師器片	
6592	C9g7	N－41°－W	楕円形	0.65 × 0.50	37	平坦	外傾	人為		
6593	C9f6	－	円形	0.92 × 0.87	78	平坦	外傾	人為	土師器片	
6594	C9e7	－	円形	0.68 × 0.66	12	皿状	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SK6595
6595	C9e6	N－80°－W	楕円形	0.75 × 0.67	22	皿状	緩斜	人為	土師器片	SK6594 →本跡
6663	C9a7	N－82°－E	楕円形	0.43 × 0.39	5	皿状	緩斜	人為		
6690	C9a7	N－84°－W	楕円形	0.53 × 0.48	28	段状	外傾 緩斜	人為		
6711	D9b4	－	円形	0.68 × 0.64	73	皿状	外傾	人為	土師器片	SI3043 →本跡
6712	A10f1	－	円形	0.38 × 0.35	16	皿状	緩斜	人為	土師器片	SI3060 →本跡
6716	A10c1	N－11°－W	楕円形	2.05 × 0.61	76	段状	外傾 緩斜	自然		SK6717 →本跡 → PG68
6717	A10c1	N－0°	不整楕円形	4.56 × 2.16	120	段状	外傾	人為		本跡→ SK6716, SD519, PG68
6718	A9b0	N－44°－E	楕円形	0.51 × 0.46	38	皿状	外傾	自然		
6719	A10b1	N－48°－W	楕円形	0.25 × 0.20	30	平坦	外傾	人為		
6720	A9d0	N－30°－E	楕円形	0.57 × 0.48	32	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
6721	A10c2	N－57°－W	楕円形	0.40 × 0.31	18	平坦	緩斜	人為		
6723	A10c3	N－63°－W	隅丸長方形	0.90 × 0.57	17	平坦	緩斜	自然		
6724	A10e1	N－51°－E	楕円形	0.51 × 0.44	24	平坦	外傾	人為		
6725	A9b6	N－2°－E	楕円形	0.53 × 0.34	10	平坦	緩斜	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
6726	A9b7	N－11°－W	不整楕円形	0.60 × 0.26	8	平坦	緩斜	自然		
6727	A9b8	－	円形	0.40 × 0.37	25	平坦	外傾	自然		
6728	A9c9	N－15°－E	楕円形	0.48 × 0.38	28	平坦	緩斜	自然		
6729	A9c7	N－48°－E	楕円形	0.55 × 0.37	22	平坦	外傾 緩斜	人為		
6730	A9d9	－	円形	0.36 × 0.33	35	平坦	外傾	人為		
6731	A9d8	N－6°－E	楕円形	0.42 × 0.37	12	皿状	緩斜	人為		
6732	A9d7	N－7°－E	楕円形	0.43 × 0.37	8	皿状	緩斜	人為		
6733	A9e7	N－2°－E	楕円形	0.63 × 0.25	8	平坦	緩斜	人為		
6734	A9e7	－	円形	0.33 × 0.32	11	皿状	緩斜	人為		
6735	A9e7	N－86°－E	楕円形	0.55 × 0.34	17	皿状	緩斜	自然		
6736	A9e8	N－85°－W	楕円形	0.45 × 0.27	12	皿状	緩斜	自然		
6737	A9e9	N－5°－E	楕円形	0.35 × 0.24	41	皿状	直立	人為		
6738	A9e8	N－0°	楕円形	0.50 × 0.43	12	平坦	緩斜	人為		
6739	A9e8	－	円形	0.53 × 0.50	18	平坦	外傾	人為		
6740	A9e9	N－81°－E	［楕円形］	(1.60) × 1.00	26	平坦	緩斜	人為		本跡→ SD114
6800	A9e8	N－87°－E	楕円形	0.40 × 0.34	9	皿状	緩斜	人為		
6801	A9e7	N－53°－E	楕円形	0.84 × 0.29	19	平坦	外傾	人為		
6802	A9f9	N－0°	楕円形	0.47 × 0.39	26	平坦	外傾	自然		
6803	A9f8	－	円形	0.70 × 0.67	23	平坦	緩斜	自然		
6804	A9f7	N－10°－W	楕円形	0.42 × 0.38	32	平坦	外傾 緩斜	人為		
6805	A9g8	N－2°－E	楕円形	0.42 × 0.30	17	平坦	緩斜	人為		
6806	A9g8	N－36°－E	楕円形	0.42 × 0.37	14	皿状	緩斜	人為	土師器片	
6807	A9g8	N－80°－E	楕円形	0.60 × 0.50	16	皿状	緩斜	人為		
6808	A9g8	N－9°－W	楕円形	0.67 × 0.26	16	皿状	緩斜	自然		
6809	A9h9	N－64°－W	楕円形	0.81 × 0.49	16	平坦	外傾	人為		
6810	A9i6	－	円形	0.82 × 0.80	72	皿状	外傾 緩斜	人為	須恵器片	
6811	A9j6	－	円形	0.86 × 0.82	80	段状	外傾	人為	土師器片	
7030	B14f9	N－48°－W	楕円形	2.30 × 1.62	56	平坦	外傾	人為		SB579・580 新旧不明
7035	B14e7	N－25°－E	不整楕円形	1.55 × 0.94	28	平坦	緩斜	人為		
7036	B14d6	N－84°－E	不整楕円形	1.72 × 1.14	45	段状	外傾	人為		
7037	B14e5	N－17°－E	不整楕円形	1.53 × 1.05	64	平坦	直立 緩斜	人為	土師器片	SK7038 →本跡
7038	B14e5	N－55°－W	［円形・ 楕円形］	1.00 × (0.86)	37	平坦	外傾	人為		本跡→ SK7037
7041	B14f4	N－47°－W	楕円形	1.20 × 1.00	38	皿状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	
7047	B14i0	N－74°－W	楕円形	0.55 × 0.48	18	段状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
7048	B14h0	－	円形	0.98 × 0.95	56	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
7049	B14h0	N－38°－W	楕円形	0.58 × 0.51	23	平坦	外傾	人為		
7050	B15h1	－	円形	0.35 × 0.33	38	皿状	直立	人為		

(5) 溝跡

第 518 号溝跡（第 108 図，付図 1 ）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北西部の Z 9j9 ～ A10b4 区，標高 21 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南東端部は平成 15 年度調査区に延びているが、検出されなかった。北西端部は調査区域外に延びているため，長さは 17.16m しか確認できなかった。A10b4 区から北西方向（N － 67° － W）へ直線的に延びている。規模は上幅 1.72 ～ 2.08m，下幅 0.70 ～ 1.00 m，深さ 0.27 ～ 0.41m である。断面は U 字状で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は南東部が高く、北西部に向かって 21㎝ほど下がっている。

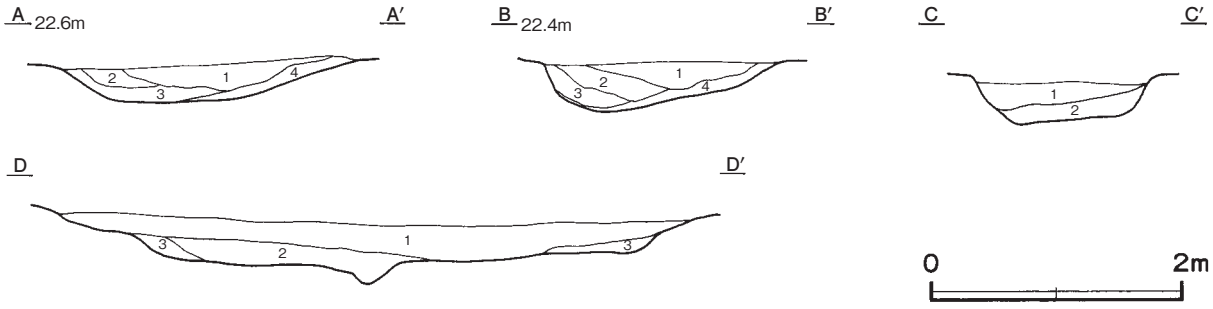
覆土　４層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 47 点（坏１，甕 45，甑１），須恵器片３点（坏１，甕２）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から平安時代以前と想定できる。



第108図　第518号溝跡実測図

第 519 号溝（第 109 図，付図１）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北西部の A10c1 ～ A10c4 区，標高 21 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 6717 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北西端部が第 6717 号土坑に掘り込まれ，東端部は検出されず，長さは 9.82 mしか確認できなかった。A10c4 区から北西方向（N － 72° － W）に直線的に延び，規模は上幅 0.40 ～ 0.54m，下幅 0.10 ～ 0.13 m，深さ 0.18 ～ 0.25m である。断面はＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。北西部と東部の比高は９㎝あり，東部に向かって傾斜している。

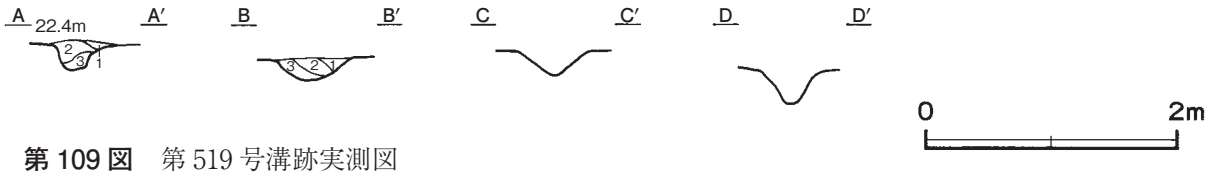
覆土　３層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片２点（坏，甕）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　重複する遺構も時期不明であり，時期を特定できる土器が出土していないことから，時期は不明である。



第 109 図　第 519 号溝跡実測図

表 12　その他の溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	形状	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
518	Z9j9 ～ A10b4	N－67°－W	直線状	［17.16］	1.72 ～ 2.08	0.70 ～ 1.00	27 ～ 41	U字状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
519	A10c1 ～ A10c4	N－72°－W	直線状	［9.82］	0.40 ～ 0.54	0.10 ～ 0.13	18 ～ 25	U字状	外傾	人為	土師器片	本跡→ SK6717

(6)　ピット群

今回の調査でピット群５か所を確認した。西部に１か所，北西部・北東部に各２か所が分布している。各ピットの配置や規模，形状から建物跡や柱穴などを想定することはできない。また，出土した土器はいずれも細片で，時期を判断することはできない。ここではピット群ごとに計測表を掲載する。

第 67 号ピット群（第 110 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区西部のＣ９i5 ～Ｄ９a8 区，標高 21 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　東西 13 ｍ，南北 10 ｍほどの範囲にピット 30 基を確認した。形状は長径 19 ～ 36㎝，短径 19 ～ 32㎝の円形または楕円形で，深さは９～ 60㎝である。

遺物出土状況　土師器片 10 点（坏１・甕９）がＰ２・Ｐ３・P29・P30 から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期・性格ともに不明である。

表 13　第 67 号ピット群ピット計測表

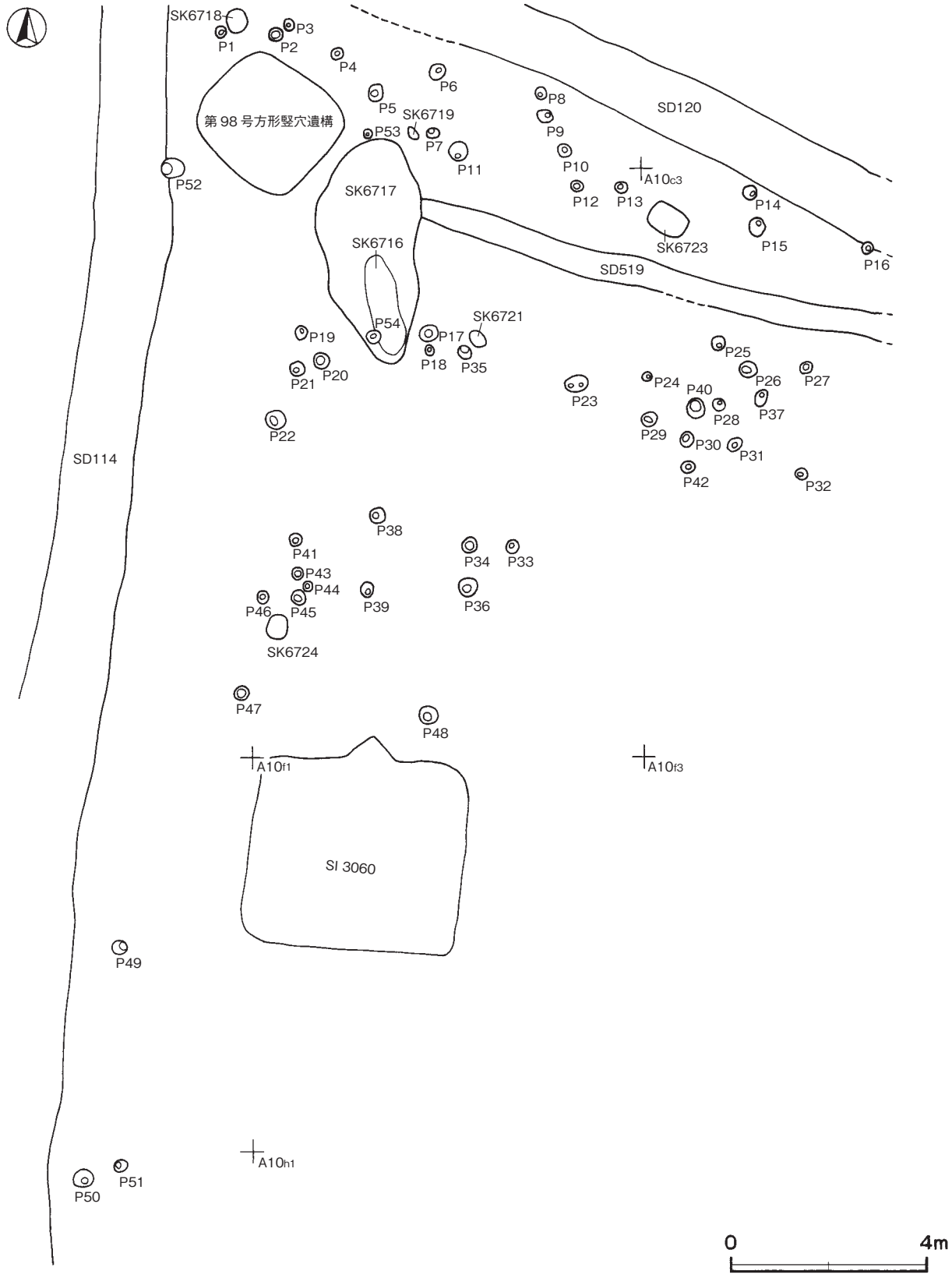
ピット番号	位置	形状	規　模（cm）			ピット番号	位置	形状	規　模（cm）		
			長径 × 短径		深さ				長径 × 短径		深さ
1	D9a8	円形	35 × 32		31	16	D9a6	円形	25 × 24		10
2	D9a8	円形	20 × 19		29	17	D9a6	楕円形	32 × 28		17
3	D9a8	楕円形	22 × 19		43	18	C9j6	円形	33 × 31		14
4	C9j7	楕円形	21 × 19		15	19	C9j6	円形	28 × 26		12
5	C9j8	楕円形	28 × 21		19	20	C9j6	円形	23 × 23		10
6	D9a8	楕円形	22 × 20		25	21	D9a8	円形	21 × 20		33
7	D9a7	円形	19 × 19		33	22	D9b6	円形	26 × 24		18
8	D9a7	楕円形	31 × 27		9	23	D9a5	円形	21 × 20		21
9	D9a7	円形	24 × 23		31	24	C9j5	楕円形	26 × 21		16
10	D9a7	円形	24 × 23		27	25	C9j5	円形	32 × 31		38
11	D9a7	円形	29 × 29		9	26	C9j5	楕円形	33 × 25		23
12	D9a7	楕円形	26 × 23		13	27	C9j5	円形	35 × 32		51
13	D9a7	円形	24 × 23		49	28	C9j5	円形	26 × 25		19
14	C9j7	円形	28 × 26		34	29	C9j5	円形	31 × 29		24
15	D9a7	楕円形	30 × 25		37	30	C9i5	楕円形	36 × 32		60

第 110 図　第 67 号ピット群実測図

第 68 号ピット群（第 111 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北西部のＡ 9b0 ～ Ａ 9h0 区，標高 21 ｍほどの台地緩斜面部に位置している。



第 111 図　第 68 号ピット群実測図

重複関係　第 114 号溝に掘り込まれ，第 6716・6717 号土坑，第 120 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東西 17 m，南北 24 mほどの範囲にピット 54 基を確認した。形状は長径 19 ～ 46㎝，短径 18 ～ 39㎝の円形または楕円形で，深さは 9 ～ 47㎝である。

遺物出土状況　土師器片 18 点（坏 1 ・甕 17），須恵器片 1 点（甕）が P17・P21・P33・P35・P37・P40・P42 から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期・性格ともに不明である。

表 14　第 68 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）				ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	A9b0	楕円形	24	×	21	20	28	A10d3	円形	25	×	24	34
2	A10b1	円形	27	×	26	9	29	A10d3	楕円形	33	×	28	31
3	A10b1	円形	23	×	21	11	30	A10d3	楕円形	32	×	26	37
4	A10b1	円形	25	×	23	14	31	A10d3	楕円形	32	×	25	42
5	A10b1	楕円形	37	×	30	24	32	A10d3	円形	24	×	22	37
6	A10b1	楕円形	36	×	30	25	33	A10e2	円形	25	×	23	11
7	A10b1	楕円形	27	×	19	16	34	A10d2	楕円形	32	×	27	13
8	A10b2	円形	23	×	22	17	35	A10c2	楕円形	29	×	26	40
9	A10b2	楕円形	30	×	26	22	36	A10e2	円形	39	×	38	22
10	A10b2	円形	28	×	26	28	37	A10d3	楕円形	36	×	23	35
11	A10b2	円形	38	×	35	41	38	A10d1	円形	35	×	32	20
12	A10c2	円形	23	×	21	9	39	A10e1	楕円形	32	×	25	19
13	A10c2	円形	24	×	22	15	40	A10d3	円形	39	×	36	42
14	A10c3	円形	30	×	28	22	41	A10d1	楕円形	26	×	23	23
15	A10c3	円形	35	×	33	32	42	A10d3	楕円形	28	×	25	24
16	A10c4	円形	25	×	23	16	43	A10e1	円形	23	×	21	19
17	A10c1	楕円形	35	×	31	38	44	A10e1	楕円形	21	×	19	23
18	A10c1	楕円形	23	×	18	27	45	A10e1	円形	29	×	29	30
19	A10c1	円形	27	×	26	23	46	A10e1	円形	25	×	23	22
20	A10c1	円形	33	×	32	20	47	A9e0	円形	28	×	27	20
21	A10d1	円形	30	×	28	21	48	A10e1	円形	39	×	36	25
22	A10d1	円形	40	×	38	28	49	A9f0	円形	31	×	29	25
23	A10d2	楕円形	46	×	30	46	50	A9h0	楕円形	42	×	36	30
24	A10d3	円形	19	×	18	21	51	A9h0	円形	27	×	25	22
25	A10c3	円形	27	×	26	23	52	A9b0	楕円形	(45)	×	39	15
26	A10d3	楕円形	37	×	33	24	53	A10b1	円形	20	×	19	45
27	A10d3	楕円形	28	×	24	20	54	A10c1	円形	29	×	28	47

第 69 号ピット群（第 112 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　13 区北西部のＡ 9a5 ～Ａ 9i7 区，標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 114 号溝跡に掘り込まれている。

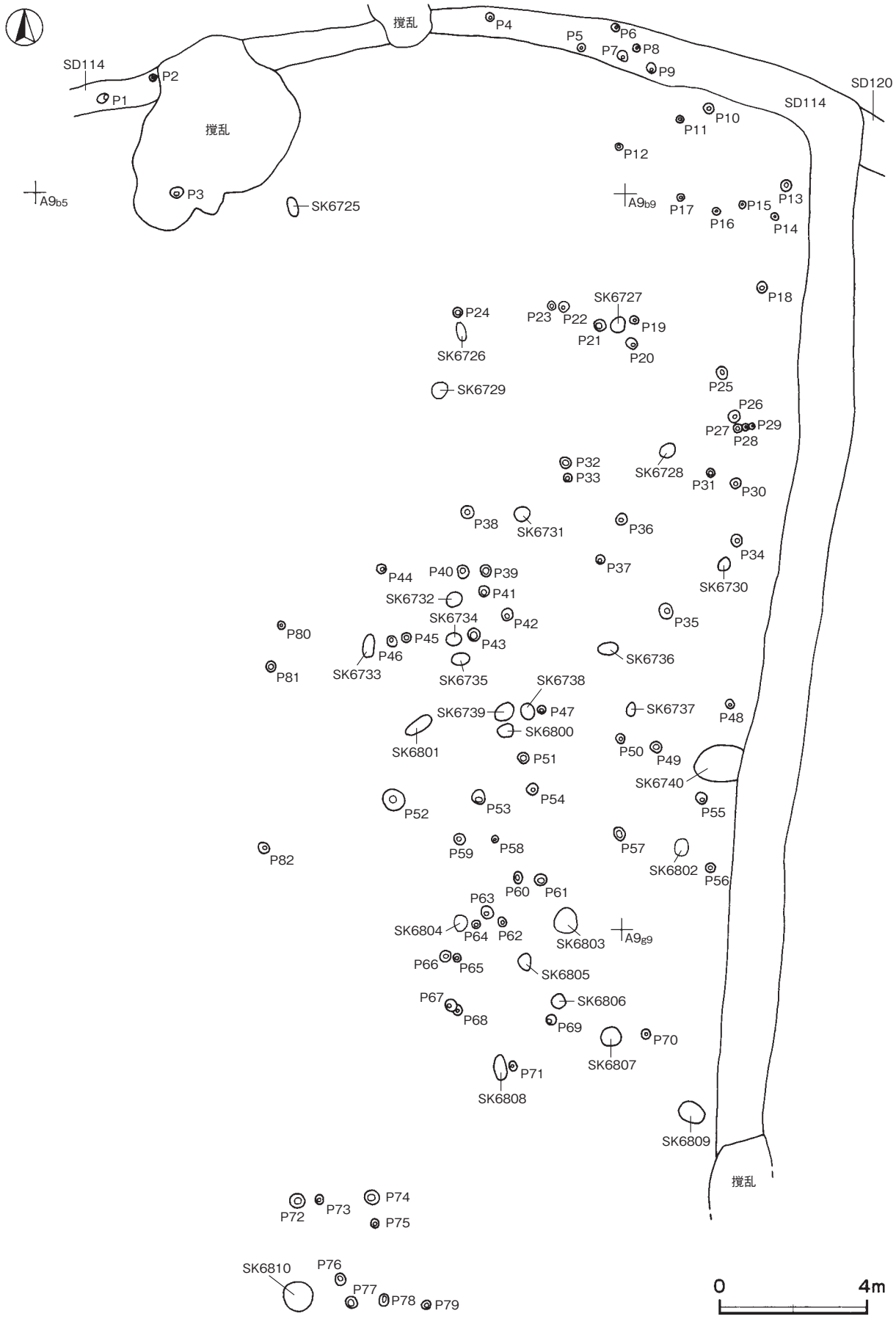
規模と形状　東西 20 m，南北 36 mほどの範囲にピット 82 基を確認した。形状は長径 14 ～ 56cm，短径 12 ～ 56cmの円形または楕円形で，深さは８～ 61cmである。

遺物出土状況　土師器片３点（甕）がＰ６・P69・P72 から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期・性格ともに不明である。

表 15　第 69 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）				ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	A9a5	楕円形	31	×	23	25	42	A9d8	円形	32	×	32	22
2	A9a5	円形	19	×	18	26	43	A9d7	円形	34	×	31	37
3	A9b5	楕円形	35	×	30	20	44	A9d7	円形	24	×	23	12
4	A9a8	楕円形	23	×	20	17	45	A9e7	楕円形	27	×	24	34
5	A9a8	円形	20	×	20	21	46	A9e7	円形	27	×	25	21
6	A9a8	円形	22	×	20	25	47	A9e8	円形	24	×	22	8
7	A9a8	円形	28	×	28	28	48	A9e9	円形	24	×	22	19
8	A9a9	円形	19	×	19	10	49	A9e9	円形	29	×	28	16
9	A9a9	楕円形	28	×	25	47	50	A9e8	円形	24	×	24	26
10	A9a9	円形	26	×	25	9	51	A9e8	円形	29	×	27	23
11	A9a9	円形	17	×	17	23	52	A9f7	円形	56	×	56	34
12	A9a8	円形	17	×	17	17	53	A9f8	円形	36	×	36	40
13	A9a0	円形	29	×	27	14	54	A9f8	楕円形	30	×	27	12
14	A9b0	円形	14	×	13	19	55	A9f9	円形	30	×	30	61
15	A9b9	円形	17	×	17	12	56	A9f9	円形	22	×	20	20
16	A9b9	円形	29	×	28	24	57	A9f8	楕円形	35	×	27	18
17	A9b9	円形	18	×	17	20	58	A9f8	楕円形	17	×	15	9
18	A9b9	円形	26	×	25	23	59	A9f7	円形	29	×	27	13
19	A9b9	楕円形	22	×	16	18	60	A9f8	楕円形	30	×	20	8
20	A9c9	楕円形	29	×	26	21	61	A9f8	楕円形	33	×	28	27
21	A9b8	楕円形	30	×	27	37	62	A9f8	楕円形	23	×	19	13
22	A9b8	円形	29	×	28	29	63	A9f8	円形	30	×	29	34
23	A9b8	円形	21	×	20	30	64	A9f8	楕円形	23	×	17	10
24	A9b7	楕円形	25	×	22	17	65	A9g7	円形	22	×	22	24
25	A9c9	円形	31	×	31	43	66	A9g7	楕円形	29	×	25	24
26	A9c9	円形	31	×	30	26	67	A9g7	楕円形	33	×	29	13
27	A9c9	楕円形	27	×	24	39	68	A9g7	円形	24	×	24	28
28	A9c9	円形	19	×	18	21	69	A9g8	円形	25	×	25	40
29	A9c9	楕円形	15	×	12	8	70	A9g9	円形	23	×	22	25
30	A9c9	楕円形	29	×	24	44	71	A9g8	楕円形	23	×	20	8
31	A9c9	円形	22	×	21	11	72	A9h6	円形	38	×	38	8
32	A9c8	楕円形	30	×	25	38	73	A9h6	円形	22	×	22	15
33	A9c8	楕円形	22	×	20	36	74	A9h7	円形	37	×	36	17
34	A9d9	円形	32	×	30	18	75	A9i7	楕円形	22	×	20	23
35	A9d9	円形	40	×	37	25	76	A9i7	楕円形	31	×	25	27
36	A9d9	円形	30	×	30	11	77	A9i7	円形	31	×	31	47
37	A9d8	楕円形	25	×	22	16	78	A9i7	楕円形	30	×	25	26
38	A9d7	円形	36	×	33	12	79	A9i7	楕円形	22	×	20	23
39	A9d8	円形	28	×	27	18	80	A9d6	円形	21	×	20	14
40	A9d7	楕円形	34	×	30	22	81	A9e6	円形	25	×	24	23
41	A9d8	円形	29	×	28	16	82	A9f6	円形	30	×	30	23



第 112 図　第 69 号ピット群実測図

第 70 号ピット群（第 113 図）

調査年度　平成 22 年度

位置　13 区北東部の B14d4 ～ B14g5 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　東西 7 m，南北 14 mほどの範囲にピット 10 基を確認した。形状は長径 28 ～ 65㎝，短径 26 ～ 60㎝の円形または楕円形で，深さは 9 ～ 39㎝である。

遺物出土状況　土師器片 4 点（甕）がＰ５・Ｐ７から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期・性格ともに不明である。

表 16　第 70 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）				ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	B14d4	円形	28	×	26	32	6	B14d4	円形	65	×	60	36
2	B14d4	円形	32	×	31	35	7	B14e4	円形	60	×	55	39
3	B14d4	楕円形	37	×	32	26	8	B14f5	楕円形	32	×	29	33
4	B14d4	楕円形	38	×	31	29	9	B14f5	円形	35	×	32	23
5	B14d4	楕円形	51	×	40	37	10	B14g5	楕円形	44	×	38	9

第 71 号ピット群（第 114 図）

調査年度　平成 22 年度

位置　13 区北東部の B14d0 ～ B15g1 区，標高 20 mほどの台地緩斜面部に位置している。

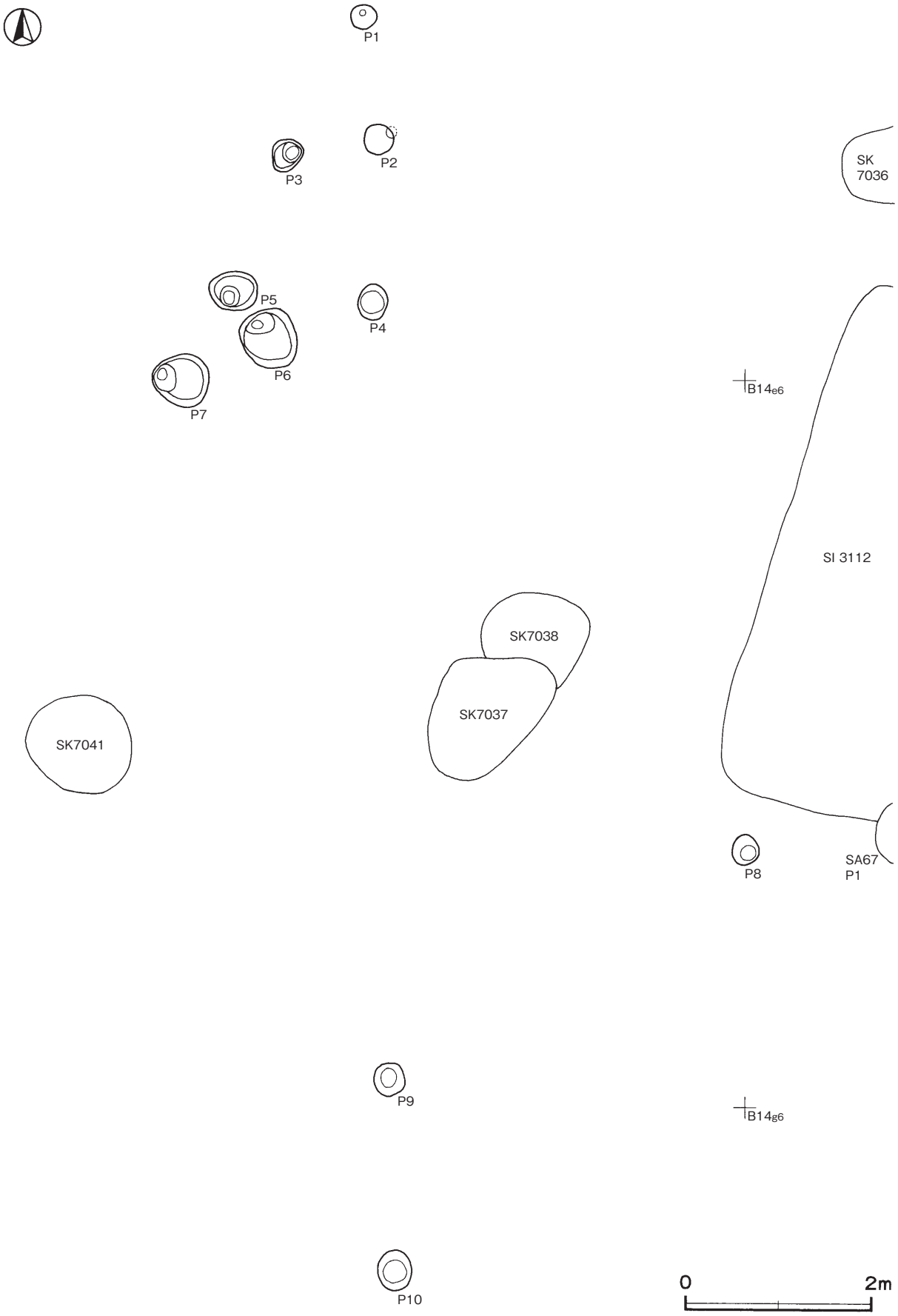
重複関係　第 579 号掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状　東西 9 m，南北 10 mほどの範囲にピット 14 基を確認した。形状は長径 24 ～ 60㎝，短径 22 ～ 54㎝の円形または楕円形で，深さは 10 ～ 49㎝である。

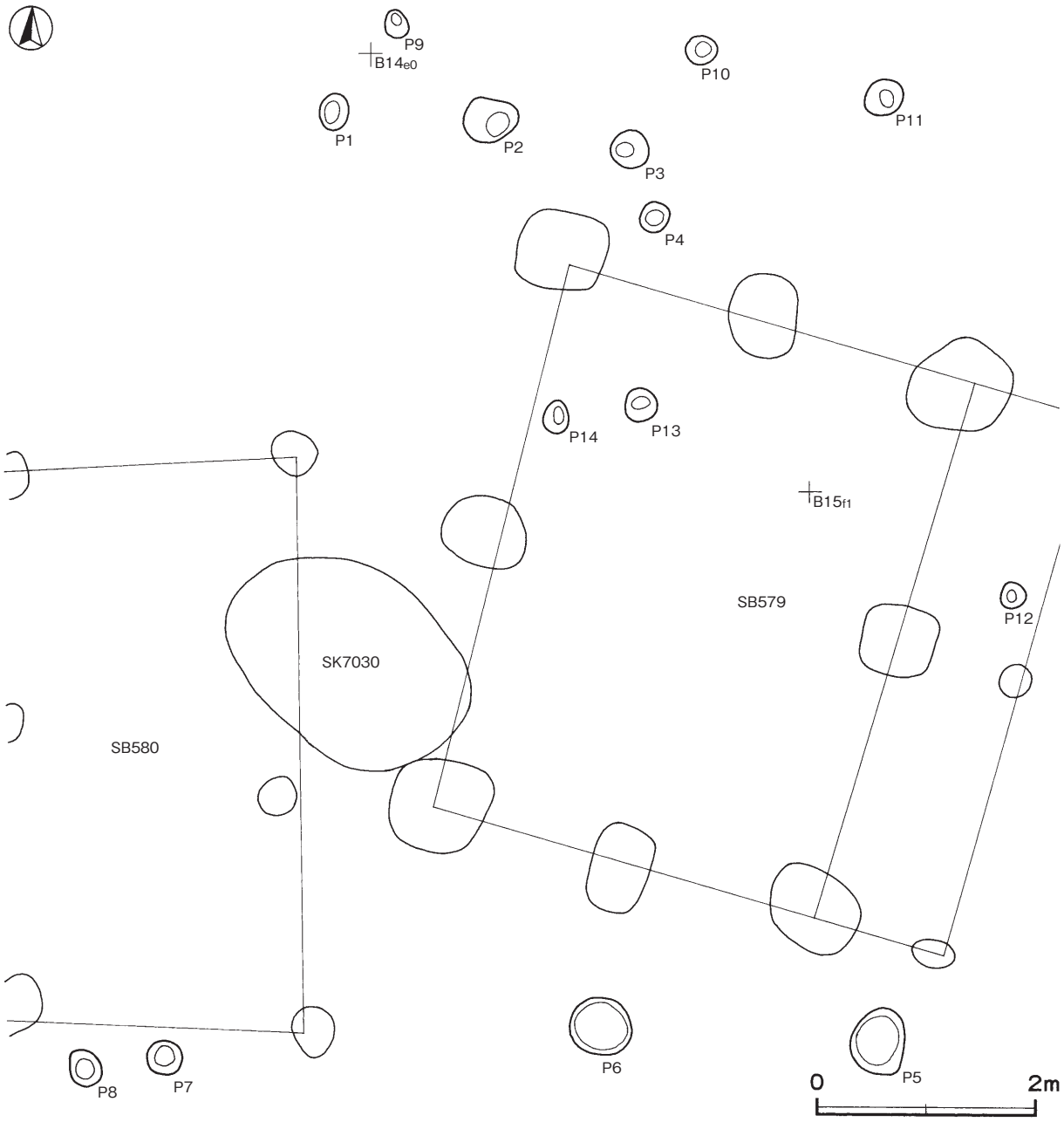
所見　時期・性格ともに不明である。

表 17　第 71 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）				ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	B14e9	楕円形	32	×	27	28	8	B14g9	楕円形	34	×	28	18
2	B14e0	楕円形	47	×	41	49	9	B14d0	楕円形	26	×	23	24
3	B14e0	円形	34	×	32	17	10	B14d0	円形	28	×	26	13
4	B14e0	楕円形	29	×	26	15	11	B15e1	楕円形	36	×	32	14
5	B15g1	楕円形	60	×	46	13	12	B15f1	円形	24	×	22	23
6	B14g0	円形	56	×	54	10	13	B14e0	円形	31	×	30	24
7	B14g9	楕円形	35	×	31	19	14	B14e0	楕円形	29	×	24	22



第 113 図　第 70 号ピット群実測図



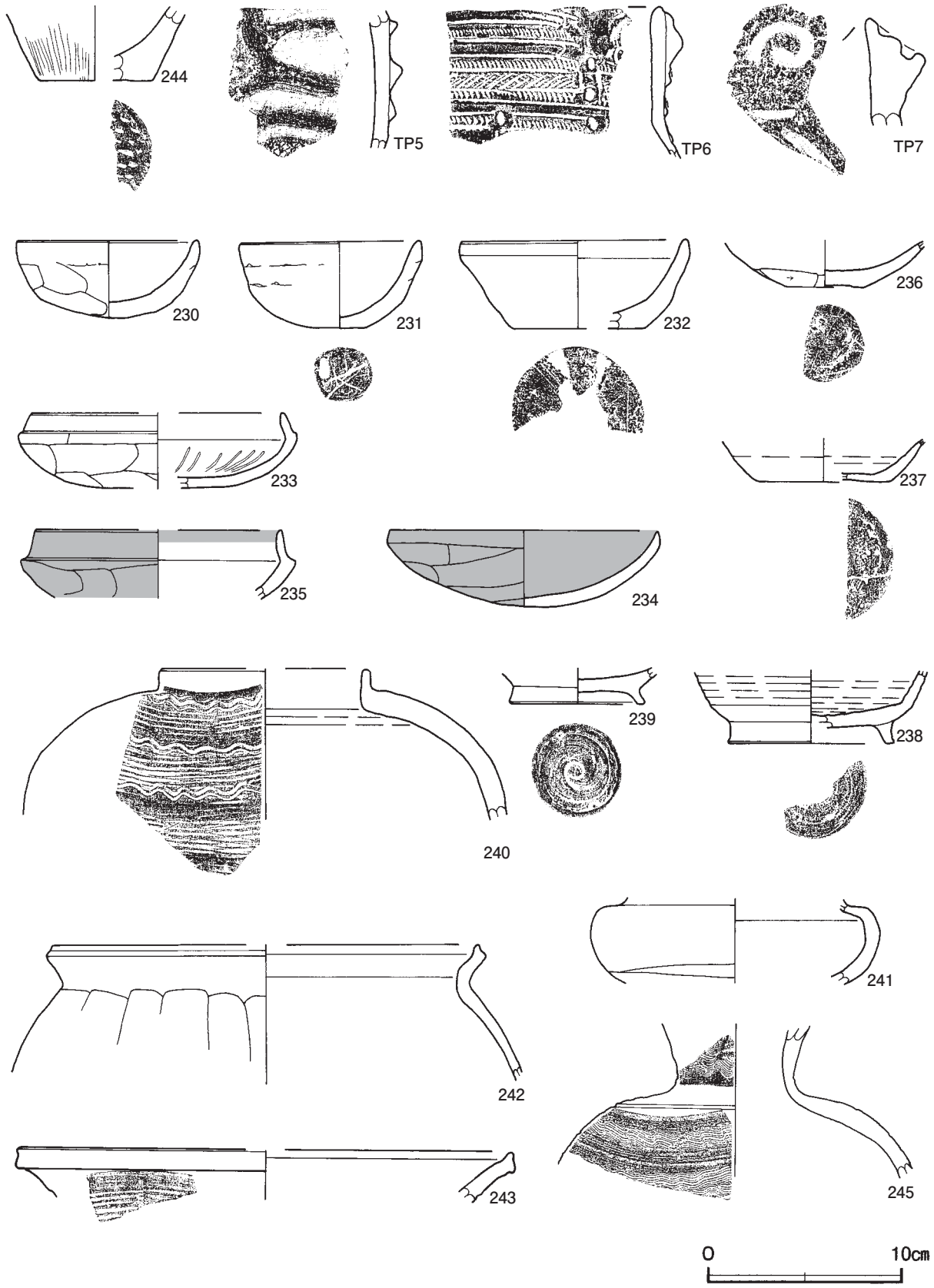
第 114 図　第 71 号ピット群実測図

表 18　その他のピット群一覧表

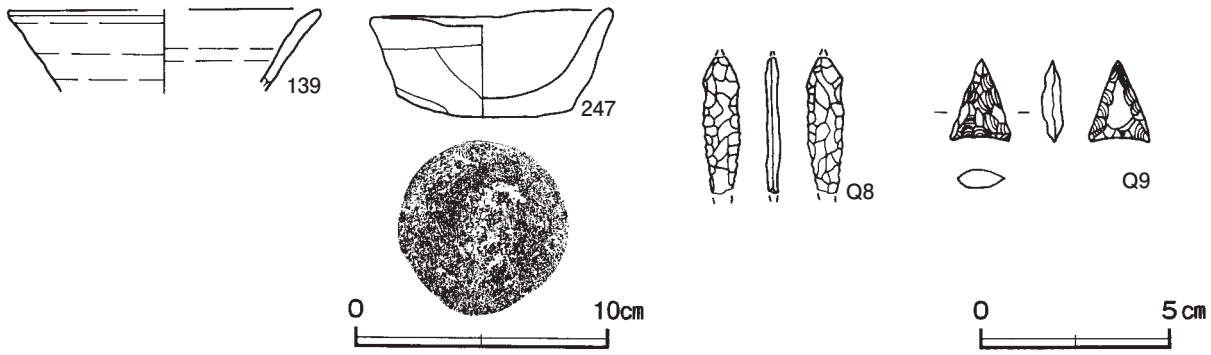
番号	位 置	内 部 施 設					主な出土遺物	備　考
		柱穴	平面形	長径（軸）	短径（軸）	深さ（cm）		
67	C 9i5 ～ D 9a8	30	円形・楕円形	19 ～ 36	19 ～ 32	9 ～ 60	土師器片	
68	A 9b0 ～ A 9h0	53	円形・楕円形	19 ～ 46	18 ～ 39	9 ～ 47	土師器片，須恵器片	SK6716・6717，SD120 → 本跡 → SD114
69	A 9a5 ～ A 9i7	82	円形・楕円形	14 ～ 56	12 ～ 56	8 ～ 61	土師器片	SD114 → 本跡
70	B14d4 ～ B14g5	10	円形・楕円形	28 ～ 65	26 ～ 60	9 ～ 39	土師器片	
71	B14d0 ～ B15g1	14	円形・楕円形	24 ～ 60	22 ～ 54	10 ～ 49		SB579 新旧不明

(7) 遺構外出土遺物（第 115・116 図）

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。



第 115 図　遺構外出土遺物実測図（1）



第 116 図　遺構外出土遺物実測図（２）

遺構外出土遺物観察表（第 115・116 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
244	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	底部網痕	表土	５％
230	土師器	坏	9.2	4.0	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	B14g9	100% PL28
231	土師器	坏	9.2	4.5	2.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ　底部木葉痕	B14g9	100% PL28
232	土師器	坏	11.6	4.6	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	B14g9	60%
233	土師器	坏	[12.8]	3.9	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	オリーブ黒	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ　放射状のヘラミガキ	B14g9	40% PL28
234	土師器	坏	13.8	4.0	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	B15h2	50%
235	土師器	坏	[12.6]	(3.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	表土	10%
236	土師器	坏	－	(2.4)	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ　底部木葉痕	表土	20%
237	須恵器	坏	－	(2.2)	[7.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す　一方向の手持ちヘラ削り	表土	20%
139	須恵器	坏	[12.4]	(3.2)	－	長石・石英	灰オリーブ	普通	外・内面ロクロナデ	C9a4	20%
238	須恵器	高台付坏	－	(3.8)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	表土	30%
239	須恵器	高台付坏	－	(1.9)	7.2	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り	表土	20%
245	須恵器	壺	－	(7.9)	－	長石・石英・角内部	灰白	普通	カキ目後，櫛描状波状文　棒状工具による沈線文	B15h2	10%
240	須恵器	短頸壺	[10.4]	(7.8)	－	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き後，櫛描状波状文	表土	20%
241	須恵器	短頸壺	－	(4.4)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	B15h2	20%
242	土師器	甕	[22.0]	(7.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	表土	10%
243	須恵器	甕	[25.6]	(2.7)	－	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	頸部横位の平行叩き　内面ナデ	表土	５％
247	土師器	ミニチュア土器	9.5	4.3	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	B14g9	100% PL28

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	隆帯による楕円形区画を施文	SB301 覆土	加曾利 E Ⅲ
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	複列の隆起刻文帯に，綾杉状沈線を施文　貼瘤は円形のものと刺押を用いる	表土	安行１式 PL28
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい褐	波状口縁　波頂部には渦巻きを施文	SI3044 覆土	阿玉台１式ヵ PL28

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 8	錐ゟ	(3.6)	1.0	0.4	(1.70)	緑色岩	押圧剥離による調整	表土	PL30
Q 9	鏃	2.2	1.6	0.5	1.50	頁岩	押圧剥離による調整	表土	PL30

第４節　14 区の遺構と遺物

１　縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，陥し穴１基を確認した。以下，遺構について記述する。

第８号陥し穴（第 117 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＣ８d6 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2417 号竪穴建物に掘り込まれている。

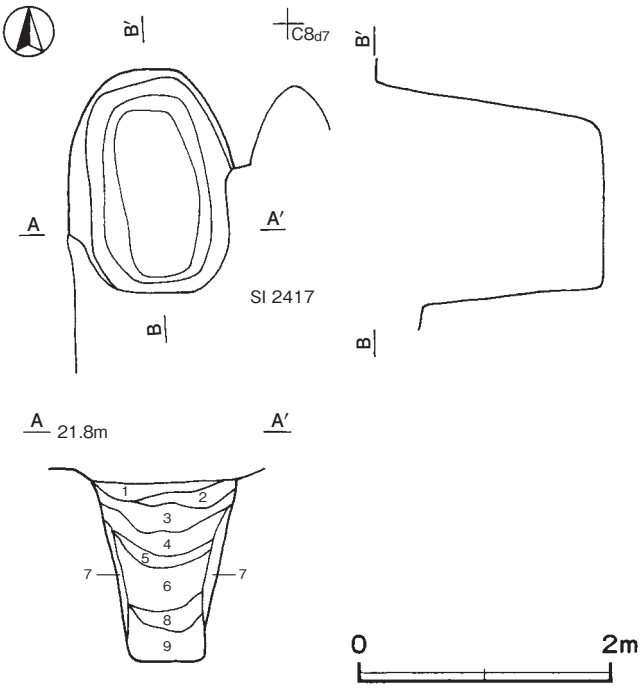
規模と形状　長径 1.80 ｍ，短径 1.30 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－５°－Ｗである。深さ 155㎝で，底面は平坦であり，壁は直立している。

覆土　９層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
3	暗褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
4	暗褐	色	ロームブロック中量
5	暗褐	色	ロームブロック少量
6	暗褐	色	ローム粒子少量
7	褐	色	ロームブロック中量
8	褐	色	ローム粒子中量
9	褐	色	ロームブロック中量，炭化粒子微量

所見　遺物が出土していないため明確ではないが，規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第 117 図　第８号陥し穴実測図

２　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 15 棟，土坑３基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 2423 号竪穴建物跡（第 118 ～ 121 図）

調査年度　南東コーナー部は平成 16 年度に調査し，『第 280 集』にて報告している。それ以外は平成 21 年度に調査した。柱穴の番号については，今回報告分と合わせて，既調査分も新しい番号に更新した。

位置　14 区中央部のＤ８b4 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　南西部を第 3074 号竪穴建物に，東部を第 427 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.40 ｍ，短軸 6.30 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 33°－Ｗである。壁高は 45 ～ 56㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部から各主柱穴周辺まで踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 50 ～ 70cm掘り込み，ローム粒子やロームブロックを多く含んだ第８・９層を埋土し，厚さ４～８cmに踏み固めて構築されている。壁下には幅 17 ～ 28cm，深さ 4 ～ 9cmで，U 字形の壁溝が巡っている。竈の南西側から中央部にかけての床面から焼土と炭化材が多く確認された。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 140cm，燃焼部幅は 40cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに灰褐色粘土を主体とした第 13 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を皿状に６～ 14cm掘りくぼめた部分に，焼土粒子を多く含む第 11 層を埋土している。火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 45cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈の土層断面に上下２層の火床部が観察でき，連続して使用している。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	
2	黒　　色	焼土ブロック・炭化粒子中量	
3	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量	
4	黒　褐　色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量	
5	褐　　色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量	
6	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量	
7	褐　　色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	
8	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子微量	
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量	
10	にぶい赤橙色	焼土粒子多量，炭化粒子微量	
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量	
12	極暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土ブロック少量	
13	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量	
14	褐　　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
15	灰　褐　色	粘土ブロック中量，焼土粒子少量	
16	暗　褐　色	炭化粒子少量，焼土ブロック微量	
17	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	
18	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	
19	褐　　色	ローム粒子多量，焼土粒子微量	
20	暗 赤 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰少量	

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さは 54 ～ 75cmで規模と配置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の底面に柱のあたりと見られる円形の硬化範囲が認められる。Ｐ５・Ｐ６は深さ 27cm・32cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径 123cm，短径 83cmの不整楕円形で，深さ 48cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック多量	
2	黒　褐　色	ロームブロック少量	
3	暗　褐　色	ロームブロック中量（締り弱い）	
4	黒　褐　色	ロームブロック少量（締り弱い）	
5	暗　褐　色	ロームブロック中量	
6	黒　褐　色	ロームブロック少量（粘性あり）	

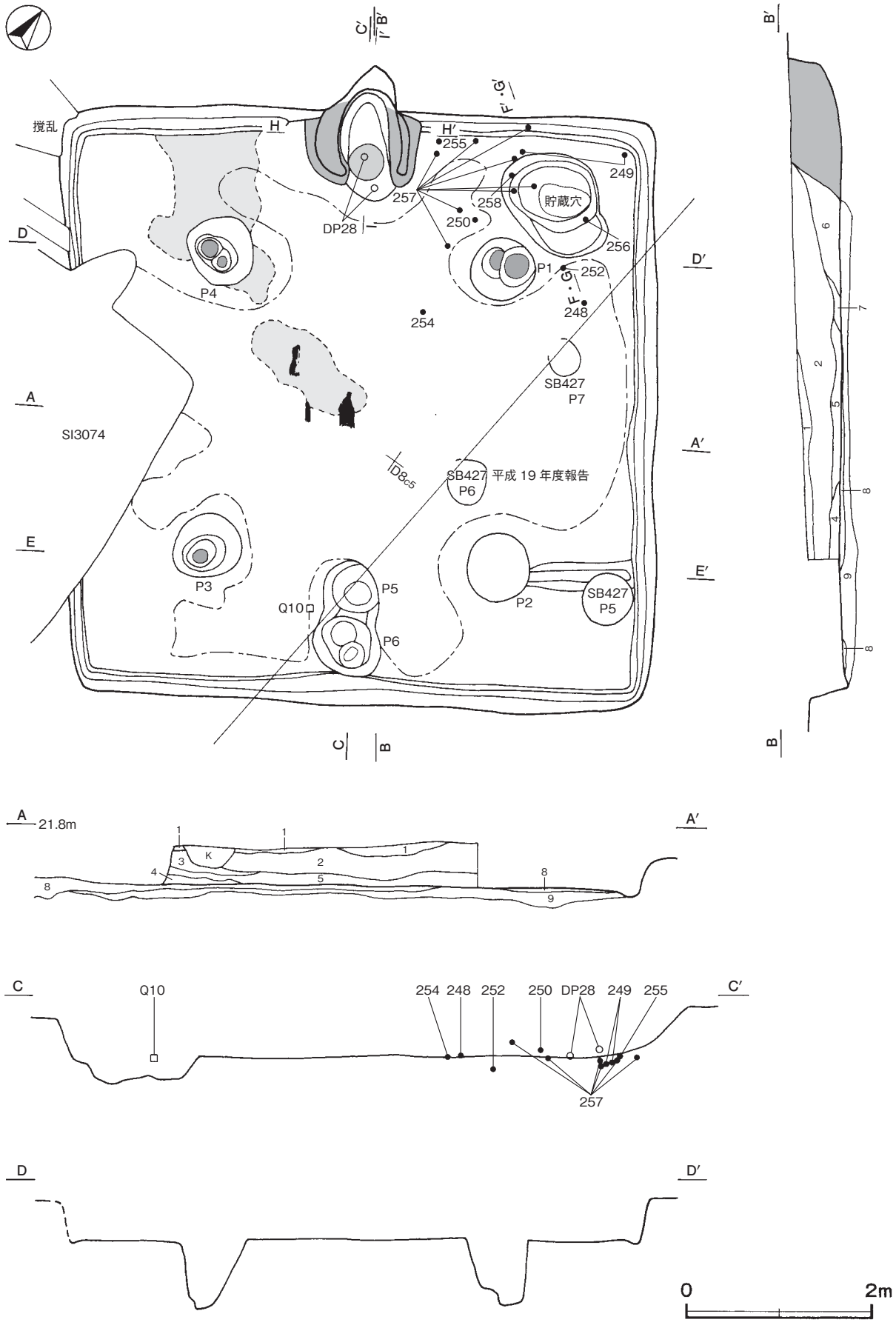
覆土　７層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第８・９層は貼床の構築土である。

土層解説

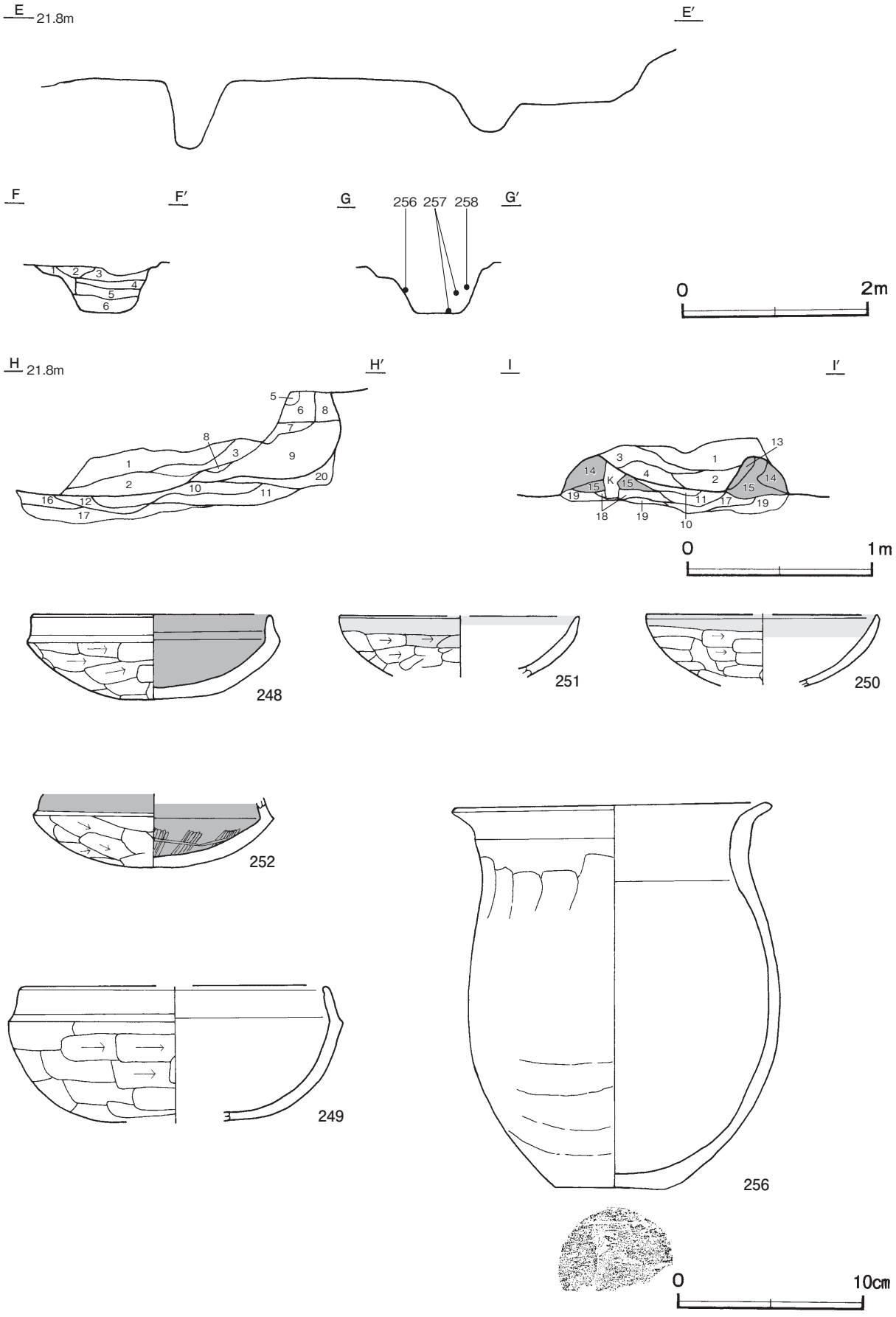
1	暗　褐　色	ロームブロック少量	
2	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
4	褐　　色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量	
5	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	
6	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量，粘土粒子微量	
7	暗　褐　色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量	
8	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化物少量，焼土ブロック微量	
9	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片 309 点（坏 79，壺 104，甕類 124，甑２），須恵器片３点（坏，高坏，短頸壺），土製品１点（支脚），石製品１点（臼玉）が，覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。251 と 252 は貼床の構築土から，248 は東部，249・250 は北東部，254 は中央部，255 は竈東側の床面に横位で，Q10 はＰ５西側の床面からそれぞれ出土している。256 と 258 は貯蔵穴の覆土中層から出土している。257 は貯蔵穴の覆土中と床面から出土した破片が接合したものである。DP28 は竈の火床部と焚口部から横位で出土している。253 は覆土中から出土している。

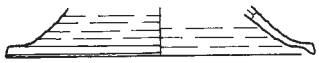
所見　北部から中央部にかけての床面から，焼土と炭化材を多く確認されていることから，焼失建物と考えられる。出土遺物も建物の廃絶時に北側から投棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から６世紀中葉から後葉に比定できる。

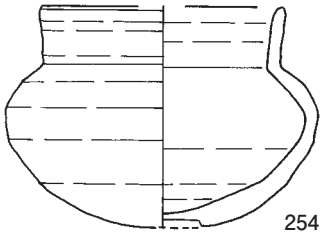


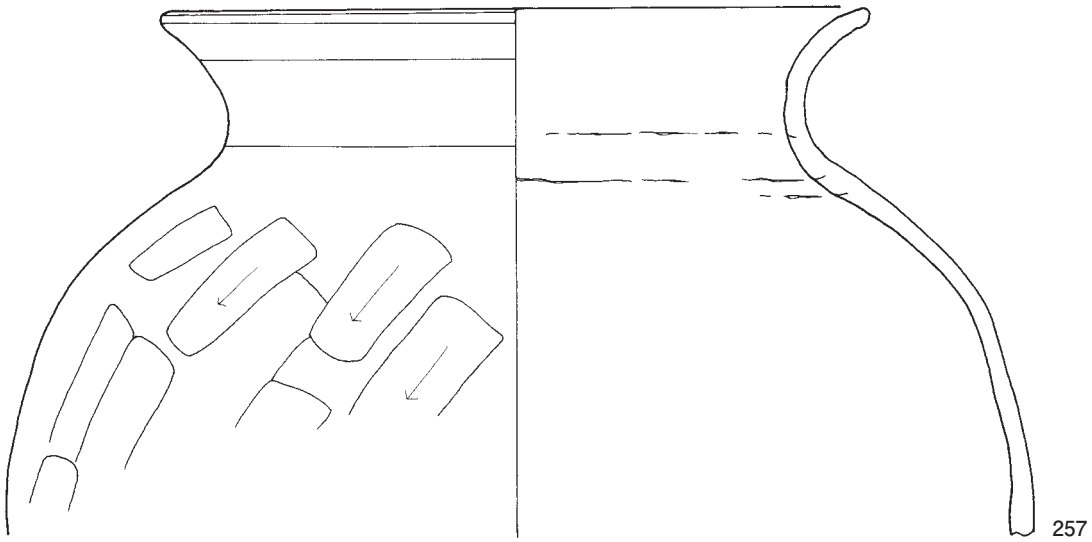
第 118 図　第 2423 号竪穴建物跡実測図

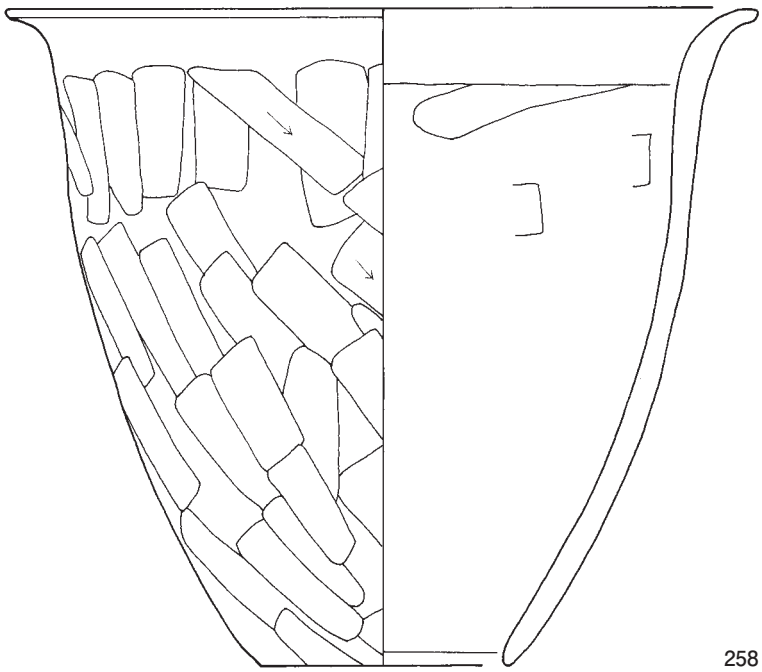


第 119 図　第 2423 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

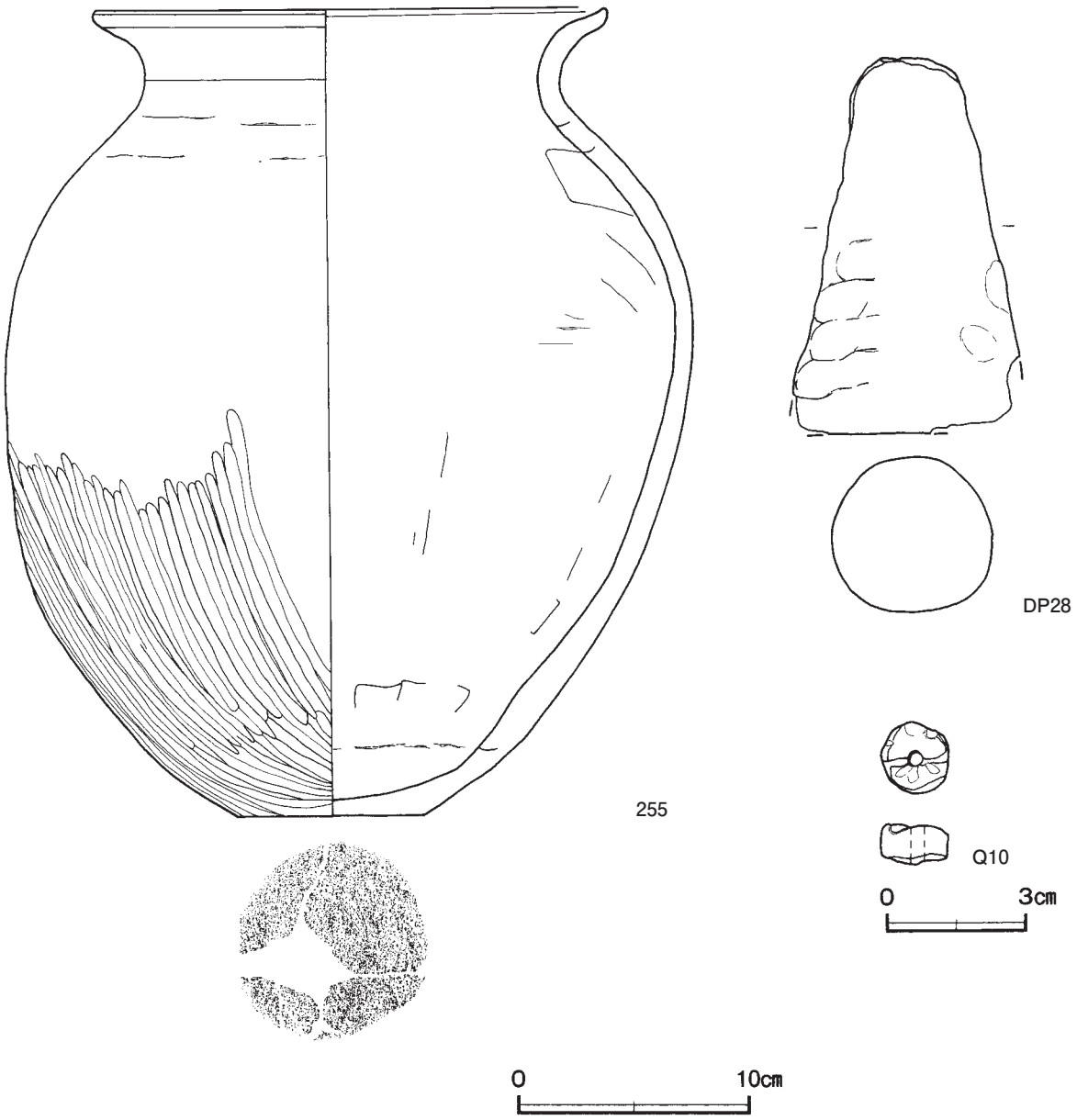








第 120 図　第 2423 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 121 図　第 2423 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

第 2423 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 119 ～ 121 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
248	土師器	坏	12.9	4.6	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	95%　PL48
249	土師器	坏	［16.5］	(7.1)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	40%
250	土師器	坏	［12.4］	(3.7)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	30%
251	土師器	坏	［12.8］	(3.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	掘方	10%
252	土師器	坏	－	(3.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き後横位のヘラ磨き	掘方	40%
253	須恵器	高坏	－	(1.9)	［12.2］	長石・石英	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	5％
254	須恵器	短頸壺	［9.8］	8.8	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	良好	外・内面ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	床面	70%　PL48
255	土師器	甕	20.2	35.0	8.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　外・内面輪積痕	床面	80%
256	土師器	小形甕	16.8	20.8	6.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上半縦位のヘラ削り　下半横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中層	90%　PL48
257	土師器	甕	27.6	(21..0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上部ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中，床面	40%　PL48
258	土師器	甑	29.7	26.3	［10.0］	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位・斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中層	95%　PL48

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP28	支脚	(4.0)	(9.7)	16.3	(838.9)	長石・石英	ナデ　頭頂部より棒状のもので穿孔（幅５㎜　長さ 10.5㎜） 下部火熱を受け脆い　中央から穿孔 11.5㎜　指頭痕	竈火床部，焚口部	PL58

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 10	臼玉	1.45	0.85	0.3	(2.69)	滑石	側面縦位の研磨痕　一方向からの穿孔	床面	PL58

第2426号竪穴建物跡（第122～124図）

調査年度　南東コーナー部は平成16年度に調査し，『第280集』にて報告している。それ以外は平成24年度に調査した。

位置　14区中央部のＤ７f0区，標高21ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸5.11ｍ，短軸4.75ｍの方形で，主軸方向はＮ－31°－Ｗである。壁高は15～28㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅20～28㎝，深さ８～12㎝で，Ｕ字形の壁溝が北東コーナー部から東壁下を除いて巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで114㎝，燃焼部幅は47㎝である。袖部は，床面と同じ高さに，灰黄色の粘土を主体とした第７～９層を積み上げて構築されている。火床部は，床面をわずかに皿状に掘りくぼめ第６層を埋土している。煙道部は壁外に36㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈材が散在していることから，竈封じなどの祭祀行為が行われたものと考えられる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，粘土粒子微量
3　灰黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　明　褐　色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　灰　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　灰　黄　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
10　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さは47～77㎝で規模と配置から主柱穴であり，あたりを３か所確認しているので立て替えが考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ22㎝で，南壁の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。長軸70㎝，短軸63㎝の隅丸長方形で，深さ38㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

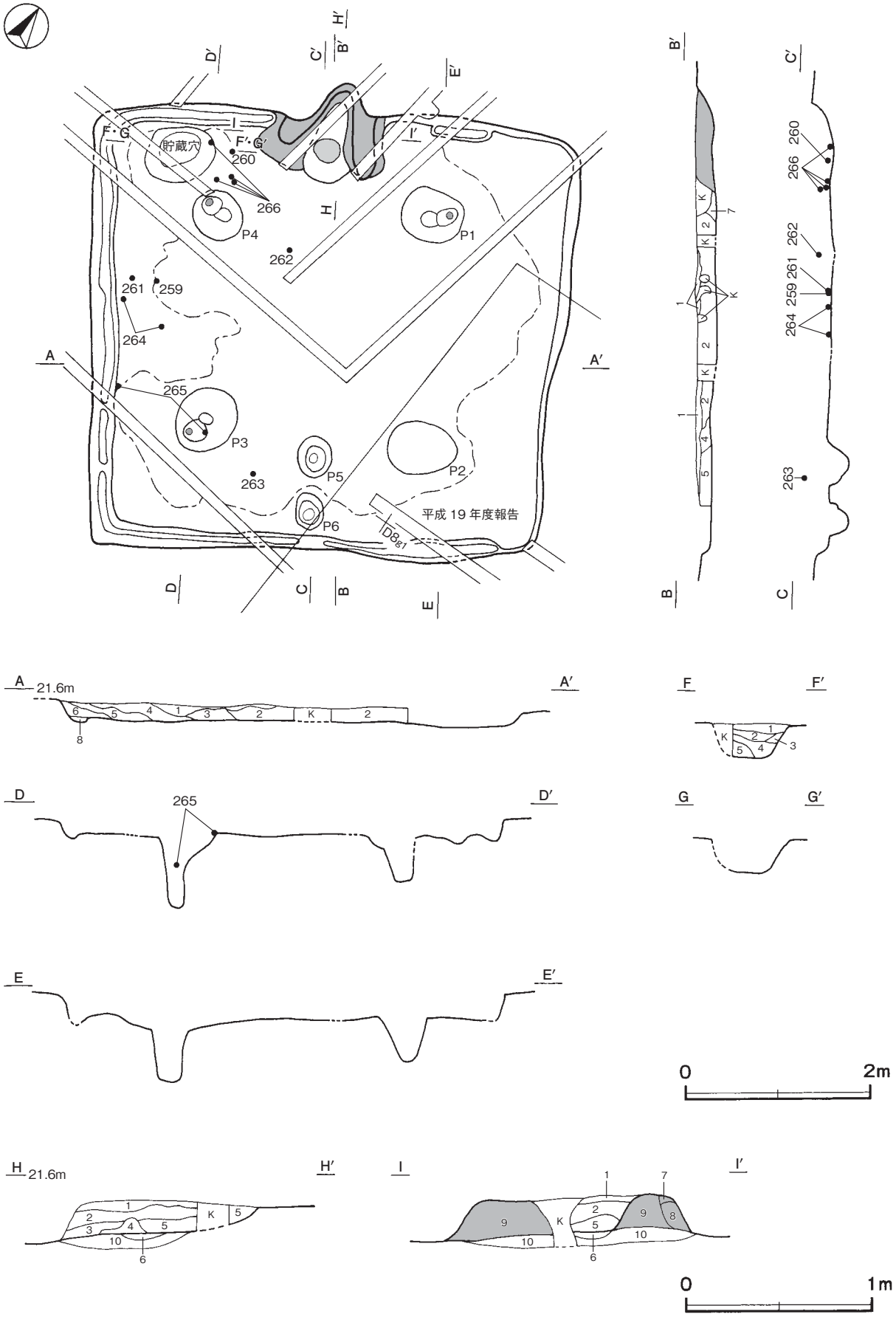
1　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，ロームブロック少量
2　黄　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
5　黄　褐　色　ロームブロック中量

覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　明黄褐色　ロームブロック多量
3　黄　褐　色　ロームブロック多量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
7　灰黄褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
8　暗　褐　色　炭化物少量，ローム粒子少量

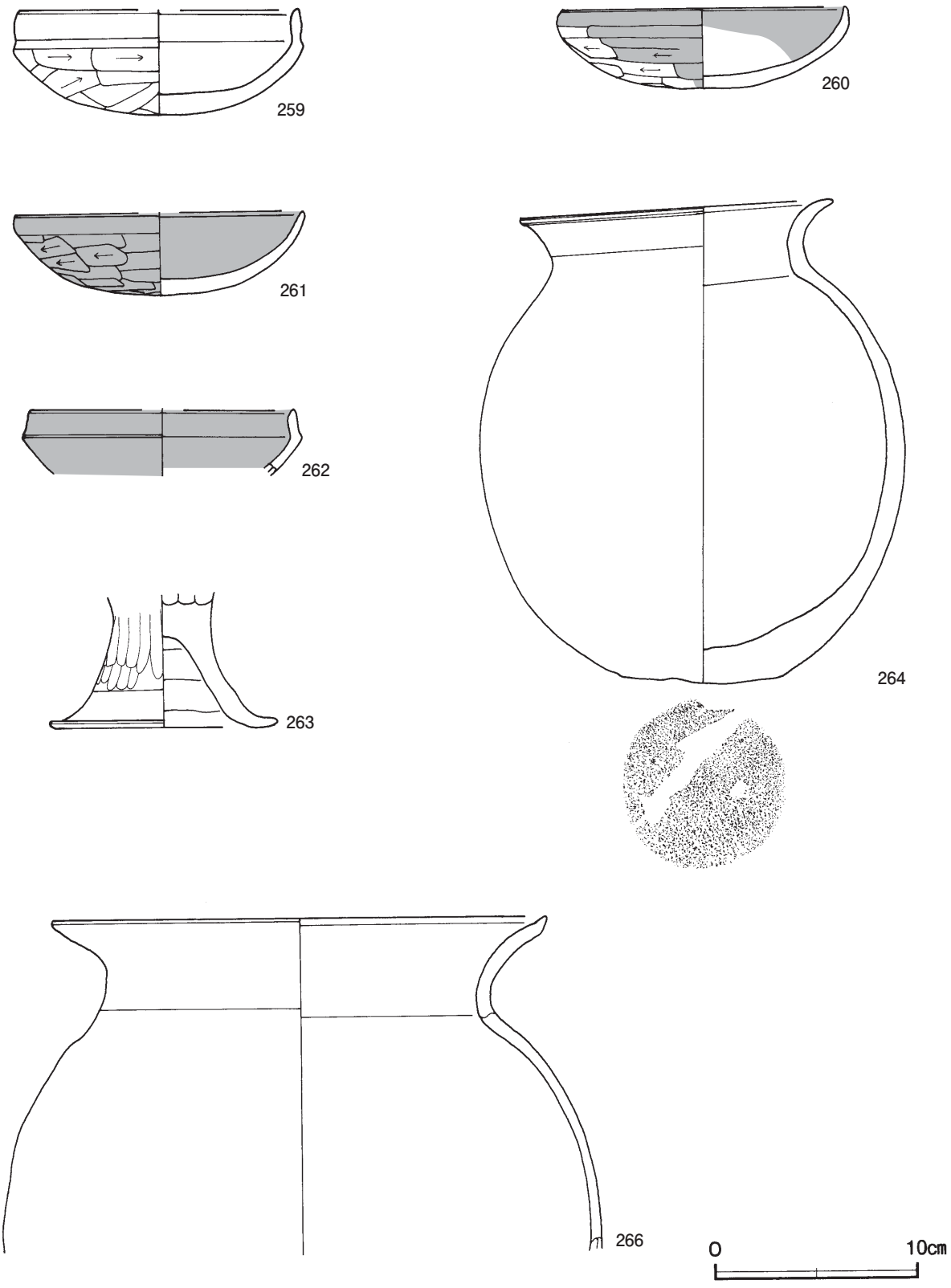
遺物出土状況　土師器片94点（坏19，高坏１，壺４，甕69，甑１），土製品１点（支脚）が，覆土中層から床面にかけて散在した状態で出土している。259・261・264は西部の床面から出土している。265は西部壁溝寄りの床面とＰ３の覆土中層から出土した破片が接合したものである。260は竈西側の覆土下層から出土している。266は貯蔵穴の上層と西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。262は竈西側の覆土中



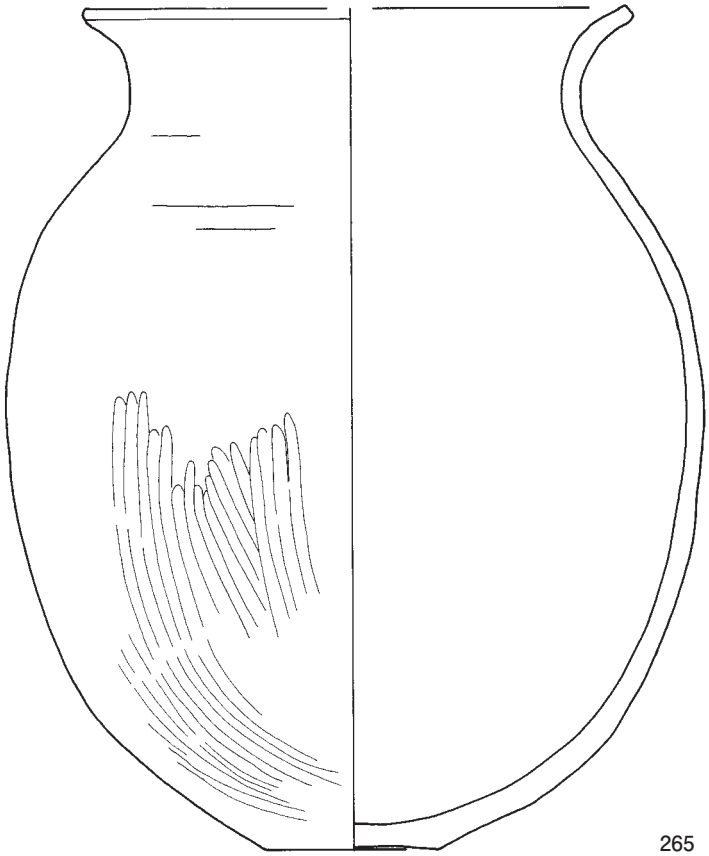
第 122 図　第 2426 号竪穴建物跡実測図

層，263 は南部の覆土土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。遺物は，覆土下層からのものが多いことと，Ｐ３から出土した破片と接合するものがあることから，建物解体後（柱抜取後）に投棄されたと考えられる。



第 123 図　第 2426 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）



第 124 図　第 2426 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

第 2426 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 123・124 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
259	土師器	坏	[13.8]	5.2	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	80%　PL49
260	土師器	坏	14.2	4.0	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	80%　PL49
261	土師器	坏	[14.2]	(4.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	50%
262	土師器	坏	[13.0]	(3.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ナデ	覆土中層	20%
263	土師器	高坏	－	(6.6)	[11.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土上層	40%
264	土師器	甕	15.4	24.0	8.0	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面磨滅　内面ヘラナデ	床面	80% SD588 と接合 PL49
265	土師器	甕	[21.5]	33.5	7.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	底面・P3 覆土中層	60%
266	土師器	甕	24.3	(16.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面ヘラナデ	覆土下層，貯蔵穴上層	30%

第 3037 号竪穴建物跡（第 125・126 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ８c6 区，標高 22 ｍほどの台地縁辺部に位置している。

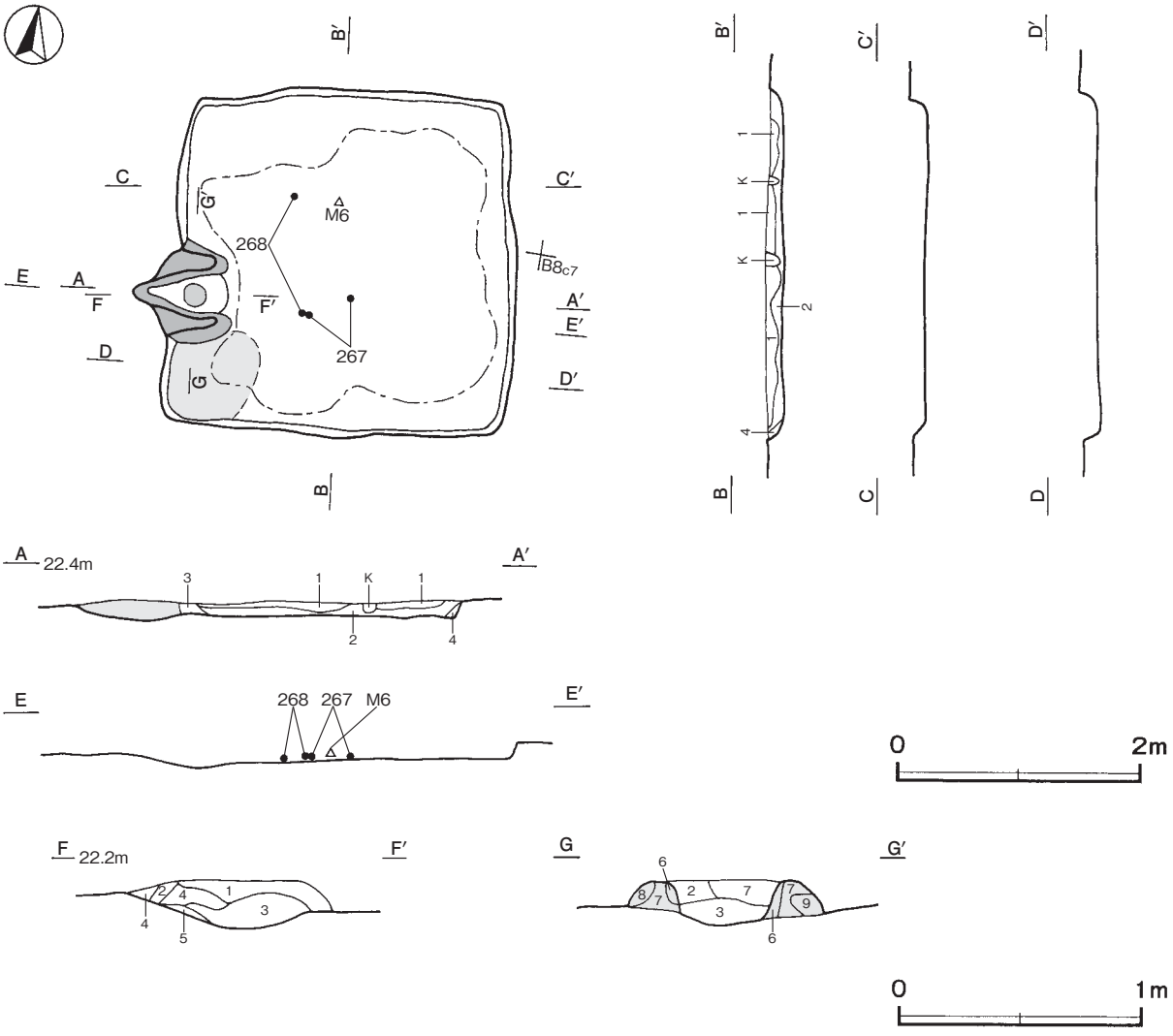
規模と形状　長軸 2.84 m，短軸 2.78 mの方形で，主軸方向はN－96°－Wである。壁高は 15 cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，各壁面近くまで硬化している。南西コーナー部に，炭化粒子・粘土粒子混じりの焼土の堆積する範囲を確認した。一辺 70cmほどの隅丸方形状で，厚みは壁際で７cmである。

竈　西壁中央の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 85cmで，燃焼部幅は 24cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに，砂質粘土を主体とした第４～９層を積み上げて構築されている。火床部は床面を８cmほど掘りくぼめて使用している，火床面は赤変硬化し，内壁も強く赤変硬化している。煙道部は壁外へ 32cm掘り込まれ，火床部から緩斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック・粘土粒子少量
4　灰　赤　色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　灰　赤　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
7　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　赤　褐　色　ロームブロック多量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量
9　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量



第 125 図　第 3037 号竪穴建物跡実測図

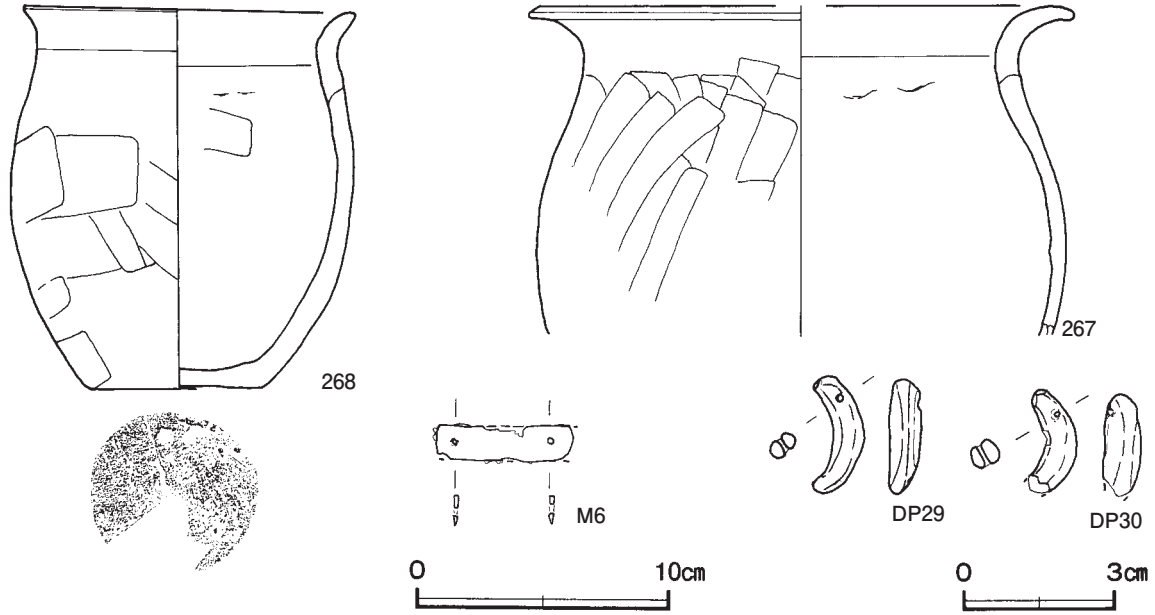
覆土　4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 39 点（甕 37，小形甕２），土製品３点（勾玉２，支脚１），鉄器１点（手鎌）が出土している。267 は中央部から，268 は竈前の覆土下層から出土した破片が接合したものである。M ６は中央部の覆土下層から出土している。DP29・30 は竈内の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。西竈をもつ竪穴建物跡は，14 区では本跡のみである。当遺跡の台地上からは，台地縁辺部にわずかに確認されるだけである（西部で２棟，東部で１棟，南部で４棟）。



第 126 図　第 3037 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3037 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 126 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
267	土師器	甕	[21.8]	(13.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	20%
268	土師器	小形甕	13.0	15.2	6.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部ヘラ削り	覆土下層	60%　PL50

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP29	勾玉	2.3	1.1	0.1	1.15	長石	一方向からの穿孔　ナデ	竈覆土中	PL57
DP30	勾玉	(2.1)	0.9	0.1	(1.05)	長石	一方向からの穿孔　ナデ	竈覆土中	PL57

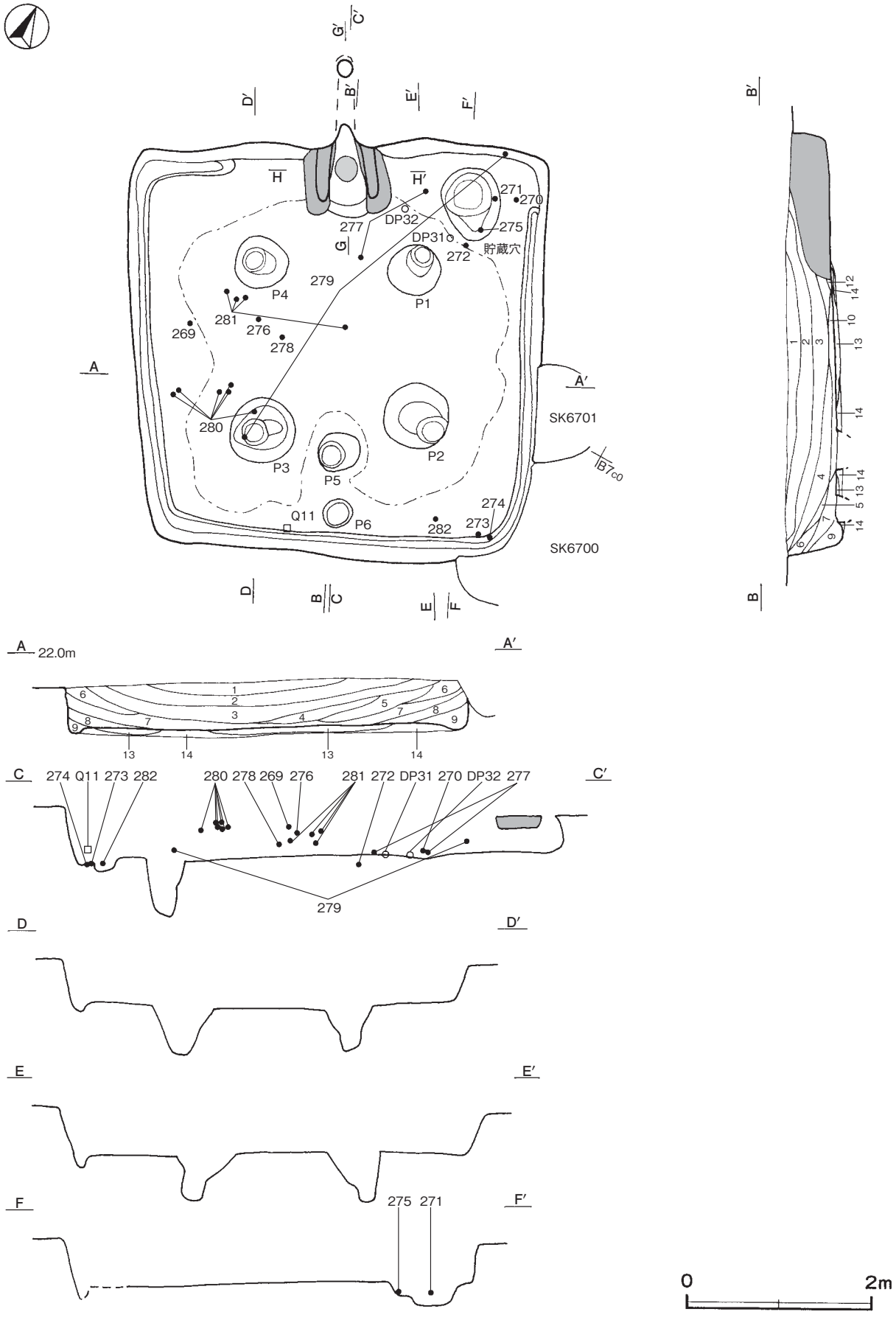
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 6	手鎌	(5.4)	1.5	0.2	(4.41)	鉄	一方向からの穿孔	覆土下層	PL60

第 3055 号竪穴建物跡（第 127 ～ 131 図）

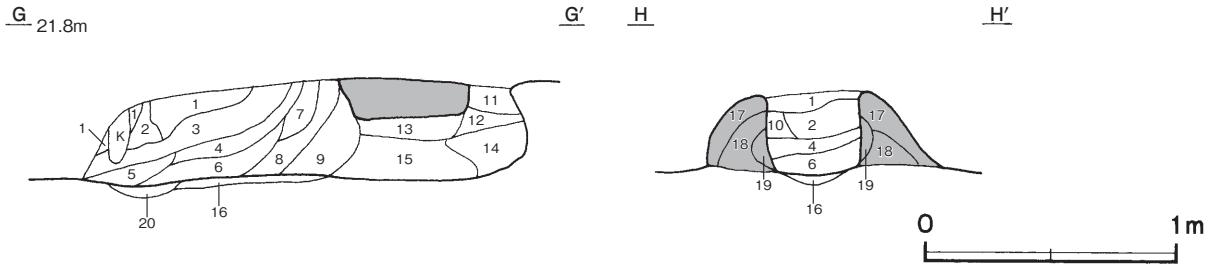
調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部の B ７c9 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺 4.60 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 25 °－Ｗである。壁高は 45 ～ 53㎝で，ほぼ直立して



第 127 図　第 3055 号竪穴建物跡実測図（1）



第 128 図　第 3055 号竪穴建物跡実測図（２）

いる。

重複関係　南東部を第 6700・6701 号土坑に掘り込まれている。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 52 ～ 60cm掘り込み，ロームブロック主体とする暗褐色土を埋土し，厚さ４～ 10cmに踏み固めて構築されている。壁下には，幅 11 ～ 14cm，深さ５～ 14cmで，U 字形の壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 168cm，燃焼部幅は 40cmである。袖部は，床面と同じ高さに，灰褐色の砂質粘土を主体とした第 17 ～ 19 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を７cm掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 74cm掘り込まれ，火床部から直に立ち上がり径 16cmの円形の煙出しとしている。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
3	灰　褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5	にぶい赤褐色	灰中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
6	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7	灰　褐　色	粘土粒子少量
8	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・粘土粒子中量
9	暗 赤 褐 色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量
10	灰オリーブ色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
11	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
12	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子少量
13	灰　褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
14	灰　褐　色	粘土粒子多量，炭化物・ローム粒子少量
15	にぶい赤褐色	粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
16	暗 赤 褐 色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
17	暗　褐　色	ロームブロック中量
18	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子少量
20	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さは 47 ～ 53 cmで主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 62 cm・15 cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径 78cm，短径 62cmの楕円形で，深さ 25cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がり，南壁の中ほどに段を有している。

覆土　12 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 13・14 層は貼床の構築土である。

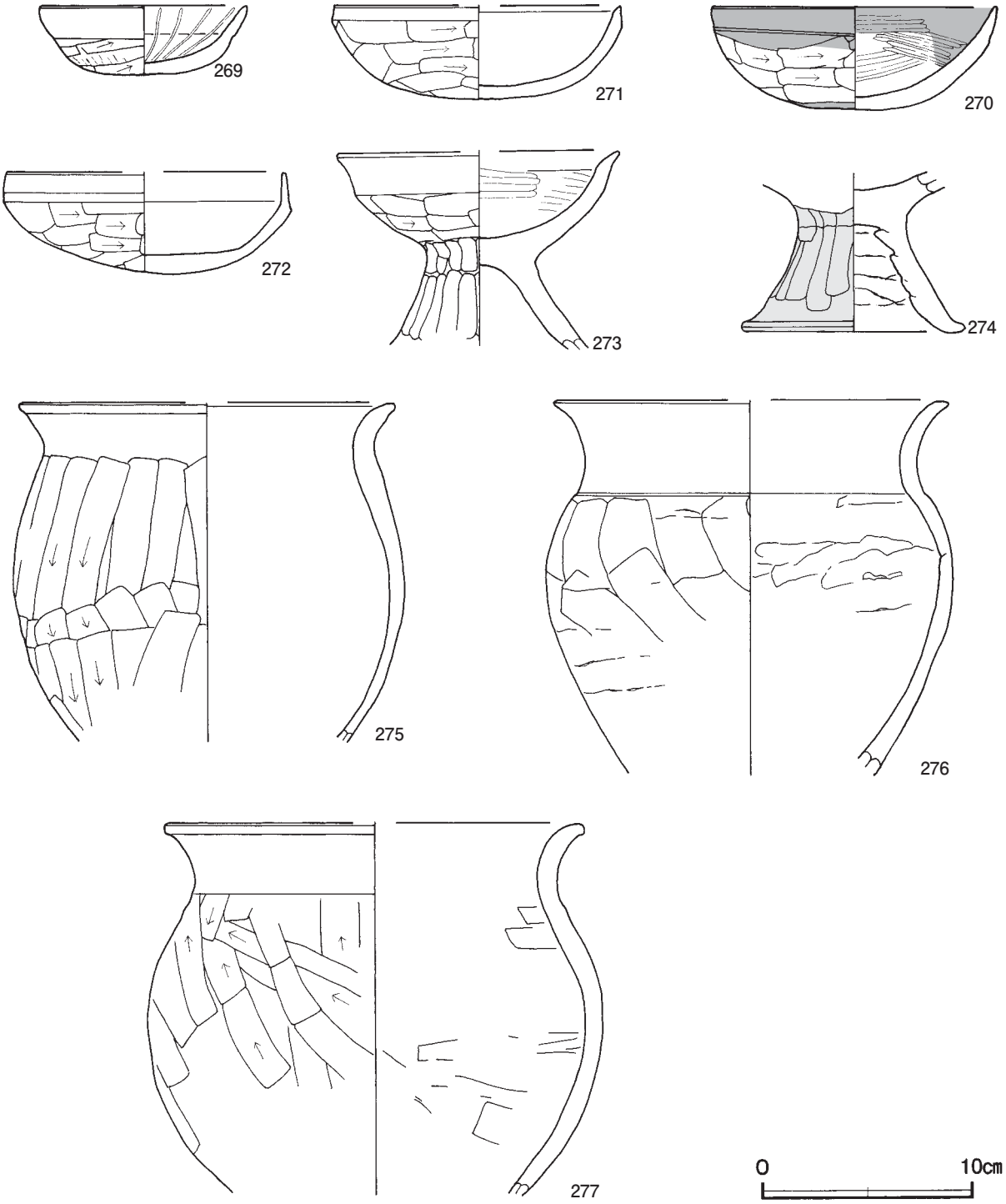
土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック微量
2	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量
3	黒　褐　色	ロームブロック少量
4	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐　　色	ロームブロック少量
7	褐　　色	焼土粒子中量
8	褐　　色	炭化物・ローム粒子少量
9	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量
10	褐　　色	ロームブロック中量
11	暗　褐　色	ロームブロック少量，粘土粒子微量
12	褐　　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
13	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
14	暗　褐　色	ロームブロック少量，粘土粒子微量

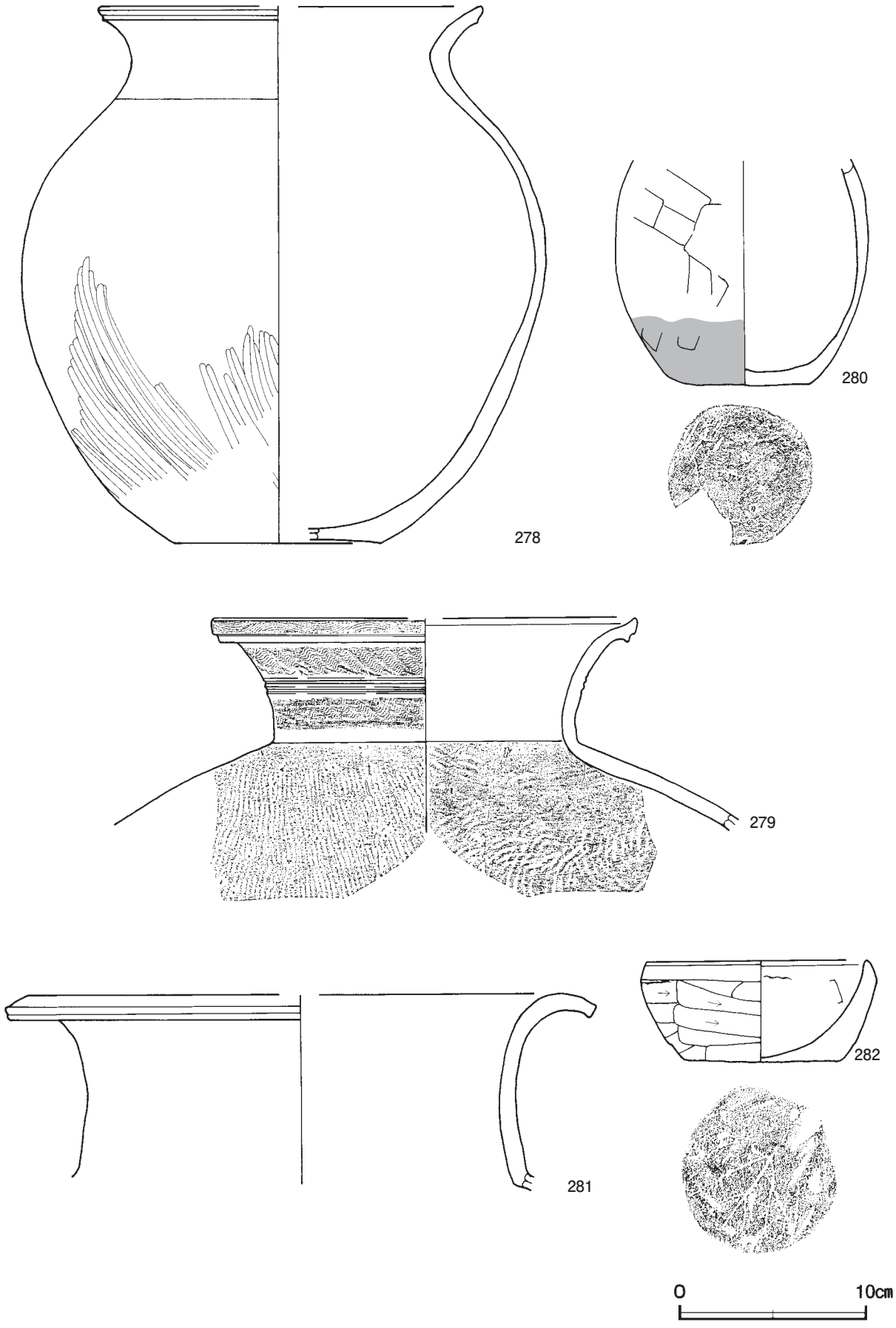
遺物出土状況　土師器片 727 点（坏 100，椀 13，高坏２，甕類 609，甑２，手捏土器１），須恵器片 131 点（坏，

72，蓋８，壺 48 ，長頸瓶２，甕１），土製品５点（支脚３，土玉２），石器１点（砥石）が，西部の覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。270・272 は北東の床面付近，271 ・275 は貯蔵穴，273・282 は南東部の床面から，274 は南東コーナーの壁溝から出土している。277 は竈南側の床面，DP31・DP32 は北東部床面，Q11 は南部の覆土下層，279 は中央部の覆土中層から出土している。269・276・278・280・281 は，西部の覆土上層から下層にかけて集中して出土しており，北西側あるいは西側から投棄されている。

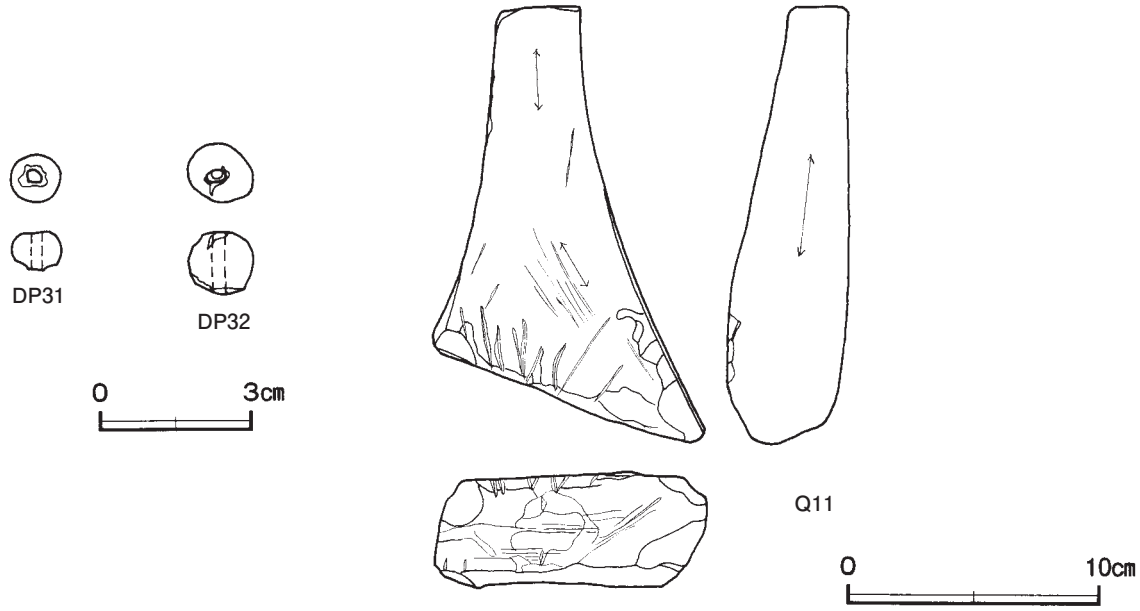
所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。土器は，覆土中に散在する破片と接合するものも多く，出土状況から建物の廃絶後に投棄されたものと考えられる。



第 129 図　第 3055 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）



第 130 図　第 3055 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）



第 131 図　第 3055 号竪穴建物跡出土遺物実測図（３）

第 3055 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 129 ～ 131 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
269	土師器	坏	9.7	3.3	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面暗文	覆土上層	90%　PL49
270	土師器	坏	13.4	4.9	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き	床面	95%　PL49
271	土師器	坏	［13.6］	4.5	－	長石・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	貯蔵穴 覆土中層	90%　PL49
272	土師器	坏	［13.3］	4.9	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	80%　PL49
273	土師器	高坏	［13.5］	（9.5）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き　脚部外面縦位のヘラ削り	床面	80%　PL49
274	土師器	高坏	－	（7.6）	10.2	長石・石英	にぶい赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	壁溝	40%
275	土師器	甕	［17.6］	（16.2）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	貯蔵穴 覆土中層	50%
276	土師器	甕	［18.4］	（17.9）	－	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上半縦位のヘラ削り　下半輪積痕　内面ヘラナデ	覆土中層	40%
277	土師器	甕	［19.6］	（17.7）	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	30%
278	土師器	甕	［20.2］	28.9	［11.2］	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　内面ナデ	覆土中層	70%
279	須恵器	甕	［22.6］	（11.0）	－	長石・石英	灰	良好	口縁部・頸部櫛歯状工具による波状文　体部外面縦位の平行叩き　内面当て具痕	覆土中層	10%
280	土師器	小形甕	－	（12.2）	6.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土上層	60%
281	土師器	甕	［32.0］	（10.5）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%
282	土師器	手捏土器	12.0	5.6	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　底部木葉痕	床面	90%　PL49

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP31	土玉	1.0	0.7	0.2	0.73	長石	ナデ　一方向からの穿孔（断面長方形孔）	床面	PL57
DP32	土玉	1.4	1.3	0.3	1.90	長石	ナデ　一方向からの穿孔（断面円形孔）	床面	PL57

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 11	砥石	17.4	10.9	4.7	770.3	凝灰岩	砥面 4 面　下部筋状の研痕　断面不整長方形	覆土下層	PL59

第 3057 号竪穴建物跡（第 132・133 図）

調査年度　竈を含む北東部は平成 21 年度，南半分は平成 24 年度に調査した。

位置　14 区北部の B 8 g2 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 5.80 m，短軸 3.45 mの長方形で，主軸方向はN － 18゜－Wである。壁高は 25 ～ 34cmで，外傾して立ち上がっている。

重複関係　第 582 号溝，第 7324 号土坑に掘り込まれている。

床　平坦で，中央部から東壁際まで踏み固められている。特に中央部は硬く締まっている。壁下には幅 24 ～ 33cm，深さ８～ 14cmで，U 字形の壁溝が巡っている。竈前から中央部にかけての床面には，焼土塊と砂質粘土ブロックが散在し，その部分の床面は，被熱により赤変硬化している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 140cm，燃焼部幅は 45cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体とした第 16 ～ 20 層を積み上げて構築されている。内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は床面とほぼ同じ高さで，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 55cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰　褐　色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰　褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	極暗褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
4	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5	暗　褐　色	炭化物中量，焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
6	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
10	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
11	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
12	極暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
14	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
15	極暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子･粘土粒子少量，ローム粒子微量
16	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
17	褐　灰　色	粘土粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子微量
18	灰　赤　色	粘土粒子多量，焼土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
19	灰　褐　色	粘土粒子多量，ロームブロック・炭化粒子微量
20	灰　赤　色	粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
21	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量

ピット　深さ 27 cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

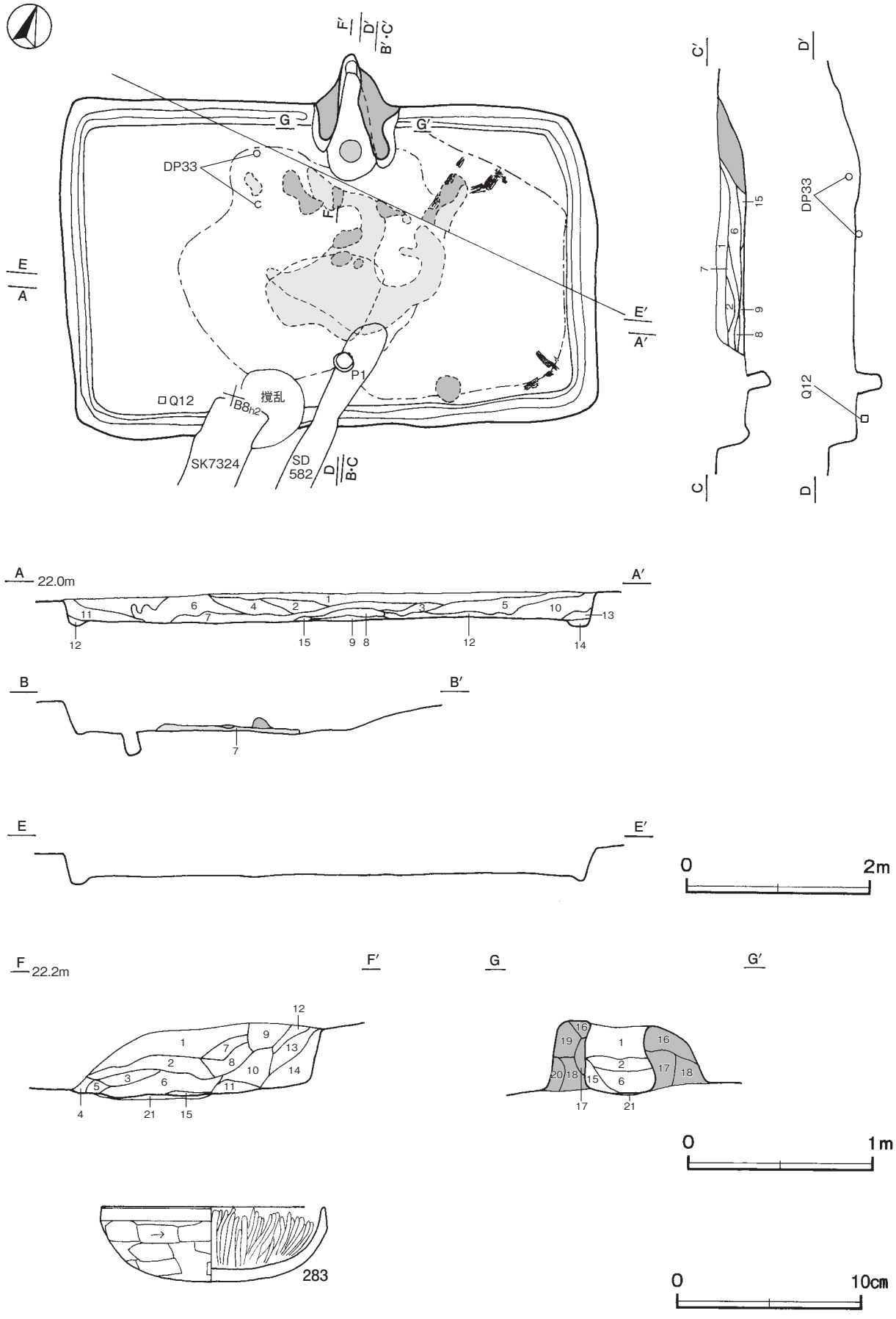
覆土　15 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

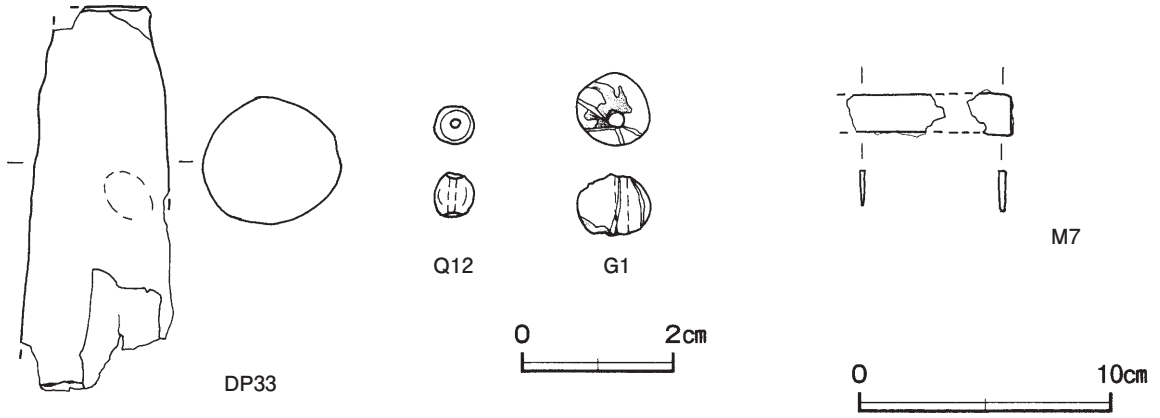
1	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3	褐　　色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
4	にぶい褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
5	褐　　色	ロームブロック中量，炭化物微量
6	褐　　色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量
7	褐　灰　色	ロームブロック・粘土粒子少量
8	明　褐　色	ロームブロック中量
9	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック･炭化物少量，粘土粒子少量
10	暗　褐　色	ロームブロック少量，粘土ブロック微量
11	にぶい褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
12	明　褐　色	ロームブロック少量
13	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
14	暗　褐　色	ロームブロック少量
15	灰　褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片 37 点（坏６，甕 31），土製品１点（支脚），石製品１点（小玉），鉄製品１点（手鎌），ガラス製品１点（小玉），炭化材が，散在した状態で出土している。283 は覆土中から出土している。DP33 は竈西側の覆土下層と床面から出土した破片が接合している。G １は竈の覆土中から，Q12 は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。長方形プランであることや焼土・炭化材・砂質粘土が床面に広がり赤くなっていること，竈材も散在していることなどを考えると，課題を含む建物である。



第 132 図　第 3057 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図



第 133 図　第 3057 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3057 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 132・133 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
283	土師器	坏	12.3	4.0	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き	覆土中	90%　PL50

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP33	支脚	［3.8］	(5.9)	(15.2)	(442.7)	長石・石英	ナデ　細い棒状　火熱を受け脆い　頭頂部平	覆土下層, 床面	PL58

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 12	小玉	0.6	0.6	0.1	0.24	瑪瑙	一方向からの穿孔	床面	PL58

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	手鎌	(6.6)	(1.7)	0.2～0.4	(6.46)	鉄	両端部欠損　穿孔はなし	覆土中	

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
G 1	小玉	1.0	0.8	0.19	(1.49)	ガラス	火を受けて表面変質（気泡）　緑色が残る	竈覆土中	PL58

第 3061 号竪穴建物跡（第 134 ～ 136 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ 8 g4 区，標高 22 ｍほどの台地上に位置している。

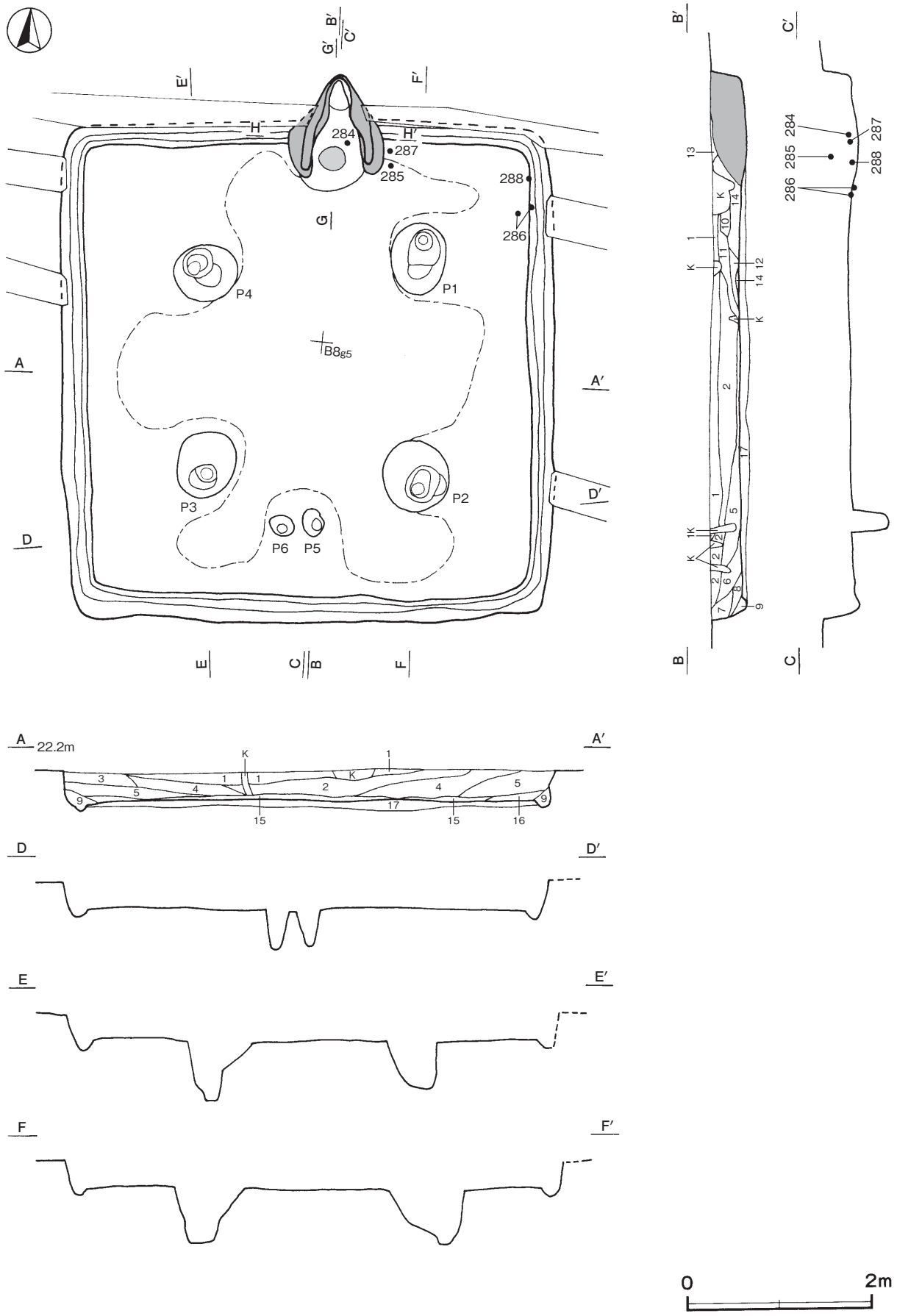
規模と形状　一辺 5.40 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 4 °－Ｗである。壁高は 28 ～ 34cmで，直立している。

床　平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。壁下には幅 18 ～ 22cm, 深さ 7 ～ 12cmで, U 字形の壁溝が巡っている。貼床は, 確認面から 36 ～ 42cmの深さに, 溝状や凹凸の不整楕円形状の掘り込みを各コーナー部に行い, ロームブロック主体の暗褐色土の第 17 層を 10 ～ 18cm埋土し踏み固めて構築されている。

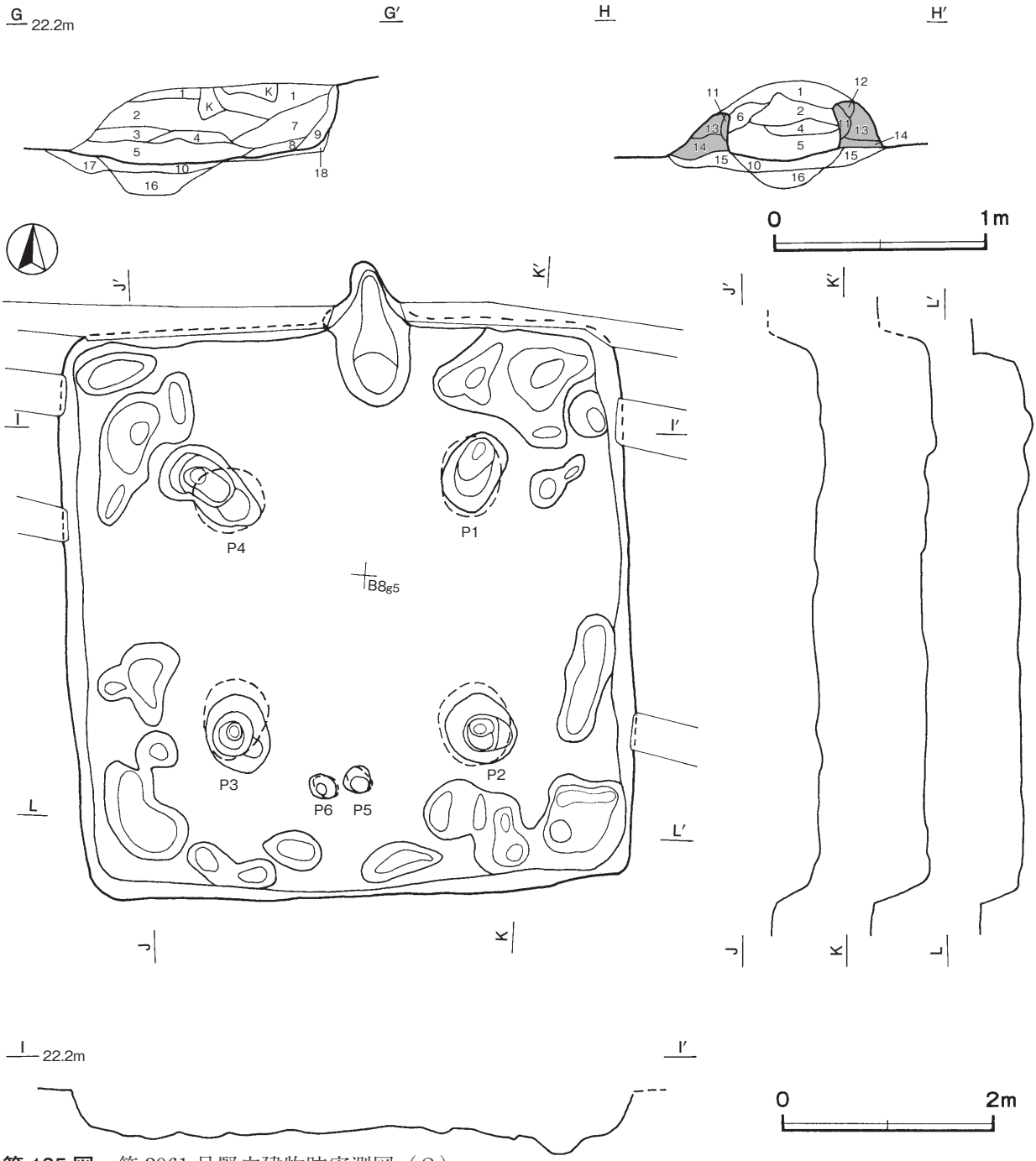
竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 125cmで，燃焼部幅は 54cmである。袖部は左袖部を床面と同じ高さに，粘土粒子主体の第 11 ～ 14 層を積み上げて構築されている。右袖部から火床部にかけては，床面を深さ 20 ～ 26cm皿状に掘りくぼめ，暗褐色土の第 10・15・16 層を埋土し，粘土粒子主体の第 11 ～ 14 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を 12cm掘りくぼめ，ローム粒子を含む第 10 層を埋土して構築されている。火床面及び内壁は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 49cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第 134 図　第 3061 号竪穴建物跡実測図（1）



第 135 図　第 3061 号竪穴建物跡実測図（２）

3　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
6　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
9　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
11　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量
12　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
13　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
14　灰　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
16　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
17　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
18　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　6か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ52～60cmで，主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ41cm・44cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

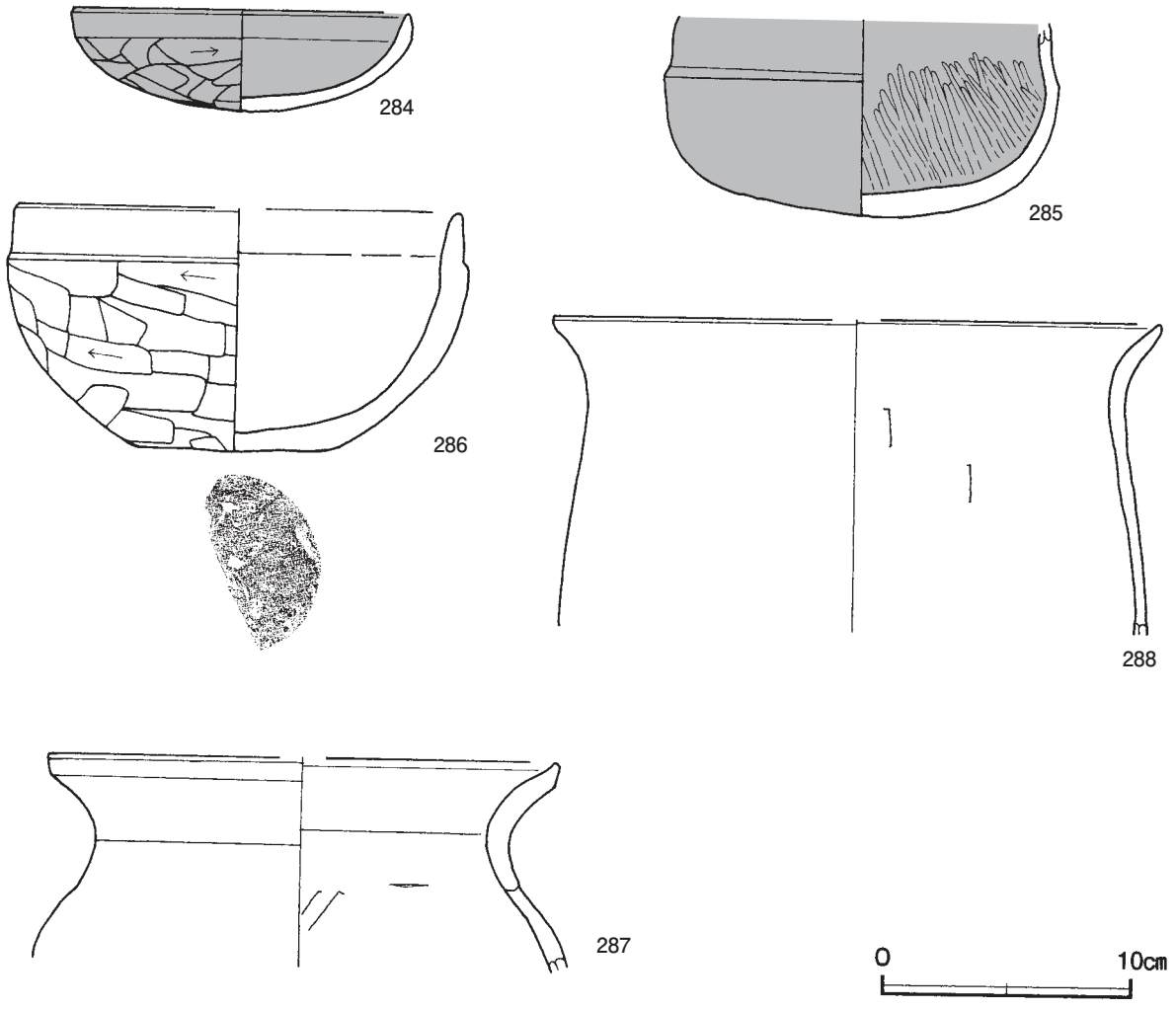
覆土　16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第10～14層は竈材が流出した層と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　灰　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　褐　　色　粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　褐　　色　ロームブロック微量
16　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片123点（坏63，椀３，甕56，甑１），須恵器片２点（坏，甕），鉄製品１点（不明）が出土している。286・288は北東コーナー部の床面から，287は竈右袖脇の床面から出土している。284は竈内の覆土第４層から逆位で出土している。285は竈脇の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定される。



第136図　第3061号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3061 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 136 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
284	土師器	坏	13.5	4.0	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	竈覆土中	70%　PL50
285	土師器	椀	－	(7.9)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ後密な磨き	覆土上層	80%　PL50
286	土師器	椀	[17.8]	9.7	[7.6]	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	50%　PL50
287	土師器	甕	[20.4]	(8.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面ヘラナデ	床面	10%
288	土師器	甕	[24.4]	(12.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部内面ヘラナデ	床面	10%

第 3066 号竪穴建物跡（第 137・138 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区中央部のＣ８c2 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺4.60mほどの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は40～43cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。東床からＰ１・Ｐ２につながる間仕切り溝が認められる。これは床の掘方調査時に確認されたもので，長さ 100cm，幅 12 ～ 14cm，深さ６cmの溝状のものが２条あった。さらに，竈の前に深さ 14 ～ 16cmのピット状のＰ８・Ｐ９が確認されている。貼床は，確認面から深さ 38 ～ 54cm掘り込み，ロームブロックを多く含む暗褐色土層を埋土し厚さ 10cmほどに踏み固めて構築されている。壁下には幅 20 ～ 24cm，深さ５～８cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 120cm，燃焼部幅は 53cmである。袖部は，地山を削り出して基部とし，砂質粘土を主体とした第 19 ～ 21 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を 10cm掘りくぼめ，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 26cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第 22 ～ 24 層は掘方への埋土である。

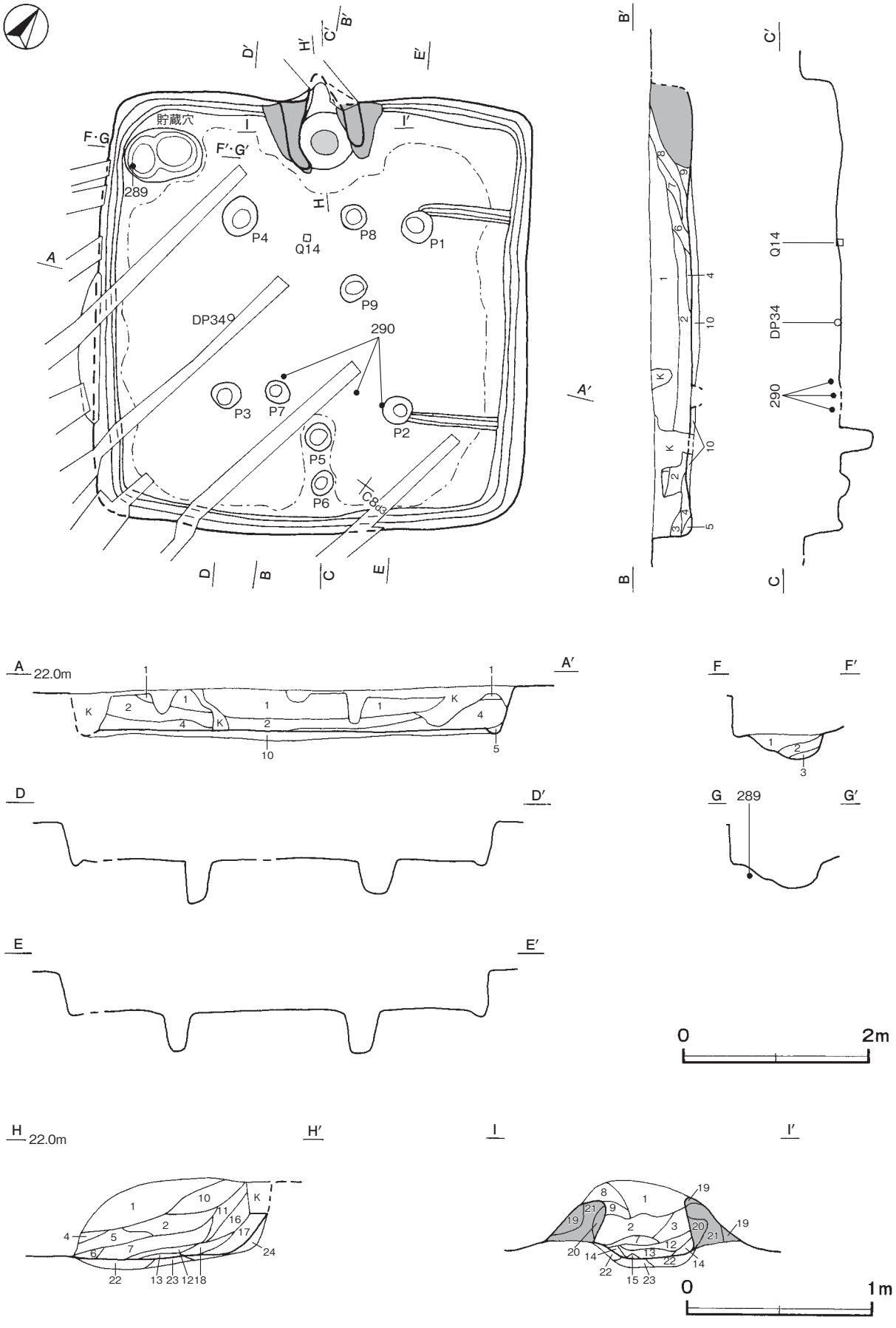
竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
3　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　灰 黄 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，ロームブロック微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
8　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
9　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量
10　灰　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
11　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
12　明 褐 灰 色　灰多量，焼土ブロック・炭化物微量
13　にぶい橙色　焼土ブロック・灰中量，炭化物少量
14　灰　褐　色　灰中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
15　褐　　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
17　暗 赤 褐 色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
18　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
19　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
20　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
21　灰　褐　色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
22　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物微量
23　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
24　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量

ピット　９か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ37～50 cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５･Ｐ６は深さ36 cm･12 cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７～Ｐ９は，深さ 14 ～ 23 cmで，性格不明である。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。長径 82cm，短径 62cmの楕円形で，深さ 31cmである。底面は平坦で，壁は西側に段を有し外傾して立ち上がっている。

覆土　９層に分層できる。各層にロームブロック等が含まれていることから，埋め戻されている。第 10 層は，貼床の構築土である。



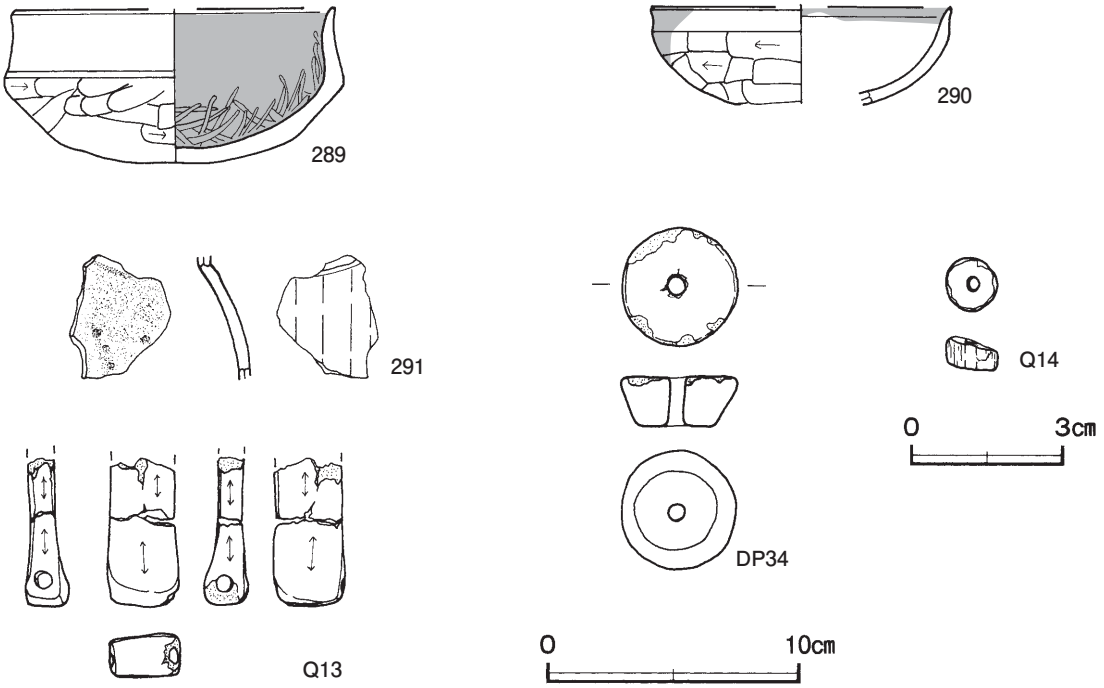
第 137 図　第 3066 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，粘土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量
8　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
9　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 89 点（坏 24，甕類 65），須恵器片７点（坏１，提瓶１，甕５），土製品２点（支脚，紡錘車），石器１点（砥石），石製品１点（臼玉），鉄製品１点（不明），炭化材が散在した状態で出土している。289 は貯蔵穴の底面から，290 は中央部の覆土下層，DP34 は西部の床面，Q14 は竈前の床面，291 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第 138 図　第 3066 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3066 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 138 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
289	土師器	坏	[12.7]	6.1	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	貯蔵穴底面	60%
290	土師器	坏	[12.0]	(3.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	30%
291	須恵器	提瓶	－	(4.9)	－	長石	灰黄	良好	体部外面ロクロナデ　自然釉	覆土中	５%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP34	紡錘車	4.7	2.0	0.7	45.1	長石	ナデ　一方向からの穿孔　上面孔回転により磨滅	床面	PL58

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 13	砥石	(5.9)	2.9	1.8	(30.0)	凝灰岩	提砥石　砥面４面　端部横穿孔　長方形状	覆土中	PL59

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 14	臼玉	1.0	0.6	0.3	1.02	滑石	一方向からの穿孔　全面研磨	床面	PL58

第 3068 号竪穴建物跡（第 139 ～ 144 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区中央部のＣ７e9 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 8.40 ｍ，短軸 8.04 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 28 °－Ｗである。壁高は 52 ～ 66㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には幅 14 ～ 22㎝，深さ８～ 12㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。竈前の床面に長さ 60 ～ 80㎝，幅 10 ～ 12㎝の炭化材が壁に直交した状態で，東部と南西部の床面にも幅 12㎝，長さ 65 ～ 75㎝の炭化材が中央に倒れたような状態で散在しているのを確認した。また，南西部の壁際から床面に向かっての２ｍほどの範囲に多くの焼土を確認した。床の掘方調査で，東壁下から中央にかけて幅 12 ～ 18㎝，深さ６㎝，長さ 60 ～ 112㎝の根太の跡を確認した。貼床は，確認面から深さ 56 ～ 70㎝掘り込み，ローム ブロック主体の第 16 ～ 19 層を埋土し，厚さ８～ 14㎝に踏み固めて構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 196㎝，燃焼部幅は 68㎝である。袖部は，床面と同じ高さに灰褐色の砂質粘土を主体とした第 13 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を皿状に 10㎝掘りくぼめ，第 12 層を埋土している。火床面は，火熱を受け広範囲が赤変硬化し，内壁も強く赤変硬化している。煙道部は壁外へ 98㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

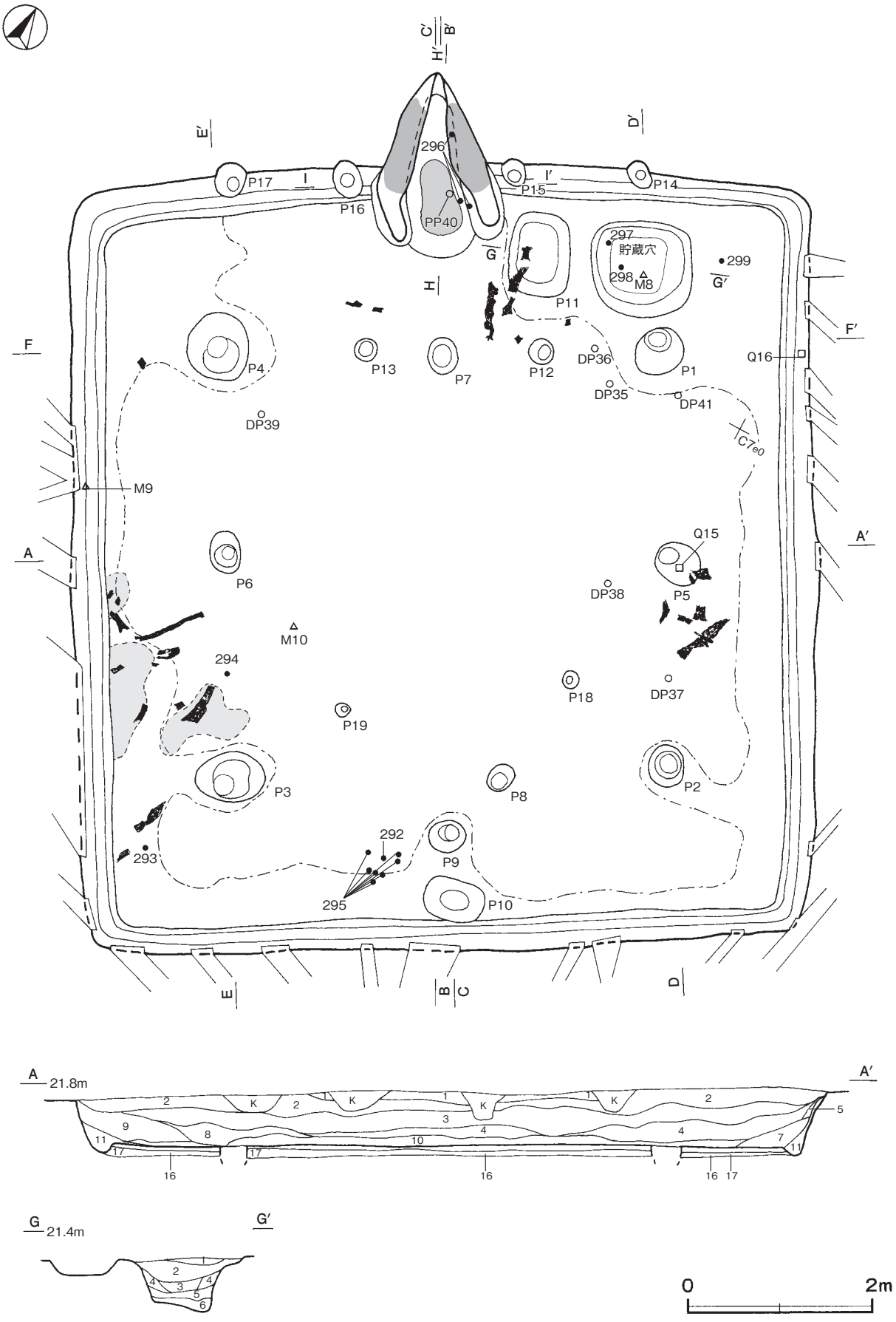
竈土層解説

1	灰　褐　色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，炭化物少量，ロームブロック・粘土粒子微量
3	極暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化物少量，ロームブロック・粘土粒子微量
4	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，炭化物・粘土粒子少量，ロームブロック微量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物少量
8	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック中量，炭化物・粘土粒子少量
10	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量
11	赤　褐　色	焼土ブロック多量，ロームブロック微量
12	赤　褐　色	焼土ブロック多量，炭化物微量
13	灰　褐　色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
14	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
15	灰　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
16	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子少量

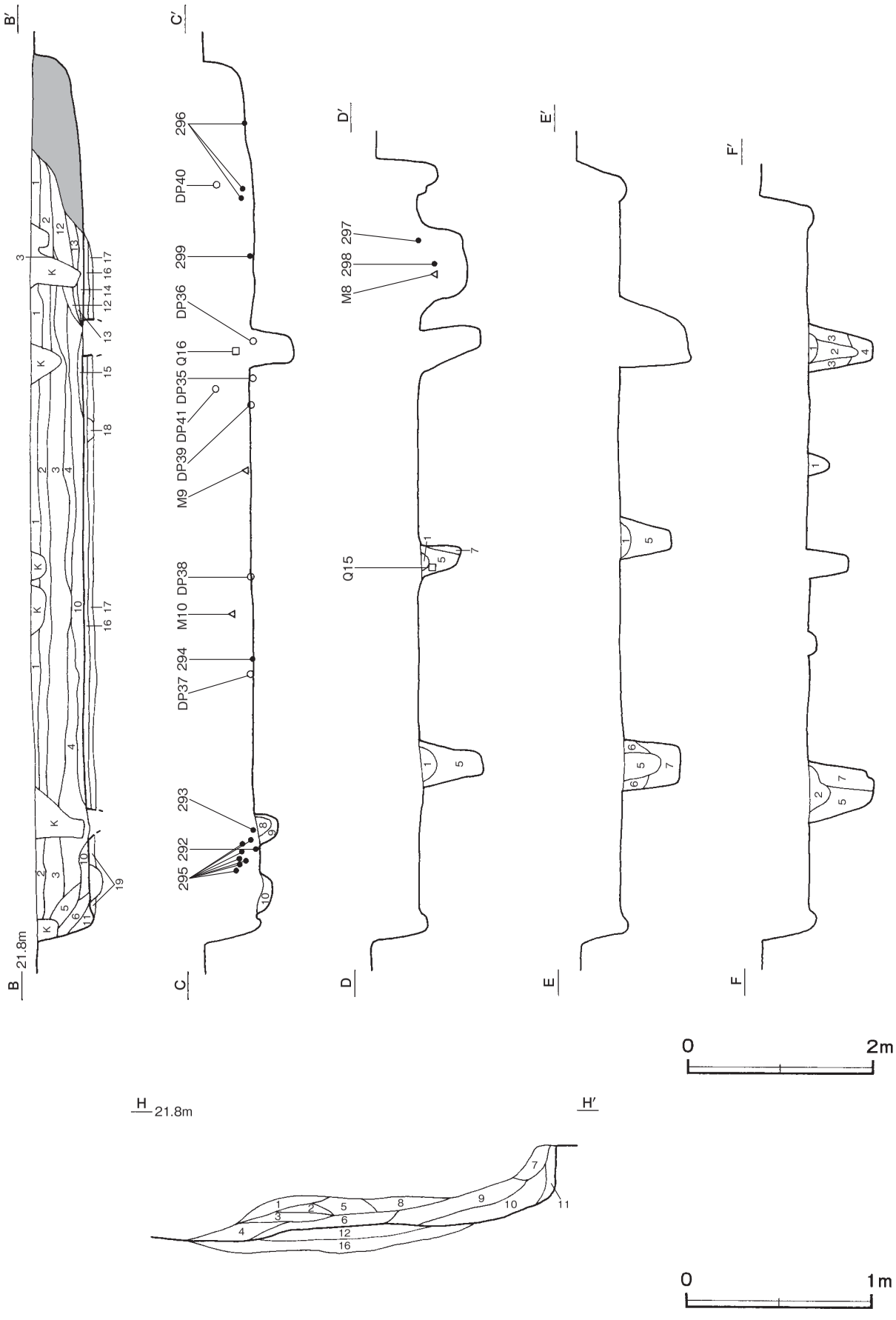
ピット　19 か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さ 62 ～ 72㎝で規模や配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 42㎝・58㎝で位置から補助柱穴と考えられる。Ｐ９・Ｐ 10 は深さ 29㎝・25㎝で，南壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ 14 ～Ｐ 17 は北壁部に位置し，確認面からの深さは 50 ～ 68㎝である。P12・P13 は P15・P16 に対面し，深さは 28㎝・13㎝である。Ｐ７は竈の正面に位置し，深さは 47㎝である。竈の周囲に配置され対になっていることから，竈に関連する棚状の施設か上屋に関連する補助的な柱穴と考えられる。竈の東側に位置するＰ 11 は隅丸長方形で，深さ 17㎝で焼土を多く含んでいることから，竈に伴う施設と考えられる。Ｐ８･P18･P19 は深さ 38㎝･36㎝･16㎝で，性格不明であり，遺構には伴わないピットと考えられる。

ピット土層解説

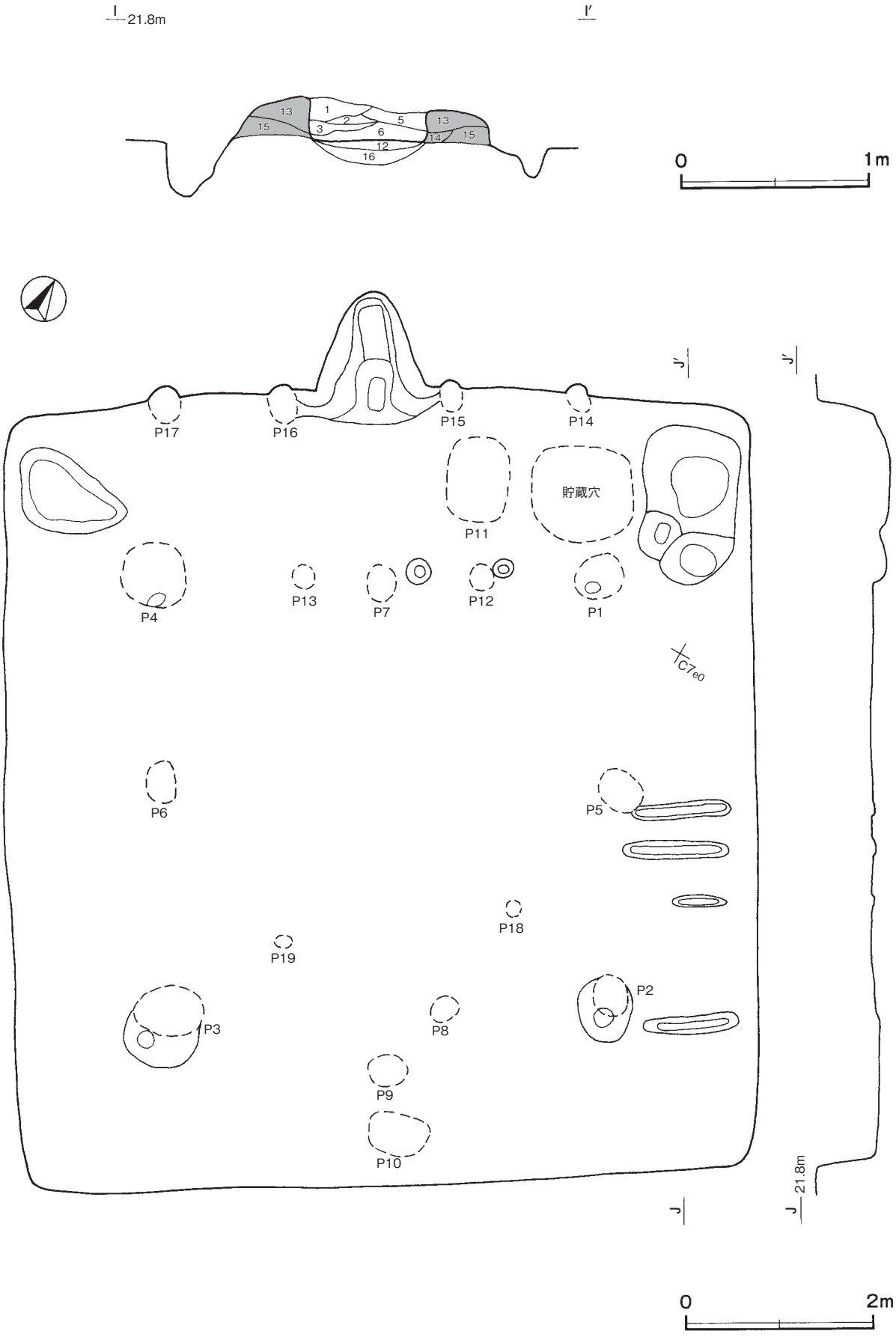
1	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，粘土ブロック微量
3	褐　　色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物・粘土ブロック微量
4	褐　　色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
5	暗　褐　色	ロームブロック微量
6	褐　　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐　　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8	暗　褐　色	ロームブロック中量
9	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
10	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第 139 図　第 3068 号竪穴建物跡実測図（1）



第 140 図　第 3068 号竪穴建物跡実測図（2）



第 141 図　第 3068 号竪穴建物跡実測図（3）

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。一辺 105㎝の隅丸方形で，深さ 52㎝である。床面からは四辺とも段状に掘り込まれ，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化材微量

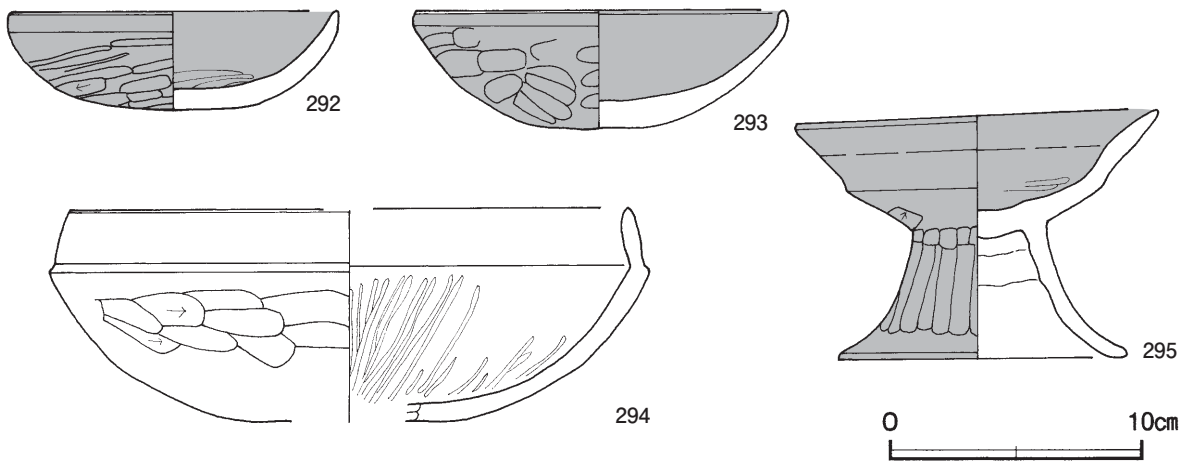
覆土　15 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。第 16 ～ 19 層は貼床の構築土である。

土層解説

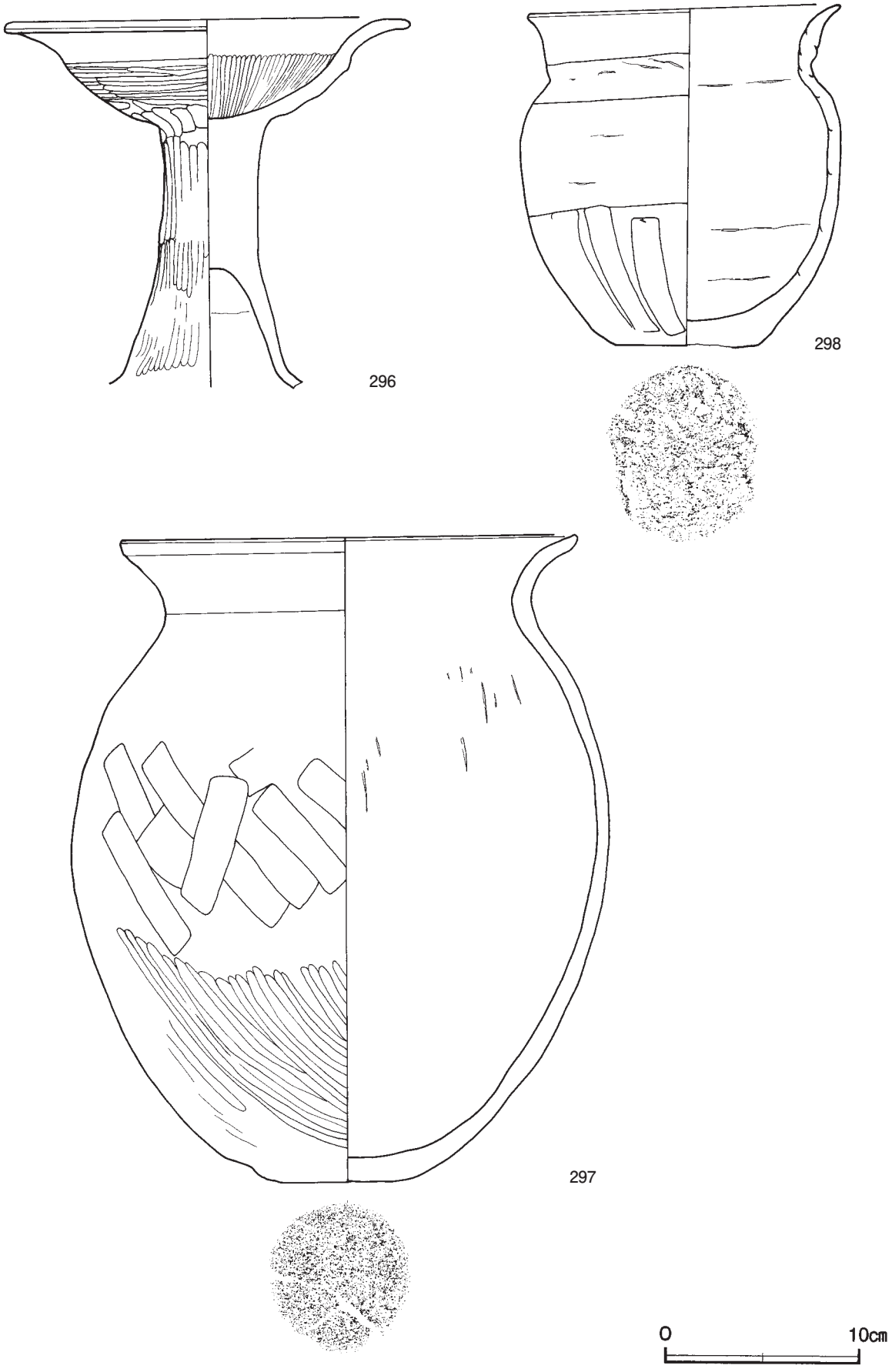
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化材少量
10　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
13　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物中量，粘土粒子少量，ロームブロック微量
14　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
15　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量
16　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　褐　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
18　暗 赤 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
19　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 1321 点（坏 535，椀５，高坏 20，甕 755，小形甕２，甑４），須恵器片７点（坏６，甕１），土製品 12 点（小玉２，土玉３，管玉３，支脚４），石器１点（紡錘車）石製品２点（勾玉），鉄器２点（鏃，鎌），鉄製品１点（不明），鉄滓１点（389.4g），炭化材が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。296 は竈の右袖部の補強材として出土している。292 ～ 294 は南西部の床面から，297・298 は貯蔵穴の上層から横位で出土している。DP35・DP36 は北東部，DP37・DP38 は南東部，DP39 は北西部の床面からそれぞれ出土している。299 は北東コーナー部，Ｍ９は西壁際の覆土下層から，295 は出入り口近くの覆土中層から床面にかけて投棄された状況で出土している。Q16 は東壁際の覆土中層，Ｍ８は貯蔵穴の覆土中層，DP40 は竈の覆土上層，M10 は覆土中からそれぞれ出土している。Q15 はＰ５の柱抜取後に埋土された覆土中層から出土している。

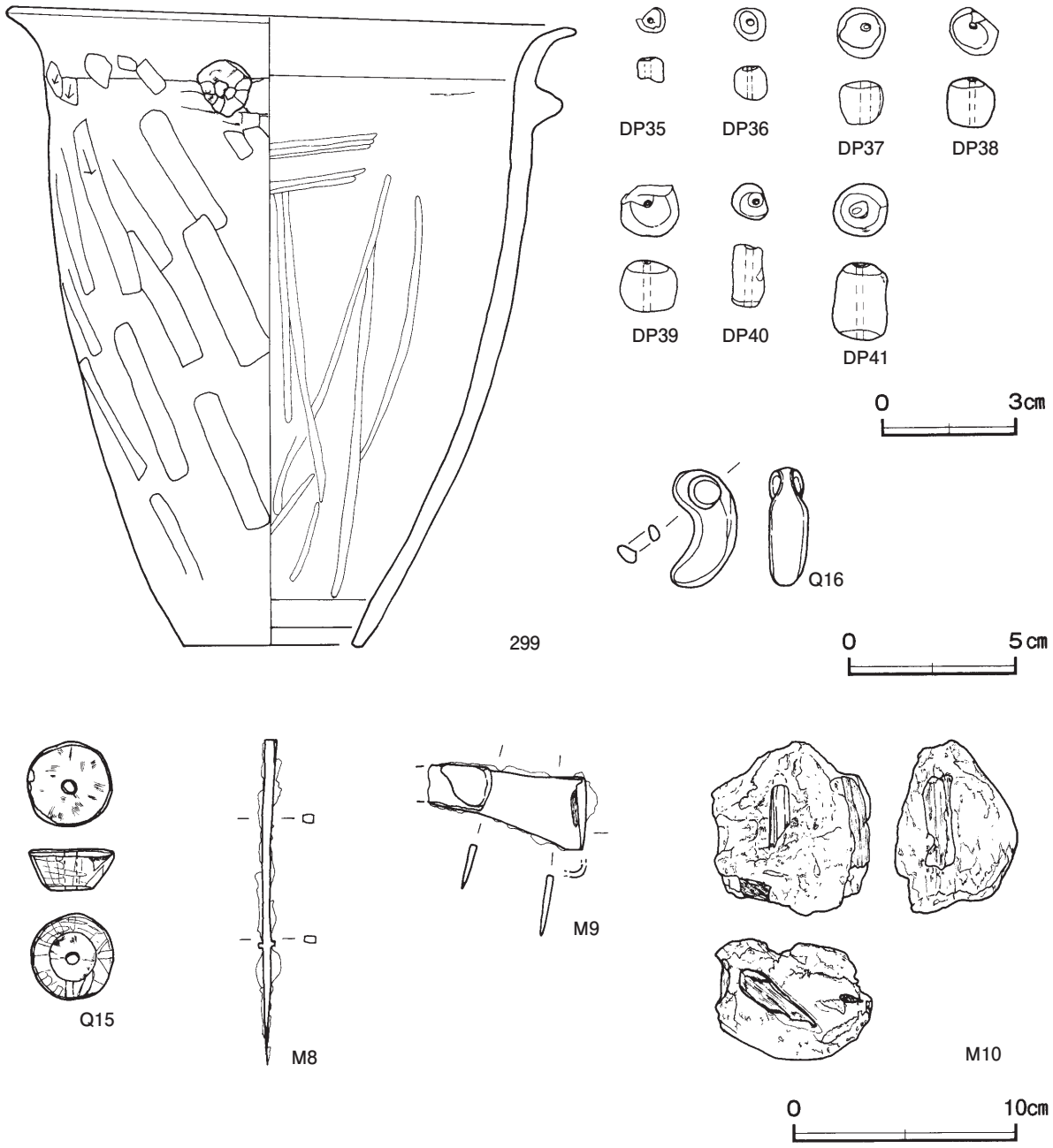
所見　竈前や東壁際，南西コーナー部に炭化材が散在し，焼土範囲も確認されることから焼失した建物である。Ｐ５の柱が抜取られ，埋土された覆土中層から出土した紡錘車や三方向の建物コーナー部に近い床面から，土玉が出土していることなどから，廃絶に係わる祭祀的な行為を行なった後，焼却した可能性もある。時期は，出土土器から６世紀中葉から後葉に比定できる。



第 142 図　第 3068 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）



第 143 図　第 3068 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）



第 144 図　第 3068 号竪穴建物跡出土遺物実測図（３）

第 3068 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 142 ～ 144 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
292	土師器	坏	13.1	3.8	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	床面	90%　PL51
293	土師器	坏	14.7	4.7	－	長石	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	90%　PL51
294	土師器	椀	[22.2]	(8.5)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き	床面	40%
295	土師器	高坏	14.4	9.8	[11.5]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部内面のヘラ磨き　脚部外面縦位のヘラ磨き　内面ナデ	床面～覆土中層	70%　PL52
296	土師器	高坏	20.9	(19.0)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面横位のヘラ磨き　内面放射状のヘラ磨き　脚部外面縦位のヘラ磨き	竈右袖部	80%　PL51
297	土師器	甕	23.4	33.3	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部上部ヘラ削り　下部ヘラ磨き　内面ヘラナデ	貯蔵穴　覆土上層	90%　PL51
298	土師器	小形甕	16.1	17.8	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面輪積痕　下半縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴　覆土上層	95%　PL51
299	土師器	甑	25.2	28.8	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き　突起３か所	覆土下層	90%　PL51

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP35	小玉	0.6	0.6	0.1	(0.18)	長石・石英	一方向からの穿孔　(黒褐)	床面	PL57
DP36	小玉	0.7	0.8	0.1	0.37	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔　円筒状　(黒褐)	床面	PL57
DP37	土玉	1.1	1.0	0.2	1.24	長石・石英	ナデ　二方向からの穿孔　(明褐)	床面	PL57
DP38	土玉	1.1	1.2	0.1	(1.44)	長石	ナデ　一方向からの穿孔　扁平　(黒褐)	床面	PL57
DP39	土玉	1.3	1.2	0.1	(1.84)	長石	ナデ　一方向からの穿孔　(黒褐)	床面	PL57

番号	器　種	幅	長さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP40	管玉	0.8	1.4	0.1	2.93	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔　俵状　(黒褐)	竈覆土上層	PL57
DP41	棗玉	1.2	1.8	0.2	(0.97)	長石	ナデ　一方向からの穿孔　(橙)	覆土上層	PL57

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 15	紡錘車	3.8	1.8	0.6	39.9	滑石$_{カ}$	上下面研磨　側面削り	P５覆土中層	PL59

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 16	勾玉	3.5	2.0	0.7	11.10	蛇紋岩	全面研磨　二方向からの穿孔	覆土中層	PL58

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M８	鏃	(14.6)	0.6～0.1	0.4～0.3	(7.91)	鉄	茎部　末端部尖る　鏃身部欠損　　断面方形	貯蔵穴 覆土中層	PL59
M９	鎌	(7.0)	(3.8)	0.3	(30.0)	鉄	端部折り曲げ　　先端折曲　木質付着	覆土下層	PL60
M 10	鉄滓	7.7	7.1	5.5	389.4	鉄	木質付着　木部混入痕	覆土中	

第 3075 号竪穴建物跡（第 145 図）

調査年度　南東部は平成 21 年度，北西部は平成 24 年度に調査した。

位置　14 区中央部のＤ８e1 区，標高 21 ｍほどの台地上に位置している。

重複関係　第 588 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.16 ｍ，短軸 3.40 ｍでの長方形で，主軸方向はＮ－ 26 °－Ｗである。壁高は５～ 25㎝で，直立している。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北東部の壁下には幅 12 ～ 15㎝，深さ８～ 12㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。大部分が第 588 号溝に掘り込まれているため，わずかに左袖部が遺存しているのみである。煙道部は，壁外へ 20㎝掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

ピット　５か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 21㎝・11㎝で，南壁際の中央部に位置することや規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３～Ｐ５は深さ 16～ 27㎝で，性格は不明で遺構には伴わないものと考えられる。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。一辺 70㎝ほどの隅丸方形で，深さ 33㎝である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック少量

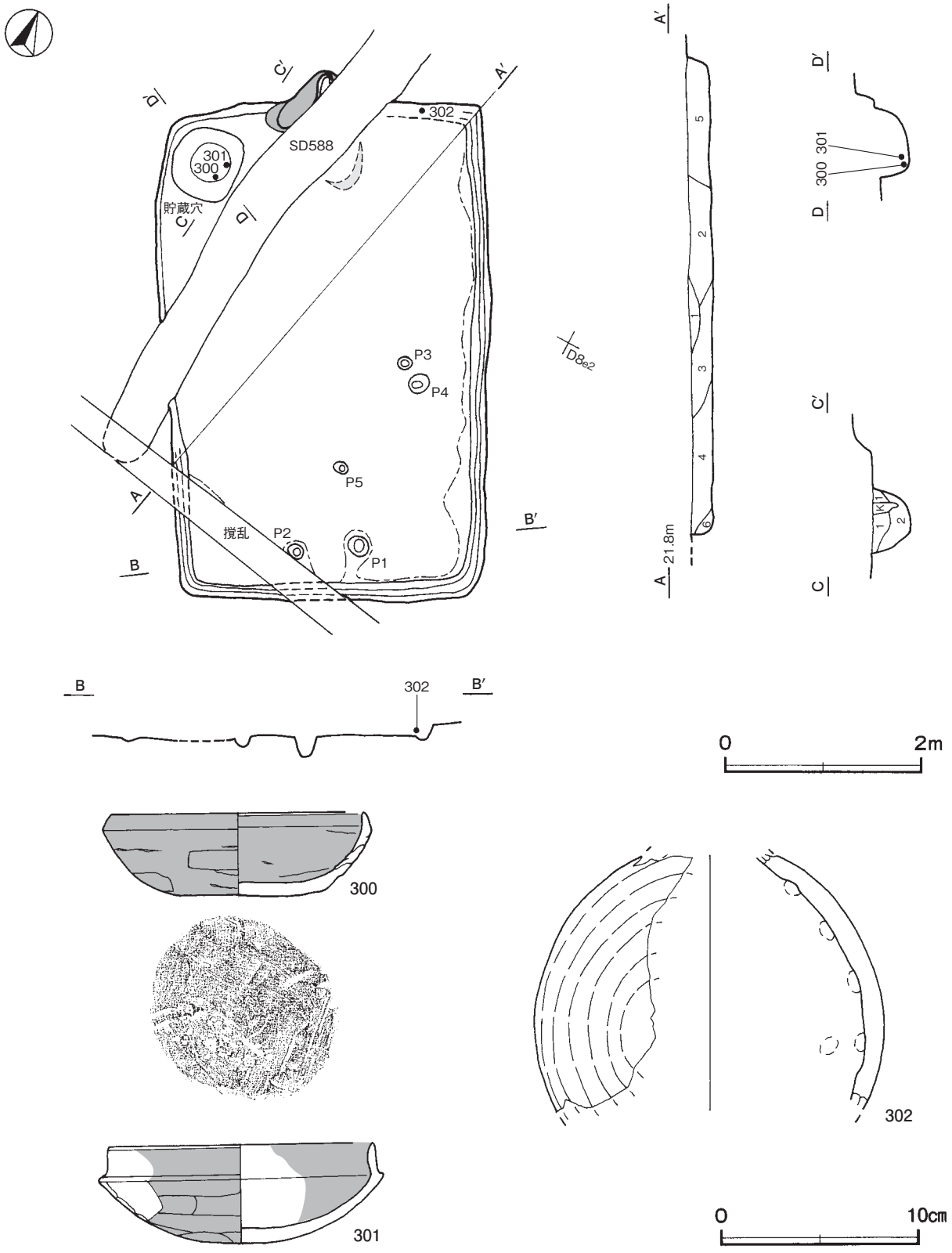
覆土　６層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 22 点（坏 8，甕類 14），須恵器片 2 点（横瓶，甕），土製品 1 点（支脚）が出土している。300・301 は貯蔵穴の底面から，302 は北部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 145 図　第 3075 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図

第 3075 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 145 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
300	土師器	坏	12.9	4.2	5.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上端ナデ　下端ヘラ削り　内面ナデ　底部ヘラ削り	貯蔵穴底面	95%　PL50
301	土師器	坏	13.5	5.0	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	貯蔵穴底面	70%　PL50
302	須恵器	横瓶	－	(12.8)	－	長石・石英	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ　体部外面回転ヘラ削り　指頭痕	床面	10%

第 3160 号竪穴建物跡（第 146 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区北西部のＢ７j6 区，標高 21 ｍほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸 3.26 ｍ，短軸 2.50 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は 45 ～ 50㎝で，直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には幅 14 ～ 20㎝，深さ５～８㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。貼床は，確認面から深さ 52 ～ 76㎝掘り込み，ローム ブロックを主体とし炭化物や焼土粒子を含む第 10 ～ 13 層を埋土し，厚さ 12 ～ 20㎝に踏み固めて構築されている。

竈　２か所。竈１は北壁の東コーナー部寄りに，竈２は北壁中央部に付設されている。規模は，竈１は焚口部から煙道部まで 83㎝で，燃焼部幅は 31㎝である。袖部は床面と同じ高さに粘土ブロックとローム ブロックを含む第５・６層を積み上げて構築されている。火床部は床面を５㎝皿状にくぼめ，火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ 26㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈２は，壁外へ 45㎝掘り込まれたが確認できるのは煙道部のみである。遺存状況からみて，竈２から竈１へ作り替えられている。

竈１土層解説

1　灰黄褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化物少量
2　灰黄褐色　黄褐色粘土ブロック中量，ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　暗褐色　白色粘土ブロック・ローム粒子少量
4　にぶい黄褐色　ローム ブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐灰色　ローム ブロック少量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム ブロック・炭化物少量
7　暗褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物少量

竈２土層解説

8　褐灰色　白色粘土ブロック中量，ローム ブロック少量
9　黒褐色　ローム ブロック・白色粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
10　暗褐色　ローム ブロック少量，焼土ブロック微量
11　灰黄褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック少量，炭化物微量

ピット　Ｐ１は深さ 15㎝で，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

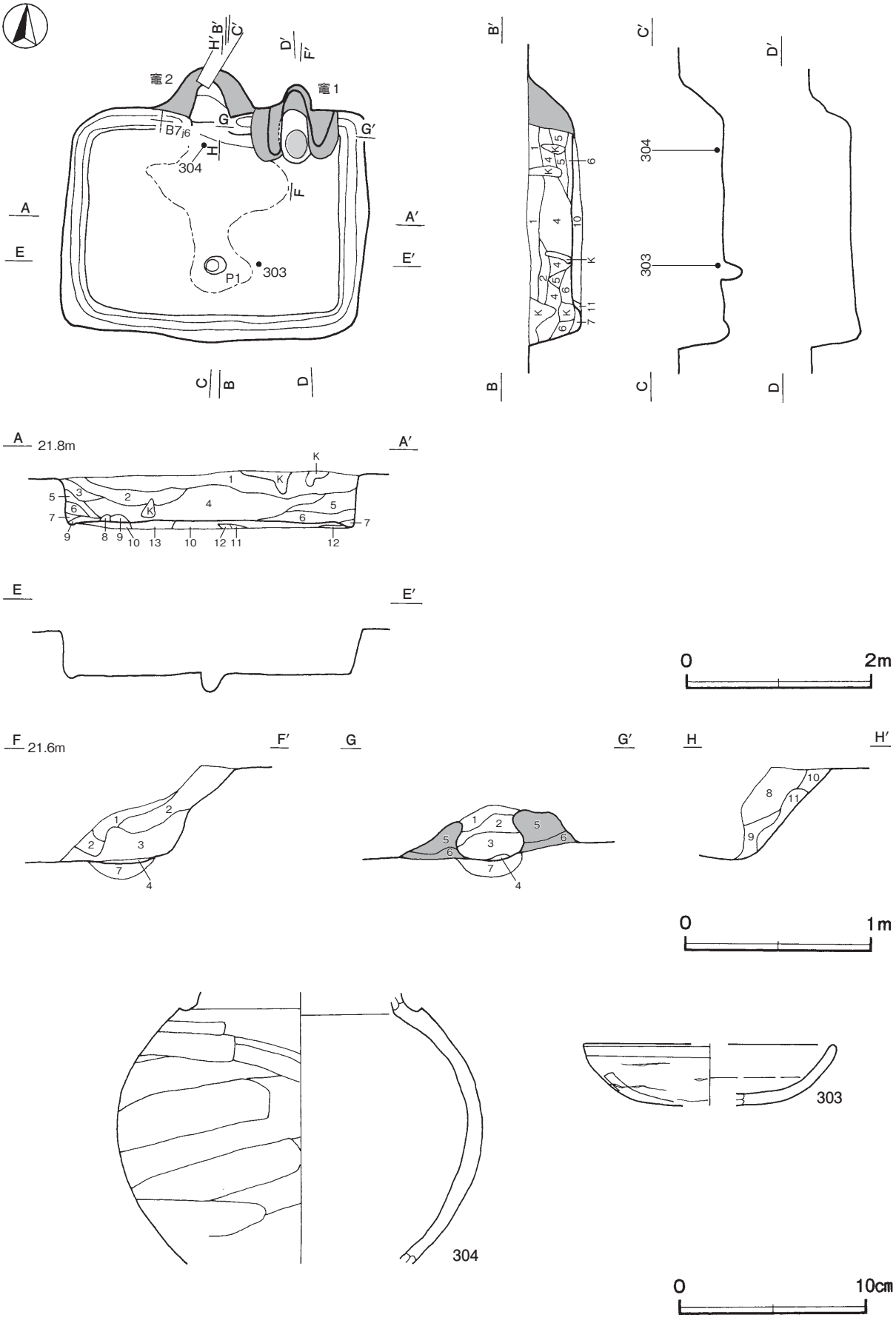
覆土　９層に分層できる。多くの層にローム ブロックが含まれることから埋め戻されている。第 10 ～ 13 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐灰色　焼土粒子少量
4　灰黄褐色　ローム ブロック・炭化物少量
5　暗褐色　ローム ブロック中量
6　褐　　色　ローム ブロック中量
7　暗褐色　ローム ブロック少量
8　黒褐色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ローム ブロック中量，黒色土ブロック微量
10　にぶい黄褐色　ローム ブロック中量，黒色土ブロック微量
11　黒褐色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子少量
12　にぶい褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　灰黄褐色　ローム ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片 67 点（坏 10，椀１，高坏１，壺１，甕 54），須恵器片２点（蓋，甕），鉄製品１点（不明）が出土している。303 は南部の掘方から，304 は竈２前の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第 146 図　第 3160 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3160 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 146 図）

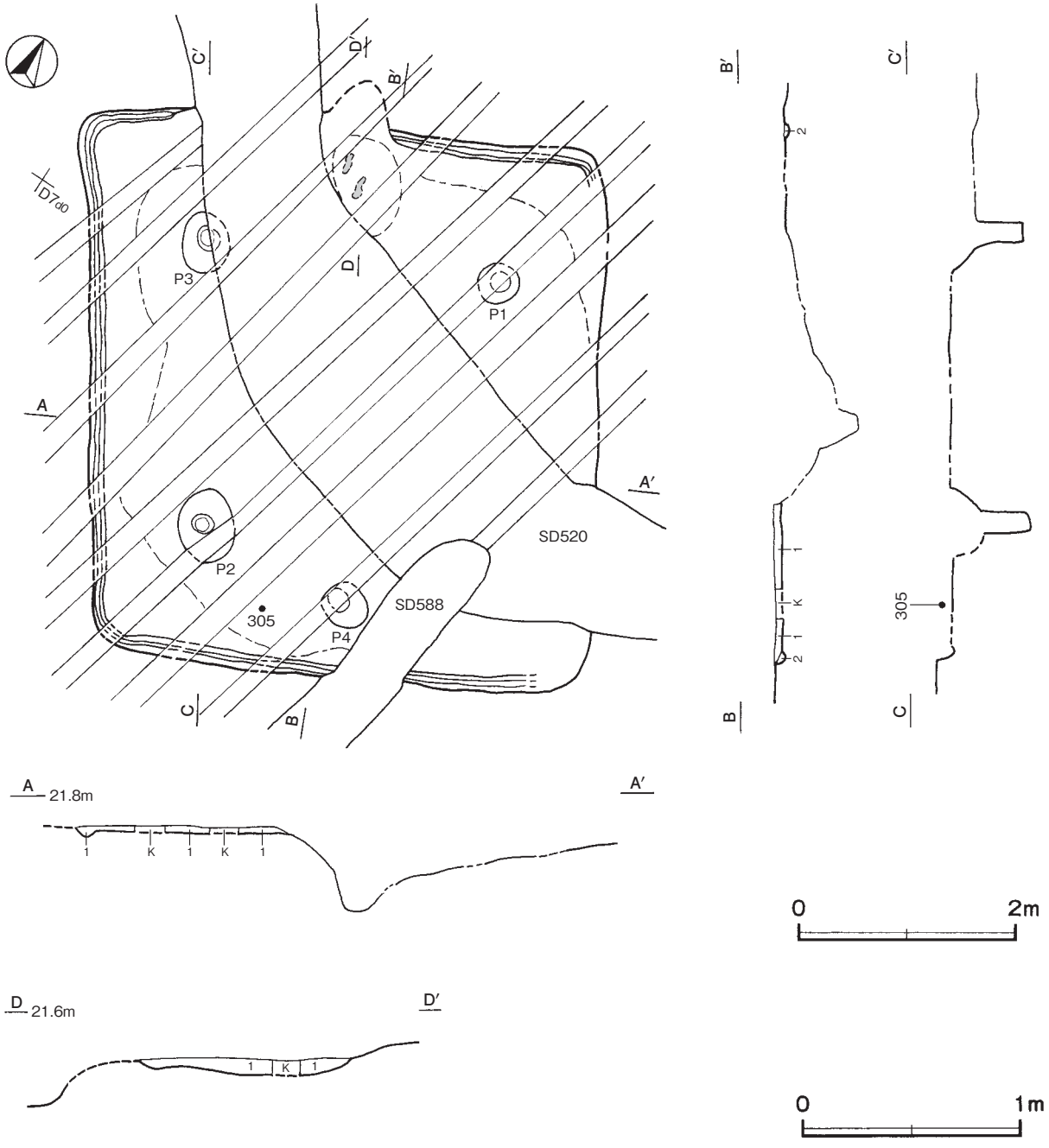
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
303	土師器	坏	［13.4］	（3.3）	－	長石・雲母	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上端ナデ　下端ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	掘方	30%
304	土師器	小形甕	－	（14.5）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後，頸部ナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	20%

第 3164 号竪穴建物跡（第 147・148 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央部のＤ 7 c0 区，標高 21 mほどの台地上に位置している。

重複関係　第 520・588 号溝に掘り込まれている。



第 147 図　第 3164 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　一辺 5.0 mほどの方形で，主軸方向はＮ－ 30 °－Ｗである。壁高は 15cmで，外傾して立ち上がっている。

床　中央部が第 520 号溝に掘り込まれている。遺存している床面は，ほぼ平坦で踏み固められている。東壁下を除いて，幅 12cm，深さ５cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。第 520 号溝に掘り込まれ，大半は失われているため，規模は不明である。火床部の痕跡と煙道部の壁外へ 40cmの掘り込みのみを確認した。

竈土層解説
1　にぶい暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量

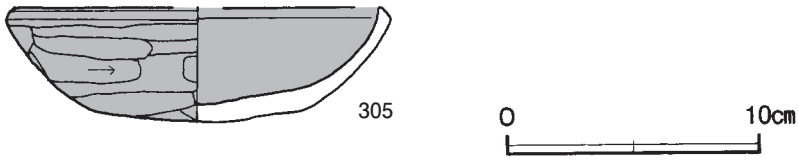
ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 20 ～ 67cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ 50cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量　　2　黄　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片 34 点（坏９，甕 25），須恵器片１点（坏），土製品２点（支脚），鉄製品１点（不明）が出土している。305 は南西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後半に比定できる。



第 148 図　第 3164 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3164 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 148 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
305	土師器	坏	[14.6]	4.4	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	60%

第 3165 号竪穴建物跡（第 149 ～ 151 図）

調査年度　平成 24 年度

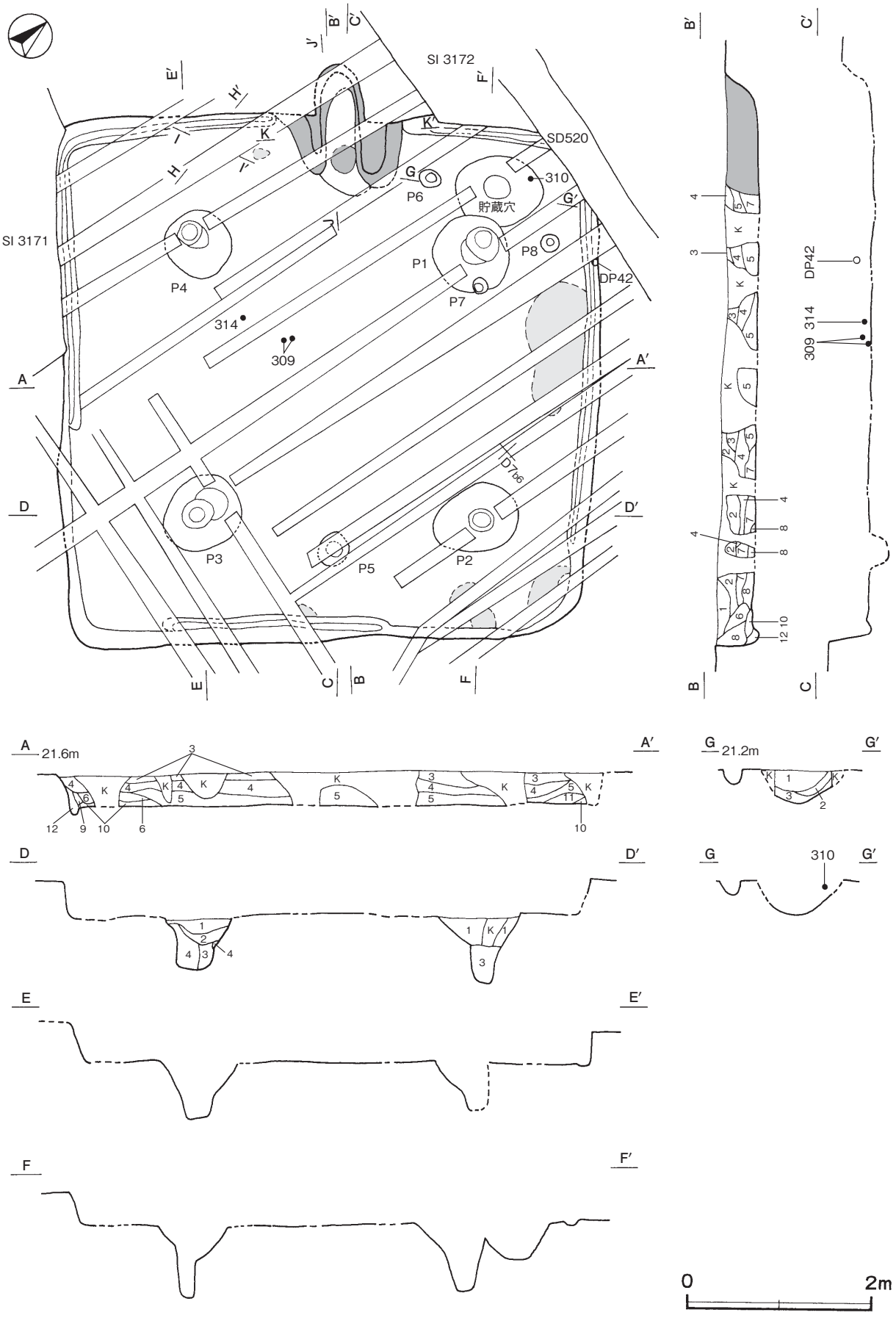
位置　14 区中央部のＤ７b5 区，標高 21 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 3171・3172 号竪穴建物，第 520 号溝に掘り込まれている。

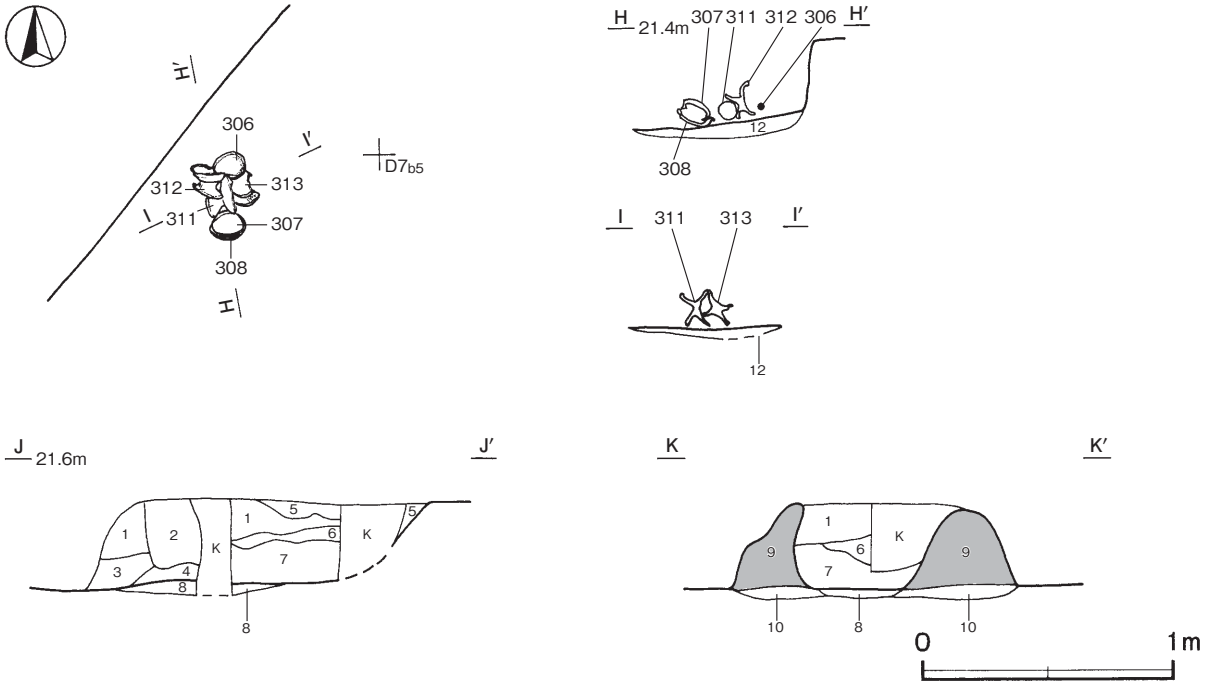
規模と形状　一辺 5.8 mほどの方形で，主軸方向はＮ－ 50 °－Ｗである。壁高は 24 ～ 40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には幅 15 ～ 18cm，深さ５～８cmで，Ｕ字形の壁溝が南コーナー部と東コーナー部を除いて巡っている。東壁際の床面で幅 70cm，長さ 140cmで不整形の焼土範囲，東コーナー部と南壁際中央部の床面で，長径 60cm，短径 30cmで不整楕円形の焼土を確認した。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 144cm，燃焼部幅 34cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに粘土粒子とロームブロックを含むにぶい黄褐色土の第９層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を５cmほど掘りくぼめた部分に，ロームブロックを含んだ第８層を埋土しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，壁外へ 54cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第 149 図　第 3165 号竪穴建物跡実測図（1）



第 150 図　第 3165 号竪穴建物跡実測図（２）

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	
2	灰黄褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	
3	褐　灰　色	白色粘土ブロック・砂質粘土ブロック少量	
4	暗　褐　色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量	
5	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量	
6	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量	
7	明赤褐色	焼土ブロック多量	
8	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	
9	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	
10	黄　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量	

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 62 ～ 72㎝で，配置や規模から主柱穴である。Ｐ５は南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ８は深さ 17 ～ 39㎝で，性格不明で遺構には伴わないものと考えられる。主柱穴は，柱抜き取り痕の状況から，建物の中央に向かって抜き取られている。

柱穴土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック中量	
2	黒　褐　色	ロームブロック少量	
3	暗　褐　色	ロームブロック少量	
4	褐　　色	ロームブロック中量	

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径 88㎝，短径 75㎝の楕円形で，深さは 37㎝である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量	
2	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量	
3	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	

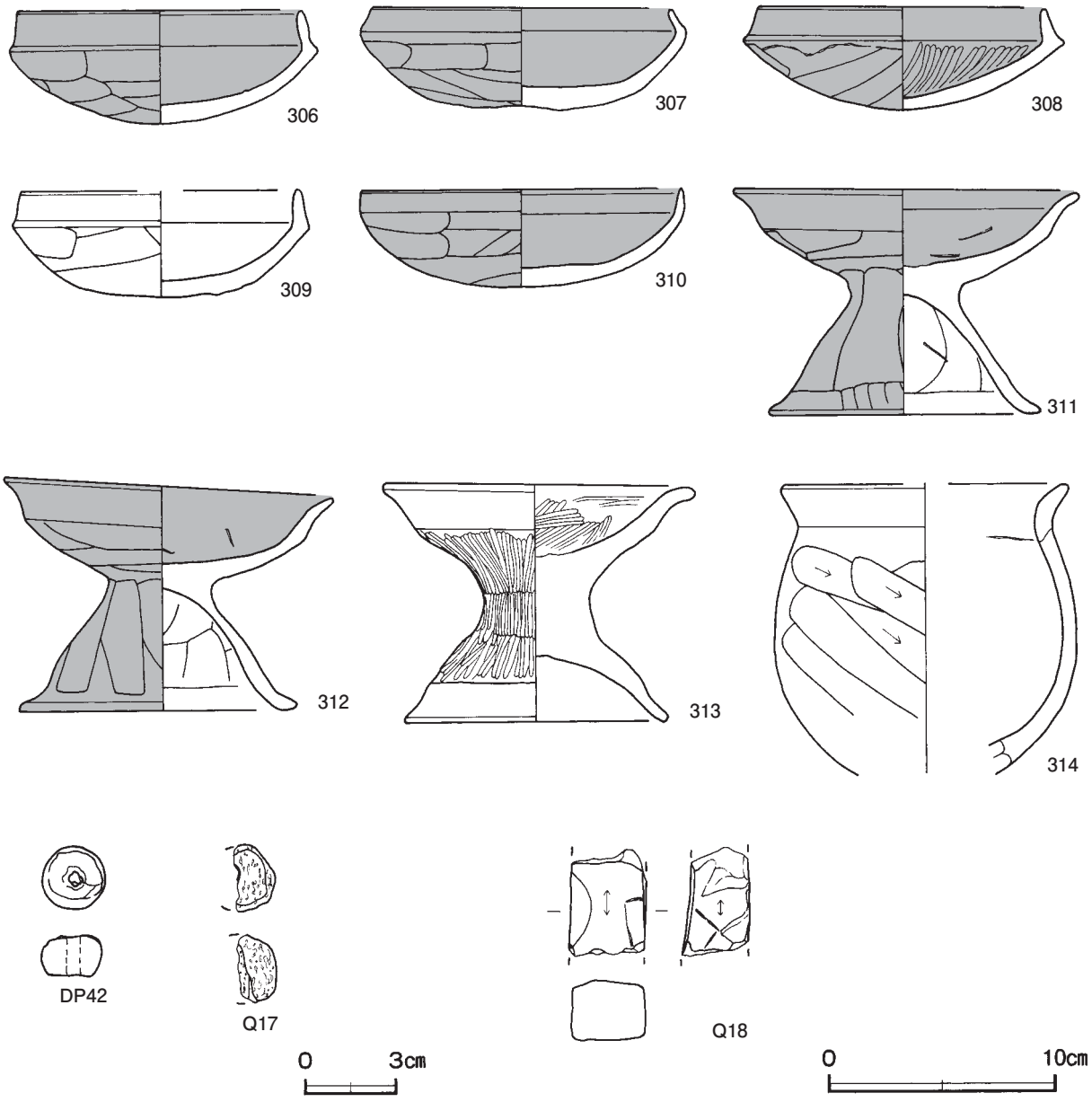
覆土　12 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量	
2	灰黄褐色	ロームブロック少量	
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
4	灰黄褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	
5	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
6	黒　褐　色	ロームブロック中量	
7	褐　灰　色	ロームブロック中量	
8	黒　褐　色	ローム粒子中量	
9	褐　　色	ローム粒子中量	
10	褐　灰　色	ローム粒子中量	
11	暗　褐　色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量	
12	灰黄褐色	ロームブロック中量	

遺物出土状況　土師器片 468 点（坏 98，高台付坏２，高坏３，甕 363，小形甕１，甑１），須恵器片 12 点（坏１，高台付坏１，甕 10），土製品２点（土玉，支脚），石器２点（砥石，軽石），鉄器１点（鎌），鉄滓３点（18.1 ｇ）が，覆土上層から下層にかけて散在して出土している。309 は中央の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。314 は中央部覆土下層，DP42 は西部の，Q17 東部の覆土中層から，310 は貯蔵穴の覆土上層から出土している。306 ～ 308・311 ～ 313 は，竈西側脇の焼土上面から重なって出土している。Q18 は覆土中から出土している，。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。竈西側の北壁から床面にかけて５～ 20㎝の焼土の堆積する範囲を確認した。その上面から重なって出土した土師器の坏３点と土師器の高坏３点は二次焼成を受けていない。本跡の廃絶過程で，何らかの祭祀行為を行った可能性が考えられる。



第 151 図　第 3165 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3165 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 151 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
306	土師器	坏	12.6	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面横ナデ	竈西側焼土上面	98%　PL52
307	土師器	坏	13.2	4.5	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	竈西側焼土上面	90%　PL52
308	土師器	坏	12.8	4.6	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ヘラ磨き	竈西側焼土上面	80%　PL52
309	土師器	坏	[12.4]	4.7	－	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　下端～底部摩滅	床面～覆土下層	70%
310	土師器	坏	14.1	4.3	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　下端～底部摩滅	貯蔵穴覆土上層	60%
311	土師器	高坏	15.0	10.0	11.7	長石・石英	暗赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　脚部外面縦位のヘラ削り　裾部外面横ナデ　内面ヘラ削り	竈西側焼土上面	95%　PL52
312	土師器	高坏	14.6	10.3	11.5	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　裾部外・内面ヘラ削り	竈西側焼土上面	90%　PL52
313	土師器	高坏	13.4	10.6	11.3	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外・内面ヘラ磨き　脚部外面ヘラ磨き　裾部外・内面横ナデ	竈西側焼土上面	80%　PL52
314	土師器	小形甕	[12.4]	(12.8)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り	覆土下層	30%　PL52

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP42	土玉	1.85	1.2	0.4	(4.42)	長石	一方向からの穿孔　ナデ	覆土中層	PL57

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 17	浮子	(2.0)	(2.1)	－	(0.92)	軽石	一方向から穿孔　球状浮きヵ	覆土中層	PL58

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 18	砥石	(4.8)	3.5	2.7	(71.0)	凝灰岩	砥面 2 面	覆土中	

第 3167 号竪穴建物跡（第 152 ～ 154 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央南部のＤ 7 h8 区，標高 21 ｍほどの台地縁辺部に位置している。

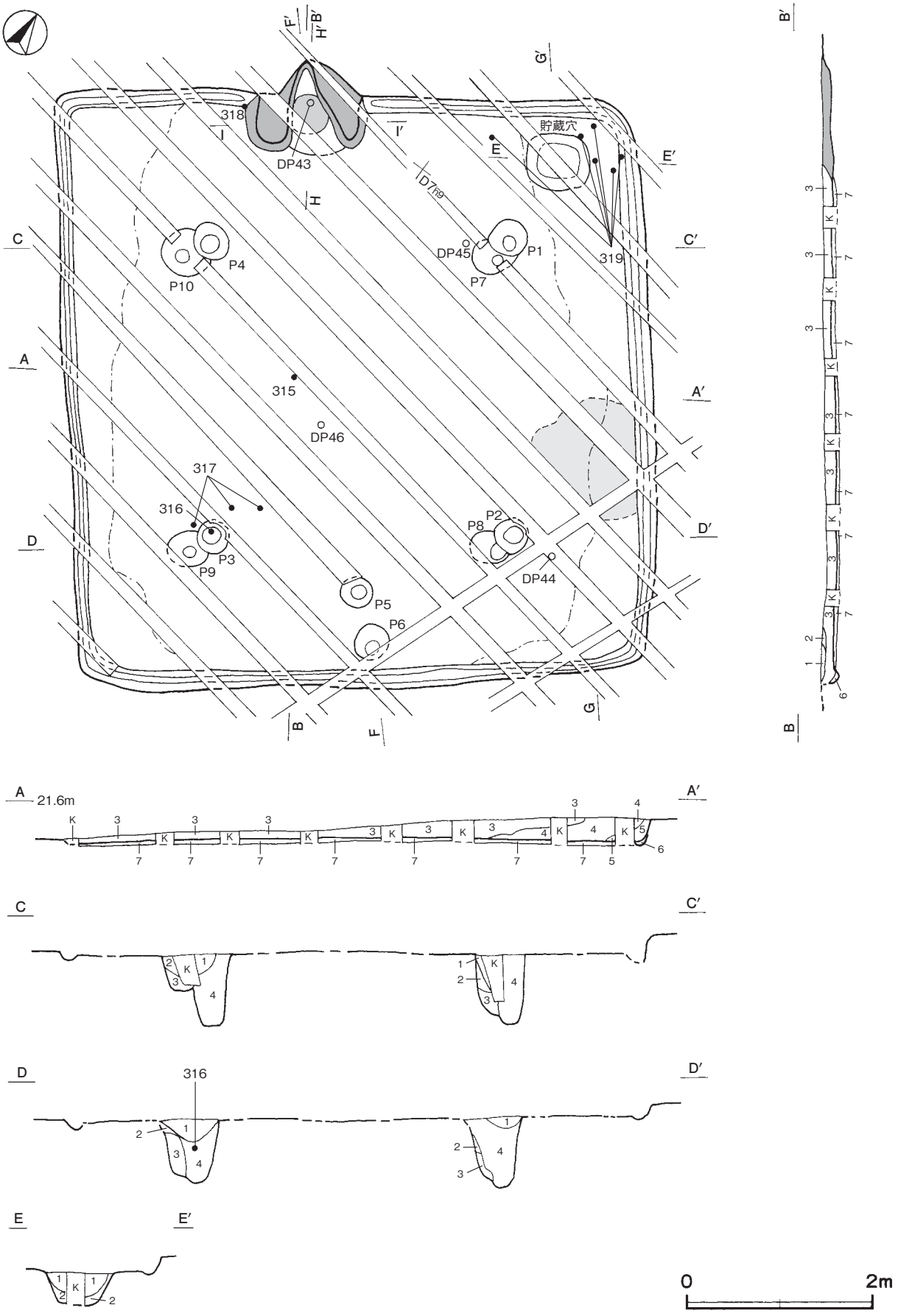
規模と形状　一辺 6.40 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 37 °－Ｗである。壁高は 10 ～ 15cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には幅 12 ～ 18cm，深さ５～８cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。貼床は，確認面から深さ 10 ～ 20cm掘り込み，ロームブロックを主体とした黄褐色土の第７層を埋土し，厚さ４～８cmに踏み固めて構築されている。東壁際中央部の床面で，長径 130cm，短径 100cmの不整楕円形状の焼土範囲を検出した。焼土は床面を 10cmほど掘り込み，焼土と粘土のブロックを埋土している。

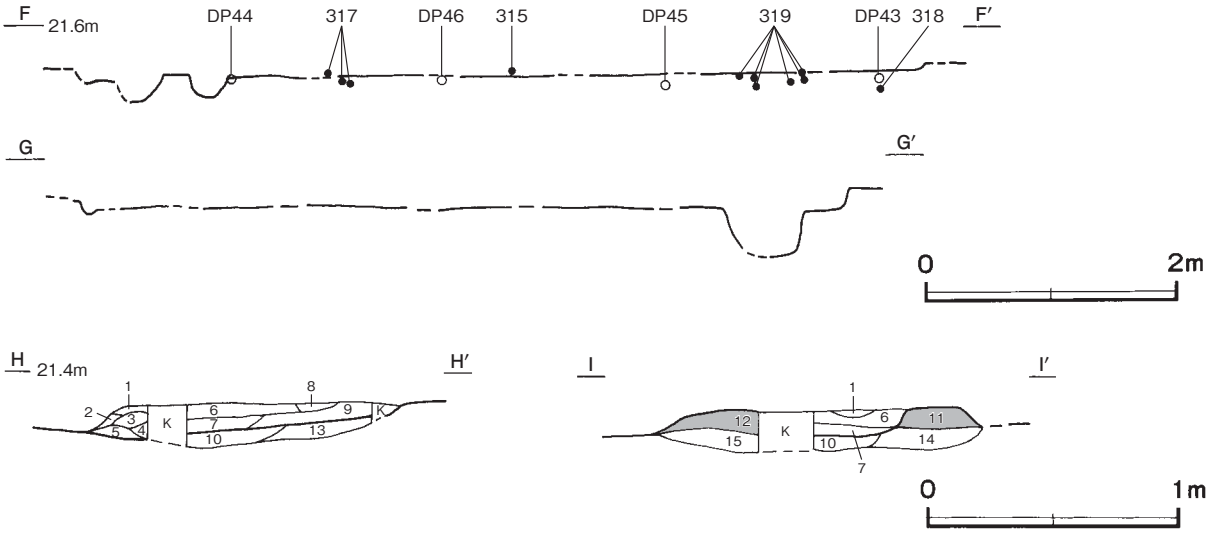
竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 104cmで，燃焼部幅は 35cmである。右袖部は床面を５～８cm掘りくぼめて，左袖は床と同じ高さに，それぞれ粘土粒子とロームブロックを含む灰黄褐色土の第 11・12 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を皿状に６cm掘り込み，第 10 層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。 煙道部は壁外へ 40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　灰 黄 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　にぶい黄褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
5　灰 黄 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
10　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・灰少量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
13　灰 黄 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　灰 黄 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量



第 152 図　第 3167 号竪穴建物跡実測図（1）



第 153 図　第 3167 号竪穴建物跡実測図（２）

ピット　10 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 75 ～ 81cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ７～Ｐ 10 は深さは 38 ～ 72cmで，Ｐ１～Ｐ４に掘り込まれている ことから，Ｐ７からＰ１へ，Ｐ８からＰ２へ，Ｐ９からＰ３へ，P10 からＰ４への柱の立て替えが考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ 19cm･24cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸 70cm，短軸 60cmの隅丸長方形で，深さは 37cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

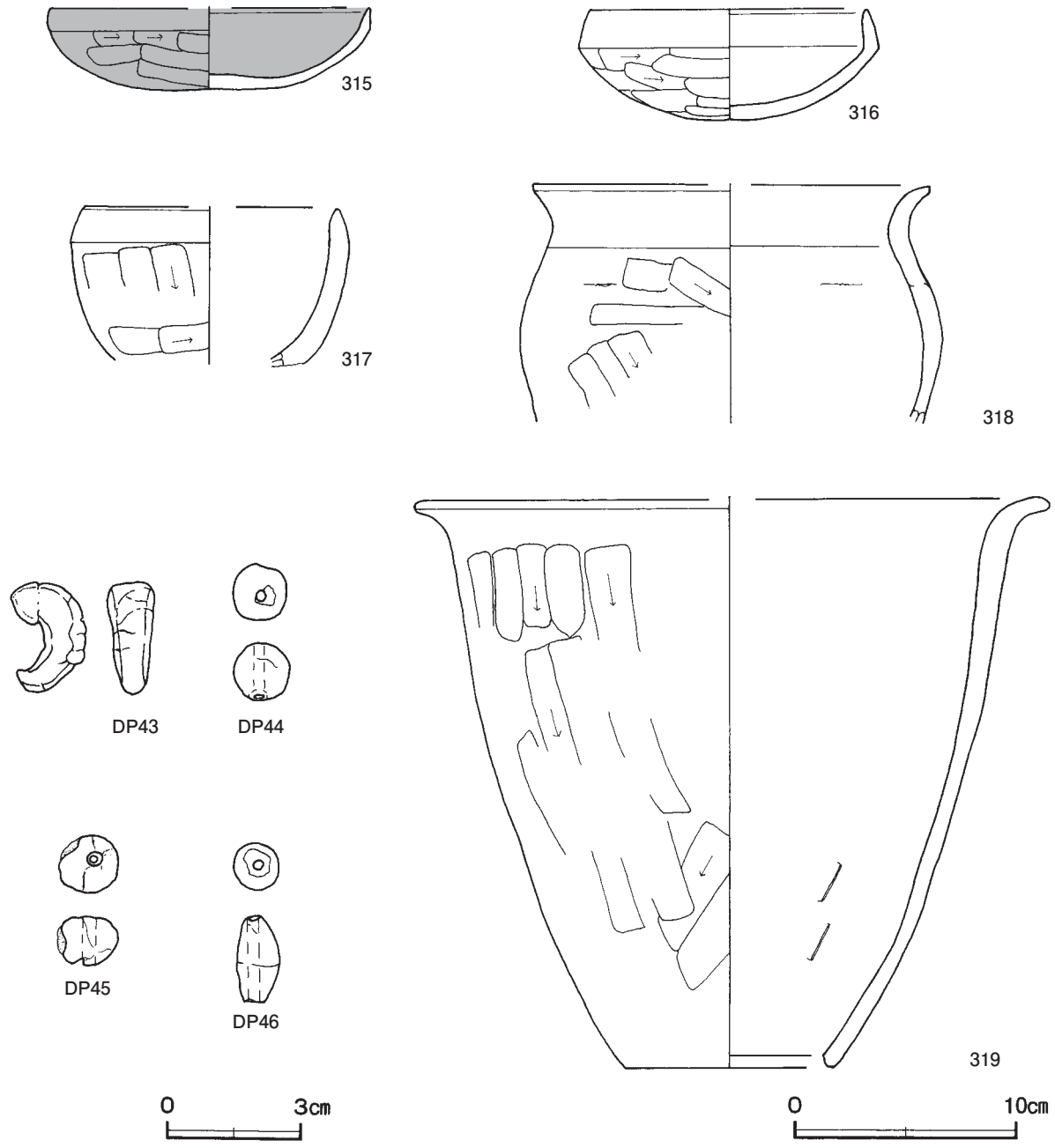
覆土　６層に分層できる。各層にロームブロックや焼土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。第１・２層は投棄された焼土で，第７層は貼床の構築土である。

土層解説

1　明赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　黄　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 340 点（坏 83，椀１，高坏１，甕 252，甑１，手捏土器２），須恵器片３点（甕），土製品５点（勾玉１，土玉２，管状土錘１，支脚１）のほか，縄文土器片１点と石器１点（剥片）が北コーナー部の覆土上層から中央部の覆土下層にかけて出土している。竈に据え付けられていた土製支脚は，被熱し傷みが激しいため図示できない。 DP43 は竈の火床部から，316 はＰ３の覆土中層から正位の状態で出土している。318 は竈西側の壁溝から，315 は中央部，317･DP44 は南東部の覆土下層から，DP45 は北東部の床面から，DP46 は中央部の床面からそれぞれ出土している。319 は北東コーナー部の覆土下層から横位で出土し，貯蔵穴脇から出土した破片と接合したものである。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。東壁寄りの床面で確認した焼土の硬化面は，貼床を壊して貼られていることや粘土や焼土ブロックを多く含んでいることから，湿気防止と想定される。



第 154 図　第 3167 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3167 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 154 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
315	土師器	坏	［14.4］	3.7	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	20%
316	土師器	坏	12.6	5.0	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	Ｐ３覆土中層	50%
317	土師器	椀	［11.4］	（7.1）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　下端横位のヘラ削り	覆土下層	30%
318	土師器	甕	［17.8］	（10.7）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆壁溝	20%
319	土師器	甑	［28.0］	25.8	9.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	60%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP43	勾玉	2.5	1.7	－	（3.02）	長石・石英	穿孔なし　背にひび割れ	竈火床部	PL57

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP44	土玉	1.25	1.3	0.2	2.51	長石・石英	一方向からの穿孔　ナデ	覆土下層	PL57
DP45	土玉	1.35	(1.1)	0.3	(1.58)	長石	一方向からの穿孔　ナデ　下部欠損	床面	PL57

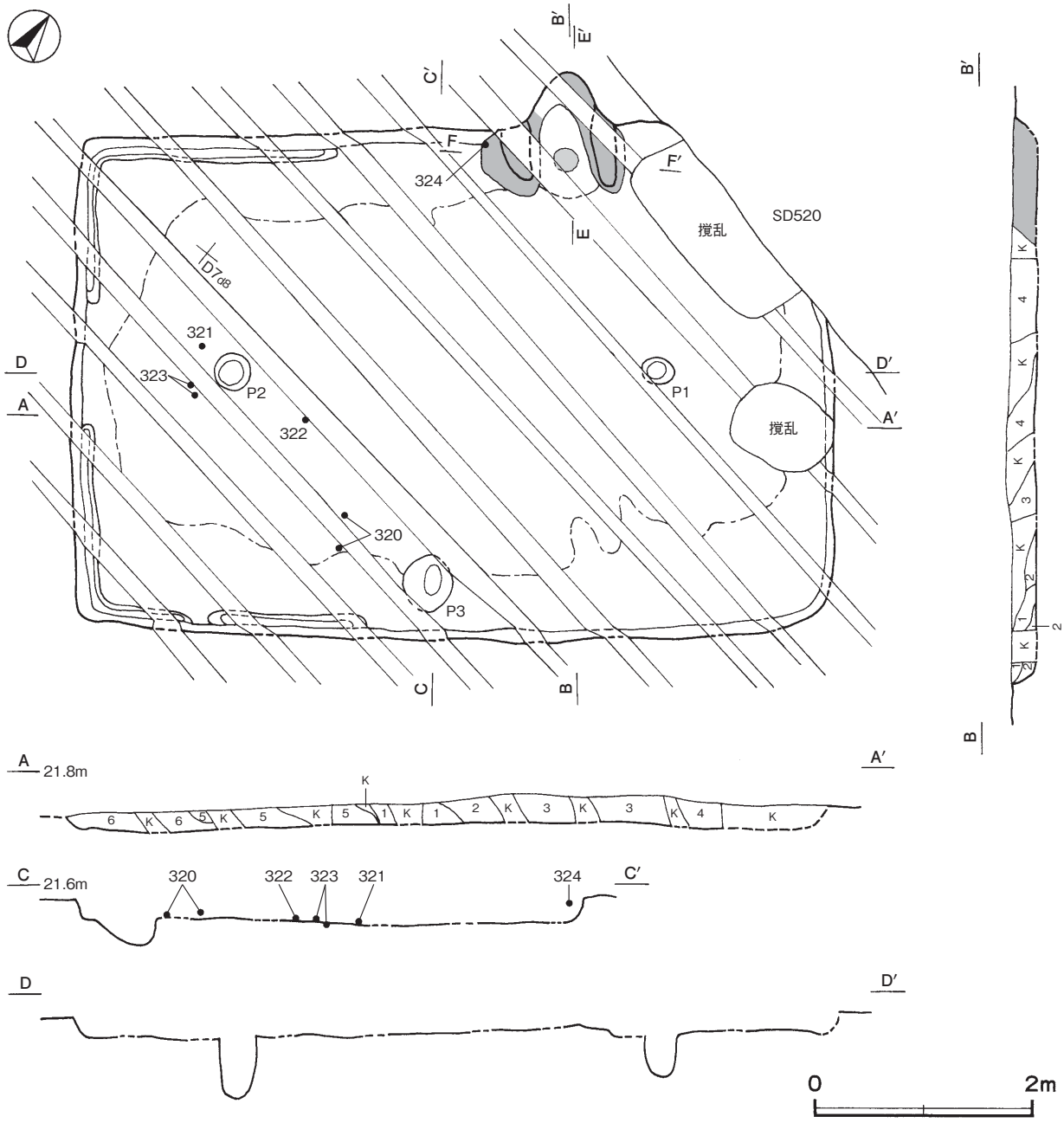
番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP46	棗玉	2.0	1.0	0.2	1.93	長石・雲母	一方向からの穿孔　ナデ　胴部が張る管状	床面	PL57

第 3169 号竪穴建物跡（第 155 ～ 157 図）

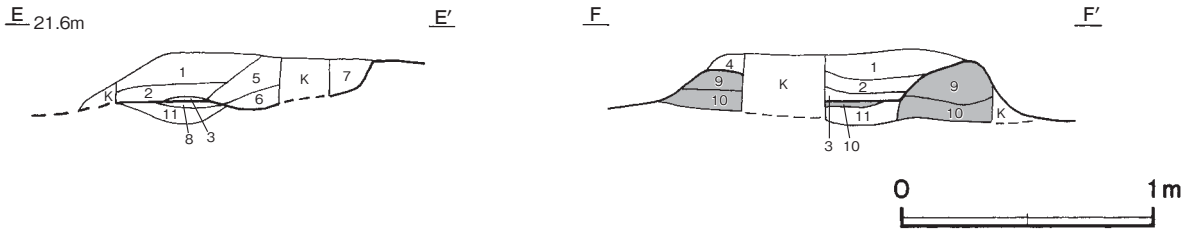
調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央部のＤ 7 c8 区，標高 21 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 520 号溝に掘り込まれている。



第 155 図　第 3169 号竪穴建物跡実測図（１）



第 156 図　第 3169 号竪穴建物跡実測図（２）

規模と形状　長軸 7.04 m，短軸 4.64 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 29 °－Ｗである。壁高は 18 ～ 21cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。西コーナー部から南コーナー部にかけての壁下には，幅 15cm，深さ５cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 118cm，燃焼部幅は 44cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに粘土粒子とロームブロックを含む灰褐色土の第９・10 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を 10cmほど皿状に掘り込み，ロームブロックを含んだ第 11 層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，壁外へ 52cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
5　灰 黄 褐 色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
9　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　赤　褐　色　焼土ブロック多量
11　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は，深さ 40cm・54cmで主柱穴と考えられる。Ｐ３は深さ 22cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　６層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

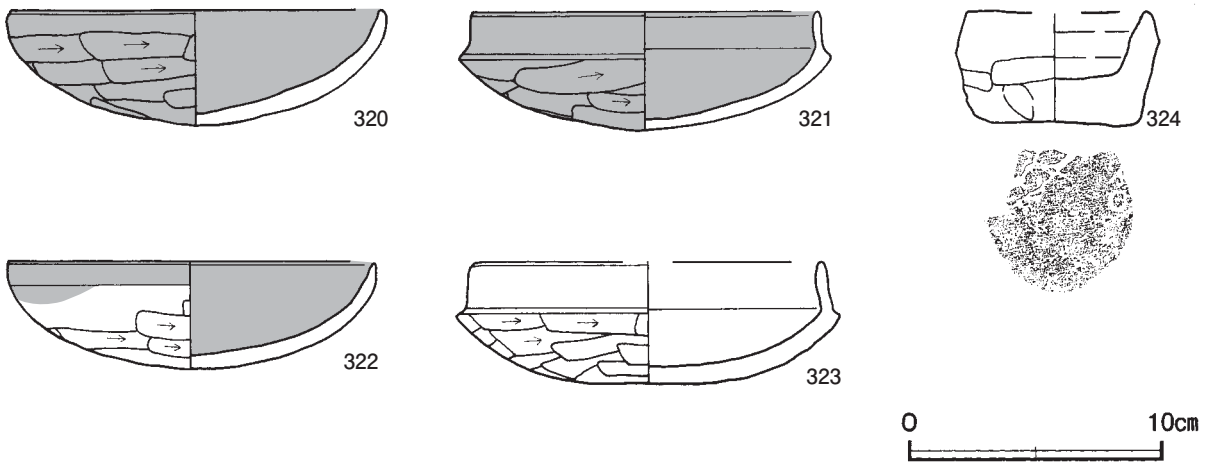
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
6　にぶい黄褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 383 点（坏 103，高坏１，甕 275，小形甕１，甑２，手捏土器１），須恵器片３点（甕），土製品２点（土玉，支脚），鉄製品２点（釘），鉄滓２点（35.4 ｇ）が，中央部の覆土上層から中層にかけて出土している。撹乱により細片が多い。320 は南部，321 ～ 323 は西部の覆土下層から出土している。324 は竈北東部と覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。

第 3169 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 157 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
320	土師器	坏	14.9	4.5	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	90%　PL50
321	土師器	坏	13.6	4.7	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	80%
322	土師器	坏	14.5	4.2	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	60%
323	土師器	坏	［14.0］	4.8	－	長石	橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	60%
324	土師器	手捏土器	［7.2］	4.5	5.7	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面指頭痕　内面ナデ	竈北東部覆土中層	60%　PL50



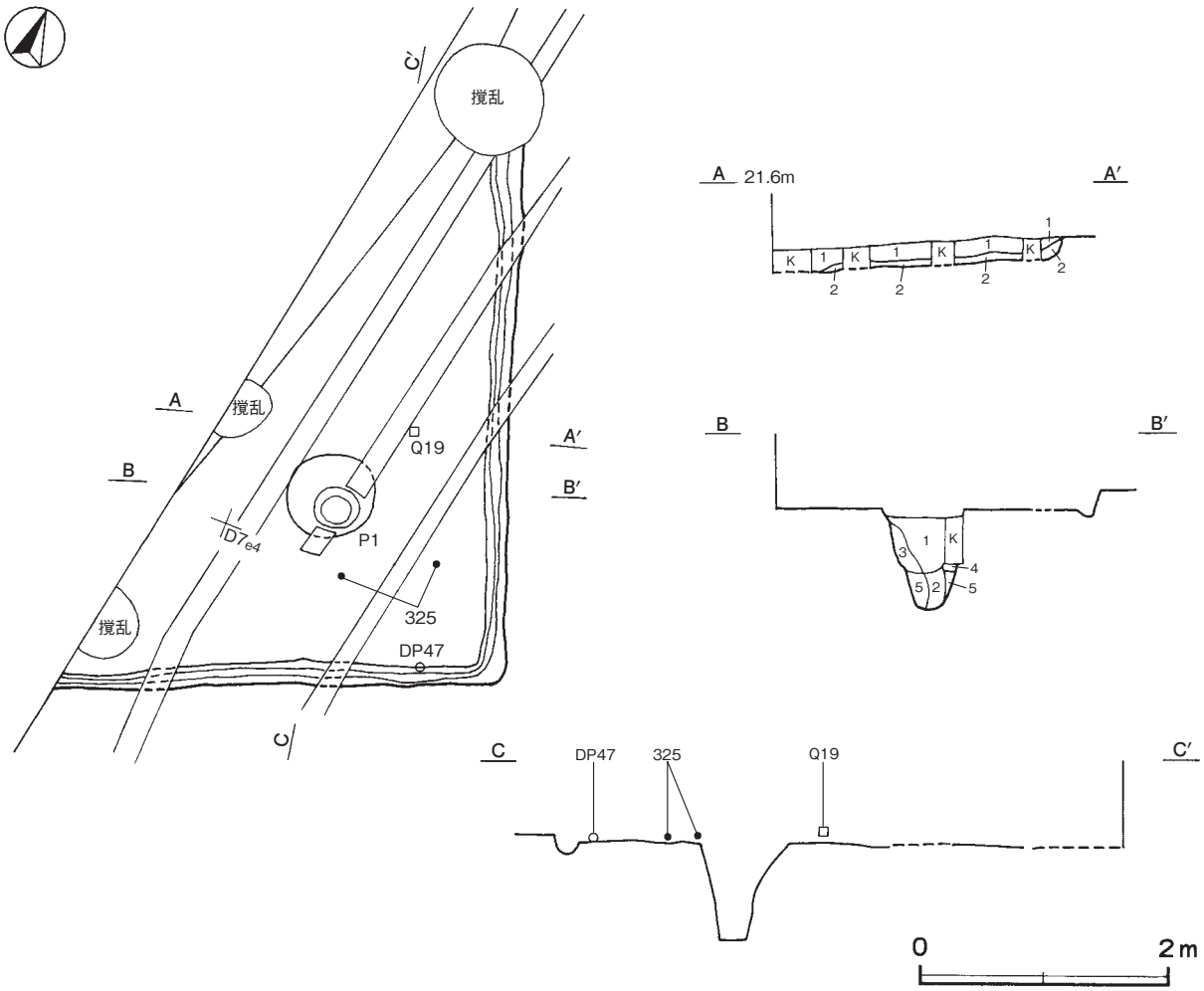
第 157 図　第 3169 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3170 号竪穴建物跡（第 158･159 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央部のＤ 7 d4 区，標高 21 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　西半分が調査区域外へ延びているため，南北軸は 4.88 mで，東西軸は 2.35 mしか確認できなかっ



第 158 図　第 3170 号竪穴建物跡実測図

た。平面形は方形あるいは長方形と推定でき，南北方向はＮ－ 20 °－Ｗである。壁高は 18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には幅 12cm，深さ５cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。

ピット　Ｐ１は深さ 73cmで，位置から主柱穴と考えられる。第１・２層は，柱抜き取り痕の堆積土で，第３～５層は，掘方への埋土である。

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
5　明　褐　色　ロームブロック中量

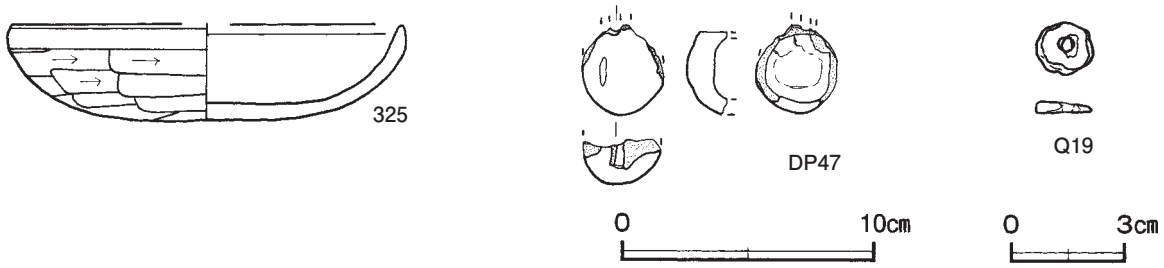
覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片 128 点（坏 22, 高坏１, 甕 104, 甑１），須恵器片４点（甕），土製品２点（土鈴，支脚），石製品１点（臼玉），鉄製品１点（不明）が出土している。325 は南部の床面と覆土中層から出土した破片が接合したものである。DP47 は南壁際の床面から出土している。Q 19 は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後半に比定できる。



第 159 図　第 3170 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3170 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 159 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
325	土師器	坏	[15.6]	3.8	－	長石・石英	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面，覆土中層	30%

番号	器　種	口径	器高	底径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP47	土鈴	(3.6)	3.2	(1.7)	(16.1)	長石・石英・雲母	外・内面ナデ　孔有	床面	PL57

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 19	臼玉	1.4 ～ 1.5	0.3	0.3 ～ 0.4	0.92	滑石	一方向からの穿孔　両面研磨	覆土下層	PL58

表 19　古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模	壁　高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	（cm）			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2423	D8b4	Ｎ－ 33°－Ｗ	方形	6.40 × 6.30	45 ～ 56	平坦	全周	4	2	－	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石製品	６世紀中～後葉	本跡→ SI3074，SB427
2426	D7f0	Ｎ－ 31°－Ｗ	方形	5.11 × 4.75	15 ～ 28	平坦	東壁を除いて	4	2	－	竈１	1	人為	土師器片，土製品	６世紀後葉	
3037	B8c6	Ｎ－ 96°－Ｗ	方形	2.84 × 2.78	15	平坦	－	－	－	－	竈１	－	人為	土師器片，土製品，鉄器	７世紀前葉	
3055	B7c9	Ｎ－ 25°－Ｗ	方形	4.62 × 4.58	45 ～ 53	平坦	ほぼ全周	4	2	－	竈１	1	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器	６世紀後葉	本跡→ SK6700･6701

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
3057	B8g2	N－18°－W	長方形	5.80 × 3.45	25～34	平坦	全周	－	1	－	竈1	－	人為	土師器片,土製品,石製品,鉄製品,炭化材,ガラス製品	7世紀前葉	本跡→SK582,SK7324
3061	B8g4	N－4°－W	方形	5.42 × 5.35	28～34	平坦	全周	4	2	－	竈1	－	人為	土師器片,須恵器片,鉄製品	7世紀前葉	
3066	C8c2	N－33°－W	方形	4.63 × 4.61	40～43	平坦	全周	4	2	3	竈1	1	人為	土師器片,須恵器片,土製品,石器,石製品,鉄器,鉄製品	6世紀中葉	
3068	C7e9	N－28°－W	長方形	8.40 × 8.04	52～66	平坦	全周	6	2	11	竈1	1	人為	土師器片,須恵器片,土製品,石製品,鉄製品,鉄滓,炭化材	6世紀中葉	
3075	D8e1	N－26°－W	長方形	5.16 × 3.40	5～25	平坦	東側～南西	－	2	3	竈1	1	人為	土師器片,須恵器片,土製品	6世紀後葉	本跡→SD588
3160	B7j6	N－3°－W	長方形	3.26 × 2.50	45～50	平坦	全周	－	1	－	竈2	－	人為	土師器片,須恵器片,鉄製品	7世紀前葉	
3164	D7c0	N－30°－W	方形	5.00 × 4.70	15	平坦	東壁を除いて	3	1	－	[竈1]	－	人為	土師器片,須恵器片,土製品,鉄製品	6世紀後葉	本跡→SD520・588
3165	D7b5	N－50°－W	方形	5.84 × 5.72	24～40	平坦	半周	4	1	3	竈1	1	人為	土師器片,須恵器片,土製品,石器,鉄器,鉄滓	6世紀後葉	本跡→SI3171・3172,SD520
3167	D7h8	N－37°－W	方形	6.40 × 6.37	10～15	平坦	全周	8	2	－	竈1	1	人為	土師器片,須恵器片,土製品	6世紀後葉	
3169	D7c8	N－29°－W	長方形	7.04 × 4.64	18～21	平坦	半周	2	1	－	竈1	－	人為	土師器片,須恵器片,土製品,鉄製品,鉄滓	6世紀後葉	本跡→SD520
3170	D7d4	N－20°－W	[方形・長方形]	(4.88)×(2.35)	18	平坦	半周	1	－	－	－	－	人為	土師器片,須恵器片,土製品,石製品,鉄製品	6世紀後葉	

(2) 土坑

第6765号土坑(第160図)

調査年度 平成21年度

位置 14区中央部のC 7c8区，標高21 mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.20 m，短径1.0 mの楕円形で，長径方向はN－72°－Eである。深さは15cmで，底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

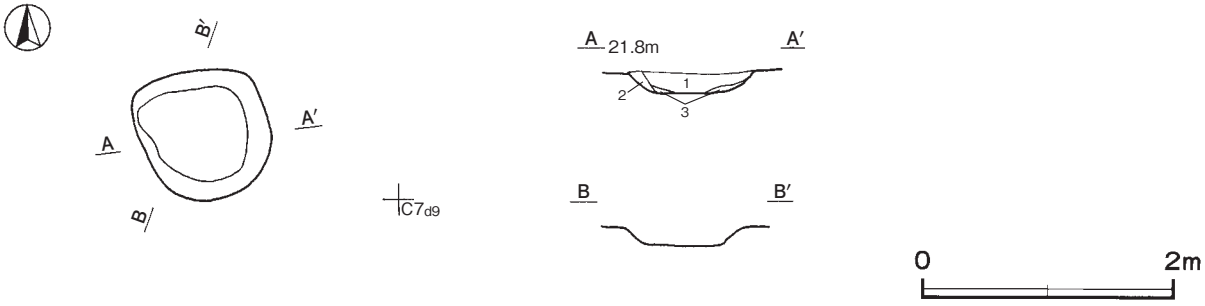
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
3 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点（甕）が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は，出土土器から古墳時代と推定できる。性格は不明である。



第160図 第6765号土坑実測図

第7321号土坑(第161図)

調査年度 平成24年度

位置 14区北部のB 7g4区，標高21 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第66号ピット群を掘り込み，第7320号土坑に掘り込まれている。

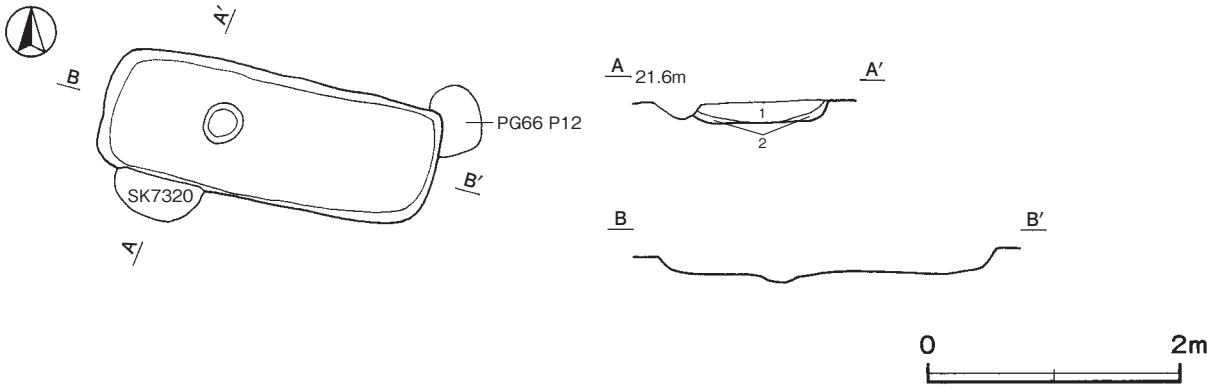
規模と形状　長軸 2.71m，短軸 1.00m の長方形 で，長軸方向はＮ－ 87 °－Ｗである。深さは 12 ～ 17㎝で，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
１　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　２　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器 13 点（甕），須恵器片５点（坏２，甕３）が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から古墳時代と推定できる。性格は不明である



第 161 図　第 7321 号土坑実測図

第 7330 号土坑（第 162 図）

調査年度　平成 24 年度

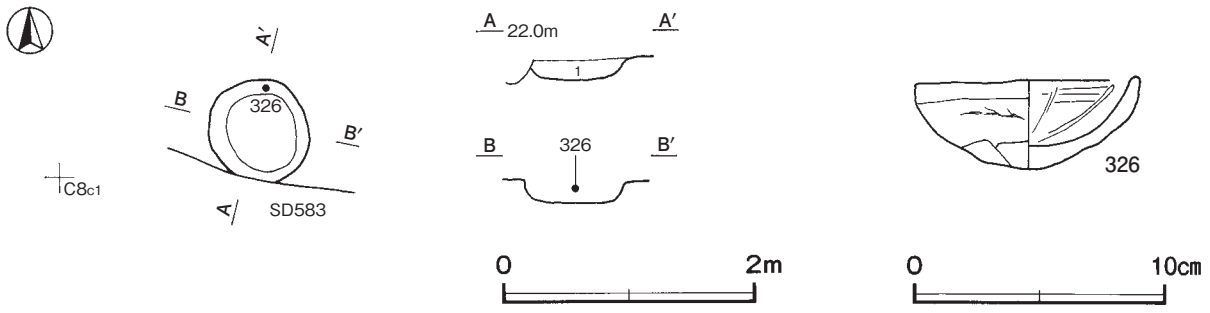
位置　14 区中央部のＣ８b1 区，標高 21 mほどの台地上に位置している。

重複関係　第 583 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長径 0.84m，短径 0.74m の楕円形 で，長径方向はＮ－ 30 °－Ｗである。深さは 15㎝で，底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
１　褐　　色　ロームブロック少量



第 162 図　第 7330 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片２点（手捏土器，甕）が出土している。326 は北側の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀代と考えられる。性格は不明である。

第 7330 号土坑出土遺物観察表（第 162 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
326	土師器	手捏土器	8.8	3.8	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外面横ナデ　下端手持ちのヘラ削り　内面工具痕を残すナデ	覆土上層	50%　PL50

表 20　古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
6765	C7c8	N－72°－E	楕円形	1.20 × 1.00	15	平坦	緩斜	人為	土師器片	
7321	B7g4	N－87°－W	隅丸長方形	2.71 × 1.00	17	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	PG66 →本跡 → SK7320
7330	C8b1	N－30°－W	楕円形	0.84 × 0.74	15	平坦	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SD583

３　奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴建物跡３棟を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第 3069 号竪穴建物跡（第 163・164 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区中央部のＣ８f2 区，標高 22 ｍほどの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.47 ｍ，短軸 3.16 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 79°－ Ｅである。壁高は 30 ～ 34㎝で，直立している。

床　耕作のトレンチャーによって，床面まで削平されているが平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅 12 ～ 14㎝，深さ６～８㎝で，Ｕ字形の壁溝が南東コーナーを除いて巡っている。

竈　東壁のやや南寄りに付設さている。規模は，焚口部から煙道部まで 84㎝で，燃焼部幅 50㎝である。袖部は，地山を削り残し，粘土粒子とロームブロックを主体とした第７～ 11 層を積み上げて構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ 17㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
3　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
10　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム・焼土ブロック少量，炭化物微量
11　灰　褐　色　粘土粒子・ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量
12　暗 赤 褐 色　粘土粒子・ロームブロック中量，焼土・炭化粒子少量

ピット　Ｐ１は深さ 10㎝で，竈に対する位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

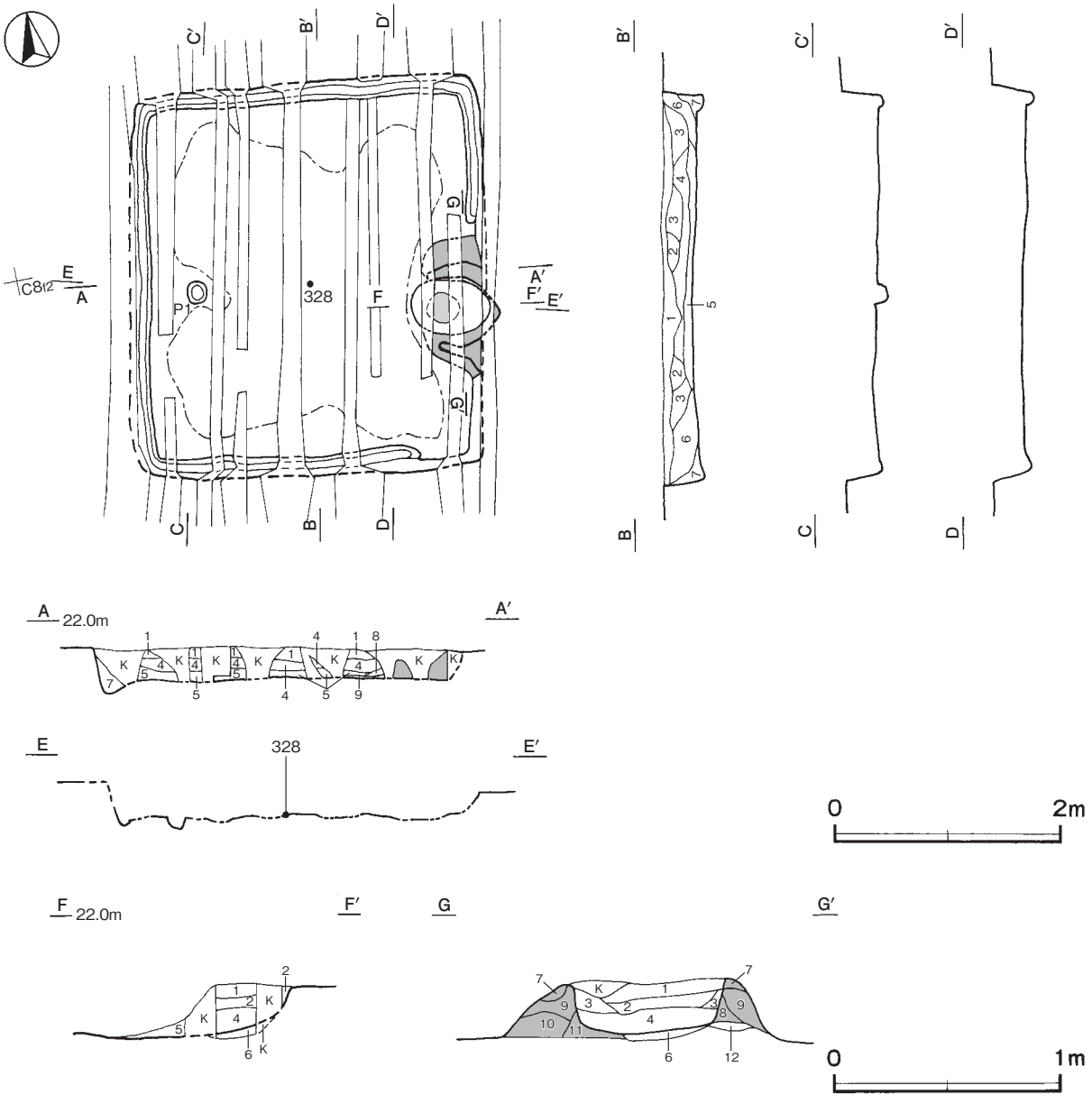
覆土　9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

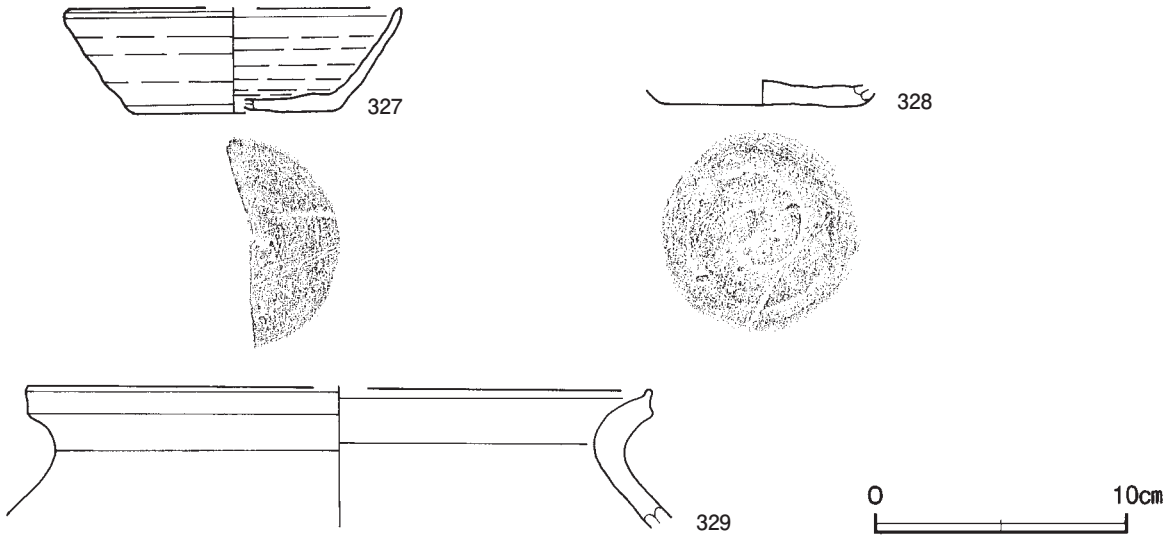
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
9　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片 73 点（坏 16，甕 57），須恵器片 9 点（坏８，高坏１），石器３点（剥片１，砥石２），鉄器１点(鎌)が出土している。328 は中央部の床面，329 は竈の覆土中，327 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



第 163 図　第 3069 号竪穴建物跡実測図



第 3069 号竪穴建物跡出土遺物実測図（第 164 図）

第 3069 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 164 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
327	須恵器	坏	[13.2]	4.1	[8.2]	長石・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	40%
328	須恵器	坏	－	(0.9)	7.9	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	床面	30%
329	土師器	甕	[25.0]	(5.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	竈覆土中	10%

第 3071 号竪穴建物跡（第 165 ～ 167 図）

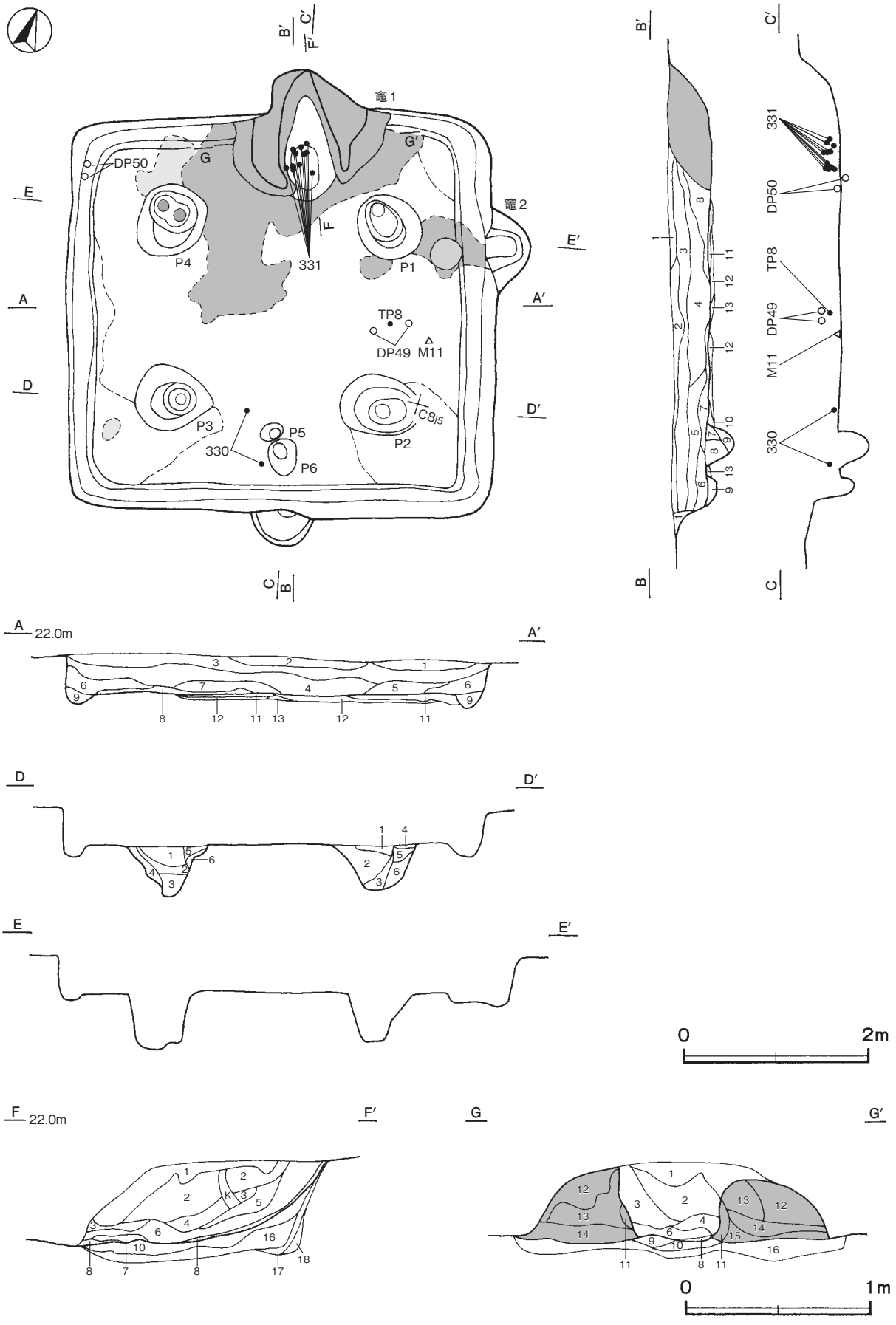
調査年度　平成 21 年度

位置　14 区中央部のＣ 8i4 区，標高 22 ｍの台地上の平坦部に位置している。

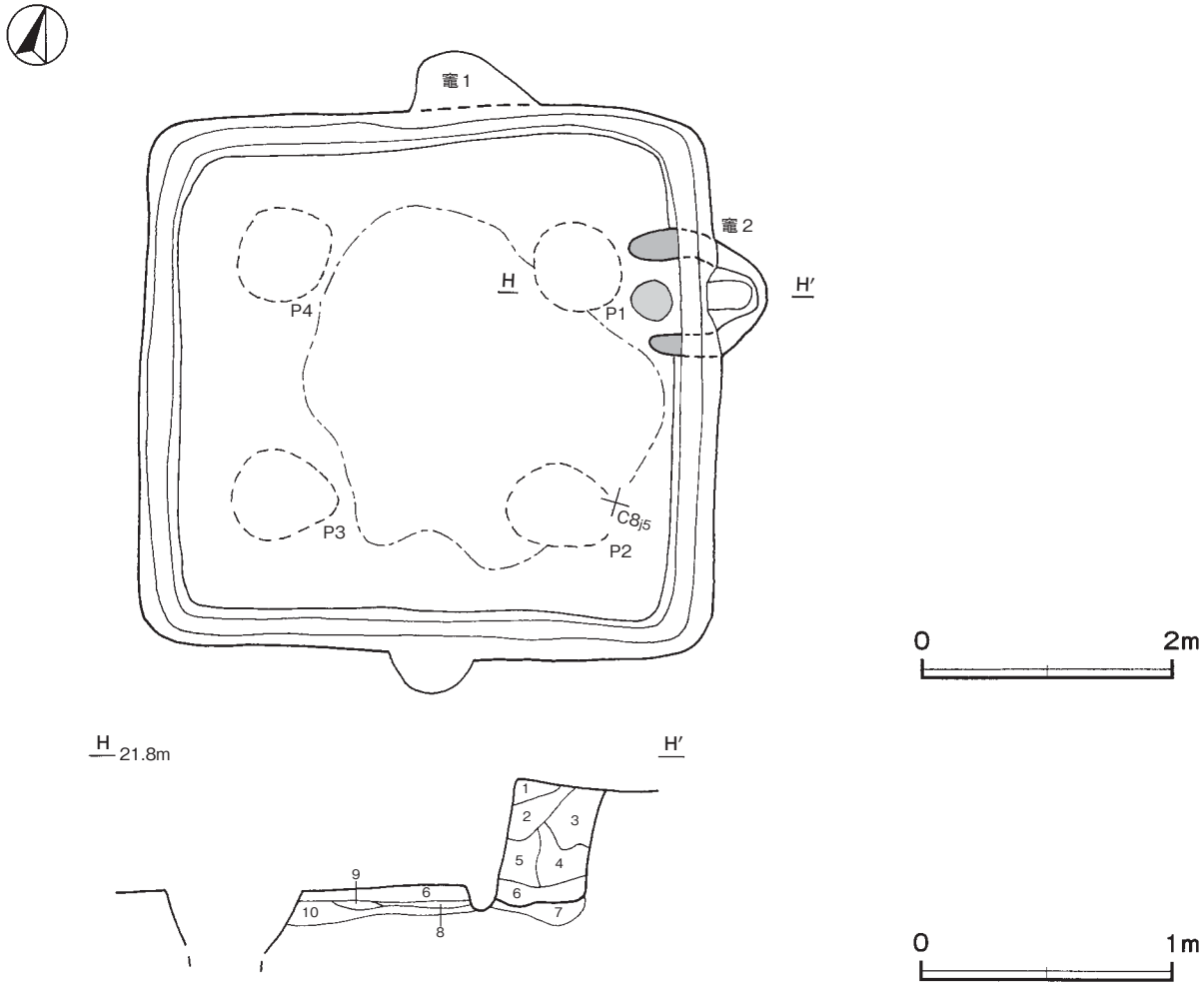
規模と形状　長軸 4.68 ｍ，短軸 4.22 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 14 °－Ｗである。壁高は 18 ～ 40㎝で，直立している。南壁中央部の壁外に，半球状に突出したスロープを確認した。径は 33㎝，南壁際の深さは 10㎝で，南端から南壁に向け 15° 傾斜している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から 44 ～ 50㎝掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土を６～ 10㎝埋土して構築されている。壁下には幅 20 ～ 25㎝，深さ８～ 14㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。竈１前の床面から南西部の床面で，長さ 2.6 ｍ，幅２ｍ，厚さ 20 ～ 25㎝で不定形の焼土粒子を含む粘土ブロックの塊を確認した。東壁部の床面から，長さ１ｍ，幅 70㎝，厚さ 15 ～ 20㎝の不整楕円形の焼土粒子を含む粘土ブロックの塊を確認した。いずれも竈材の流出したものと考えられる。

竈　２か所。竈１は北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 142㎝，燃焼部幅は 62㎝である。全体を床面から 12㎝皿状に掘りくぼめた部分に第 16 ～ 18 層を埋土し，奥壁部までの素地としている。袖部は，床面とほぼ同じ高さに粘土やロームブロックを含む第 11 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 20㎝皿状に掘り込み，第９・10 層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受け赤変硬化している。袖部内面の第 11 層も強く赤変硬化している。煙道部は壁外へ 54㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈２は東壁外に掘り込まれた煙道部を確認した。袖部及び火床部の痕跡が，貼床を剥がした位置で確認した。規模は，燃焼部幅は 50㎝で，焚口部から煙道部まで 80㎝である。煙道部は，壁外へ 32㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈２は痕跡のみであり，袖部にあたる位置に壁溝が掘られ



第 165 図　第 3071 号竪穴建物跡実測図（1）



第 166 図　第 3071 号竪穴建物跡実測図（２）

ている状況から，竈２から竈１へつくり替えられたと考えられる。

竈１土層解説

1	黒　褐　色	粘土ブロック・炭化粒子少量
2	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
3	にぶい黄褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子少量
4	赤　　色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
5	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
6	極暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土粒子少量
7	にぶい赤褐色	灰中量，焼土ブロック少量
8	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，炭化粒子少量
9	灰　褐　色	焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
10	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，粘土ブロック少量，炭化物微量
11	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
12	にぶい黄褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子少量
13	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
14	黒　褐　色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
15	褐　　色	ロームブロック少量
16	暗　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
17	暗 赤 褐 色	焼土粒子少量
18	暗 赤 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量

竈２土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，炭化物・粘土粒子微量
5	暗　褐　色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
6	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・粘土ブロック少量・炭化粒子微量
8	暗　褐　色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量
9	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
10	黒　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 47 ～ 58cmで，主柱穴である。Ｐ４の底部で，柱の当たりとみられる痕跡を２か所確認したことから，柱の立て替えがあったと想定できる。Ｐ５・Ｐ６は深さ 28cm・35cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

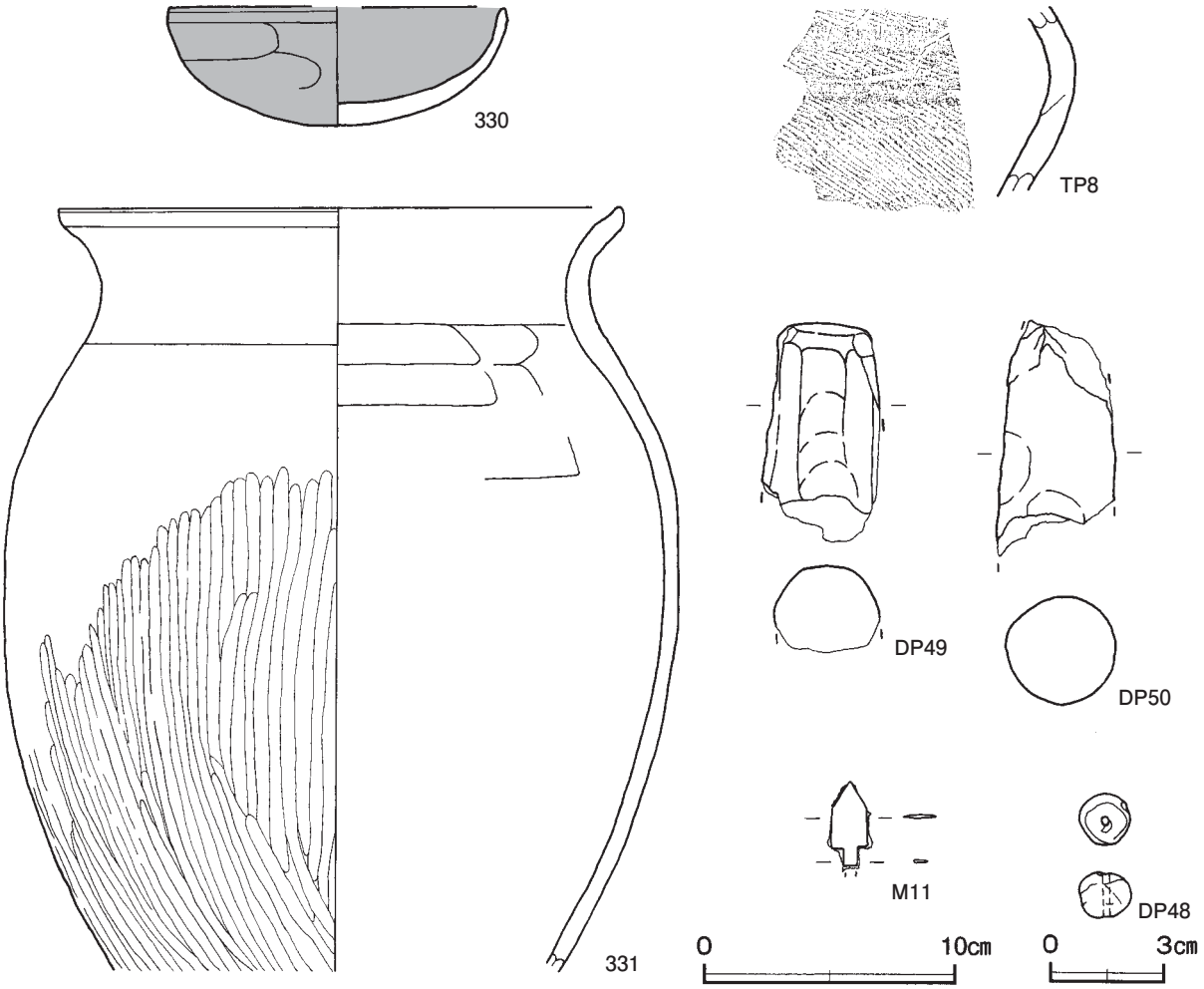
1　黒　褐　色　ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ローム粒子多量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子微量

覆土　13層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第10～13層は，貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック多量
13　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片501点（坏156，甕344，甑1），須恵器片5点（長頸瓶2，甕3），土製品3点（土玉1，支脚2），鉄器2点（鏃，鎌），鉄滓1点（45.6 g）が，北部の覆土上層から中央部の覆土下層にかけて散在した状態で出土している。331は竈の第3層の上面から横位で出土している。M11は東部の床面，TP 8 は東部の覆土下層，330は南部の覆土下層，DP50は北西コーナー部の壁溝，331は竈覆土中層，DP49は東部の覆土中層，DP48は覆土中からそれぞれ出土している。



第167図　第3071号竪穴建物跡出土遺物実測図

所見　遺物は出土状況から，建物の廃絶後に北側から投棄されたと考えられる。時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。

第 3071 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 167 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
330	土師器	坏	[13.5]	4.8	－	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ	覆土下層	60%
331	土師器	甕	22.4	(30.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈覆土中層	70%　PL52

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 8	須恵器	甕	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	外面タタキ目　内面横ナデ	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP48	土玉	1.4	1.2	0.2	2.33	長石	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL57

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP49	支脚	3.3	(4.2)	(8.5)	(206.3)	長石・石英	外面ナデ　指頭痕　下部欠損	覆土中層	
DP50	支脚	4.2	(4.7)	(9.4)	(133.5)	長石	ナデ　下部欠損	壁溝内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	鏃	(3.5)	0.6 ～ 1.8	0.1	(2.22)	鉄	鏃身部三角形　茎部欠損	床面	PL59

第 3166 号竪穴建物跡（第 168・169 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央部のＤ７f8 区，標高 21 ｍの台地の平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.16 ｍ，短軸 2.98 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 105 °－Ｅである。壁高は４～７㎝で，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部から南部が踏み固められている。壁下には幅 10 ～ 13㎝，深さ５～８㎝，Ｕ字形の壁溝が巡っている。竈の前面の幅 1.3m の範囲に，厚さ８㎝の不整形状の粘土ブロックを確認した。

竈　東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 106㎝で，燃焼部幅は 48㎝である。袖部は床面を５㎝掘りくぼめ，粘土粒子と白色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色土の第 11・12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を皿状に７㎝掘りくぼめ，粘土粒子を含む第 13 層を埋土している。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈の南東コーナー部には，一辺 50㎝ほどの方形状で厚さ６㎝の粘土を貼り付けた高まりを確認した。中央部はわずかに窪んでいる。第 14 ～ 16 層は竈脇の粘土の高まりの層である。

竈土層解説

1　灰黄褐色　粘土ブロック少量・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　灰黄褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子微量
5　灰黄褐色　ロームブロック少量
6　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐色　ロームブロック・炭化物微量
8　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，焼土粒子子微量
9　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
10　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
11　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，・焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗褐色　ロームブロック多量，焼土粒子少量，粘土粒子微量

高まり土層解説

14　灰 黄 褐 色　炭化粒子・粘土ブロック少量
15　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物微量

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。一辺 69㎝の隅丸方形である。深さは 22㎝で，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

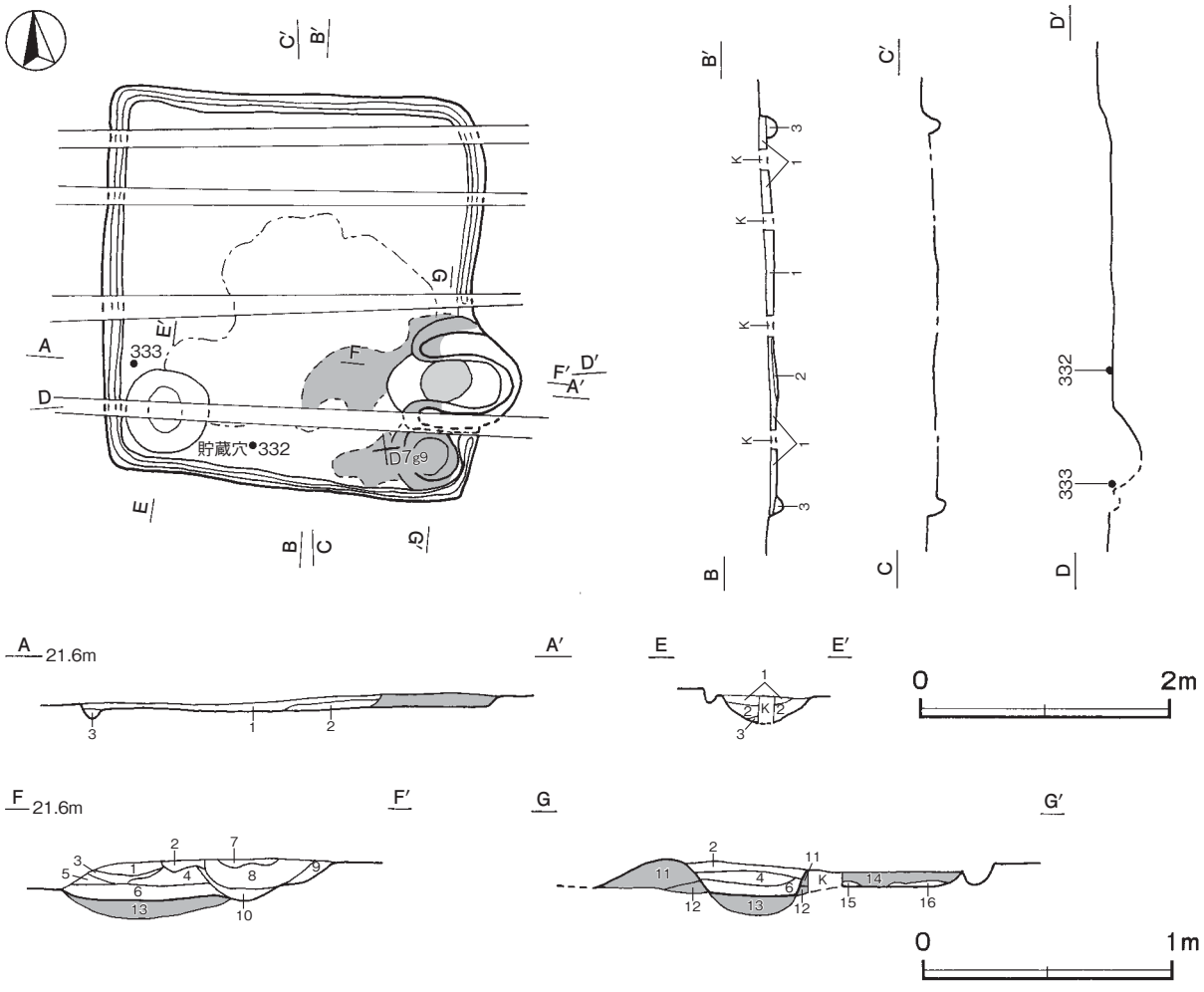
覆土　3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

土層解説

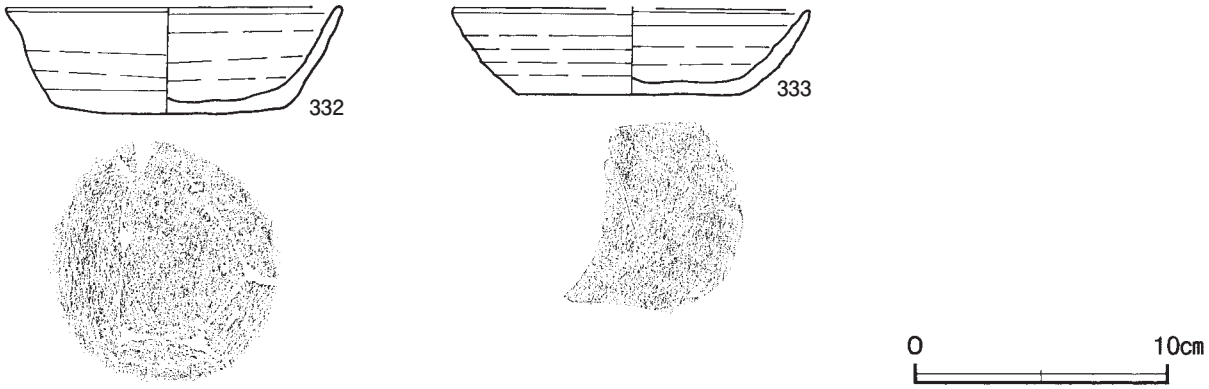
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　明 黄 褐 色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 22 点（坏 1，壺 1，甕 20），須恵器片 5 点（坏 4，甕 1）が出土している。332・333 は南西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。竈前で確認された粘土ブロックは，建物廃絶時に竈を破棄したものと考えられる。



第 168 図　第 3166 号竪穴建物跡実測図



第 169 図　第 3166 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3166 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 169 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
332	須恵器	坏	13.4	4.4	9.1	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部外・内面ロクロナデ　体部下端ヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土下層	80%　PL52
333	須恵器	坏	[14.3]	4.4	[8.9]	長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土下層	30%

表 21　奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位　置	主軸方向	平面形	規　模	壁　高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	（cm）			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
3069	C8f2	N－79°－E	長方形	〔3.47〕×〔3.16〕	30 ～ 34	平坦	ほぼ全周	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，石器，鉄器	8 世紀後葉	
3071	C8i4	N－14°－W	長方形	4.68 × 4.22	18 ～ 40	平坦	全周	4	2	－	竈 2	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄器，鉄滓	8 世紀前葉	
3166	D7f8	N－105°－E	方形	3.16 × 2.98	4 ～ 7	平坦	全周	－	－	－	竈 1（東）	1	人為	土師器片，須恵器片	8 世紀中葉	

4　平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 14 棟，土坑 4 基，溝 2 条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 2417 号竪穴建物跡（第 170・171 図）

調査年度　南東コーナー部は平成 16 年度に調査し，『第 280 集』に報告している。それ以外は平成 21 年度に調査した。

位置　14 区中央部のＣ 8 d6 区，標高 22 mほどの台地上に位置している。

重複関係　第 8 号陥し穴を掘り込み，第 136 号溝，第 3317 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.60 m，短軸 3.08 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 6 °－Ｗである。壁高は 31 ～ 36cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅 12 ～ 20cm，深さ 5 ～ 12cmで，Ｕ字形の壁溝が巡っている。北東コーナー部は，撹乱を受け失われているため壁溝は確認できなかった。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 90cmである。燃焼部幅は 58cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに粘土粒子を主体とした第 7 ～ 9 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を皿状に 8 cm掘りくぼめている。火床面は火熱を受け広範囲が赤変硬化し，内壁の第 7 層も強く赤変硬化している。第

2・3層は天井，袖部の崩落土である。煙道部は壁外へ47㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　砂質粘土中量，焼土ブロック少量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　灰　褐　色　ローム粒子・砂質粘土中量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　砂質粘土多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
9　灰　褐　色　砂質粘土多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

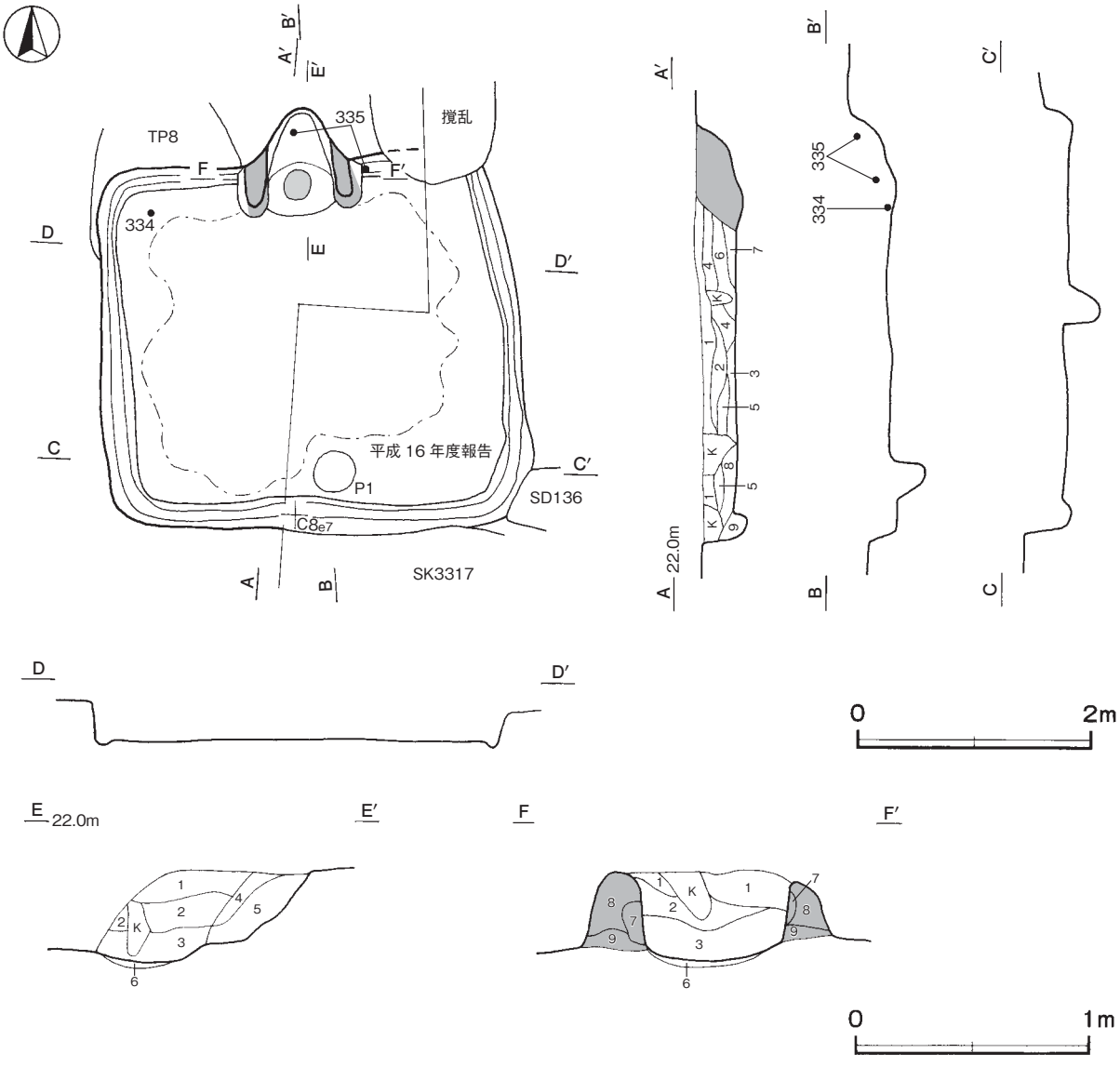
ピット　Ｐ１は深さ28㎝で，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　９層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

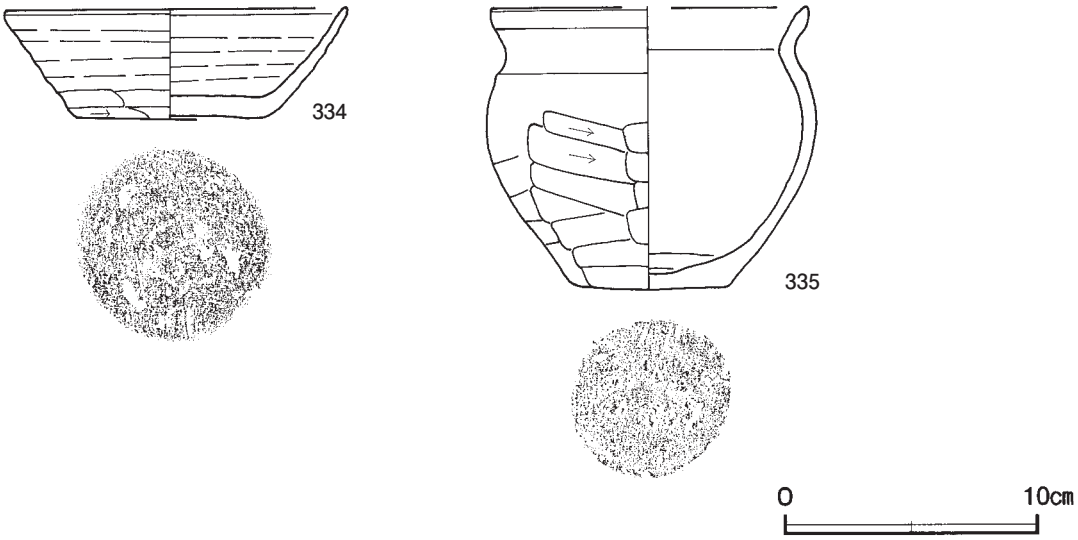
遺物出土状況　土師器片52点（坏10，高坏１，甕31，小形甕10），須恵器片４点（坏）が出土している。



第 170 図　第 2417 号竪穴建物跡実測図

334 は北西コーナー部の床面から出土している。335 は竈の煙道部と右袖部脇から出土した破片が接合したものである。

所見　時期について『第 280 集』では，出土土器から古墳時代後期と報告されているが，平成 21 年度の調査で，床面から須恵器坏が出土していることから，時期は９世紀前葉に比定できる。



第 171 図　第 2417 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2417 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 171 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
334	須恵器	坏	13.5	4.4	7.4	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	床面	90%　PL53
335	土師器	小形甕	[12.7]	11.2	6.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　下端手持ちヘラ削り	竈煙道部，竈右袖部	40%

第3038号竪穴建物跡（第172図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ８e6 区，標高 22 ｍの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　一辺 2.90m ほどの方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は８㎝で，緩やかに立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。柱穴も壁溝も確認されていない。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 120㎝で，燃焼部幅は 35㎝である。袖部は，地山を掘り残した基部しか確認できなかった。火床部は５㎝ほど掘りくぼめており，火床面はわずかに赤変している。煙道部は壁外へ 56㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量　　粘土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量，　3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量

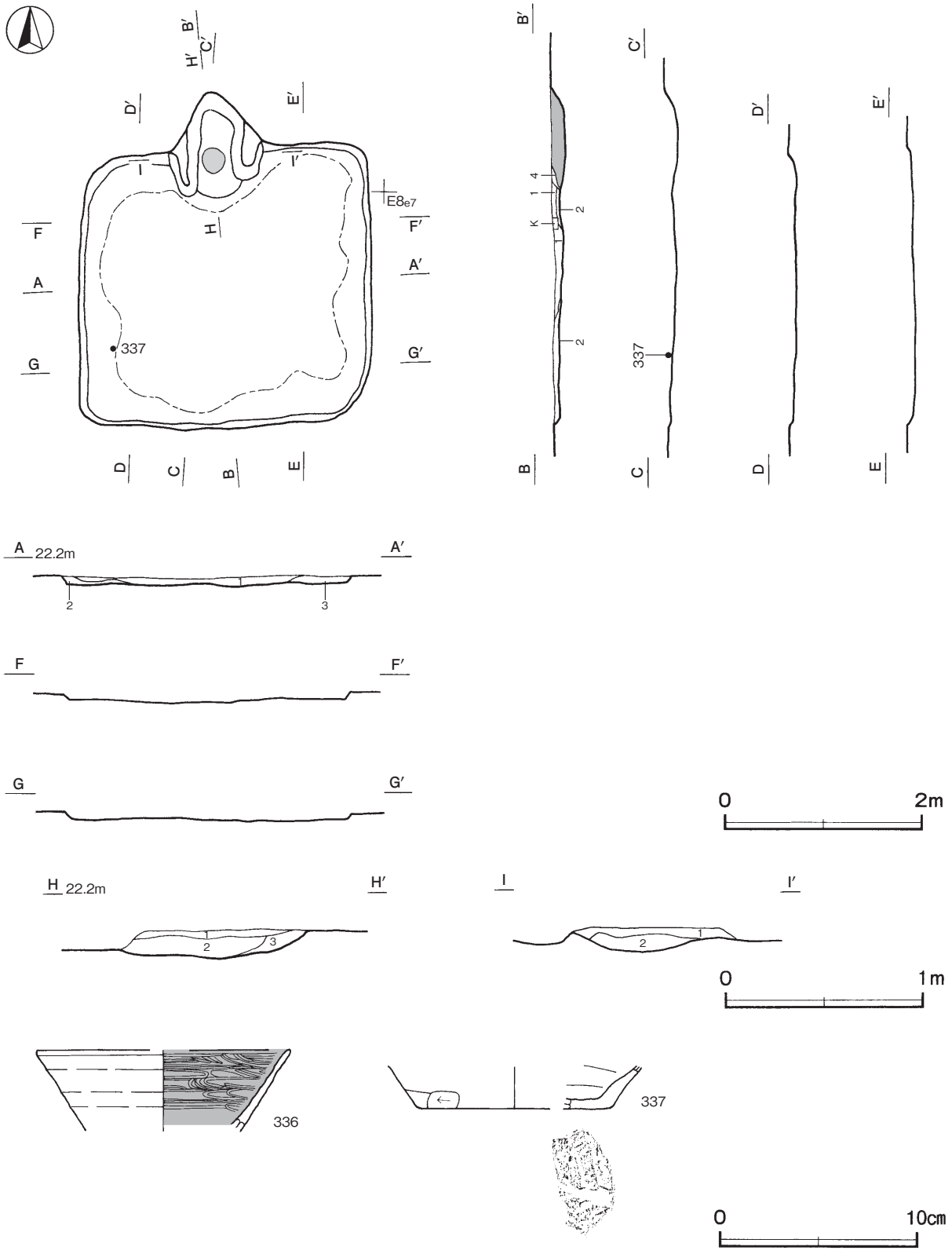
覆土　４層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　3　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量　　4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 26 点（坏 4，甕類 20，小形甕 2），須恵器片 1 点（坏），土製品 1 点（支脚）が出土している。337 は南西部の覆土下層から出土している。336 は覆土中からの出土である。

所見　時期は，内面黒色処理された土師器の坏片が出土していることから，9 世紀中葉と考えられる。



第 172 図　第 3038 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3038 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 172 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
336	土師器	坏	[12.7]	(4.1)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5%
337	土師器	小形甕	－	(2.2)	[9.4]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	5%

第 3039 号竪穴建物跡（第 173 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ８e9 区，標高 22 ｍほどの台地上に位置している。

重複関係　第 6552・6553・6555 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　床面が露出した状態で確認した。柱穴や竈の配置及び床面の広がりから，南北軸 3.30 ｍ，東西軸 2.75 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅと推定できる。壁は確認できなかった。

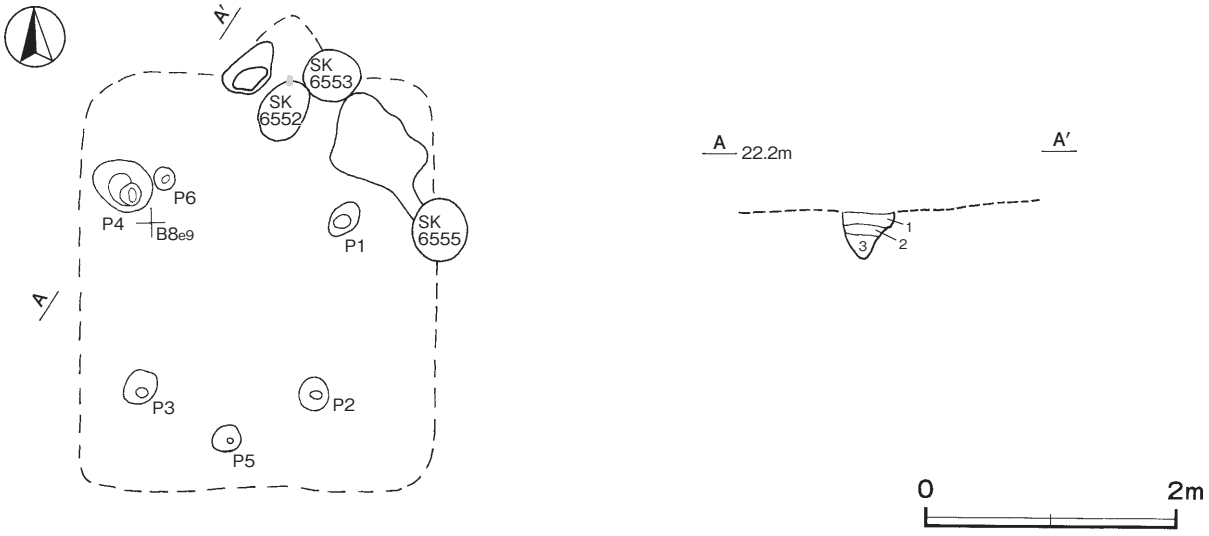
床　北東コーナー部や外周部に一部残存するのみである。

竈　北壁中央部に付設されている。大部分が削平され，第 6552・6553 号土坑に掘り込まれているため，煙道部と左袖部しか確認できなかった。煙道部は壁外へ 50㎝ほど掘り込まれている。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ７～ 36㎝で，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ７㎝で南側の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 24㎝で，本跡には伴わないものと考えられる。

ピット土層解説（Ｐ４）
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

所見　時期は，周辺の建物との配置関係や規模から９世紀代と考えられる。



第 173 図　第 3039 号竪穴建物跡実測図

第 3056 号竪穴建物跡（第 174･175 図）

調査年度　平成 21 年度

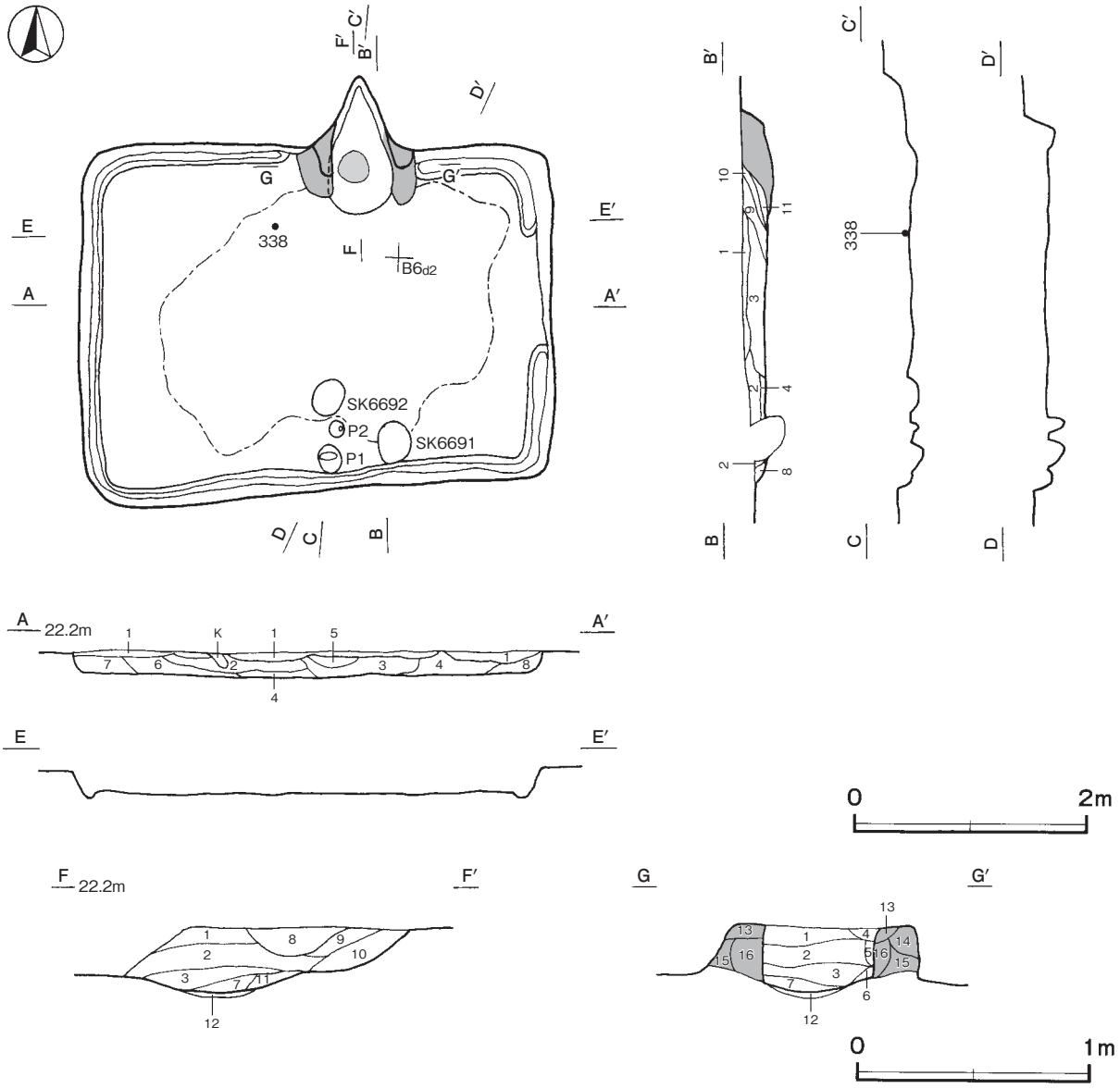
位置　14 区北部のＢ８d1 区，標高 22 ｍほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 6691・6692 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.07 ｍ，短軸 3.01 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は７～ 23㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 12 ～ 22㎝，深さ６～８㎝，Ｕ字形の壁溝が東壁の中央部を除いて巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 117㎝で，燃焼部幅は 52㎝である。袖部は，地山を掘り残し，粘土粒子とロームブロックを含む第 13 ～ 16 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を皿状に７㎝掘りくぼめており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ 62㎝掘り込まれ，火床部から



第 174 図　第 3056 号竪穴建物跡実測図

外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量，粘土粒子微量
4　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
13　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
14　灰　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
15　灰　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２はともに深さ16㎝で，南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。隣接する第6691・6692号土坑は，ピット状を呈しているが，本跡には伴わないと考えられる。

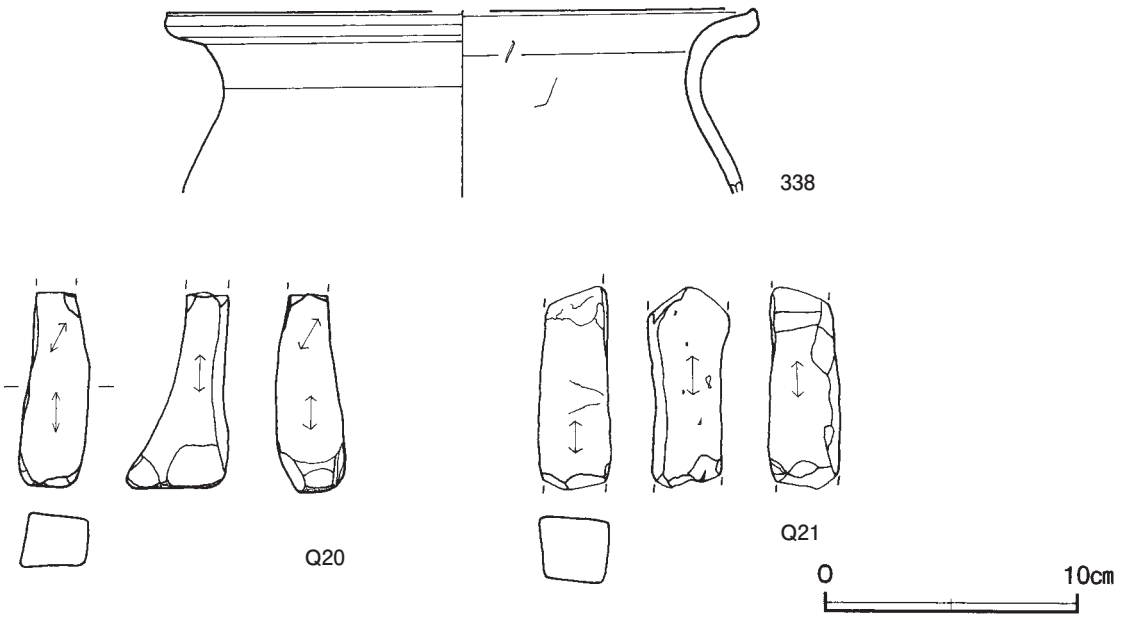
覆土　11層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片21点（坏２，甕19），須恵器片１点（坏），石器２点（砥石）が出土している。338は竈前の床面から，Q20・Q21は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の規模及び主軸方向から８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。



第175図　第3056号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3056 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 175 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
338	土師器	甕	[23.4]	(7.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 20	砥石	(7.8)	2.8	(4.1)	(82.7)	凝灰岩	砥面 4 面に研磨痕あり	覆土中	PL59
Q 21	砥石	(8.0)	3.0	2.7	(97.6)	凝灰岩	砥面 4 面に研磨痕あり	覆土中	PL59

第 2410 号竪穴建物跡（第 176 ～ 179 図）

調査年度　東部は，平成 16 年度に調査し「第 280 集」にて報告している。中央部から西部にかけては平成 21 年度に調査した。

位置　14 区北部のＣ８g5 区，標高 22 ｍほどの台地上に位置している。

規模と形状　一辺 3.70 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁高は 50 ～ 55㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，中央部分が強く踏み固められている。竈西側の北壁から南壁にかけての壁下で，幅 12 ～ 16㎝，深さ５～８㎝で，Ｕ字形の壁溝を確認した。貼床は，確認面から深さ 56㎝掘り込み，ロームブロック主体で炭化粒子混じりの第 10 ～ 20 層を 12 ～ 21㎝の厚さに埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 114㎝，燃焼部幅 50㎝である。袖部は，床面と同じ高さに粘土粒子とローム粒子を主体とした第 10 ～ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を皿状に７㎝掘り込んで構築されている。煙道部は，壁外へ 68㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第３層は粘土粒子を含み，下面が火熱を受け赤変硬化していることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
10　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量

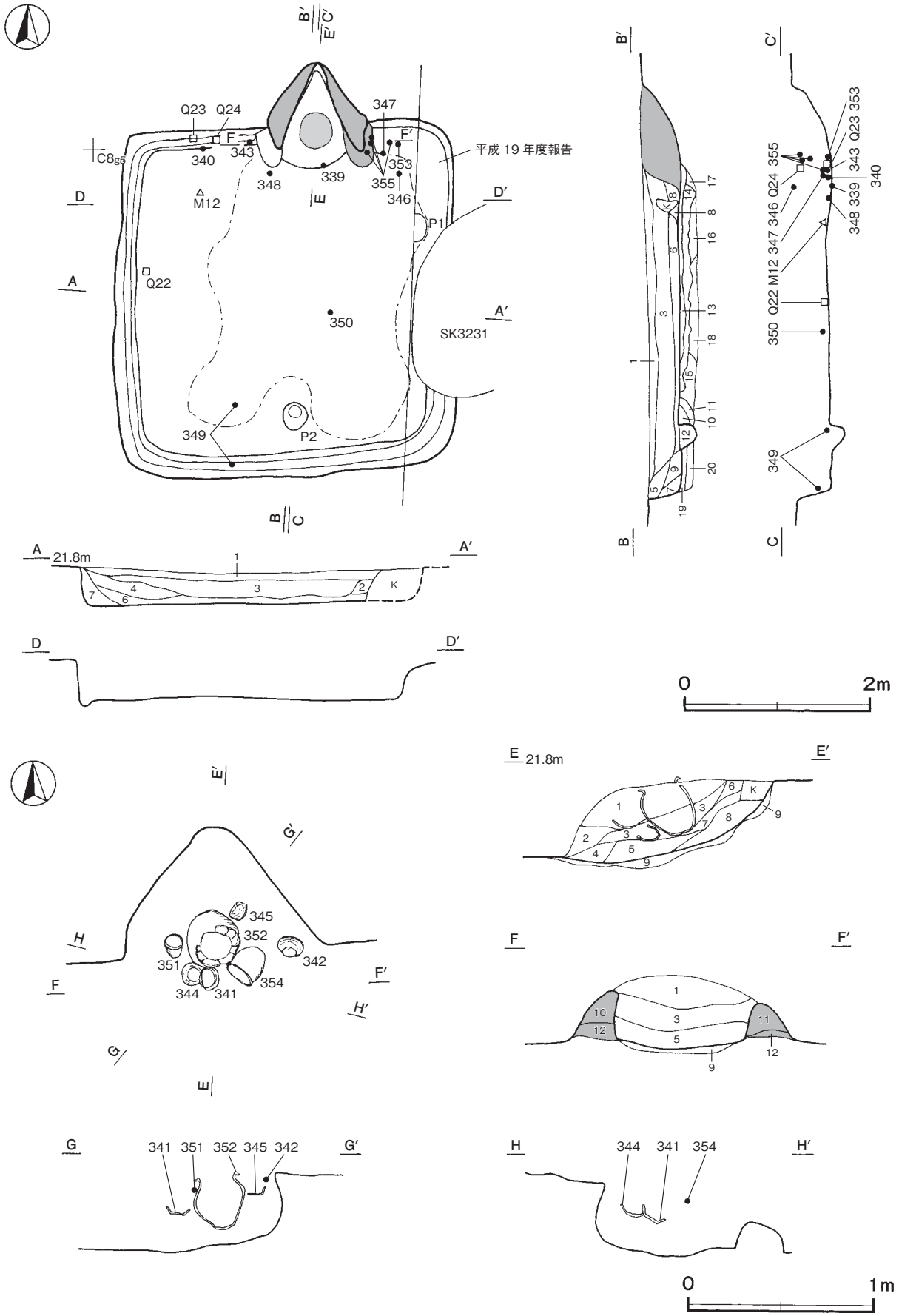
ピット　Ｐ２は深さ 17㎝で，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　９層に分層できる。多くの層でロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 12 層はＰ２の柱の抜き取り後の堆積土である。第 10・11・13 ～ 20 層は貼床の構築土である。

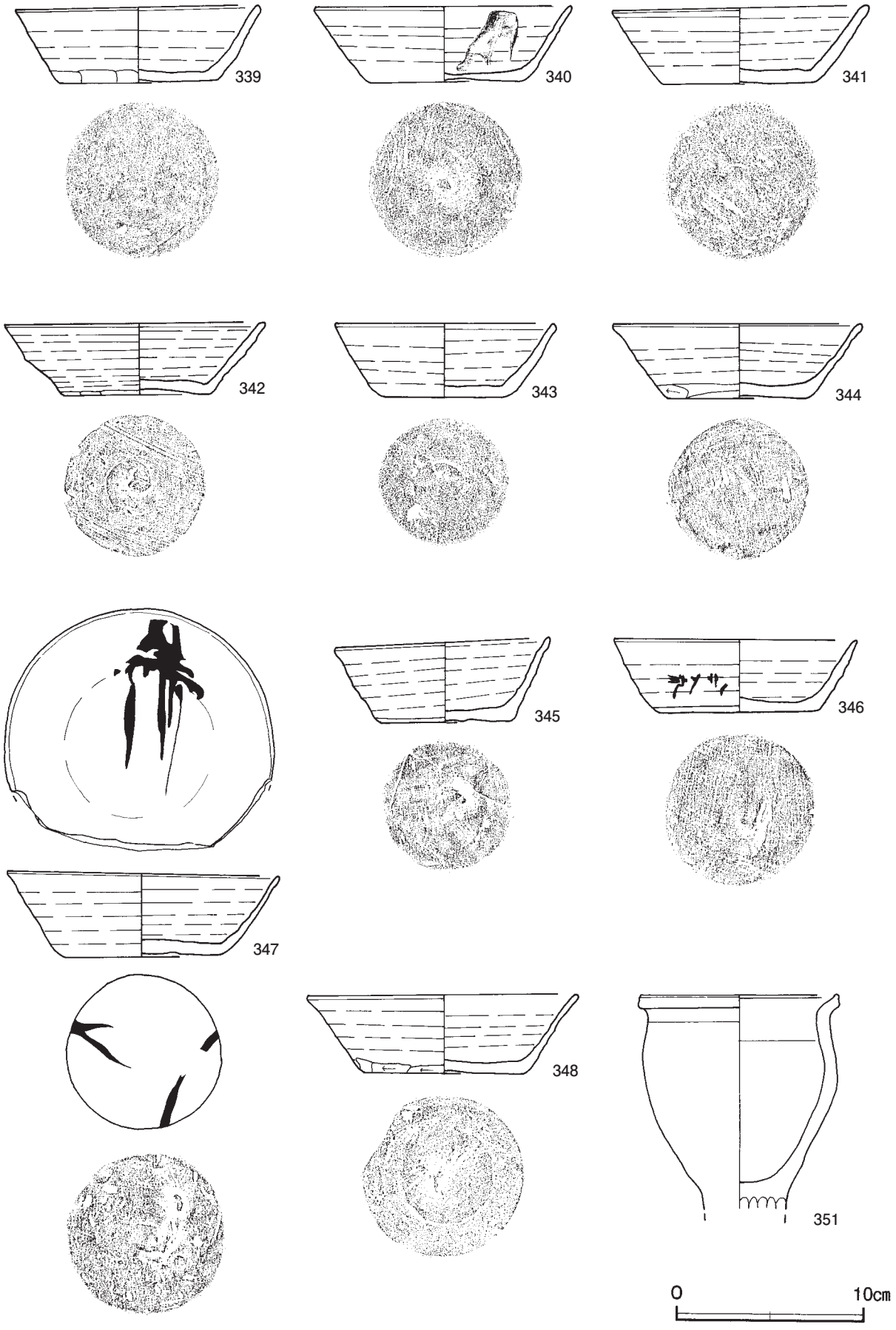
土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック・粘土粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
11　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量
13　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
16　褐　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
17　褐　　色　ローム粒子多量・ロームブロック中量
18　褐　　色　ローム粒子多量，ロームブロック中量，炭化粒子微量
19　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
20　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

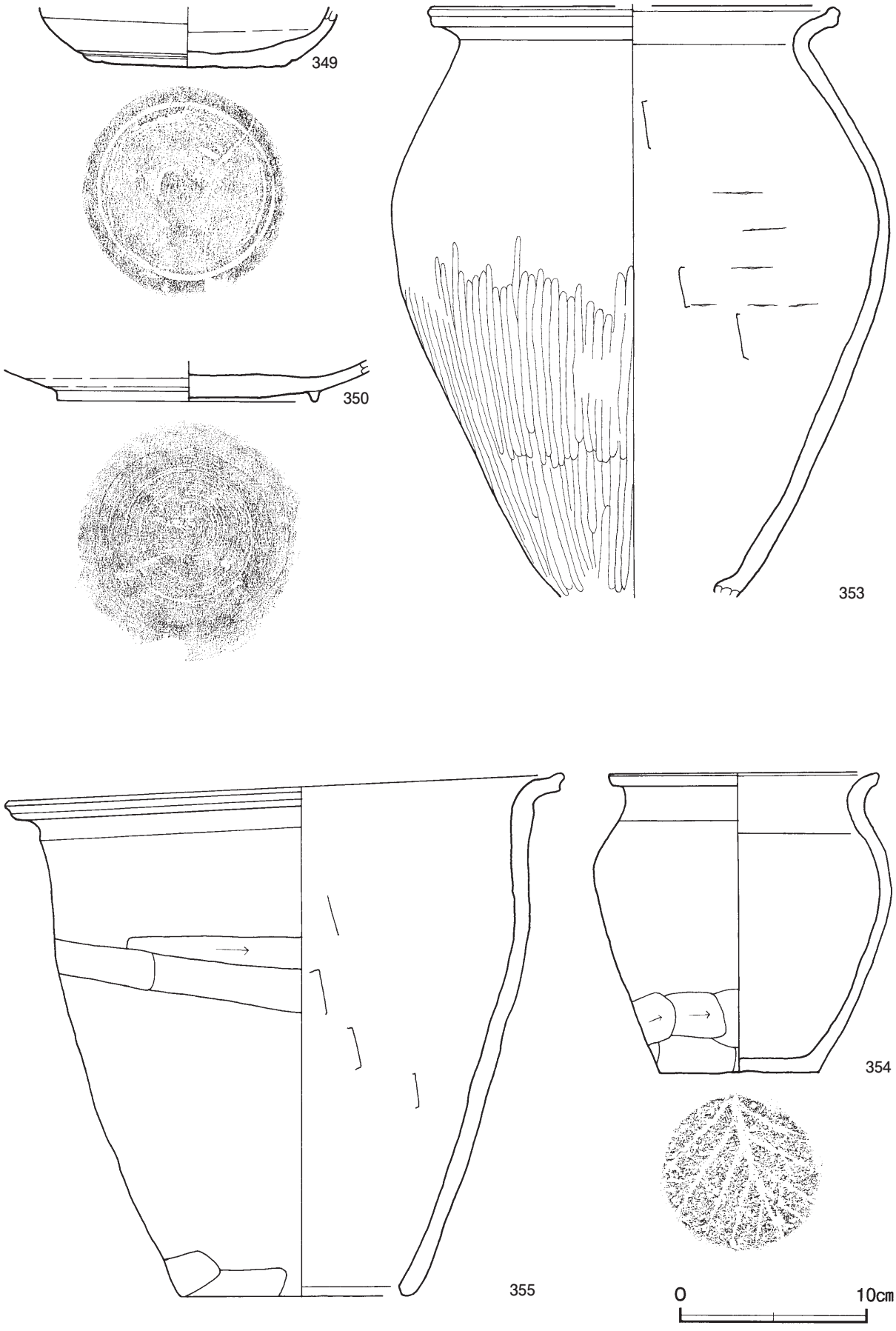
遺物出土状況　土師器片 326 点（坏 28，小形甕２，甕 295，甑１），須恵器片 29 点（坏 20，高台付椀１，盤１，甕７），石器３点（砥石１，紡錘車２），鉄器１点（鎌）が，北部の覆土上層から中央部の下層にかけて出土



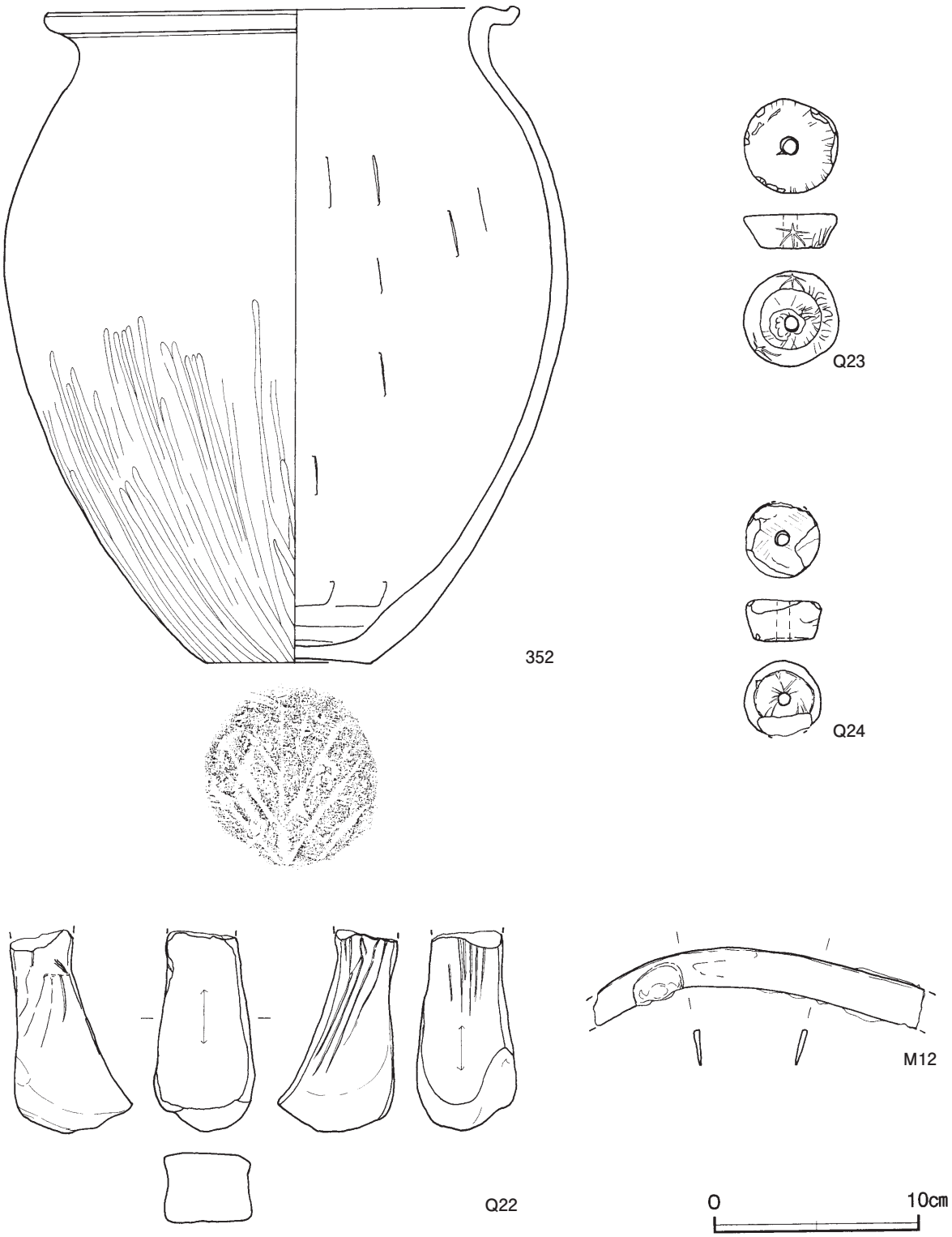
第 176 図　第 2410 号竪穴建物跡実測図



第 177 図　第 2410 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 178 図　第 2410 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）



第 179 図　第 2410 号竪穴建物跡出土遺物実測図（３）

している。339・348 は，竈の焚口部の前の床面から逆位で，340・343 は竈西側の床面から，346 は竈東側の覆土上層から，いずれも正位の状態で出土している。347 は北部，349 は南部，350 は中央部の覆土下層，353 は竈東側，Q22 は西部の床面からそれぞれ出土している。352 は竈内の中央から，その周囲から 341・344・351・354 が出土している。342・345 は，竈の右袖部の上面から逆位の状態で出土している。Q23 は北壁際の覆土下層，Q24 は北壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。M 12 は北西コーナー部の覆土下層から出土

している。355は竈の右袖脇の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。竈の中央に置かれた甕とその周りや竈前に置かれた土器の出土状況から，建物の廃絶に伴う祭祀的行為が行われたと考えられる。

第2410号竪穴建物跡出土遺物観察表（第177～179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
339	須恵器	坏	13.2	4.1	8.5	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	床面	100%　PL53
340	須恵器	坏	13.7	4.1	8.2	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	床面	100%　油煙付着　PL53
341	須恵器	坏	13.8	4.2	8.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部多方向のヘラ削り	竈上層	100%　PL53
342	須恵器	坏	13.9	3.9	7.7	長石・雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	竈上層	100%　PL53
343	須恵器	坏	11.7	4.0	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	床面	95%　PL53
344	須恵器	坏	13.3	4.0	7.6	長石・石英・雲母	褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	竈上層	90%　PL53
345	須恵器	坏	11.5	4.4	7.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	竈上層	80%　PL53
346	須恵器	坏	13.0	3.9	8.5	長石・石英	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　墨書「大井入家」	覆土上層	80%　PL56
347	須恵器	坏	14.5	4.7	8.4	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り　火ダスキ	覆土下層	70%　PL53
348	須恵器	坏	14.3	4.2	8.7	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	床面	70%　PL53
349	須恵器	高台付椀	－	(3.3)	9.5	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土下～中層	50%
350	須恵器	盤	－	(2.2)	14.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼りつけ	覆土下層	50%
351	土師器	小形台付甕	10.6	(11.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	竈上層	70%　PL54
352	土師器	甕	23.0	32.4	8.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈中～上層	90%　PL54
353	土師器	甕	[21.6]	(31.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面ヘラ磨き　内面ナデ	床面	80%　PL54
354	土師器	小形甕	14.2	16.0	8.6	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部下半ヘラ削り	竈中層	80%　PL54
355	土師器	甑	30.0	28.0	12.3	長石・石英	明黄褐	普通	外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下～上層	70%　PL54

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 22	砥石	(9.8)	6.0	5.8	284.8	凝灰岩	砥面4面の3面に条線状の研磨痕	床面	PL59

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 23	紡錘車	4.6	1.7	0.8	46.6	頁岩	一方向からの穿孔　側面に「木」と刻書	覆土下層	PL59
Q 24	紡錘車	(3.7)	2.0	0.7	(44.6)	蛇紋石	円錐台形　上部欠損　二方向からの穿孔　全面研磨	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 12	鎌	(16.2)	2.2	0.4	(32.8)	鉄	曲刃　基部欠損	覆土下層	PL60

第3072号竪穴建物跡（第180・181図）

調査年度　平成21年度

位置　14区中央部のD 8a4区，標高22 mの台地の平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.57 m，短軸3.24 mの長方形で，主軸方向はN－2°－Wである。壁高は29cmで，直立している。

床　平坦な貼床で，壁際まで踏み固められている。壁下には幅15～18cm，深さ8～12cm，U字形の壁溝が巡っている。貼床は，確認面から深さ32～48cmで凹凸に掘り込み，ローム粒子を主体とする褐色土の第16層を10～20cmほど埋土して構築されている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。南半分が削平されているため，確認できる規模は，焚口部から煙道部まで70cmほどで，燃焼部幅は29cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さに粘土粒子とロームブロックを含むに

ぶい黄褐色土の第７層を積み上げて構築されている。火床部は床面を皿状８㎝に掘り込んで構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ40㎝掘り込み，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

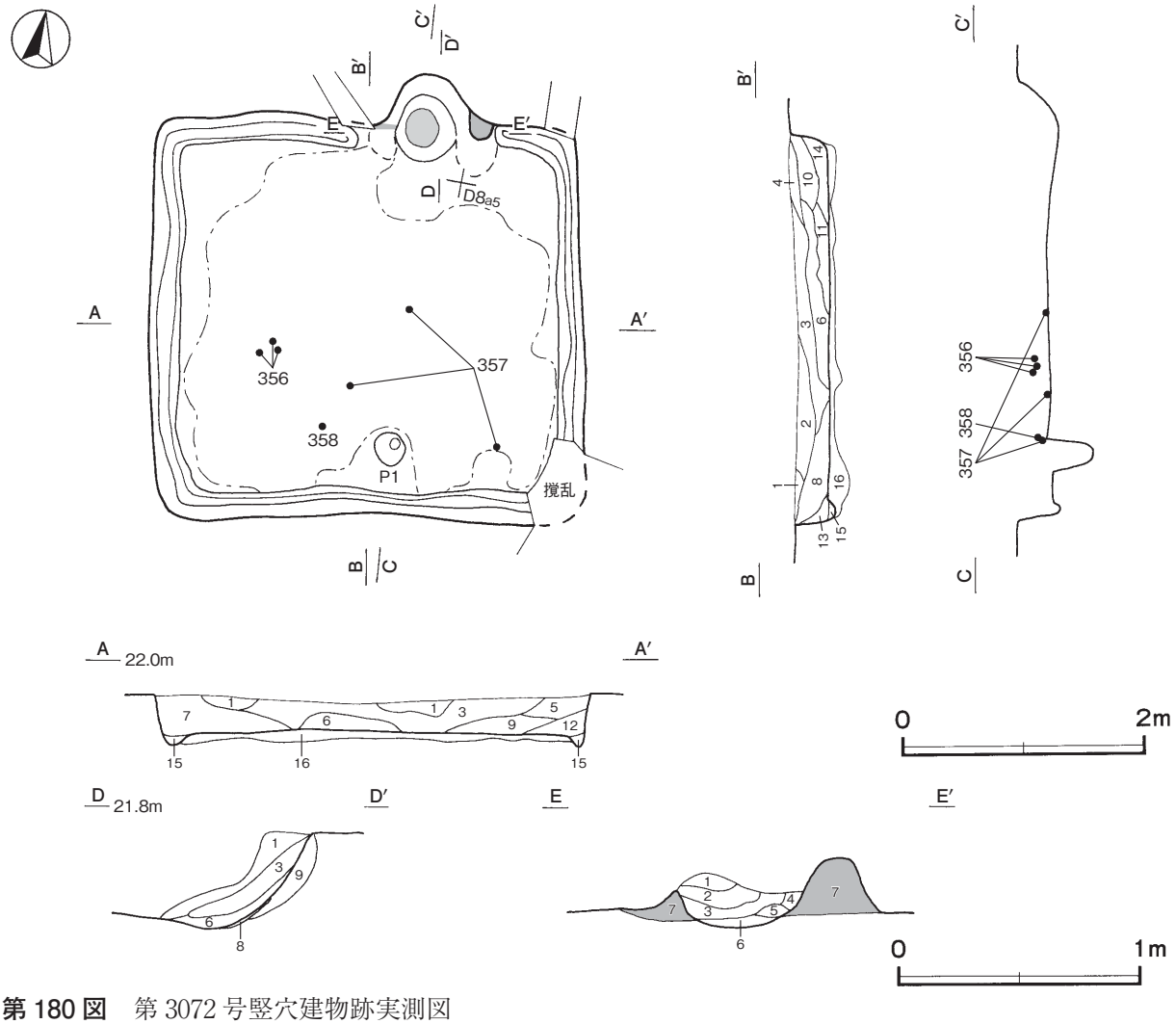
1　灰黄褐色　粘土ブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
4　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
7　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
9　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　Ｐ１は深さ38㎝で，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　15層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第16層は貼床の構築土である。

土層解説

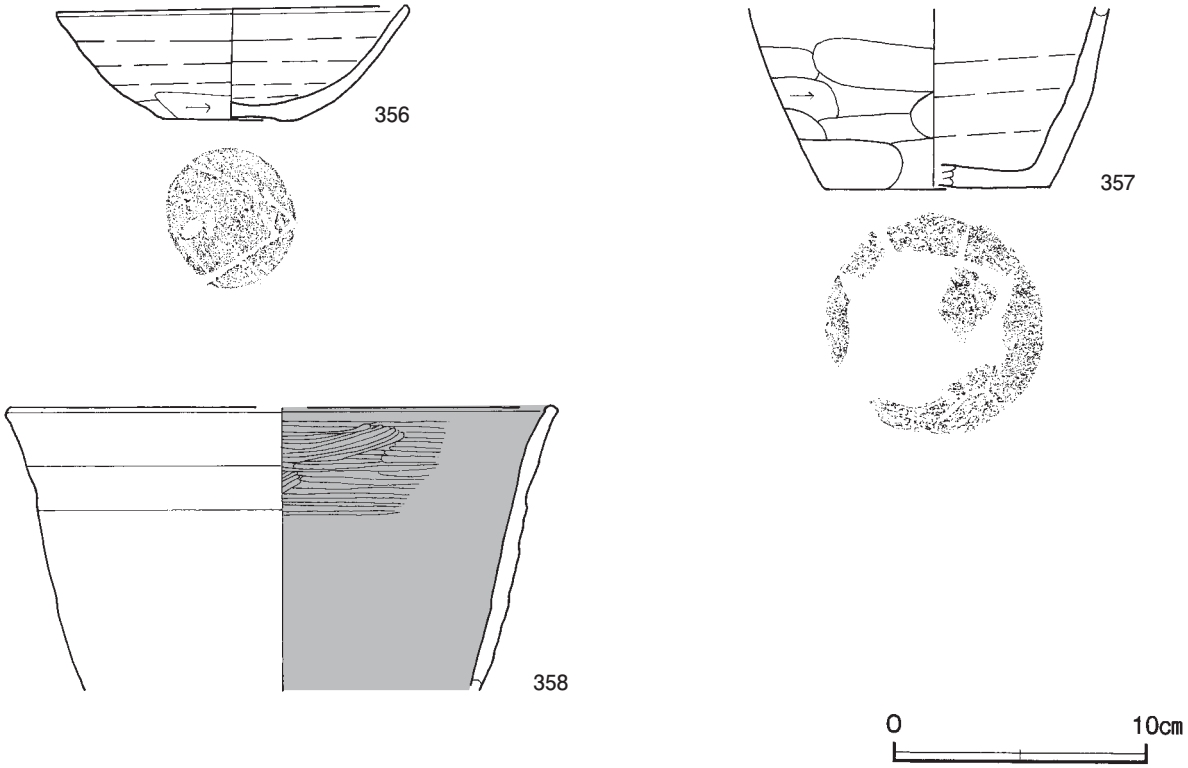
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　焼土粒子微量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　炭化粒子・ローム粒子微量
10　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック微量
14　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
15　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物微量



第 180 図　第 3072 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 79 点（坏 21，甕 57，甑 1），須恵器片 4 点（坏 1，甕 3）が出土している。358 は南部，357 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。356 は西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 181 図　第 3072 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3072 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 181 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
356	須恵器	坏	14.0	4.5	5.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	覆土中層	70%　PL55
357	土師器	甕	－	(7.3)	[8.9]	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外・内面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	40%
358	土師器	甑	[21.6]	(11.2)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	30%

第 3073 号竪穴建物跡（第 182・183 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区中央部のＤ８b1 区，標高 21 ｍほどの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状　西部と中央部の一部は削平されているため，南北軸 2.88 ｍで，東西軸は 2.75 ｍしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき，主軸方向はＮ－７゜－Ｅである。壁高は 12 ～ 18㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が貼床され踏み固められている。貼床は，確認面から深さ 20㎝で，長径 1.20 ｍの不整形の掘り込みに，ロームブロックを主体とした第 17 層を皿状に 10㎝埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 74㎝，燃焼部幅は 60㎝ほどである。袖部は，床面と同じ高さに，ロームブロックと粘土粒子を含むにぶい黄褐色土の第 10・11 層を積み上げて構築されて

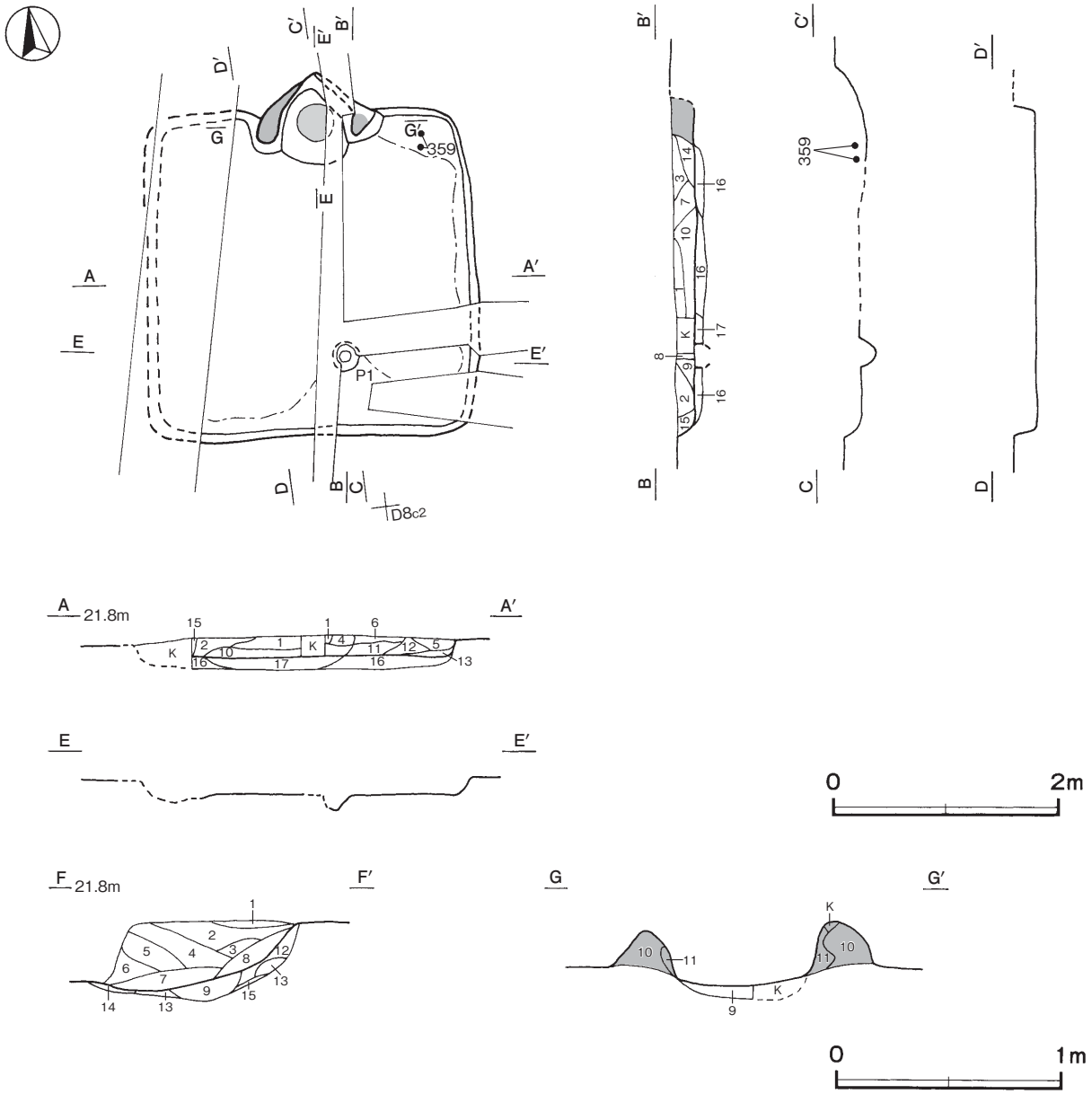
いる。火床部は床面を皿状に14cm掘りくぼめて構築されている。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ38cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，炭化物少量
4　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量
13　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
14　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　P 1は深さ15cmで，南壁側のやや東寄りに位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　15層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。第16・17層は，貼



第182図　第3073号竪穴建物跡実測図

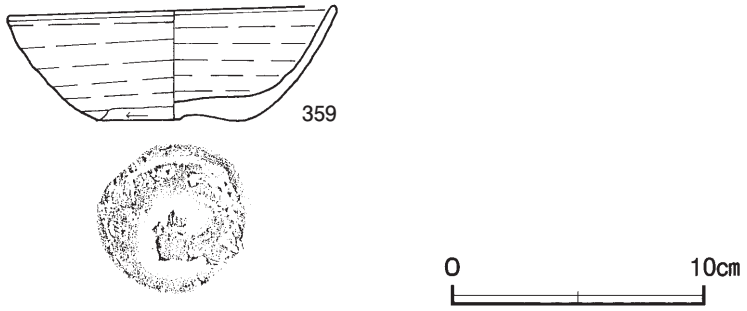
床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
13　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
14　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量
16　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
17　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 41 点（坏 15, 椀 1 , 甕 20, 小形甕５), 須恵器片２点（坏, 甕）が出土している。359 は, 北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び主軸方向から９世紀中葉と考えられる。



第 183 図　第 3073 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3073 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 183 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
359	須恵器	坏	13.0	4.4	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	80％　PL55

第 3074 号竪穴建物跡（第 184・185 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央部のＤ８c4 区，標高 22 ｍほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係　第 2423 号竪穴建物跡を掘り込み，第 520・521 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.80 m，短軸 3.44 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－２゜－Ｗである。壁高は 26 ～ 35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で, 中央部がやや高く踏み固められている。第 2423 号竪穴建物跡と重複している部分は貼床され, 本床がやや高い。貼床は，確認面から 45 ～ 50cm掘り込み，ロームブロックを含む褐色土の第８層を 10 ～ 15 cm埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 131cm，燃焼部幅は 57cmである。袖部は, 床面とほぼ同じ高さに粘土ブロックを含む暗褐色土の第８層を積み上げて構築されている。火床部は床面を皿状に７cm掘りくぼめ黒褐色土の第７層を埋土して構築されている。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ 60cm細長く掘り込み，火床部から外傾して立ち上がっている。

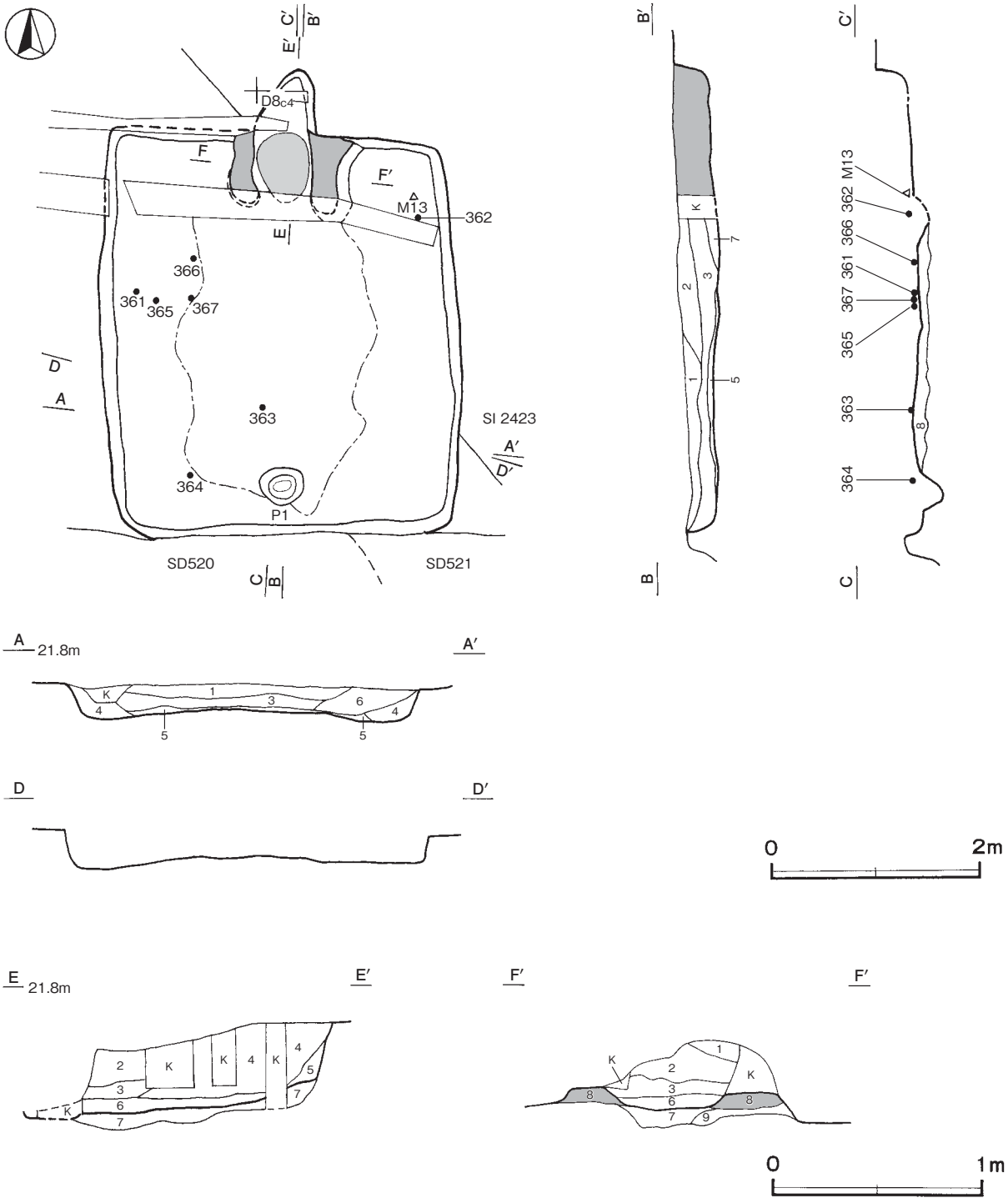
竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子微量

3　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
6　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
8　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量

ピット　Ｐ１は深さ21㎝で，南壁側の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



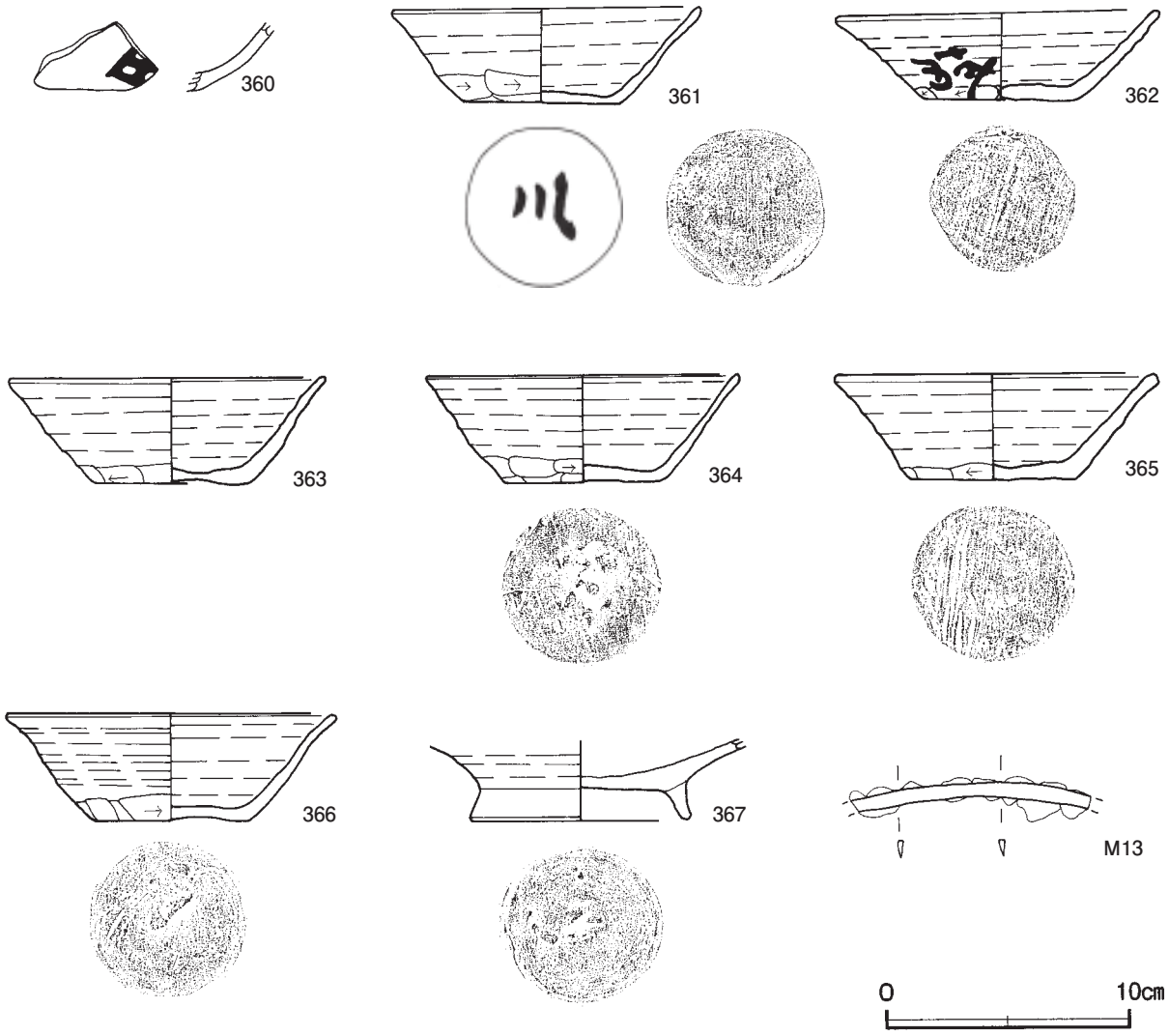
第 184 図　第 3074 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 165 点（坏 36, 椀 1 , 鉢 1 , 甕 127), 須恵器片 25 点（坏 18, 高台付皿 1 , 蓋 1 , 甕 5), 土製品 1 点（支脚), 鉄器 1 点（刀子), 鉄製品 2 点（不明）が出土している。363 は南部の, 361・365 ～ 367 は北西部の床面, 364 は南西部の覆土下層から, 360 は覆土中からそれぞれ出土している。362･M13 は, 北東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は, 出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。



第 185 図　第 3074 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3074 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 185 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
360	土師器	坏	－	(2.8)	－	長石・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　墨書「田〃」	覆土中	5 %　PL56
361	須恵器	坏	12.6	3.9	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ削り　墨書「川」	床面	100%　PL56
362	須恵器	坏	13.1	3.8	6.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　外面墨書「城内」	覆土中層	100%　PL56

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
363	須恵器	坏	13.0	5.0	[6.3]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ　体部下端回転手持ちヘラ削り	床面	90%
364	須恵器	坏	12.8	4.4	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	覆土下層	70%
365	須恵器	坏	13.5	4.3	6.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	床面	70%
366	須恵器	坏	［13.4］	4.3	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り	床面	60%
367	須恵器	高台付皿	－	(3.3)	9.0	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	5％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 13	刀子	(9.9)	0.7	0.2	(9.25)	鉄	切先部欠損　茎部欠損　断面三角形	覆土中層	PL60

第 3161 号竪穴建物跡（第 186・187 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央南部のＣ８a1 区，標高 22 ｍの台地の平坦部に位置している。

重複関係　第 582 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.33 m，短軸 2.54 ｍの長方形である。主軸方向はＮ－７゜－Ｅである。壁高は 20 ～ 29㎝で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁下には幅 12 ～ 18㎝，深さ８～ 12㎝，Ｕ字形の壁溝が巡っている。西部には長径 1.8m，幅 0.8m の不整形の焼土塊と炭化材が散在し，中央部にも幅 60㎝ほどの楕円形状の焼土範囲を確認した。貼床は，確認面から 27 ～ 37㎝掘り込み，ローム粒子を主体とする暗褐色土を５～８㎝埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで 136㎝，燃焼部幅は 65㎝である。袖部は，床面とほぼ同じ高さに粘土ブロックとロームブロックを含む褐灰色土の第 12 層を積み上げて構築されている。火床部は，床面を皿状に 14㎝掘り込みロームブロックを含む黒褐色土の第 11 層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に 68㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　灰　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量，粘土ブロック微量
2　褐　灰　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
5　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
6　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
7　灰　褐　色　炭化物･粘土ブロック少量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子微量
10　明 赤 褐 色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
12　褐　灰　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
13　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
14　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
15　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
16　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物微量

ピット　４か所。Ｐ１は深さ 38㎝で，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２～Ｐ４は深さ６～ 15㎝で，本跡には伴わないものと考えられる。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置し，径 90㎝ほどの楕円形である。床面からの深さは 30㎝で，南壁は南西コーナーに接し外傾して立ち上がっている。本跡は掘方の調査で確認した。

貯蔵穴土層解説

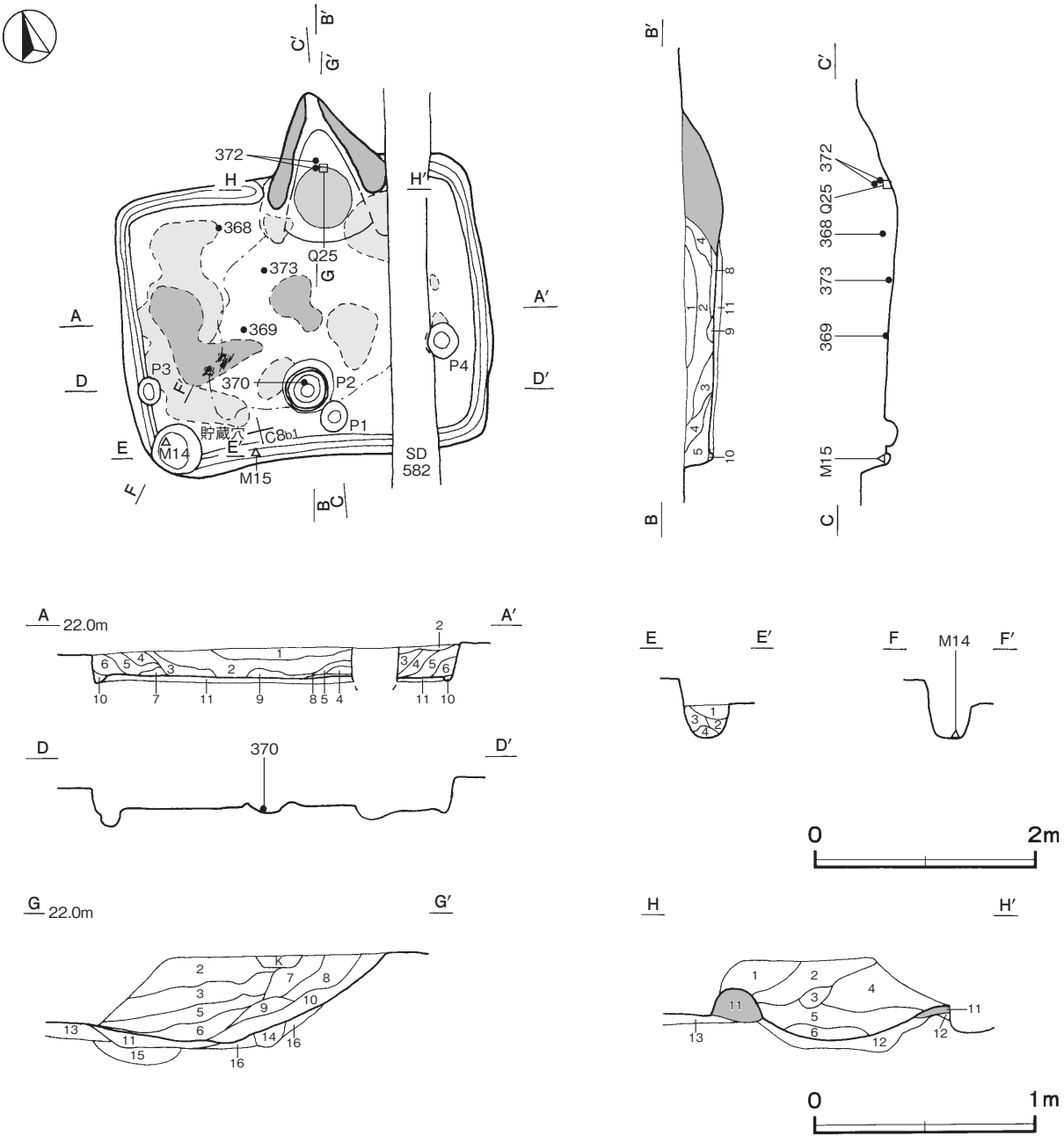
1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

覆土　11 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　褐　灰　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量
6　灰 黄 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　黒　　色　炭化物多量，ロームブロック少量
8　橙　　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
9　灰 黄 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
10　褐　　色　ロームブロック微量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

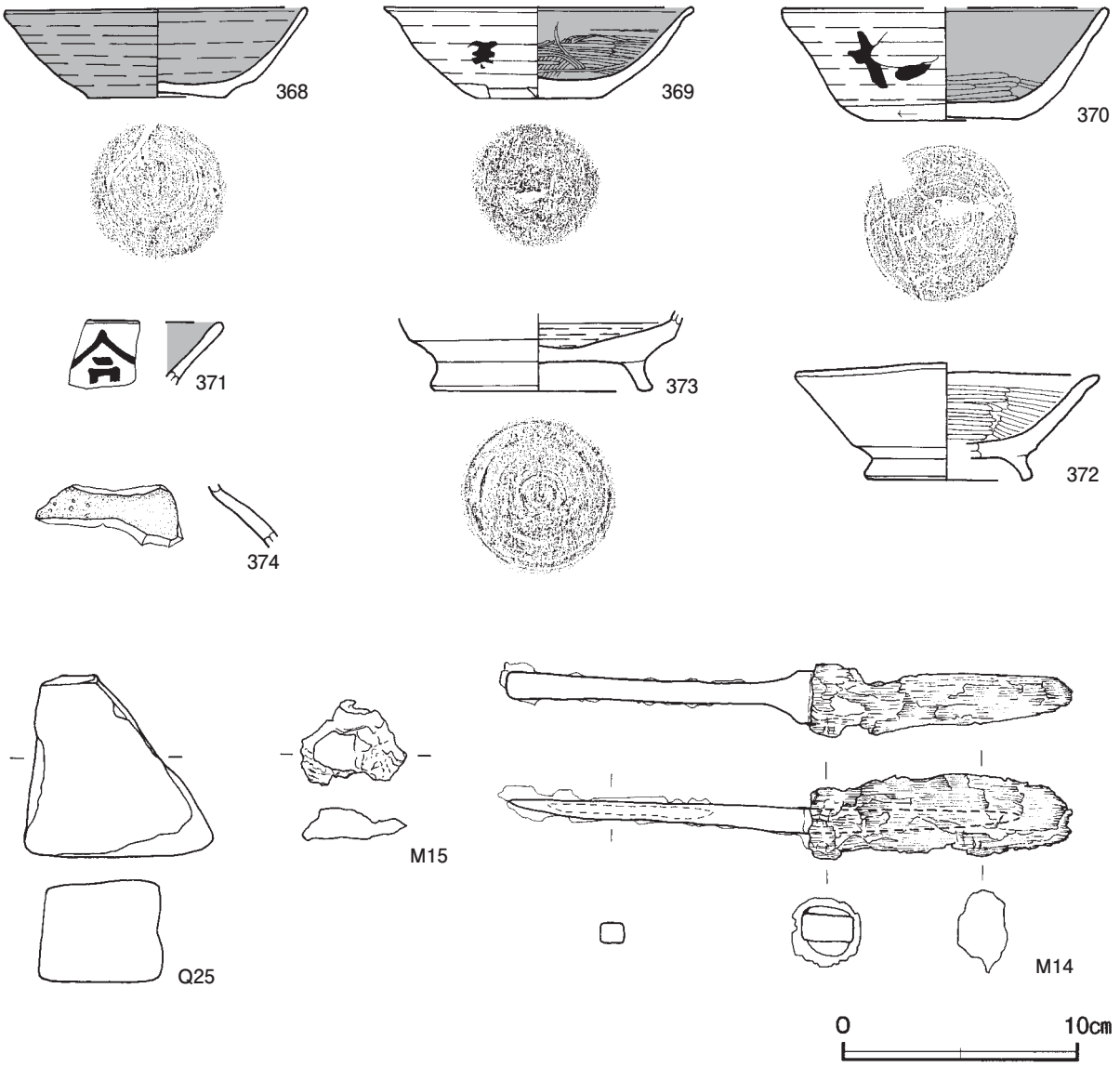
遺物出土状況　土師器片 42 点（坏 13, 椀 1，高台付坏 1，甕 27），須恵器片 22 点（坏 5，高台付坏 1，長頸瓶 1，甕 15），石製品 1 点（支脚），鉄器･鉄製品 6 点（鑿 1，釘 1，不明 4），鉄滓 1 点（17.2g），銅滓 1 点（43.7g），



第 186 図　第 3161 号竪穴建物跡実測図

石片３点（雲母片岩）が出土している。372 は竈の火床部に据え置かれた支脚（Q 25）の上部面から逆位の状態で出土している。369 は中央部，373 は竈前の床面からそれぞれ出土している。370 はＰ２の覆土中層，368 は竈西側，M15 は南部の覆土下層，M16 は中央部，M17 は東部の覆土中層，371・374 は覆土中からそれぞれ出土している。 M 14 は貯蔵穴の北壁面に柄部を下にし，立てかけられた状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。南西コーナー部で貯蔵穴と考えられる掘り込みは，床精査で確認されたもので，M 14 の埋設された状況を考えると床下土坑で地鎮のためのものとも考えられる。M 14 の鑿の柄部に残存する木質の樹種同定結果については付章に記載する。



第 187 図　第 3161 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3161 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 187 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
368	土師器	坏	12.9	3.8	5.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	100%　PL55
369	土師器	坏	13.2	3.9	5.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内面丁寧なヘラ磨き　体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部一方向の手持ちヘラ削り　墨書「主」	床面	80%　PL56
370	土師器	坏	［13.8］	4.8	6.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ削り　墨書「□」	Ｐ２覆土中層	50%　PL56

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
371	土師器	坏	－	(2.8)	－	長石・石英	明黄褐	普通	ロクロナデ　墨書「合ヵ」	覆土中	5%　PL56
372	土師器	高台付坏	13.0	5.0	7.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部高台貼り付け	竈覆土下層	90%　PL55
373	須恵器	高台付坏	－	(3.9)	[9.5]	長石・石英	灰	普通	ロクロ成形　体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り　高台貼り付け	床面	30%
374	須恵器	長頸瓶	－	(2.7)	－	長石	灰黄	良好	外・内面ロクロナデ　自然釉	覆土中	5%

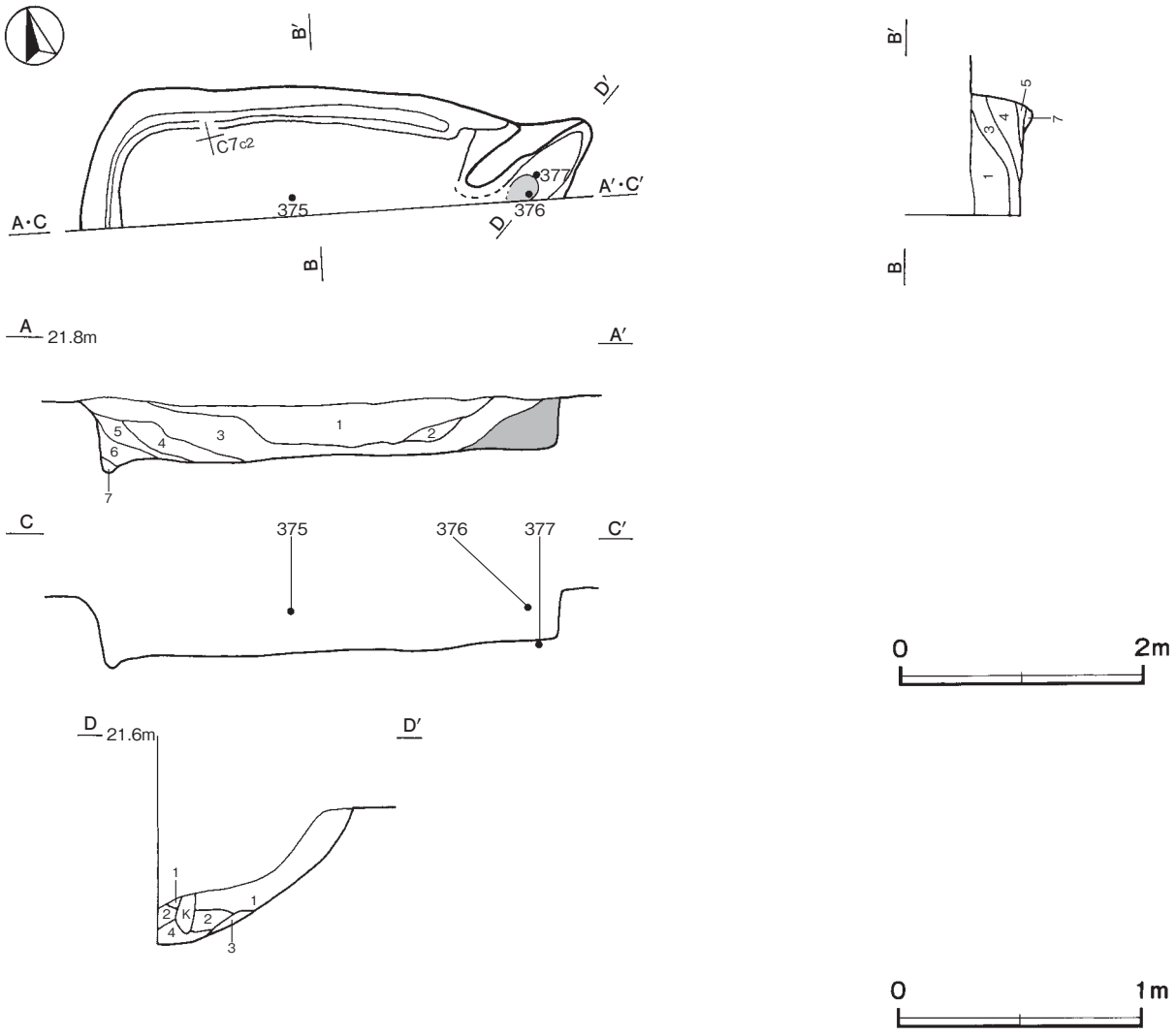
番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 25	支脚	2.3	7.8	7.8	(407.2)	雲母片岩	正面焼けがあまい	竈火床面	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 14	鑿	24.6	3.1	3.7	150.9	鉄	柄の部分の木が残っている　広葉樹コナラ属アカガシ亜属	貯蔵穴底面	PL60
M 15	銅滓	3.6	4.5	1.4	43.7	銅		覆土下層	PL60

第 3162 号竪穴建物跡（第 188･189 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区北部の C 7c2 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。



第 188 図　第 3162 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　南部の大半が調査区域外へ延びているため，南北軸 1.05 m，東西軸 4.00 mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき，東西軸方向はN－80゜－Wである。壁高は 44cmで，ほぼ直立している。

床　確認できた部分は，ほぼ平坦である。確認できた部分の壁下には幅 20cm，深さ８cm，U 字形の壁溝が巡っている。

竈　北東コーナー部に付設されている。規模は，南部が調査区域外に位置しているため，焚口部から煙道部まで 100cmで，燃焼部幅は 40cmしか確認できなかった。袖部は，左袖部の一部しか確認できなかった。火床部は床面を皿状に 10cmほど掘りくぼめ，火正面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック・黄褐色粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　明赤褐色　焼土ブロック中量，黄褐色粘土ブロック少量
3　暗赤灰色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
4　赤灰褐色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量

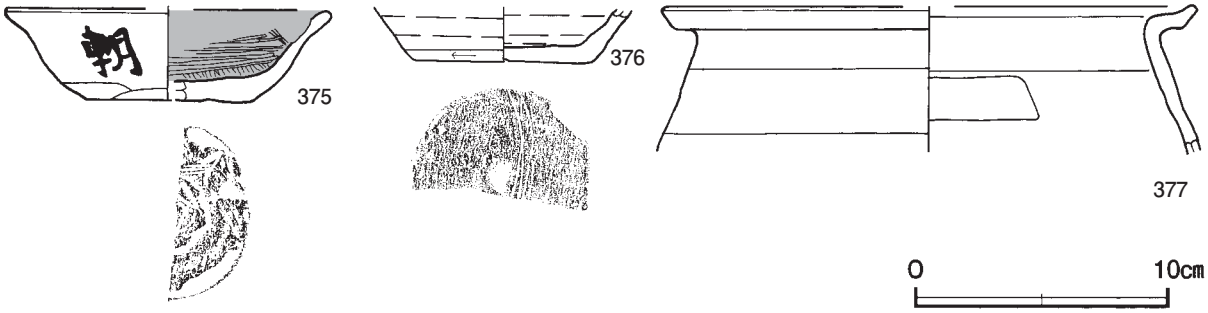
覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　灰黄褐色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 33 点（坏２，甕 31），須恵器片４点（坏１，甕３）が出土している。377 は竈内の覆土下層から，376 は竈内の覆土上層から，375 は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第 189 図　第 3162 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3162 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 189 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
375	土師器	坏	［12.6］	3.6	［6.4］	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り　墨書「朝ヵ」	覆土上層	20%　PL56
376	須恵器	坏	－	（2.1）	7.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ削り	竈覆土上層	20%
377	土師器	甕	［21.0］	（5.8）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り	竈覆土下層	5%

第 3163 号竪穴建物跡（第 190・191 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14区中央部のＣ７j9区，標高22ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　一辺3.30ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－０゜である。壁高は20cmで，直立している。

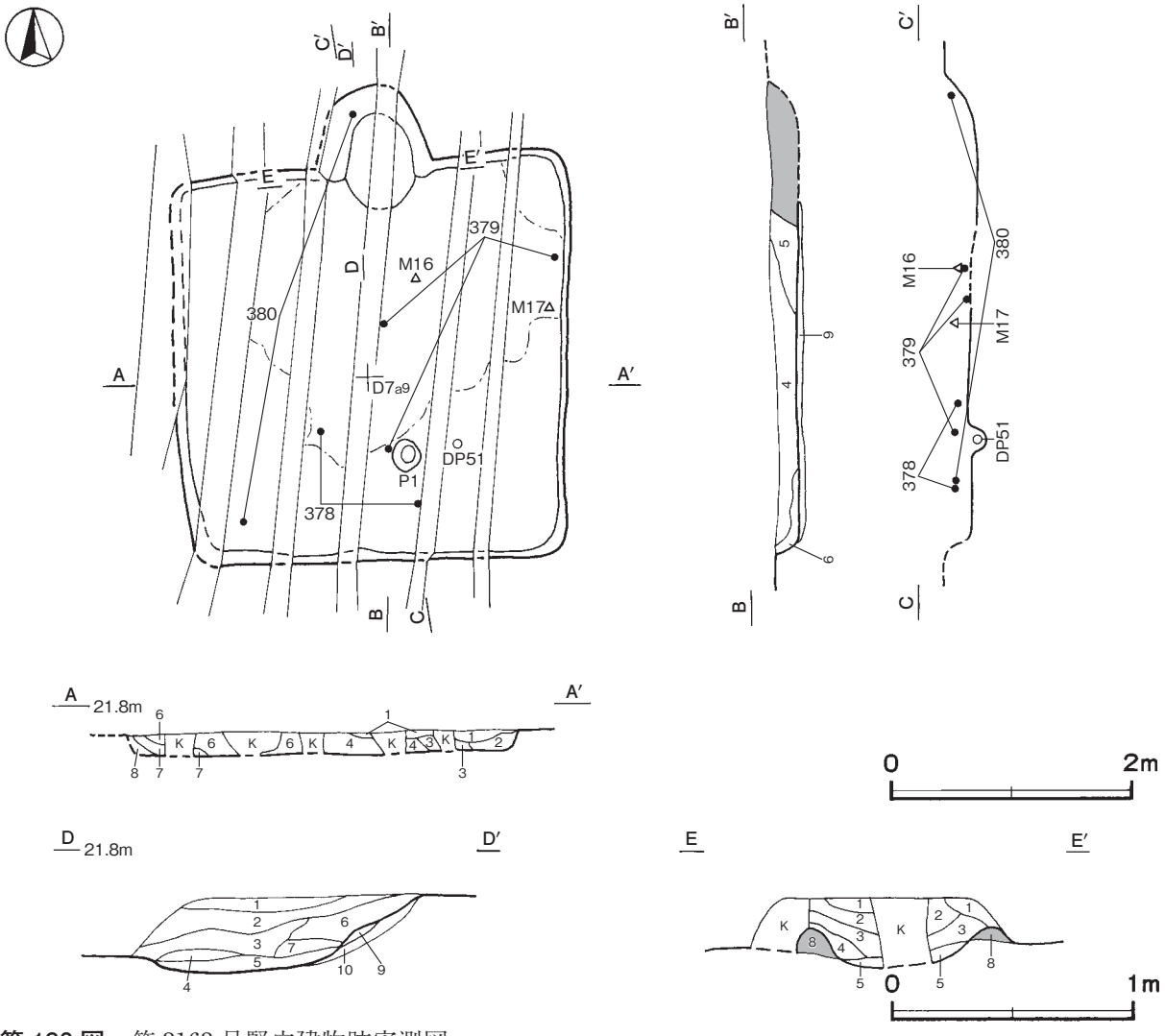
床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から26cm掘り込み，ロームブロック主体の黄褐色土を６cm埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。竈の中央部が南北に撹乱を受けている。規模は焚口部から煙道部まで136cmで，燃焼部幅は65cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さにロームブロックと粘土ブロックを含む第８層を積み上げて構築されている。火床部は床面を皿状に７cm掘り込み，にぶい黄褐色土の第５層を埋土し構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ60cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
5	にぶい黄褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
7	赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量
8	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量，粘土ブロック少量
9	明赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　Ｐ１は深さ14cmで，竈に対し南側にあり，出入り口施設に伴うピットとも考えられる。



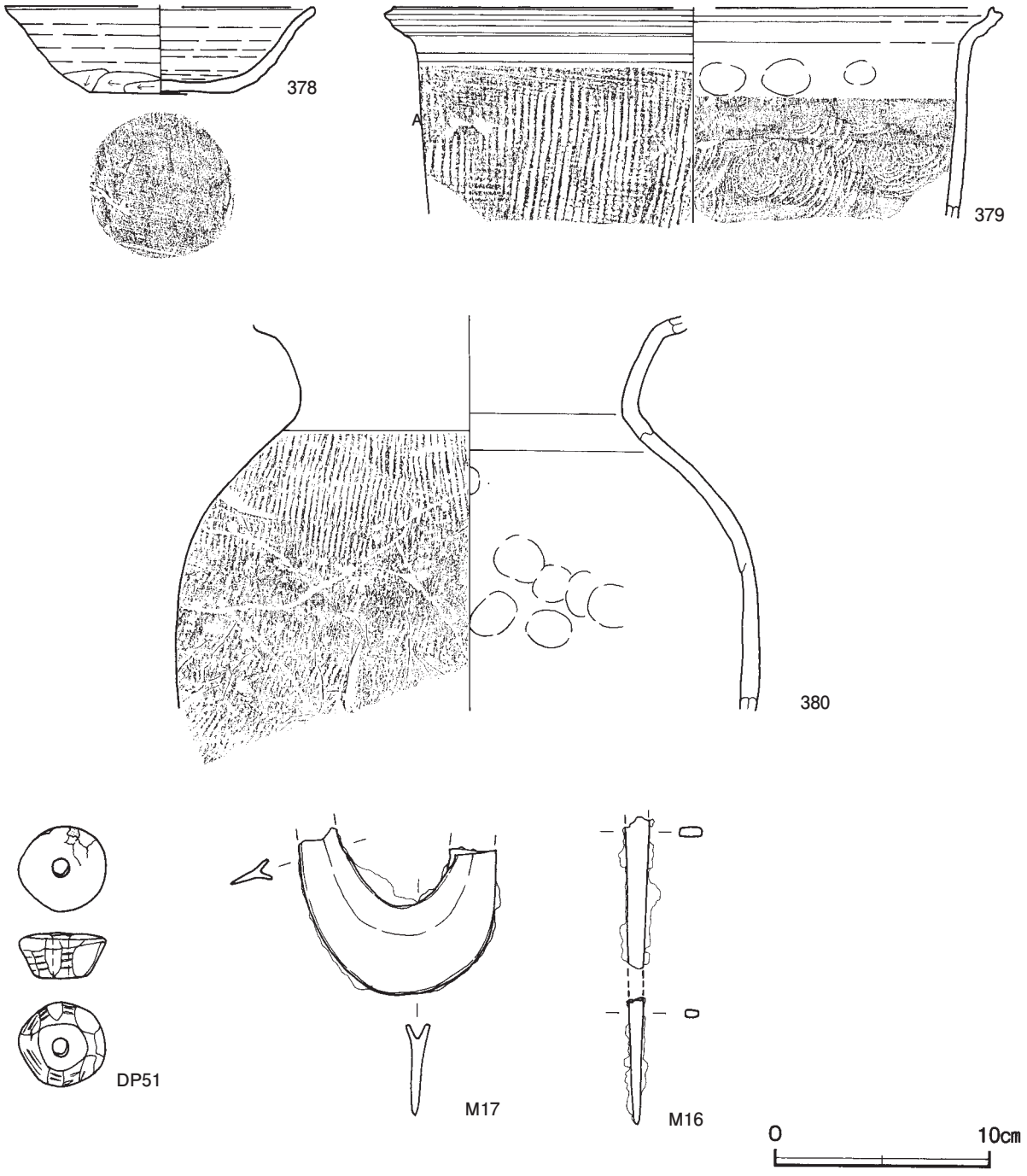
第190図　第3163号竪穴建物跡実測図

覆土　9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　黄　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黄　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量
8　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
9　黄　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片81点（坏23，鉢4，甕54），須恵器片34点（坏6，高台付坏1，鉢1，甕26），土製品2点（支脚，紡錘車），鉄器2点（鏃，鋤先），自然遺物1点（貝）が出土している。DP51は南東部の床



第191図　第3163号竪穴建物跡出土遺物実測図

面から出土している。379 は南部の覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。378 は南部の覆土中層から出土している。380 は竈の覆土中層と南西のコーナー部の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。

第 3163 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 191 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
378	須恵器	坏	〔14.4〕	4.0	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	覆土中層	60%　PL55
379	須恵器	鉢	〔28.0〕	(9.7)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面擬格子目叩き　内面同心円文叩き痕を残しナデ　指頭痕	覆土中層，下層	40%
380	須恵器	甕	－	(18.2)	－	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部外面格子状叩き　内面ナデ　指頭痕	竈覆土中層	20%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP51	紡錘車	4.1	2.2	0.8	32.0	長石・雲母	側面ヘラ削り　一方向からの穿孔	床面	PL58

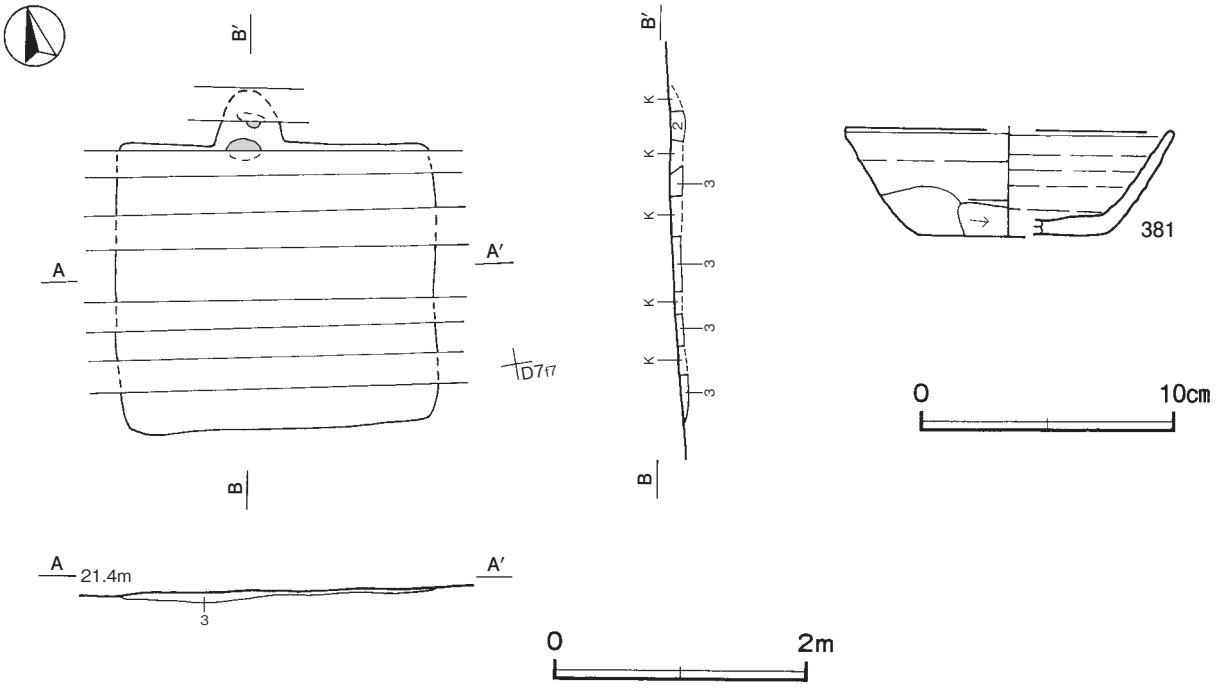
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 16	鏃	(14.4)	(1.1)	0.3～0.5	(17.8)	鉄	鏃身部欠損　鏃身部・茎部断面長方形	覆土中層	PL59
M 17	鋤先	(7.9)	(9.2)	1.0～0.1	(92.1)	鉄	U字状　断面Y字状　身（着装部）の差込式　一部欠損	覆土中層	PL59

第 3168 号竪穴建物跡（第 192 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央部のＤ 7 e6 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南半分は床面が露呈した状態で確認しており，硬化面の広がりや竈の位置から，南北軸 2.30 m，東西軸 2.53 mで長方形と推定できる。主軸方向はＮ－ 10 °－Ｅである。壁高は 4 ～ 9 ㎝で，直立している。



第 192 図　第 3168 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

床　大半は撹乱を受けているが，確認した部分はほぼ平坦である。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は撹乱を受けているため，火床部と煙道部の掘り込みしか確認できなかった。煙道部は壁外へ43㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
3　黄　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片４点(甕)，須恵器片４点(坏１，甕３)が出土している。381は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

第3168号竪穴建物跡出土遺物観察表（第192図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
381	須恵器	坏	［12.9］	4.3	〔7.4〕	長石・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り	覆土中	20%

第3171号竪穴建物跡（第193図）

調査年度　平成24年度

位置　14区中央部のＤ７b4区，標高21ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第3165号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　西部が調査区域外へ延びているため，南北軸は2.84ｍ，東西軸は2.20ｍしか確認できなかった。平面形は長方形あるいは方形と推定でき，南北軸方向はＮ－20゜－Ｅである。壁高は12～26㎝で，直立している。

床　ほぼ平坦で，北部から中央部にかけて踏み固められている。北壁から東壁の中央部の壁下には幅10～18㎝，深さ８～10㎝で，Ｕ字形の壁溝が巡っている。南部は撹乱を受けている。北部の床面で焼土を確認した。調査区域外まで範囲は広がっている。

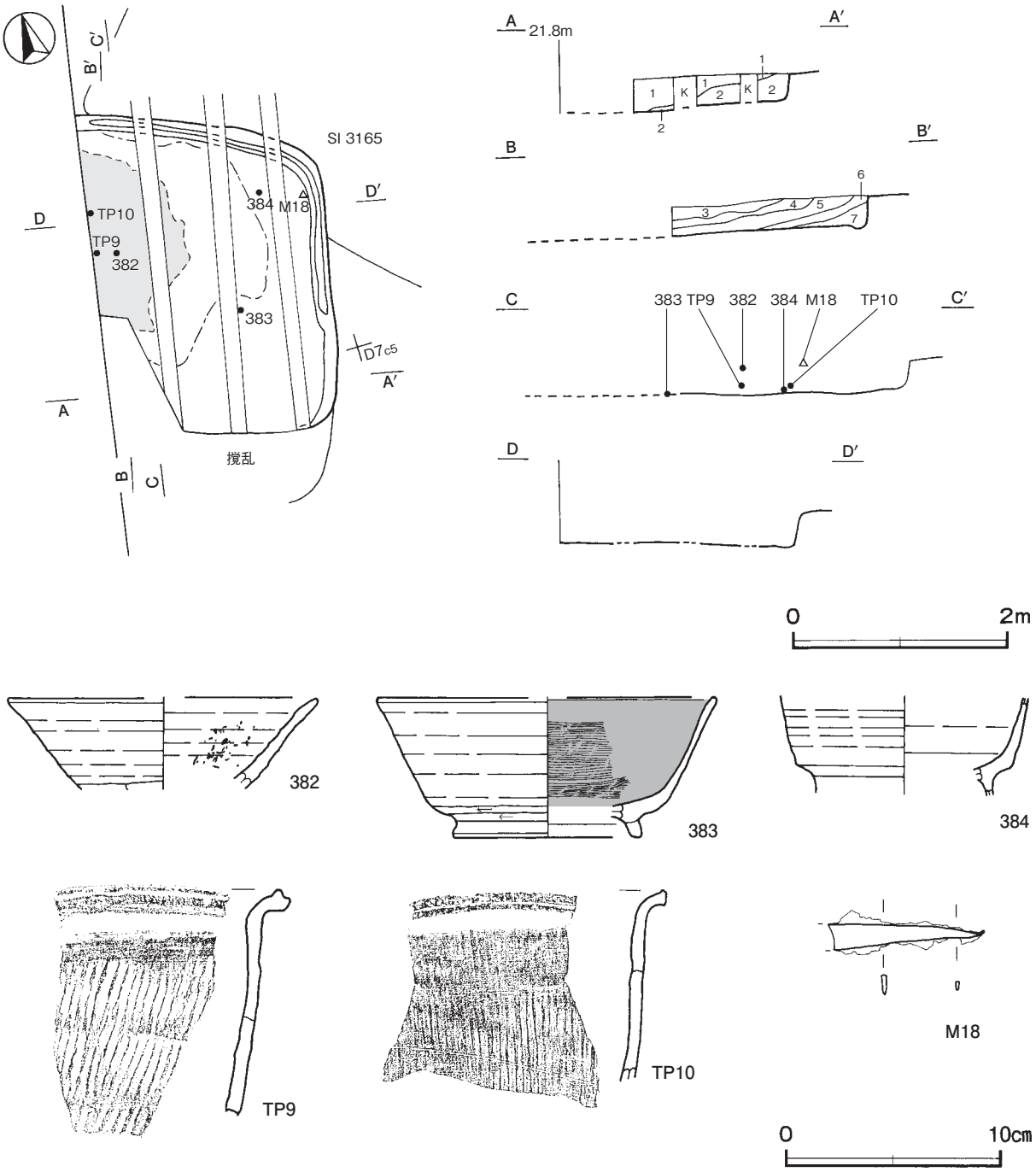
覆土　７層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片177点（坏46，椀２，高台付坏２，甕126，甑１），須恵器片32点（坏８，甕22，甑２），土製品１点（支脚），鉄器２点（刀子，鏃），鉄製品１点（不明）が出土している。383は南部，384は北部の床面からそれぞれ出土している。TP９・10は西部の覆土下層から，382は西部，Ｍ18は北東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第 193 図　第 3171 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 3171 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 193 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
382	須恵器	坏	[14.4]	(4.3)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り	覆土上層	30%
383	土師器	高台付坏	[15.6]	6.5	[8.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り　内面ヘラ磨き　高台貼り付け	床面	20%
384	土師器	高台付坏	－	(4.6)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ	床面	5％

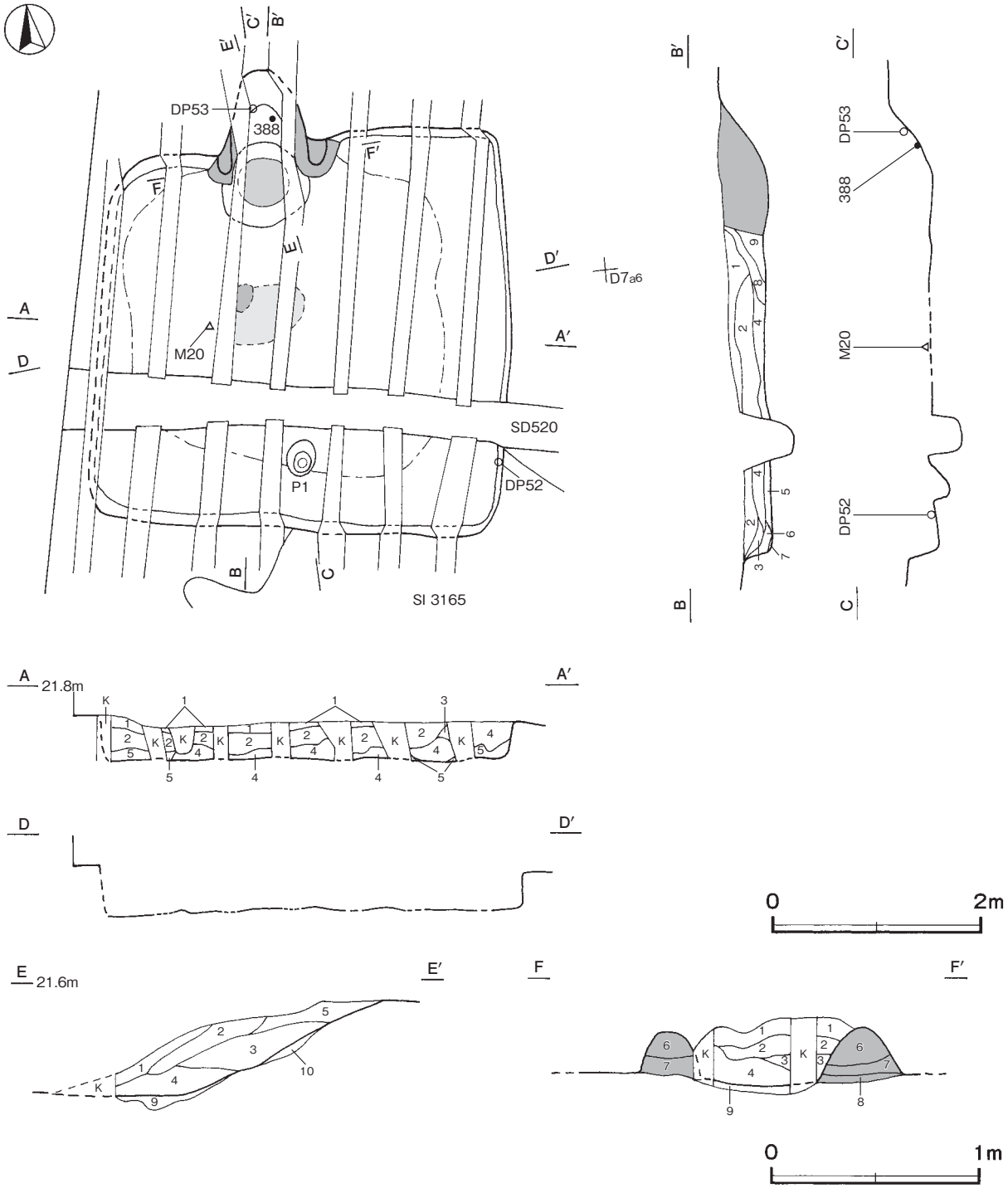
番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 9	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	体部外面斜位平行叩き　内面輪積痕残しナデ	覆土下層	
TP10	須恵器	甕	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良好	体部外面斜位平行叩き　内面輪積痕残しナデ	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M18	刀子	(7.3)	1.2	0.3	(8.65)	鉄	刃部欠損	覆土上層	PL60

第 3172 号竪穴建物跡（第 194・195 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区中央部のＤ 7a5 区，標高 21 mの台地平坦部に位置している。



第 194 図　第 3172 号竪穴建物跡実測図

重複関係　第3165号竪穴建物跡を掘り込み，第520号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西壁が撹乱を受けているため，南北軸3.94ｍで，東西軸3.88ｍしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は24～44cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部に長径115cm，短径80cmほどで楕円形状の焼土と炭化材の範囲を確認した。

竈　北壁やや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで166cmで，燃焼部幅は56cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに粘土ブロックとロームブロックを含む第６～８層を積み上げて構築されている。火床部は床面を皿状に７cm掘りくぼめ，第９層を埋土して構築されている。焚口部の大半は撹乱を受けており，奥壁以外の被熱の様子は確認できない。煙道部は壁外へ70cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
4　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量・炭化粒子微量
6　褐　　色　粘土ブロック多量・ロームブロック少量，焼土ブロック微量
7　黄　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
9　灰　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
10　明赤褐色　ロームブロック多量

ピット　Ｐ１は深さ18cmで，南壁側の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

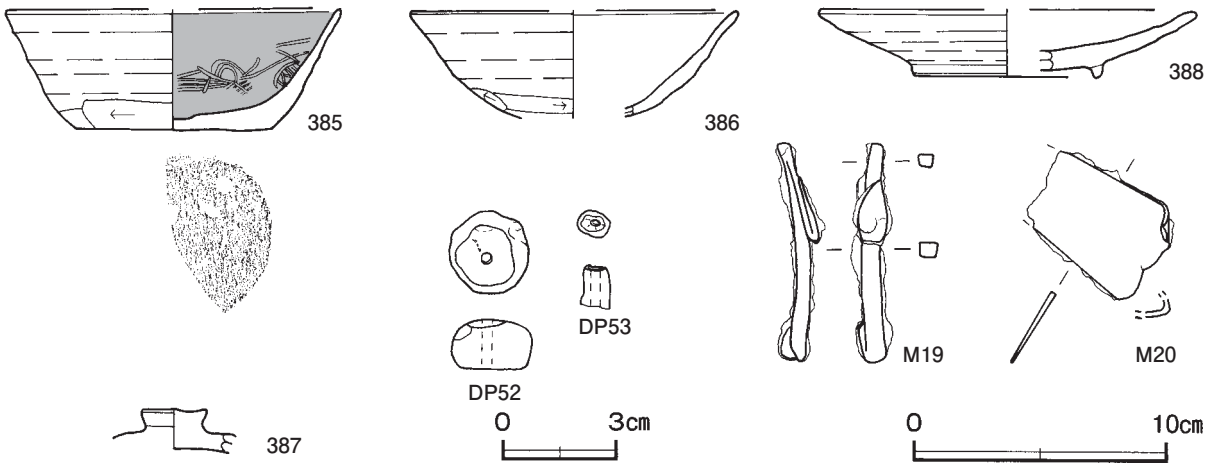
覆土　９層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　褐　灰　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量・焼土ブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
6　灰黄褐色　ローム粒子少量
7　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片222点（坏43，甕179），須恵器片41点（坏14，蓋１，甕26），灰釉陶器１点（高台付皿），土製品２点（土玉，管玉），石器１点（砥石），鉄器３点（鏃１，鎌２），鉄製品１点（不明），鉄滓（1,280g）が，中央部の覆土中層から床面にかけて出土している。388・DP53は竈の煙道部の傾斜面から，Ｍ20は中央部の床面から出土している。385は竈の覆土中から，386は竈の覆土中と北西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第195図　第3172号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3172 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 195 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
385	土師器	坏	［13.3］	4.7	［7.8］	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り　内面丁寧なヘラ磨き	竈覆土中	40%
386	須恵器	坏	［13.0］	（4.2）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ　下端ヘラ削り　内面ナデ	竈覆土中	30%
387	須恵器	蓋	－	（1.7）	－	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5％
388	灰釉陶器	高台付皿	［15.2］	2.7	［7.6］	長石・石英	にぶい黄橙	良好	内面自然釉　高台貼り付け	竈覆土下層	40%　三河二川窯

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP52	土玉	2.1	1.3	0.3	7.16	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	床面	
DP53	管玉	0.8	1.2	0.2	0.55	－	ナデ　一方向からの穿孔	竈覆土中層	PL57

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 19	鏃	（8.8）	0.8	0.6	（27.5）	鉄	断面方形　鏃身部折れ曲がる　茎部欠損	床面	PL59
M 20	鎌	（5.2）	（3.7）	0.15	（17.5）	鉄	刀部・柄付部一部欠損	床面	PL60

表 22　平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	（cm）			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2417	C8d6	N－6°－W	長方形	3.60 × 3.08	31 ～ 36	平坦	ほぼ全周	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片	9 世紀前葉	TP8 →本跡 →SD136，SK3313
3038	B8e6	N－4°－W	方形	2.96 × 2.85	8	平坦	－	－	－	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品	9 世紀中葉	
3039	B8e9	N－3°－E	［長方形］	（3.30）×（2.75）	－	－	－	4	1	1	竈 1	－	人為	－	9 世紀代	本跡→ SK6552・6553・6555
3056	B8d1	N－5°－W	長方形	4.07 × 3.01	7 ～ 23	平坦	ほぼ全周	－	2	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，石器	8 世紀後葉～9 世紀前葉	本跡→ SK6691・6692
2410	C8g5	N－3°－E	［方形］	3.72 ×（3.65）	50 ～ 55	平坦	ほぼ全周	－	1	1	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，石器，鉄器	9 世紀前葉	
3072	D8a4	N－2°－W	長方形	3.57 × 3.24	29	平坦	ほぼ全周	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片	9 世紀後葉	
3073	D8b1	N－7°－E	［方形・長方形］	（2.88）×（2.75）	12 ～ 18	平坦	－	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片	9 世紀中葉	
3074	D8c4	N－2°－W	長方形	3.80 × 3.44	26 ～ 35	平坦	－	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄器，鉄製品	9 世紀中葉	SK2423 →本跡 →SD520・521
3161	C8a1	N－7°－E	長方形	3.33 × 2.54	20 ～ 29	平坦	全周	－	1	3	竈 1	1	人為	土師器片，須恵器片，石製品，鉄製品，鉄滓，銅滓	9 世紀後葉	本跡→ SD582
3162	C7c2	N－80°－W	［方形・長方形］	（4.00）×（1.05）	44	平坦	一部	－	－	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片	9 世紀中葉	
3163	C7i9	N－0°	方形	3.30 × 3.25	20	平坦	－	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，貝	9 世紀中葉	
3168	D7e6	N－10°－E	［長方形］	2.53 × 2.30	4 ～ 9	平坦	－	－	－	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片	9 世紀前葉	
3171	D7b4	N－20°－E	［方形・長方形］	（2.84）×（2.20）	12 ～ 26	平坦	半周	－	－	－	－	－	自然	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品，鉄器	9 世紀中葉	SI3165 →本跡
3172	D7a5	N－3°－W	［方形・長方形］	（3.94）× 3.88	24 ～ 44	平坦	-	－	1	－	竈 1	－	人為	土師器片，須恵器片，土製品，石器，灰釉陶器，鉄製品，鉄滓	9 世紀中葉	SI3165 → 本跡→ SD520

（2）　土坑

第 7337 号土坑（第 196 図）

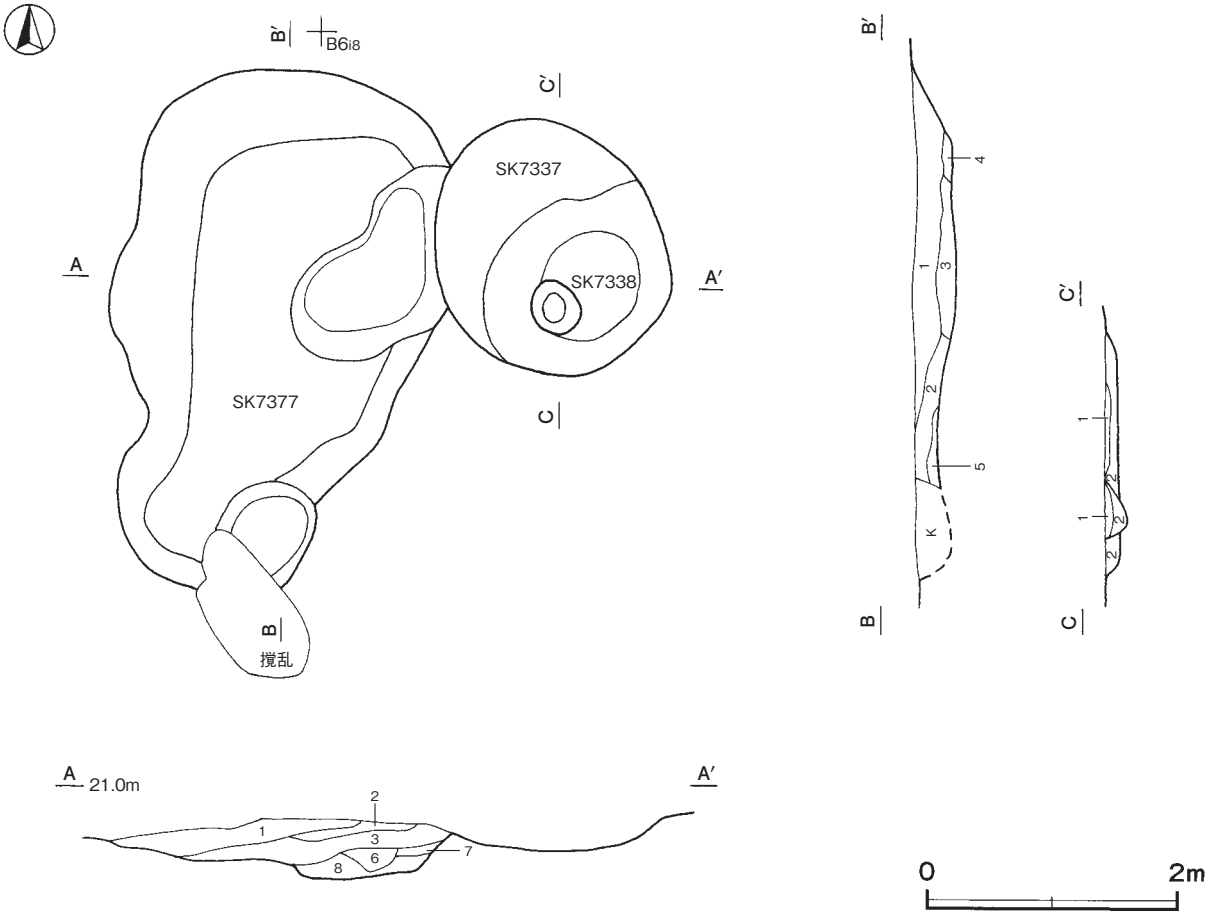
調査年度　平成 24 年度

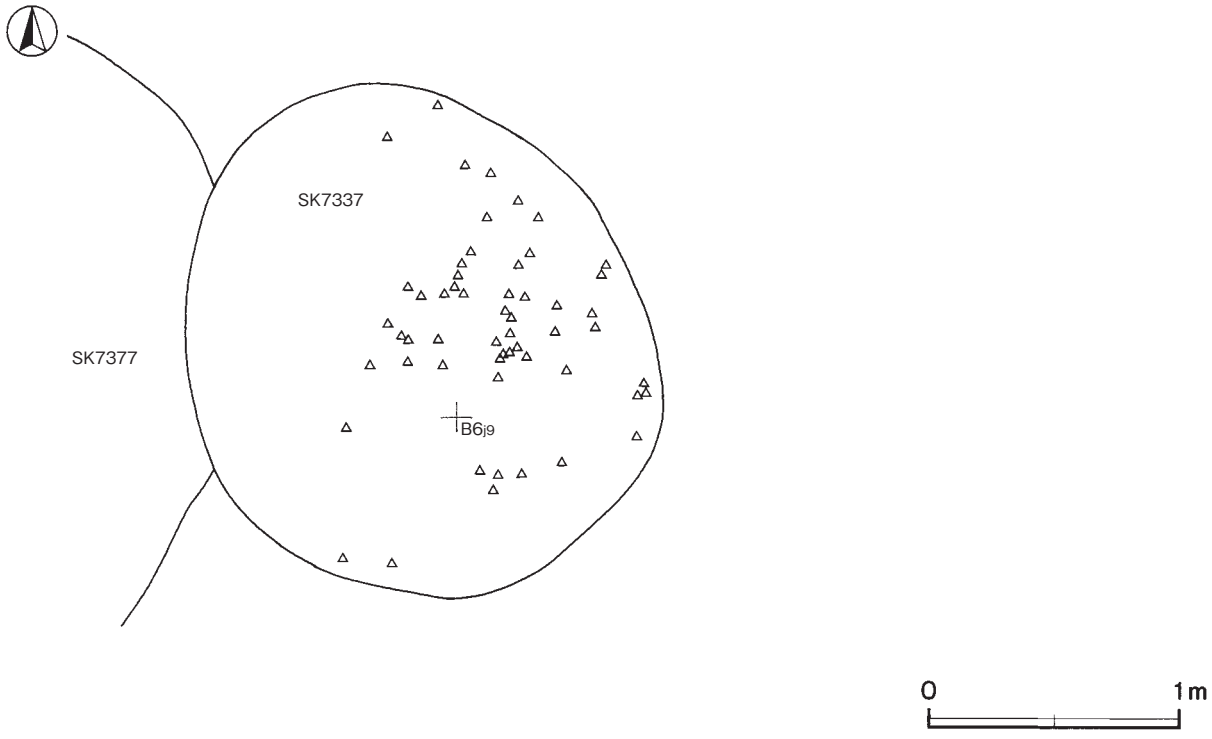
位置　14 区北西部のＢ 6i8 区，標高 21 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 7377 号土坑を掘り込み，第 7338 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径 2.05m，短径 1.86m の楕円形で，長径方向はＮ－ 45°－ Ｗ である。深さは 25 ～ 30㎝で，底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。





第 196 図　第 7337・7338・7377 号土坑実測図

土層解説
1　灰黄褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量　　2　黄　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 10 点（坏１，甕９），鉄滓総量（8,220g）が，覆土中から出土している。土器は，いずれも細片のため図示できない。鉄滓は覆土上層から下層にかけて出土しているが，本跡の周囲，南北 8.3m，東西４ｍの範囲からも散在して出土している。

所見　鉄滓が多数投棄されている状況から廃棄土坑と考えられる。当調査区からは鍛冶に関わる遺構は確認されていないが，南側の調査区域外に鍛冶に関わる遺構が存在する可能性がある。時期は、本跡から 15 ｍ北にあたる平安時代に機能していた第 580 号溝跡からも鉄滓が出土していることから，同時期に機能していた可能性があるが，詳細は不明である。

第 7338 号土坑（第 196 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区北西部のＢ６j8 区，標高 21 ｍほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 7337 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.46m，短径 0.40m の楕円形で，長径方向はＮ－ 23°－Ｅである。深さは 18㎝で，底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　灰　黄　色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量　　2　にぶい黄褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

所見　時期は重複関係から，平安時代と考えられる。性格は不明である。

第 7350 号土坑（第 197 図）

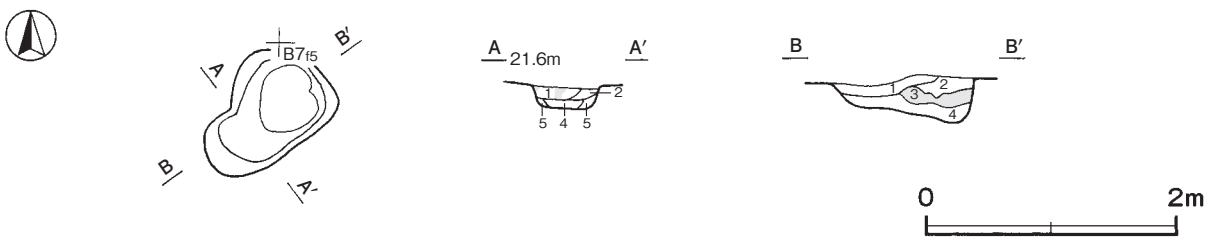
調査年度　平成 24 年度

位置　14 区北部のＢ７f5 区，標高 21 ｍほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長径 1.15m，短径 0.78m の不整楕円形で，長径方向はＮ－ 55°－Ｅである。深さは 18 ～ 35㎝で，底面は凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層できる。焼土ブロックが覆土上層と中層に含まれることから埋め戻されている。第３層からは，多量の焼土ブロックを確認した。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　明赤褐色　焼土ブロック多量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量



第 197 図　第 7350 号土坑実測図

遺物出土状況　須恵器片１点（坏），焼土ブロック（239.3g）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土した須恵器片の特徴から平安時代と考えられる。性格は不明であるが，本跡の底面や壁面は被熱痕が認められないことから，焼土ブロックは第４層上に埋められたものである。

第 7377 号土坑（第 196 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区北西部のＢ６i7 区，標高 21 ｍほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 7337 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径 4.23m，短径 2.52m の不整楕円形で，長径方向はＮ－ 19°－Ｅである。深さは 17 ～ 35㎝で，東部底面に長径 1.82 m，短径 0.96 m，深さ 35 ～ 43㎝の不整楕円形の掘り込みがある。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　８層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　灰　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　明 黄 褐 色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック多量
7　黄　褐　色　ロームブロック多量，黒色土ブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片３点（甕），鉄滓総量（3,500g）が，覆土中から出土している。土器は，いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は、本跡から 15 m北にあたる平安時代に機能していた第 580 号溝跡から鉄滓が出土していることから，同時期に機能していた可能性があるが，詳細は不明である。性格は，鉄滓の出土量から廃棄土坑と考えられる。

表 23　平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
7337	B6i8	Ｎ－ 45°－ W	楕円形	2.05 × 1.86	25 ～ 30	皿状	緩斜	人為	土師器片，鉄滓	SK7377 →本跡 → SK7338
7338	B6j8	Ｎ－ 23°－ E	楕円形	0.46 × 0.40	18	皿状	緩斜	自然		SK7337 →本跡
7350	B7f5	Ｎ－ 55°－ E	不整楕円形	1.15 × 0.78	18 ～ 35	凸凹	外傾	人為	須恵器片	
7377	B6i7	Ｎ－ 19°－ E	不整楕円形	4.23 × 2.52	17 ～ 35	平坦	緩斜	人為	土師器片，鉄滓	本跡→ SK7337

（3）　溝跡

第 580 号溝跡（第 198 ～ 201 図・付図２）

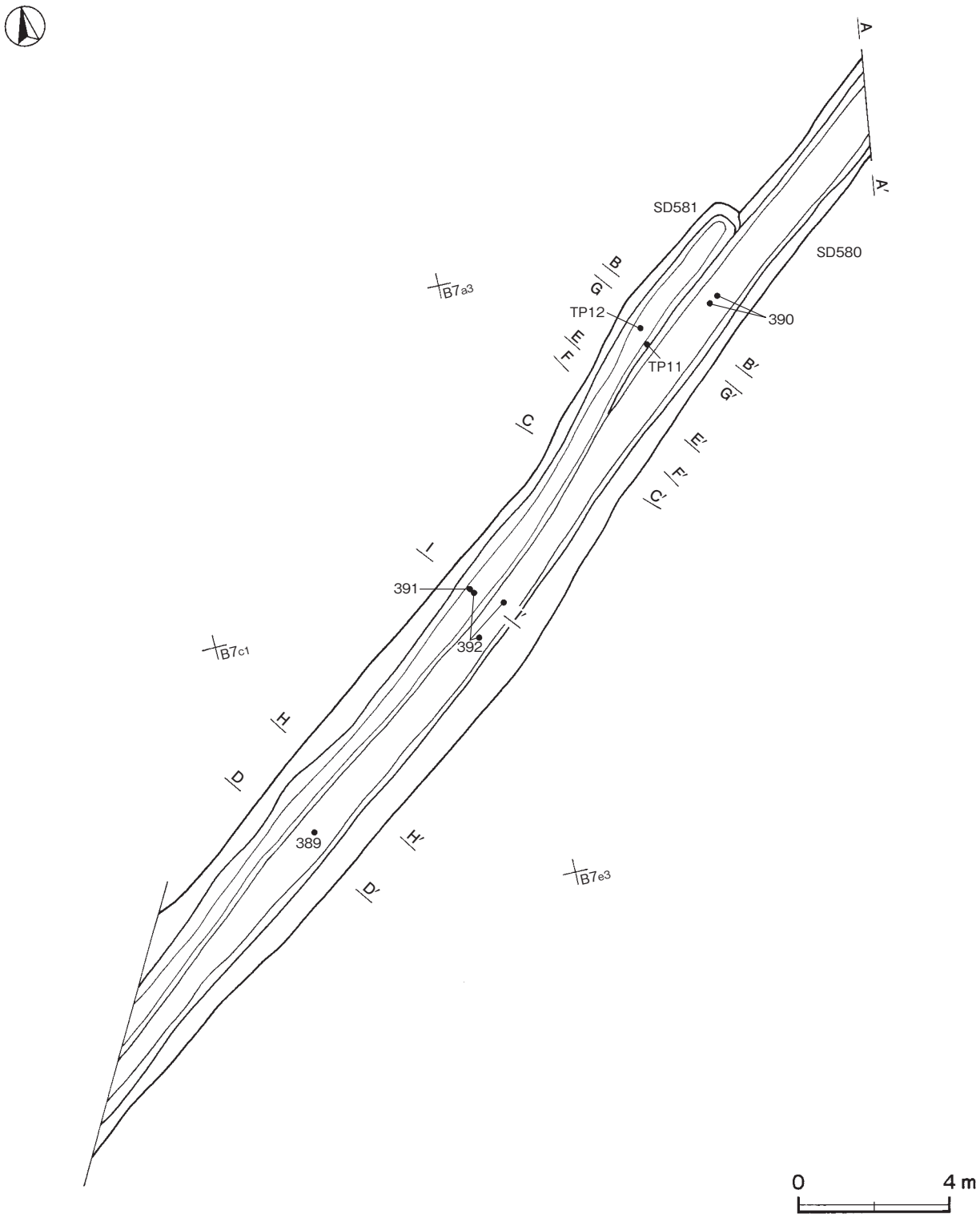
調査年度　平成 24 年度

位置　14 区北西部のＡ７j5 ～Ｂ 6i7 区，標高 21 ｍほどの台地縁辺部の傾斜地に位置している。

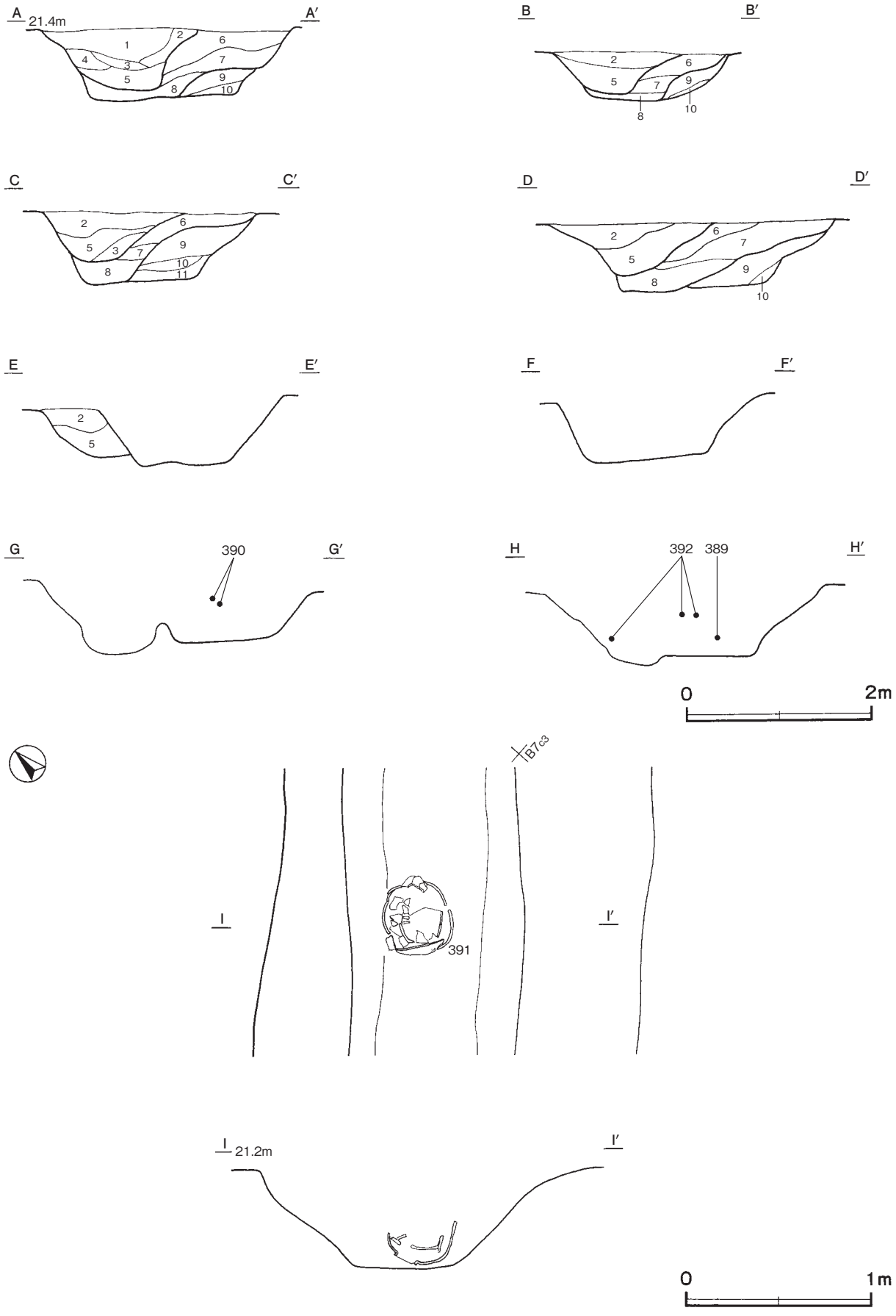
重複関係　第 581 号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｂ７e0 区から北東方向（Ｎ－ 54°－ Ｅ）に直線的に延びている。規模は，北東端と南西端が調査区域外に延びるため，長さは 33.6m しか確認できなかった。北東部の A7j5 区で上幅 1.8 ｍ，中段部幅 1.3 m，下幅 0.94 ｍを測り，断面形は逆台形状である。土層断面の観察から，Ⅰ～Ⅲ期に分かれることを確認した。各次期の規模は，Ⅰ期は上幅 1.9 ～ 3.0m，下幅 0.5 ～ 0.7 m，深さ 50 ～ 70㎝の逆台形で，Ⅱ期は上幅 1.9 ～ 3.0 m，中段幅 1.2 ～ 1.5 m，下幅 0.38 ～ 0.75 m，深さ 52 ～ 76㎝逆台形状で，Ⅲ期は上幅 1.46 ～ 1.72 m，中段幅 1.03 ～ 1.2 m，下幅 0.22 ～ 0.52 m，深さ 40 ～ 50㎝の逆台形である。壁面はⅠ期は外傾して立ち上がる。Ⅱ期は中

位に段を有し，緩やかに外傾して立ち上がっている。A7j5 区から南西に 12 m離れた B7b3 区で，本溝は西に寄り第 581 号溝を大きく掘り込んでいる。A7j5 区から南西 24 mのＢ 7 d1 区でⅠ期は深さ 68㎝で，壁は外傾して立ち上がる。Ⅱ期は深さ 73㎝で緩やかに立ち上がっている。北東部の A7j5 区と南西部のＢ 6 e0 区との高低差は 40㎝で溝底は北東から南西に流れる様相を呈している。



第 198 図　第 580・581 号溝跡実測図



第 199 図　第 580 号溝跡実測図

覆土　11層に分層できる。ロームブロック・ローム粒子を含むが，堆積状況から自然堆積と考えられる。第580号溝のⅠ期は第９～11層で，Ⅱ期は第６～８層，Ⅲ期は第１～５層である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　褐　灰　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　にぶい褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化物少量
5　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　灰　色　ロームブロック微量
8　灰 黄 褐 色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片220点（坏11，甕208，小形甕１），須恵器片25点（坏３，長頸瓶１，甕21），緑釉陶器片１点（皿），鉄滓１点（126.3g）が覆土中から出土している。 389は南西部（B7d1区）でⅠ期の覆土下層から出土している。390は北東部（B7a4区）でⅡ期の覆土上層から，392は中央部（B7c2区）でⅡ期の覆土中層から出土している。391は中央部（B7c2区）のⅢ期の底面から逆位の状態で出土している。

所見　時期は，Ⅰ期の溝は出土土器及び重複関係から９世紀前葉以降に機能し，Ⅲ期の溝は底面から出土した須恵器甕（391）から９世紀後葉には廃絶されたと考えられる。Ⅰ～Ⅲ期の土層の観察状況からみて，北西側に順次掘り替えされている。Ⅰ期とⅡ期の規模及び形状はほぼ同様であり，Ⅱ期の溝は，Ⅰ期の溝を意識して掘り替えされたと考えられる。Ⅲ期の溝は，Ⅱ期の溝の堆積状況や規模が縮小されていることからみて，Ⅱ期の溝がその機能を果たさなくなった後に，掘削されたと考えられる。溝の性格は，Ⅰ～Ⅲ期とも当集落を区画する溝と考えられる。また，南西方向に傾斜していることから，排水の機能も備えていたと考えられる。なお，同台地状に位置する13区にも本溝と規模や性格が近似する第114･120号溝が『第264集』で報告されている。ほぼ同じ時期に当地区の北部地域を大きく区画するような機能を有していた可能性も考えられる。

第580号溝跡出土遺物観察表（第200・201図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
389	土師器	甕	［29.6］	［33.4］	10.7	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ナデ	Ⅰ期覆土下層	40%
390	土師器	甕	［22.0］	（7.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面ナデ	Ⅱ期覆土上層	5%
391	須恵器	甕	－	（37.5）	［19.0］	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面上部横位の平行叩き　下部縦位の平行叩き　下端ヘラ削り	Ⅲ期底面	80% SI3160と接合　PL55
392	土師器	小形甕	［11.4］	13.6	7.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部下端ヘラ削り	Ⅱ期覆土中層	30%　油煙付着

第581号溝跡（第198・202図・付図２）

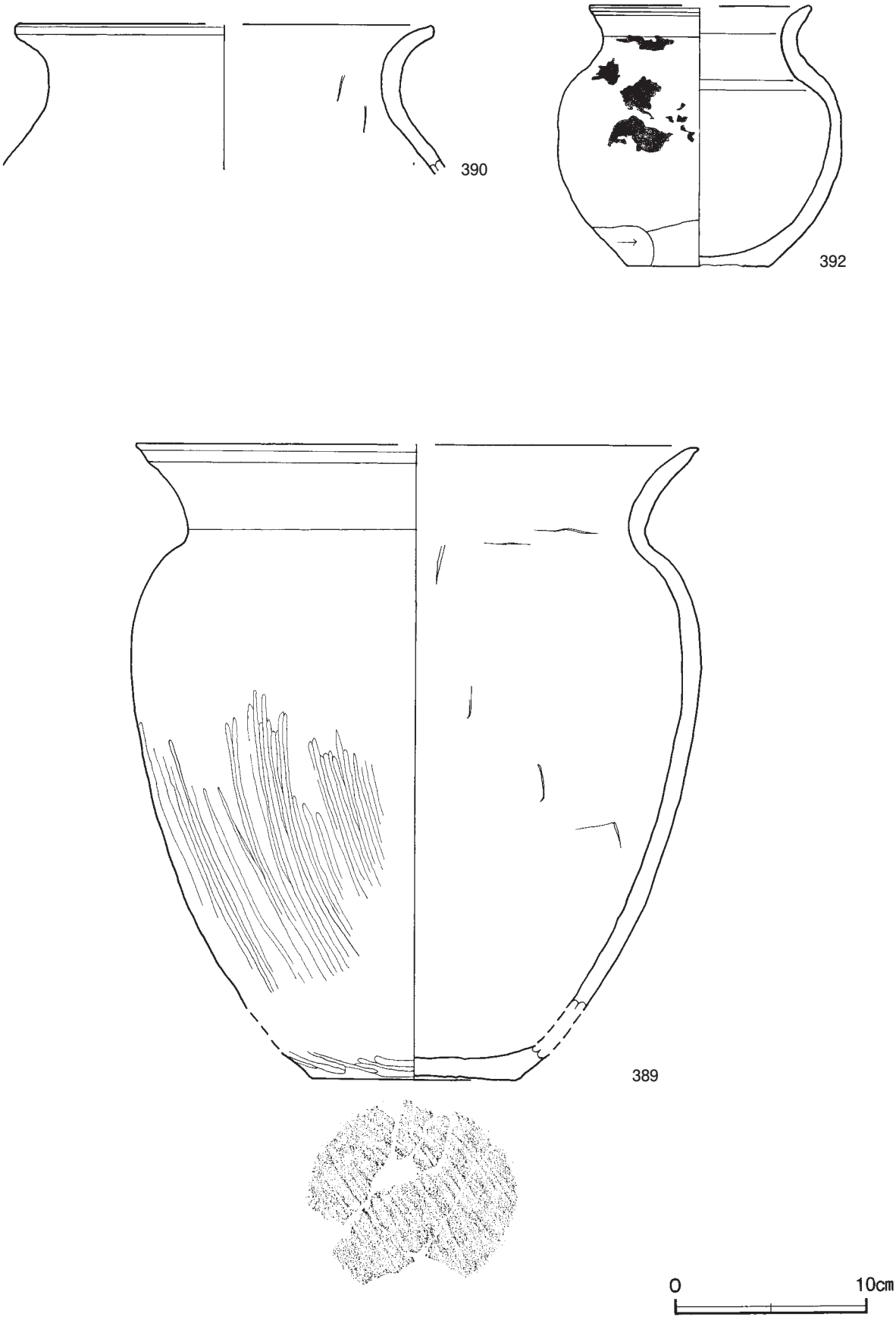
調査年度　平成24年度

位置　14区北西部のＢ７a4～Ｂ6d0区，標高21ｍほどの台地縁辺部の傾斜地に位置している。

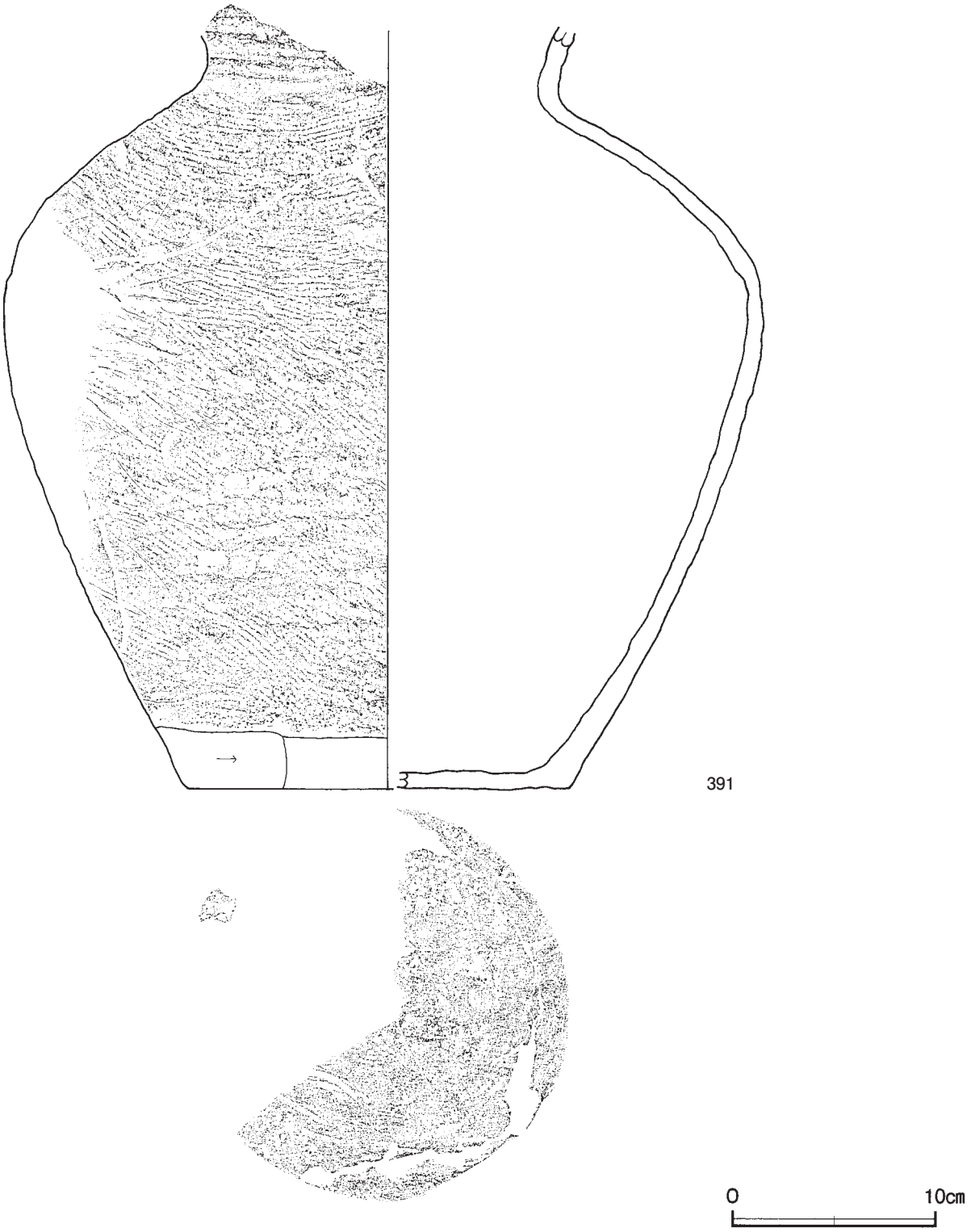
確認状況　Ｂ７b3区付近で上層部から下層部まで第580号溝（Ⅰ～Ⅲ期）に掘り込まれ，それ以南は最下層部の底部がわずかに確認できるだけである。

重複関係　第580号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北西部のＢ７a4区で確認された本跡は，南西端部が調査区域外に延びているため，長さは，26.6mしか確認できなかった。南西方向（Ｎ－52°－Ｅ）へ直線的に延びている。規模は，Ｂ７a4区で南東部の上層部が第580号溝に掘り込まれているため，確認できた上幅は1.2ｍ，下幅は60㎝である。深さは72㎝で，



第 200 図　第 580 号溝跡出土遺物実測図（1）



第 201 図　第 580 号溝跡出土遺物実測図（2）

底面は平坦である。断面形は逆台形状で，壁は緩やかに立ち上がっている。北東端部と南西端部での比高差は30cmあり，南西端部に向かって傾斜している。

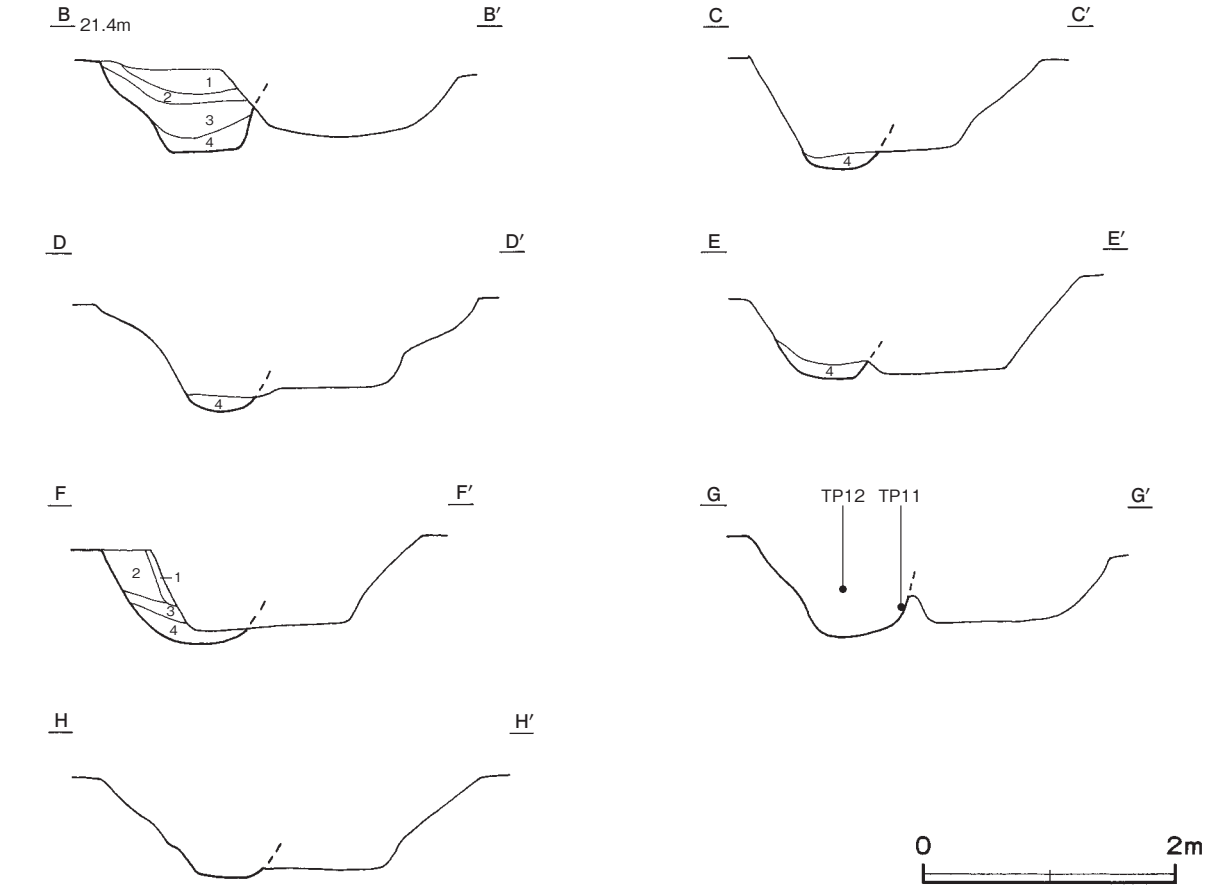
覆土　４層に分層できる。ロームブロック･ローム粒子を含むが，レンズ状の堆積状況を示していることから，自然堆積と考えられる。

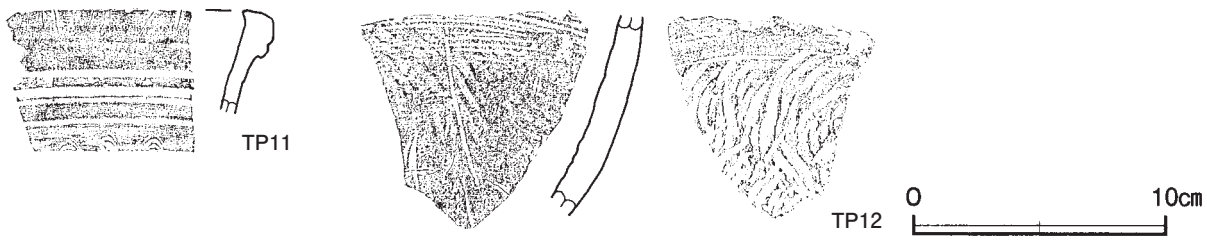
土層解説

1　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　灰 黄 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　灰　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 15 点（坏２，甕 13），須恵器片８点（坏５，甕３），鉄滓１点（8.2g）が出土している。TP12 は北東部（B 7a4 区）の覆土中層から出土している。

所見　当遺跡の最西端に位置しており，集落の西部を区画する溝と考えられる。また，底部は南西方向に向かって傾斜していることから，排水の機能を備えていたと考えられる。時期は，出土土器や重複関係から８世紀代から機能し，９世紀初頭には廃絶したと考えられる。





第 202 図　第 581 号溝跡・出土遺物実測図

第 581 号溝跡出土遺物観察表（第 202 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP11	須恵器	甕	長石	淡黄	普通	口縁部外・内面ナデ　折り返し口縁　ヘラ状工具により下段沈線　頸部ヘラ状工具により平行沈線　櫛描波状文	覆土中層	
TP12	須恵器	甕	長石・石英	灰	普通	外面自然釉　内面当て具痕	覆土中層	

表 24　平安時代溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	平面形	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ（m）	上幅（m）	下幅（m）	深さ（cm）					
580	A7j5 ～ B6e9	N － 54° － E	直線	（33.6）	1.46 ～ 3.00	0.22 ～ 0.94	40 ～ 76	逆台形	緩斜 外傾	自然 人為	土師器片，須恵器片，緑釉陶器片，鉄滓	SD581 →本跡
581	A7a4 ～ B6d0	N － 52° － E	ほぼ直線	（26.6）	1.20	0.60	72	逆台形	緩斜	自然	土師器片，須恵器片，鉄滓	本跡→ SD580

5　室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，方形竪穴遺構６基，掘立柱建物跡２棟，井戸跡１基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

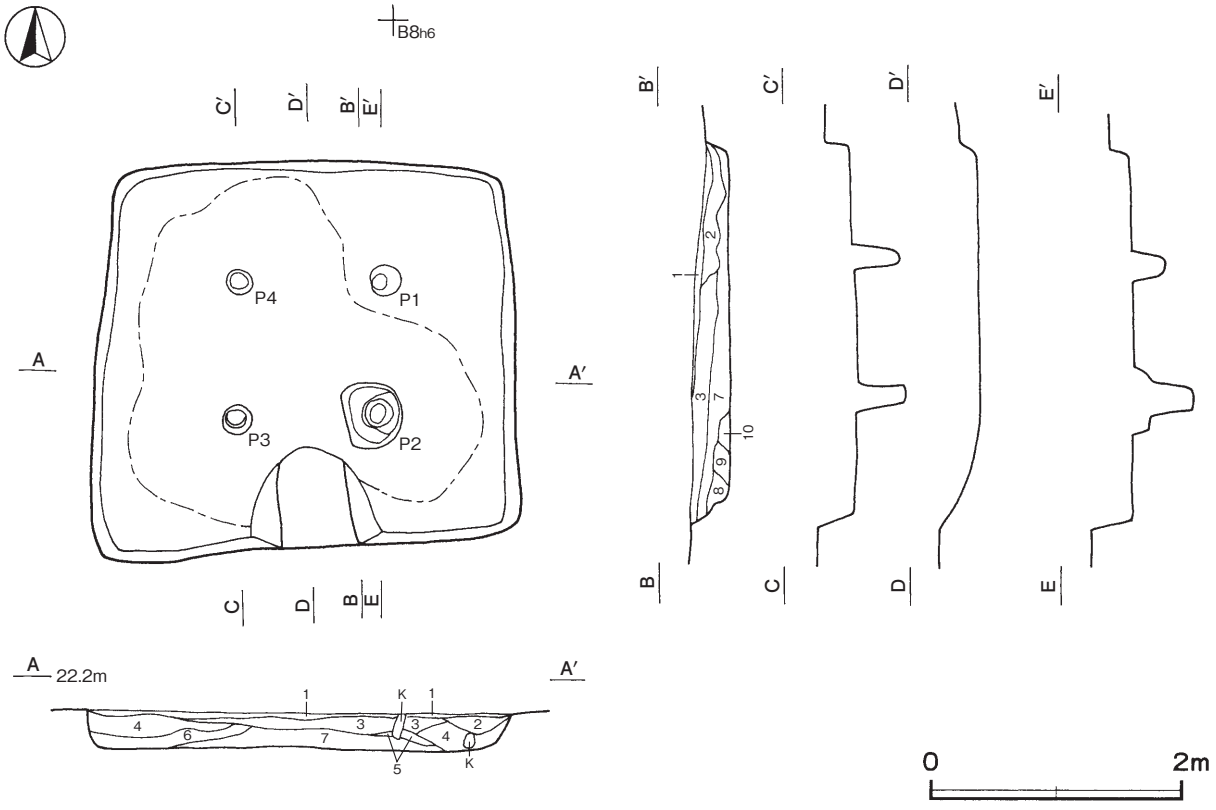
(1)　方形竪穴遺構

第 90 号方形竪穴遺構（第 203 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ８h5 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 3.36 ｍ，短軸 3.07 ｍの方形で，長軸方向はＮ－ 88 °－Ｅである。壁高は 15 ～ 35㎝で，外



第 203 図　第 90 号方形竪穴遺構実測図

傾して立ち上がっている。また，南壁際の中央部には，第８～10層を積み上げたスロープがあり，出入り口施設と考えられる。

床　ほぼ平坦で，北から南に向かって緩やかに下がっており，中央部が踏み固められている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ20～50cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
10　褐　　色　ロームブロック多量

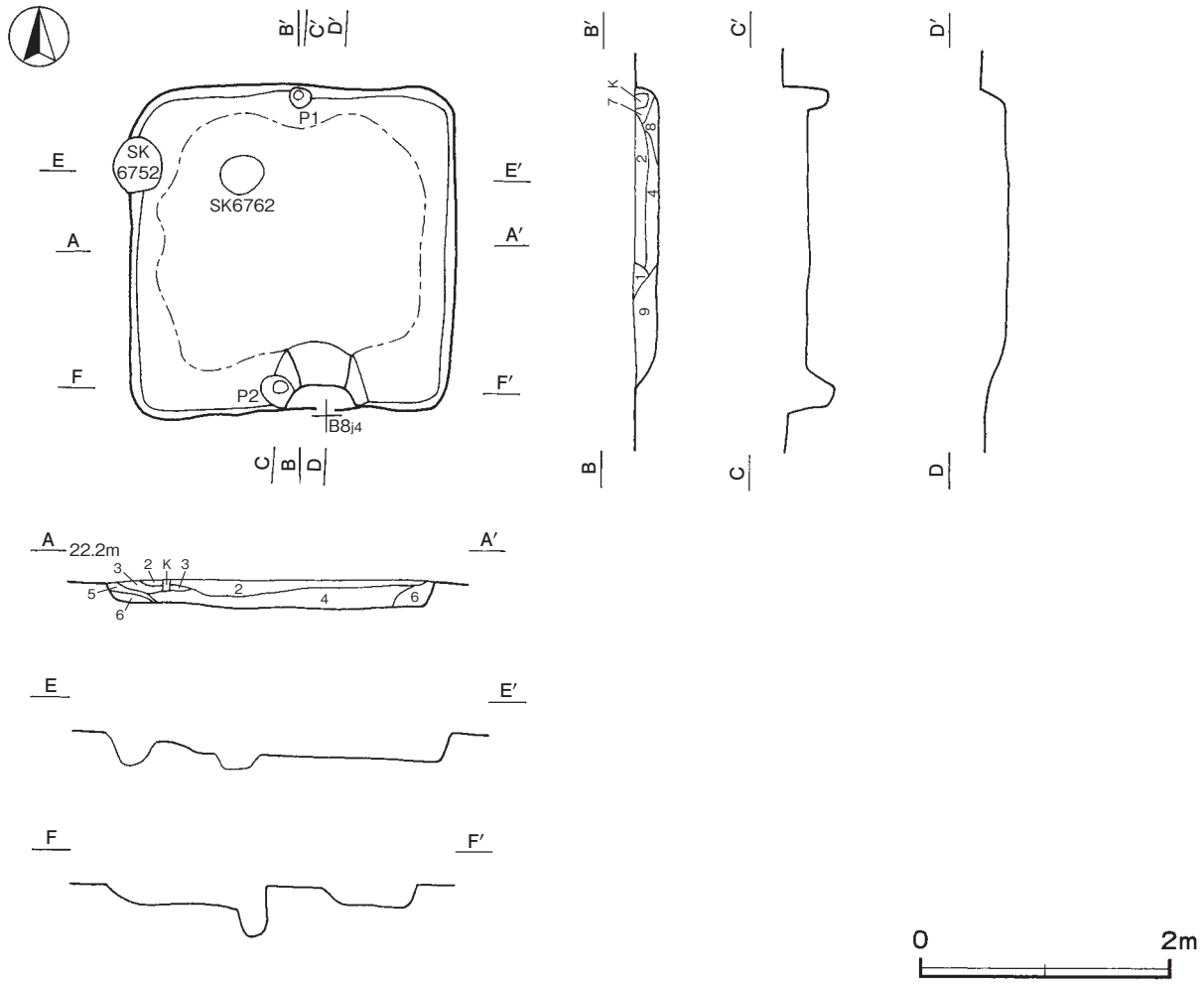
遺物出土状況　土師器片11点（甕），磁器片１点（碗）が出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から室町時代と考えられる。

第91号方形竪穴遺構（第204図）

調査年度　平成21年度

位置　14区北部のＢ８i3区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第204図　第91号方形竪穴遺構実測図

重複関係　第6752・6762号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.62ｍ，短軸2.60ｍの方形で，長軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁高は14～18㎝で，外傾して立ち上がっている。また，南壁際の中央部には地山を掘り残したスロープがあり，出入り口施設と考えられる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ26㎝・14㎝で，南壁と北壁下の中央部に位置していることから，柱穴と考えられる。

覆土　９層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片７点（甕），陶器片１点（七輪）が出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から室町時代と考えられる。

第92号方形竪穴遺構（第205図）

調査年度　平成21年度

位置　14区北部のＢ８j3区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸2.85ｍ，短軸2.72ｍの方形で，長軸方向はＮ－92°－Ｗである。壁高は39～41㎝で，直立している。東壁際の中央部には，壁外に20㎝ほど張り出し，第14・15層を積み上げたスロープがあり，出入り口施設と考えられる。

床　ほぼ平坦で，東壁から西壁に向かって緩やかに下がっており，中央部が踏み固められている。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ42㎝・40㎝で，東壁と西壁下の中央部に位置していることから，柱穴と考えられる。

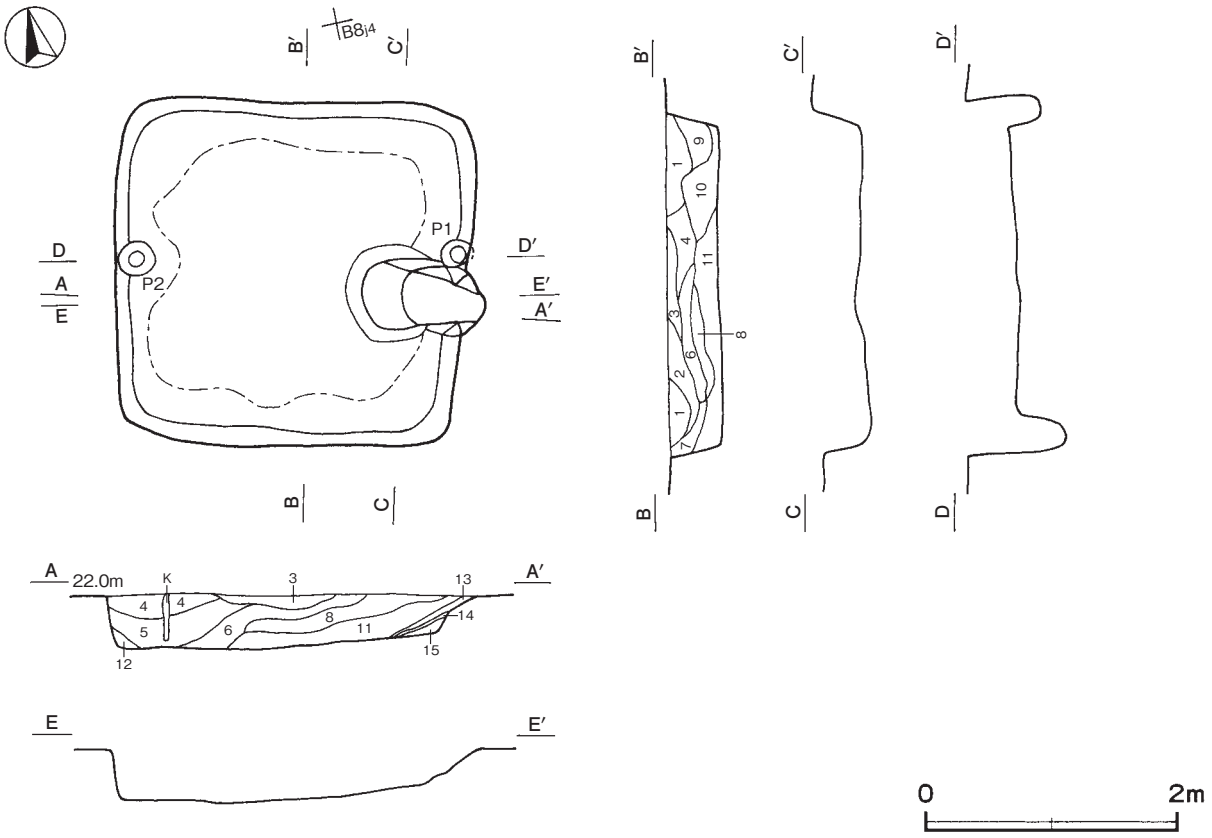
覆土　15層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
9　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック中量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量
13　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
14　黒　褐　色　ロームブロック微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片52点（坏類９，甕類43），須恵器片13点（坏類５，甕類８）が出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 205 図　第 92 号方形竪穴遺構実測図

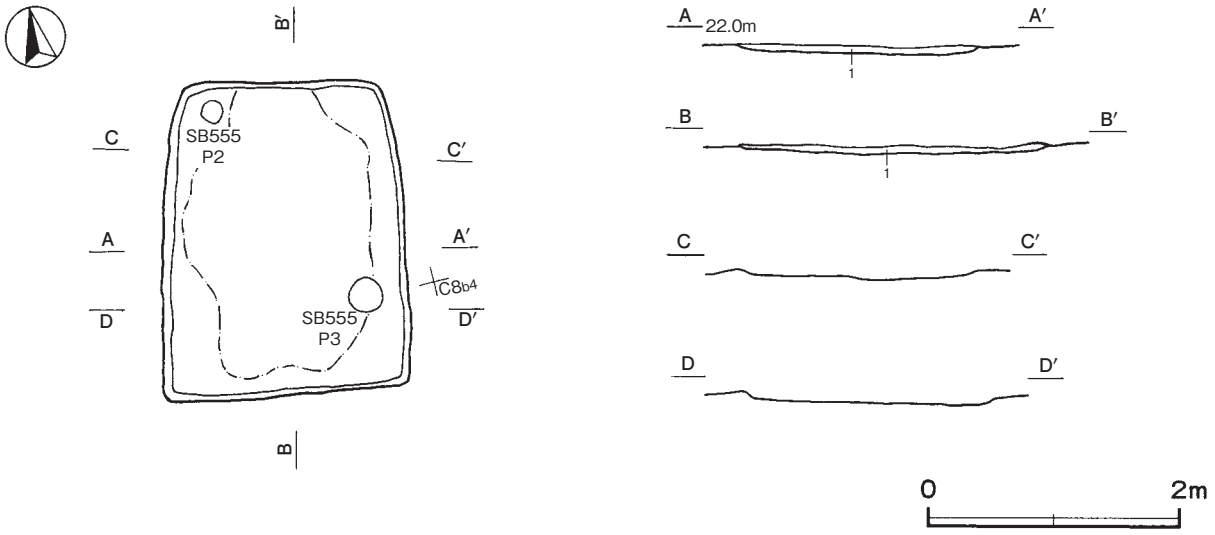
第 93 号方形竪穴遺構（第 206 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＣ８a3 区，標高 22 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 555 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 2.48 ｍ，短軸 1.92 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 13 °－Ｅである。壁高は５～７㎝で，緩やかに立ち上がっている。



第 206 図　第 93 号方形竪穴遺構実測図

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　須恵器片１点（甕）が出土している。細片であり，混入したものと考えられる。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から室町時代と考えられる。

第 94 号方形竪穴遺構（第 207 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＣ８a6 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

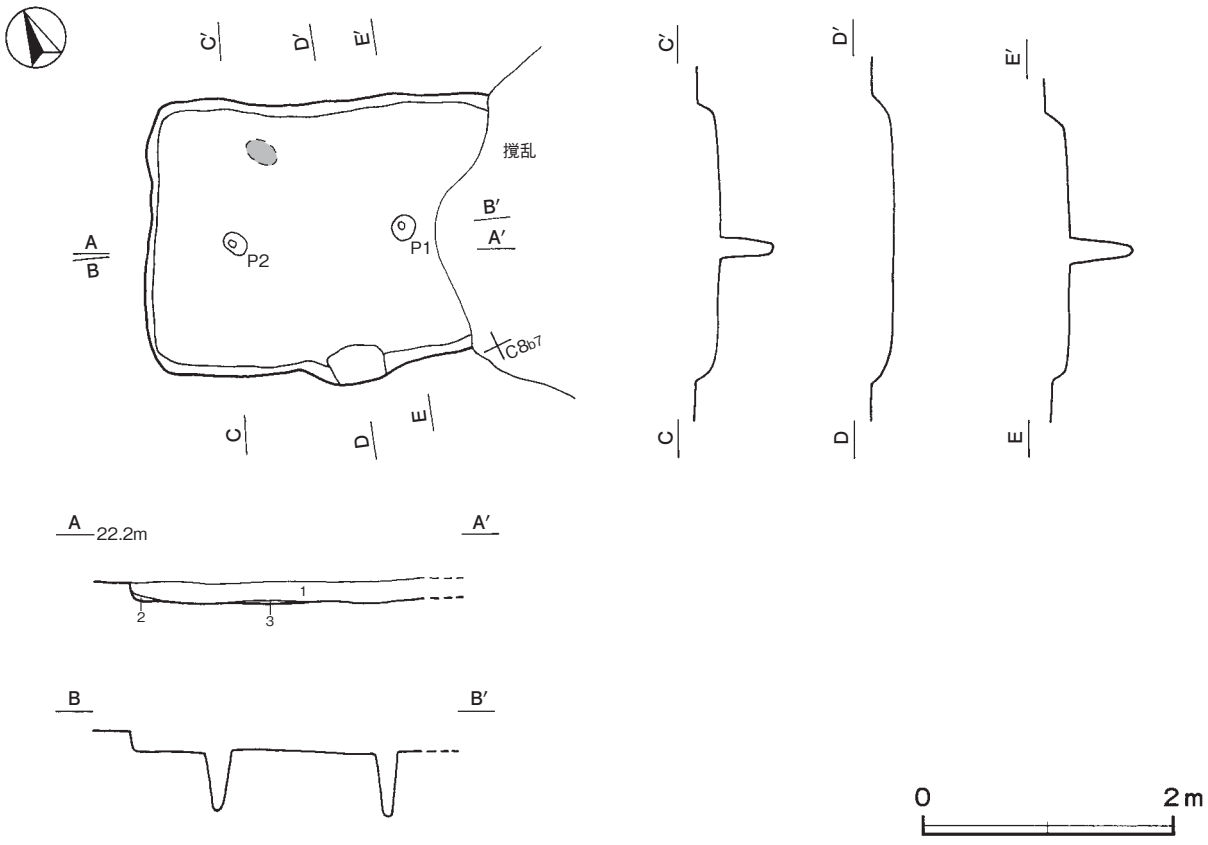
規模と形状　東壁部は撹乱を受けている。短軸は 2.26 ｍで，長軸はピットの位置から判断して 2.78 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 29 ˚ － Ｗと推定できる。壁高は 14 ～ 16㎝で，緩やかに立ち上がっている。南壁際の中央部には地山を掘り残したスロープがあり，出入り口施設と考えられる。

床　平坦である。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 52㎝・48㎝で，長軸ラインの中央部に並んでいることから，柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物微量　　3　黒　褐　色　炭化物中量，ローム ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量



第 207 図　第 94 号方形竪穴遺構実測図

遺物出土状況　土師器片３点（甕２，鉢１），須恵器片２点（坏，甕）がそれぞれ出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から室町時代と考えられる。

第 95 号方形竪穴遺構（第 208 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　14 区北部の B 7h7 区，標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 584 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.42 m，短軸 2.98 mの方形で，長軸方向はＮ－ 67 °－Ｅである。壁高は 32 ～ 40cmで，ほぼ外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁付近が踏み固められている。中央部は硬化が弱い。

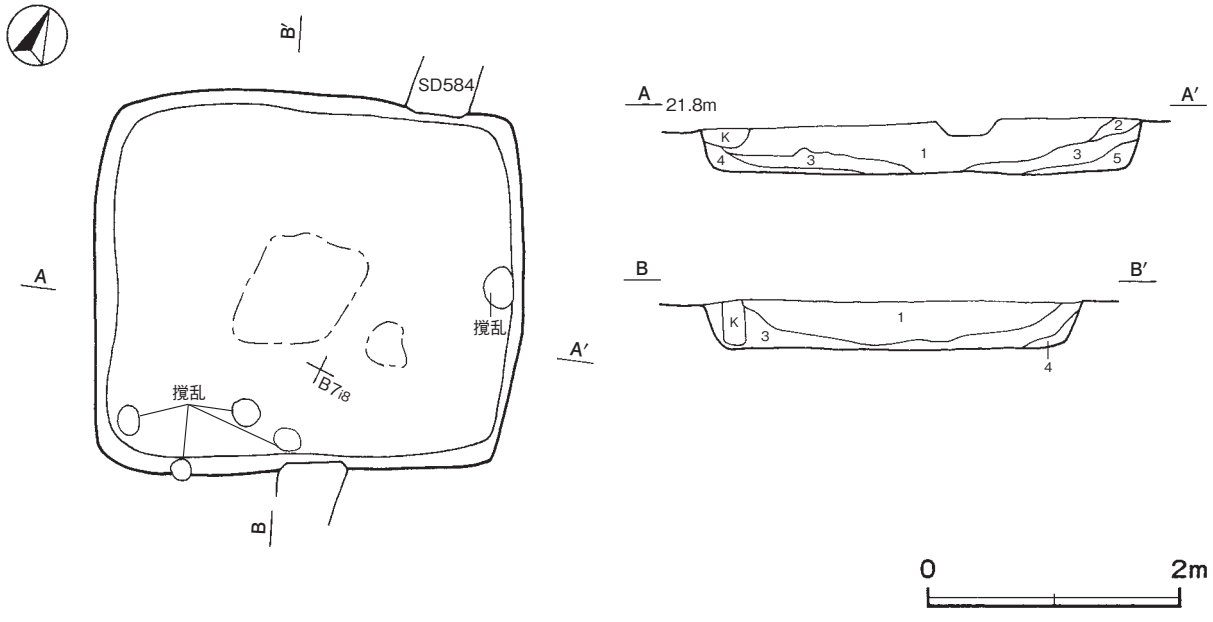
覆土　５層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 23 点（坏３，碗１，甕類 19），須恵器片４点（甕３，壺１），陶器片１点（碗），磁器片１点（丸碗），銭貨１点（不明），鉄製品１点（釘）が出土している。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 208 図　第 95 号方形竪穴遺構実測図

表 25　室町時代方形竪穴遺構一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	内部施設		覆土	主な出土遺物	備　考
				長軸×短軸（m）	（cm）		柱穴	出入口			
90	B 8h5	Ｎ－ 88°－Ｅ	方　　形	3.36 × 3.07	15 ～ 35	平坦	4	1	人為	土師器片・磁器片	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	内部施設 柱穴	内部施設 出入口	覆土	主な出土遺物	備考
91	B 8 i3	N － 3° － E	方形	2.62 × 2.60	14 ～ 18	平坦	2	1	人為	土師器片・陶器片	本跡→ SK6752・6762
92	B 8 j3	N － 92° － W	方形	2.85 × 2.72	39 ～ 41	平坦	2	1	人為	土師器片・須恵器片	
93	C 8 a3	N － 13° － E	長方形	2.48 × 1.92	5 ～ 7	平坦	－	－	不明	須恵器片	SB555 →本跡
94	C 8 a6	N － 29° － E	方形	（2.78） × 2.26	14 ～ 16	平坦	2	1	人為	土師器片・須恵器片	
95	B 7 h7	N － 67° － E	方形	3.42 × 2.98	32 ～ 40	平坦	－	－	人為	土師器片・須恵器片・陶器片・磁器片・銭貨・鉄製品	本跡→ SD584

（2） 掘立柱建物跡

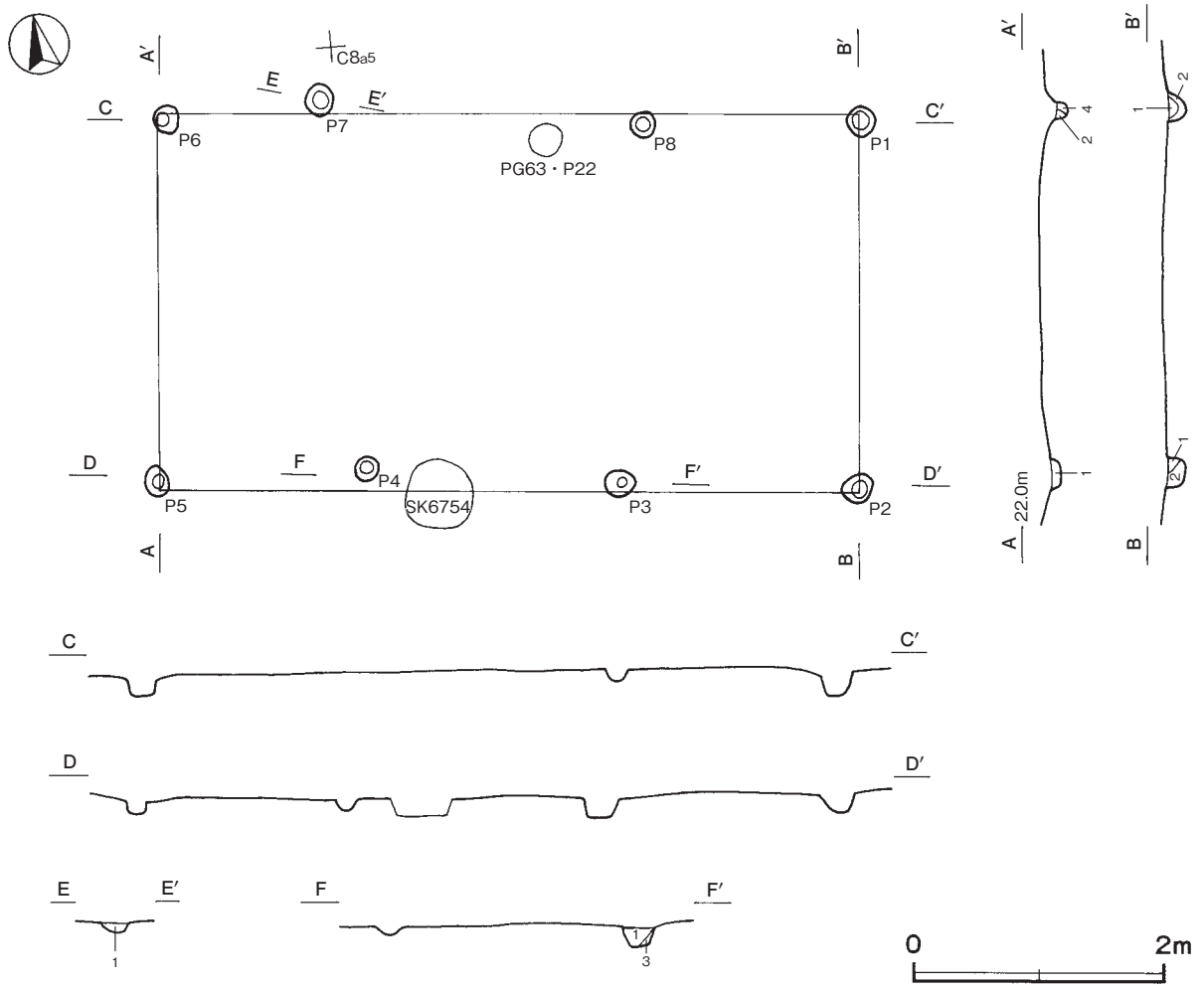
第 554 号掘立柱建物跡（第 209 図）

調査年度　平成 21 年度に調査している。

位置　14 区北部のＢ 8 j4 ～Ｃ 8 a6 区 ，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 63 号ピット群のＰ 22 が北桁のライン上，第 6754 号土坑が南桁のライン上にあるが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向は，Ｎ － 85° － Ｗの東西棟である。規模は，桁行 5.6 ｍ，梁行 3.0 ｍで，面積は 16.8㎡である。柱間寸法は，桁行が西妻から 1.7 ｍ（5.5 尺），2.1 ｍ（７尺），



第 209 図　第 554 号掘立柱建物跡実測図

1.9 m（6.5 尺），梁行は 3.0 m（10 尺）で間尺は異なっている。

柱穴　８か所。平面形は円形または楕円形で，長径 20 ～ 28cm，短径 16 ～ 24cmである。深さは７～ 20cmである。第１・２層は柱抜き取り後の堆積層，第３・４層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック中量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明であるが，本跡の西に位置し，室町時代と考えられる第 92 号方形竪穴遺構の軸方向と本跡の軸方向が近似していること，各柱穴の平面形が円形や楕円形で規模も小さいこと等から室町時代と考えられる。

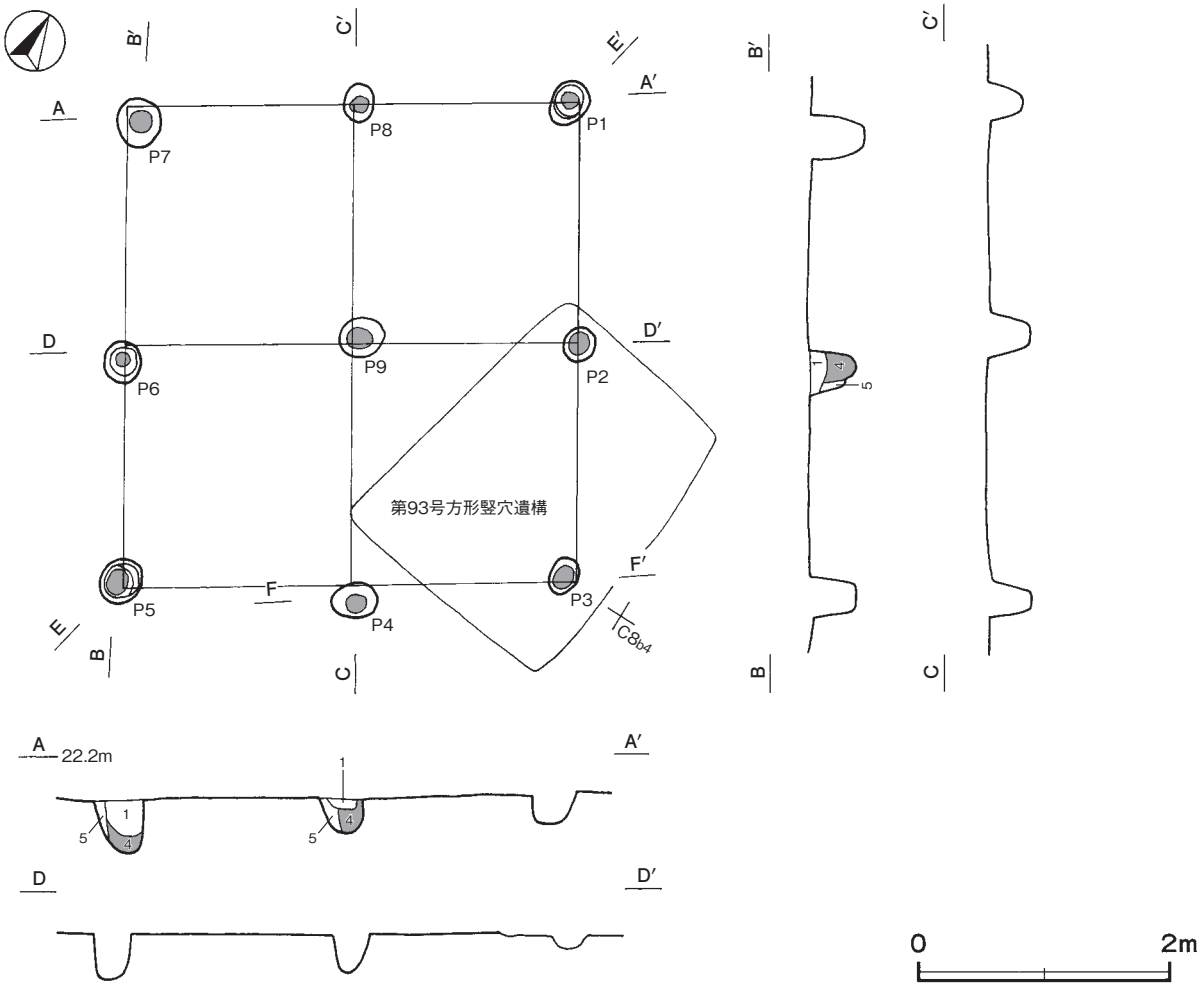
第 555 号掘立柱建物跡（第 210・211 図）

調査年度　平成 21 年度に調査した。

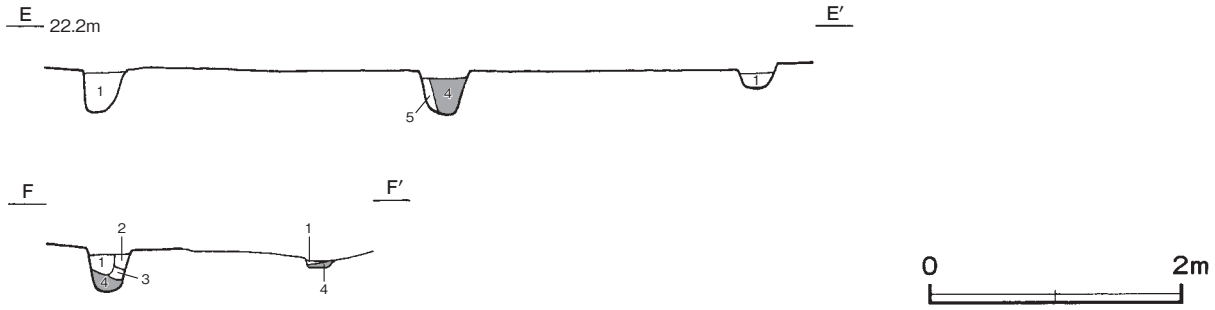
位置　14 区北部のＣ８a2 ～Ｃ８b3 区 ，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 93 号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の総柱建物跡で，桁行方向が，Ｎ－ 30° － Ｗの南北棟である。規模は，桁



第 210 図　第 555 号掘立柱建物跡実測図（１）



第 211 図　第 555 号掘立柱建物跡実測図（２）

行 3.7 m，梁行 3.6 mで，面積は 13.32㎡である。柱間寸法は，桁行が 1.9 m，梁行は 1.7 mで均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　９か所。平面形は円形または楕円形で，長径 26 ～ 38cm，短径 11 ～ 22cmである。深さは８～ 36cmである。第１～３層は柱抜き取り後の堆積層，第４層は柱痕跡，第５層は埋土であり，それぞれのピットの底面で，柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片２点（甕）がＰ３とＰ８から出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明であるが，各柱穴の平面形が円形や楕円形で規模も小さいことから室町時代と考えられる。

表 26　室町時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	備考
			桁×梁(間)	桁 × 梁(m)	(㎡)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)		
554	B8j4～C8a6	N－85°－W	3 × 1	5.6 × 3.0	16.8	1.7 ～ 2.1	3.0	側柱	8	円形 楕円形	7 ～ 20		SK6754，PG63 新旧不明
555	C8a2～C8b3	N－30°－W	2 × 2	3.7 × 3.6	13.32	1.9	1.7	総柱	9	円形 楕円形	8 ～ 36	土師器片	第 93 号方形竪穴遺構→本跡

(3)　井戸跡

第 222 号井戸跡（第 212 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ８h4 区，標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　確認面は，長径 1.98m，短径 1.63m の楕円形で，長径方向はＮ－ 20°－Ｗである。確認面から 0.46m まで漏斗状に掘り込み，下部は径 1.30 mの円筒状に掘り下げている。1.20 mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

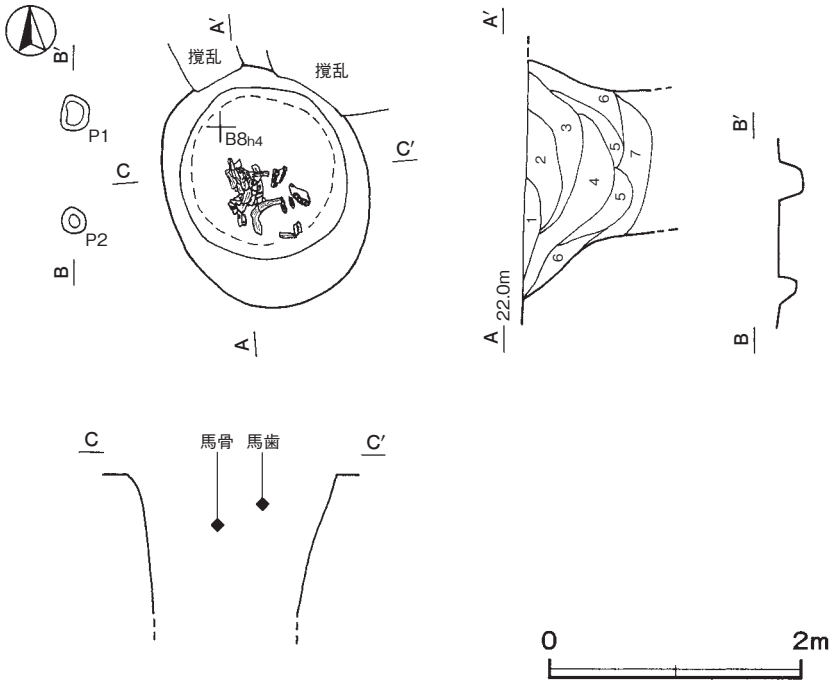
ピット　掘り込みから約 60cm西側にピット２か所を確認した。井戸部の長径方向とほぼ平行に並んでおり，Ｐ１とＰ２の柱間寸法は 90cmである。平面形は楕円形で，Ｐ１は長径 30cm，短径 22cm，深さ 22cmである。Ｐ２は長径 22cm，短径 18cm，深さは 17cmである。付属施設の可能性がある。

覆土　７層に分層できる。不規則な堆積状況であり，ロームブロックを多くの層で含んでいることから埋め戻

されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量



遺物出土状況　土師器片３点（坏１，甕２），須恵器片２点（坏），馬骨片（歯，下顎，上腕骨，頸骨），中礫１点（雲母片岩）が出土している。馬骨は第２層から出土している。

第 212 図　第 222 号井戸跡実測図

所見　素掘りの構造である。時期は，伴う遺物が出土していないため明確ではないが，南に方形竪穴遺構群が位置していることから同時期の室町時代に使われたと考えられる。馬骨は一頭分で，覆土上層から出土していることから，井戸廃絶後の窪地に埋葬されたと考えられる。

6　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，土坑３基，溝跡１条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

⑴　土坑

第 6756 号土坑（第 213 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ８j4 区，標高 22 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 0.88m，短軸 0.86m の隅丸方形で，長軸方向は，Ｎ－３°－Ｅである。深さは 88㎝，底面は平坦で，壁は直立している。南西コーナー部の壁下で，長さ 60㎝，幅６～ 14㎝，深さ２㎝でＬ字状をした溝状の窪み を確認した。

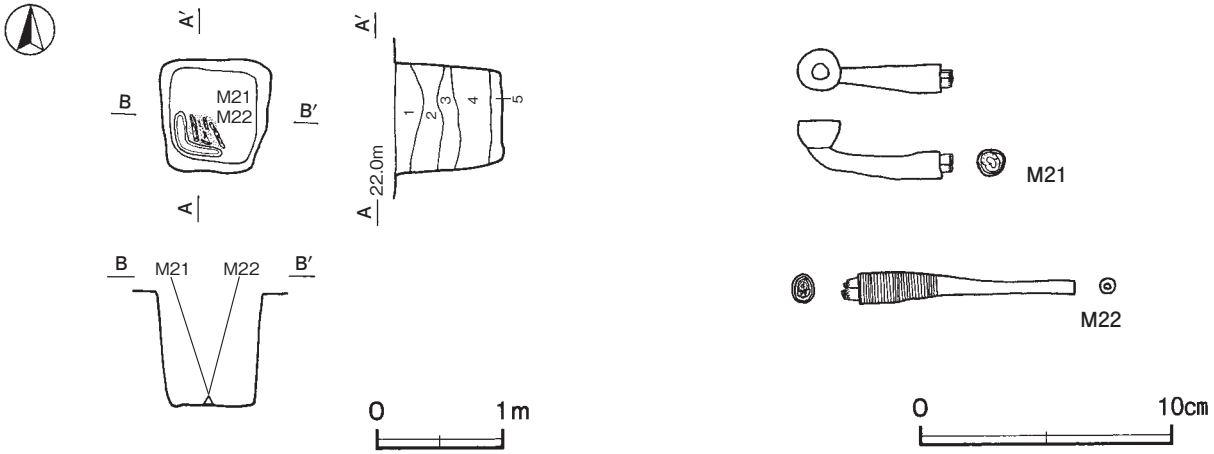
覆土　５層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック・黒色土ブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　銅製品２点（煙管），木片，人骨片が出土している。人骨片は底面から，Ｍ 21・M22 は南部の底面から出土しており，同一個体と想定できる。

所見　人骨が出土していることから，墓坑である。時期は，出土遺物から 18 世紀後半と考えられる。南西コーナー部で確認した溝状の窪みは，性格不明である。



第 213 図　第 6756 号土坑・出土遺物実測図

第 6756 号土坑出土遺物観察表（第 213 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M21	煙管	(6.2)	1.1	2.3	(8.15)	銅	雁首部　外面緑青　内羅宇残存　火皿径 1.5cm	覆土下層	PL60
M22	煙管	(8.7)	1.2	0.6	(9.58)	銅	吸口部　外面緑青　内羅宇残存　肩部に太筋巻	覆土下層	PL60

第 6757 号土坑（第 214 図）

調査年度　平成 21 年度

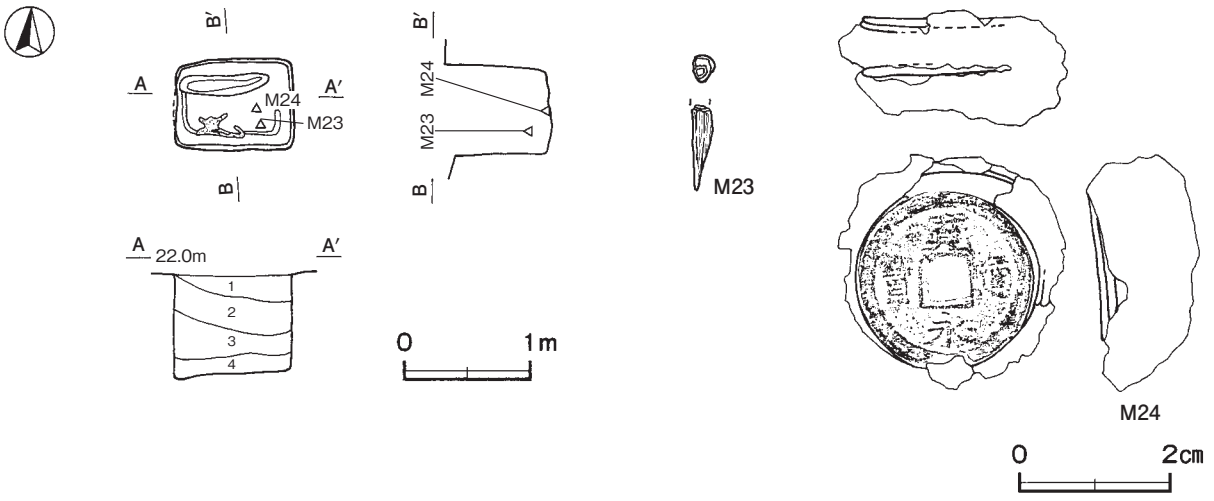
位置　14 区北部のＢ８j4 ～Ｂ８j5 区，標高 22 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 0.92m，短軸 0.74m の隅丸長方形で，長軸方向は，Ｎ－ 90° －Ｅである。深さは 78cm，底面は凹凸で，壁は直立している。東部の一部を除いて，壁下には幅４～ 16cm，深さ３～４㎝で浅い皿状の溝が巡っている。

覆土　４層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック・黒色土ブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量



第 214 図　第 6757 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　鉄製品２点（釘），銭貨（寛永通寶），人骨片のほか，土師器片８点（坏２，甕６），陶器片２点（碗）が出土している。釘，銭貨，人骨片は覆土下層からそれぞれ出土している。出土銭貨には繊維が付着しており，埋葬時に頭陀袋等で包まれた六道銭と想定される。また，それぞれの釘には木質が付着していることから，木棺に打ち付けた釘の可能性がある。M 23 は南東部，M 24 は東部，人骨片は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　人骨や銭貨が出土していることから墓坑である。時期は出土遺物から 17 世紀以降と考えられる。底面で確認した浅い皿状の溝は，性格不明である。

第 6757 号土坑出土遺物観察表（第 214 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M23	釘	(3.42)	0.8	0.3	(2.25)	鉄	頭部欠損　断面長方形　木質付着	覆土下層	PL59

番号	銭　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M24	寛永通寶	3.1	3.1	1.5	20.6	銅	1668 年	新寛永　繊維付着　六道銭ヵ	覆土下層	PL60

第 7326 号土坑（第 215 図）

調査年度　平成 24 年度

位置　調査区北部のＢ８i1 区，標高 22 ｍほどの台地平坦部に位置している。

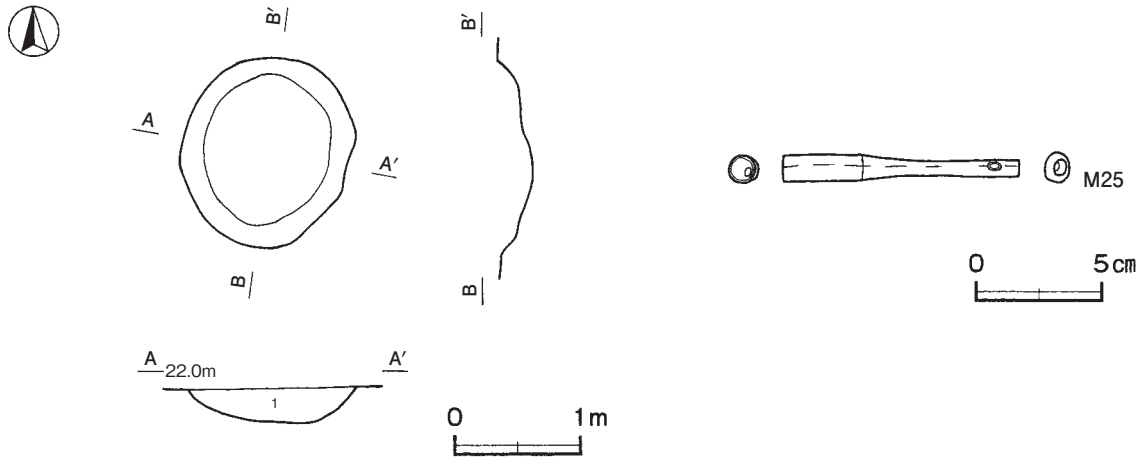
規模と形状　長径 1.51 ｍ，短径 1.33 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 12 °－Ｅである。深さは 29㎝で，底面は皿状であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　銅製品１点（煙管）が出土している。M 25 は，覆土中から出土している。

所見　出土遺物及び規模と形状から墓坑と推測でき，時期は，出土遺物から 18 世紀前半と考えられる。



第 215 図　第 7326 号土坑・出土遺物実測図

第 7326 号土坑出土遺物観察表（第 215 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M25	煙管	(9.5)	1.1	0.7	(12.6)	真鍮	吸口部　肩部段有り　継ぎ目有り　口元部に叩き痕有り	覆土中	PL60

表 27　江戸時代墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
6756	Ｂ８j4	Ｎ－３°－Ｅ	隅丸方形	0.88 × 0.86	88	平坦	直立	人為	銅製品（煙管），木片	
6757	Ｂ８j4～Ｂ８j5	Ｎ－90°－Ｅ	隅丸長方形	0.92 × 0.74	78	凹凸	直立	人為	銭貨（寛永通寶），鉄製品（釘）	
7326	Ｂ８i1	Ｎ－12°－Ｅ	楕円形	1.51 × 1.33	29	皿状	緩斜	人為	銅製品（煙管）	

(2) 溝跡

第 520 号溝跡（第 216 図・付図２）

調査年度　平成 21・24 年度

位置　14 区中央部のＤ７a4 ～Ｄ８e4 区，標高 21 ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第 3164・3165・3169・3172 号竪穴建物跡，第 521 号溝跡を掘り込んでいる。第 588 号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　西端部が調査区域外に延びており，南端部は未調査区域のため，確認できた長さは 48.6 ｍである。Ｄ８e4 区から北方向（Ｎ－５°－Ｅ）に直線的に延び，Ｄ８d4 区で西方向（Ｎ－85°－Ｗ）にＬ字状に屈折している。延伸方向Ｄ７b8 区・Ｄ７a8 区でクランク状に屈曲した後，西方向（Ｎ－70°－Ｗ）に直線的に延び，調査区域外へいたっている。上幅 0.72 ～ 1.84m，下幅 0.12 ～ 0.30 ｍ，深さ 20 ～ 56㎝である。断面形は，下部がＵ字状に掘り込まれ，中段から上部が緩やかに外傾し，二段に掘り込まれている。底面は平坦で，東端部と西端部との比高は 22㎝，東端部と南端部との比高は９㎝で，東端部から西端部へ，東端部から南端部へそれぞれ緩やかに下っている。中段に位置する二次底面では，一方向への傾斜は認められない。

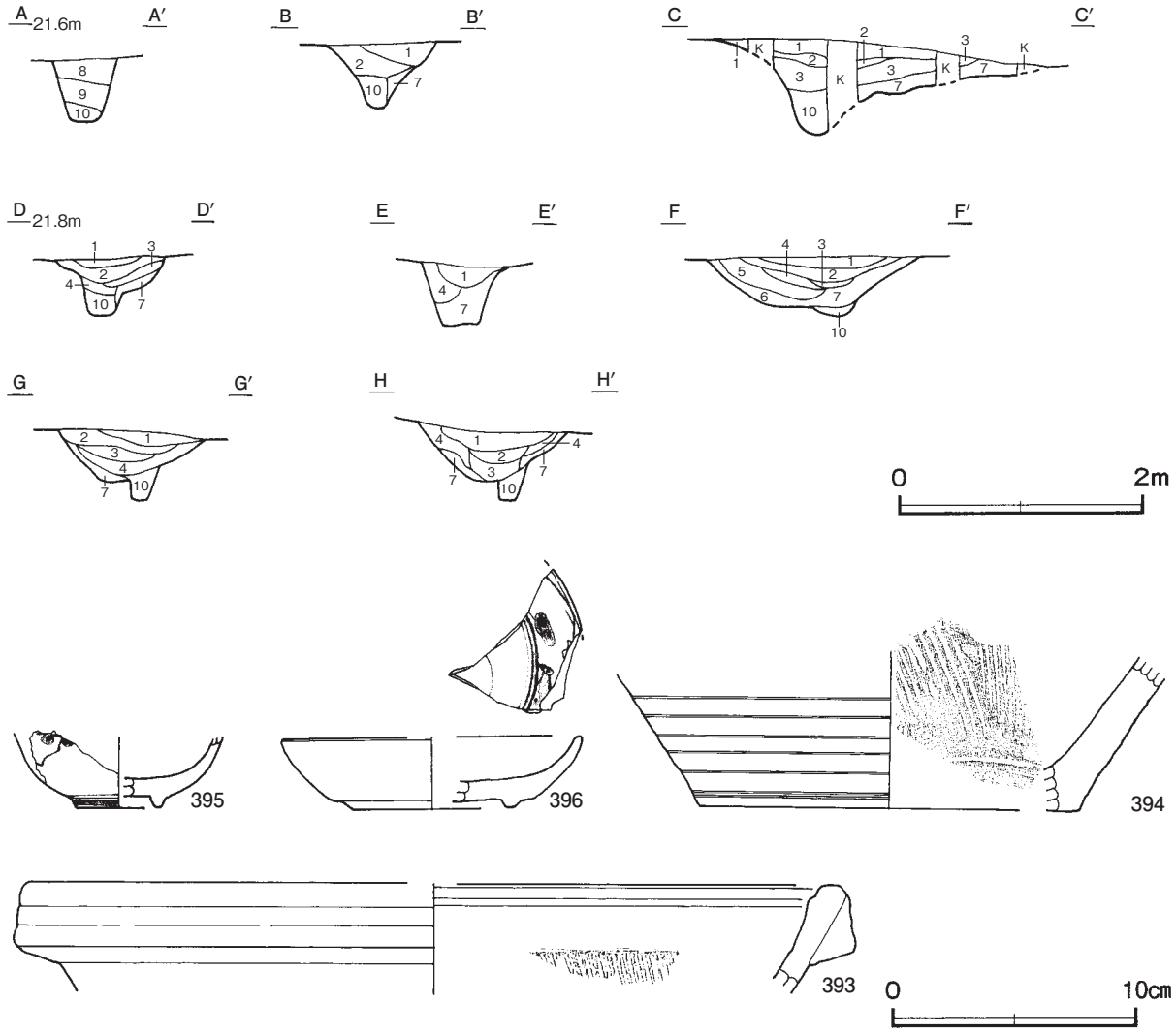
覆土　10 層に分層できる。第１層は，周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。第２～ 10 層は，ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。最下層部の第 10 層が掘り込まれた後，第３・４・７層が堆積した。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　陶器片 20 点（碗 12，蓋１，擂鉢１，花瓶１，甕５），磁器片２点（碗），土師質土器片６点（擂鉢），瓦質土器片１点（鉢ヵ），瓦２点（平瓦）のほか，土師器片 98 点（坏 11，椀１，高台付坏２，甕 84），須恵器片 30 点（坏３，蓋２，高坏１，甕 24），石器５点（砥石２，不明３），鉄滓１点（20.3g）が，覆土中から散在した状態で出土している。394 は中央部の覆土下層から出土している。393 は中央部，396 は西部，395 は東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，掘削時は不明であるが，出土土器から 18 世紀前葉には機能を終えたものと考えられる。掘削当初の性格は，Ａ断面や第 10 層の断面形状及び地境に沿って位置していることから，地境の根切りを目的としたと考えられる。また，一方向へ下っていることから，排水を兼ねていたと考えられる。南端部は，『第 280 集』にて報告している第 138 号溝にＤ８f4 区付近で接続すると推定できる。



第 216 図　第 520 号溝跡実測図・出土遺物実測図

第 520 号溝跡出土遺物観察表（第 216 図）

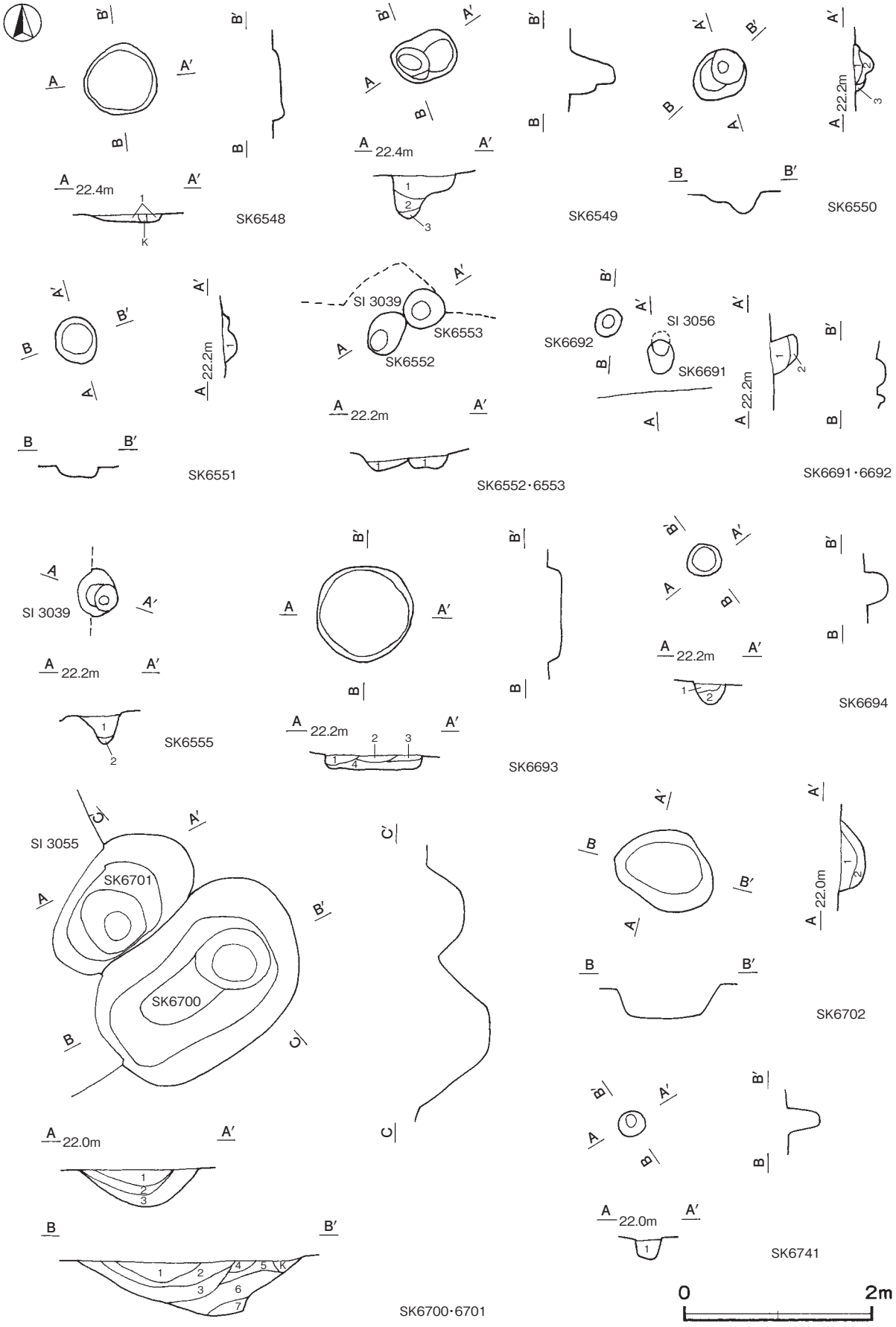
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	絵　付	釉　色	産　地	年　代	出土位置	備　考
393	陶器	擂鉢	〔33.2〕	(4.6)	−	長石・石英	灰褐	−	−	備前	18 世紀	覆土上層	5 %
394	陶器	擂鉢	−	(6.4)	〔15.6〕	長石・石英	浅黄橙	−	−	瀬戸・美濃系	17 世紀	覆土下層	30%
395	磁器	丸碗	−	(2.9)	〔3.4〕	長石	灰白	染付	透明釉	肥前系	18 世紀	覆土上層	30%
396	磁器	皿	〔12.2〕	2.9	〔6.6〕	長石	灰白	染付	透明釉	肥前系	18 世紀	覆土上層	20%

7　その他の時代の遺構と遺物

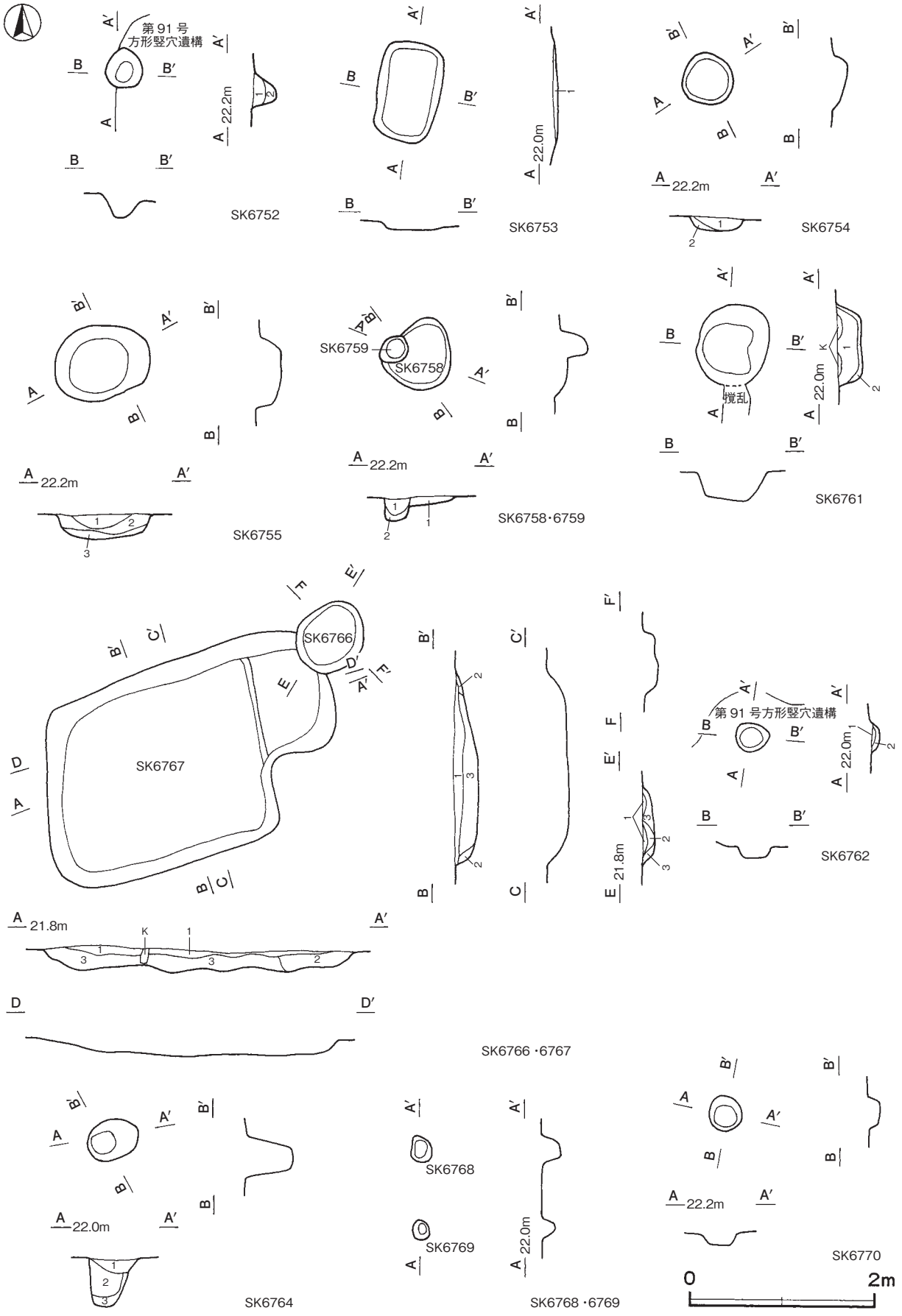
時期や性格が明確でない土坑 56 基，溝跡 7 条，柱穴列跡 2 列，ピット群 4 か所を確認した。以下，遺構および遺物について記述する。

(1)　土坑

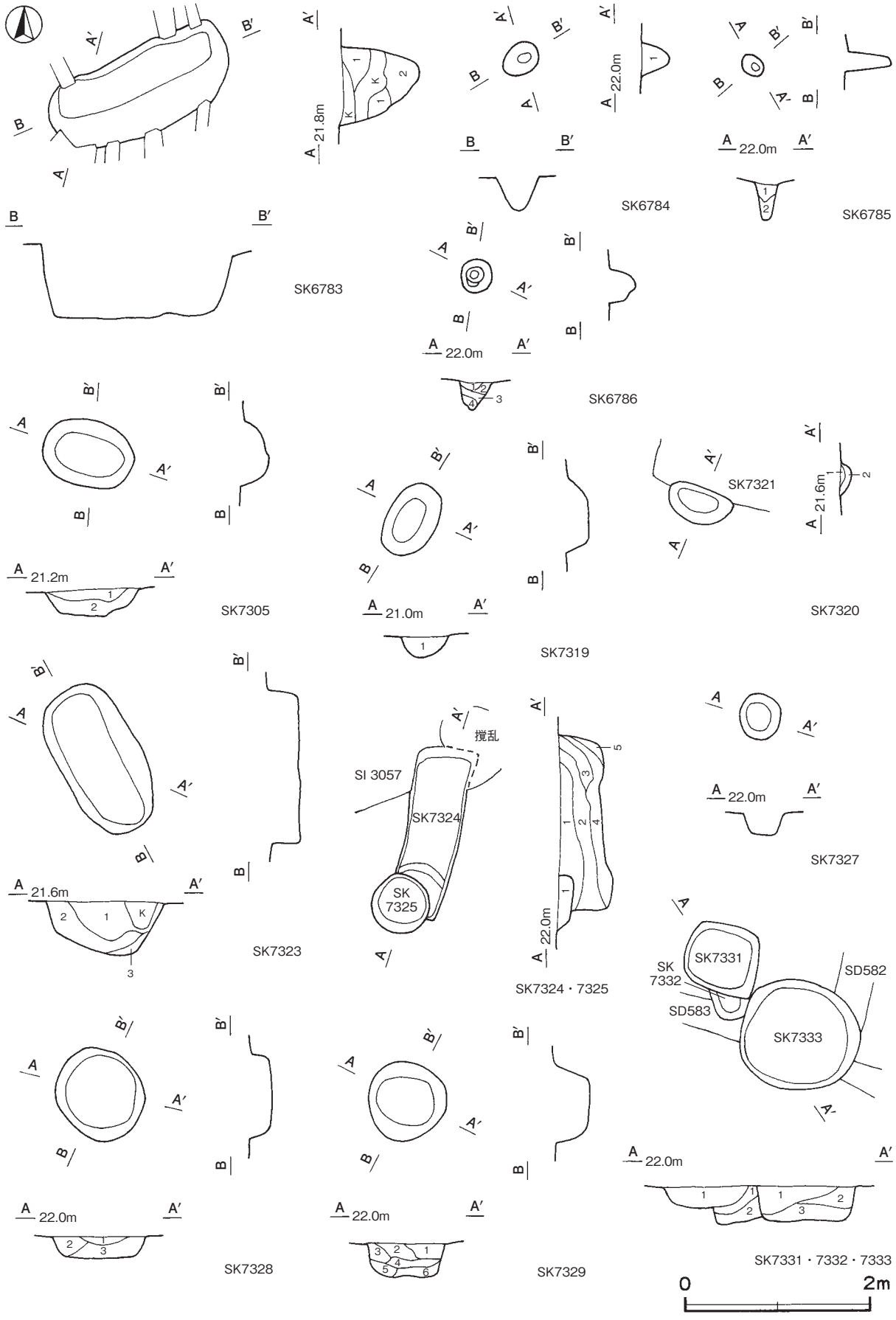
性格や時期が不明な土坑について，以下，実測図，土層解説及び一覧表にて掲載する。



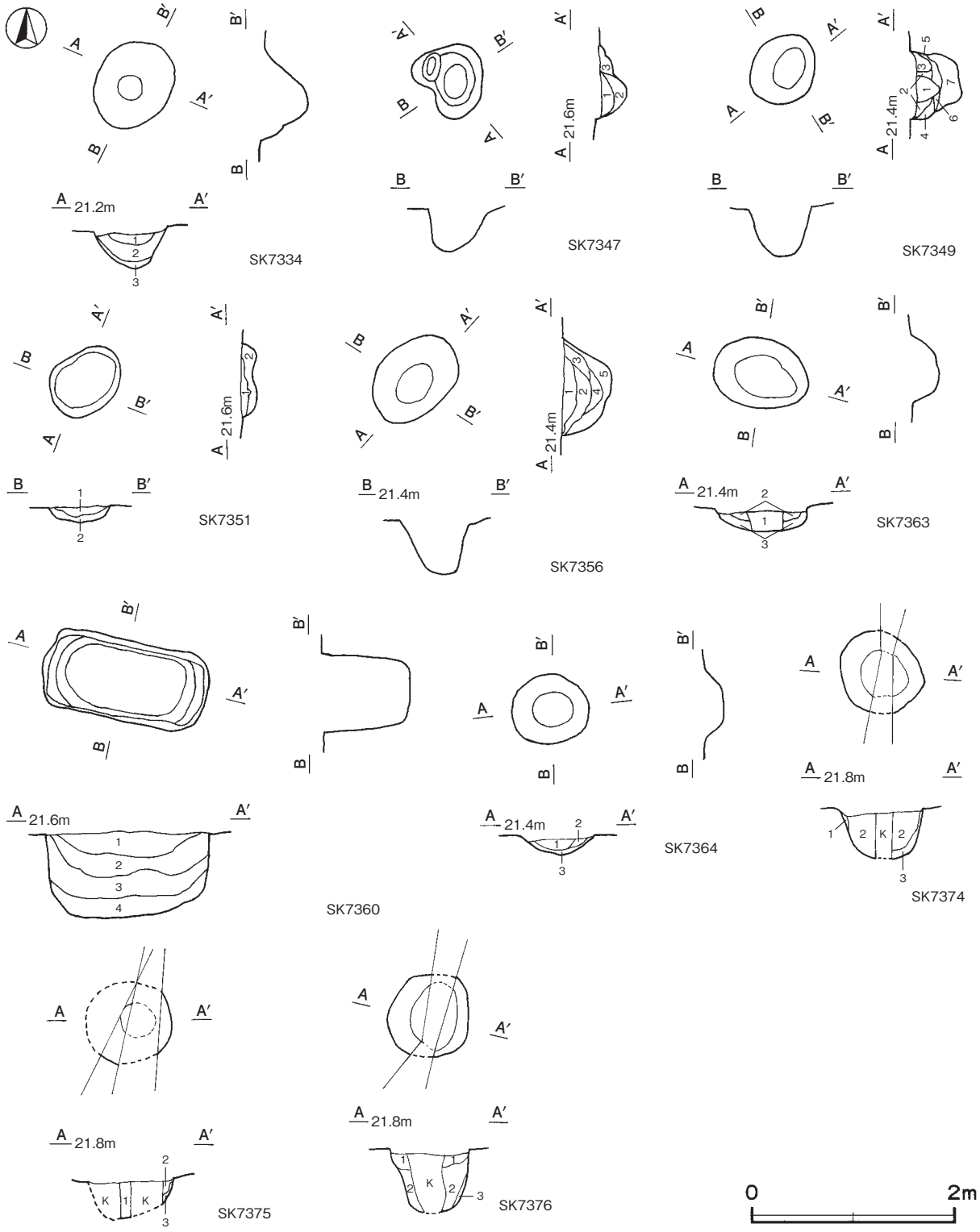
第 217 図　その他の土坑実測図（1）



第218図　その他の土坑実測図（2）



第 219 図　その他の土坑実測図（3）



第 220 図　その他の土坑実測図（4）

調査年度　平成 21 年度

第 6548 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 6549 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 6550 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 6551 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 6552 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

第 6553 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 6555 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 6691 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6693 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 6694 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 6700 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 6701 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 6702 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6741 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 6752 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 6753 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6754 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 6755 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6758 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 6759 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6761 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 6762 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 6764 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 6766 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 6767 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 6783 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第 6784 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 6785 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6786 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

調査年度　平成 24 年度

第 7305 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

第 7319 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 7320 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 7323 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子中量

第 7324 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　灰　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 7325 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量

第 7328 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 7329 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・黒色土ブロック少量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，黒色土ブロック少量
3　灰 黄 褐 色　ローム粒子多量，黒色土ブロック少量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，黒色土ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，黒色土ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，黒色土ブロック少量

第 7331 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 7332 号土坑土層解説
1　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量
2　黄　褐　色　ロームブロック中量

第 7333 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　灰　色　ロームブロック少量

第 7334 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子少量

第 7347 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 7349 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ローム粒子少量

第 7351 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 7356 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 7360 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
4　黄　褐　色　ロームブロック多量

第 7363 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 7364 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第 7374 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 7375 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 7376 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

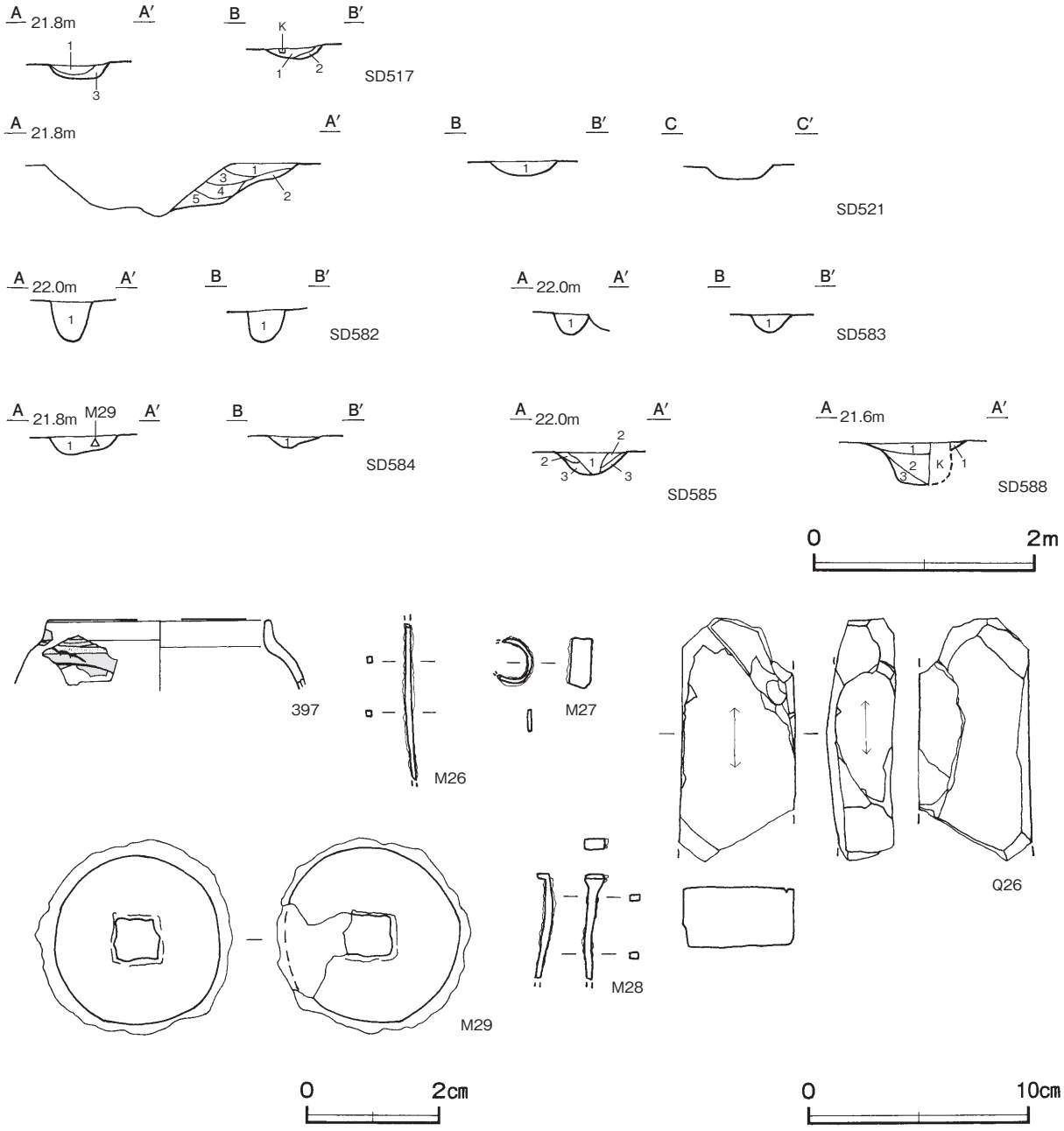
表 28　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
6548	A 8 J8	−	円形	0.79 × 0.77	7	平坦	緩斜	人為		
6549	B 8 b7	N − 70° − E	楕円形	0.70 × 0.49	50	有段	直立	人為 自然		
6550	B 8 c5	N − 67° − E	楕円形	0.58 × 0.51	22	有段	緩斜	人為		
6551	B 8 c5	N − 21° − W	楕円形	0.50 × 0.45	20	平坦	外傾	自然		
6552	B 8 d9	N − 19° − E	楕円形	0.51 × 0.35	7	皿状	緩斜	人為		SI3039 →本跡
6553	B 8 d9	N − 68° − E	楕円形	0.45 × 0.40	9	凹凸	緩斜	自然		SI3039 →本跡
6555	B 8 e9	N − 1 ° − W	楕円形	0.50 × 0.43	30	有段	緩斜	人為		SI3039 →本跡
6691	B 8 d1	N − 3 ° − W	楕円形	0.36 × 0.26	26	皿状	外傾	人為		SI3036 →本跡
6692	B 8 d1	N − 32° − E	楕円形	0.32 × 0.27	8	皿状	外傾	−		SI3036 →本跡
6693	B 8 e2	−	円形	0.79 × 0.77	13	皿状	外傾	人為		
6694	B 8 f3	−	円形	0.35 × 0.35	23	皿状	外傾	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
6700	B 7 c9	N－63°－E	楕円形	2.40 × 1.55	52	平坦	緩斜	人為		本跡→ SI3055
6701	B 7 c9	N－47°－E	楕円形	1.82 × 1.03	48	皿状	外傾	人為		本跡→ SI3055
6702	B 8 b1	N－47°－W	楕円形	1.02 × 0.80	26	皿状	緩斜	人為		
6741	C 8 e4	N－85°－E	楕円形	0.30 × 0.26	35	皿状	外傾	人為		
6752	B 8 i3	－	円形	0.43 × 0.40	25	皿状	外傾	人為		第 91 号方形竪穴遺構→本跡
6753	C 8 b6	N－11°－E	楕円形	1.10 × 0.70	5	平坦	緩斜	人為		
6754	C 8 a5	－	円形	0.55 × 0.55	15	皿状	緩斜	自然		
6755	C 8 b5	N－87°－E	楕円形	1.02 × 0.82	26	皿状	緩斜	人為		
6758	C 8 b4	－	円形	0.80 × 0.76	11	皿状	緩斜	人為		本跡→ SK6759
6759	C 8 b4	N－40°－E	楕円形	0.36 × 0.30	30	皿状	外傾	人為		SK6758 →本跡
6761	C 8 d6	N－8°－E	楕円形	0.88 × 0.76	30	平坦	緩斜	人為		
6762	B 8 i3	－	円形	0.34 × 0.33	13	平坦	外傾	人為		第 91 号方形竪穴遺構→本跡
6764	B 8 j5	N－70°－E	楕円形	0.58 × 0.45	52	皿状	外傾	人為	土師器片	
6766	C 7 c7	N－56°－E	楕円形	0.80 × 0.69	14	凹凸	外傾 緩斜	人為	土師器片	SK6767 →本跡
6767	C 7 d6	N－72°－E	不定形	3.24 × 2.12	24	平坦	緩斜	人為		本跡→ SK6766
6768	B 8 g3	N－3°－E	楕円形	0.29 × 0.22	19	皿状	外傾	－		
6769	B 8 h3	N－10°－E	楕円形	0.21 × 0.18	15	皿状	外傾	－		
6770	B 8 j2	－	円形	0.39 × 0.36	14	平坦	緩斜	－		
6783	D 7 b0	N－62°－E	隅丸長方形	2.05 × 0.91	79	平坦	外傾	人為		
6784	C 8 j2	N－63°－E	楕円形	0.42 × 0.35	35	皿状	外傾	人為		
6785	D 8 a2	N－52°－W	楕円形	0.26 × 0.20	47	皿状	直立	人為		
6786	C 8 i2	－	円形	0.35 × 0.33	29	有段	外傾	人為		
7305	B 6 i0	N－73°－W	楕円形	1.00 × 0.73	32	凹凸	緩斜	人為		
7319	B 6 h7	N－23°－E	楕円形	0.81 × 0.53	24	平坦	緩斜	人為	土師器片，鉄製品	
7320	B 7 g4	N－75°－W	［楕円形］	0.71 ×（0.34）	15	皿状	緩斜	人為		SK7321 →本跡
7323	C 7 c5	N－30°－E	隅丸長方形	1.67 × 0.86	30	平坦	直立 外傾	人為	土師器片，須恵器片，陶器片	
7324	B 8 h1	N－12°－E	長方形	1.86 × 0.58	57	平坦	外傾	人為		本跡→ SI3057，SK7325
7325	B 8 h1	N－12°－E	［楕円形］	0.62 ×（0.22）	16	皿状	外傾 傾斜	人為	須恵器片，鉄製品	SK7324 →本跡
7327	B 8 i1	－	円形	0.5 × 0.46	25	平坦	外傾	－		
7328	B 7 i0	N－45°－W	楕円形	1.00 × 0.89	22	平坦	外傾	人為	土師器片，磁器片	
7329	B 7 j0	－	円形	0.84 × 0.84	36	平坦	外傾 傾斜	人為		
7331	C 7 b0	N－80°－W	楕円形	0.84 × 0.68	21	平坦	緩斜	人為		SK7332 →本跡
7332	C 8 b1	N－9°－W	楕円形	0.58 × 0.40	42	平坦	外傾	人為		SD583 →本跡 → SK7331
7333	C 8 b1	N－88°－E	楕円形	1.32 × 1.18	38	平坦	外傾	人為		SD582・583，SK7332 →本跡
7334	B 7 h1	N－49°－E	楕円形	0.90 × 0.74	45	皿状	緩斜	自然		
7347	B 7 h3	N－19°－E	不整楕円形	0.73 × 0.70	40	皿状	外傾 緩斜	人為		
7349	B 7 g3	N－30°－E	楕円形	0.70 × 0.62	48	皿状	外傾	人為		
7351	B 7 e5	N－56°－E	楕円形	0.76 × 0.57	15	皿状	緩斜	人為		
7356	B 7 g2	N－33°－E	楕円形	0.95 × 0.70	50	平坦	外傾 傾斜	人為		
7360	C 7 b6	N－76°－W	隅丸長方形	1.64 × 0.78	85	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，磁器片	
7363	B 7 j2	N－79°－W	楕円形	0.97 × 0.57	26	皿状	緩斜	人為	土師器片	
7364	B 7 j2	N－79°－W	楕円形	0.97 × 0.67	14	平坦	緩斜	人為		
7374	C 7 j5	－	円形	0.83 × 0.77	47	皿状	外傾	人為	土師器片	
7375	C 7 i5	－	円形	0.83 × 0.78	38	皿状	緩斜	人為		
7376	C 7 j6	－	円形	0.82 × 0.8	55	皿状	外傾	人為	土師器片	

⑵ 溝跡（第 221 図・付図２）

14 区で確認した溝のうち，時期や性格ともに不明な溝について，以下，土層断面図と土層解説，一覧表を掲載する。平面図は遺構全体図に示す。



第 221 図　第 517・521・582 ～ 585・588 号溝跡・出土遺物実測図

調査年度　平成 21 年度

第 517 号溝跡土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子少量

第 521 号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量

調査年度　平成 24 年度

第 582 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 583 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

第 584 号溝跡土層解説
1　灰 黄 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 585 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック・炭化物微量

第 588 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

第 582 号溝跡出土遺物観察表（第 221 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色調	絵　付	釉　色	産　地	年　代	出土位置	備　考
397	陶器	土瓶	(9.8)	(3.2)	－	長石	にぶい橙	染付	透明釉	益子	19 C後	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M26	釘	(7.2)	0.3	0.3	(4.50)	鉄	断面正方形　両端部欠損	覆土中	PL59
M27	不明	(2.3)	1.0	0.1 ～ 0.2	(2.23)	鉄	リング状　両端部欠損	覆土中	

第 584 号溝跡出土遺物観察表（第 221 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M28	釘	(4.8)	1.2	0.3	(3.58)	鉄	先端部欠損　断面長方形	覆土中	PL59

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M29	銭貨	2.9	0.7	－	3.02	銅	錆付着のため種別不明	覆土中層	PL60

第 588 号溝跡出土遺物観察表（第 221 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 26	砥石	(11.0)	5.2	3.1	(248)	凝灰岩	砥面２面	覆土中	PL59

表 29　その他の溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	形状	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
517	B 7 a7 ～ B 7 d7	N － 7° － W	直線	(10.9)	0.38 ～ 0.56	0.22 ～ 0.34	8 ～ 14	U字状	緩斜	自然		本跡→ PG64
521	D 8 d4	N － 90° － W	直線	(2.42)	0.52 ～ 0.70	0.12 ～ 0.34	14 ～ 50	U字状	緩斜	自然	土師器片，須恵器片	本跡→ SD520
582	B 8 g2 ～ C 8 b1	N － 14° － W	直線	2.17	0.33 ～ 0.45	0.14 ～ 0.27	22 ～ 40	U字状	外傾	人為	土師器片，須恵器片，陶器片，鉄製品	SI3057・3161 →本跡→ SK7333
583	C 7 b0 ～ C 8 c2	N － 75° － W	直線	5.75	0.25 ～ 0.39	0.12 ～ 0.20	19	U字状	外傾	人為	土師器片，陶器片	SK7330 →本跡→ SK7332・7333
584	B 7 g7 ～ C 7 a8	N － 8° － W	直線	18.6	0.46 ～ 0.55	0.22 ～ 0.44	10 ～ 18	U字状	緩斜	不明	土師器片，土師質土器片，陶磁器片，鉄製品，銭貨	第 95 号方形竪穴遺構→本跡
585	C 7 g9 ～ C 7 i9	N － 3° － W	直線	6.52	0.48 ～ 0.64	0.18 ～ 0.34	23	U字状	緩斜	人為	縄文土器片，土師器片，須恵器片，瓦質土器片	
588	D 8 d4	N － 7° － W	直線	6.68	0.34 ～ 0.64	0.16 ～ 0.38	24 ～ 39	U字状	直立外傾	人為	土師器片，須恵器片，磁器片，石器，石製品，瓦	SI3075・3164，SD520 →本跡

(3)　柱穴列跡

第 62 号柱穴列跡（第 222 図）

調査年度　平成 21 年度

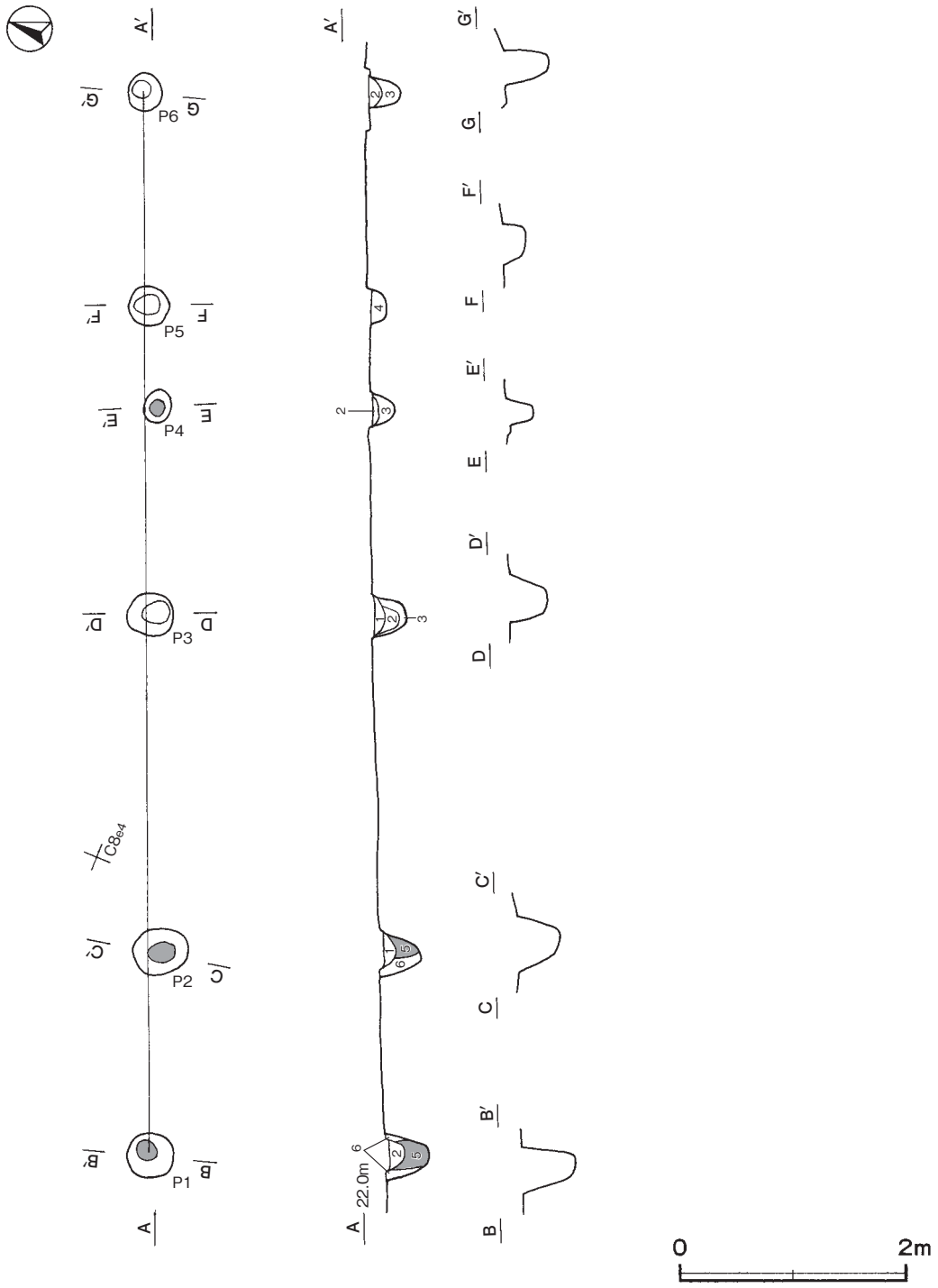
位置　14 区北部のＣ８d5 ～Ｃ８e3 区，標高 22 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造　9.30 mの間にピット６か所を確認した。列方向はＮ－68°－Ｅで，柱間は西から 1.8 m（６尺），3.0 m（10 尺），1.8 m（６尺），0.9 m（３尺），1.8 m（６尺）とばらつきがある。

柱穴　平面形は円形または楕円形で，長径 30 ～ 50㎝，短径 24 ～ 42㎝である。深さは 24 ～ 50㎝である。第１～４層は柱抜き取り後の堆積層，第５層は柱痕跡，第６層は掘方への埋土であり，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４の底面で，柱のあたりを確認した。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量



第 222 図　第 62 号柱穴列跡実測図

遺物出土状況　土師器片４点（甕）が出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明である。

第 63 号柱穴列跡（第 223 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＣ８h3 ～Ｃ８j1 区，標高 22 ｍほどの台地平坦部に位置している。

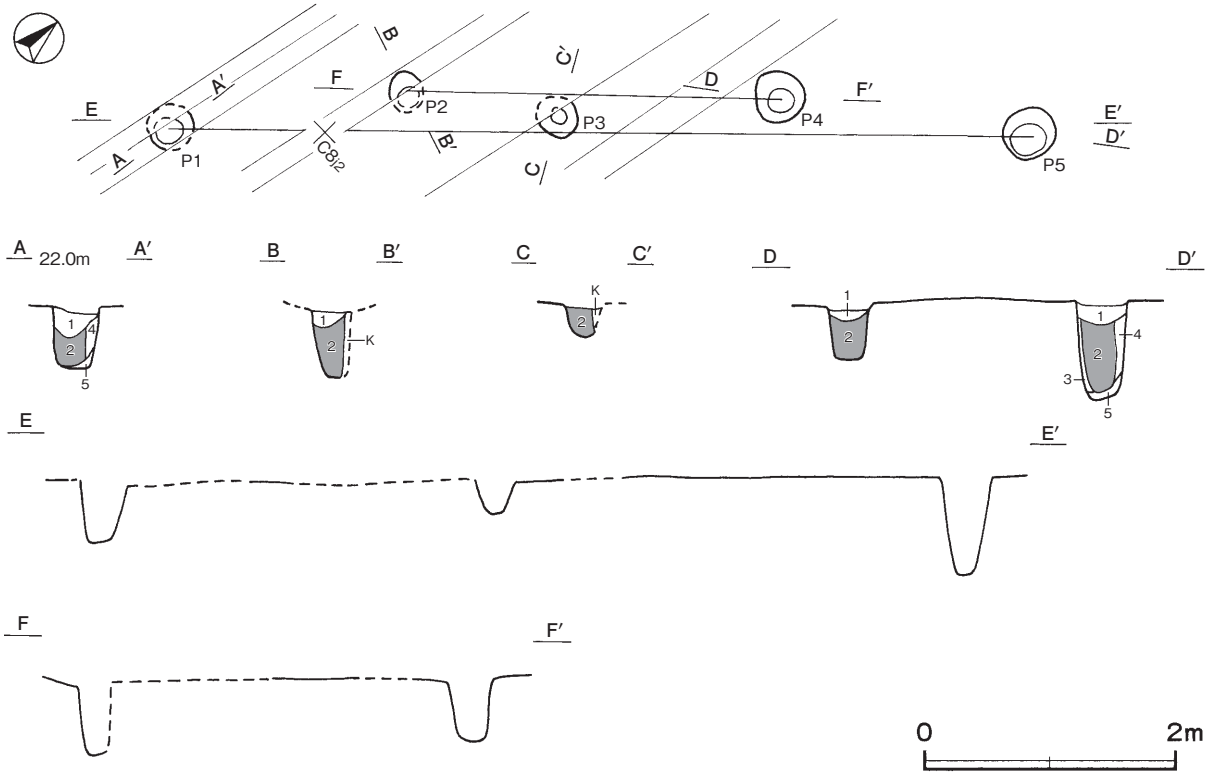
規模と構造　6.9 ｍの間にピット５か所を確認した。列方向はＮ－ 44°－Ｅで，柱間は西から 1.9 ｍ（6.3 尺），1.2 ｍ（４尺），1.8 ｍ（６尺），2.0 ｍ（6.6 尺）とばらつきがある。

柱穴　平面形は円形または楕円形で，長径 34 ～ 40㎝，短径 28 ～ 39㎝である。深さは 27 ～ 76㎝である。第１層は柱抜き取り後の堆積層，第２層は柱痕跡，第３～５層は掘方への埋土である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量

所見　時期は，伴う遺物が出土していないため不明である。



第 223 図　第 63 号柱穴列跡実測図

表 30　その他の柱穴列跡一覧表

番号	位 置	列方向	長さ（m）	柱間（m）	柱　穴					備　考
					柱穴数	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	
62	Ｃ８d5 ～ Ｃ８e3	Ｎ－ 68°－Ｅ	9.30	0.9 ～ 3.0	6	円形・楕円形	30 ～ 50	24 ～ 42	24 ～ 50	
63	Ｃ８h3 ～ Ｃ８j1	Ｎ－ 44°－Ｅ	6.90	1.2 ～ 2.0	5	円形・楕円形	34 ～ 40	28 ～ 39	27 ～ 76	

(4) ピット群

第 63 号ピット群（第 224 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ８j4 ～Ｃ８c6 区にかけての東西・南北ともに 24 ｍの範囲からピット 36 か所を確認した。標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 554 号掘立柱建物跡，第 6754 ～ 6759・6764 号土坑との直接的な重複はなく，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は長径 17 ～ 43cm，短径 15 ～ 38cmの円形または楕円形で，深さは７～ 48cmである。

所見　伴う遺物が出土していないため，時期については不明である。

表 31　第 63 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）				ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	Ｂ８i5	円形	30	×	30	14	19	Ｂ８j5	円形	17	×	17	14
2	Ｂ８j4	円形	18	×	18	28	20	Ｂ８j6	円形	20	×	20	13
3	Ｂ８j4	楕円形	38	×	26	16	21	Ｂ８a3	円形	25	×	24	20
4	Ｂ８j5	楕円形	28	×	22	20	22	Ｃ８a5	楕円形	26	×	22	22
5	Ｂ８j5	円形	20	×	20	22	23	Ｃ８a4	楕円形	35	×	28	13
6	Ｂ８j6	楕円形	34	×	20	28	24	Ｃ８a5	楕円形	19	×	17	17
7	Ｂ８j5	円形	25	×	25	13	25	Ｃ８a5	円形	24	×	24	12
8	Ｂ８j5	円形	25	×	24	22	26	Ｃ８a5	楕円形	28	×	20	26
9	Ｂ８j6	円形	28	×	26	9	27	Ｃ８a5	円形	20	×	20	40
10	Ｂ８j4	円形	40	×	38	22	28	Ｃ８a4	円形	23	×	23	13
11	Ｂ８j5	円形	26	×	24	32	29	Ｃ８a4	円形	20	×	20	7
12	Ｂ８j5	円形	24	×	22	17	30	Ｃ８a4	円形	26	×	24	48
13	Ｂ８j6	円形	26	×	24	24	31	Ｃ８a4	円形	24	×	24	10
14	Ｂ８j5	円形	24	×	24	9	32	Ｃ８b6	円形	24	×	23	14
15	Ｂ８j5	楕円形	26	×	18	37	33	Ｃ８b5	楕円形	30	×	26	18
16	Ｂ８j5	円形	22	×	20	24	34	Ｃ８j7	楕円形	30	×	23	11
17	Ｂ８j5	楕円形	40	×	35	17	35	Ｃ８a6	円形	20	×	15	15
18	Ｂ８j4	楕円形	20	×	15	10	36	Ｃ８a6	楕円形	43	×	31	37

第 64 号ピット群（第 225 図）

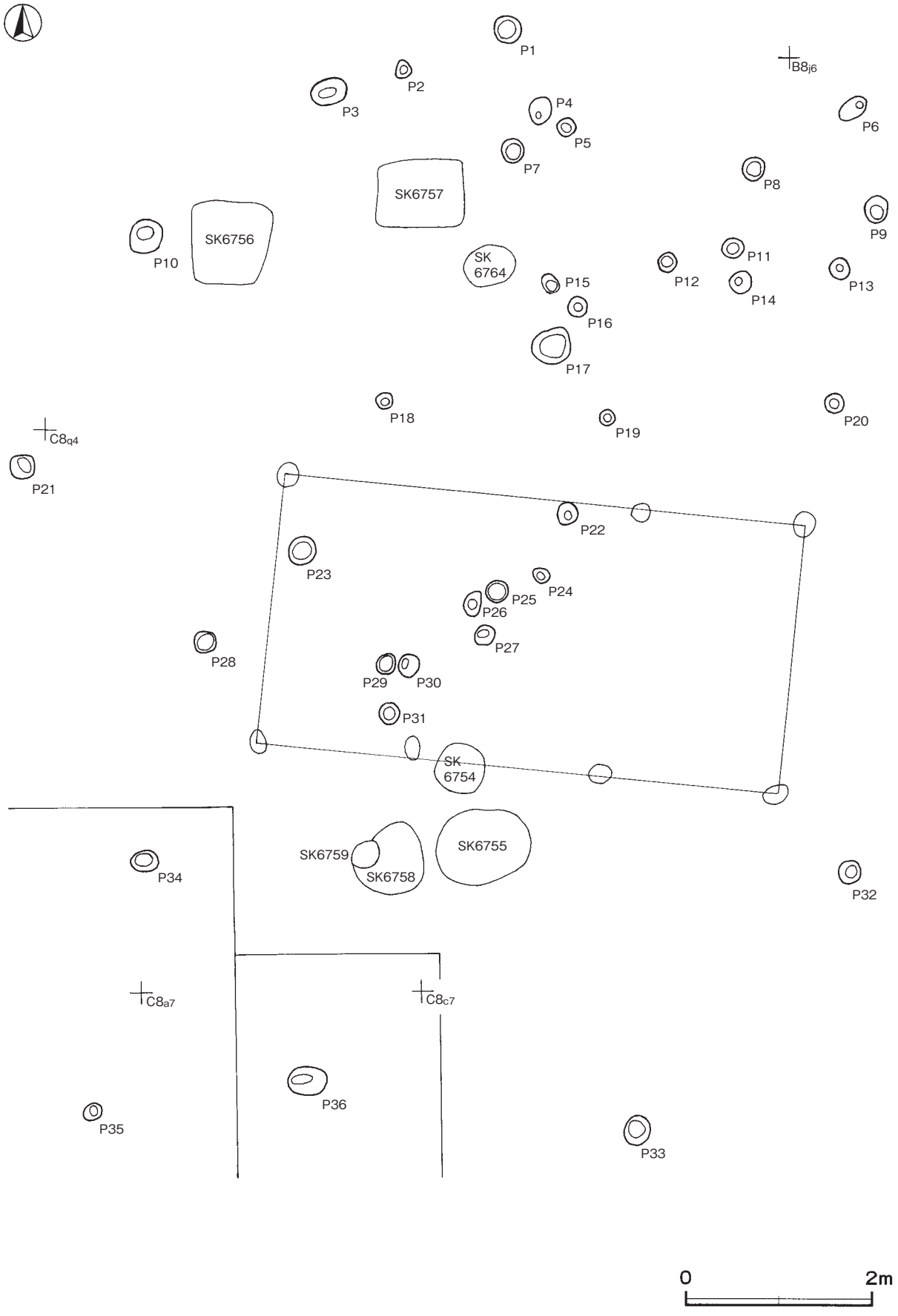
調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＢ７b9 ～Ｂ７d9 区にかけての東西 18m，南北 12m の範囲からピット 13 か所を確認した。標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

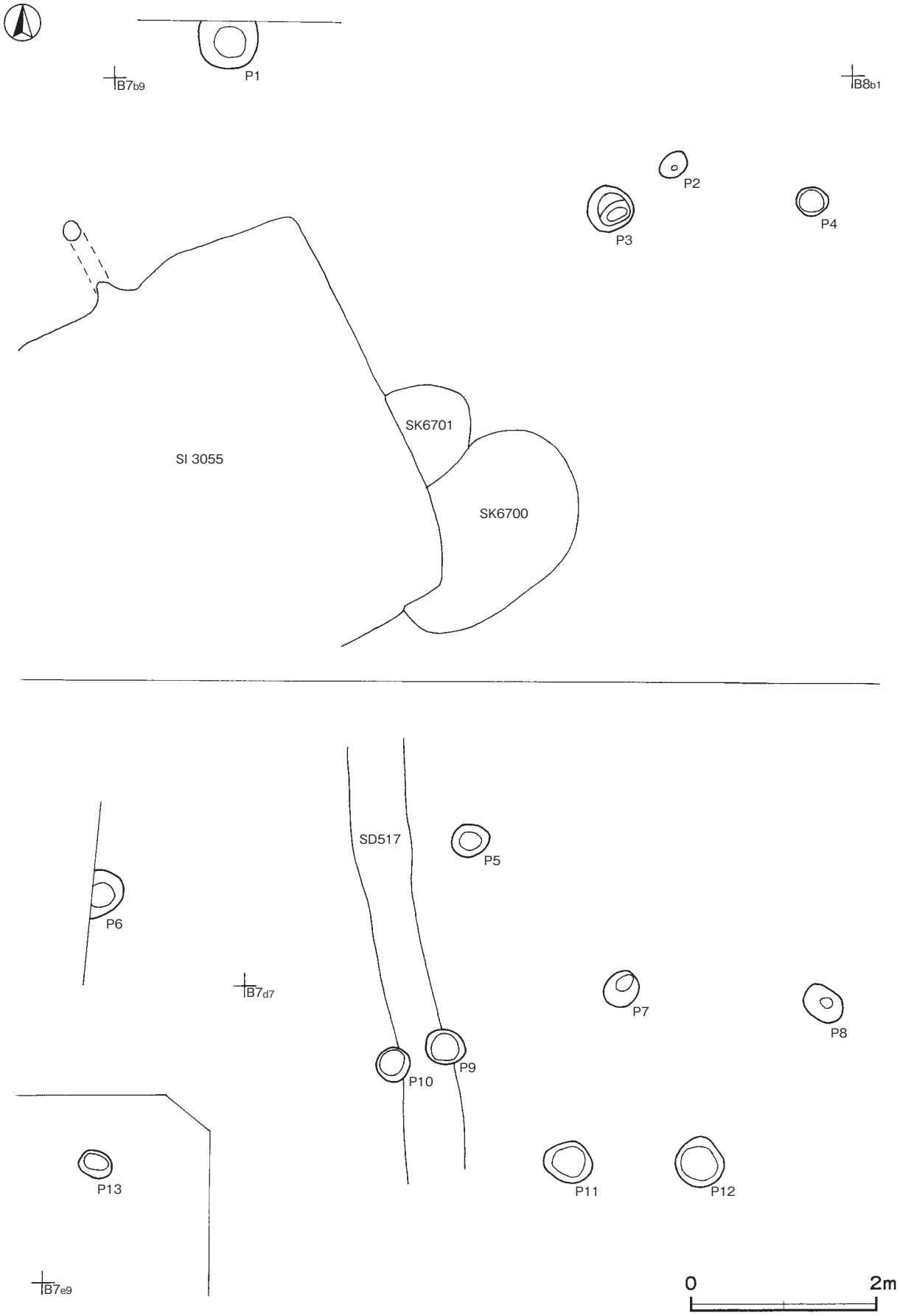
重複関係　第 517 号溝跡を掘り込んでいる。第 3055 号竪穴建物跡，第 6700，6701 号土坑との直接的な重複はなく，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は長径 32 ～ 65cm，短径 22 ～ 52cmの円形または楕円形で，深さは５～ 55cmである。

所見　伴う遺物が出土していないため，時期については不明である。



第 224 図　第 63 号ピット群実測図



第 225 図　第 64 号ピット群実測図

表 32　第 64 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ
1	B 7 a9	楕円形	65	×	52	19
2	B 7 b0	楕円形	32	×	22	36
3	B 7 b0	円形	48	×	48	24
4	B 7 b0	円形	33	×	32	55
5	B 7 c7	楕円形	41	×	36	26
6	B 7 c6	〔楕円形〕	52	×	(34)	(34)
7	B 7 d8	楕円形	40	×	36	33
8	B 7 d8	楕円形	47	×	35	24
9	B 7 d7	楕円形	45	×	38	10
10	B 7 d7	円形	37	×	36	5
11	B 7 d7	円形	52	×	48	19
12	B 7 d8	円形	52	×	50	7
13	B 7 d9	楕円形	38	×	30	13

第 65 号ピット群（第 226 図）

調査年度　平成 21 年度

位置　14 区北部のＣ 7 c7 ～Ｃ 7 f8 区にかけての東西 9 m，南北 12 mの範囲からピット 11 か所を確認した。標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 6766・6767 号土坑との直接的な重複はなく，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は長径 31 ～ 66cm，短径 29 ～ 63cmの円形または楕円形で，深さは 11 ～ 53cmである。

所見　伴う遺物が出土していないため，時期については不明である。

表 33　第 65 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ
1	C 7 c7	円形	66	×	63	14
2	C 7 c7	楕円形	36	×	30	18
3	C 7 c7	楕円形	34	×	30	17
4	C 7 c6	楕円形	33	×	29	53
5	C 7 d6	〔楕円形〕	59	×	(36)	30
6	C 7 d6	楕円形	50	×	39	23
7	C 7 e7	楕円形	38	×	32	45
8	C 7 e7	〔楕円形〕	36	×	33	23
9	C 7 e6	楕円形	46	×	34	26
10	C 7 f8	円形	32	×	32	11
11	C 7 f8	楕円形	34	×	29	15

第 66 号ピット群（第 227 図）

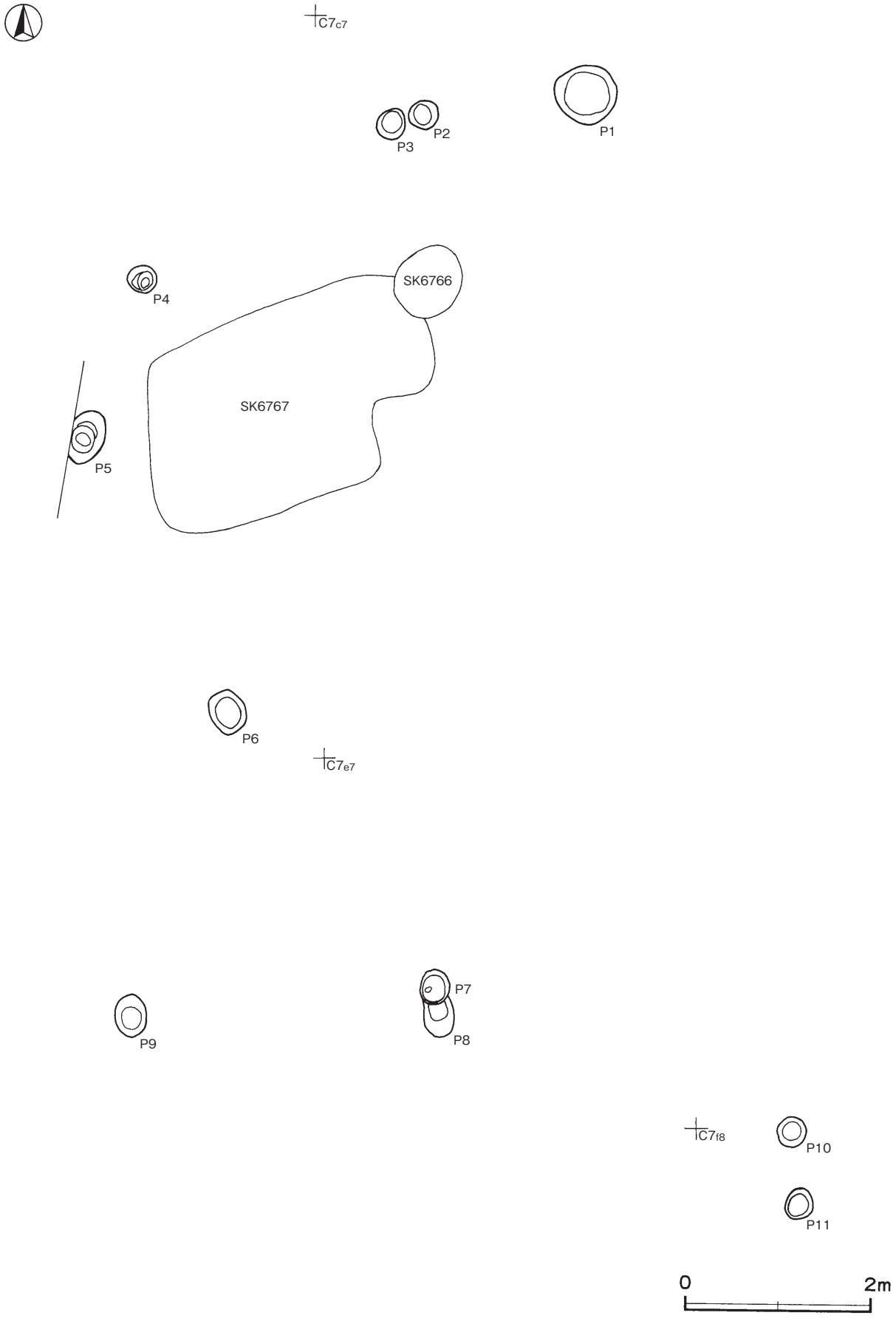
調査年度　平成 24 年度

位置　14 区南部のＢ 7 g1 ～Ｃ 7 b4 区にかけての東西 27m，南北 21 mの範囲からピット 28 か所を確認した。標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

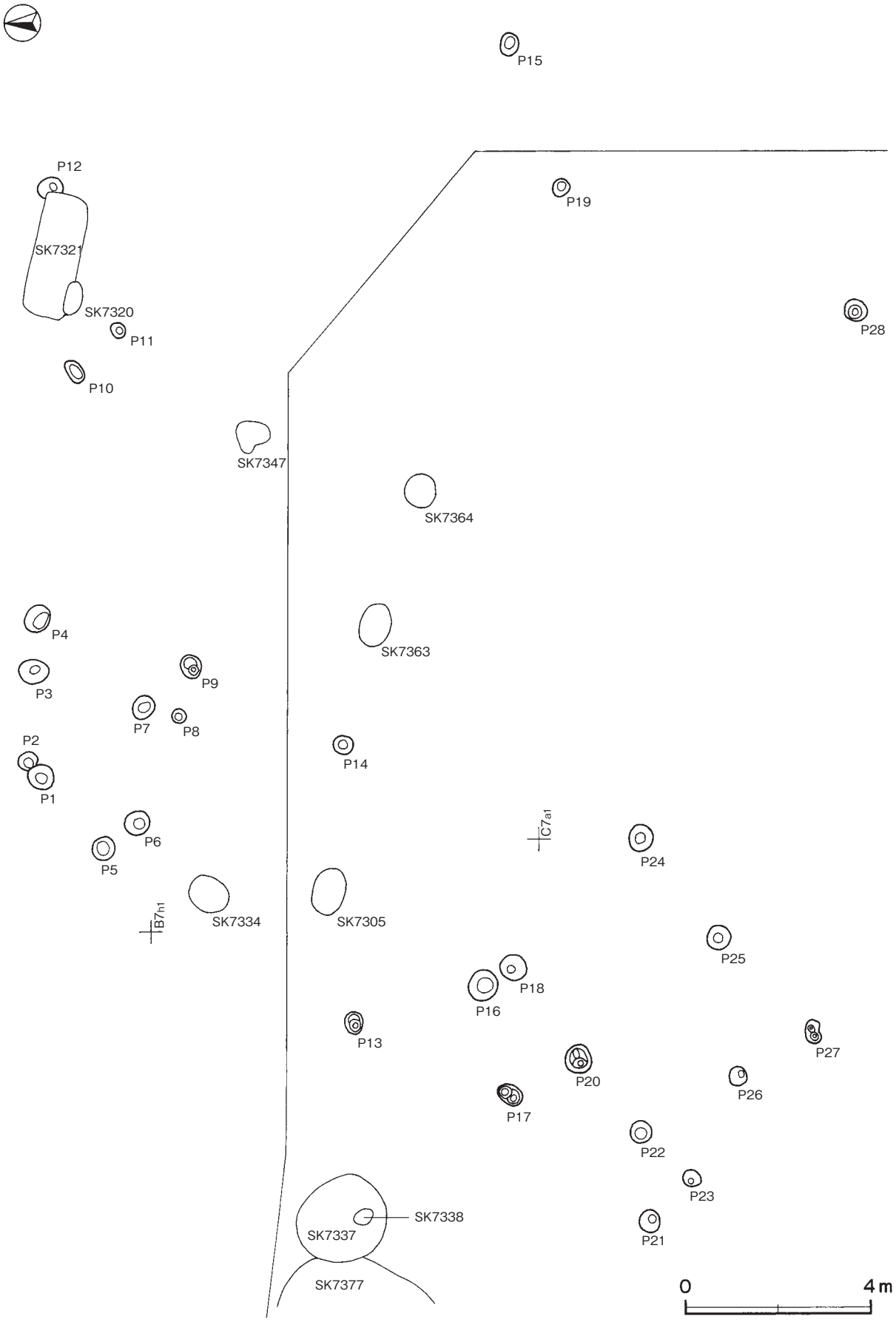
重複関係　第 7305・7320・7321・7334・7337・7338・7347・7363・7364・7377 号土坑との直接的な重複はなく，新旧関係は不明である。

規模と形状　平面形は長径 28 ～ 69cm，短径 27 ～ 62cmの円形，楕円形，不整楕円形で，深さは 14 ～ 74cmである。

所見　伴う遺物が出土していないため，時期については不明である。



第 226 図　第 65 号ピット群実測図



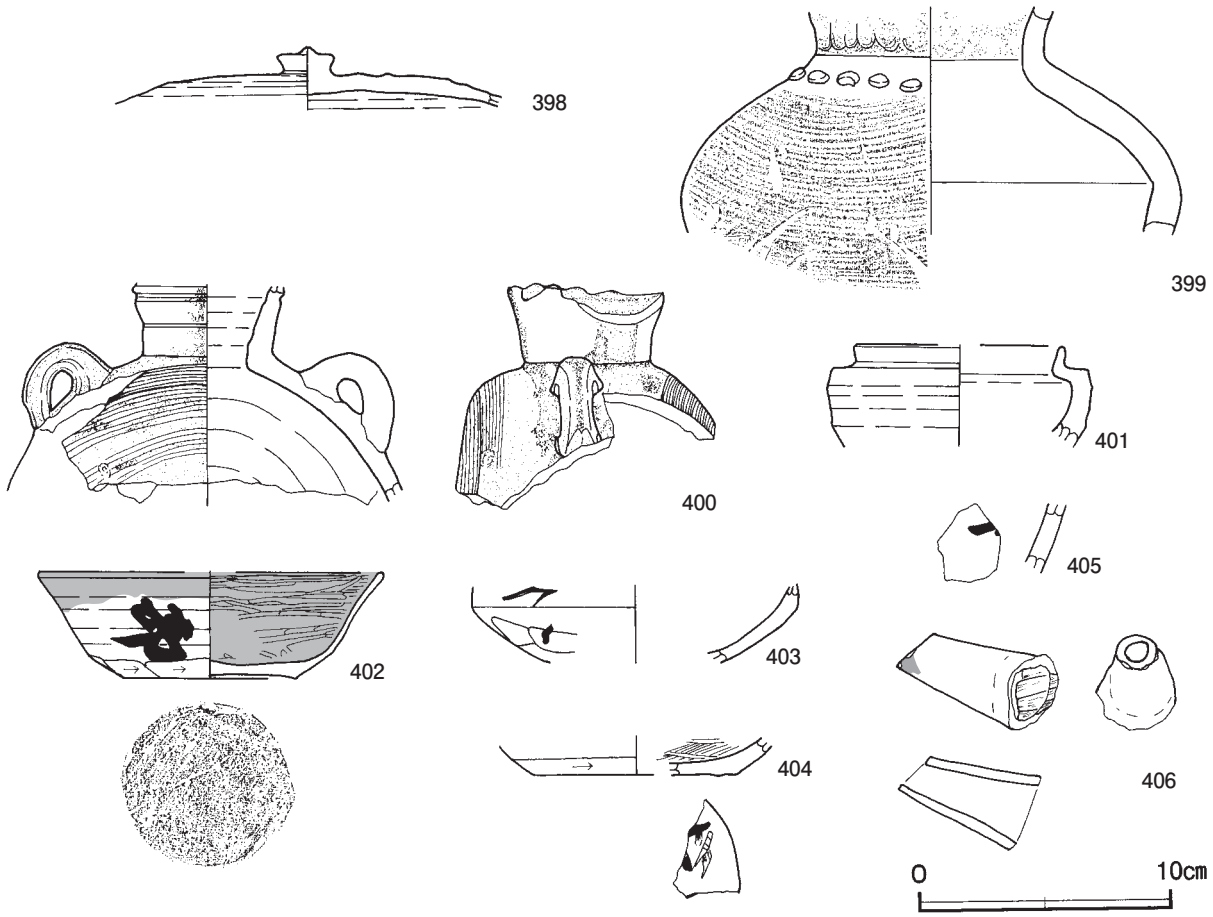
第 227 図　第 66 号ピット群実測図

表 34　第 66 号ピット群ピット計測表

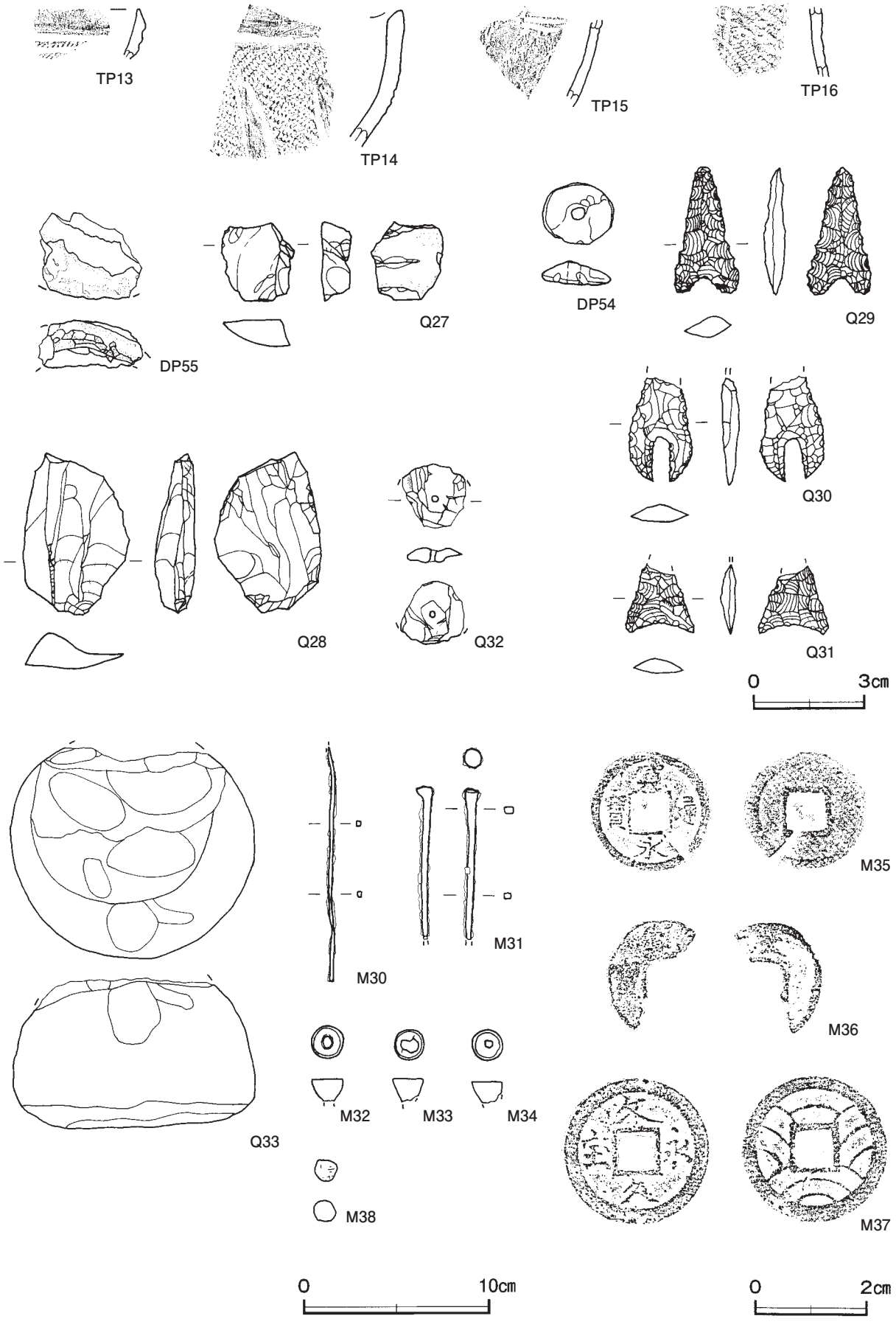
ピット番号	位置	形状	規模（cm）				ピット番号	位置	形状	規模（cm）			
			長径	×	短径	深さ				長径	×	短径	深さ
1	B 7 g1	円形	58	×	53	23	15	B 7 i5	楕円形	45	×	40	24
2	B 7 g1	〔楕円形〕	44	×	(32)	17	16	B 6 j0	楕円形	69	×	62	17
3	B 7 g2	円形	64	×	48	26	17	B 6 j9	楕円形	55	×	42	74
4	B 7 g2	楕円形	61	×	51	58	18	B 6 j0	楕円形	60	×	56	22
5	B 7 g1	円形	49	×	47	18	19	C 7 a4	楕円形	40	×	35	20
6	B 7 g1	円形	55	×	51	20	20	C 6a9	円形	59	×	58	52
7	B 7 g2	楕円形	55	×	41	30	21	C 6 a8	楕円形	50	×	45	38
8	B 7 h2	円形	28	×	27	14	22	C 6 a9	楕円形	50	×	45	42
9	B 7 h2	楕円形	55	×	45	20	23	C 6 a9	楕円形	40	×	32	47
10	B 7 g4	楕円形	51	×	32	15	24	C 7 a1	楕円形	60	×	52	51
11	B 7 g4	円形	33	×	31	20	25	C 6 a0	楕円形	55	×	48	23
12	B 7 g5	〔楕円形〕	55	×	(32)	19	26	C 6 b9	円形	39	×	38	57
13	B 6 j0	楕円形	46	×	40	39	27	C 6 b9	不整楕円形	48	×	30	35
14	B 7 i1	円形	45	×	41	58	28	C 7 b4	楕円形	48	×	42	32

(5)　遺構外出土遺物　（第 228 ～ 230 図）

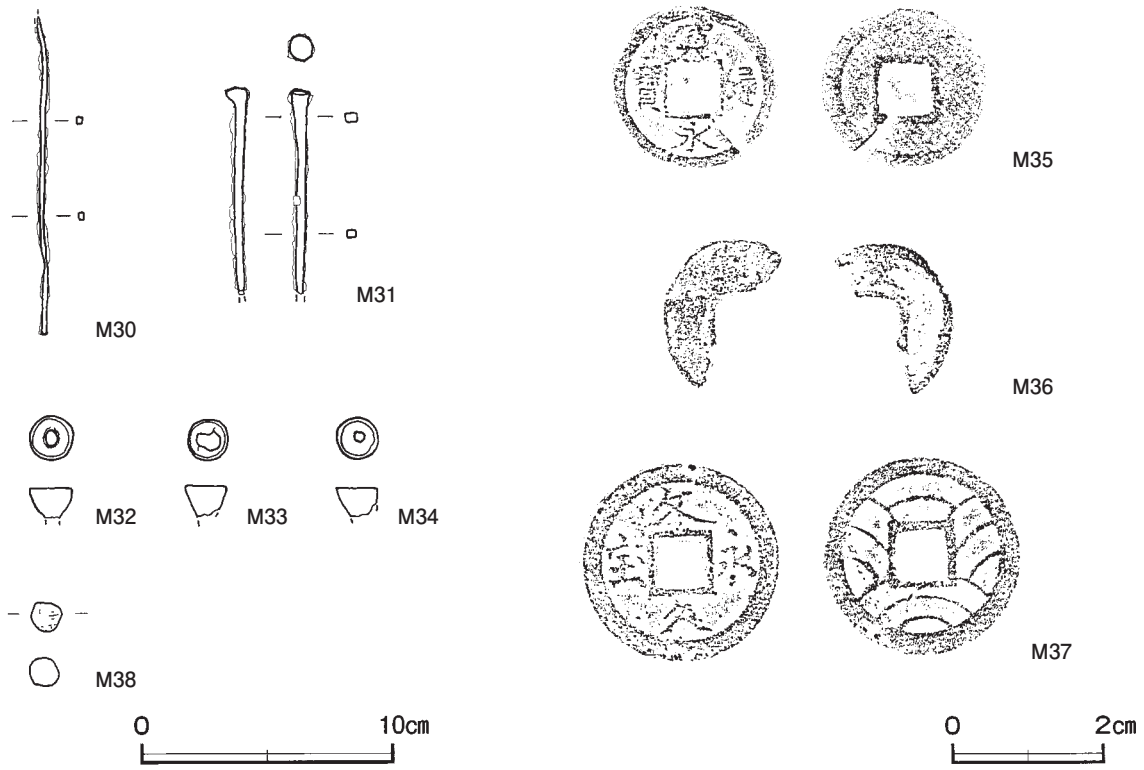
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。



第 228 図　遺構外出土遺物実測図（1）



第 229 図　遺構外出土遺物実測図（2）



第 230 図　遺構外出土遺物実測図（３）

遺構外出土遺物観察表（第 228 ～ 230 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
398	須恵器	蓋	－	(2.5)	－	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	SI3160 覆土中	30%
399	須恵器	壺	－	(9.2)	－	長石・石英	灰色	普通	頸部外面押圧文　肩部円形浮文　体部外面カキ目　頸部外面と体部外面に自然釉付着	SI3160 覆土中・第 95 号方形竪穴遺構覆土中	20%　PL57
400	須恵器	提瓶	－	(7.9)	－	長石	灰色	良好	体部外面カキ目　内面ロクロナデ　把手貼り付け　頸部から体部にかけ自然釉付着	SD520・588 覆土中	30%
401	須恵器	短頸壺	[8.4]	(4.0)	－	長石・細礫	灰	普通	ロクロナデ	SI3039 覆土中	20%
402	土師器	坏	[13.6]	4.3	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向へのヘラ削り　内面ヘラ磨き　墨書「×部」	SI3068 覆土中	60%　PL56
403	土師器	坏	－	(3.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ削り　体部内面ナデ　口縁部及び体部に墨書	SI3068 覆土中	5％
404	土師器	坏	－	(11.5)	[8.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き　下端回転ヘラ削り　底部に墨書	SI3068 覆土中	5％
405	土師器	坏	－	(2.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面に墨書	SI3068 覆土中	5％
406	土師質土器	土瓶	－	(3.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	一部煤付着	SD521 覆土中	5％

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	無節縄文Ｌ　胴部地文の上に半截竹管による平行沈線文	表土	PL57
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	単節縄文ＬＲ　沈線による懸垂文	表土	PL57
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	波状線　半截竹管による平行沈線文	表土	PL57
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	単節縄文ＬＲ	表土	PL57

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP54	円盤状土製品	1.6	1.9	0.6	1.47	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	表土	
DP55	羽口	(4.7)	(5.6)	(2.6)	(49.9)	長石・石英	にぶい赤褐	外面滓化　推定径（8.0）cm	表土	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 27	剥片	4.2	3.9	1.7	27.2	頁岩	縦長剥片　片縁調整	SD581 覆土中	PL58
Q 28	剥片	8.6	7.9	2.1	78.4	頁岩	縦長剥片　片縁調整	SI3055 覆土中	PL58
Q 29	石鏃	3.4	1.7	0.6	2.21	黒曜石	凹基無茎鏃	SI3075 覆土中	PL58
Q 30	石鏃	(2.9)	1.7	0.4	(1.75)	頁岩	凹基無茎鏃　先端部欠損	表土	PL58
Q 31	石鏃	(1.9)	1.9	0.4	(1.05)	瑪瑙	凹基無茎鏃　先端部欠損	SI3072 覆土中	PL58
Q 32	有孔円板	(3.5)	(0.8)	0.3	(12.3)	滑石	全面研磨　一方向からの穿孔	表土	PL58
Q 33	五輪塔	13.1	(11.4)	8.0	(1396.7)	花崗岩	空風輪　上部欠損　底部にわずかにくぼみあり	SD588 覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M30	鉄鏃	(12.7)	0.2 ～ 0.25	0.3	(5.73)	鉄	上部欠損　断面長方形	SI3039 覆土中	PL59
M31	釘	(8.2)	0.8	0.3	(5.98)	鉄	先端部欠損　断面長方形	第 95 号方形竪穴遺構覆土中	PL59
M32	煙管	－	－	(1.2)	(3.19)	銅	火皿部，火皿径 1.7cm	表土	
M33	煙管	－	－	(1.2)	(2.60)	銅	火皿部，火皿径 1.6cm	表土	
M34	煙管	－	－	(1.2)	(2.77)	銅	火皿部，火皿径 1.7cm	表土	

番号	銭　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
M35	銭貨	2.2	1.1	0.6	1.80	銅	1668 年	新寛永　無背	SI2423 覆土中	PL60
M36	銭貨	2.0	1.85	－	(1.37)	銅	1668 年	新寛永　無背	第 95 号方形竪穴遺構覆土中	
M37	銭貨	2.7	1.3	0.6	2.99	銅	1863 年	文久永寶（略宝）　裏面波形模様	表土	PL60

番号	器　種	長さ	径	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M38	鉄砲玉	1.2	1.3	－	10.0	鉛	鋳造製品	表土	

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows 7
		Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS6
	図版作成	Adobe Illustrator CS6
	写真調整	Adobe Photoshop CS6
	Scanning	6×7 film　Nikon SUPER COOLSCAN9000
		図面類　EPSON ES－10000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写　　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第390集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整

理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI

上　巻

平成26（2014）年　3月10日　印刷
平成26（2014）年　3月12日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　株式会社　あけぼの印刷社
〒310－0804　水戸市白梅１丁目２－11
TEL　029－227－5505